# 2020年度

（令和２年度）

# シ ラ バ ス

## （授業概要）

＜体育学科＞

仙台大学　体育学部

## ○体育学科

### 1. 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

・専門分野としてコーチング、トレーナー、マネジメントの各コースの中から1分野を選択し、そのコースでの多面的な履修を通じて卒業後社会で専門性を発揮できる力と専門的な学修能力を養うとともに、すべての人の健康増進やスポーツ選手の競技力向上に必要な体育・スポーツに関する深い知識と感性を有し、これを実践できる力を身に付けること

・その上で、生涯スポーツの観点における運動・スポーツに関する専門性が果たすべき役割を深く理解すること

ⅰ）体育・スポーツに関する専門的・応用的な知識・技術を身につけることができる

ⅱ）体育・スポーツが果たす役割を深く理解することができる

ⅲ）体育・スポーツ指導の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝えることができる

ⅳ）多様な人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションができる

ⅴ）論理的かつ多面的に考え、多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組むことができる

### 2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

・「スポーツコーチング」「スポーツトレーナー」「スポーツマネジメント」の三つのコースを設置し、専門性の高い教員による体育・スポーツ科学に関する講義に加え、実社会を念頭に置いた多様な課題を追究する演習や実習などに主体的に参加することによって、コース毎に専門分野の知見・技能の修得及び関連資格が取得できるよう配慮したカリキュラムを用意しています。

＜スポーツコーチング・コース＞

ⅰ）現代のスポーツにおけるコーチングや学校教育における体育指導についての専門的な知識を修得する科目

ⅱ）スポーツコーチングや体育指導の演習・実習を通じ、トップアスリートを育成指導する者や競技スポーツにおける専門的指導者になるために必要な知識･技能の実践・活用法を修得する科目

ⅲ）スポーツや体育の実践の場を想定し、専門的な知識や技術を修得する科目

ⅳ）スポーツや体育を科学的に研究し、科学的方法に基づいたスポーツコーチングや体育指導を行える者を育成する科目

＜スポーツトレーナー・コース＞

ⅰ）スポーツ傷害の予防や評価、管理、アスレティックリハビリテーション等を実施するための専門的な知識を修得する科目

ⅱ）健康・体力づくりや競技力向上に関わるトレーニングのサポートを実施するための専門的な知識を修得する科目

ⅲ）ⅰ）及びⅱ）の専門的な知識に基づく身体の構造・機能の評価およびトレーニングプログラムを作成するための応用力を修得する科目

ⅳ）スポーツトレーナーとして活動するうえで必要となる実技・技術の修得及び実践力を修得する科目

ⅴ）スポーツトレーナーとしての専門的知識やそれをベースにした応用力をスポーツ現場にて発揮するための実践的科目

＜スポーツマネジメント・コース＞

ⅰ）スポーツ事業・スポーツ組織や施設の経営・管理において必要となる専門的な知識を修得する科目

ⅱ）野外・レクリエーションの現場で求められる技術とマネジメント能力、アウトドアスポーツやレクリエーションに関する専門的知識を修得する科目

ⅲ）専門的な知識を踏まえたスポーツに関する企画と運営を行うための応用力を修得する科目

ⅳ）幅広いスポーツ関連現場での企画、運営、評価、改善といった一連のマネジメントが行える実践力を修得する科目

ⅴ）スポーツマネジメントにおける専門的知識や技術、応用力を幅広いスポーツ関連現場にて発揮するための実践的科目

### 予習・復習（授業時間外学修）について（注意）

文部科学省の定める「大学設置基準」においては、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。

本学においては「講義」、「演習」の科目は一部科目を除き 2 単位（必要な総学修時間は 90 時間）としていますが、2 時間の授業（90 分を 2 時間と換算）を 15 回（合計 30 時間）実施していますので、残りの 60 時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

また、「実験」、「実習」、「実技」の科目は一部科目を除き 1 単位（必要な総学修時間は 45 時間）としていますが、2 時間の授業（90 分を 2 時間と換算）を 15 回（合計 30 時間）実施していますので、残りの 15 時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

履修計画を立てる際には、以上のような予習・復習の時間が必要であることを十分に考慮に入れてください。

# ＜　目　　次　＞

## 1. 基礎科目

### ≪教養基礎科目≫


導入演習 …… 2
情報処理 …… 3
学習基礎教養演習 …… 4
総合英語Ａ（含外国語コミュニケーション）<レベル1>… 5
総合英語Ａ（含外国語コミュニケーション）<レベル2>… 6
総合英語Ａ（含外国語コミュニケーション）<レベル3>… 7
総合英語Ａ（含外国語コミュニケーション）<レベル4>… 8
総合英語Ａ（含外国語コミュニケーション）<レベル5>… 9
総合英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）<レベル2>… 10
総合英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）<レベル3>… 11
総合英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）<レベル4>… 12
総合英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）<レベル5>… 13
総合英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）<レベル6>… 14
総合英語Ｃ（含外国語コミュニケーション）<レベル3>… 15
総合英語Ｃ（含外国語コミュニケーション）<レベル4>… 16
総合英語Ｃ（含外国語コミュニケーション）<レベル5>… 17
総合英語Ｃ（含外国語コミュニケーション）<レベル6>… 18
総合英語Ｃ（含外国語コミュニケーション）<レベル7>… 19
総合英語Ｄ（含外国語コミュニケーション）<レベル4>… 20
総合英語Ｄ（含外国語コミュニケーション）<レベル5>… 21
総合英語Ｄ（含外国語コミュニケーション）<レベル6>… 22
総合英語Ｄ（含外国語コミュニケーション）<レベル7>… 23
総合英語Ｄ（含外国語コミュニケーション）<レベル8>… 24


### ≪教養展開科目≫

**（人文分野）**


スポーツと哲学 …… 26
スポーツと現代思想 …… 27
心理学概論 …… 28
人の心と行動 …… 29
ことばと人間Ａ …… 30
ことばと人間Ｂ（日本語クラス） …… 31
ことばと人間Ｂ（英語クラス） …… 32


**（社会分野）**


社会学概論 …… 34
社会構造と人間関係 …… 35
消費経済とスポーツ …… 36
世界経済・日本経済とスポーツ …… 37
法学 …… 38
歴史学入門 …… 39
歴史と人間 …… 40


**（自然分野）**


生物科学 …… 42
エコロジー概論 …… 43
教養数学 …… 44


**（教養演習）**


体育系大学の基礎教養 …… 46
仙台大学の専門教養演習Ⅰ …… 47
仙台大学の専門教養演習Ⅱ …… 48
仙台大学の専門教養演習Ⅲ …… 49


### ≪海外文化科目≫


スポーツに何故英語が必要か …… 52
英会話Ａ …… 53
英会話Ｂ …… 54
英会話Ｃ …… 55
スポーツ＆イングリッシュ …… 56
就職のための英語 …… 57
スペイン語Ⅰ …… 58
中国語Ⅰ …… 59
中国語Ⅱ …… 60
韓国語Ⅰ（金賢植クラス） …… 61
韓国語Ⅰ（金一坤クラス） …… 62
韓国語Ⅱ（金賢植クラス） …… 63
韓国語Ⅱ（金一坤クラス） …… 64


### ≪人生設計科目≫


キャリアプランニングⅠ …… 66

キャリアプランニングⅡ …… 67
キャリアプランニングⅢ …… 68

## 2. 専門基礎科目

**≪講義≫**

スポーツ経営学 …… 70
スポーツ社会学 …… 71
スポーツ心理学 …… 72
スポーツバイオメカニクス …… 73
運動生理学 …… 74
スポーツ医学概論 …… 75
運動学（含運動方法学） …… 76
運動障害救急法（含実習） …… 77
スポーツ栄養学 …… 78
スポーツ指導の基礎（含実習） …… 79

**≪実技≫**

トレーニングの基礎 …… 82
体操（含体つくり運動） …… 83
陸上競技 …… 84
器械運動（男子） …… 85
器械運動（女子） …… 86
水泳 …… 87
バレーボール …… 88
テニス …… 89
バドミントン …… 90
卓球 …… 91
バスケットボール …… 92
ハンドボール …… 93
サッカー（吉井クラス） …… 94
サッカー（黒澤クラス） …… 95
ラグビー …… 96
柔道 …… 97
剣道 …… 98
ダンスⅠ …… 99
海浜実習 …… 100
スキーⅠ …… 101
キャンプ …… 102
スケート …… 103

## 3. 発展科目

**≪スポーツコーチングコース≫**

スポーツコーチング概論 …… 106
トレーニング方法論 …… 107
スポーツ技術観察論（川口クラス） …… 108
スポーツ技術観察論（宮西クラス） …… 109
スポーツコーチング研究法 …… 110
スポーツコーチング演習 …… 111
スポーツコーチング実習（阿部クラス） …… 112
スポーツコーチング実習（粟木クラス） …… 113
スポーツコーチング実習（石丸クラス） …… 114
スポーツコーチング実習（門野・柴山・名取・宮崎クラス） 115
スポーツコーチング実習（川口クラス） …… 116
スポーツコーチング実習（神野クラス） …… 117
スポーツコーチング実習（山田恵クラス） … 118
スポーツコーチング実習（黒澤クラス） …… 119
スポーツコーチング実習（桑原クラス） …… 120
スポーツコーチング実習（齋藤浩クラス） … 121
スポーツコーチング実習（佐藤周クラス） … 122
スポーツコーチング実習（鈴木良クラス） … 123
スポーツコーチング実習（武石クラス） …… 124
スポーツコーチング実習（南條充・川戸クラス） … 125
スポーツコーチング実習（宮西クラス） …… 126
スポーツコーチング実習（森本・入澤・小野寺クラス） 127
スポーツコーチング実習（山梨クラス） …… 128
スポーツコーチング実習（吉井クラス） …… 129
スポーツコーチング実習（渡邉泰クラス） … 130
スポーツコーチング実習（林クラス） …… 131
スポーツコーチング実習（溝口クラス） …… 132
種目別コーチング演習Ⅰ（陸上競技） …… 133
種目別コーチング演習Ⅰ（体操競技） …… 134
種目別コーチング演習Ⅰ（新体操） …… 135
種目別コーチング演習Ⅰ（水泳競技） …… 136
種目別コーチング演習Ⅰ（バレーボール） … 137

種目別コーチング演習Ⅰ（バスケットボール）… 138
種目別コーチング演習Ⅰ（ハンドボール）… 139
種目別コーチング演習Ⅰ（サッカー）…… 140
種目別コーチング演習Ⅰ（ラグビー）…… 141
種目別コーチング演習Ⅰ（テニス）…… 142
種目別コーチング演習Ⅰ（バドミントン）… 143
種目別コーチング演習Ⅰ（野球）…… 144
種目別コーチング演習Ⅰ（漕艇）…… 145
種目別コーチング演習Ⅰ（柔道）…… 146
種目別コーチング演習Ⅰ（剣道）…… 147
種目別コーチング演習Ⅱ（陸上競技）…… 148
種目別コーチング演習Ⅱ（体操競技）…… 149
種目別コーチング演習Ⅱ（新体操）…… 150
種目別コーチング演習Ⅱ（水泳競技）…… 151
種目別コーチング演習Ⅱ（バレーボール）… 152
種目別コーチング演習Ⅱ（バスケットボール）… 153
種目別コーチング演習Ⅱ（ハンドボール）… 154
種目別コーチング演習Ⅱ（サッカー）…… 155
種目別コーチング演習Ⅱ（ラグビー）…… 156
種目別コーチング演習Ⅱ（テニス）…… 157
種目別コーチング演習Ⅱ（バドミントン）… 158
種目別コーチング演習Ⅱ（野球）…… 159
種目別コーチング演習Ⅱ（漕艇）…… 160
種目別コーチング演習Ⅱ（柔道）…… 161
種目別コーチング演習Ⅱ（剣道）…… 162
トップアスリート論…… 163
スポーツ情報戦略論…… 164
メンタルマネジメント…… 165
ジュニアスポーツコーチング論…… 166

**≪スポーツトレーナーコース≫**

スポーツトレーナー概論…… 168
スポーツ医学Ａ…… 169
発育発達と老化…… 170
健康と栄養・食事…… 171
スポーツトレーナー演習…… 172
スポーツトレーナー実習…… 173
体力相談と運動処方…… 174
トレーニングのプログラムデザイン…… 175
ストレングス＆コンディショニング演習…… 176
ストレングス＆コンディショニング実習…… 177
フィットネストレーナー･インターンシップ実習… 178
アスレティックトレーニング論Ⅰ…… 179
アスレティックトレーニング論Ⅱ…… 180
アスレティックトレーニング演習…… 181
アスレティックリハビリテーション論…… 182
コンディショニング論…… 183
コンディショニング実習…… 184
スポーツ医学Ｂ…… 185
スポーツ障害の予防と評価…… 186
アスレティックリハビリテーション演習…… 187
アスレティックリハビリテーション実習…… 188
アスレティックトレーナー･インターンシップ実習Ⅰ… 189
アスレティックトレーナー･インターンシップ実習Ⅱ… 190
アスレティックトレーナー･インターンシップ実習Ⅲ… 191
アスレティックトレーナー･インターンシップ実習Ⅳ… 192
アスレティックトレーナー･インターンシップ実習Ⅴ… 193
アスレティックトレーナー･インターンシップ実習Ⅵ… 194

**≪スポーツマネジメントコース≫**

スポーツマネジメント概論…… 196
スポーツマーケティング論…… 197
スポーツ産業論…… 198
地域スポーツ戦略論…… 199
スポーツマネジメント演習…… 200
スポーツマネジメント実習…… 201
スポーツ施設の経営・管理…… 202
スポーツクラブ･マネジメント論（含演習）… 203
スポーツクラブ･マネジメント実習 …… 204
野外教育・活動論…… 205
野外･レクリエーション･マネジメント論（含演習）… 206
野外･レクリエーション･マネジメント実習… 207

## 4. 応用科目


日本国憲法 …… 210
データ処理の基礎 …… 211
メディア・リテラシー実習 …… 212
文章表現論Ⅰ …… 213
文章表現論Ⅱ …… 214
体育原理 …… 215
解剖・生理学 …… 216
スポーツ史 …… 217
スポーツ計量学 …… 218
衛生・公衆衛生学 …… 219
学校保健学 …… 220
スポーツとマスメディア …… 221
企業スポーツ論 …… 222
スポーツ政策論 …… 223
障害者とスポーツ …… 224
音楽・器楽演奏 …… 225
水上安全法（含実習） …… 226
NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ … 227
NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅱ … 228
レジャー・レクリエーション論 …… 229
レクリエーション支援論 …… 230
レクリエーション実技Ⅰ …… 231
レクリエーション実技Ⅱ …… 232
エアロビックダンス …… 233
ニュー・ゲームズ …… 234
ソフトボール …… 235
新体操 …… 236
ダンスⅡ …… 237
ゴルフ …… 238
テーピング …… 239
スキーⅡ …… 240
マリンスポーツⅠ …… 241
マリンスポーツⅡ …… 242
教育の基礎理論Ａ …… 243
教育の心理 …… 244
教育の制度Ａ …… 245
教育課程論 …… 246
保健体育科教育論Ⅰ（井上クラス） …… 247
保健体育科教育論Ⅰ（郡山クラス） …… 248
保健体育科教育論Ⅱ …… 249
保健体育科教育論Ⅲ …… 250
保健体育科教育論Ⅳ …… 251
教育方法論Ａ …… 252
教育相談 …… 253
生涯学習概論Ａ …… 254
生涯学習概論Ｂ …… 255
社会教育計画Ａ …… 256
社会教育計画Ｂ …… 257
社会教育演習Ａ …… 258
社会教育演習Ｂ …… 259
教育社会学 …… 260
スポーツ施設管理概論Ⅰ …… 261
スポーツ施設管理概論Ⅱ …… 262
スポーツターフ管理概論Ⅰ …… 263
スポーツターフ管理概論Ⅱ …… 264
ボランティア活動実践Ａ …… 265
ボランティア活動実践Ｂ …… 266
ボランティア活動実践Ｃ …… 267
ボランティア活動実践Ｄ …… 268
北米のプロスポーツ事情 …… 269
海外短期研修Ａ …… 270
海外短期研修Ｂ …… 271
海外短期研修Ｃ …… 272
海外短期研修Ｄ …… 273


## 5. 教職に関する科目


教職論Ａ …… 276
道徳教育論 …… 277
生徒指導論Ａ（含進路指導の理論及び方法） … 278
特別活動論 …… 279
教職総合演習 …… 280
教職総合実技 …… 281
教職実践演習（教諭） …… 282

教職キャリア演習Ⅰ …… 283
教職キャリア演習Ⅱ …… 284
保健体育科授業研究Ⅰ …… 285
保健体育科授業研究Ⅱ …… 286
教育実習Ⅰ …… 287
教育実習Ⅲ …… 288
教育実習Ⅳ …… 289

## 授業科目と免許・資格（教員免許、国家資格を除く）の対応表QRコード

**資格科目対応表・体育学科（1年生用）**

この資格科目対応表は仙台大学ホームページの“取得資格について”にあります。（QR コード読み取りに必要なソフトなどは、各自、注意事項に従って利用して下さい。）なお、資格科目対応表は履修登録の参考になるように作成したもので、あくまで学生便覧“免許・資格”の記載内容が正しいです。万が一、表に誤り等があった場合には、キャリアセンター（事務担当：事業戦略室）まで連絡下さい。

本授業概要各授業科目の“関連資格”欄も同様で、学生便覧と食い違いがあった場合は、学生便覧が正しいです。

# 1.　基礎科目

## ≪教養基礎科目≫

| 授業科目名 | 導入演習<br>Seminar of Introduction (P.A.) | | | | 担当教員 | 各担任 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。 | iv |

**授業の一般目標**

修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。 |

**授業計画（全体）**

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行います。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容]導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。<br>[授業外学修]自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。 | ⑨ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1)<br>[内容]「いまどきの大学・いまどきの大学生―ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。<br>[授業外学修]テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと |
| ② | [テーマ] 親睦<br>[内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。<br>[授業外学修]新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。 | ⑩ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2)<br>[内容]「大学で身につけるべきこと―学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。<br>[授業外学修]テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと |
| ③ | [テーマ] 仙台大学の英語カリキュラムについて<br>[内容] 平成29年度後期より始まった英語関連科目の新カリキュラムについて、説明を行う。これからの大学での英語の学習について考える。<br>[授業外学修]大学でどのように英語を学習するかについて自分で考えてみる。 | ⑪ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3)<br>[内容]「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。<br>[授業外学修]授業の復習 |
| ④ | [テーマ] 英語プレイスメントテスト<br>[内容] 後期科目「総合英語A」のクラス分けのためのプレイスメントテストを行う.。<br>[授業外学修]自分の英語力について自己評価してみる | ⑫ | [テーマ] 体育大生とモラル(1)<br>[内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。<br>[授業外学修]事前に資料を読んでおくこと |
| ⑤ | [テーマ] 修学と生活の設計(1)<br>[内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。<br>[授業外学修]卒業までの計画や目標について考えてみること | ⑬ | [テーマ] 体育大生とモラル(2)<br>[内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。<br>[授業外学修]発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ⑥ | [テーマ] 修学と生活の設計(2)<br>[内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。<br>[授業外学修]これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみること | ⑭ | [テーマ] 体育大生とモラル(3)<br>[内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。<br>[授業外学修]発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ⑦ | [テーマ] 大学と大学生Ⅰ<br>[内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。<br>[授業外学修]仙台大学の歴史について自分でも調べておくこと | ⑮ | [テーマ] 体育大生とモラル(4)<br>[内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。<br>[授業外学修]発表資料の作成など、発表準備をする。 |
| ⑧ | [テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0)<br>[内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。<br>※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施<br>[授業外学修]大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておくこと | ⑯ | [テーマ] まとめ及び後期に向けて<br>[内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。<br>前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。<br>[授業外学修]これまでの資料などに目を通しておくこと |

**成績評価方法（方針）**

出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。授業内レポート、宿題・授業外レポート等の返却を希望する者に対しては、各担任が解説を交えて返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 実施しない |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 出席 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

- 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
- 2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない
- 自己学習（時間外学習、ボランティア活動等）の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する
- クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する
- 実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習 | 関連資格 | |
| 教科書 | オリエンテーション時に資料を配布 | 参考書 | オリエンテーション時に資料を配布 |
| オフィスアワー | 各担任の時間帯を確認すること | その他 | |

| 授業科目名 | 情報処理<br>Data Processing (L.) | | | | 担当教員 | 内野秀哲・相場徹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ICT関連としてCMC管理運営の実務経験、<br>及び高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

AI利用を視野に置いたICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる、また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 1.ICTに関する基本的な事柄が説明できる。<br>2.状況や対象に応じて処理機能を選択できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。 |

**授業計画(全体)**

本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 情報倫理について<br>[内容] 情報倫理について説明<br>[授業外学修] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] 講義3:論理式と論理回路①<br>[内容] データ処理の仕組みについて、音声や音楽データの処理を例に取り上げて解説を行う<br>[授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること |
| ② | [テーマ] 情報処理の学習について<br>[内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する<br>[授業外学修] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと | ⑩ | [テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2<br>[内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する<br>[授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと |
| ③ | [テーマ] ICTスキルの把握(履修前)<br>[内容] ICTスキルについて、受講前の状況を把握するための調査を行い、各々の学修目標の設定を検討する。<br>[授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること | ⑪ | [テーマ] 講義4:論理式と論理回路②<br>[内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題とし、論理演算と論理回路について解説する。さらに、AIに繋がるパーセプトロンを紹介。<br>[授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること |
| ④ | [テーマ] 講義1:情報処理を考える<br>[内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する<br>[授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること | ⑫ | [テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール<br>[内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う<br>[授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 実習1:ワードプロセッサ<br>[内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う<br>[授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと | ⑬ | [テーマ] タイピングのまとめ<br>[内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的事象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する<br>[授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること |
| ⑥ | [テーマ] 講義2:情報について<br>[内容] 情報処理」の基本領域にある「サイバネティクス」を紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する<br>[授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること | ⑭ | [テーマ] 学修/履修状況、提示課題のまとめ<br>[内容] 講義部門及び捜査実習部門の全ての課題、学修/履修状況の確認作業の最終期限日として提出を受け付ける。<br>[授業外学修] これまでの履修状況を確認し、整理しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1<br>[内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する<br>[授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと | ⑮ | [テーマ] ICTスキルの把握(履修後)<br>[内容] ICTスキルについて、受講後の状況を把握するための調査を行い、各々の学修成果を検討する。<br>[授業外学修] 次のステップに向けたPDCAを主体的に検討すること |
| ⑧ | [テーマ] タイピング2<br>[内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する<br>[授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること | ⑯ | [テーマ] 総合テスト<br>[内容] 講義編及び捜査実習編のテストを行う<br>[授業外学修] これまでの提示資料や例題等を整理し、理解を深めておくこと |

**成績評価方法(方針)**

講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。レポート等はLMS(アプリ)上で共有し、相互評価なども行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 加減点要素 |
| 授業外レポート | | | ○ | 欠格条件 |
| 演習・実技 | | | | 加減点要素 |
| 授業態度 | | | | 加減点要素 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講(交互実施)で実施する
・初回の情報倫理の受講は授業施設の利用条件となるので、受講が必須となる
・授業を欠席したまま放置すると欠格になるので、期限内に所定の補講で補うこと
・講義部門、実習部門のどちらか一方で2回以上欠席すると受験できないので要注意
・履修期間中のメールチェックを怠らないこと
※教育学習活動の支援を意図するLMS(アプリ)の活用を前提とする。従って、実習室内のPC利用と、学内アドレスでのメール利用が教材活用の必要条件となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 使用しない(電子媒体の教材をLMSにて運用) | 参考書 | 必要に応じて授業内で提示 |
| オフィスアワー | 4体1F 内野研究室 火曜14:20-15:50 | その他 | 連絡先:hd-uchino@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 学習基礎教養演習<br>Introduction to Academic Writing | | | | 担当教員 | 各担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は大学入学以前にすでに形成されているはずだが、さらなる醸成が求められている。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

i 、iv、v

**授業の一般目標**

1. 語彙力を上げることができる（日本語力と語彙は強い相関がある）。2. 格の正しい文を書けるようになる。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになる。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章（小論文やレポートなど）を書けるようになる。5. 文献検索、引用を適切に付記できる。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションできる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | パラグラフ構造を理解するとともに、ある主題について分節化の重要性を理解できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 適切な日本語を用いて課題に熱心に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 日本語の文章として適切なパラグラフを書くことができる。 |

**授業計画（全体）**

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと（評価、コメント）を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4.教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次回の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の概要と目標を説明した上で、パラグラフとは何かを概説する。<br>[授業外学修] 配布されたレジュメを読む。 | ⑨ | [テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価<br>[内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。<br>[授業外学修] 次回の目標規定文を考えてくる。 |
| ② | [テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文を漢字かな混じり文へ変換<br>[内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落抜きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。<br>[授業外学修] 語彙力に関する課題をこなす。 | ⑩ | [テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文<br>[内容] 学生個人の関心にしたがって目標規定文を考える（教員が適切と認めるもの）。それに至るための展開を構想する。<br>[授業外学修] 目標規定文の問題点を明確にする。 |
| ③ | [テーマ] パラグラフの構造(2)<br>[内容] パラグラフにおけるトピック, サポート,コンクルーディングセンテンスの再確認し、パラグラフ・アウトラインを作成する。<br>[授業外学修] パラグラフ・アウトラインに関する課題をこなす。 | ⑪ | [テーマ] 2000字程度のレポートの準備(2)パラグラフアウトライン<br>[内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料とその引用について考える。<br>[授業外学修] 論文の引用注に関する課題をこなす。 |
| ④ | [テーマ] 分類のパラグラフを書く<br>[内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類を考える。<br>[授業外学修] 分類に関する課題をこなす。 | ⑫ | [テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1)<br>[内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうることを考えて説明する。<br>[授業外学修] 語彙力に関する課題をこなす。 |
| ⑤ | [テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く<br>[内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となることを説明する。<br>[授業外学修] 比較・対照に関する課題をこなす。 | ⑬ | [テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2)<br>[内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。<br>[授業外学修] パラグラフ・アウトラインの課題を復習する。 |
| ⑥ | [テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く<br>[内容] 原因・結果のパラグラフは使用頻度が高いので、とくに習熟する必要があることを念頭において説明する。<br>[授業外学修] 原因・結果に関する課題をこなす。 | ⑭ | [テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る<br>[内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。<br>[授業外学修] 他の学生のレポートを読んでくる。 |
| ⑦ | [テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解と展開<br>[内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するためのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。<br>[授業外学修] パラグラフ展開に関する課題をこなす。 | ⑮ | [テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する<br>[内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。<br>[授業外学修] 自身のレポートに対するコメントに応答できるよう準備する。 |
| ⑧ | [テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く<br>[内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く途上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。<br>[授業外学修] 小論文の構成に関する課題をこなす。 | ⑯ | [テーマ] レポート返却、総評<br>[内容] レポートを返却し、総評を述べる。<br>[授業外学修]レポートの指摘事項を踏まえ全15回の総復習をする。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には各担当教員の研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ◎ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 30% |
| 演習・実技 | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業態度 | ◎ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | — | — | — | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。
・パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くときに必要となる基礎的なスキルであるため、積極的にこの授業に臨むこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 導入演習、キャリアプランニング1、体育系大学の基礎教養等 | 関連資格 | |
| 教科書 | レジュメを配布する | 参考書 | 授業中に指示する |
| オフィスアワー | 各クラスの担当教員に確認すること | その他 | 各クラスの担当教員に確認すること |

| 授業科目名 | 総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル1<br>All-round EnglishA level1 | | | | 担当教員 | 千田孝彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
日常生活の基礎的英単語を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。日常生活の基礎的英単語を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語A]ではレベル1～レベル5の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。③授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。④中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル1の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]次回の授業の予習「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 日本の祝祭日の内容と表し方<br>[内容]日本の祝祭日の内容の説明と英語での表現とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]アメリカの祝祭日の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]アルファベットとブラインドタッチ<br>[内容] アルファベットとブラインドタッチについて学ぶ。<br>[授業外学修]Self introductionを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] アメリカの祝祭日の内容と表し方<br>[内容]アメリカの祝祭日の内容や表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]日米の年中行事の説明と表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英会話①<br>[内容] Self-introduction<br>[授業外学修]Personal informationを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ]日米の年中行事の内容と表し方<br>[内容] 日米の年中行事の内容や表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]施設や景勝地の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英会話②<br>[内容] Rersonal information<br>Recycling language<br>[授業外学修]1～99の数字を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 施設や景勝地の名称<br>[内容] 日欧米の施設や景勝地の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]職業に関する表現を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ]1～99の数字の表し方<br>[内容] 1～99の表し方やスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]序数と大きな数(～10億)を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 職業に関する表現<br>[内容] 職業に関する表現とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]食べ物や栄養に関する表現を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ]序数と大きな数(～10億)<br>[内容] 序数と大きな数(～10億)の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]曜日、月、年号の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 食べ物や栄養に関する表現<br>[内容] 食べ物や栄養に関する表現とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]体の各部の名称の表現を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 曜日、月、年号の表しかた<br>[内容] 曜日、月、年号の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]季節とスポーツの英語の名称を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 体の各部の名称の表現<br>[内容] 体の各部の名称の表現とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 季節とスポーツの名称<br>[内容] 季節とスポーツの名称の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。<br>[授業外学修]日本の祝祭日の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予備日<br>[内容]休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語B、総合英語C、総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10 (A515) | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル2<br>All -Round English A (including Foreign Language Communication Level 2 | | | | 担当教員 | マイケル・マンキン |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 小学校・中学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
スポーツに用いられる英単語を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル2の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] バスケットボールに関連するイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] スポーツ全般1関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] アメフトに関連するイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] スポーツ全般2関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 水泳に関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 野球1表現に関連する英単語イディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 陸上競技に関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ 英会話 第1回<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] テニスとカード賭け事に関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英会話 第2回<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 漕艇・ヨットに関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 野球2表現に関連する英単語イディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 格闘技に関連する単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] サッカーに関連するイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予備日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語B、総合英語C、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 (FD A503) | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル3<br>All-Round English A (including Foreign Language Communication) Level 3 | | | | 担当教員 | 鎌田　幸雄・大曾根　眞紀子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校・高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル3の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入の練習。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第6回　現在完了形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] 英文法第1回　文の種類<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第7回　冠 詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　動 詞 Ⅰ (Be動詞)<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英文法第8回　受 動 態<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　動 詞 Ⅱ (一般動詞)<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英文法第9回　Itの特別用法<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　7つの疑問詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　there is (are)…構文の使い方<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　進 行 形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　命 令 形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容] ● Self-introductions<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　感 嘆 文<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Personal information,<br>● Recycling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予　備　日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語B、総合英語C、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 火曜日:14:20～15:50、(金曜日:12:40～14:10) | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル4<br>All-Round English A (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 志子田　真由子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第8回　関係代名詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]英文法第1回　前　置　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第9回　比　較　I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　助動詞 I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容] ● Self-introductions<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　助動詞 II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Personal information,<br>● Recycling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　不　定　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　比　較　II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　動　名　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　基本語順<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英文法第6回　接続詞 I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　時制・否定・疑問<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英文法第7回　接続詞 II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予　備　日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語B、総合英語C、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル5<br>All-round English A level5 | | | | 担当教員 | 宮野　隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検準2級レベルの英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語A]ではレベル1～レベル5の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。③授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。④高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法<br>[内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]助動詞<br>[内容] 助動詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 前置詞<br>[内容] 前置詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] to不定詞・副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞・名詞的と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Self introductionを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | to不定詞・名詞的用法、動名詞<br>[内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Self introduction<br>Recycling language<br>[授業外学修]Personal informationを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 接続詞、名詞節<br>[内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英会話第2回<br>[内容] Personal information<br>Recycling language<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 比較<br>[内容] 様々な比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ]現在完了<br>[内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予備日<br>[内容] 休講した際の補講日　これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 金曜日12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語B（含む外国語コミュニケーション）レベル2<br>All -Round English B (including Foreign Language Communication | | | | 担当教員 | マイケル・マンキン |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 小学校・中学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
スポーツに用いられる英単語を修得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。④授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容]レベル2の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] バスケットボールに関連するイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] スポーツ全般1関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] アメフトに関連するイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] スポーツ全般2関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 水泳に関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 野球1表現に関連する英単語イディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 陸上競技に関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英 会 話 第1回<br>[内容] ● Self-introductions<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] テニスとカード賭け事に関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英 会 話 第2回<br>[内容]●Personal information,<br>●Recyling language<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 漕艇・ヨットに関連する英単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 野球2表現に関連する英単語イディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 格闘技に関連する単語やイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] サッカーに関連するイディオムを習得する<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予 備 日<br>[内容]休講した際の補講日<br>ころまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語C、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 （FD A503） | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル3<br>All-Round English B (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 志子田　真由子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検4級レベルの基礎的英文法を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル3の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入の練習。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第6回　現在完了形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] 英文法第1回　文の種類<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第7回　冠 詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　動 詞 Ⅰ(Be動詞)<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英文法第8回　受 動 態<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　動 詞 Ⅱ(一般動詞)<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英文法第9回　Itの特別用法<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　7つの疑問詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　there is (are)…構文の使い方<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　進 行 形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　命 令 形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容] ● Meeting for the first time<br>● Recycling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　感 嘆 文<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Asking about sports<br>● Recycling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予　備　日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語C、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル4<br>All-Round English B (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 鎌田　幸雄・大曾根　眞紀子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校・高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検3級レベルの基礎的英文法を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第8回　関係代名詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]英文法第1回　前　置　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第9回　比　較　I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　助動詞 I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容] ● Meeting for the first time<br>● Recycling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　助動詞 II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Asking about sports<br>● Recycling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　不　定　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　比　較　II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　動　名　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　基本語順<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英文法第6回　接続詞 I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　時制・否定・疑問<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英文法第7回　接続詞 II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予　備　日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語C、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 火曜日:14:20～15:50、(金曜日:12:40～14:10) | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語B（含む外国語コミュニケーション）レベル5<br>All-round EnglishB level5 | | | | 担当教員 | 宮野　隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検準2級レベルの英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。③授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。④高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法<br>[内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]助動詞<br>[内容] 助動詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 前置詞<br>[内容] 前置詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Meeting for the first time<br>Recycling language<br>[授業外学修]Asking about sportsを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] to不定詞・副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞・名詞的と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英会話第2回<br>[内容]Asking for sports<br>Recycling language<br>[授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | to不定詞・名詞的用法、動名詞<br>[内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 接続詞、名詞節<br>[内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 比較<br>[内容] 様々な比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ]現在完了<br>[内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予備日<br>[内容] 休講した際の補講日　これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上：「秀」、200～299ポイント：「優」、150～199ポイント：「良」100～149ポイント：「可」、100ポイント未満：「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
|---|---|---|---|
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 金曜日：12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語B（含む外国語コミュニケーション）レベル6<br>All-round EnglishB level6 | | | | 担当教員 | 千田孝彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。③授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。④中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル6の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 現在完了<br>[内容] 現在完了の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]比較の表現の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 比較の表現<br>[内容] 比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]直接法、仮定法過去の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 接続詞と名詞節<br>[内容] 接続詞と名詞節の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]動名詞と現在分詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 直接法、仮定法過去<br>[内容] 直接法の例文と仮定法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 動名詞と現在分詞<br>[内容]動名詞と現在分詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Meeting for the first time<br>Recycling language<br>[授業外学修]Asking about sportsを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英会話第2回<br>[内容]Asking about sports<br>Recyclint language<br>[授業外学修]to不定詞副詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] to不定詞と分詞の形容詞的用法<br>[内容] to不定詞と分詞の形容詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]受動態の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ]to不定詞の副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>これまでの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 受動態<br>[内容] 受動態の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | 補講日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
|---|---|---|---|
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10（A515） | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語C（含む外国語コミュニケーション）レベル3<br>All-Round English C (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 鎌田　幸雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検4級レベルの基礎的英文法を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。④授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル3の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入の練習。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第6回　現在完了形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] 英文法第1回　文の種類<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第7回　冠 詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　動 詞 Ⅰ（Be動詞）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英文法第8回　受 動 態<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　動 詞 Ⅱ（一般動詞）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英文法第9回　Itの特別用法<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　7つの疑問詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　there is (are)…構文の使い方<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　進 行 形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　命 令 形<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容] ● Sports training routines<br>● Frequency adverbs<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　感 嘆 文<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Sporting aspirations<br>● Future tense<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予　備　日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語B、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 火曜日14:20～15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル4<br>All-Round English C (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 大曽根　眞紀子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検3級レベルの基礎的英文法を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第8回　関係代名詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]英文法第1回　前　置　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第9回　比　較　I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　助動詞 I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容] ● Sports training routines<br>● Frequency adverbs<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　助動詞 II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Sporting aspirations<br>● Future tense<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　不　定　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　比　較　II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　動　名　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　基本語順<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英文法第6回　接続詞 I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　時制・否定・疑問<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英文法第7回　接続詞 II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予　備　日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語B、総合英語D | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 金曜日:12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル5<br>All-round EnglishC level5 | | | | 担当教員 | 宮野　隆・志子田　真由子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検準2級レベルの英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

「総合英語C]ではレベル3～レベル7の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。③授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。④高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Sports training routines<br>Recycling language<br>[授業外学修]Sporting aspirationsを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]助動詞<br>[内容] 助動詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英会話第2回<br>[内容] Sporting aspirations<br>Recycling language<br>[授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 前置詞<br>[内容] 前置詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法<br>[内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] to不定詞・副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞・名詞的と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | to不定詞・名詞的用法、動名詞<br>[内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 接続詞、名詞節<br>[内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 比較<br>[内容] 様々に比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ]現在完了<br>[内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Sports training routinesを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予備日<br>[内容] 休講した際の補講日　これまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 金曜日 12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語C（含む外国語コミュニケーション）レベル6<br>All-round EnglishC level6 | | | | 担当教員 | 千田孝彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。③授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。④中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル6の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 現在完了<br>[内容] 現在完了の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]比較の表現の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 比較の表現<br>[内容] 比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]Sports training routinesを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]直接法、仮定法過去の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Sports training routines<br>Recyclint language<br>[授業外学修]Sporting aspirationsを考える。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 直接法、仮定法過去<br>[内容] 直接法の例文と仮定法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英会話②<br>[内容] Sports aspirations<br>Recycling language<br>[授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 接続詞と名詞節<br>[内容] 接続詞と名詞節の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]動名詞と現在分詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 動名詞と現在分詞<br>[内容]動名詞と現在分詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞副詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] to不定詞と分詞の形容詞的用法<br>[内容] to不定詞と分詞の形容詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]受動態の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ]to不定詞の副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>これまでの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 受動態<br>[内容] 受動態の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | 補講日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>これまで獲得したポイントを確認する<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10（A515） | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語C（含む外国語コミュニケーション）レベル7<br>All-Round English C (including Foreign Language Communication) Level 7 | | | | 担当教員 | マイケル・マンキン |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 小学校・中学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検準1級レベルの英文法を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。④授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル7の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] TOEIC 1<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] 仙台大オリジナル1 (MLBロベルトクレメンテ)<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] )仙台大オリジナル5（日本人とスポーツ）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英検準1 A Study on Aging<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] TOEIC 2<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 仙台大オリジナル2（肥満治療最前線）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 仙台大オリジナル6（スポーツの存在意義）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英検準1 An Olympic Struggle<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英 会 話 第1回<br>[内容] ● Self-introductions<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ 仙台大オリジナル3（英国スポーツの現況<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英 会 話 第2回<br>[内容] ● Personal information,<br>● Recyling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ 英検準1 We are all number one<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 仙台大オリジナル7（マラソンの飛躍）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 仙台大オリジナル4（米国スポーツ事情）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 予 備 日<br>[内容] 休講した際の補講日<br>ころまで獲得したポイントを確認する。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上：「秀」、200～299ポイント：「優」、150～199ポイント：「良」、100～149ポイント：「可」、100ポイント未満：「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | — | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | |
| 演習・実技 | — | | | |
| 授業態度 | — | | | |
| 出席 | — | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・その日の授業の内容について自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語B、総合英語C | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 (FD A503) | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語D（含む外国語コミュニケーション）レベル4<br>All-Round English D (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 大曽根　眞紀子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検3級レベルの基礎的英文法を修得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。④授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 英文法第8回　関係代名詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]英文法第1回　前　置　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 英文法第9回　比　較　I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英文法第2回　助動詞　I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容]● Plan a sports activity with friends<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 英文法第3回　助動詞　II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ● Talk about habitual activities<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英文法第4回　不　定　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英文法第10回　比　較　II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英文法第5回　動　名　詞<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英文法第11回　基本語順<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英文法第6回　接続詞　I<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 英文法第12回　時制・否定・疑問<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英文法第7回　接続詞　II<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] ポストテスト<br>[内容] 1年時に受けたプレイスメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ その日の授業の内容について自分の持っている英文法書で予習しておくこと。
・ 授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語B、総合英語C | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 金曜日：12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語D（含む外国語コミュニケーション）レベル5<br>All-round EnglishD level5 | | | | 担当教員 | 宮野　隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検準2級レベルの英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。③授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。④高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 比較<br>[内容] 様々に比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]助動詞<br>[内容] 助動詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ]現在完了<br>[内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 前置詞<br>[内容] 前置詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法<br>[内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] to不定詞・副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]A sports activityを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Plan a sports activity with friends<br>[授業外学修]Habitual activityを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 英会話第2回<br>[内容] Talk about habitual activities<br>[授業外学修]to不定詞名詞的用法と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] to不定詞名詞用法と動名詞<br>[内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 接続詞、名詞節<br>[内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] ポストテスト<br>[内容] 1年時に受けたプレイスメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上：「秀」、200～299ポイント：「優」、150～199ポイント：「良」100～149ポイント：「可」、100ポイント未満：「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
|---|---|---|---|
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 金曜日：12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語D（含む外国語コミュニケーション）レベル6<br>All-round EnglishD level6 | | | | 担当教員 | 千田孝彦・志子田真由子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語D]ではレベル4～レベル8の授業を行う。
①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。③授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。④中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル6の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] to不定詞と分詞の形容詞的用法<br>[内容] to不定詞と分詞の形容詞的用法の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]受動態の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ]分詞構文<br>[内容] 分詞構文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 受動態<br>[内容] 受動態の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 間接疑問文<br>[内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]直接法、仮定法過去の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 現在完了<br>[内容] 現在完了の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]比較の表現の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 直接法、仮定法過去<br>[内容] 直接法の例文と仮定法の例文を比較しながら学ぶ。<br>[授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 比較の表現<br>[内容] 比較の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 関係代名詞<br>[内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 接続詞と名詞節<br>[内容] 接続詞と名詞節の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]動名詞と現在分詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 関係副詞<br>[内容] 関係副詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]A sports activityを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 動名詞と現在分詞<br>[内容]動名詞と現在分詞の例文を学ぶ。<br>[授業外学修]to不定詞副詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英会話第1回<br>[内容] Plan a sports activity with friends<br>[授業外学修]Habitual activitiesを考える。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ]to不定詞の副詞的用法<br>[内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。<br>これまでの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 英会話第2回<br>[内容] Talk about habitual activities<br>[授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] ポストテスト<br>[内容] 1年時に受けたプレイスメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C,総合英語D, | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 水曜日:12:40～14:10、（金曜日:12:40～14:10） | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語D（含む外国語コミュニケーション）レベル7<br>All-Round English D(including Foreign Language Communication) Level 7 | | | | 担当教員 | マイケル・マンキン |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 小学校・中学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
英検準1級レベルの基礎的英文法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。④授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容]レベル7の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] TOEIC 1<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] 仙台大オリジナル1 (MLBロベルトクレメンテ)<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] 仙台大オリジナル5（日本人とスポーツ）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 英検準1 A Study on Aging<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] TOEIC 2<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 仙台大オリジナル2（肥満治療最前線）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 仙台大オリジナル6（スポーツの存在意義）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 英検準1 An Olympic Struggle<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英 会 話 第1回<br>[内容] ● Self-introductions<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 仙台大オリジナル3（英国スポーツの現況）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英 会 話 第2回<br>[内容] ● Personal information,<br>● Recyling language<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] 英検準1 We are all number one<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] 仙台大オリジナル7（マラソンの飛躍）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 仙台大オリジナル4（米国スポーツ事情）<br>[内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] ポストテスト<br>[内容] 1年時に受けたプレイスメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上：「秀」、200～299ポイント：「優」、150～199ポイント：「良」、100～149ポイント：「可」、100ポイント未満：「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・授業の内容について必ず予習復習を行うこと。
・Eラーニングを積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・獲得したポイントをマークシートに記入しなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語B、総合英語C | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 (FD A503) | その他 | |

| 授業科目名 | 総合英語D（含む外国語コミュニケーション）レベル8<br>All-Round English D (including Foreign Language Communication) | | | | 担当教員 | 鎌田 幸雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。 | iv |

**授業の一般目標**

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
教員採用試験レベルの英文法を修得する（TOEFL iBT 110以上）

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。教員採用試験レベルの英文法を修得する（TOEFL iBT 110以上） |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。
①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施）。④授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] レベル8の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。<br>[授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑨ | [テーマ] 長文読解　第6回　White America<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ② | [テーマ] 長文読解　第1回　Baseball<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑩ | [テーマ] TOEIC　第3回<br>[内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ③ | [テーマ] 長文読解　第2回　Love<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑪ | [テーマ] 長文読解　第7回　Sports in US<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] TOEIC　第1回<br>[内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑫ | [テーマ] 長文読解　第8回　Feminism<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑤ | [テーマ] 長文読解　第3回　Martial Arts<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑬ | [テーマ] 英　会　話　第1回<br>[内容]●　Plan a sports activity with friends<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑥ | [テーマ] 長文読解　第4回　Helen Keller<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑭ | [テーマ] 英　会　話　第2回<br>[内容] ●　Talk about habitual activities<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑦ | [テーマ] TOEIC　第2回<br>[内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑮ | [テーマ] TOEIC　第4回<br>[内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 |
| ⑧ | [テーマ] 長文読解　第5回　Rugby Football<br>[内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。<br>[授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] ポストテスト<br>[内容] 1年時に受けたプレイスメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・ 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
・ 次回の教材を前の週に配布するので、内容について予習し、分からない部分をはっきりさせておくこと。
・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
・ 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツに何故英語が必要か<br>総合英語A、総合英語B、総合英語C | 関連資格 | 教員免許 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 火曜日14:20～15:50 | その他 | |

# ≪教養展開科目≫

## （人文分野）

| 授業科目名 | スポーツと哲学<br>Sports and Philosophy | | | | 担当教員 | 久能和夫　他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1～3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 哲学的「問い」を立てるための基礎となる代表的な哲学者の言説について学んだ後、各種スポーツ専門領域の担当者からそれぞれの種目における先達・偉人が発している言葉や言説を基にしてそのスポーツの奥義について触れていく。自ら立てた「問い」と受け止めた内容を融合させスポーツに対する哲学的アプローチを図る。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

スポーツに対する自らの「問い」を各種スポーツの先達・偉人が残している多くの言説を手がかりにして探究し、スポーツの奥義についての哲学的アプローチを図る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 「スポーツと哲学」について、取り上げられた人物の言説を基にして考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自らの「問い」を各種スポーツの先達・偉人の言説に重ね合わせながら、解明に向けて主体的に探究する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 自らの「問い」を自らの言葉で表現できる。 |

**授業計画（全体）**

スポーツに対する様々な価値観・多様性から導かれる自らの「問い」を代表的なスポーツ界における先達・偉人の言説に照らし合わせながら、スポーツに対する本質を考える哲学的アプローチを図っていく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 授業ガイダンス(久能)<br>[内容] 身の回りにある具体例を引きながら、スポーツと哲学との関連性について気づき、考える。<br>[授業外学修]哲学的な「問い」について学修する。 | ⑨ | [テーマ] 剣道の哲学(斎藤浩)<br>[内容] 剣道界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして剣道と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅢ(武道))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 |
| ② | [テーマ] 哲学とは何か。哲学の始まり。(久能)<br>[内容]哲学的「問い」を立てるための哲学者が発した言説について考える。(Ⅰ)<br>[授業外学修]登場した哲学者について調べる。 | ⑩ | [テーマ] ダンスの哲学(山梨)<br>[内容] ダンス界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにしてダンスと哲学の関わりについて考える。(スポーツⅣ(ダンス))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 |
| ③ | [テーマ] 分かること。分からないこと。(久能)<br>[内容] 哲学的「問い」を立てるための哲学者が発した言説について考える。(Ⅱ)<br>[授業外学修]「スポーツと哲学」の関連性について考える。 | ⑪ | [テーマ] 野外活動の哲学(井上望)<br>[内容] 野外活動における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして野外活動と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅤ(野外活動))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 |
| ④ | [テーマ] 体操の哲学(鈴木、山口)<br>[内容] 体操界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして体操と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅠ(採点競技))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 | ⑫ | [テーマ] 体づくり運動の哲学(溝口、日下)<br>[内容] 体づくりにおける先達・偉人が残した言葉を手がかりにして体づくりと哲学の関わりについて考える。(スポーツⅥ(体づくり運動))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 |
| ⑤ | [テーマ] 陸上の哲学(名取)<br>[内容] 陸上界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして陸上と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅠ(測定競技))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 | ⑬ | [テーマ] 学習指導要領の哲学的アプローチ(田中智)<br>[内容] 中学校学習指導要領解説「保健体育編」に示されている「暗黙知」について哲学的アプローチを試みる。<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 |
| ⑥ | [テーマ] サッカーの哲学(吉井)<br>[内容] サッカー界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにしてサッカーと哲学の関わりについて考える。(スポーツⅡ(ゴール型))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 | ⑭ | [テーマ] メディアの哲学(日下)<br>[内容] スポーツ報道に込められている哲学的な視点について触れる。<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 |
| ⑦ | [テーマ] 野球の哲学(入澤、坪井、小野寺)<br>[内容] 野球界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして野球と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅡ(ベースボール型))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 | ⑮ | [テーマ] 哲学的「問い」についての振り返り(久能)<br>[内容] 各種スポーツ等に見ることができた哲学的な捉え方について自らの「問い」と対比しながら振り返る。<br>[授業外学修]①～⑮までの講義内容をまとめる。 |
| ⑧ | [テーマ] 柔道の哲学(南條)<br>[内容] 柔道界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして柔道と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅢ(武道))<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする。 | ⑯ | [テーマ] 考査(久能)<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

毎回授業終了時に「課題Ⅰ・・知」と「課題Ⅱ・・探究」について振り返りシートに記載して提出する。振り返りシートのポートフォリオ評価資料と筆記試験の結果に，受講態度（出席状況含む）等を加味して評価する。なお，欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ○ | 50% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・各回の振り返りシート「①知・・分かったこと、感動したこと」「②探究・・もっと知りたいこと」の累積が授業内レポートとして求められることを理解して授業に臨むこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に定めない | 参考書 | 特に定めない |
| オフィスアワー | 久能研究室（A307）　金（10:20～11:50） | その他 | 相談・提出は久能研究室（A307） |

| 授業科目名 | スポーツと現代思想<br>Contemporary Philosophy in Sports | | | | 担当教員 | 髙橋仁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1～3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高等学校等での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 現代のスポーツをとりあげ、日本のスポーツの特色、グローバル化の現状などについて、学内外の専門家から広く学び、その背景となっている考え方も含めて理解を深める。 | ⅱ、ⅴ |

**授業の一般目標**

スポーツの現状と課題について多角的に学び、その背景となる現代の思想について理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 日本のスポーツの特色やグローバル化の現状、アスリートを支えるもの、今後のスポーツの可能性などについて、背景となる考え方も含めて理解している。 |
| ■ | 情意的領域 | 現代社会におけるスポーツの価値について考察し、積極的にスポーツに関与しようする意識を持っている。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツの現状と課題及びその背景となる考え方などについて、自らの言葉で表現できる。 |

**授業計画(全体)**

担当教員は授業全体のコーディネーターとなり、1回目の授業でオリエンテーションを行う。2～15回目の授業では、毎回ゲスト講師を招き、授業の前半はゲストによる講義、授業の後半で講義に関する意見交換や質疑応答、授業の振り返りレポートの作成を行う。各回とも配布される資料等により授業を行い、16回目の授業でそれらの資料等をもとに試験を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の進め方、評価の方法、ゲスト講師に関する説明などを行う。<br>[授業外学修] シラバスをよく読む | ⑨ | [テーマ] スポーツのグローバル化4<br>[内容] オリンピックの現状と課題について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ② | [テーマ] 日本のスポーツの特色1<br>[内容] 「体育」から「スポーツ」へと名称が変更されてきた理由について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする | ⑩ | [テーマ] アスリートを支えるもの1<br>[内容] メンタルサポートなどをとりあげながら、サポートスタッフの重要性について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ③ | [テーマ] 日本のスポーツの特色2<br>[内容] 学校教育における運動部活動の意義と役割、現状と課題について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする。 | ⑪ | [テーマ] アスリートを支えるもの2<br>[内容] アスリートにとって大切な、「用具」の進歩について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ④ | [テーマ] 日本のスポーツの特色3<br>[内容] スポーツ少年団の活動を例にとりあげ、地域スポーツについて考える。<br>[授業外学修]配布された資料をもとに授業の復習をする | ⑫ | [テーマ] アスリートを支えるもの3<br>[内容] 「睡眠」を例に、スポーツをする上で欠かせない「身体」の重要性について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ⑤ | [テーマ] 日本のスポーツの特色4<br>[内容] 障害者とスポーツの関係について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする | ⑬ | [テーマ] スポーツの未来に向けて1<br>[内容] 先進国であるアメリカ合衆国の現状を例にとりあげ、スポーツビジネスについて考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ⑥ | [テーマ] スポーツのグローバル化1<br>[内容] 「剣道」を例にとりあげ、日本の武道の国際化について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする | ⑭ | [テーマ] スポーツの未来に向けて2<br>[内容] 「スポーツアナリスト」を例にとりあげ、スポーツにおける「情報」の重要性について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ⑦ | [テーマ] スポーツのグローバル化2<br>[内容] 「柔道」を例にとりあげ、日本の武道の国際化について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする | ⑮ | [テーマ] スポーツの未来に向けて3<br>[内容] eスポーツを話題の一つとしながら、5Gの社会におけるスポーツの可能性について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする |
| ⑧ | [テーマ] スポーツのグローバル化3<br>[内容] 中国における「卓球」を例にとりあげ、スポーツの国際化戦略について考える。<br>[授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 授業の理解度、目標の達成度を確認する。<br>[授業外学修] これまで配布された資料をもとに試験の準備をする |

**成績評価方法(方針)**

毎回提出するレポート及び試験の結果等を踏まえて総合的に成績を評価する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 40% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 50% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | ○ | 10% |
| 出席 | — | — | — | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | なし | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日14:20－15:50 | その他 | メール: ht-takahashi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 心理学概論<br>Introduction to Psychology | | | | 担当教員 | 加畑／粟木 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1/2/3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 心理学は人の行動について研究する学問である。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べる。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説する。 | v |

**授業の一般目標**

授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標である。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | さまざまな人の行動の法則性を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 人の行動を客観的に考える態度を身につける。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。 |

**授業計画（全体）**

心理学の中の五つの領域－認知、学習、運動学習、動機づけ、臨床、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か<br>[授業外学修]心理学では何を研究するのかを考えてみる | ⑨ | [テーマ] 動機づけ③<br>[内容] 快・不快といった情動と動機づけとの関連性について解説を行う。情動が生じるメカニズムから動機づけにつながる機序について解説する。<br>[授業外学修]自分の感情と動機づけについて考え、その理由を考えてみる |
| ② | [テーマ] 認知①<br>[内容] 情報処理の入口となる感覚について解説するとともに、入力された情報から意味を取り出す過程である知覚について解説する。<br>[授業外学修]人間とコンピュータとの共通部分と違いについて考えてみる | ⑩ | [テーマ] 臨床①<br>[内容] 臨床心理学の成り立ちについて概観する。さらに、心理的なアセスメントとはどのようなものかについて概説する。<br>[授業外学修]心理的なアセスメントについて調べる |
| ③ | [テーマ] 認知②<br>[内容]人間の記憶のメカニズムについて解説をする。注意を中心に人間の認知のメカニズムについて具体的な事例を用いた解説を行う。<br>[授業外学修]記憶に関する知識を整理してみる。 | ⑪ | [テーマ] 臨床②<br>[内容] 心理カウンセリングとはどのようyな行為であるかについて解説するとともに、心理療法とは何かについて解説をする。<br>[授業外学修]自分に関する心理的な問題点について分析的に考えてみる |
| ④ | [テーマ] 認知③<br>[内容] 思考、推論、問題解決など高度な認知的な家庭について具体的な事例を用いて解説を行う。<br>[授業外学修]問題を解決する際の脳の働きについて考える | ⑫ | [テーマ] 運動学習①<br>[内容]運動技能とはどのようなものかそれを学習することは一般的な学習とどのような違いがあるのかについて解説をする<br>[授業外学修]運動技能にはどのような種類があるのかについて考えてみる |
| ⑤ | [テーマ] 学習①<br>[内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える<br>[授業外学修]出生後の行動の変化について考えてみる | ⑬ | [テーマ] 運動学習②<br>[内容] 代表的な運動学習理論について解説する。それがスポーツにどのように関連しているのかについても解説をする。<br>[授業外学修]自分が親しんできたスポーツとその技能について考える。 |
| ⑥ | [テーマ] 学習②<br>[内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える。また教育現場での応用事例などについても解説をする。<br>[授業外学修]条件づけの例を身の回りで探してみる | ⑭ | [テーマ] 社会心理①<br>[内容] 集団とは何かについて解説する。さらに、グループダイナミクスおよびリーダシップ理論について解説す。<br>[授業外学修]グループとはどのようなものか自分なりに定義づけてみる |
| ⑦ | [テーマ] 動機づけ①<br>[内容] 欲求と動機づけとの関連性について解説を行う。生理的な欲求から高次な欲求までその種類について解説をする。<br>[授業外学修]自分の欲求について階層別に整理してみる | ⑮ | [テーマ] 社会心理②<br>[内容] グループダイナミクスの知見ががスポーツ集団をはじめとする人間の集団の中でどのように応用されているのかについて解説する。<br>[授業外学修]自分の周りのリーダーや集団について考えてみる |
| ⑧ | [テーマ] 動機づけ②<br>[内容] 効力予期や結果予期を中心に認知が動機づけにどのように関連しているかについて解説を行う。<br>[授業外学修]自分の動機づけのメカニズムについて整理してみる | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

レポートを3回課し、その評価（評価割合30％×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定する。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 90% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えよう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはならない。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはならない。（減点の対象）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | なし | 関連資格 | 社会福祉士国家試験受験資格<br>社会福祉主事任用資格 |
| 教科書 | 使用しない | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日と水曜日の12:00～12:30 | その他 | 粟木研究室（E棟2階） |

| 授業科目名 | 人の心と行動<br>Human Mind and Behavior | | | | 担当教員 | 氏家靖浩 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1/2/3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

私たちの「心」のありようや特徴は、私たちの行動を通じ、さまざまな側面から考えることが可能である。それが「心理学」のものの見かた・考えかたである。ここでは、いくつかのトピックをより具体的に紹介・検討することを通じて、私たちの行動の説明や予測を行う「心理学」の見かた・考えかたをより具体的に知り、自らの行動にも当てはめて考えてゆく。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

v

**授業の一般目標**

人の行動選択と決定を説明するために要請される諸概念について理解するとともに、それらの説明概念を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、また周囲の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 人の行動の法則性を理解するとともに、それらを用いて行動の予測・説明を行うことができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 人の行動を客観的分析的に考える態度を身につける |
| ■ | 技能表現的領域 | 自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。 |

**授業計画（全体）**

集団・人格・記憶・心理検査・食・人間関係の内容領域を応用心理学的に検討することにより、基盤となる領域共通の心理学的思考方法を明らかにしてゆく。このため、合計6名の担当者によるオムニバス形式で講義を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(全員)<br>[内容] 授業の内容と進め方、担当者についての詳細説明、「心」のありかととその考え方の必要性について考える。<br>[授業外学修] 「心」とはどこにあるのかについて、諸理論を調べること | ⑨ | [テーマ] 心理療法② 「スキーマ」(菊地・荒井)<br>[内容] 認知療法的視点から、スキーマと悩みについて解説する。<br>[授業外学修] 自分が持っているスキーマについて省察してみること |
| ② | [テーマ] 人の集まりに関する心理学①(井上・荒井)<br>[内容] 人が集まった場合、どのような役割が生まれるか。それぞれの役割とその行動特徴について検討する。<br>[授業外学修] 自分の所属するさまざまな集団内での役割を考えること | ⑩ | [テーマ] 食の心理学①(粟木・荒井)<br>[内容] おいしいと感じることと、実際の味との関係について検討し、味以外のおいしさを左右する条件を考える。<br>[授業外学修] 自らの食行動でも条件を操作してみること |
| ③ | [テーマ] 人の集まりに関する心理学②(井上・荒井)<br>[内容] 特に集団の先頭にたち、全体を主導する人(リーダー)の行動特徴や留意点について検討する。<br>[授業外学修] 自分の所属集団のリーダーの特徴を検討すること | ⑪ | テーマ] 食の心理学②(粟木・荒井)<br>[内容] 偏食やダイエットといったことがらを題材に、私たちの食習慣の選択と決定におよぼす情報の影響について考える。<br>[授業外学修] 自分の周囲の人たちの食習慣を調べてみること |
| ④ | [テーマ] 人の性格・人格に関する心理学①(佐藤周・荒井)<br>[内容] 個々の違いを説明する「人格」という考えかたについて検討するとともに、交流分析で用いられる「エゴグラム」をやってみる。<br>[授業外学修] 自分のエゴグラムの結果から、自分の人格を考えること | ⑫ | テーマ] 人間関係の心理学①(荒井)<br>[内容] 人間関係を改善・調整するための社会的スキルについて紹介し、その効用と限界を検討する。<br>[授業外学修] 自分の社会的スキルについて改善策を考えること |
| ⑤ | [テーマ] 人の性格・人格に関する心理学②(佐藤周・荒井)<br>[内容] 交流分析の方法を用いて、コミュニケーションを分析することを通じ、期待される立場や自らが望む立場の相違について検討する。<br>[授業外学修] 通常の会話で自分や相手の立場を考えてみること | ⑬ | [テーマ] 人間関係の心理学②(荒井)<br>[内容] 初めて会った人々同士のためのアイスブレイクの手法の代表例を紹介し、関係構築に必要なことがらを検討する。<br>[授業外学修] 紹介された手法の改善を試みてみること |
| ⑥ | [テーマ] 心理テストと心理検査①(山田・荒井)<br>[内容] 心理学で用いられている心理検査について紹介するとともに、実際に自分について実施してみる。<br>[授業外学修] 自分の検査結果について検討してみること | ⑭ | [テーマ] 人間関係の心理学③(荒井)<br>[内容]人間関係の構築を促進する働きがあるとされるグループワークを紹介し、実践してみる。<br>[授業外学修] 自分自身のグループワークでの行動について反省すること |
| ⑦ | [テーマ] 心理テストと心理検査②(山田・荒井)<br>[内容] 巷間しばしば語られる「心理テスト」を紹介し、心理検査との違いを考えながら、妥当性や信頼性の重要性について検討する。<br>[授業外学修] 「心理テスト」の欠点についてまとめておくこと | ⑮ | [テーマ] まとめ(荒井)<br>これまで扱った各種領域をはじめ、広い分野・領域を対象とする心理学に共通する手法や考えかたについてまとめる。<br>[授業外学修] 講義の内容を総合して自分自身を振り返ってみること。 |
| ⑧ | [テーマ] 心理療法①無意識と症状(菊地・荒井)<br>[内容] 」精神分析的視点から、心理的な内容が症状として顕在化することについて解説する。<br>[授業外学修] 自分の場合で同様のことがなかったか反省してみること | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

レポートを最低3回課す。その評価（評価割合合計90%）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定する。
レポートは評価して返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 90% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・曜日・時間帯ごとの詳細日程・担当者はオリエンテーション時に説明する。
・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えよう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはならない。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはならない。（減点の対象）・

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | なし | 関連資格 | なし |
| 教科書 | 使用しない。 | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | | その他 | 連絡先：荒井研究室（A309） |

| 授業科目名 | ことばと人間A<br>Language and Human Being A | | | | 担当教員 | 青沼 一民 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 小・中学校での教員の実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業は、「私たちにとってことばは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解、知識について解説する。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

ことばを理解することで、日常生活の中で言語表現に配慮しながら、より的確で適切な表現ができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 言語表現に対する意識を高める。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本授業は、毎回一つのトピックスについて考察し、授業展開を重ねるごとにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。毎回授業ごとに前回の授業を振り返りを行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業全体の説明<br>[授業外学修]配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑨ | [テーマ] 比喩的表現について(2)<br>[内容] 比喩的表現の有効性について考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ② | [テーマ]ことばは人間にとって何か。<br>[内容] 我々にとってことばとは何を考える。<br>[授業外学修]配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑩ | [テーマ] 比喩的表現について(3)<br>[内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再考する。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ③ | [テーマ] ことばが意味を持つためには(1)<br>[内容] ある表現が成立するための条件について考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑪ | [テーマ] 振り返り(テスト含む)<br>[内容] 前回までの授業内容について復習する。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ④ | [テーマ] ことばが意味を持つためには(2)<br>[内容] ある表現が成立するための条件について考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑫ | [テーマ] わかるとは(1)<br>[内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ⑤ | [テーマ] 概念について(1)<br>[内容] ことばと概念の関係について考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑬ | [テーマ] わかるとは(2)<br>[内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 |
| ⑥ | [テーマ] 振り返り(テストを含む)<br>[内容] 前回までの授業内容について復習する。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑭ | [テーマ] わかるとは(3)<br>[内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。<br>[授業外学修]これまでの授業内容を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 概念について(2)<br>[内容] 概念の形式について考える。<br>「授業外学修」学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑮ | [テーマ] 振り返り(テスト含む)<br>[内容] 前回までの授業内容について復習する<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 比喩的表現について(1)<br>[内容] 比喩的表現の構造について考える。<br>[授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。 | ⑯ | [テーマ] 最終試験<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

授業内レポート及びテストの結果で評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | ◎ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・この授業では声を出すこと。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけよう。
・欠席した回の小テストは0点である。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなる。できる限り授業に出席しよう。
・毎回のテストのために復習が必要である。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | なし |
| 教科書 | 使用しない。 | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | その他 | 連絡先：青沼研究室（A313） |

| 授業科目名 | ことばと人間 B<br>Language and Human Being B | | | | 担当教員 | 鎌田　幸雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高等学校の教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。 | iv |

**授業の一般目標**

言語学全般に関する基本的概念を理解する。
身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 言語学全般に関する基本的概念を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」・「語」・「文」・「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ことばの様々な研究法<br>[内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑨ | [テーマ] ことばと社会(2)言語の多様性<br>[内容] 言語接触、ピジンとクリオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する |
| ② | [テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造<br>[内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑩ | [テーマ] ことばと社会(3)公用語とは何か<br>[内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する |
| ③ | [テーマ] ことばの構造(2)語の構造<br>[内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑪ | [テーマ] ことばと社会(4)英語史概観<br>[内容] 被征服言語／征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する |
| ④ | [テーマ] ことばの構造(3)文の構造<br>[内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑫ | [テーマ] ことばの不思議<br>[内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。<br>[授業外学修] ことばとは何かを考える |
| ⑤ | [テーマ] ことばの構造(4)意味の構造<br>[内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑬ | [テーマ] 日本語の歴史(1)日本語の起源・系統<br>[内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する |
| ⑥ | [テーマ] ことばとその外部(1)固有名について<br>[内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名：人名の多様性、英米人の人名等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑭ | [テーマ] 日本語の歴史(2)上代から近世まで<br>[内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する |
| ⑦ | [テーマ] ことばとその外部(2)固有名について<br>[内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名：地名の命名法、英米の地名等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑮ | [テーマ] 日本語の歴史(3)明治維新以降<br>[内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する |
| ⑧ | [テーマ] ことばと社会(1)言語の社会的機能<br>[内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイディンティティーとしての言語、言語と民族等<br>[授業外学修] 講義の内容を復習する | ⑯ | [テーマ] 期　末　試　験<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

期末試験(70%)と出席を含む積極的授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
なお、この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語(例えば英語や日本語)の技能が向上するものと誤解しないようしてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ことばと人間 A | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 講義の際にその都度紹介します |
| オフィスアワー | 火曜日14:20～15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | ことばと人間B<br>Language and human B | | | | 担当教員 | 千田　孝彦/ジェリー　パランギ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| In this class, students think about what sports and health are for human being.For this purpose, this class will examine current topics of sports and health . In the later lessons, students make presentations about sports and health. All lessons are given in English. 中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。 | iv |

**授業の一般目標**

Students can acquier currennt knowledges of sports and health. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English. Students also make some presentations about sports and health.

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | To acquire current knowledges of sports and health for human being. |
| ■ | 情意的領域 | To make summaries, write reports and make presentations voluntarily. |
| ■ | 技能表現的領域 | To write summaries and explain about sports and health. To write reports and make presentations about sports and health for human being. |

**授業計画（全体）**

One topic is treated per a class. Students make a summary of the topic and write a report of it. Then students make a presentation about sports and health for human being.Through this learning, students are expected to deepen their understanding of sports and health for human being.

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] Orientation(Kikuchi)<br>[内容] Explanation of the classes<br>[授業外学修]Read the next topic before class. | ⑨ | [テーマ] Word list and explanations (Parangi)<br>[内容] Proof reading of English scripts and feedback regarding over presentation content and continuity.<br>[授業外学修]Students must prepare word lists for their presentations. Rehearsal of presentations |
| ② | [テーマ] Vitamin D and and our health.(Kikuchi)<br>[内容] Vitamin D helps our bodies in many ways. The latest discovery is how it helps people with breast cancer. V.D also helps other sufferings.<br>[授業外学修] Read the next topic before class | ⑩ | [テーマ] 1st presentations (Parangi)<br>[内容] Devising questions from presentations<br>[授業外学修] Decide a new topic of research and prepare a pacing plan |
| ③ | [テーマ] Age and abilities<br>[内容] French man set a record in the 105-year-old category for his one-hour ride. We should do some excise on a daily basis to stay healthy.<br>[授業外学修] Read the next topic before class. | ⑪ | [テーマ] Research new topic (Parangi)<br>[内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations<br>[授業外学修] Prepare power point slides andEnglish scripts. |
| ④ | [テーマ] Sports can change the society.(Kikuchi)<br>[内容] Young women train to wrestle in conservative Indian state. Wrestling will improve things for women in patriarchal culture.<br>[授業外学修] Read the next topic before class. | ⑫ | [テーマ] Researching Topic (Parangi)<br>[内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations<br>[授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations. |
| ⑤ | [テーマ] Running in cold weather improves performance.(Kikuchi)<br>[内容] The runners don't let cold temperatures and snow keep them from running outdoors. Running in cold weather has more benfits than one in hot.<br>[授業外学修]Think about the topics you will write about | ⑬ | [テーマ] 1st presentations (Parangi)<br>[内容] Devising questions from presentations. Introduction of new topic for next lesson<br>[授業外学修] Find a current affairs article that is sports relevant. |
| ⑥ | [テーマ] Demonstration Power point presentation(Parangi)<br>[内容] An introduction of Traditional Maori culture & games used for eye-hand coordination, balance, strength and rhythm<br>[授業外学修] Develop a pacing plan for first power point presentation | ⑭ | [テーマ] Current Affairs sports (Parangi)<br>[内容] Paper cutouts of current sports affairs around the world, presentation and discussion<br>[授業外学修] Research a current sports event to report. |
| ⑦ | [テーマ] Researching Topic (Parangi)<br>[内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations<br>[授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations. | ⑮ | [テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi)<br>[内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article.<br>[授業外学修] Prepare another article for presentation |
| ⑧ | [テーマ] Researching Topic (Parangi)<br>[内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations<br>[授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations. | ⑯ | [テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi)<br>[内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article.<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

Preparation, summaries, reports of topics, drafts for presentations and performance of presentations are evaluated. Reports and drafts are returned with comments in class.

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | ◎ | 40% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ◎ | | 10% |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
The maximum number of students is 10.

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ことばと人間A,B | 関連資格 | |
| 教科書 | 担当教員が準備する | 参考書 | Dictionary |
| オフィスアワー | Wednesday 12:40～14:10(A515) | その他 | |

（社会分野）

| 授業科目名 | 社会学概論<br>Introduction to Sociology (L.) | | | | 担当教員 | 三谷高史 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。 | v |

**授業の一般目標**

社会における「当たり前」（社会通念や規範）を疑う能力を身につける。自分自身が縛られている「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題を自分自身と関連付けながら、より鮮明に理解できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 社会学の基礎的な概念や学説を理解している |
| ■ | 情意的領域 | 社会的な通念や規範を相対化し、客観視することができる |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明<br>[授業外学修]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む | ⑨ | [テーマ] 中間試験<br>[内容] 選択式・記述式の試験を行なう<br>[授業外学修]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する |
| ② | [テーマ] 社会学的方法論<br>[内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑩ | [テーマ] ジェンダーとスポーツ文化<br>[内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ③ | [テーマ] 社会的役割取得①<br>[内容] 人間の社会的役割取得について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑪ | [テーマ] 家族と社会学<br>[内容] 近代家族の特徴について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ④ | [テーマ] 社会的役割取得②<br>[内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑫ | [テーマ] 学校と社会学<br>[内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑤ | [テーマ] アイデンティティ①<br>[内容] アイデンティティ概念について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑬ | [テーマ] スポーツと社会学<br>[内容] スポーツ社会学の知見について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑥ | [テーマ] アイデンティティ②<br>[内容] 映像資料（映画）を用いて、アイデンティティの危機について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑭ | [テーマ] メディアと社会学<br>[内容] メディアとコミュニケーションについて解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑦ | [テーマ] 社会への適応<br>[内容] 社会規範の取得について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑮ | [テーマ] 現代と社会学<br>[内容] 現代社会（後期近代社会）がもつ特徴や問題について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 社会からの逸脱<br>[内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑯ | [テーマ] 期末レポート<br>[内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう<br>[授業外学修]講義内容を復習し、期末レポートを作成する |

**成績評価方法（方針）**

中間試験（50%）＋期末レポート（50%）で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン（50点中30点）に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | | 50% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為（私語など）は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 社会構造と人間関係、社会調査法Ⅰ | 関連資格 | 社会福祉士・介護福祉士 |
| 教科書 | 特に指定せず、毎回自作のレジュメを配布する。参考文献はその都度提示する。 | 参考書 | 倉沢進他［編著］『社会学入門』放送大学教育振興会、2001<br>奥村隆［編著］『社会学になにができるか』八千代出版、1997 |
| オフィスアワー | 火曜日　14:20～15:50 | その他 | tk-mitani@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 社会構造と人間関係<br>Social Structure and Human Relationship (L.) | | | | 担当教員 | 三谷高史 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、現在問題視されている「社会問題」を取り上げ、社会学の知見を用いて掘り下げていく。 | v |

**授業の一般目標**

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会(中でも、学校教育や学校外教育＝社生涯学習)が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 社会学的な概念や学説を理解している |
| ■ | 情意的領域 | 社会的な通念や規範を相対化、客観視することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 社会問題の問題性を理解し、自分なりの解決策を論理的に提示できる。 |

**授業計画(全体)**

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。後半は教育をめぐる社会問題について社会科学的に解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明<br>[授業外学修]学校運動部活動にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む | ⑨ | [テーマ] 中間試験<br>[内容] 選択式・記述式の試験を行なう<br>[授業外学修]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する |
| ② | [テーマ] 社会学的方法論<br>[内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑩ | [テーマ] 学校教育の社会学①<br>[内容] 学校の持つ集中性・秩序性・文化性について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ③ | [テーマ] 社会的役割取得①<br>[内容] 人間の社会的役割取得について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑪ | [テーマ] 学校教育の社会学②<br>[内容] 学校におけるリスクの問題について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ④ | [テーマ] 社会的役割取得②<br>[内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑫ | [テーマ] 社会教育・生涯学習の社会学①<br>[内容] 公教育として学校外で展開される教育について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑤ | [テーマ] アイデンティティ①<br>[内容] アイデンティティ概念について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑬ | [テーマ] 社会教育・生涯学習の社会学②<br>[内容] 学校外教育を組織する専門職のひとつである社会教育主事の仕事をファシリテーターという視点から解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑥ | [テーマ] アイデンティティ②<br>[内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑭ | [テーマ] 貧困問題の社会学<br>[内容] 貧困問題と教育との関係(学校教育・社会教育を通した支援の歴史と現状)について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑦ | [テーマ] 社会への適応<br>[内容] 社会規範の取得について解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑮ | [テーマ] 社会的包摂の社会学<br>[内容] 学校教育や社会教育における社会的包摂問題への取り組みについて解説する<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 社会からの逸脱<br>[内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。<br>[授業外学修]本日の講義について復習をする | ⑯ | [テーマ] 期末レポート<br>[内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう<br>[授業外学修]講義内容を復習し、期末レポートを作成する |

**成績評価方法(方針)**

中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 社会学概論、社会調査法Ⅰ | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。 | 参考書 | 倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001<br>神谷拓『運動部活動の教育学入門』大修館書店、2015 |
| オフィスアワー | 火曜日　14:20～15:50 | その他 | tk-mitani@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 消費経済とスポーツ<br>Economy of Consuming and Sport | | | | 担当教員 | 高成田 享 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する |
| ■ | 情意的領域 | 自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。 |

**授業計画（全体）**

消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 授業の概要<br>[内容] 消費経済とは何かを学ぶ。<br>[授業外学修]自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる | ⑨ | [テーマ] クレジット社会<br>[内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。。<br>[授業外学修]クレジットで購入したことがあるか考える |
| ② | [テーマ]消費の歴史<br>[内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。<br>[授業外学修]自分それぞれの消費についてその目的を考える | ⑩ | [テーマ] 貯蓄と投資<br>[内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ<br>[授業外学修]どんな貯蓄や投資があるか調べる |
| ③ | [テーマ] 万国博からショッピングモールへ<br>[内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。<br>[授業外学修]万国博について調べる | ⑪ | [テーマ] 消費税<br>[内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。<br>[授業外学修]日本の財政を調べる |
| ④ | [テーマ] 大衆消費社会とは<br>[内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味<br>[授業外学修]自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える | ⑫ | [テーマ] 消費経済と国家経済<br>[内容] 消費のマクロ経済的な意味<br>[授業外学修]マクロ経済の意味を調べる |
| ⑤ | [テーマ] 広告の功罪<br>[内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。<br>[授業外学修]自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える | ⑬ | [テーマ] 消費社会を超えて<br>[内容]消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。<br>[授業外学修]人間の価値観について考える |
| ⑥ | [テーマ] 記号としての消費<br>[内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。<br>[授業外学修]ブランドとは何かを考える | ⑭ | [テーマ] まとめと小論文の書き方<br>[内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 消費するスポーツ（上）<br>[内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。<br>[授業外学修]自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える | ⑮ | [テーマ] 小論文<br>[内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ]消費するスポーツ（下）<br>[内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察<br>[授業外学修]同上 | ⑯ | [テーマ] 予備<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | ○ | ○ | ○ | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | | その他 | toru@takanarita.com |

| 授業科目名 | 世界経済・日本経済とスポーツ<br>World & Japanese Economy and Sports | | | | 担当教員 | 遠藤保雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 担当者が国連等での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。 | i 、ii 、iii 、iv |

**授業の一般目標**

スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、それを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎的面についての理解を深める。 |

**授業計画（全体）**

本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ<br>[内容]国際経済・日本経済の現状とその中におけるスポーツの位置づけを考察する。<br>[授業外学修]GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる | ⑨ | [テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟①<br>[内容]第二次大戦後の東西冷戦下の国際経済の発展と、世界のスポーツの展開過程を考察するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する<br>[授業外学修]第二次大戦後の現代史を予習しておくこと |
| ② | [テーマ]資本主義経済の考察①<br>[内容]資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。<br>[授業外学修]資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく | ⑩ | [テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟②<br>[内容] 冷戦崩壊後の世界経済の変化とスポーツのする、見る、支えるスポーツの展開を考察<br>[授業外学修]スポーツ産業論参照 |
| ③ | [テーマ]資本主義経済の考察②<br>[内容]ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動<br>[授業外学修]生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと | ⑪ | [テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟③<br>[内容] 第二次大戦後の近代スポーツの二つの流れ、スポーツの商業化、欧米でのプロスポーツの全盛、欧州での多様なスポーツの展開<br>[授業外学修]スポーツ産業論参照 |
| ④ | [テーマ]資本主義経済の考察③<br>[内容]ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占<br>[授業外学修]需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと | ⑫ | [テーマ] 日本経済の発展とスポーツ①<br>[内容]我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。<br>[授業外学修]明治期から現代までの経済史を学習すること |
| ⑤ | [テーマ] 資本主義経済の考察④<br>[内容]マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場・貨幣市場の関係、マクロ経済を構成要素（家計・企業・政府）<br>[授業外学修]GDPを構成する要素を調べておくこと | ⑬ | [テーマ] 日本経済の発展とスポーツ②<br>[内容]経済のグローバル化、ソフト化、情報化社会化、少子高齢化等の下での、する、見る、支えるスポーツ経済の効果、スポーツの発展について考察<br>[授業外学修]2000年代の日本経済の特徴を予習すること |
| ⑥ | [テーマ] 資本主義経済の考察⑤<br>[内容]マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレ・デフレ、財政・金融政策、国際経済（貿易、比較優位、国際収支と円高・円安）<br>[授業外学修]マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと | ⑭ | [テーマ] 世界経済の発展とオリンピック①<br>[内容]近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する<br>[授業外学修]近代オリンピックの歴史を予習すること |
| ⑦ | [テーマ] 世界経済の形成とスポーツの概観<br>[内容] 古代、中世、資本主義成立、近代、現代の世界経済社会の発展と伝統的スポーツ・近代的スポーツを概観<br>[授業外学修]古代から現代までの世界史を予習しておくこと | ⑮ | [テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学<br>[内容]2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。<br>[授業外学修]東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ<br>[内容]英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する<br>[授業外学修]英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと | ⑯ | [テーマ] 最終試験<br>[内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ○ | 90% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 10% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | スポーツの経済学（マイケル・A ・リーズ） スポーツ産業論（原田宗彦） |
| オフィスアワー | 金曜日13～15時 | その他 | |

| 授業科目名 | 法学<br>Jurisprudence | | | | 担当教員 | 加藤英俊 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。 | v |

**授業の一般目標**

日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。 |
| ■ | 情意的領域 | 法的観点から社会問題を考え、意見を述べることができるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑨ | [テーマ] 使用者責任と国家賠償責任<br>[内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 |
| ② | [テーマ] 親族関係と法<br>[内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑩ | [テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任<br>[内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 |
| ③ | [テーマ] 婚姻と離婚(1)<br>[内容] 婚姻の成立、無効・取消、<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑪ | [テーマ] 契約を結ぶことができるのは<br>[内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 |
| ④ | [テーマ] 婚姻と離婚(2)<br>[内容] 夫婦の権利義務、 離婚、財産分与等<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑫ | [テーマ] 制限行為能力者<br>[内容] 未成年者、成年後見制度<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告 |
| ⑤ | [テーマ] 親子関係、私的扶養<br>[内容] 親子関係で現れる法的諸事項<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑬ | [テーマ] 予備、または、中間考査<br>[内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] 遺言と法定相続<br>[内容] 遺言と相続の基本的な事項<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑭ | [テーマ] お役所とお役所の仕事<br>[内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的事項<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 |
| ⑦ | [テーマ] 損害の賠償<br>[内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑮ | [テーマ] お役所の処分を争う<br>[内容] 行政救済の基本的事項<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 不法行為<br>[内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力<br>[授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘 | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間考査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業には必ずテキストを携行すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 谷口・松原編著、基礎からわかる法学（成文堂） | 参考書 | |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通すこと。 |

| 授業科目名 | 歴史学入門<br>Introduction to History | | | | 担当教員 | 伊達宗弘 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 1コマを2部構成とし視聴覚教材を駆使して、(1)通史としての日本史を紹介する。(2)紹介した時代を代表する人物に的を当て、困難や危機に直面した時、先人はそれをどのように乗り切ったかを紹介する。紹介する人物は次の通り。聖徳太子。中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など14名。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

国際化・情報化など激しく移り変わる変化の中で、(1)日本の素晴らしい歴史や文化について理解を深め(2)それぞれの時代を生きた先人の生き方を通して自信と誇りを持って生き、堂々と世界に伍していくことのできる人材となることを目指す。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語ることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 身の回りのものを優しく謙虚な気持ちで見て、いつも高い志を持って生きることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。 |

**授業計画（全体）**

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得てまた興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料として生涯手元において役立つオリジナルな資料を作成配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 旧石器時代から飛鳥時代<br>[内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑨ | [テーマ] 道を起こし教を布く・徳川家康<br>[内容] いまの日本の形を整える礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑していた覇者の哲学を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ② | [テーマ]大化の改新と大宝律令の制定<br>[内容] 聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令の制定など国のかたちが整っていく過程を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑩ | [テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり<br>[内容] 秀吉から領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の壮大な夢と国づくりを紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ③ | [テーマ] 奈良の都と京の都<br>[内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって花開いた国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑪ | [テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き方<br>[内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていく上においてのヒントを提供。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ④ | [テーマ] 平安時代の光と影<br>[内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑫ | [テーマ] 多彩な人材を育てた吉田松陰<br>[内容]新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き方を紹介し、生きていく上にヒントとなる情報を提供。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑤ | [テーマ] 鎌倉幕府の成立と建武中興<br>[内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応えて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの在り方を考える。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑬ | [テーマ]日本の近代化に殉じた大久保利通<br>[内容]盟友西郷隆盛と決別し、新しい日本の国づくりに危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識と悲壮な決断を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑥ | [テーマ] 応仁の乱と戦国乱世<br>[内容]戦国時代を生きた武将の名言を紹介し、その中で「地を拓き水を治める」ために腐心した武田信玄の国づくりを紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑭ | [テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助<br>[内容] 国民主体の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の功績を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑦ | [テーマ] 織田信長、天下統一への道<br>[内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を造り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き方を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑮ | [テーマ] 私の履歴書<br>[内容] 自身が失敗と挫折の連続の中で夢を実現するために歩んだ半生を紹介し、学生が生きていく上でのヒントになる情報を提供。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑧ | [テーマ] 短期間で天下を統一した豊臣秀吉<br>[内容] 一介の農民から天下統一した秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

毎回提出させるレポートとテストを踏まえて総合的に判断する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 50% |
| 授業内レポート | 20% | 20% | 10% | 50% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
毎回配布する「世界の名言」「抜粋のつづり」は必ず読んで自己研鑽の一助とし、加えて配布するその時々の話題になっている事項を解説した資料にも目を通し、決して疑問を残さないようにして欲しい。例示　その時々の資料「裁判員裁判と検察審査会」「皇族と皇位継承」「元号」「オリンピックの歴史」「自衛隊の災害派遣」「激甚災害指定」「選挙権」「革命とクーデタ」「変と乱」「懲役と禁固、執行猶予と実刑判決」「訴訟手続きと弁護士、検事、裁判官」など。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 手作り教科書（34頁）と四字熟語（20頁）を配布 | 参考書 | |
| オフィスアワー | | その他 | 図書館専用電話0224－55－2052 |

| 授業科目名 | 歴史と人間<br>Individual Elements in History | | | | 担当教員 | 伊達 宗弘 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 通史としての日本史と、時代を大きく変えて行くために大きな役割を果たした先人の生き方、また名言や四字熟語等を通して、これからの先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する講座とする。 | iv |

**授業の一般目標**

(1)世界に冠たる日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識する。(2)社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語ることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 身の周りのものを優しい気持ちと謙虚な気持ちで見、いつも高い志を持って生き力を養う。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になる。 |

**授業計画（全体）**

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得て、また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料として生涯手元において役立つオリジナルな資料を作成配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 聖徳太子、理想国家実現の夢<br>[内容] 天皇を中心とした中央集権国家づくりに腐心した、聖徳太子の生き方を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑨ | [テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学<br>[内容]我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切なのかを考える。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ② | [テーマ]聖徳太子の意思を継承、大化の改新<br>[内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑩ | [テーマ] 伊達政宗の国づくり<br>[内容] 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦慮の中で大穀倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ③ | [テーマ]天平文化、国風文化花開く<br>[内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止の建言によって育った日本独自の国風文化を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑪ | [テーマ] 兵法の道は人の道<br>[内容] 剣一筋に生きた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていく上で何が大切かを学ぶ。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ④ | [テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛<br>[内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢実現に腐心した平清盛とその生きた時代を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑫ | [テーマ] 志のある者よ、立ち上がれ―吉田松陰―<br>[内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑤ | [テーマ] 乱世を制するリーダーの条件<br>[内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の果たした歴史的な役割を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑬ | [テーマ] 日本の近代化実現のため殉じた大久保利通<br>[内容] 盟友西郷隆盛と決別し、郷里鹿児島の人びとの怨嗟の声にもめげず、命がけで新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き方を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑥ | [テーマ] 水を治め地を開く<br>[内容] 戦国末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の全体を見て将来を見据えた国づくりを紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑭ | [テーマ] 板垣死すとも自由は死せず<br>[内容]身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけで全国遊説し国会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑦ | [テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ<br>[内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き方を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑮ | [テーマ] 私の履歴書<br>[内容] 日本の戦後の歴史に自身の半生を重ね合わせ、生きていく上で何が大切であるかを考えるヒントを提供する。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 |
| ⑧ | [テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策<br>[内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の知謀と策略、今に通じる人心掌握術を紹介。<br>[授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

毎回提出させるレポートとテストを踏まえて総合的に判断する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 50% |
| 授業内レポート | 20% | 20% | 10% | 50% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
毎回配布する「世界の名言」「抜粋のつづり」は必ず読んで自己研鑽の一助とし、加えて配布するその時々の話題になっている事項を解説した資料にも目を通し、決して疑問を残さないようにして欲しい。例示　その時々の資料「裁判員裁判と検察審査会」「皇族と皇位継承」「元号」「オリンピックの歴史」「自衛隊の災害派遣」「激甚災害指定」「選挙権」「革命とクーデタ」「変と乱」「懲役と禁固、執行猶予と実刑判決」「訴訟手続きと弁護士、検事、裁判官」など。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 手作り教科書（34頁）と四字熟語（20頁）を配布 | 参考書 | |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

（自然分野）

| 授業科目名 | 生物科学<br>Biological Science | | | | 担当教員 | 千葉 研一 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 毎回各講義内容（テーマ）に応じた資料を配布し、適宜視聴覚機器も活用しながら、講義及び対話形式で授業を行う。ミニレポートの提出や小テストも随時実施する。更に問題解決能力の向上を目指し、ディスカッションやディベート形式での授業も行う。 | iv |

**授業の一般目標**

現代社会に於けるバイオサイエンスの進歩は目覚ましく、体育学や栄養学、医学の基盤領域として生物科学を修得することは必須条件である。本講義では、人生を歩んでいく上で必要となる基礎的な知識を身につけるとともに、バイオサイエンス分野のキーワードを具体的に説明でき、更に今後の自己の行動を決定するための判断基準を獲得することを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教養としてのバイオサイエンスを十分理解し、基本的な用語（キーワード）を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 人間とは何かを深く考え、自己の人生に役立たせることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ディスカッションやディベート能力を向上させ、科学的な問題解決能力を身につけることができる。 |

**授業計画（全体）**

現代のライフサイエンス（特に生物学・医学）は驚くべき速さで進展しており、日々新しい発見と研究成果が生まれている。本講義では、生物の進化やヒトの体内の代謝を中心に人間をミクロ・マクロ両面から捉え、更に最新の生物学についても概要を解説する。また理解をより深化させるために、高校での実務経験を活かし「ディスカッション・グループワーク・ディベート」等も展開し、科学的課題解決法を身につけるとともに、自己の人生においての判断力向上を目指す。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス＆科学の方法<br>[内容] この授業の目的と講義の進め方を説明し、導入として「科学の方法」による「論理的思考」について詳しく解説する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | ⑨ | [テーマ] タンパク質合成のしくみと筋肉活動のメカニズム<br>[内容] DNA・RNAの構造を理解し、それらがアミノ酸・ペプチドを経て、タンパク質まで合成していくつながりを系統的に考察する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ② | [テーマ] 生物の進化と人類の誕生<br>[内容] 生命の起源、生物の特徴、地質時代の区分、霊長類・人類の進化、人類の分類学上の位置について系統的に学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑩ | [テーマ] なぜガンはできるのか？<br>[内容] DNAの損傷のしくみを活性酸素を通して学習し、それを予防する抗酸化物質についても学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト |
| ③ | [テーマ] 進化論と日本人のルーツ<br>[内容] 主な進化説の変遷を確認し、ホモ・サピエンスの地理的拡散の歴史とミトコンドリアDNAの分析から日本人のルーツを考察する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、視聴覚教材利用学習 | ⑪ | [テーマ] 免疫システムのしくみ<br>[内容] 人間が外敵から身を守るしくみと、免疫と病気の因果関係についても細胞レベルで理解する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト |
| ④ | [テーマ] 課題解決演習（Ⅰ）<br>[内容] 脳科学と学習・記憶の関係について理解し、実践できるような姿勢を身につける。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑫ | [テーマ] ES細胞とiPS細胞<br>[内容] 現代分子生物学の最先端の研究の成果であるES細胞とiPS細胞について学習し説明できる能力を養う。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑤ | [テーマ] 人が生きていくしくみ（Ⅰ）<br>[内容] 代謝の意味を把握し、消化と吸収について分子レベルで学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | ⑬ | [テーマ] 再生医療とは<br>[内容] 再生医療の内容を把握し、その未来における様々な有効利用と問題点を把握する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑥ | [テーマ] 人が生きていくしくみ（Ⅱ）<br>[内容] 三大栄養素である炭水化物・タンパク質・脂肪を分解する体内のしくみについて分子レベルで学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑭ | [テーマ] 課題解決演習（Ⅲ）<br>[内容] 科学技術の進歩と生命倫理に関わる重要なテーマを深く考察する（ディスカッション・グループワーク・ディベート）。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑦ | [テーマ] 人が生きていくしくみ（Ⅲ）<br>[内容] 呼吸の本質的な意味についてATPとADPの関係、解糖系・TCA回路・電子伝達系を通して理解する（アスリート対象の考察も）<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑮ | [テーマ] 科学技術の進歩と生命倫理<br>[内容] これまでの授業を総括し、今後の人生に役立つ科学的判断力・道徳観、倫理観を身に着ける。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑧ | [テーマ] 課題解決演習（Ⅱ）<br>[内容] ディスカッションの重要性を把握し、ディベート力とグループ活動力の向上を目指すとともに、考察することの大切さを学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑯ | [テーマ] 総合テスト<br>[内容] 「生物学的キーワード」「生体内の重要なしくみや繋がり」「生物科学についての幅広い考察」を文章として論述できる力が必要。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

定期試験の評価60％、授業内提出物20％、授業態度（演習を含む）20％として評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（％） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | （下記に含有） |
| 授業態度 | | | ○ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・必要に応じて高校生物・化学の復習をしておくこと（特に基本的な生体内物質は化学式で書けることが望ましい）。
・「ディスカッション・グループワーク・ディベート」については、より積極的な授業態度が必要である。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | エコロジー概論 | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし。配布資料提供。 | 参考書 | 一般生物学関連書籍、高校生物教科書、高校化学教科書 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

| 授業科目名 | エコロジー概論<br>An Introduction to Ecology | | | | 担当教員 | 千葉　研一 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 毎回各講義内容（テーマ）に応じた資料を配布し、講義及び対話形式で授業を行う。ミニレポートの提出や小テストも随時実施する。更に課題解決能力の向上を目指し、ディスカッションやディベート形式での授業も行う。 | iv |

**授業の一般目標**

現在私達が生活している自然環境は、非常に長い年月をかけて地球と生物がつくり上げてきたものである。しかしその反面、人間の経済活動は、私達自らの未来を奪うかもしれないほどの地球環境破壊を行ってきたことも事実である。本授業では、人間を含めたすべての生物（生態系）と地球環境との関わりを中心に、主に環境化学からの視点で分析し、人生を歩んでいく上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教養としてのエコロジーとエコシステムを十分理解し、基本的な用語（キーワード）を説明できる。また、これまで人間活動が引き起こしてきた主要な環境破壊の例やメカニズムについても説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 地球環境保全と人間活動のあり方について深く考えることができ、自己の人生に役立たせることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ディスカッションやディベート能力を向上させ、科学的な問題解決能力を身につけることができる。 |

**授業計画（全体）**

未来の地球環境をよりよく保全する方策を考えるためには、生態系の基礎知識とともに、人間によるこれまでの環境破壊の歴史とメカニズムを理解することは大変重要なことである。そのためにも基本的な化学式・化学反応式の理解は必須である。更に考察をより深化させるために、高校での実務経験を活かし「ディスカッション・ディベート」等も展開し、科学的課題解決法を身につけるとともに、自己の人生においての判断力向上を目指す。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] この授業の目的と講義の進め方を説明し、エコロジーとエコシステムについて解説する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | ⑨ | [テーマ] 新素材と生活環境<br>[内容] ファインセラミックや形状記憶合金、水素吸着合金等がが人間生活と環境にどのように影響を与えていくかを系統的に考察する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト |
| ② | [テーマ] 水と生命<br>[内容] 水の惑星である地球と水の特性がどのように生物に影響を及ぼしているかを学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | ⑩ | [テーマ] 課題解決演習（Ⅱ）<br>[内容] 人間生活の向上と環境破壊という相反するテーマに、自己の考えをまとめ的確なディスカッションとディベートができることを目指す<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ③ | [テーマ] 課題解決演習（Ⅰ）<br>[内容] 生態系が地球環境の中で大きな危機に瀕していることをテーマに、的確なディスカッションとディベートができることを目指す。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑪ | [テーマ] 生物と環境<br>[内容] 生物多様性の本質的な意味と環境保全の重要性について学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト |
| ④ | [テーマ] 地球環境と人間活動（Ⅰ）<br>[内容] グローバルな地球環境の中で、特に地球温暖化とオゾン層の破壊についてのメカニズムを理解する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑫ | [テーマ] 絶滅危惧種と外来種<br>[内容] 動植物における主要な絶滅危惧種と外来種を把握し、保護していく姿勢を身に着ける態度を身につける。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑤ | [テーマ] 地球環境と人間活動（Ⅱ）<br>[内容] 地球大気について、特に酸性雨と大気汚染（光化学スモッグ、PM2.5等）についてのメカニズムについて理解する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑬ | [テーマ] 環境問題と国際条約<br>[内容] これまでの国際的な環境問題を歴史的に捉え、それと関わる主要な国際条約を系統的に学習する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑥ | [テーマ] 地球環境と人間活動（Ⅲ）<br>[内容] 地球上の海や河川について、特に重金属や残留有機物、内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の汚染について把握する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑭ | [テーマ] 課題解決演習（Ⅲ）<br>[内容] 科学技術の進歩と地球環境保全に関わるテーマを深く考察する（ディスカッション・グループワーク・ディベート）。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑦ | [テーマ] エネルギーの諸問題<br>[内容] 人間活動と密接な関係にある石炭・石油・LNG・原子力のエネルギー利用における功罪について比較対象できる能力を養う。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 | ⑮ | [テーマ] 私たちの地球環境を守るためには<br>[内容] これまでの授業を総括し、今後の人生に役立つ科学的判断力・道徳観、環境保護意識を身につける。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解 |
| ⑧ | [テーマ] 化学物質と生活環境<br>[内容] 日常生活の身の回りにある食品添加物、医薬品、農薬、合成洗剤、合成樹脂等が生物体や環境に与える影響を考察する。<br>[授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト | ⑯ | [テーマ] 総合テスト<br>[内容] 「生物・化学のキーワード」「地球環境における人間活動の諸弊害」「環境保全の方策」等を文章として論述できる力が必要。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

定期試験の評価60%、授業内提出物20%、授業態度（演習を含む）20%として評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | （下記に含有） |
| 授業態度 | | | ○ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・必要に応じて高校生物・化学の復習をしておくこと（特に基本的な無機化合物は化学式で書けることが望ましい）。
・「ディスカッション・グループワーク・ディベート」については、より積極的な授業態度が必要である。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生物科学 | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし。配布資料提供。 | 参考書 | 生態学関連書籍、高校生物教科書、高校化学教科書 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

| 授業科目名 | 教養数学<br>Basic Mathematics | | | | 担当教員 | 大内　悦夫 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高等学校の数学の教員の経験を持つ。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 小学校の算数、中学数学の基礎と応用事項、高等学校での既習事項における解法の研究および卒論等で使われる統計学の基礎を履修する、 | i 、iv |

問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりしたものにする。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に応用できる統計学の基礎を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 小・中・高等学校で学んだ算数・数学の基礎を基にして、特徴的である数学的な考え方を体得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 他の人の意見を自分のものと対比しながら検討し、自分の考えを確かなものとしてまとめることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 情意的領域でまとめた自分の考えが発表できる。 |

**授業計画(全体)**

配付資料(プリント)による講義、問題演習、そしてその解法の発表という手順により授業を展開していく。算数・数学の内容に加えて、公務員試験の演習やSPIの対策にも触れる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容]授業の進め方、成績評価の方法等の説明<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究<br>[内容] 実際に出題された問題の研究Ⅰ<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ② | [テーマ]小学校算数の指導内容の研究<br>[内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | ⑩ | [テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究<br>[内容] 実際に出題された問題の研究Ⅱ<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ③ | [テーマ]小学校算数の指導内容の研究<br>[内容] 図形・割合<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | ⑪ | [テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究<br>[内容] 実際に出題された問題の研究Ⅲ<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ④ | [テーマ]小学校算数の指導内容の研究<br>[内容]文章題<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | ⑫ | [テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究<br>[内容] 実際に出題された問題の研究Ⅳ<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ⑤ | [テーマ]中学校数学の指導内容の研究<br>[内容] 正負の数、文字式<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | ⑬ | [テーマ] 統計の基礎<br>[内容] 正規分布・偏差値<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ⑥ | [テーマ]中学校・高校数学の指導内容の研究<br>[内容] 方程式<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | ⑭ | [テーマ] 統計の基礎<br>[内容] 相関係数<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ⑦ | [テーマ] 中学校・高校数学の指導内容の研究<br>[内容] 関数<br>[授業外学修]本日の講義内容の復習 | ⑮ | [テーマ] 統計の基礎<br>[内容] 検定<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 |
| ⑧ | [テーマ] 中学校・高校数学の指導内容の研究<br>[内容] 場合の数、順列、組み合わせ、確率<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習 | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 既習内容の確認<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業に於いてその内容を検討する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | ○ | | | 10% |
| 授業外レポート | △ | | | 5% |
| 演習・実技 | ○ | | | 20% |
| 授業態度 | | | △ | 5% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | なし | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 火曜日　11:50～12:40 | その他 | 問い合わせ先　A303　大内研究室 |

（教養演習）

| 授業科目名 | 体育系大学の基礎教養<br>Liberal Arts for Sport-oriented Students | | | | 担当教員 | 全専任教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体―他の科目―との関わりの中で行えるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。 |

**授業計画(全体)**

全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回ごとに担当教員が変わることになる)。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、カリキュラムの体系<br>[内容] 本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。<br>[授業外学修]各学科のカリキュラムを『学生便覧』で確認する。 | ⑨ | [テーマ] 健康福祉学科の体系<br>[内容] 健康福祉学科のカリキュラム体系および福祉関連資格の意義と重要性について概説する。<br>[授業外学修]福祉関連資格の基本書を横断的に読む。 |
| ② | [テーマ]学士力(1)<br>[内容] 導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学のカリキュラム上の位置づけと各分野の概説。<br>[授業外学修]中教審の答申を読み、基礎科目の位置づけを確認する。 | ⑩ | [テーマ] 運動栄養学科の体系<br>[内容] 運動栄養学科のカリキュラム体系および栄養関連資格の意義と重要性について概説する。<br>[授業外学修]栄養関連資格の基本書を横断的に読む。 |
| ③ | [テーマ] 学士力(2)<br>[内容] 学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎の概説。<br>[授業外学修]スポーツ科学入門の基本書を横断的に読む。 | ⑪ | [テーマ] スポーツ情報マスメディア学科の体系<br>[内容] スポーツ情報マスメディア学科のカリキュラム体系およびスポーツにおける情報の重要性について概説する。<br>[授業外学修]情報分析の基本書を横断的に読む。 |
| ④ | [テーマ] 学士力(3)<br>[内容] 英語の重要性と英語基盤科目の活きた事例。<br>[授業外学修]英語のライティング(文法等)について復習する。 | ⑫ | [テーマ] 現代武道学科の体系<br>[内容] 現代武道学科のカリキュラム体系および武道の応用展開の重要性について概説する。<br>[授業外学修]武道および護身術の基本書を横断的に読む。 |
| ⑤ | [テーマ] 教員養成<br>[内容] 中・高保体教諭、小学校教諭、幼稚園教諭の社会的な役割と重要性を概説する。<br>[授業外学修]教員免許取得までのプロセスを確認する。 | ⑬ | [テーマ] 子ども運動教育学科の体系<br>[内容] 子ども運動教育学科のカリキュラム体系および幼児教育の重要性について概説する。<br>[授業外学修]幼児教育の基本書を横断的に読む。 |
| ⑥ | [テーマ] 体育学科コーチング・コースの体系<br>[内容] 体育学科コーチング・コースのカリキュラム体系およびコーチングの意義と重要性について概説する。<br>[授業外学修]コーチング入門の基本書を横断的に読む。 | ⑭ | [テーマ] 英語の必要性<br>[内容] オーラル・コミュニケーションの重要性とスポーツにおける英語の活きた事例。<br>[授業外学修]「日本のスポーツ政策」について英語でディベートする。 |
| ⑦ | [テーマ] 体育学科トレーナー・コースの体系<br>[内容] 体育学科トレーナー・コースのカリキュラム体系およびトレーナーの意義と重要性について概説する。<br>[授業外学修]トレーナー入門の基本書を横断的に読む。 | ⑮ | [テーマ] カリキュラム体系の総括とレポート作成<br>[内容] 仙台大学のカリキュラム体系を総括し、授業内レポートを作成する。<br>[授業外学修]各回の講義内容を復習する。 |
| ⑧ | [テーマ] 体育学科マネジメント・コースの体系<br>[内容] 体育学科マネジメント・コースのカリキュラム体系およびマネジメントの意義と重要性について概説する。<br>[授業外学修]マネジメント入門の基本書を横断的に読む。 | ⑯ | [テーマ] レポート返却、総評<br>[内容] 授業内レポートを返却し、授業の総評を述べる。<br>[授業外学修]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ」の予習をする。 |

**成績評価方法(方針)**

授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ◎ | 30% |
| 授業外レポート | — | — | — | 評価対象外 |
| 演習・実技 | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業態度 | ◎ | ○ | ○ | 70% |
| 出席 | — | — | — | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。
・学部・学科・コース等の教育方針・内容を学、2年次以降の「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」につながる貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 仙台大学の専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 必要に応じて指示する |
| オフィスアワー | クラス担任、各授業担当者へ問い合わせる | その他 | クラス担任、各授業担当者へ問い合わせる |

| 授業科目名 | 仙台大学の専門教養演習Ⅰ<br>Sports ＆ Cultural Context Ⅰ | | | | 担当教員 | 全専任教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・通年 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 指定されたグループ毎に学生は希望したクラスで受講する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につけるとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。 | ⅰ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力（リテラシー）を体得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ポートフォリオ学習方式を体得し、あるテーマについて又は既習事項等を応用した活動についてレポートを作成できる。 |

**授業計画（全体）**

全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。学んだことについてレポートの作成を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。<br>[授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。 | ⑨ | [テーマ] 各競技・種目の経済学（社会科学3）<br>[内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。 |
| ② | [テーマ] 仙台大学の教養教育体系<br>[内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。<br>[授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。 | ⑩ | [テーマ] 各競技・種目の社会科学体系<br>[内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。 |
| ③ | [テーマ] 各競技・種目の歴史学（人文科学1）<br>[内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。 | ⑪ | [テーマ] 各競技・種目の物理学（自然科学1）<br>[内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。 |
| ④ | [テーマ] 各競技・種目の文学（人文科学2）<br>[内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。 | ⑫ | [テーマ] 各競技・種目の生理学（自然科学2）<br>[内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。 |
| ⑤ | [テーマ] 各競技・種目の心理学（人文科学3）<br>[内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。 | ⑬ | [テーマ] 各競技・種目の栄養学（自然科学3）<br>[内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。 |
| ⑥ | [テーマ]各競技・種目の人文科学体系<br>[内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。 | ⑭ | [テーマ] 各競技・種目の自然科学体系<br>[内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 各競技・種目の社会学（社会科学1）<br>[内容] 各競技・種目の社会的位置づけ、趨勢（競技人口等）、社会的意義を明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。 | ⑮ | [テーマ] 各競技・種目の専門教養体系<br>[内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化し、レポートを作成する。<br>[授業外学修]全15回の授業内容を総括する。 |
| ⑧ | [テーマ] 各競技・種目の経営学（社会科学2）<br>[内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会（公式戦）マネジメントの両側面から明らかにし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。 | ⑯ | [テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出<br>[内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考査する。<br>[授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。 |

**成績評価方法（方針）**

原則として、レポート、ポートフォリオ作成の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ― | ― | ― | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 60% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | ― | ― | ― | 評価対象外 |
| 出席 | ― | ― | ― | 欠格事項 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果の課題を確実にクリアすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅲ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | 各受講クラス担当教員に確認すること。 | その他 | 各受講クラス担当教員に確認すること。 |

| 授業科目名 | 仙台大学の専門教養演習Ⅱ<br>Sports ＆ Cultural Context Ⅱ | | | | 担当教員 | 全専任教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 指定されたグループ毎に学生は希望したクラスで受講する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につけるとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。 | ⅰ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力（リテラシー）を体得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ポートフォリオ学習方式を体得し、あるテーマについて又は既習事項等を応用した活動について議論したことを発表できる。 |

**授業計画（全体）**

全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。学んだことについて学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。<br>[授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。 | ⑨ | [テーマ] 各競技・種目の経済学（社会科学3）<br>[内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。 |
| ② | [テーマ] 仙台大学の教養教育体系<br>[内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。<br>[授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。 | ⑩ | [テーマ] 各競技・種目の社会科学体系<br>[内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。 |
| ③ | [テーマ] 各競技・種目の歴史学（人文科学1）<br>[内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちについて議論を行い発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。 | ⑪ | [テーマ] 各競技・種目の物理学（自然科学1）<br>[内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。 |
| ④ | [テーマ] 各競技・種目の文学（人文科学2）<br>[内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているか議論を行い発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。 | ⑫ | [テーマ] 各競技・種目の生理学（自然科学2）<br>[内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。 |
| ⑤ | [テーマ] 各競技・種目の心理学（人文科学3）<br>[内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理について議論を行い発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。 | ⑬ | [テーマ] 各競技・種目の栄養学（自然科学3）<br>[内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。 |
| ⑥ | [テーマ]各競技・種目の人文科学体系<br>[内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。 | ⑭ | [テーマ] 各競技・種目の自然科学体系<br>[内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 各競技・種目の社会学（社会科学1）<br>[内容] 各競技・種目の社会的位置づけ、趨勢（競技人口等）、社会的意義について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。 | ⑮ | [テーマ] 各競技・種目の専門教養体系<br>[内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系について議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]全15回の授業内容を総括する。 |
| ⑧ | [テーマ] 各競技・種目の経営学（社会科学2）<br>[内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会（公式戦）マネジメントの両側面から議論を行い、発表する。<br>[授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。 | ⑯ | [テーマ] プレゼンテーションおよびポートフォリオの提出<br>[内容] 所定の学修成果をプレゼンテーションおよびポートフォリオによって考査する。<br>[授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。 |

**成績評価方法（方針）**

原則として、プレゼンテーション、ポートフォリオ作成の成果をもって認定する。プレゼンテーション、ポートフォリオ成果の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ― | ― | ― | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 60% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | ― | ― | ― | 評価対象外 |
| 出席 | ― | ― | ― | 欠格事項 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・各受講クラスの担当教員の指示に従い、プレゼンテーション、ポートフォリオ成果の課題を確実にクリアすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅲ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | 各受講クラス担当教員に確認すること。 | その他 | 各受講クラス担当教員に確認すること。 |

| 授業科目名 | 仙台大学の専門教養演習Ⅲ<br>Sports ＆ Cultural Context Ⅲ | | | | 担当教員 | 全専任教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 指定されたグループ毎に学生は希望したクラスで受講する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につけるとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。 | ⅰ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力（リテラシー）を体得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | あるテーマについて又は既習事項等を応用した活動についてテューター役となり、組織マネジメントができる。 |

**授業計画（全体）**

全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて「仙台大学の専門教養演習Ⅰ」「仙台大学の専門教養演習Ⅱ」で学ぶ学生に対し、テューター役として進行がうまくいくように組織マネジメントを行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。<br>[授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。 | ⑨ | [テーマ] 各競技・種目の経済学（社会科学3）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。 |
| ② | [テーマ] 仙台大学の教養教育体系<br>[内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。<br>[授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。 | ⑩ | [テーマ] 各競技・種目の社会科学体系<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。 |
| ③ | [テーマ] 各競技・種目の歴史学（人文科学1）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。 | ⑪ | [テーマ] 各競技・種目の物理学（自然科学1）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。 |
| ④ | [テーマ] 各競技・種目の文学（人文科学2）<br>[内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。 | ⑫ | [テーマ] 各競技・種目の生理学（自然科学2）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。 |
| ⑤ | [テーマ] 各競技・種目の心理学（人文科学3）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。 | ⑬ | [テーマ] 各競技・種目の栄養学（自然科学3）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。 |
| ⑥ | [テーマ]各競技・種目の人文科学体系<br>[内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。 | ⑭ | [テーマ] 各競技・種目の自然科学体系<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 各競技・種目の社会学（社会科学1）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の社会的位置づけ、趨勢（競技人口等）、社会的意義を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。 | ⑮ | [テーマ] 各競技・種目の専門教養体系<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化できるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]全15回の授業内容を総括する。 |
| ⑧ | [テーマ] 各競技・種目の経営学（社会科学2）<br>[内容] 「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会（公式戦）マネジメントの両側面から明らかできるよう組織マネジメントを行う。<br>[授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。 | ⑯ | [テーマ] レポートの提出<br>[内容] 所定の学修成果をレポートによって考査する。<br>[授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。 |

**成績評価方法（方針）**

原則として、レポートの成果をもって認定する。レポートの課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | — | — | — | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 60% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | — | — | — | 評価対象外 |
| 出席 | — | — | — | 欠格事項 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポートの課題を確実にクリアすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅲ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | 各受講クラス担当教員に確認すること。 | その他 | 各受講クラス担当教員に確認すること。 |

# ≪海外文化科目≫

| 授業科目名 | スポーツに何故英語が必要か<br>Merits of Studying English in Sports | | | | 担当教員 | 山口貴久　他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 英語圏での修学経験や勤務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツの国際化は必然的な流れとなっており、スポーツを通じて次代の日本を支える若者にとって、英語は国際化の前提として必須の素養となる。この観点から、英語圏での就学経験等を有するスポーツに係わる教員等が、その実務経験を活かし、スポーツ科学を専攻する学生にとって如何に英語が必要なものかについて、それぞれの体験等を交えて伝達する。 | i 、ii 、iii、iv、v |

**授業の一般目標**

スポーツ科学を専攻する学生にとって、如何に英語が必要なものかを知覚させることにより、大学教育として必修科目に位置付けている英語教育科目への学生の取組みを真摯化することを目的とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各講義担当者の英語に係る体験談の聴講を通じて、自己が目標としているスポーツ分野とのかかわりにおける英語の必要性を、具体的な適用場面の知識として理解することができる |
| ■ | 情意的領域 | 英語という国際的共通言語が、各国の固有言語の相違というものを乗り越えて、スポーツ面で国際的連携をもたらしていることを理解することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ルールとして用いられている共通の英単語が、スポーツ種目の違いによって、様々な用いられ方をしていることを知覚することにより、自己が目標としているスポーツ分野での英語の用い方の幅を広げることができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業の全体像のオリエンテーションを経て、米国の大学・大学院を卒業・修了した教員、日本国代表として、あるいは日本のマスメディア企業の駐在員として米国勤務経験を有する教員、英語を第一言語とする外国籍教員から、順に、自らの体験談を交え、スポーツにおける英語の必要性について講義を実施し、一般目標に掲げた目的を達成する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 本講義の目的と方法<br>[内容] 本講義の目的と方法について説明する。アクティブラーニング手法により、効果的な講義方法について討議する<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑨ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する |
| ② | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 米国大学就学経験者、米国勤務経験者、第一言語が英語の外国人が体験談を通じた英語の必要性について講義し、ポートフォリオを作成<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑩ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する |
| ③ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑪ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する |
| ④ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑫ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する |
| ⑤ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑬ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する |
| ⑥ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑭ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する |
| ⑦ | [テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか<br>[内容] 講義実施者は異なるが、②と同一<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑮ | すべての講義内容のまとめ<br>レポート作成とポートフォリオの振り返り<br>[授業外学修]レポート作成のための準備 |
| ⑧ | 前6回の講義内容のまとめ<br>レポート作成とポートフォリオの振り返り<br>[授業外学修]講義者から与えられる予習課題を実施する | ⑯ | [テーマ] 大学教育としての必修英語科目とのつながり<br>[内容] 大学教育としての必修英語科目とのつながりを講義し、各ポートフォリオから各自の必修科目に対する学修取組みを整理させる<br>[授業外学修]必修科目との関わりについて予習復習 |

**成績評価方法(方針)**

ポートフォリオ作成内容を40%、レポートを60%で評価し、大学教育としての必修英語科目への取組み意欲の度合いを基準として成績を評価する。レポートは作成中あるいは作成後の疑問などについて、質問を受け付けたうえで随時フォードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 60% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 40% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業資料や予習課題などは大学ポータルサイトへ掲載するので、各自がダウンロード、印刷し講義へ臨むこと。
・講義や授業外学修で使用した資料は、ポートフォリオへファイルすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 総合英語A～D　就職のための英語 | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | スポーツと英語に関する文献 |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | 英会話A<br>English Conversation A | | | | 担当教員 | ジェリー・パランギ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | I have taught at elementary, junior high & high school level<br>小学校、中学校、高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。 | iv |

**授業の一般目標**

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation. |
| ■ | 情意的領域 | The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English. |
| ■ | 技能表現的領域 | Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate |

**授業計画（全体）**

Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities.

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] Introduction of the class & grading.<br>[内容] Description of the class, semester schedule outline + self introduction preparation and key English instructions<br>[授業外学修] Memorize self-introductions and key English phrases | ⑨ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family<br>[内容] Report news about relationships<br>[授業外学修] Memorize key vocabulary |
| ② | [テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted<br>[内容] Meeting someone for the first time<br>[授業外学修] Conversation model presentation | ⑩ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family<br>[内容] Describe extended families<br>[授業外学修] Introduce your family preparation |
| ③ | [テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted<br>[内容] Identify and describe people<br>[授業外学修] Conversation model presentation | ⑪ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family<br>[内容] Compare people<br>[授業外学修] MyEnglishLab online study |
| ④ | [テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted<br>[内容] Provide personal information and introduce someone to the group<br>[授業外学修] Grammar + conversation model presentation | ⑫ | [テーマ] Unit 3 - The Extended Family<br>[内容] Discuss family cultural traditions<br>[授業外学修] Textbook assignmnent + MyEnglishLab online study |
| ⑤ | [テーマ] Unit 2 - Going Out<br>[内容] Accept or decline an invitation<br>[授業外学修] Conversation model presentation | ⑬ | Unit 4 - Foods and Restaurants<br>[内容] Ask for a restaurant recommendation<br>[授業外学修] Memorize key vocabulary |
| ⑥ | [テーマ] Unit 2 - Going Out<br>[内容] Express locations and give directions<br>[授業外学修] Unit 1+2 review - MyEnglishLab - online study | ⑭ | [テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants<br>[内容] Order from a menu + speak to a server<br>[授業外学修] Memorize key vocabulary and phrases |
| ⑦ | [テーマ] Unit 2 - Going Out<br>[内容] Make plans to see an event + talk about musical tastes<br>[授業外学修] Study for Unit 1&2 test | ⑮ | [テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants<br>[内容] Discuss food and health<br>[授業外学修] Unit 3 & 4 review ; study for test |
| ⑧ | [テーマ] Unit 1&2 Test<br>[内容] Test<br>[授業外学修] Reading Unit 3 preview | ⑯ | [テーマ] Test Unit 3 & 4<br>[内容] Test Unit 3 & 4<br>[授業外学修] None |

**成績評価方法（方針）**

Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 35% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | 35% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

Students serious about improving their English abilities and committed to the 1st & 2nd Semesters should apply to this course. In principle, new students will not be accepted in the 2nd Semester without special approval from the course instructor. Students should attend 2/3 of all classes & achieve more than 60% on their scores to qualify for credit. Instantaneous feedback after all in class assessments. Progress reports will be given in "one to one" interviews, as well as extra advice for improvement.

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab | 参考書 | English-Japanese dictionary |
| オフィスアワー | A棟511 木曜日10:20~11:50 email: j-parangi@sendai-u.ac.jp | その他 | |

| 授業科目名 | 英会話B<br>English Conversation B | | | | 担当教員 | ジェリー・パランギ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | I have taught at elementary, junior high & high school level<br>小学校、中学校、高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

iv

**授業の一般目標**

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation. |
| ■ | 情意的領域 | The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English. |
| ■ | 技能表現的領域 | Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate |

**授業計画（全体）**

Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities.

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] Review of class grading.<br>[内容] Briefing of second semester syllabus. Pair discussion about summer vacation. Then review Unit 3 and continue with unit.<br>[授業外学修] Complete Unit 3 & start Unit 4 | ⑨ | [テーマ] Unit 9 – Taking transport<br>[内容] Discuss schedules and buy tickets.<br>[授業外学修] Conversation model presentation |
| ② | [テーマ] Food & Restaurants<br>[内容] Introduction of menu categories/ ordering food at restaurants<br>[授業外学修] Memorize the key vocabulary | ⑩ | [テーマ] Unit 9 – Buying, and reserving tickets<br>[内容] Discuss schedules and buying tickets<br>[授業外学修] Memorize key vocabulary |
| ③ | [テーマ] Food & Restaurants<br>[内容] Focussing on categories of food/ count/non-count nouns<br>[授業外学修] Study for Unit 4 test if completed | ⑪ | [テーマ] Unit 9 – Understand airport annoucements.<br>[内容] Understand airport annoucements. Describe transportatation problems.<br>[授業外学修] Complete the review + MyEngLab |
| ④ | [テーマ] Unit 4 short test + Start Unit 6 – Plan an activity with<br>[内容] Learn about the different types of exercises there are and expressions when organizing an activity.<br>[授業外学修] Conversation model + MyEngLab | ⑫ | [テーマ] Complete/ review Unit 9. Give study guide.<br>[内容] Complete Unit 9 and review in MyEngLab<br>[授業外学修] Study for test |
| ⑤ | [テーマ] Unit 6 – Discuss fitness and eating habbits<br>[内容] Plan an activity with someone. Talk about habitual activities.<br>[授業外学修]Conversation model presentation | ⑬ | [テーマ] Final test study guide<br>[内容] Final Test<br>[授業外学修] None |
| ⑥ | [テーマ]Complete Unit 6 + review for unit test<br>[内容] Complete this unit then give a study guide<br>[授業外学修]Study for unit test | ⑭ | [テーマ] Test handback +英会話 course evaluation<br>[内容] Test handback with explanation + Evaluation of 英会話 course with future recommendations – class discussion. Start the culturally<br>[授業外学修] Media comprehension questions |
| ⑦ | [テーマ] Unit 6 short test<br>[内容]Short test on Unit 6. Introduce "media study," – sports related<br>[授業外学修] Complete comprehension questions | ⑮ | [テーマ] Media studies<br>[内容]Continue the media study<br>[授業外学修] Complete comprehension questions |
| ⑧ | [テーマ] Short test handback<br>[内容] Short test to be handed back with explanations of the marking criteria. Complete the "media study."<br>[授業外学修]Complete the comprehension questions | ⑯ | [テーマ] Farewell ceremony<br>[内容] Farewell ceremony in class<br>[授業外学修] None |

**成績評価方法（方針）**

Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 35% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | 35% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

This is a continuation course from the first semester. In principle, new students will not be admitted into this class without advanced approval from the course instructor. Students are required to attend 2/3 of all classes for the second semester and achieve 60% plus in their overall score for credit.

*これは、最初の学期からの継続コースです。原則として、英語を学ぶ意欲の高い学生は、第2学期への参加を希望する場合、担当講師に相談して下さい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab | 参考書 | English-Japanese dictionary |
| オフィスアワー | A棟511 木曜日10:20~11:50 email: j-parangi@sendai-u.ac.jp | その他 | |

| 授業科目名 | 英会話C<br>English Conversation C | | | | 担当教員 | ジェリー・パランギ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | I have taught at Elementary, Junior High & High School level<br>小学校、中学校、高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| This English Conversation class is a "communicative based course" that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports related topics when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。 | iv |

**授業の一般目標**

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities, with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation. |
| ■ | 情意的領域 | The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English. |
| ■ | 技能表現的領域 | Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate |

**授業計画（全体）**

TOP NOTCH (3E) 2:SB SPLIT A+MEL is an Intermediate level textbook with MyEnglishLab (an online leaning platform). All units focus on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. This is a demanding course and students are expected to be pro-active and self-motivated. Students are strongly encourage to use English 100% to communicate.

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] Explain course assessment<br>[内容] Briefing of syllabus, class rules, + students practice their self-introductions<br>[授業外学修] Memorize self-introductions for presentation | ⑨ | [テーマ] Cars & Driving<br>[内容] Short test + Discussing a car accident<br>[授業外学修] Memorize conversation model |
| ② | [テーマ] Getting Acquainted<br>[内容] Presentations. Get reacquainted with someone + study customs around the world<br>[授業外学修] Memorize conversation model for presentation | ⑩ | [テーマ] Describe a car problem<br>[内容] Review last lesson. Practice pronunciation & stress<br>[授業外学修] Memorize conversation + MyEnglishLab study |
| ③ | [テーマ] Greet a visitor to your country<br>[内容] Presentations. Discuss gestures and customs. Learn how to use My Englishlab online study<br>[授業外学修] Memorize hand gestures - short test + MyEnglishlab study | ⑪ | [テーマ] Rent a car<br>[内容] Rewiew last lesson. Introduce new vocabulary & listening comprehension activities<br>[授業外学修] Role-play conversation presentation. Unit review |
| ④ | [テーマ] Describe an interesting experience<br>[内容] Short test. Review last lesson. Practice listening comprehension activities<br>[授業外学修] Study for Unit 1 short test | ⑫ | [テーマ] Personal Care and Appearance<br>[内容] Ask for something in a store. New Vocabulary<br>[授業外学修] Memorize conversation. Complete grammar |
| ⑤ | [テーマ] Staying in hotels<br>[内容] Short test. Learn how to leave and take messages at a hotel<br>[授業外学修] Memorize conversation. MyEnglishLab study | ⑬ | [テーマ] Discuss ways to improve appearance<br>[内容]Reading & small group discussion<br>[授業外学修] Notepadding ideas for improving your appearance |
| ⑥ | [テーマ] Check into a hotel<br>[内容] Review last lesson. Learn "The real conditional" grammar<br>[授業外学修] Memorize conversation model | ⑭ | [テーマ] Defining beauty<br>[内容] New vocabulary. Listening comprehension activities. Unit review<br>[授業外学修] Study for short test + MyEnglishLab |
| ⑦ | [テーマ] Request house keeping<br>[内容] Review last lesson. Practice listening comprehension activities<br>[授業外学修] Prepare a role-play telephone conversastion | ⑮ | [テーマ] Unit 5 short test<br>[内容] Review the last lesson. Unit 5 short test<br>[授業外学修] Students to prepare ideas for course feedback discussion |
| ⑧ | [テーマ] Choose a hotel<br>[内容] Review last lesson. Practice reading comprehension acitivities<br>[授業外学修] Study for Unit 3 short test | ⑯ | [テーマ] Small group discussion on course feedback<br>[内容] Test hand back. Students discuss feedback of course with recommendations for next year<br>[授業外学修] Continue using MyEnglishLab |

**成績評価方法（方針）**

Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 35% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | 35% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

英会話C is an "Intermediate" level entry course.The textbook is at a higher level than the 英会話A,B text.The class instruction is 100% English. Students who take this class should try to speak English only. Students should attend 2/3 of all classes and score 60% or more to be awarded credit. There will be ongoing oral pair presentations, short tests, and homework. ＊このコースを受講するには原則として英会話AとBを完了している必要があります。高いレブルの英語力と意欲を持つ学生は、担当講師に相談した後、受講を許可される場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | TOP NOTCH (3E) 2:SB SPLIT A+MEL | 参考書 | English-Japanese dictionary |
| オフィスアワー | A棟511 木曜日10:20~11:50 Email: j-parangi@sendai-u.ac.jp | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ&イングリッシュ (S)<br>Sports & English | | | | 担当教員 | マーティ・キーナート / Marty Kuehnert |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用句となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i 、ii 、iii、iv、v

**授業の一般目標**

学生は英語の知識、読解、聴解力を高め上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用句にはいりこんだかを学習し会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用句に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

REMEMBER THE TITANS「タイタンズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしながら、各テーマの英語フレーズと用法とその背景についても講義する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の内容とスケジュールの紹介<br>日米スポーツ業界での実務経験からと英ネィティブスピーカーとして講義を行う。<br>[授業外学修]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。 | ⑨ | [テーマ] チャプター 20,21,22<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ② | [テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑩ | [テーマ] チャプター 23,24<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ③ | [テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑪ | [テーマ] チャプター 25,26<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ④ | [テーマ] チャプター 4,5.6<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑫ | [テーマ] チャプター 27,28,29,30,31<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑤ | [テーマ] チャプター 7,8,9,10<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑬ | [テーマ] Making Documentory 1<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑥ | [テーマ] チャプター 11,12,13<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑭ | [テーマ] Making Documentory 2<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑦ | [テーマ] チャプター 14,15,16,<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑮ | [テーマ] 全体総括<br>[内容]　半期の講義内容をまとめて質疑応答。<br>[授業外学修]　期末テストへむけて復習 |
| ⑧ | [テーマ] チャプター 17,18,19<br>[内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり<br>[授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得 | ⑯ | [テーマ] 期末テストとまとめ<br>[内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40%

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | | 10% |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・講義受講人数は80人に限定。
・この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 教科書なし。その都度プリント配布。 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 月曜12:00 – 13:30 | その他 | m-kuehnert@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 就職のための英語<br>English for getting job | | | | 担当教員 | 千田孝彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 学生一人ひとりの将来の目標実現のため、英語力に磨きをかけるための、または、英語の苦手意識を克服するための科目である。各種公務員採用試験また大学院進学や、TOEIC,TOEFLを実際に解き、各種資格試験に向けた自学を如何に行うべきかを知る。中学校での実務経験を生かし、習熟度に合わせた指導の観点から演習を行う。 | iv |

**授業の一般目標**

英語力の向上を目指す。各種公務員採用試験や各種資格試験に向けての自学の在り方を知る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各種採用試験や各種資格試験の内容や程度を知る。試験に向けての自学の在り方を知る。 |
| ■ | 情意的領域 | 各種採用試験や各種資格試験に向けての自学を自ら進んで怠ることなく行う。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

各種採用試験や各種資格試験対策問題を予め授業外学修で解き、授業で詳しく内容を検討する。試験の種類の単元ごとに試験を行って、英語力の向上を図る。学生中心のアクティブラーニングの手法を取り入れる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目的や進め方について知る。特に授業外学修の重要性について知る。<br>[授業外学修]各種公務員採用試験文章理解対策問題①の課題を解く。 | ⑨ | [テーマ] TOEICのlisteningの問題を知る②<br>[内容]TOEICのlistengingの問題について詳細に知る。<br>[授業外学修]前回までのTOEICの内容の復習 |
| ② | [テーマ] 各種採用試験文章理解の問題について知る①<br>[内容]採用試験の文章理解の問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]文章理解対策問題②の課題を解く。 | ⑩ | [テーマ] 単元試験<br>[内容] 前回までのTOEICの内容の理解度を知る。<br>[授業外学修]TOEFLのreadingの課題を解く。 |
| ③ | [テーマ] 文章理解の問題について知る②<br>[内容]採用試験の文章理解の問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]文章理解対策問題③の課題を解く。 | ⑪ | [テーマ] TOEFLのreadingの問題を知る<br>[内容] TOEFLのreadingの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]TOEFLのlisteningの課題を解く。 |
| ④ | [テーマ] 文章理解の問題について知る③<br>[内容] 採用試験の文章理解の問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]各種公務員採用文章理解の前回までの復習 | ⑫ | [テーマ] TOEFLのlisteningの問題を知る<br>[内容]TOEFLのlisteningの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]TOEFLのspeakingの対策課題を解く。 |
| ⑤ | [テーマ] 単元試験<br>[内容] 前回までの各種公務員採用試験の内容の理解度を知る。<br>[授業外学修]TOEICのreading対策課題①を解く | ⑬ | [テーマ] TOEFLのspeakingの問題を知る<br>[内容] TOEFLのspeakingの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]TOEFLのwritingの対策課題を解く。 |
| ⑥ | [テーマ] TOEICのreadingの問題について知る①<br>[内容] TOEICのreadingの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]TOEICのreading対策課題②を解く | ⑭ | [テーマ] TOEFLのwritingの問題を知る<br>[内容] TOEFLのwritingの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]前回までのTOEFLの内容の復習 |
| ⑦ | [テーマ] TOEICのreadingの問題について知る②<br>[内容] TOEICのreadingの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]TOEICのlistening対策課題①を解く | ⑮ | [テーマ] 単元試験<br>[内容] 前回までのTOEFLの内容の理解度を知る。<br>[授業外学修]学修内容全体を振り返る |
| ⑧ | [テーマ] TOEICのlisteningの問題について知る①<br>[内容] TOEICのreadingの問題について、詳細に知る。<br>[授業外学修]TOEICのreading対策課題②の問題を解く | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 学修内容を振り返り、自学への意欲をさらに高める。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

授業の課題への取り組みと単元試験の合計で評価する。単元試験は授業内で解説をしながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 30% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | | 40% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
毎時間課題が課されるので、必ず予習すること。予習してこないと成果は上がらない。

| 関連科目 | 総合英語A～D | 関連資格 | TOEIC,TOEFL,採用試験、大学院入試 |
|---|---|---|---|
| 教科書 | 担当教員が準備する課題 | 参考書 | 辞書 |
| オフィスアワー | 水曜日　12:40～14:10（A515） | その他 | |

| 授業科目名 | スペイン語Ⅰ<br>Introduction to Spanish I | | | | 担当教員 | 吉井　秀邦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説する。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もする。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介する。 | v |

**授業の一般目標**

以下のようなことが目標である：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 読み書きの基礎的なルールを理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 異なる文化を理解しようとする態度を持つ。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。 |

**授業計画（全体）**

スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説する。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をする。また、前回習った内容についてのテストを毎回行う。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をする。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 初めに<br>[内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など）について知る<br>[授業外学修]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう | ⑨ | [テーマ] 動詞の規則活用④<br>[内容] -erで終わる動詞（主語が複数の場合）<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ② | [テーマ]発音①<br>[内容] 母音字と子音字の読み方<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑩ | [テーマ] 動詞の規則活用⑤<br>[内容] -irで終わる動詞（主語が単数の場合）<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ③ | [テーマ] 発音②<br>[内容] 前回の復習、アクセントなど<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑪ | [テーマ] 動詞の規則活用⑥<br>[内容] -irで終わる動詞（主語が複数の場合）<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ④ | [テーマ] 名詞、冠詞、形容詞①<br>[内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑫ | [テーマ] 動詞tener①<br>[内容] 活用と用法<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ⑤ | [テーマ] 形容詞②<br>[内容] -o以外で終わる 形容詞の形<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑬ | [テーマ] 数詞<br>[内容] 数を表わす言葉<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ⑥ | [テーマ] 文の形、動詞の規則活用①<br>[内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞（主語が単数の場合）<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑭ | [テーマ] 動詞tener②<br>[内容] tenerを用いた表現<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする |
| ⑦ | [テーマ] 動詞の規則活用②<br>[内容] -arで終わる動詞（主語が複数の場合）<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑮ | [テーマ] 復習<br>[内容] これまでの学習内容を復習する<br>[授業外学修]最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 動詞の規則活用③<br>[内容] -erで終わる動詞（主語が単数の場合）<br>[授業外学修]次回のテストに備えて復習をする | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

毎回の授業でテストを行う。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定する。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | 小テスト◎ | 小テスト◎ | 小テスト◎ | 90% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・この授業では声を出すこと。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけよう。
・欠席した回の小テストは0点である。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなる。できる限り授業に出席しよう。
・毎回のテストのために復習が必要である。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スペイン語Ⅱ | 関連資格 | なし |
| 教科書 | 使用しない。 | 参考書 | 授業の中で指示する。 |
| オフィスアワー | 火曜日と水曜日の12:00～12:30 | その他 | 連絡先：吉井研究室（A502） |

| 授業科目名 | 中国語Ⅰ<br>Chinese Ⅰ | | | | 担当教員 | 馬 佳濛 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 母国語で中国との交流実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする；中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける；中国の文化や社会に対する理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 中国の文化及び国情に対する理解を深める。 |
| ■ | 情意的領域 | 日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。 |

**授業計画（全体）**

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 第5-6課 文法のまとめ<br>[内容] 動詞の文、いろいろな疑問文、ものの数え方、ものを指し示す言い方について復習する。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ② | [テーマ]第1課 ピンインの学習<br>[内容] 単母音、声調、子音、軽声の発音特徴、声調の発音について学んで朗読する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑩ | [テーマ] 第7課 どこにいる、AそれともB<br>[内容] “在”の文、指示代名詞（場所）、選択疑問文、指示代名詞（モノ・コト）について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ③ | [テーマ] 第2課ピンインの学習<br>[内容] 複合母音、鼻母音の発音、簡単な挨拶について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑪ | [テーマ] 第8課 どれくらいかかる？～するのが好きです<br>[内容] 形容詞の文、前置詞“离”と“从～到…”、動詞“喜欢”、連動文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ④ | [テーマ] 第3課 何月何日？何時？<br>[内容]数、月日、曜日、時刻、時間について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑫ | [テーマ] 第7-8課 文法のまとめ<br>[内容] “在”の文、指示代名詞、形容詞の文、連動文について復習する。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 第4課 お名前は？どちらの大学？<br>[内容] 人称代名詞、名前の言い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]テキストの練習問題をもとに復習する | ⑬ | [テーマ] 第9課 くらい？Aよりも～です<br>[内容] 手段・方法の尋ね方、比較文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 第3-4課 文法のまとめ<br>[内容] 数の言い方、人称代名詞、”是”の文について復習する。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑭ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリングについて復習する。<br>[授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ] 第5課 だれ？なに？これは～です<br>[内容] 動詞の文、疑問詞“誰”“什么”、“吗”の疑問文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑮ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う<br>[授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑧ | [テーマ] 第6課 いる、ある<br>[内容] “有”と“没有”、ものの数え方、省略疑問文、反復疑問文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験（ヒアリングを含む）の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習を必ず行うこと。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらず積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 中国語Ⅱ（後期） | 関連資格 | HSK中国語検定 |
| 教科書 | はじめよう楽々中国語 小林和代 韓軍著 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 中国語Ⅱ<br>Chinese Ⅱ | | | | 担当教員 | 馬 佳濛 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 母国語で中国との交流実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語を正確に発音出来るように徹底的に訓練しながら、基礎文法を学び、会話の練習をしていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。 | iv |

**授業の一般目標**

中国語で日常会話および常用表現を身につける；初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得して、比較的簡単な文章の読解と作文ができるようになる；中国の文化や社会に対する理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 中国の文化及び国情に対する理解を深める。 |
| ■ | 情意的領域 | 日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ピンインを正確に発音できる。中国語で及び簡単な日常会話やコミュニケーションができるようになる。 |

**授業計画（全体）**

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 資料① まだ食事中？<br>[内容] 時間量を表す、様態補語、進行の表現について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ② | [テーマ]前期の復習<br>[内容] ピンインや前期で学んだ大事なポイントを復習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑩ | [テーマ] 資料② 心配しないで<br>[内容] 回数を表す、結果補語、副詞の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ③ | [テーマ] 第10課～したい、どこで？<br>[内容] 動詞の後ろの“了”、助動詞“想”、文末の“了”、前置詞の“在”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑪ | [テーマ] 資料③ 両親が帰ってくるようにって<br>[内容] 方向補語、使役の言い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ④ | [テーマ] 第9－10課 文法のまとめ<br>[内容]手段・方法の尋ね方、比較文、助動詞、前置詞の使い方について復習する。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑫ | [テーマ] 資料④ どうやって解いたらいい<br>[内容] 助動詞、介詞、強調構文の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 第11課 ～できる？～していい？<br>[内容] 助動詞“会”、“能”、“可以”、前置詞“給”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑬ | [テーマ] 資料⑤ 起こされちゃった<br>[内容] 方向補語、可能補語、受け身の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 第12課 ～している、～したことがある<br>[内容] 進行形、禁止の言い方、経験を表す“过”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑭ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 後期で学習したことを復習し、テストの説明をする。<br>[授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ]第11-12課 文法のまとめ<br>[内容] 可能を表す助動詞、禁止の言い方、前置詞、進行形、経験を表すについて復習する。本文の朗読・会話練習する。<br>[授業外学修]次週の発表準備をする | ⑮ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う<br>[授業外学修]テストに備えて復習する |
| ⑧ | [テーマ] 第6課 発表<br>[内容] 与えられた課題を作文し、朗読暗記し、発表する。<br>[授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること | ⑯ | [テーマ] 期末試験（予備）<br>[内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

講義時間内に指名し、その発音、回答および発表内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験（ヒアリングを含む）の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ○ | | ○ | 60% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ◎ | 40% |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習を必ず行うこと。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらず積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・通算GPAが1．5以上の者に限って履修可能。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 中国語Ⅰ（前期） | 関連資格 | |
| 教科書 | はじめよう楽々中国語 小林和代 韓軍著 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 韓国語Ⅰ<br>Korean Ⅰ | | | | 担当教員 | 金　賢植 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングルの仕組みから読み方、書き方、日常生活に必要な基礎的な単語および表現を講義する。また、韓国語と関連して、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情など紹介しながら授業を進めていく。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ

**授業の一般目標**

パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 韓国語（ハングル）の読む・聞く・書く・話すことができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。 |

**授業計画（全体）**

韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音練習（基本母音字母、合成母音字母、パッチム）・基本文法・日常会話（挨拶、自己紹介、状況別表現）をわかりやすく説明する。パワーポイントによるスライドや資料をもとにゆっくり進み、後期の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、挨拶<br>[授業外学修] 韓国に関して興味のあることを調べる | ⑨ | [テーマ] 予定や持ち物の有無②<br>[内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ② | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 基本母音字母と合成母音字母①<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑩ | [テーマ] 質問の仕方①<br>[内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 基本母音字母と合成母音字母②<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑪ | [テーマ] 質問の仕方②<br>[内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問ができるように練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑫ | [テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ<br>[内容] 韓国語の助詞を日本語と比較しながら学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑬ | [テーマ] うちとけた表現<br>[内容] 「です・ます」体の作り方学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体①<br>[内容] 「私は～です　～といいます」の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑭ | [テーマ] 家族の呼び名<br>[内容] 家族の呼び名、家族構成<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体②<br>[内容] 「私は～です　～といいます」の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑮ | [テーマ] 総括<br>[内容] 授業の1回－14回まで学習した内容の総括、会話の練習<br>[授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 予定や持ち物の有無①<br>[内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑯ | [テーマ] 期末テスト<br>[内容] 授業の理解度を確認するための試験<br>[授業外学修] テストの準備をしておく |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験（評価割合70%）、授業外課題を評価（評価割合20%）、授業態度（評価割合10%）の結果を総合して評価を行う。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可（欠格条件）。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語・スマートフォン（タブレット）使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 韓国語Ⅰ（前期） | 関連資格 | 韓国語能力試験（TOPIK）、<br>ハングル能力検定（ハングル検定） |
| 教科書 | なし | 参考書 | 『新チャレンジ韓国語』 白水社　金順玉著 |
| オフィスアワー | LC棟203室：水曜日14:20～16:00 | その他 | メール：hs-kim@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 韓国語Ⅰ<br>Korean Ⅰ | | | | 担当教員 | 金　一坤 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングルの仕組みから読み方、書き方、日常生活に必要な基礎的な単語および表現を講義する。また、韓国語と関連して、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情など紹介しながら授業を進めていく。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 韓国語（ハングル）の読む・聞く・書く・話すことができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。 |

**授業計画（全体）**

韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音練習（基本母音字母、合成母音字母、パッチム）・基本文法・日常会話（挨拶、自己紹介、状況別表現）をわかりやすく説明する。パワーポイントによるスライドや資料をもとにゆっくり進み、後期の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、挨拶<br>[授業外学修] 韓国に関して興味のあることを調べる | ⑨ | [テーマ] 予定や持ち物の有無②<br>[内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ② | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 基本母音字母と合成母音字母①<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑩ | [テーマ] 質問の仕方①<br>[内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 基本母音字母と合成母音字母②<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑪ | [テーマ] 質問の仕方②<br>[内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問ができるように練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑫ | [テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ<br>[内容] 韓国語の助詞を日本語と比較しながら学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 韓国語（ハングル）の仕組と発音<br>[内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑬ | [テーマ] うちとけた表現<br>[内容] 「です・ます」体の作り方学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体①<br>[内容] 「私は～です　～といいます」の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑭ | [テーマ] 家族の呼び名<br>[内容] 家族の呼び名、家族構成<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体②<br>[内容] 「私は～です　～といいます」の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑮ | [テーマ] 総括<br>[内容] 授業の1回－14回まで学習した内容の総括、会話の練習<br>[授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 予定や持ち物の有無①<br>[内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑯ | [テーマ] 期末テスト<br>[内容] 授業の理解度を確認するための試験<br>[授業外学修] テストの準備をしておく |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験（評価割合70%）、授業外課題を評価（評価割合20%）、授業態度（評価割合10%）の結果を総合して評価を行う。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可（欠格条件）。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語・スマートフォン（タブレット）使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 韓国語Ⅰ（前期） | 関連資格 | 韓国語能力試験（TOPIK）、<br>ハングル能力検定（ハングル検定） |
| 教科書 | なし | 参考書 | 『もっとチャレンジ韓国語』 白水社　金順玉著 |
| オフィスアワー | LC棟210室：火曜日14:20～16:00 | その他 | メール：il-kim@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 韓国語Ⅱ<br>Korean Ⅱ | | | | 担当教員 | 金　賢植 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、基礎的な文章を応用し、あいさつ、買い物、道を尋ね、状況別表現などの日常会話を紹介する。また、韓国人とのコミュニケーションができるよう、小グループ型を授業に導入し、会話中心の授業を進めていく。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ

**授業の一般目標**

パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、学生の興味や関心があるテーマ（文化・歴史・教育・スポーツ事情）を取り上げ、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 韓国語（ハングル）の読む・聞く・書く・話すことができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。 |

**授業計画（全体）**

韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、、発音練習（基本母音子音、合成母音子音、パッチム）・基本文法・日常会話（挨拶、自己紹介、状況別表現）をわかりやすく説明する。パワーポイントによる知識伝達型や、小グループ型の授業を導入し、実用的な語学力を身につける。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 韓国語Iの復習<br>[内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介<br>[授業外学修] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習 | ⑨ | [テーマ] 動作の進行や状態表現<br>[内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ② | [テーマ] 韓国語Iの復習<br>[内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑩ | [テーマ] ～くださいの表現とお金の数え方<br>[内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 動詞、形容詞<br>[内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑪ | [テーマ] 年齢に関する表見<br>[内容] 年齢の数え方、数字の数え方<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 目的表現、変則用言<br>[内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑫ | [テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現<br>[内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど　～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 過去形の作り方<br>[内容] 動詞の過去型の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑬ | [テーマ] ペアで覚える形容詞<br>[内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 会話練習<br>[内容] 2回～5回まで学んだ表現と動詞を用いて会話の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑭ | [テーマ] 動詞の可能表現<br>[内容] 「～することができる」の可能表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 覚えたら便利な動詞<br>[内容] 身近な動詞を用いて会話の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑮ | [テーマ] よく使われる副詞、総括<br>[内容] 副詞を用いた会話の練習、授業の1回－14回まで学習した内容の総括、会話の練習<br>[授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 文末表現<br>[内容] 「明日何をするつもりですか」を用いてよく使われる文末表現の学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑯ | [テーマ] 期末テスト<br>[内容] 授業の理解度を確認するための試験<br>[授業外学修] テストの準備をしておく |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験（評価割合70%）、授業外課題を評価（評価割合20%）、授業態度（評価割合10%）の結果を総合して評価を行う。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可（欠格条件）。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語・スマートフォン（タブレット）使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 韓国語Ⅰ（前期） | 関連資格 | 韓国語能力試験（TOPIK）、<br>ハングル能力検定（ハングル検定） |
| 教科書 | なし | 参考書 | 『新もっとチャレンジ韓国語』 白水社　金順玉著 |
| オフィスアワー | LC棟203室：水曜日14:20～16:00 | その他 | メール：hs-kim@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 韓国語Ⅱ<br>Korean Ⅱ | | | | 担当教員 | 金　一坤 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、基礎的な文章を応用し、あいさつ、買い物、道を尋ね、状況別表現などの日常会話を紹介する。また、韓国人とのコミュニケーションができるよう、小グループ型を授業に導入し、会話中心の授業を進めていく。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ

**授業の一般目標**

パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、学生の興味や関心があるテーマ（文化・歴史・教育・スポーツ事情）を取り上げ、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 韓国語（ハングル）の読む・聞く・書く・話すことができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。 |

**授業計画（全体）**

韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、発音練習（基本母音子音、合成母音子音、パッチム）・基本文法・日常会話（挨拶、自己紹介、状況別表現）をわかりやすく説明する。パワーポイントによる知識伝達型や、小グループ型の授業を導入し、実用的な語学力を身につける。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 韓国語Iの復習<br>[内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介<br>[授業外学修] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習 | ⑨ | [テーマ] 動作の進行や状態表現<br>[内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ② | [テーマ] 韓国語Iの復習<br>[内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑩ | [テーマ] ～くださいの表現とお金の数え方<br>[内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ③ | [テーマ] 動詞、形容詞<br>[内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑪ | [テーマ] 年齢に関する表見<br>[内容] 年齢の数え方、数字の数え方<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ④ | [テーマ] 目的表現、変則用言<br>[内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑫ | [テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現<br>[内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど　～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑤ | [テーマ] 過去形の作り方<br>[内容] 動詞の過去型の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑬ | [テーマ] ペアで覚える形容詞<br>[内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑥ | [テーマ] 会話練習<br>[内容] 2回～5回まで学んだ表現と動詞を用いて会話の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑭ | [テーマ] 動詞の可能表現<br>[内容] 「～することができる」の可能表現の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく |
| ⑦ | [テーマ] 覚えたら便利な動詞<br>[内容] 身近な動詞を用いて会話の練習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑮ | [テーマ] よく使われる副詞、総括<br>[内容] 副詞を用いた会話の練習、授業の1回－14回まで学習した内容の総括、会話の練習<br>[授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする |
| ⑧ | [テーマ] 文末表現<br>[内容] 「明日何をするつもりですか」を用いてよく使われる文末表現の学習<br>[授業外学修] 配布資料を読んでおく | ⑯ | [テーマ] 期末テスト<br>[内容] 授業の理解度を確認するための試験<br>[授業外学修] テストの準備をしておく |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験（評価割合70%）、授業外課題を評価（評価割合20%）、授業態度（評価割合10%）の結果を総合して評価を行う。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可（欠格条件）。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語・スマートフォン（タブレット）使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 韓国語Ⅰ（前期） | 関連資格 | 韓国語能力試験（TOPIK）、<br>ハングル能力検定（ハングル検定） |
| 教科書 | なし | 参考書 | 『もっとチャレンジ韓国語』 白水社　金順玉著 |
| オフィスアワー | LC棟210室：火曜日14:20～16:00 | その他 | メール：il-kim@sendai-u.ac.jp |

# ≪人生設計科目≫

| 授業科目名 | キャリアプランニング Ⅰ<br>Career Planning Ⅰ | | | | 担当教員 | クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| この授業では、学生生活（授業、日常、部活その他）での目的意識（なぜ、今ここにいて、これをやっているのか）を吟味することを通じ、大学生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計（キャリアプランニング）の意識化を行います。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

ライフステージの一段階として大学生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。 |
| ■ | 情意的領域 | 職業や進路についての話し合いを進めることに寄与でき、話し合う仲間を見つけることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | コース選択や科目履修を主体的に計画できる。 |

**授業計画（全体）**

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | ［テーマ］ オリエンテーション（全クラス合同）<br>［内容］ キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。<br>［授業外学修］ 自らの将来の希望や見通しを考える。 | ⑨ | ［テーマ］ いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2（クラス単位）<br>［内容］ グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。<br>［授業外学修］ 発表準備。 |
| ② | ［テーマ］ 講話①（全クラス合同）<br>［内容］ 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。<br>［授業外学修］ 普段の生活態度を問い直す。 | ⑩ | ［テーマ］ 他者からみた自分・自分からみた他者 （クラス単位）<br>［内容］ 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。<br>［授業外学修］ 他者にどう接するべきかを考える。 |
| ③ | ［テーマ］ 講話②（全クラス合同）<br>［内容］ 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。<br>［授業外学修］ 普段の生活態度を問い直してみよう。 | ⑪ | ［テーマ］ 社会が求める「スキル」「能力」とは （クラス単位）<br>［内容］ 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。<br>［授業外学修］ 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。 |
| ④ | ［テーマ］ 導入演習、夏休みの反省、後期の目標（クラス単位）<br>［内容］ 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生活の目標を考えます。<br>［授業外学修］ 進学当時からのことを改めて振り返る。 | ⑫ | ［テーマ］ 「夢」を描こう（クラス単位）<br>［内容］ 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。<br>［授業外学修］ 改めて自分の将来の姿を考える。 |
| ⑤ | ［テーマ］ 「はたらく」とはどういうことか （クラス単位）<br>［内容］ 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。<br>［授業外学修］ はたらく意味を自分なりに考える | ⑬ | ［テーマ］ 来年度の目標を書こう（クラス単位）<br>［内容］ 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。<br>［授業外学修］ 改めて自分の将来の姿を考える。 |
| ⑥ | ［テーマ］ 教師になるには？ （クラス単位）<br>［内容］ 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。<br>［授業外学修］ 教師になるまでの道のりについて調べる | ⑭ | ［テーマ］ 自分の人がらと適職について考えよう（全クラス合同）<br>［内容］ 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。<br>［授業外学修］ 職業興味検査の結果をよく検討する。 |
| ⑦ | ［テーマ］ 体育・スポーツ系の仕事とは？（クラス単位）<br>［内容］ 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。<br>［授業外学修］ 興味のある職業について考える。 | ⑮ | ［テーマ］ キャリアプランニングⅡに向けて（全クラス合同）<br>［内容］ 教員から2年時に履修するキャリアプランニングⅡの概要を説明し、インターンを経験した先輩の講話を聞きます。<br>［授業外学修］ インターンについて調べる |
| ⑧ | ［テーマ］ いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1（クラス単位）<br>［内容］ スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは？ グループごとに調べます。<br>［授業外学修］ グループ学習。 | ⑯ | ［テーマ］Ⅰ年を振り返り、今後の大学説活を見通す<br>［内容］授業で学んだ内容を振り返り、今後の大学生活の見通しを立て、レポートとして書き起こします。<br>［授業外学修］レポートの準備、執筆 |

**成績評価方法（方針）**

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 20% |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。
また、全クラス合同、および各クラス単位での授業の実施教室等は、初回授業時に配布するプリントで周知します

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | キャリアプランニングⅡ、キャリアプランニングⅢ | 関連資格 | |
| 教科書 | 「キャリアプランニング Ⅰ 演習資料」（オリエンテーション時に配布） | 参考書 | 必要に応じて講義時に紹介します。 |
| オフィスアワー | クラス担任教員の時間を確認してください | その他 | |

| 授業科目名 | キャリアプランニングⅡ<br>Career Planning Ⅱ | | | | 担当教員 | キャリアプランニング運営担当教員<br>プロスポーツ球団インターンシップ担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本科目は、キャリアプランニングⅠで学んだことを活かしながら、将来の進路について各々が考えるきっかけやヒントを学ぶ科目である。講義形式での学びやインターンシップ実習(職業体験学習)の機会を通じて、将来への視圏を拡大するとともに、社会のありかたやその中での私たちの過ごし方を理解する。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

「自分と社会人生活・進路選択」をメインテーマに、自分自身を自覚的に捉え、今後の進路について具体的に考えることができるようになることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 職業について、より深い具体的知識を備える。 |
| ■ | 情意的領域 | 職業選択に当たり、自分なりの動機をより鮮明に、より強く持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 社会人らしい考え方、話し方をすることができる。職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持ち、表明できる。 |

**授業計画(全体)**

変則的な日程となるので、オリエンテーションの日時、場所は掲示する。本講義はコースを選択する必要があり、大きくはインターンシップか集中講義の2つに別れる。さらにインターンシップはプロスポーツ型、大学紹介型、自己開拓型の3つの中から選択、集中講義は2つの日程から選択する(選択肢は5つ)。詳細はオリエンテーションで周知するが、事前に夏休み期間の予定を確認しておくこと(インターンシップ・集中講義共に夏季休暇期間の実施がメインとなるため)。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 第1回オリエンテーション<br>[内容] 本科目の基本的な流れとコース説明、履修の仕方を概説する。<br>[授業外学修] 自らの将来の希望や見通しについて考える。 | ⑨ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ④<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 |
| ② | [テーマ] 第2回オリエンテーション<br>[内容] コースごとの詳細な説明を行い、コース選択を実施する。<br>[授業外学修] 第1回オリエンテーションの内容を見直す。 | ⑩ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑤<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 |
| ③ | [テーマ] 第3回オリエンテーション<br>[内容] コースごとに分かれ、それぞれの今後の進め方を概説する。<br>[授業外学修] 第2回オリエンテーションの内容を見直す。 | ⑪ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑥<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 |
| ④ | [テーマ] 将来の進路を考える①<br>[内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓<br>[授業外学修の指示等] 講義コース:講話内容の復習 実習コース:実習先開 | ⑫ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑦<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 |
| ⑤ | [テーマ] 将来の進路を考える②<br>[内容] 講義コース:講話 実習コース:事前指導<br>[授業外学修の指示等] 講義コース:講話内容の復習 実習コース:実習にの | ⑬ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑧<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 |
| ⑥ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ①<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 | ⑭ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑨<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義、実習のまとめにむけた整理をする。 |
| ⑦ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ②<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 | ⑮ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 講義コース:講義内レポート 実習コース:事後指導<br>[授業外学修] 提出物などに漏れがないか確認する。 |
| ⑧ | [テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ③<br>[内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習<br>[授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成 | ⑯ | [テーマ] レポート<br>[内容] 講義コース、実習コースともにレポートを作成し、提出する。実習コースの場合は、レポートを作成し、実習日誌とともに提出する。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行う。評定の主材料は出席状況(欠格条件)および授業参加の態度であり、最終的な成績評価のためには3分の2以上の出席が必要となる

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | キャリアプランニングⅠ、キャリアプランニングⅢ | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しません。講義時にレジュメを配布します。 | 参考書 | 必要に応じてガイダンスや集中講義時に紹介します。 |
| オフィスアワー | キャリアプラニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知) | その他 | |

| 授業科目名 | キャリアプランニングⅢ<br>Career Planning Ⅲ | | | | 担当教員 | 学科・コースのグループ担当教員<br>キャリアプラニング運営担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

3年次は、将来の進路について明確なイメージを固め,行動する時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、外部講師を招聘し、職業に対するありうべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。 |
| ■ | 情意的領域 | 自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | それぞれの進路に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。 |

**授業計画(全体)**

下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合と、学科やコースのグループごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合には全3年生合同で授業を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(合同)<br>[内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。<br>[授業外学修] 自らの将来の希望や見通しについて考える。 | ⑨ | [テーマ] 大学院という進路(合同)<br>[内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。<br>[授業外学修] 大学院の情報を収集する |
| ② | [テーマ] 自己PRとしての自己紹介 (各グループ)<br>[内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。<br>[授業外学修]より他者にアピールする自己紹介内容を考える。 | ⑩ | [テーマ] 就職活動の全体像(合同)<br>[内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。<br>[授業外学修] 就活支援サイトをチェックする。 |
| ③ | [テーマ] 就職の道すじ(各グループ)<br>[内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。<br>[授業外学修] 就職活動のスケジュールを組み立てる。 | ⑪ | [テーマ] 自己プロデュースの方法 (合同)<br>[内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。<br>[授業外学修] 前期の学習内容を振り返る。 |
| ④ | [テーマ] 敬語の使いかた・電話ーのマナー(各グループ)<br>[内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。<br>[授業外学修] 敬語等の使い方を調べる。 | ⑫ | [テーマ] 対人スキルを磨く(合同)<br>[内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。<br>[授業外学修] 対人スキルを日常で実践してみる。 |
| ⑤ | [テーマ] 自己分析の実際(各グループ)<br>[内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。<br>[授業外学修] 自分のアピールポイントを考える。 | ⑬ | [テーマ] 訴求点を探す(合同)<br>[内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。<br>[授業外学修の指示等] 自分の長所を考える。 |
| ⑥ | [テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各グループ)<br>[内容] 自己PR書を試作してみることにより、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。<br>[授業外学修] 他己分析をしてみる。 | ⑭ | [テーマ] 視野を拡げる(合同)<br>[内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。<br>[授業外学修] 就職支援サイトで希望分野の求人を確認しておく。 |
| ⑦ | [テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各グループ)<br>[内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。<br>[授業外学修] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。 | ⑮ | [テーマ] 進路希望調査と適性検査(合同)<br>[内容] 適性検査を実施し、自己分析と希望する進路とのマッチングを図る。<br>[授業外学修] 適性検査の結果を振り返る。 |
| ⑧ | [テーマ] 夏休みの過ごし方(合同)<br>[内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。<br>[授業外学修] 夏休みの行動指針を立てる。 | ⑯ | [テーマ] レポート<br>[内容] 講義で学んだ内容を踏まえ、就職活動に向けての筋道見通し、レポートとして書き起こす。<br>[授業外学修]レポートのための振り返りお行い、情報を収集する。 |

**成績評価方法(方針)**

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況(欠格条件)および作業への取組状況を主材料とします。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 40% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
進路選択時に不利を背負わないよう、この授業を機会に積極的な情報収集と行動を心がけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | キャリアプランニングⅠ、キャリアプランニングⅡ | 関連資格 | |
| 教科書 | 「キャリアプランニングⅢ演習資料」(オリエンテーション時に配布) | 参考書 | 必要に応じて講義時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 学科・コースのクラス担当教員(オリエンテーション時に告知) | その他 | |

# 2.　専門基礎科目

## ≪講義≫

| 授業科目名 | スポーツ経営学<br>Sport Management (L) | | | | 担当教員 | 永田秀隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツが幅広い層に普及している今日、スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方が重要となっている。そこで、学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツといった様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的なアプローチを試みる。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

スポーツ経営の基本的な構造(仕組みやシステム)について理解する。様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的な視点で捉え、またそのことについて考察する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ経営の基本構造が説明できる。経営学的な視点でスポーツ現象を捉えられ、そのことについて考察できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

本授業は、スポーツ経営学の入門編と位置づけていることから、多様な視点でのスポーツ経営現象を紹介することになる。
毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布し、また受講者の理解を深めることに配慮するためパワーポイント等も活用する。数回、授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション／スポーツ経営学とは<br>[内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明。／スポーツ経営の構造(仕組み)について概説する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] スポーツ事業の運営 ③クラブサービス事業<br>[内容] スポーツ事業の中でも本時はプログラムサービス事業について解説し、理解する。<br>[授業外学修]教科書76～83ページを読んでおくこと |
| ② | [テーマ] 現代社会とスポーツ経営学<br>[内容] 現代社会でスポーツは人々の豊かな生活の形成に不可欠であり、その際スポーツ経営は鍵概念となることを解説する。<br>[授業外学修]現代社会とスポーツに関するニュースを調べておくこと | ⑩ | [テーマ] 学校運動部活動と地域スポーツクラブの経営論<br>[内容]学校運動部や地域スポーツクラブの現状・課題を理解し、受講者間で議論する。<br>[授業外学修]教科書84～89ページを読んでおくこと |
| ③ | [テーマ]スポーツ経営学の概念と構造<br>[内容] スポーツ経営学を構成する概念、及びその営みがどのような仕組みで成り立っているのか構造的に概説する。<br>[授業外学修]教科書14～23ページを読んでおくこと | ⑪ | [テーマ] スポーツ経営とスポーツ・運動生活<br>[内容] 「行う」「みる」「支える・創る」の各種スポーツの関りから、スポーツ生活、運動者行動、運動生活について説明する。<br>[授業外学修]教科書26～33ページを読んでおくこと |
| ④ | [テーマ]スポーツ事業の基礎となる経営資源 ①人的資源<br>[内容] スポーツ事業の基礎となる経営資源を説明し、その中でも本時は人的資源に着目し概説する。<br>[授業外学修]教科書36～41ページを読んでおくこと | ⑫ | [テーマ] スポーツ経営と運動生活<br>[内容] 前時の講義を踏まえ、受講者等の運動生活の実態を把握し、そのデータをもとに受講者間で議論(ディスカッション)する。<br>[授業外学修]運動生活の考えを復習しておき議論の準備をしておくこと |
| ⑤ | [テーマ] スポーツ事業の基礎となる経営資源 ②物的資源<br>[内容] 経営資源の中で、本時は物的資源、特に施設の整備について説明し、考える。<br>[授業外学修]教科書42～47ページを読んでおくこと | ⑬ | [テーマ] スポーツマーケティングの基本<br>[内容] スポーツマーケティングの考え方やマーケティング戦略の構築について概説し、理解する。<br>[授業外学修]教科書90～97ページを読んでおくこと |
| ⑥ | [テーマ] スポーツ事業の基礎となる経営資源 ③財務資源 ④情報資源<br>[内容] 経営資源の中で、本時は財務資源と情報資源を取り上げ、それらについて理解する。<br>[授業外学修]教科書48～55ページを読んでおくこと | ⑭ | [テーマ] みるスポーツの経営<br>[内容] みるスポーツの考え方を理解し、みるスポーツを豊かにする経営についても考える。<br>[授業外学修]教科書132～139ページを読んでおくこと |
| ⑦ | [テーマ] スポーツ事業の運営 ①エリアサービス事業<br>[内容] スポーツ事業の中でも本時はエリアサービス事業について解説し、理解する。<br>[授業外学修]教科書58～63ページを読んでおくこと | ⑮ | [テーマ] スポーツイベント・プロスポーツの経営論<br>[内容] スポーツイベントの種類や功罪(レガシー)、プロスポーツ経営の現状・課題について考える。<br>[授業外学修]教科書140～144ページを読んでおくこと |
| ⑧ | [テーマ] スポーツ事業の運営 ②プログラムサービス事業<br>[内容] スポーツ事業の中でも本時はプログラムサービス事業について解説し、理解する。<br>[授業外学修]教科書64～75ページを読んでおくこと | ⑯ | [テーマ] レポート<br>[内容] レポートの振り返り。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

授業外レポート(20%)、授業内レポートとリアクションペーパー(80%)の結果に基づき、総合的に評価する。
授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 80% |
| 授業外レポート | ◎ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 加点減点アリ |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本授業は、体育・スポーツ情報マスメディア・現代武道の各学科では必修であり、体育学科スポーツマネジメント・コースの基礎科目でもある。当該コースへの所属を強く希望する学生は、皆出席を目指してもらいたい。
・2/3以上の出席がない学生は単位の修得が出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツマネジメント概論、スポーツマネジメント実習、スポーツマネジメント演習、など | 関連資格 | アシスタント・マネジャー、レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 柳沢和雄他「テキスト体育・スポーツ経営学」大修館書店 | | 山下秋二他「スポーツ経営学」大修館書店 |
| オフィスアワー | 永田(火2) | その他 | 永田(hd-nagata@sendai-u.ac.jp) |

| 授業科目名 | スポーツ社会学<br>Sociology of Sport(L.) | | | | 担当教員 | 仲野隆士・藪耕太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

社会学者のP.ブルデューはスポーツ社会学には2つの傾向があるという。ひとつは「スポーツの社会学」であり、スポーツに内在するあるいはそれ特有の性質や特徴を扱う。もうひとつが「社会学の対象としてのスポーツ」であり、スポーツを社会を分析するための手段・装置とする。本授業ではこの双方のアプローチを通じて、スポーツ社会学という専門知の理解を深める。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅴ

**授業の一般目標**

スポーツの文化としての特質や固有性を理解するとともに、スポーツと社会の関係を把握し、スポーツを通じて現代社会の諸問題を分析する力を養うことを目的とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツという文化についてスポーツ社会学の観点から明快に説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 批判的思考力を駆使してスポーツと社会の関係を論じることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツ社会学に関わる学術タームや概念を駆使できる。 |

**授業計画(全体)**

本授業は前半と後半で担当者が異なる。前半は藪が担当し、後半は仲野が担当する。担当者ごとに授業の主旨や力点などが異なるため、それぞれの担当者が受け持つ最終回(下記の⑧⑮)で試験を実施し、到達度を判定する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(仲野・藪)<br>授業の概要や進め方、成績判定などについて説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと。 | ⑨ | [テーマ] 近代スポーツの成立と発展<br>[内容] 近代スポーツがどのように出現し発展して今日に至るのかを考える。<br>[授業外学修] 興味のあるスポーツの歴史などについて調べてみよう。 |
| ② | [テーマ] スポーツと教育<br>[内容] 体育や遊びとスポーツとの差異や相同性について考える。<br>[授業外学修] これまでの体育や遊びの経験を振り返ってみよう。 | ⑩ | [テーマ] スポーツの社会化論<br>[内容] スポーツへの社会化・スポーツによる社会化・離脱と再社会化などについて考える。<br>[授業外学修] 友人たちは何がきっかけでスポーツをやるようになったのか調べてみよう。 |
| ③ | [テーマ] スポーツする身体<br>[内容] 科学の発展やライフスタイルの変化が私たちの身体観に及ぼす影響を考える。<br>[授業外学修] 巷間に溢れる健康グッズやフィットネス法を調べてみよう。 | ⑪ | [テーマ] スポーツとノーマライゼーション<br>[内容] スポーツ・フォー・オールのムーブメントに始まるノーマライゼーションやインテグレーションなどについて考える。<br>[授業外学修] 障害者スポーツの歴史について調べてみよう。 |
| ④ | [テーマ] スポーツと地域社会<br>[内容] 地域スポーツクラブや市民マラソンを事例に市民とスポーツの関係を考える。<br>[授業外学修] どのようなスポーツ施設やイベントがあるか調べてみよう。 | ⑫ | [テーマ] ライフステージとスポーツ<br>[内容] 人間のライフサイクルにおける個々のライフステージとスポーツとの関わりについて考える。<br>[授業外学修] ライフサイクルについて調べてみよう。 |
| ⑤ | [テーマ] グローバル化するスポーツ<br>[内容] グローバリゼーションの意味についてスポーツを通じて検討する。<br>[授業外学修] 国際的なスポーツ大会の種類や内容を調べてみよう。 | ⑬ | [テーマ] 日本と海外のスポーツ文学<br>[内容] 日本独特のスポーツ文化を海外のそれとを比較しながら考える。<br>[授業外学修] 日本と海外の選手の特徴の違いについて着目してみよう。 |
| ⑥ | [テーマ] スポーツとジェンダー<br>[内容] スポーツにおける男性主義について社会的性差の観点から考える。<br>[授業外学修] 男女のスポーツウェアの差に着目してみよう。 | ⑭ | [テーマ] スポーツを巡る社会問題<br>[内容] スポーツの光と影いついて考える。<br>[授業外学修] どのような問題が過去にあったのか調べてみよう。 |
| ⑦ | [テーマ] スポーツと政治・政策<br>[内容] スポーツを巡る法案や国際宣言などを通じてスポーツ権について考える。<br>[授業外学修] 法案や宣言の種類や内容を調べてみよう。 | ⑮ | [テーマ] 試験②(仲野)<br>[内容] 第⑧-⑭回までの授業の理解の程度を判定する。<br>[授業外学修] しっかりとテスト対策をして臨むこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 試験①(藪)<br>[内容] 第②-⑦回までの授業の理解の程度を判定する。<br>[授業外学修] しっかりとテスト対策をして臨むこと。 | ⑯ | [テーマ] 定期試験<br>[内容] 本授業では定期試験は実施しないが、不測の事態が生じた場合に予備的に活用する可能性がある。<br>[授業外学修] 特になし |

**成績評価方法(方針)**

前半はテスト、後半は授業内レポートとテストで成績を評価する。また、前半は授業外レポートを課す可能性がある。なお、前後半を問わず、提出されたレポートについては授業時間内外を通じて適切なフィードバックを実施する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 20% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ◎ | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・他者への迷惑となる行為には厳正に対処する。特に私語は絶対厳禁。
・前半のみ、レジュメをweb上(https://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/ パスワード:sportshistory)にアップする。授業での配布時に受け取れなかった場合、各自でダウンロード(プリントアウト)すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 体育原理 その他教養科目全般 | 関連資格 | 教員免許状(中高保体) |
| 教科書 | 使用しない | 参考書 | 前半『よくわかるスポーツ文化論』(ミネルヴァ書房, 2015)<br>後半『現代スポーツ社会学序説』(杏林書院, 2003) |
| オフィスアワー | 前期(仲野:月3・藪:月2)・後期(仲野: 藪:水2) | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ心理学<br>Sport Psychology (L.) | | | | 担当教員 | 栗木一博／菊地直子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の間で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ心理学の基礎的事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション（栗木・菊地）<br>[内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] スポーツとこころの健康（菊地）<br>[内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。<br>[授業外学修]コミュニケーションということばの意味について調べる。 |
| ② | [テーマ] スポーツにおける心理アセスメント（栗木）<br>[内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。<br>[授業外学修]どのような心理テストがあるのかを調べておく。 | ⑩ | [テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ（菊地）<br>[内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。<br>[授業外学修]「自我同一性」ということばについて調べておく。 |
| ③ | [テーマ] スポーツにおける動機づけ理論①（栗木）<br>[内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。<br>[授業外学修]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。 | ⑪ | [テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント（菊地）<br>ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。<br>[授業外学修]自分のストレスについてまとめておく。 |
| ④ | [テーマ] スポーツにおける動機づけ理論②（栗木）<br>[内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。<br>[授業外学修]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。 | ⑫ | [テーマ]スポーツ選手の性格（菊地）<br>[内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探求し、理解させる。<br>[授業外学修]自分のストレスを評価してみる。 |
| ⑤ | [テーマ] スポーツにおける目標設定(栗木)<br>[内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。<br>[授業外学修]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。 | ⑬ | [テーマ]スポーツカウンセリング①（菊地）<br>[内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。<br>[授業外学修]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。 |
| ⑥ | [テーマ] スポーツにおける集中力①（栗木）<br>[内容]「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。<br>[授業外学修]「集中力」ということばの意味について調べておく。 | ⑭ | [テーマ] スポーツカウンセリング②（菊地）<br>[内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。<br>[授業外学修]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] スポーツにおける集中力②（栗木）<br>[内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。<br>[授業外学修]前回学習した「集中力」について確認する。 | ⑮ | [テーマ]スポーツカウンセリング③（菊地）<br>[内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。<br>[授業外学修]スランプやプラトーについて調べる。 |
| ⑧ | [テーマ] スポーツとリーダーシップ（栗木）<br>[内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。<br>[授業外学修]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。 | ⑯ | [テーマ] テスト(菊地)<br>[内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。<br>[授業外学修]テストの準備をしておく。 |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験を一回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合40%）を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出されたレポートは授業内で返却し、解説する　試験については授業内で返却し、解説する

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保健体育、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、NSCA-CPT、健康運動実践指導者ほか |
| 教科書 | 特に指定しない、必要に応じて資料を配布する | 参考書 | 特に指定しない、必要に応じて授業中に紹介する |
| オフィスアワー | 栗木：前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限　菊地：前期・月曜日2時限、後期・木曜日3時限 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツバイオメカニクス<br>Sport Biomechanics (L.) | | | | 担当教員 | 宮西　智久 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツ運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)およびエナジェティクスを中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。 | i 、ii |

**授業の一般目標**

スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ運動における実践的主観を客観化することにより興味や関心を深めることができ、スポーツや健康運動指導に活かすことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講は、これらのパートについて順に系統だって進められる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　スポーツバイオメカニクス序説<br>[内容]　シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(1章)の予習・復習、ホームワーク | ⑨ | [テーマ]　回転運動のキネティクスⅠ<br>[内容]　力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力とモーメントアーム、偶力、回転効果、力のモーメント計算、つり合い、てこの原理(第一種、第二種、第三種のてこ)、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(6章)の予習・復習、ホームワーク |
| ② | [テーマ]　力学と数学の基礎　/　並進運動のキネマティクスⅠ<br>[内容]　力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(2, 3章)の予習・復習、ホームワーク | ⑩ | [テーマ]　回転運動のキネティクスⅡ<br>[内容]　重心とその測定・算出法、身体部分慣性係数(BSP)、身体重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(6章)の予習・復習、ホームワーク |
| ③ | [テーマ]　並進運動のキネマティクスⅡ<br>[内容]　位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動、復習<br>[授業外学修] 教科書・講義ノート(3章)の予習・復習、ホームワーク | ⑪ | [テーマ]　回転運動のキネティクスⅢ<br>[内容]　ニュートンの運動の三法則(回転編)、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(6章)の予習・復習、ホームワーク |
| ④ | [テーマ]　回転運動のキネマティクスⅠ<br>[内容]　角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(4章)の予習・復習、ホームワーク | ⑫ | [テーマ]　仕事・エネルギー・パワー<br>[内容]　仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギー変換、力学的効率、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(7章)の予習・復習、ホームワーク |
| ⑤ | [テーマ]　回転運動のキネマティクスⅡ<br>[内容]　回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動、復習<br>[授業外学修] 教科書・講義ノート(4章)の予習・復習、ホームワーク | ⑬ | [テーマ]　流体力:空気や水による力<br>[内容]　物質の三態、アルキメデスの原理、比重、密度、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(8章)の予習・復習、ホームワーク |
| ⑥ | [テーマ]　並進運動のキネティクスⅠ<br>[内容]　慣性・質量・力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則(並進編)、ダランベールの原理、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(5章)の予習・復習、ホームワーク | ⑭ | [テーマ]　筋収縮の力学Ⅰ<br>[内容]　筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(力ー長さ・速度・パワー関係)、紡錘状筋と羽状筋、筋収縮様式、SSC、筋収縮モデル、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(9章)の予習・復習、ホームワーク |
| ⑦ | [テーマ]　並進運動のキネティクスⅡ<br>[内容]　いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(5章)の予習・復習、ホームワーク | ⑮ | [テーマ]　筋収縮の力学Ⅱ<br>[内容]　身体外部の物体(地面、用具、相手他)へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力増大に関わる要因、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(9章)の予習・復習、ホームワーク |
| ⑧ | [テーマ]　並進運動のキネティクスⅢ<br>[内容]　システム、フリーボディダイアグラム(FBD)、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係、復習<br>[授業外学修]　教科書・講義ノート(5章)の予習・復習、ホームワーク | ⑯ | [テーマ]　試験<br>[内容]　選択問題(マークシート方式)<br>[授業外学修]　教科書、講義ノート他を復習し試験に万全を期すこと。 |

**成績評価方法(方針)**

定期試験、授業外レポート等に基づき評価する(解答掲出)。試験・レポートは解説とともに返却する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ○ | | | 70% |
| 授業内レポート | | | | ― |
| 授業外レポート | ○ | | | 30% |
| 演習・実技 | | | | ― |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

受講条件:
1)学生証を持参すること。
2)教科書を持参すること。
3)試験は学則(第34条)に基づき実施する。
4)指定座席に座ること。
5)スマートフォンや携帯電話の使用は緊急時(災害時等)以外は原則禁止する。
6)教育環境の保全に協力すること。
7)講義以外に、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
8)ノート、筆記用具(鉛筆、消しゴム他)、関数電卓、定規、分度器を持参すること。
9)その他重要事項(試験、出欠方法他)の詳細は第1回目の講義において【配布資料】を使用し伝えるので必ず受講すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年) | | 教員免許状、健康運動指導士・同実践指導者、アスレチックトレーナー、レクリエーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | スポーツバイオメカニクス(宮西編著, 化学同人)<br>スポーツバイオメカニクス完全準拠ワークブック(宮西著, 化学同人) | 参考書 | スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店)<br>スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD) |
| オフィスアワー | 木曜日5時限(16:00-17:30) | その他 | |

| 授業科目名 | 運動生理学<br>Exercise Physiology (L) | | | | 担当教員 | 内丸 仁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

運動生理学では、スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関での取り組みや成果、およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実際などの事例を挙げながら、生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i

**授業の一般目標**

運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウオームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 授業に欠かさず出席する。実際の活動(運動・トレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、 各授業毎にクイズを実施し、理解を深める。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 運動生理学とは？<br>[内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明<br>[授業外学修]シラバスをよく読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅱ<br>[内容] 心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。<br>[授業外学修] P90～100をよく読んでおくこと |
| ② | [テーマ] 運動と骨格筋Ⅰ<br>[内容] 筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する<br>[授業外学修] P1～6をよく読んでおくこと | ⑩ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅲ<br>[内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する<br>[授業外学修] P90～100をよく読んでおくこと |
| ③ | [テーマ] 運動と骨格筋Ⅱ<br>[内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する<br>[授業外学修] P6～12をよく読んでおくこと | ⑪ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅳ<br>[内容] 運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する<br>[授業外学修] P109～117をよく読んでおくこと |
| ④ | [テーマ] 運動と骨格筋Ⅲ<br>[内容] 筋力発揮特性について説明する。骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。<br>[授業外学修] P13～28をよく読んでおくこと | ⑫ | [テーマ] 運動と免疫<br>[内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する<br>[授業外学修] P76～83をよく読んでおくこと |
| ⑤ | [テーマ] 運動と神経Ⅰ<br>[内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する<br>[授業外学修] P29～57をよく読んでおくこと | ⑬ | [テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境と水分摂取・体温調節<br>[内容] 暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する<br>[授業外学修] P154～162をよく読んでおくこと |
| ⑥ | [テーマ] 運動と神経Ⅱ<br>[内容] 脳の働きと運動、および神経系のトレーニングの効果ついて説明する<br>[授業外学修] P29～57をよく読んでおくこと | ⑭ | [テーマ] 運動と健康および加齢<br>[内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する<br>[授業外学修] P121～133をよく読んでおくこと |
| ⑦ | [テーマ] 運動と内分泌系とストレス<br>[内容] 運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する<br>[授業外学修] P58～75をよく読んでおくこと | ⑮ | [テーマ] 体力と体力特性とトレーニング<br>[内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性、一般人の体力維持・増進のためのトレーニング、ウオームアップとクールダウンについて説明する<br>[授業外学修] P134～153をよく読んでおくこと |
| ⑧ | [テーマ] 運動と呼吸循環Ⅰ<br>[内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気のメカニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する<br>[授業外学修] P84～90をよく読んでおくこと | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。<br>[授業外学修] これまでの復習をすること |

**成績評価方法(方針)**

筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、出席状況や授業態度(評価割合30%、減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 70% |
| 授業内レポート | | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・教科書とノートを必ず持参すること。
・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする(減点あり)。
・予習・復習を行うこと。
・授業計画は授業の進行状況により多少前後および内容を変更することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ医学概論、スポーツ医学A、スポーツ医学B、解剖・生理学、体力相談と運動処方、スポーツトレーナーコース関連科目 | 関連資格 | 中学校・高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)、<br>スポーツプログラマー、アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、レクリエーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識<br>村岡功編著 市村出版 | 参考書 | 運動生理学 石河利寛、杉浦正輝共著 建帛社<br>はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学 冨樫健二編 化学同人<br>運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで 小山勝弘、安藤大輔編著 三共出版 |
| オフィスアワー | 研究室:C棟2F オフィスアワー:月曜日 16:00～17:00 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | スポーツ医学概論<br>Introduction to Sports Medicine ( L .) | | | | 担当教員 | 橋本　実 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 医療現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。 | i |

**授業の一般目標**

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　オリエンテーション<br>[内容] 授業の進め方などについて説明<br>[授業外学修]当日配布するプリントを参照すること | ⑨ | [テーマ] 体液<br>[内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ② | [テーマ] スポーツ医学の基礎<br>[内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | ⑩ | [テーマ] 細胞<br>[内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ③ | [テーマ] ドーピング①<br>[内容] ドーピングに関連する知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | ⑪ | [テーマ] 免疫<br>[内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ④ | [テーマ] ドーピング②<br>[内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | ⑫ | [テーマ] 赤血球<br>[内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 呼吸器<br>[内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | ⑬ | [テーマ] 高地トレーニングと貧血<br>[内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 循環器<br>[内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | ⑭ | [テーマ] 骨格筋<br>[内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 遺伝<br>[内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験<br>[内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| ⑧ | [テーマ] 前半の振り返りと試験<br>[内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |

**成績評価方法(方針)**

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 95% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 5% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

| 関連科目 | | 関連資格 | |
|---|---|---|---|
| 教科書 | スポーツ医学概論 講義ノート | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 運動学(含運動方法学)<br>Movement Theory of Sports | | | | 担当教員 | 川口鉄二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校,中学での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

体育教師やスポーツ指導者に必須となる科目です。動物や機械とは異なる人間の運動とは何なのか。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでに現れる身体知について解説します。
実際の運動学習の際に直面する様々な問題を具体例を取り上げながら考えていきます。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を教える際の前提となる基本的運動認識と観察・指導力について理解できるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 動きを覚える、教えるための身体知が理解できる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] シラバスに基づき、本講義の授業概要、目標、評価方法、課題提出方法、参考文献などの説明を行う。<br>[授業外学修]講義の受講方法を理解する | ⑨ | [テーマ]「うまくなる体力づくり」と「強くなる体力づくり」<br>[内容] 学校体育や競技場面における体力づくりと健康目的の体力つくりの基本的な違いを踏まえ、「できる」ための「体力づくり」の実践について解説する。<br>[授業外学修]体力概念が曖昧なことを復習する |
| ② | [テーマ]スポーツ指導にまつわる今日的諸問題<br>[内容] 体育教師やコーチが無意識のうちに様々な隠れ蓑をまとうことで専門性が問われいる現状を概観し、発生指導理論の必要性を浮き彫りにする。<br>[授業外学修]スポーツ指導のどのような問題があるのかを復習する | ⑩ | [テーマ] 競技実績の意味と価値<br>[内容] 自分は「できていた」のに「教えられない」、「できなかった」のに「教えられる」のは何故なのか。競技実績の捉え方、能動的学習と受動的学習の違いについて解説する。<br>[授業外学修]身近なコツとカンの例を復習する |
| ③ | [テーマ] スポーツ実践とスポーツ科学の断層<br>[内容] 総花化したスポーツ科学の現状を概観し、何故、理論と実践に断層が生まれてしまうのか根本的な問題を探り、人間の運動研究の独自性を解説する。<br>[授業外学修]スポーツ科学の現状について復習する | ⑪ | [テーマ]「やりたくない」意識を読み取る<br>[内容] 「やりたくない」「やってみたい」という気持ちの違いは何故生じるのか。動感形成の原志向位相における問題を実際の例とともに解説する。<br>[授業外学修]自分の身近な経験を例に復習する |
| ④ | [テーマ] コーチングの基礎理論の誕生<br>[内容]ドイツ(ヨーロッパ)における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフォロギー運動学の発展様相を概観し、スポーツ実践者に身近で中核になる理論について解説する。<br>[授業外学修]自然科学と運動の理論の違いを復習する | ⑫ | [テーマ] 「わかる」と「できる」の違い<br>[内容] 頭でわかっていることが実際には「できそう」「できそうもない」と感じてしまうことを、「コツ」「カン」の発生との関連で解説する。<br>[授業外学修]コツとカンの特性と相互の関係を復習する |
| ⑤ | [テーマ]古い体育と新しい体育<br>[内容] 日本独特のラジオ体操、集団行動指導の歴史的背景と、古典的な運動認識の特徴について解説する。<br>[授業外学修]身近な体験例を用いて復習する | ⑬ | [テーマ]映像利用とコツ・カン学習<br>[内容] 指導要領に示されているICT機器利用の現状に潜む問題点を理解し、発生学習のための基本認識について解説する。<br>[授業外学修]観察能力の重要性を復習する |
| ⑥ | [テーマ]「客観性=正しさ」という誤解<br>[内容] 主観と客観、因果思考、データー化と統計的思考の諸問題について。実際の感覚と判断の根拠について身近な例をもとに解説する。<br>[授業外学修]審判の主観性に対する問題点を復習する | ⑭ | [テーマ] 指導実践における方法論<br>[内容]実際の指導の際に必要となる運動の観察、・感覚の移入、課題の把握を踏まえ、めあて、道しるべの在り方について解説する。<br>[授業外学修]段階的学習の特性について復習する |
| ⑦ | [テーマ] 計測できない運動のかたち(質)<br>[内容] 運動の質に対する判断根拠とは。質が決して客観的な差として表せないことをモザイク化問題との関連で解説する。<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑮ | [テーマ] 全講義のまとめと復習<br>[内容] これまでの内容を体系論的に理解するとともに、実践的探求への手がかりとする 試験方法についての解説。<br>[授業外学修]講義全体の内容を復習する |
| ⑧ | [テーマ]楽しくない「体力づくり」人気の背景<br>[内容]「体力つくり」「トレーニング」の諸問題を取り上げる。「体力」用語の認識実態や「運動技能」との関係を「構築化」問題との関連で解説する。<br>[授業外学修]体力どいう用語の多義性を復習する | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心<br>[授業外学修]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。 |

**成績評価方法(方針)**

各回の授業内容の理解度ないし関連課題をノート提出によって確かめます(欠席分も含む)。自分の運動経験を通して課題内容が分析・記述できていることを評価します。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | ○ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | ○ | 減点対象 |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・運動学に興味をもっていること
・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない)
・授業内容は毎年進化します
・教員志望者には必須科目です

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論 | 関連資格 | 保健体育科教員 |
| 教科書 | | 参考書 | 「コツとカンの運動学」日本スポーツ運動学会編 大修館 |
| オフィスアワー | 水曜13:00-14:30 | その他 | tt-kawaguchi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 運動障害救急法(含実習)<br>Emergency Care for Sports Injury （Ｌ.） | | | | 担当教員 | 橋本　実 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 医療現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。<br>スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。 | i |

**授業の一般目標**

スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。
固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の進め方などについて説明する<br>[授業外学修]ﾌﾟﾘﾝﾄを配布するので参考にすること | ⑨ | [テーマ] 前半の振り返りと試験<br>[内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| ② | [テーマ] 外傷<br>[内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑩ | [テーマ] 熱中症<br>[内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ③ | [テーマ] 外傷の新しい治療<br>[内容] 外傷の新しい治療について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑪ | [テーマ] 熱中症<br>[内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること |
| ④ | [テーマ] 固定法<br>[内容]様々な方法による上肢の固定法について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | ⑫ | [テーマ] 心肺蘇生法<br>[内容] 心肺蘇生法について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 止血法<br>[内容] 様々な方法による止血法について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | ⑬ | [テーマ] AEDを使った心肺蘇生法<br>[内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 脳震盪<br>[内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | ⑭ | [テーマ] 救急処置(実習)<br>[内容] AED、AED実習器具を使って実習する<br>[授業外学修]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる |
| ⑦ | [テーマ] 頭部外傷<br>[内容]頭部外傷の分類、重症度などについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験<br>[内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| ⑧ | [テーマ] 救急処置(実習)<br>[内容] 包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する<br>[授業外学修]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |

**成績評価方法(方針)**

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 95% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 5% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 運動障害救急法 講義ノート | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ栄養学<br>Sport Nutrition(L.) | | | | 担当教員 | 真野芳彦 / 平良拓也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | アスリートへのスポーツ栄養活動の実務経験有 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 運動と栄養について基礎的な理論の解説、および競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方と食べ方について講義する。 | i |

**授業の一般目標**

競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方やその食べ方について理解できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

教科書およびPower Pointを使い授業を進め、必要に応じて資料を配布する。毎回の授業は，原則として授業課題についての基礎知識、応用知識、実践(演習)の形式で進める。また、導入時に授業課題にとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関係する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介することがある。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、スポーツと栄養について(平良)<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明、スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践①(真野)<br>[内容] 運動中のエネルギー基質を理解する。<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ② | [テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割①(糖質)(平良)<br>[内容] スポーツ・運動時の糖代謝について理解する。<br>[授業外学修] 授業で気づいたことをまとめておくこと。 | ⑩ | [テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践②(真野)<br>[内容] 糖質の特徴と利用方法<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ③ | [テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割②(脂質)(平良)<br>[内容] スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する。<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと。 | ⑪ | [テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践③(真野)<br>[内容] 身体作り:筋増強の栄養摂取法<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ④ | [テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割③(タンパク質)(平良)<br>[内容] スポーツ・運動時のタンパク質代謝について理解する。<br>[授業外学修] 授業で気づいたことをまとめておくこと。 | ⑫ | [テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践④(真野)<br>[内容] 身体作り:骨強度とアスリートの骨強度の現状<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ⑤ | [テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割④(ビタミン・ミネラル)(平良)<br>[内容] スポーツ・運動時のビタミン・ミネラル代謝について理解する。<br>[授業外学修] 授業で気づいたことをまとめておくこと。 | ⑬ | [テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践⑤(真野)<br>[内容] 減量方法<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 基礎体力を高める食事①(平良)<br>[内容] 基礎体力を高めるために必要な食事量を理解する。<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと。 | ⑭ | [テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践⑥(真野)<br>[内容] アスリートの酸化ストレスと抗酸化能を学ぶ<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 基礎体力を高める食事②(平良)<br>[内容] 基礎体力を高めるために必要な栄養バランスについて理解する。<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと。 | ⑮ | [テーマ] まとめ(スポーツと栄養について)(真野)<br>[内容] スポーツと栄養の関係についてまとめる<br>[授業外学修] 模擬問題を復習すること |
| ⑧ | [テーマ] 確認テスト(平良)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと。 | ⑯ | [テーマ] テスト(真野)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う<br>[授業外学修] テストに備えて復習をすること |

**成績評価方法(方針)**

筆記試験により評価をする。試験については希望者に解説をしながらフィードバックする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・学則に示された出席数に満たない学生は，評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・原則として運動生理学は履修済みのこと。
・平良担当分の資料配布やフィードバックはGoogleドライブ等を活用する。そのため、スマートフォン等で大学アカウントによるログインができるようにしておくこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 健康と栄養・食事 | 関連資格 | ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、健康運動指導士、健康運動実践指導者、ﾄﾚｰﾅｰ資格関係 |
| 教科書 | 適宜資料配布 | 参考書 | 「スポーツ栄養学」-トレーニング効果を高める食事<br>編著者:藤井久雄 (株)アイ・ケイコーポレーション |
| オフィスアワー | 真野:全期水3コマ、平良:金2コマ | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ指導の基礎<br>Fundamentals of Sports Coaching | | | | 担当教員 | 宮崎利勝・渡邉泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り，選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず，スポーツ組織におけるマネジメント的側面での責務も大きい．本講義では，指導者の機能と役割とは何かに始まり，トレーニング構成の諸原則，ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について説明する． | ⅰ、ⅱ |

**授業の一般目標**

スポーツ指導におけるコーチ（指導者）の実際的な職務を知り，求められる能力を理解できるようになる．そして，実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける．そこには，組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画の立案，実行する選手育成の内容も含まれる．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | コーチの役割と，その実務における具体的な方法論を説明できる． |
| ■ | 情意的領域 | 指導に関する理論的な思考を持つことができる． |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本講義では，まず指導者の実際的な機能と役割とは何かについて，トレーニングや試合場面での選手への助言や支援行為といった狭義なものから，スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで説明する．その後に，指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成（デザイン）していくべきかについて，より詳細に述べる．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス（宮崎・渡邉）<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] トレーニング課題と手段，方法の関係（宮崎）<br>[内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する<br>[授業外学修]トレーニング課題と手段，方法の関係について復習しておくこと |
| ② | [テーマ]スポーツ（競技）集団の構造と指導者（渡邉）<br>[内容] 競技集団にはどのような構造があり，そこで指導者はどのように関わるかについて説明する<br>[授業外学修]スポーツ（競技）集団の構造と指導者について予習しておくこと | ⑩ | [テーマ] トレーニング構成の一般原理（宮崎）<br>[内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理について，実務経験を活かし，インターハイへ向けた取り組み等を事例として挙げながら説明する<br>[授業外学修]トレーニング構成の一般原理について復習しておくこと |
| ③ | [テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化（渡邉）<br>[内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する<br>[授業外学修]発達過程におけるコーチ・選手関係の変化について復習しておくこ | ⑪ | [テーマ] トレーニング構成の基本単位（宮崎）<br>[内容] トレーニングを構成する，課業，ミクロ，メゾ，マクロの基本単位を説明する<br>[授業外学修] について復習しておくこと |
| ④ | [テーマ] 指導者の機能と役割（渡邉）<br>[内容] 指導者にはどのような機能があり，役割を果たしているかを説明する<br>[授業外学修]指導者の機能と役割について復習しておくこと | ⑫ | [テーマ] トレーニング構成の計画立案（宮崎）<br>[内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する<br>[授業外学修]トレーニング構成の計画立案について復習しておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック（森本）<br>[内容] 競技組織（集団）における基本的な構造について説明する<br>[授業外学修]基組織における6つの基本構造ブロックについて復習しておくこと | ⑬ | [テーマ] トレーニング構成の実際①（ミクロ周期）（宮崎）<br>[内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する<br>[授業外学修]トレーニング構成の実際①（ミクロ周期）について復習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力（渡邉）<br>[内容] 組織の構造変化を伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する<br>[授業外学修]組織の内部影響力としての基本的引力について復習しておくこと | ⑭ | [テーマ] トレーニング構成の実際②（メゾ・マクロ周期）（宮崎）<br>[内容] メゾ・マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する<br>[授業外学修]トレーニング構成の実際②（メゾ周期）について復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 組織の基本類型（渡邉）<br>[内容] 様々なタイプの組織について，基本的な構造を説明する<br>[授業外学修]組織の基本類型について復習しておくこと | ⑮ | [テーマ] 女性とスポーツ（渡邉）<br>[内容]女性の身体的・体力的特徴について基本的知識を深め，発育年齢に応じた対応を説明する．<br>[授業外学修] 女性とスポーツについて復習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 組織のライフサイクルモデル（渡邉）<br>[内容] 組織構造が諸引力（目標，理念）に導かれ変化する様を説明する<br>[授業外学修] 組織のライフサイクルモデルについて復習しておくこと | ⑯ | [テーマ] 試験（宮崎）<br>[内容] 授業の理解度，到達度を確かめる試験を行う<br>[授業外学修]試験に備えてこれまで講義について復習しておくこと |

**成績評価方法（方針）**

授業の理解度，到達度を確かめるために試験を行う．試験は論述式を用いて実施し，その内容を得点化する．一定の基準に満たない場合は再考査を実施する．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | | ◎ | | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | 減点有り |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。私語，遅刻等の授業の授業進行の妨げとなり，他の受講生の迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることができない（失格条件）．授業計画は授業の進行により前後する場合がある．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 無し | 関連資格 | 社会教育主事任用資格，レクレーションコーディネーター，ジュニアスポーツ指導員，スポーツプログラマー，障害スポーツ指導員 |
| 教科書 | 無し（プリント資料を配布する） | 参考書 | Mintzberg on Management(Mintzberg)<br>スポーツマンと体力（ザチオルスキー） |
| オフィスアワー | 月曜日10:00～12:00（宮崎）・木曜日12:40～14:10（渡邉） | その他 | |

# ≪実技≫

| 授業科目名 | トレーニングの基礎<br>Fundamentals of Training | | | | 担当教員 | 門野・渡邉泰／武石・宮崎・柴山／山梨・鈴木良・溝口／黒澤・佐藤周／桑原・坪井・川戸 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 競技スポーツにおいて、体力は競技成績（パフォーマンス）を決定づける要因の一つである。<br>本授業では、効果的に体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論および方法について、実技と講義を交えて説明する。また、体力の測定方法、評価方法についても説明する。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ |

**授業の一般目標**

①体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。
②体力の測定方法と評価方法を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。<br>体力の測定・評価方法が説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 体力を向上させるためのトレーニングが実践できる。<br>体力の測定・評価ができる。 |

**授業計画（全体）**

体力要素を、①筋力、②スピード・敏捷性、③パワー、④持久力、⑤柔軟性、⑥調整力のカテゴリに分け、それぞれのカテゴリごとにその体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法、体力の測定・評価方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野)<br>[内容] 授業計画について説明する。<br>[授業外学修]テキストを読んで予習する。 | ⑨ | [テーマ] パワーを向上させるためのトレーニング理論と方法（武石・宮崎・柴山）<br>[内容] ハイパワーを向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。<br>[授業外学修]レポートを作成する。 |
| ② | [テーマ] 形態計測とその評価（門野）<br>[内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。<br>測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ] 持久力の測定と評価（門野・渡邉泰）<br>[内容] 持久力を測定し、評価する。<br>持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 |
| ③ | [テーマ] 新体力テストの実施とその評価（門野）<br>[内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 | ⑪ | [テーマ] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法（門野・渡邉泰）<br>[内容] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。<br>[授業外学修]レポートを作成する。 |
| ④ | [テーマ] 筋力の測定と評価（桑原・坪井・川戸）<br>[内容] 筋力を測定し、評価する。<br>筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 | ⑫ | [テーマ] 柔軟性の測定と評価（山梨・鈴木良・溝口）<br>[内容] 柔軟性を測定し、評価する。<br>柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 |
| ⑤ | [テーマ] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法（桑原・坪井・川戸）<br>[内容] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。<br>[授業外学修]レポートを作成する。 | ⑬ | [テーマ] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法（山梨・鈴木良・溝<br>[内容] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。<br>[授業外学修]レポートを作成する。 |
| ⑥ | [テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価（黒澤・佐藤周）<br>[内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。<br>スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 | ⑭ | [テーマ] 調整力の測定と評価（山梨・鈴木良・溝口）<br>[内容] 調整力を測定し、評価する。<br>調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] スピードを向上させるためのトレーニング理論と方法（黒澤・佐藤周）<br>[内容]<br>スピードと敏捷性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。<br>[授業外学修]レポートを作成する。 | ⑮ | [テーマ] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法（山梨・鈴木良・溝<br>[内容] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。<br>[授業外学修]レポートを作成する。 |
| ⑧ | [テーマ] パワーの測定と評価（武石・宮崎・柴山）<br>[内容] ハイパワーを測定し、評価する。<br>ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 | ⑯ | [テーマ] まとめ（門野）<br>[内容] 授業のまとめを行なう。<br>[授業外学修]テキストを読んで復習する。 |

**成績評価方法（方針）**

・①出席、②授業外レポートによって評価を行なう。
・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。提出されたレポートはコメントして返却する。
・授業態度も評価に含む。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ◎ | | | 50% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・体調をしっかり整えて授業に臨むこと。
・大学指定ウェアと、ランニングシューズを着用すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保体教諭、スポーツプログラマー、健康運動指導士・実践指導者、レクリエーション指導者、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | ガイダンスにて配布するテキストを使用する。 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 門野（A408）月曜10:00-11:00 | その他 | |

| 授業科目名 | 体操（含体つくり運動）<br>Gymnastic(P.A.) | | | | 担当教員 | 溝口　絵里加 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 教育現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員あるいはスポーツ指導者として、体つくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。教育現場での経験を活かして説明をする。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

①体つくり運動の領域特性とその目的を理解することができる。
②体つくり運動で行う運動内容やその実施方法を理解できる。
③運動対象者に応じた運動指導法を身につけることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体つくり運動の特性および学校体育での位置付けについて説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 仲間と協力して身体表現をすることができる。周囲の学生に対し適切なサポートをすることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 体つくり運動の指導ができる。指導者としてふさわしい手本を見せることができる。ねらいに応じた体操を創ることができる。 |

**授業計画（全体）**

実技を通して体つくり運動に関する専門的な指導方法を学んでいく。リズム体操の個人技能試験や、ねらいに応じた創作体操の発表により、指導方法や手本の仕方を身に付ける。また個人学習ノート(リフレクティブジャーナル)の記入（評価割合30％）を毎回の授業で行う。
実技試験や授業に取り組む態度等を総合して成績評価を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] 組み体操、組み立て体操（基礎）<br>[内容] 2人組みや多人数での基礎的な動きを修得する。<br>[授業外学修] 組み体操、組み立て体操について予習及び復習しておくこと |
| ② | [テーマ] 体つくり運動とは<br>[内容] 体つくり運動について配布資料を元に学ぶ。<br>[授業外学修]体つくり運動について予習しておくこと | ⑩ | [テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり(創作体操) ①導入<br>[内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。<br>[授業外学修]運動プログラムについて予習をしておくこと |
| ③ | [テーマ] ストレッチングと柔軟体操<br>[内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。<br>[授業外学修] 柔軟体操について予習しておくこと | ⑪ | [テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムつくり ②運動強度<br>[内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。<br>[授業外学修] 運動プログラムについて予習をしておくこと |
| ④ | [テーマ] 音楽に合わせた動き（基礎）<br>[内容] 徒手でのリズム体操の紹介。基礎的な動きを修得する。<br>[授業外学修] リズム体操の予習をしておくこと | ⑫ | [テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムつくり ③師範について<br>[内容] 手本となるような動きの見せ方について工夫する。<br>[授業外学修] 運動プログラムについて予習をしておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 音楽に合わせた動き（応用）<br>[内容] 個人テストでもあるリズム体操の紹介。<br>[授業外学修] リズム体操の復習をしておくこと | ⑬ | [テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムつくり ④まとめ<br>[内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄えが良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。<br>[授業外学修] 運動プログラムについて復習をしておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 用具体操・リズム体操<br>[内容] 用具を使った運動あそびの紹介。また、グループごとに考案し実践する。リズム体操の動きを確認する。<br>[授業外学修] リズム体操の復習をしておくこと | ⑭ | [テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムつくり⑤グループ発表<br>[内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。<br>[授業外学修] 運動プログラムについて復習をしておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 指導方法について<br>[内容] 指導者の在り方や指導方法について学ぶ。<br>次週のリズム体操個人テストに向けて動きの質を高める。<br>[授業外学修] 指導方法について復習をしておくこと | ⑮ | [テーマ] 授業全体を振り返る<br>[内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。<br>[授業外学修] 授業全体の復習をしておくこと |
| ⑧ | [テーマ] リズム体操個人テスト<br>[内容] リズム体操の個人テストを行う。<br>[授業外学修] テストに向けて事前にリズム体操の復習をしておくこと | ⑯ | [テーマ] 個人レポートの提出<br>[内容] 授業を振り返りレポートを作成する。<br>[授業外学修] 授業全体の復習をしておくこと |

**成績評価方法（方針）**

個人技能の出来栄えとグループ活動における課題達成度（評価割合70％）と、個人学習ノートの記入（評価割合30％）を総合して成績評価を行う。提出された個人学習ノートはコメントを付したうえで返却をする。また、受講態度が劣悪な場合と、欠席が4回以上の場合は、欠格条件とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（％） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | | 30% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・最初のガイダンスには必ず参加すること。
・原則4回以上の欠席は、評価対象外となる（公的理由での欠席も含む）。
・10分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・活動の妨げになるものは一切身に付けないこと。
・受講学生の技能レベル等に応じて、授業展開を多少変更することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 教員免許状（中高保体）・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士 |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 体つくり運動ー授業の考え方と進め方ー文部科学省 |
| オフィスアワー | 前/月14:30～16:00 後/金10:30～12:00 | その他 | 連絡先　er-mizoguchi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 陸上競技<br>Track and Field | | | | 担当教員 | 門野洋介・柴山一仁・宮崎利勝・名取英二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して教授する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。
自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を理解できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。 |

**授業計画（全体）**

グループに分かれ、競走種目（短距離走、リレー、ハードル走）、跳躍種目（走高跳、走幅跳）、投てき種目（砲丸投）を複数回に分けて実施していく。
最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野)<br>[内容] 授業計画について説明する。<br>[授業外学修]授業計画について復習しておく | ⑨ | [テーマ] 走高跳②(門野)<br>[内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。<br>[授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく |
| ② | [テーマ]短距離走①(名取)<br>[内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。<br>[授業外学修]短距離走のルールについて学習しておく | ⑩ | [テーマ] 走高跳③(門野)<br>[内容] 競技会形式で記録を測る。<br>[授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく |
| ③ | [テーマ] 短距離走②(名取)<br>[内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。<br>[授業外学修]リレーのルールについて学習しておく | ⑪ | [テーマ] 砲丸投①(宮崎)<br>[内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。<br>[授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく |
| ④ | [テーマ] 短距離走③(名取)<br>[内容]レースを行ない、記録を計測する。<br>[授業外学修]長距離走のルールについて学習しておく | ⑫ | [テーマ] 砲丸投②(宮崎)<br>[内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。<br>[授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく |
| ⑤ | [テーマ]ハードル走①(柴山)<br>[内容] ハードリングの技能について学習する。<br>[授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく | ⑬ | [テーマ] 砲丸投③(宮崎)<br>[内容] 競技会形式で記録を測る。<br>[授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく |
| ⑥ | [テーマ] ハードル走②(柴山)<br>[内容] インターバルの走り方について学習する。<br>[授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく | ⑭ | [テーマ] 実技試験①(名取・柴山)<br>[内容] 走(短距離走、ハードル)の記録を測定する。<br>[授業外学修]実技試験の振り返りをしておく |
| ⑦ | [テーマ] ハードル走③(柴山)<br>[内容] レースを行ない、記録を計測する。<br>[授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく | ⑮ | [テーマ] 実技試験②(門野)<br>[内容] 跳(走高跳)の記録を測定する。<br>[授業外学修]実技試験の振り返りをしておく |
| ⑧ | [テーマ] 走高跳①(門野)<br>[内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。<br>[授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく | ⑯ | [テーマ] 実技試験③(宮崎)<br>[内容] 投(砲丸投)の記録を測定する。<br>[授業外学修]実技試験の振り返りをしておく |

**成績評価方法（方針）**

・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。
・授業態度も評価に含む。
・記録、実技試験についてはフィードバックを行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・体調をしっかり整えて授業に臨むこと。
・大学指定ウェアと、ランニングシューズを着用すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 門野(A408)月曜10:00-11:00 | その他 | |

| 授業科目名 | 器械運動(男子)<br>Apparatus Gymnastics (Men) | | | | 担当教員 | 鈴木 良太 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。 |

**授業計画(全体)**

テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] 鉄棒③<br>[内容] 前振りとびおりの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ② | [テーマ]マット運動(接転系・倒立)①<br>[内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技術の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑩ | [テーマ] 鉄棒④<br>[内容] け上がり、前回り、後回り、前振りとびおりを連結させ連続技に発展させる<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ③ | [テーマ] マット運動(接転系・倒立)②<br>[内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑪ | [テーマ] 鉄棒⑤<br>[内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ④ | [テーマ] マット運動(発展技)③<br>[内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑫ | [テーマ] とび箱①<br>[内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑤ | [テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④<br>[内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑬ | [テーマ] とび箱②<br>[内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑥ | [テーマ] マット運動(連続課題)⑤<br>[内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑭ | [テーマ] とび箱③<br>[内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑦ | [テーマ] 鉄棒①<br>[内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑮ | [テーマ] とび箱④<br>[内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑧ | [テーマ] 鉄棒②<br>[内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑯ | [テーマ] とび箱⑤<br>[内容] 習得した技の課題によるテスト<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |

**成績評価方法(方針)**

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
・服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
・遅刻は原則認めない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店) |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室:A棟4階412 |

| 授業科目名 | 器械運動(女子)<br>Apparatus Gymnastics (Women) | | | | 担当教員 | 鈴木 良太 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。 |

**授業計画(全体)**

テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] 平均台③<br>[内容] 開始技・終末儀の基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ② | [テーマ]マット運動(接転系・倒立)①<br>[内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技術の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑩ | [テーマ] 平均台④<br>[内容] 得した技を連結させ連続技に発展させる<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ③ | [テーマ] マット運動(接転系・倒立)②<br>[内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑪ | [テーマ] 平均台⑤<br>[内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ④ | [テーマ] マット運動(発展技)③<br>[内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑫ | [テーマ] とび箱①<br>[内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑤ | [テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④<br>[内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑬ | [テーマ] とび箱②<br>[内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑥ | [テーマ] マット運動(連続課題)⑤<br>[内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑭ | [テーマ] とび箱③<br>[内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑦ | [テーマ] 平均台①<br>[内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑮ | [テーマ] とび箱④<br>[内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑧ | [テーマ] 平均台②<br>[内容] 平均台上での前転・ジャンプ系の基礎技能の習得<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑯ | [テーマ] とび箱⑤<br>[内容] 習得した技の課題によるテスト<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |

**成績評価方法(方針)**

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
・服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
・遅刻は原則認めない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店) |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室:A棟4階412 |

| 授業科目名 | 水　泳<br>Swimming（P. A. ） | | | | 担当教員 | 渡邉　泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点（安全管理に関する内容を含む）について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。 | v |

**授業の一般目標**

体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けることができるようになる。水泳動作のメカニズムと指導法を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。 |

**授業計画（全体）**

最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここで一旦泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業は、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者は泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】<br>[内容] 100m個人メドレー（50Br+50Fr）の泳法検定を行う。合格者は指導員となり指導体験に移行する。不合格者はノルマ練習を行う。<br>[授業外学修] 検定結果を踏まえて各自の課題について復習すること。 |
| ② | [テーマ] 水泳指導法【講義】<br>[内容] 「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。<br>[授業外学修] 水泳指導の心得について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】<br>[内容] 指導員は、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い課題に応じて練習を行い泳力向上を目指す。<br>[授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。 |
| ③ | [テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】<br>[内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。<br>[授業外学修] 水中安全管理と安全対策について復習すること。 | ⑪ | [テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】<br>[内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。<br>[授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復讐すること。 |
| ④ | [テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】<br>[内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れの方法を説明する。加えて、クロール及び平泳ぎの泳能力調査を実施する。<br>[授業外学修] 入水、水慣れの方法について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】<br>[内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。<br>[授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復讐すること。 |
| ⑤ | [テーマ] 浮き身・立泳ぎ（巻足）泳法の原理紹介、体験【実技】<br>[内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。<br>[授業外学修] 浮き身と立ち泳ぎについて復習すること。 | ⑬ | [テーマ] 水泳・水中運動①【実技】<br>[内容] 水中における運動指導法と実際について、水中ウォーキング等を例に挙げながら解説する。<br>[授業外学修] 水中運動の種類と実施上の注意点について復習すること。 |
| ⑥ | [テーマ] クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】<br>[内容] 指導員による模範泳法を基に、両泳法の原理、泳げない原因を解説する。加えてその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。<br>[授業外学修] クロールと背泳ぎの泳法の違いについて復習すること。 | ⑭ | [テーマ] 水泳・水中運動②【実技】<br>[内容] 水中における運動指導法と実際について、アクアビクス等を例に挙げながら解説する。<br>[授業外学修] 水中運動の種類と実施上の注意点について復習すること。 |
| ⑦ | [テーマ] 平泳ぎ・ﾊﾞﾀﾌﾗｲ泳法の原理紹介【実技】<br>[内容] 指導員による模範泳法を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。<br>[授業外学修] 平泳ぎとバタフライの泳法の違いについて復習すること。 | ⑮ | [テーマ] 水泳・水中運動③【講義】<br>[内容] 水中運動指導に関わる知識（健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる）、水の原理、水泳の特性、効果等を解説する。<br>[授業外学修] 水の特性について復習すること。 |
| ⑧ | [テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】<br>[内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。<br>[授業外学修] クロールと平泳ぎの初心者指導法について復習すること。 | ⑯ | [テーマ] 水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】<br>[内容] 水中における運動指導法とトレーニングについて解説すると共に、水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー（50Br+50Fr）の泳法検定を行う。<br>[授業外学修] 検定結果について復習すること。 |

**成績評価方法（方針）**

実技は、100m（50m平泳ぎ+50mクロール）完泳が最低合格ラインで（可）評価、これに立泳ぎ1分間か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で（良）評価となる。更に指導体験を2回以上実施した者が（優）評価となる。（秀）評価は前述の全種目で高得点者に与えられる。理論に関わる講義は必ず出席。欠席の場合、レポート課題が課せられ、怠った場合は（不可）評価となる。提出レポートは授業内で解説しながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 80% |
| 授業態度 | | ○ | | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
①教職志望者は受講すること。
②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。
③海浜実習の受講希望者が望ましい。
④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 海浜実習、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、種目別コーチング演習Ⅱ（水泳）、スポーツコーチング実習（渡邉泰クラス） | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認水泳コーチ1、日本スポーツ協会公認水泳コーチ3、健康運動指導士、健康運動実践指導者 |
| 教科書 | なし | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 火曜日12:00～13:00（LC棟2階207研究室） | その他 | 連絡先：ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | バレーボール<br>Volleyball (P.A.) | | | | 担当教員 | 石丸出穂・片岡悠妃 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験、Vリーグコーチの実務経験を有する<br>バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 高校での教員経験の実務経験を活かし，6人制バレーボールの基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス，サーブ，スパイク)の向上に重点を置き，前半はバレーボールの練習法，指導法を紹介する．後半では，グループ活動でチームプレーの重要性を認識させ，仲間とのつながりを促し，ゲームを通してバレーボールの戦術紹介，ルール・審判法を説明する． | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 仲間との‘‘繋がり’’が、プレーの‘‘繋がり’’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。 |

**授業計画(全体)**

前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2～3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘‘繋がり’’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておく | ⑨ | [テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック<br>[内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う<br>[授業外学修]パスからスパイク動作を復習しておく |
| ② | [テーマ]オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術<br>[内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う<br>[授業外学修]高校まで授業で教わったオーバーハンドパスを復習しておく | ⑩ | [テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術<br>[内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する<br>[授業外学修]W型レセプションフォーメーションを確認する |
| ③ | [テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術<br>[内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う<br>[授業外学修]高校まで授業で教わったアンダーハンドパスを復習しておく | ⑪ | [テーマ] ゲームへの展開④<br>[内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う<br>[授業外学修]パスがセッターに返球できなかった際の攻撃方法を考える |
| ④ | [テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術<br>[内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う<br>[授業外学修]3人組でのパス練習について調査しておく | ⑫ | [テーマ] ゲームへの展開⑤<br>[内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う<br>[授業外学修]セッター、サイド、ミドル、リベロの役割を調査しておく |
| ⑤ | [テーマ] スパイクの基本技術<br>[内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う<br>[授業外学修]スパイクについて調査しておく | ⑬ | [テーマ] ゲームへの展開⑥<br>[内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う<br>[授業外学修]アウトオブ・ポジションについて調査しておく |
| ⑥ | [テーマ] スパイクの応用技術<br>[内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う<br>[授業外学修]スパイクの3ステップについて練習しておく | ⑭ | [テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト<br>[内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う<br>[授業外学修]直上バック(オーバーハンド)パスの練習をしておく |
| ⑦ | [テーマ] バレーボールの歴史とルール<br>[内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う<br>[授業外学修]コーチングバレーボール基礎編、等の参考書を読んでおく | ⑮ | [テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト<br>[内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う<br>[授業外学修]直上バック(アンダーハンド)パスの練習をしておく |
| ⑧ | [テーマ] ゲームへの展開①<br>[内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う<br>[授業外学修]サーブからスタートするゲームの流れやルールを理解しておく | ⑯ | [テーマ]<br>[内容] 期末テストは行わない<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(30%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(40%)、技術向上度(30%)、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合は、成績評価対象外とする。チェックテストについては授業内でフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | ◎ | 40% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ◎ | | ○ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
最初のガイダンスには必ず出席する事。欠席者は履修出来ないこともある。服装は仙台大学指定のジャージ及びTシャツ。体育館用シューズを用意。はだしでシューズをはくのは不可。時計・指輪・ピアス・ネックレスははずす。着替えは更衣室。バッグ等の貴重品は各自で管理、更衣室には絶対に置かない。試合で休む等は担当教員に直接口頭で伝える。それ以外は認めない。不幸があった際はあとから直接伝えにくること。遅刻は原則的に認めない。授業中は分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は退出してもらう場合もある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール) | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員、教員免許状(中高保体)<br>JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | Volleypediaバレーボール百科事典、バレークロニクル、コーチングバレーボール基礎編 |
| オフィスアワー | 石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50 | その他 | 石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | テニス<br>Tennis（P.A.） | | | | 担当教員 | 佐藤周平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 国立競技場体育指導員（テニス）の経験有 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

テニスの基本技術を修得しながら,テニスの面白さや奥の深さを体験し,理解を深めていく。ボールを打つという動作において共通して必要とされる能力を考え,実践していく。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

滞りの無い試合の実践。スポーツのもつ背景などを理解し、基本技術の修得だけではなく,広く,歴史や審判方法,試合の運営等についても理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し,積極的にコミュニケーションをとることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本技術の修得とゲームでの実践 |

**授業計画（全体）**

テニスの競技性の理解を深めることで,ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から,応用技術の修得へと発展していき,ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により,進度も変わってくる場合がある。
悪天候時には教室で,歴史・ルール等を学習する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介,成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説<br>[授業外学修]テニスの試合を動画にて観戦し、動作のイメージを作ってくる | ⑨ | [テーマ] テニスの基礎知識その1<br>[内容] テニスのルールと運用<br>主審、副審の体験<br>[授業外学修]ルールをまとめてくる。審判の方法を事前に調べてくる |
| ② | [テーマ] 基本技術その1 （ミニテニス）<br>[内容] ワンバウンドでボールを打ち合う（グランドストローク）<br>ダイレクトでボールを打ち合う（ボレー＆ボレー）<br>[授業外学修]力の調整や回転について、コツを考えてくる | ⑩ | [テーマ] テニスの基礎知識その2<br>[内容] テニスの歴史<br>講義の実施<br>[授業外学修]テニスの歴史についてまとめてくる |
| ③ | [テーマ] 基本技術その2 グラウンドストローク<br>[内容] ミニテニスより距離を長くして,グランドストローク（フォアハンド）<br>[授業外学修]ボールを飛ばす角度について事前に調べてくる | ⑪ | [テーマ] ダブルス<br>[内容] 基本戦術の理解その1<br>オンコートにて解説と練習<br>[授業外学修]ポジションにより変化する役割についてまとめてくる |
| ④ | [テーマ] 基本技術その3 サービス<br>[内容] サービスの基本を学ぶ<br>[授業外学修]肩の動き方について事前に調べてくる | ⑫ | [テーマ] ダブルス<br>[内容] 基本戦術の理解その2<br>オンコートにて解説と練習<br>[授業外学修]攻撃のパターンをまとめてくる |
| ⑤ | [テーマ] 基本技術その4 ボレー<br>[内容] ボレーの基本を学ぶ<br>[授業外学修]握り方と打ち方を事前に調べてくる | ⑬ | [テーマ] シングルス<br>[内容] 基本戦術の理解その3<br>オンコートにて解説と練習<br>[授業外学修]リカバリーのポジショニングについてまとめてくる |
| ⑥ | [テーマ] 基本技術その5 スマッシュ<br>[内容] スマッシュの基本を学ぶ<br>[授業外学修]サーブとの違いを事前に調べてくる | ⑭ | [テーマ] シングルス<br>[内容] 基本戦術の理解その4<br>オンコートにて解説と練習<br>[授業外学修]ANDについて調べてくる |
| ⑦ | [テーマ] 基本技術その6 サービス＆リターン<br>[内容] サービス＆リターンの基本を学ぶ<br>[授業外学修]リターンでやるべきことを事前に調べくる | ⑮ | [テーマ] 実技テスト<br>[内容] 基本技術の習得度をテストする<br>オンコートにて解説と練習<br>[授業外学修]それぞれの技術を復習してくる |
| ⑧ | [テーマ] 基本技術その7 アプローチショット<br>[内容] 攻めや守りの,展開となる動きを学ぶ<br>[授業外学修]ポジションの変更によって変化する打ち方をまとめてくる | ⑯ | [テーマ] テニスの基本知識のテスト<br>[内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする<br>[授業外学修]ルール、歴史、専門用尾について予習してくる |

**成績評価方法（方針）**

授業参加度、実技テスト、筆記テストの結果を総合して評価する。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 10% |
| 授業内レポート | ◎ | | | 10% |
| 授業外レポート | | | | 10% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | | 40% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・テニスコートの関係で，受講者の制限をします。（40名以内）
初回授業日に，抽選を行い受講者を決定します。
詳細は別途掲示します。
・コートを傷めないシューズ（テニスシューズ）を各自準備すること。
・ラケット,ボールは貸し出します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 前 木10:20-11:50 後 金14:20-15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | バドミントン<br>Badminton（P. A. ） | | | | 担当教員 | 林　直樹/菊地　直子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 林：（公財）日本バドミントン協会　医事トレーニング管理部・分析スタッフの経験を有する。<br>菊地：高等学校教員の経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

生涯スポーツとして最も適した種目の一つであるバドミントンは、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、中学・高校の体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について解説する。実務経験を活かして、分析的視点から主体的対話的で深い学びについて指導する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

v

**授業の一般目標**

バドミントンについて歴史や道具・安全配慮について理解し、技術の習得をする。最終的には、バドミントンの一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 打法とフライト、バドミントン一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。 |
| ■ | 情意的領域 | 授業内の規律について理解して行動することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本的な打法について、実際に修得している。 |

**授業計画（全体）**

バドミントンについて、基本的な知識を獲得しつつ、前半はスキル獲得に重点を置く。後半は、獲得したスキルを使ってのゲームや、ゲームの運営ができるように実際のゲーム運営を学生同士で行いながらすすめる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法の確認を行う。<br>[授業外学修]シラバスを熟読する。 | ⑨ | [テーマ] 競技としてのバドミントンを知る<br>[内容] 視聴覚教材を使って、バドミントン競技についてイメージの喚起を行う。<br>[授業外学修]基本的なルールについて、資料p.13、14を熟読する。 |
| ② | [テーマ]バドミントンを知る<br>[内容] バドミントンについて、歴史や道具などについて解説する。<br>[授業外学修]歴史、道具について、資料p.1、2、12を熟読する。 | ⑩ | [テーマ] ゲームの方法　シングルス①<br>[内容] シングルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。<br>[授業外学修]シングルスのルールについてまとめる。 |
| ③ | [テーマ]　基本的技術の習得1　アンダーハンドストローク(UHS)<br>[内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、訓練を行う。<br>[授業外学修]UHSの解剖学的機序、運動学的機序を整理する。 | ⑪ | [テーマ] ゲームの方法　シングルス②<br>[内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。<br>[授業外学修]シングルスの戦術についてまとめる。 |
| ④ | [テーマ] 基本的技術の習得2　オーバーヘッドストローク(OHS)<br>[内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。<br>[授業外学修]OHSの解剖学的機序、運動学的機序を整理する。 | ⑫ | [テーマ] ゲームの方法　ダブルス①<br>[内容] ダブルスのフォーメーションについて解説し、訓練を行う。<br>[授業外学修]トップ＆バックとサイドバイサイドについて理解する。 |
| ⑤ | [テーマ] 基本的技術の習得3　サービスとその他の返球<br>[内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。<br>[授業外学修]ネット型球技におけるサービスについてまとめる。 | ⑬ | [テーマ] ゲームの方法　ダブルス②<br>[内容] ダブルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。<br>[授業外学修]ダブルスのルールについてまとめる。 |
| ⑥ | [テーマ] 基本的技術の習得4　スマッシュ、クリア等のストローク<br>[内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。<br>[授業外学修]シャトルとラケットのコンタクト技術について整理する。 | ⑭ | [テーマ] ゲームの方法　ダブルス③<br>[内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。<br>[授業外学修]ダブルスの戦術についてまとめる。 |
| ⑦ | [テーマ] 基本的技術の習得5　ドロップ、ドライブ等のストローク<br>[内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。<br>[授業外学修]ストローク前後のムーブについて、資料p.11を熟読する。 | ⑮ | [テーマ] 実技の確認テスト<br>[内容] 基本的スキルをマスターしているか実技テストを行う。<br>[授業外学修]指導法について整理する。 |
| ⑧ | [テーマ] 基本的技術の習得6　プッシュ、レシーブ等のストローク<br>[内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。<br>[授業外学修]トラベリング技術について整理する。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 筆記によるテストを行う。<br>[授業外学修]指導の理論について整理する。 |

**成績評価方法（方針）**

定期試験は、実技テスト、筆記テストをそれぞれ1回実施する（評価割合30%）。日々の演習についてまとめた授業内レポートの提出を課す（評価割合20%）。毎回の実技についても評価する（評価割合50%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
試験は授業内で返却し、解説する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ◎ | | 欠格条件 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・3回以上欠席した学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・服装については、大学指定のものとする。
・安全配慮の観点から、インナーシューズと靴下の着用を義務付ける。
・質の保障・安全上の配慮から、人数を抽選などで調整する（最大44名）。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保健体育教諭・ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する。 | 参考書 | バドミントンの指導理論1（日本バドミントン指導者連盟）<br>バドミントンの理論と実技（岸一弘,大学教育出版） |
| オフィスアワー | F棟2階213（林直樹研究室）　火曜日10:20～11:50 | その他 | no-hayashi@sendai-u.ac.jp |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | 卓球<br>Table Tennis | | | | 担当教員 | 馬　佳濛 |
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 卓球講習会の講師を務めるなど実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 基本技術から戦術等に至るまで、実践ゲームでも応用できる技術を習得させる,よりイメージを掴みやすくさせるために、実際に模範演技を見せながら解説する。また、技術レベル、習得状況等の個人差を配慮したうえで指導する。また、技術習得のみならず、公認卓球指導者による実務経験を活かし、指導者の観点から授業を行う。 | iii |

**授業の一般目標**

1．卓球のルール、用具を知る。2．ボールの打ち感覚、動きを身に付ける。
3．ラリーを続けるようになる。4．ボールの回転を理解でき、いろいろなサーブを出せることと、相手のレシーブに対応ができる。
5．卓球の一連の基本技術を指導できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 卓球競技について理解し、ルール、競技構造を知る。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本的技術を習得する。 |

**授業計画(全体)**

卓球競技の各基本技術を習得してから、実践で活用できるシングルスとダブルスのゲームに展開していく。技能習得のレベルに応じてクラス分けて行う場合もある。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方, 成績評価方法, 用具の説明等<br>[授業外学修]シラバスを熟読する。 | ⑨ | [テーマ] 実践②<br>[内容] フォアハンド強打, シングルスゲーム<br>[授業外学修]フォアハンド強打について理解する。 |
| ② | [テーマ]基本の技術の習得①<br>[内容] 卓球の歴史, 各打法の紹介, ラケットの握り方, ゲーム<br>[授業外学修]卓球歴史について学習する。 | ⑩ | [テーマ] 実践③<br>[内容] バックハンド強打, ダブルスゲームの手法の紹介<br>[授業外学修]バックハンド強打について理解する。 |
| ③ | [テーマ] 基本の技術の習得②<br>[内容] 打球時の基本姿勢, フォアハンド, ゲーム<br>[授業外学修]フォアハンドについて理解する。 | ⑪ | [テーマ] 実践④<br>[内容] カット打法, ダブルスゲーム<br>[授業外学修]カットの戦型について理解する。 |
| ④ | [テーマ] 基本の技術の習得③<br>[内容] バックハンド, バックショート, 裏面打法, ゲーム<br>[授業外学修]バックハンドについて理解する。 | ⑫ | [テーマ] 実践⑤<br>[内容] シングルスとダブルスの基本戦術の紹介, 応用練習<br>[授業外学修]シングルスおよびダブルスの戦術について理解する。 |
| ⑤ | [テーマ] 基本の技術の習得④<br>[内容] フットワーク, 前後左右への動き, ゲーム<br>[授業外学修] フットワークの動きを練習する。 | ⑬ | [テーマ] 実践⑥<br>[内容] リーグ戦<br>[授業外学修]試合について反省する。 |
| ⑥ | [テーマ] 基本の技術の習得⑤<br>[内容] サーブ, レシーブ, ゲーム<br>[授業外学修]下回転について理解する。 | ⑭ | [テーマ] 復習<br>[内容] 各種技術の復習、上達度合の確認。<br>[授業外学修]テスト内容を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 基本の技術の習得⑥<br>[内容] ツッツキ, 各種サーブとそのレシーブの紹介, ゲーム<br>[授業外学修]様々な回転について理解する。 | ⑮ | [テーマ] テスト<br>[内容] 実技テスト<br>[授業外学修]テスト内容を復習する。 |
| ⑧ | [テーマ] 実践①<br>[内容] ルールの説明, シングルスゲームの手法の紹介, ゲーム<br>[授業外学修]ルールについて理解する。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 実技テスト<br>[授業外学修]授業の振り返り |

**成績評価方法(方針)**

実技試験(評価割合70%)、実技実施状況(評価割合15%)、授業態度(評価割合15%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、全体の2/3以下の場合は成績評価対象外とする。本授業の到達目標、授業運営、成績評価基準に関する補足説明。試験については(授業内で)解説をしながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ○ | 30% |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
1.授業態度が悪い学生に対して、減点や受講資格を失う場合もある。
2.運動しやすい服装と室内用靴を着用すること。
3.受講者同士で練習相手となるため、お互いの協力、学び合うように努めること。
4.受講希望者が多い場合、設備関係、質の保証を考慮することから、人数を抽選などで調整する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 馬研究室　第5体育館2階　火曜日10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | バスケットボール<br>Basketball | | | | 担当教員 | 山田恵子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 大学・高専での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業は、高校での教員経験を活かし、バスケットボールの専門的な競技特性について説明しながら実技を行う。競技特性を瞬時の攻防の切り替え（トランディション）と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び、専門分野への応用と人間的成長の礎とする。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バスケットボール競技に関する基礎的な知識と技術を理解し、説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | バスケットボール競技の構造特性を理解し、仲間と連携を取りながら、ゲームに楽しく参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | バスケットボール競技の基本的なスキルを習得し、初心者レベルや一般体育で、師範することができる。 |

**授業計画（全体）**

各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 1、競技の歴史説明　2、競技特性と攻防の概略説明<br>[授業外学修] 軽度の運動を行い、身体的コンディションを整える | ⑨ | [テーマ] トランディション1(攻防一体)<br>[内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担<br>[授業外学修] zone defenseの特性を調べておく |
| ② | [テーマ] 攻撃の個人スキル<br>[内容] 1、制限区域内のシュート　2、制限区域外のシュート　3、3点シュート　4、ピボットとドライブの方法　5、パスの方法<br>[授業外学修] シュートの種類についてポイントを整理しておく | ⑩ | [テーマ] トランディション2(攻防一体)<br>[内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担<br>[授業外学修] 速攻の方法を整理しておく |
| ③ | [テーマ] 攻撃の個人スキル<br>[内容] 1、制限区域内の防御　2、制限区域外の防御　3、ピボットやドライブに対する防御<br>[授業外学修] ディフェンスの種類についてポイントを整理しておく | ⑪ | [テーマ] 試合形式による展開1<br>[内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合　2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合<br>[授業外学修] トランディションのポイントを整理しておく |
| ④ | [テーマ] 集団スキルの攻防(1)<br>[内容] 1、1on1の攻防　2、2on1の攻防　3、3on2の攻防　4、3on3の攻防<br>[授業外学修] コンビネーションプレイについてまとめておく | ⑫ | [テーマ] 試合形式による展開2<br>[内容] 1、審判法と記録方法　2、戦術を含む展開方法　3、戦術的総合試合<br>[授業外学修] 審判の役割について調べておく |
| ⑤ | [テーマ] 集団スキルの攻防(2)<br>[内容] 1、4on3の攻防　2、4on4の攻防<br>[授業外学修] スクリーンプレイのコンビネーションプレイをまとめておく | ⑬ | [テーマ] 試合形式による展開3<br>[内容] 1、コーチの立場からの戦術（タイムアウト）　2、残時間と点差による戦術の展開　3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法<br>[授業外学修] チーム戦術について調べておく |
| ⑥ | [テーマ] ポジション毎の攻防<br>[内容] 1、ガードポジションの攻防　2、フォワードポジションの攻防　3、センターポジションの攻防<br>[授業外学修] ポジションの役割を調べておく | ⑭ | [テーマ] 試合形式による展開4<br>[内容] 10分試合による総合的な展開とベンチワーク<br>[授業外学修] チーム戦術と個人の役割について整理しておく |
| ⑦ | [テーマ] 集団スキルの攻防(3)<br>[内容] 1、3on3（G,F,Cポジションから）の攻防　2、4on4（2G,F,Cから）の攻防<br>[授業外学修] コートのスペーシングについてまとめておく | ⑮ | [テーマ] 試合形式による展開5<br>[内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営<br>[授業外学修] チーム戦術と個人の役割について整理しておく |
| ⑧ | [テーマ] 集団スキルの攻防(4)<br>[内容] 1、5on4（zone defense）　2、5on5（man to man defense）　3、5on5(zone defense)<br>[授業外学修] zone defenseとman to man defenseの理解をしておく | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 1、基本技術（ドリブル、シュート）のスキルテスト　2、競技特性の理解度と習熟度<br>[授業外学修] バスケットボールの総合的な技術の整理をしておく |

**成績評価方法（方針）**

個人のスキルテストの結果と試合を行った際のチームの勝敗、またバスケットボールのルールの理解度も含め総合して成績評価を行う。授業内での協力的な貢献度や授業態度についても、成績評価の判断の材料とする。尚、個人のスキルテストについては、評価の基準を授業内で説明する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | ○ | ◎ | | 30% |
| 出席 | ◎ | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業における服装は指定されている運動着とする。
・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 教員免許状（中高保体）<br>UPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日 10:20-12:00 | その他 | 研究室：第5体育館　25 |

| 授業科目名 | ハンドボール<br>Handball(P.A.) | | | | 担当教員 | 桑原　康平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業は、ハンドボールの基本的な技術・戦術の実技を身に付けることを中心に展開する。また、教員の実務経験を活かして、学校で授業を行う上での留意点や、ハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについて講義する。 | ⅰ、ⅳ |

**授業の一般目標**

ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を習得する。
実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ハンドボールの基本的な技術・戦術について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ハンドボールの個人技術（主にシュートとフェイント）と個人戦術（主にシュートとフェイント）を習得する。 |

**授業計画（全体）**

ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーションおよびハンドボールの特性1<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け<br>[授業外学修]オリエンテーション資料を読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能1、防御局面に必要な個人的技能2<br>[内容] 数的優位の際の攻撃理論（パラレル・クロス）<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]数的有利な状況について理解すること |
| ② | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能1<br>[内容] 集団行動（整列の仕方）、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明<br>[授業外学修]シュートの種類を整理しておくこと | ⑩ | [テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能2<br>[内容] 数的優位の攻撃理論（パラレル・クロス・スクリーン）<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]数的有利な状況の攻め方について理解すること |
| ③ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能2<br>[内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]シュートの投げ方の違いを理解すること | ⑪ | [テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能3<br>[内容] 数的優位の際の攻撃（パラレル・クロス・スクリーン・スライド）<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]数的有利な状況の攻め方を自ら組み立てること |
| ④ | [テーマ] ハンドボールの特性2とレフェリングの実際1<br>[内容] 競技規則についての説明映像を視聴した後、国内外の試合映像を視聴、戦術・技術・レフェリングについての説明<br>[授業外学修]ハンドボール競技のルールを整理しておくこと | ⑫ | [テーマ] 防御局面に必要な集団的技能1、レフェリングの実際2<br>[内容] リーグ戦において、6-0ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。レフェリングの方法について説明する。<br>[授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること |
| ⑤ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能3<br>[内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]ポジション別の役割について整理しておくこと | ⑬ | [テーマ] 防御局面に必要な集団的技能2、レフェリングの実際3<br>[内容] リーグ戦において、5-1ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。レフェリングの方法について説明する。<br>[授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること |
| ⑥ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能4<br>[内容] フェイントのステップ（片脚着地）<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]フェイントステップの種類を整理しておくこと | ⑭ | [テーマ] 防御局面に必要な集団的技能3、スキルの評価とその実際1<br>[内容] リーグ戦において、3-2-1ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。スキル評価の観点について説明する。<br>[授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること |
| ⑦ | [テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能5<br>[内容] フェイントのステップ（両脚着地）<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]フェイントステップの効果的な使い方を理解すること | ⑮ | [テーマ] スキルの評価とその実際2<br>[内容] 個人スキルの実技テストを行う<br>[授業外学修]得意なフェイントステップを繰り返して練習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 防御局面に必要な個人的技能1<br>[内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方<br>【基本内容（ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習）含む】<br>[授業外学修]フェイントステップを用いた合理的な攻め方を理解すること | ⑯ | [テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト<br>[内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う<br>[授業外学修]競技全般について理解を深めること |

**成績評価方法（方針）**

授業に対する関心・意欲・態度等（50%）。スキルテスト（30%）、筆記テスト（20%）を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。試験については（授業内で）解説をしながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
原則、欠席が4回以上になると評価対象外になります。
公式試合、大会参加（練習試合や合宿は不可）による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。
実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない（ケガ、病気等による）ことが予想される者は履修を控えてください。（治療後に履修するようにしてください。）
その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 教員免許状（中・高 保健体育）<br>JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | | 参考書 | 基本が身につくハンドボール練習メニュー200 |
| オフィスアワー | 前期（水）12:40-14:10　後期（木）10:20-11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | サッカー<br>Soccer(P.A.) | | | | 担当教員 | 吉井秀邦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れる。また、高校での教員経験を活かし、授業を実際に行う教員の観点から講義を行う。 | i 、iii |

**授業の一般目標**

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。 |
| ■ | 情意的領域 | より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。 |

**授業計画(全体)**

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] ペネトレーション(突破)①個人<br>[内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーの個人攻撃について事前に調べてくる |
| ② | [テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価<br>[内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価<br>[授業外学修] サッカーのルールについて事前に調べてくる | ⑩ | [テーマ] ペネトレーション(突破)②グループ<br>[内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのグループ攻撃について事前に調べてくる |
| ③ | [テーマ] ボールフィーリング①<br>[内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのドリブルについて事前に調べてくる | ⑪ | [テーマ] ボールを奪う①個人<br>[内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーの個人守備について事前に調べてくる |
| ④ | [テーマ] ボールフィーリング②<br>[内容] ボールをコントロール(止める)技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのコントロールについて事前に調べてくる | ⑫ | [テーマ] ボールを奪う②グループ<br>[内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのグループ守備について事前に調べてくる |
| ⑤ | [テーマ] パス&コントロール①<br>[内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのパスについて事前に調べてくる | ⑬ | [テーマ] スモールサイドゲーム<br>[内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、<br>[授業外学修] サッカーの戦術について事前に調べてくる |
| ⑥ | [テーマ] パス&コントロール②<br>[内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのポジショニングについて事前に調べてくる | ⑭ | [テーマ] 審判法<br>[内容] サッカーの審判法を学ぶ。<br>[授業外学修] サッカーの審判法について事前に調べてくる |
| ⑦ | [テーマ] ボールを失わない<br>[内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーの体の使い方について事前に調べてくる | ⑮ | [テーマ] ゲーム<br>[内容] 8;8のゲーム。正規ルールで行う。<br>[授業外学修] サッカーのオフサイドについて事前に調べてくる |
| ⑧ | [テーマ] シュート・ヘディング<br>[内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修] サッカーのヘディングについて事前に調べてくる | ⑯ | [テーマ] ゲーム<br>[内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。<br>[授業外学修] サッカーについて事前に調べてくる |

**成績評価方法(方針)**

出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。また、提出されたレポートは解説をしながら返却をする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | |
| 出席 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

- 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
- 各自サッカーができるシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)を用意する。
- 公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。
- 悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | 特に指定なし | 参考書 | 特に指定なし |
| オフィスアワー | 研究室:A棟4F414 木曜日12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | サッカー<br>Soccer(P.A.) | | | | 担当教員 | 黒澤　尚 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 日本サッカー協会の指導現場での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業はサッカーの正しい基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本技術を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを取り入れた授業とする。また、授業内容の充実と指導の徹底のためT＆Tにて授業実施する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。 |
| ■ | 情意的領域 | より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。 |

**授業計画（全体）**

日本サッカー協会での指導現場による実務経験を活かして、日本サッカー協会のコーチング法をベースに実技を行う。基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範と言語を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意<br>[授業外学修]選択する種目等についてシラバスで確認しておく | ⑨ | [テーマ] ヘディング<br>[内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]ヘディングの技術構造について確認し、練習しておく |
| ② | [テーマ]集団行動と最初の技能評価<br>[内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価<br>[授業外学修]授業で説明された技術やルールを確認し、練習しておく | ⑩ | [テーマ] トラッピング　その2（空中にあるボール）<br>[内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ＆パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]トラッピング　その2の技術構造について確認し、練習しておく |
| ③ | [テーマ] インサイドキック<br>[内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]インサイドキックの技術構造について確認し、練習しておく | ⑪ | [テーマ] インステップキック　その1（空中にあるボール）<br>[内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得<br>[授業外学修]インステップキックの技術構造について確認し、練習しておく |
| ④ | [テーマ] アウトサイドキック<br>[内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]アウトサイドキックの技術構造について確認し、練習しておく | ⑫ | [テーマ] インステップキック　その2（プレースキック）<br>[内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]インステップキックの技術構造ついて確認し、練習しておく |
| ⑤ | [テーマ] トラッピング　その1（グランダーボール）<br>[内容] グランダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]トラッピング　その1の技術構造について確認し、練習しておく | ⑬ | [テーマ] ドリブルとシュート・パス<br>[内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせたパターン練習とスモールサイドゲーム<br>[授業外学修]ドリブルとシュート・パスについて練習しておく |
| ⑥ | [テーマ] トゥキック、ヒールキック、ソールキック<br>[内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]3種類のキックの技術構造について確認し、練習しておく | ⑭ | [テーマ] ゲーム<br>[内容] ハーフコートでの8：8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用<br>[授業外学修]ポジションとその役割について調べておく |
| ⑦ | [テーマ] インサイドでのスワーブキック（インフロントキック）<br>[内容] インサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]スワーブキックの技術構造について確認し、練習しておく | ⑮ | [テーマ] ゲーム<br>[内容] フルコートでの11：11のゲーム。正規ルールで行う。<br>[授業外学修]ゲームで技術を発揮するためのポイントについて調べておく |
| ⑧ | [テーマ] アウトサイドでのスワーブキック（アウトフロントキック）<br>[内容] アウトサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得<br>[授業外学修]スワーブキックの技術構造についてを確認し、練習しておく | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、及びサッカーのルールに関する2つのレポート提出を達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングは、毎週授業時にウォームアップも兼ねてリフティングタイムを設け、小テスト的に確認するので、達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とせず、向上度を評価基準とする。提出されたレポートは（授業内で）解説をしながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ○ | 80% |
| 授業態度 | | | | 欠格条件 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・大学指定ウェアー着用
・各自サッカーシューズ（スパイク、トレーニングシューズ）用意
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席（見学）する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・授業態度は減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習ⅠⅡ（サッカー） | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室：A棟409　オフィスアワー：火曜日14：00～15：00 | その他 | |

| 授業科目名 | ラグビー<br>Rugby(P.A.) | | | | 担当教員 | 武石 健哉 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 判定系種目、陣取りゴール型であるラグビー種目の特徴を説明し、実技を行いながら解説を加えていく。 | i 、ii 、iii |

**授業の一般目標**

判定系種目、陣取りゴール型であるラグビー種目の特徴を理解し、課題に対して取り組む。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 陣取りゴール型の特徴を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | チームの中の自分の役割を理解し、ゲーム形式に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ゲーム形式にて自身のこれまでの運動経験を活かし、ラグビースキルを操作できる。 |

**授業計画(全体)**

ラグビーの全体像を説明してから実技に入っていく。人数、グランドの広さを調整しつつ毎時間ゲームを行う。最終的にタグラグビー、7人制、15人制のいずれかの形式にてテストのゲームを行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーについて説明する<br>[授業外学修]事前にラグビーの歴史・ルールについて調べてくること | ⑨ | [テーマ] タグラグビー⑤<br>[内容] モールを使って攻防を行う<br>[授業外学修]事前にラグビーのモールについて調べてくること |
| ② | [テーマ]目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる①<br>[内容] スペースを見つける、パススキル・キャッチングスキルの習得<br>[授業外学修]事前にラグビーのパスとキャッチのポイントを調べてくること | ⑩ | [テーマ] アタック方法の理解と実践①<br>[内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する<br>[授業外学修]事前にラグビーの攻撃方法について調べてくること |
| ③ | [テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる②<br>[内容] パスフォームの定着、パスのタイミングの習得<br>[授業外学修]事前にパスのタイミングについて調べてくること。 | ⑪ | [テーマ] アタック方法の理解と実践②<br>[内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する<br>[授業外学修]事前にラグビーの戦術について調べてくること |
| ④ | [テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる③<br>[内容] ストレート、スクリューパスの投げ分け<br>[授業外学修]事前にパスの種類と投げ方について調べてくること | ⑫ | [テーマ] ユニットプレー①<br>[内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する<br>[授業外学修]事前にラグビーのFWプレーについて調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] タグラグビー①<br>[内容] 防御者がいる状況で攻撃をする。スペースを見つける、相手をかわす、パスをするという1連のスキルをゲームを通して習得していく<br>[授業外学修]事前にタグラグビーのルールについて調べてくること | ⑬ | [テーマ] ユニットプレー②<br>[内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する<br>[授業外学修]事前にラグビーのFWプレーについて調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] タグラグビー②<br>[内容] 防御者がいる状況で攻撃をする。タグを取られてから連続的に攻撃を行う<br>[授業外学修]事前にラグビーの連続攻撃について調べてくること | ⑭ | [テーマ] アタック方法の理解と実践③<br>[内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する<br>[授業外学修]事前にセットプレーからの攻撃について調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] タグラグビー③<br>[内容] タグラグビーの攻防を行う。防御者は防御形態を考える。攻撃者は防御形態を見て攻撃を考える<br>[授業外学修]事前にラグビーの防御形態について調べてくること | ⑮ | [テーマ] テストのゲーム<br>[内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する<br>[授業外学修]事前にラグビーのゲーム構造について調べてくること |
| ⑧ | [テーマ] タグラグビー④<br>[内容] オフサイドという境界線の存在を理解し、攻防を行う<br>[授業外学修]事前にラグビーのオフサイドについて調べてくること | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] テストのゲームの振り返りを行う ラグビーの特徴についてまとめて解説する<br>[授業外学修]事前にラグビーの特徴を調べてくること |

**成績評価方法(方針)**

授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、テストのゲーム(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2／3以下の場合は成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。試験についてはまとめの授業にて振り返りながら解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ○ | ◎ | ◎ | 30% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ○ | ◎ | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | ◎ | ○ | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

種目分けをした最初のガイダンスには必ず出席すること。参加・体験型の学習を中心とする本授業では、自ら考え行動する意欲が必要とされる。身体接触が伴う競技であるため、授業に出席する際の靴や服装をよく考えることが必要。ピアスや貴金属、実技に適さない靴の着用は認めない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜:10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 柔道<br>Judo(P. A. ) | | | | 担当教員 | 川戸湧也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業では、柔道の基本動作および対人的応用技術の行い方と指導方法について学ぶ。本授業で取り扱う内容については、担当教員の実務経験を踏まえ、中学校・高等学校学習指導要領に記されている内容を取り扱うこととする。 | i 、iv、v |

**授業の一般目標**

柔道の基本動作と対人的応用技術を十分に行うことができるとともに、各技のポイントについて説明できるようになる。
柔道を指導するための指導計画を立案できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 日本傳講道館柔道の概要(歴史、目的)について理解しており、これを説明することができる。国際柔道連盟試合審判規定を理解しており、これに基づく試合の勝敗を判断することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 仲間と協力して運動課題に取り組むことができる。自分と相手の安全に配慮して活動をすることができる。仲間と協働して与えられた課題に取り組むことができるとともに、自らの課題について発見しその解決に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本的な投技5種類・固技3種類を施すことができる。中学校・高等学校における保健体育科の授業で柔道を指導するためのポイントについて理解しており、実践することができる。 |

**授業計画(全体)**

授業は、前半と後半に分ける。前半は、畳の上で素足で運動することになれるところから始めて、基本動作(礼法・姿勢・組み方・進退動作・受身)を学修するとともに基本的な技(膝車・支釣込足・体落・大腰・大外刈・袈裟固・横四方固・上四方固)を学修する。後半は応用的な技(背負投・内股・払腰)を学修する。それぞれの技術について、実技テストを行う。また前半終了時と最終回に講義を行いレポート課題を課す。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容]<br>授業の概要(展開、目標と評価の方法、約束事)の確認とグルーピング<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑨ | [テーマ] 応用的な技を学ぶ①<br>[内容]<br>背負投を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ② | [テーマ]受身を学ぶ<br>[内容]<br>横受身と後受身を学修する。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑩ | [テーマ] 応用的な技を学ぶ②<br>[内容]<br>内股を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ③ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ①<br>[内容]<br>膝車を学修する。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑪ | [テーマ] 応用的な技を学ぶ③<br>[内容]<br>払腰を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ④ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ②<br>[内容]<br>支釣込足を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑫ | [テーマ] 得意技を習得する。<br>[内容]<br>これまでに学修した技を振り返り得意技を身に付ける。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ⑤ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ③<br>[内容]<br>体落を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑬ | [テーマ] 得意技を習得する。<br>[内容]<br>これまでに学修した技を振り返り得意技を身に付ける。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ⑥ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ④<br>[内容]<br>大腰を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑭ | [テーマ] 自由稽古を行う<br>[内容]<br>これまでに学修した技を用いて自由稽古を行う<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ⑦ | [テーマ] 基本的な技を学ぶ⑤<br>[内容]<br>大外刈を学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 | ⑮ | [テーマ] 講義:近年の柔道競技様相について<br>[内容]<br>ルールの変遷について概観し、近年の競技様相について学ぶ。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。 |
| ⑧ | [テーマ] 講義:柔道の目的について<br>[内容]<br>柔道の目的について学び、日常生活との関連性を考える。<br>[授業外学修]柔道の目的について調査する。 | ⑯ | [テーマ] 実技試験を行う<br>[内容]<br>受身、投技および固技について実技テストを行う。<br>[授業外学修]柔道の各技について復習を行う。 |

**成績評価方法(方針)**

本授業では、3つの方法を用いて評価を行う。認知領域について、講義の際に課すレポート課題をもって5点満点で評価する。情意領域について、毎回の学修ノートを用いて5点満点で評価する。技能表現領域について、実技テストを用いて5点満点で評価を行う。なお提出されたレポート課題と学修ノートについては, 授業終了後にコメントを付けて返却する. ※欠席が授業の1／3を超える場合は、履修放棄とみなし、成績評価の対象としない。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・柔道は格闘技的性格を有する武道／スポーツです。授業中は、怪我に十分留意するようにしてください。安全に対する配慮を著しく欠く学生については、その後の受講を認めない場合があります。
・柔道衣は各自で準備してください。
(第1回目の授業で購入の手続きを紹介します)
・受講者数が多すぎる場合、集中授業を開講することで対応する場合があります。その場合は別途オリエンテーションを実施します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 柔道Ⅱ、武道実技(形) | 関連資格 | 中高保体・ジュニアスポーツ指導員・講道館柔道初段※有料 |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 川戸研究室(金曜10:20～11:50) | その他 | |

| 授業科目名 | 剣道<br>Kendo(P.A.) | | | | 担当教員 | 齋藤浩二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 剣道の基本動作と一本打ちの技の修得に重点をおいて行う。「技」の修得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。 | i 、iv |

**授業の一般目標**

剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようにする。また、日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。 |

**授業計画(全体)**

基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を修得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、礼法テーマ<br>[内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導<br>[授業外学修]礼法について事前に調べておくこと | ⑨ | [テーマ] 切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古<br>[内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古<br>[授業外学修]切り返しの仕方を調べてくること |
| ② | [テーマ] 基本動作の修得<br>[内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導<br>[授業外学修]竹刀の名称について調べておくこと | ⑩ | [テーマ] 連続技(二段技)の修得、互格稽古<br>[内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手ー面、小手ー胴、約束練習、互格稽古<br>[授業外学修]技の種類を調べてくること |
| ③ | [テーマ] 基本動作から打突動作への展開<br>[内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導<br>[授業外学修]稽古時の礼法について調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 引き技の修得、互格稽古<br>[内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古<br>[授業外学修]技の種類を調べてくること |
| ④ | [テーマ] 打突の仕方、打たせ方の修得<br>[内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導<br>[授業外学修]素振りの種類について調べてくること | ⑫ | [テーマ] 技の練習、試合への導入<br>[内容] 試合規則の説明、復習、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する→打突」のパターンによる練習、約束練習、互格稽古(試合のように実施する)<br>[授業外学修]技の種類を調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入<br>[内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる<br>[授業外学修]剣道具の名称を調べてくること | ⑬ | [テーマ] 試合への導入<br>[内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験<br>[授業外学修]試合規則を調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入<br>[内容]復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち<br>[授業外学修]手ぬぐいのつけ方を調べてくること | ⑭ | [テーマ] 簡易試合<br>[内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験<br>[授業外学修]試合規則を調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の修得<br>[内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習<br>[授業外学修]手ぬぐいのつけ方を練習をしてくること | ⑮ | [テーマ] 簡易試合<br>[内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合<br>[授業外学修]審判規則を調べてくること |
| ⑧ | [テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入<br>[内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古<br>[授業外学修]切り返しとは何かを調べてくること | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手ー面打ち<br>[授業外学修]技の動作内容を確認してくること |

**成績評価方法(方針)**

技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。実技試験については(授業内で)解説し伝える。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | | 30% |
| 授業態度 | | | △ | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。必要な用具として、竹刀と手拭いを準備してください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 中高保体、ジュニアスポーツ指導員、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | 全日本剣道連盟編『剣道指導要領』 |
| オフィスアワー | 木曜日 11:00～12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | ダンスⅠ<br>DANCE Ⅰ (P.A) | | | | 担当教員 | 山梨　雅枝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ダンス指導及び小・中・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。その後、フロアーの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。実務経験を生かして、これらの動きを教育や保育の現場で活かされるように構成された振付を実施する。これらの動きを音楽に合わせて行うことで、動きの技だけでなく音感を育むことも重視する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅴ

**授業の一般目標**

クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 自己の身体に気づくことができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 合理的な身体の動かし方について理解することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 質の異なる様々な動きに対応することができる。 |

**授業計画（全体）**

毎時間クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。<br>[授業外学修] 鑑賞した作品についてのレポートを作成する | ⑨ | [テーマ] ステップ①<br>[内容]　フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。<br>[授業外学修]質の違うステップについて確認する |
| ② | [テーマ]足の動きと手の動き<br>[内容] 5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。<br>[授業外学修]手足の動きの名称について復習する | ⑩ | [テーマ] ステップ②<br>[内容] フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。<br>[授業外学修]質の違うステップについて確認する |
| ③ | [テーマ]　両手でバーにつかまって行う動き<br>[内容] バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。<br>[授業外学修]自分の軸について確認する | ⑪ | [テーマ] バランスとターン①<br>[内容] フロアでバランスからターンを行う動きを行う。<br>[授業外学修]バランスとターンの動きについて確認する |
| ④ | [テーマ]　片手でバーにつかまる動き<br>[内容] バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。<br>[授業外学修]自分の軸について確認する | ⑫ | [テーマ] ジャンプとターン①<br>[内容]　フロアでジャンプとターンの動きを行う。<br>[授業外学修]床を踏む動きについて確認する |
| ⑤ | [テーマ] バーを用いたジャンプの動き<br>[内容]　床を踏んでからジャンプをするステップを行う。<br>[授業外学修]足の裏全体で床を踏む動きを確認する | ⑬ | [テーマ] ジャンプとターン②<br>[内容]　フロアでジャンプとターンの動きを行う。<br>[授業外学修]上半身の引き上げについて確認する |
| ⑥ | [テーマ] バーを用いてバランスとジャンプの動き<br>[内容] バーを用いて、バランスやジャンプを行う。<br>[授業外学修]両足でバランスをとる | ⑭ | [テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き①<br>[内容] 13回目までの授業で学んできた動きを音楽に合わせて踊る。<br>[授業外学修]音楽を覚える |
| ⑦ | [テーマ]　バーを用いたターンの動き<br>[内容]　バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。<br>[授業外学修]片足でバランスをとる | ⑮ | [テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き②<br>[内容]　13回目までの授業で学んできた動きを音楽に合わせて踊る。<br>[授業外学修]振付を確認する |
| ⑧ | [テーマ] ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き<br>[内容]　フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。<br>[授業外学修]ターンの時の顔を動きについて確認する | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。<br>[授業外学修]音楽に合わせて振付の練習をする |

**成績評価方法（方針）**

実技試験で、授業内容の理解度を確認する。実技試験終了後には、総評を行う。また、受講態度や出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位修得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位修得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位修得は認めない。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | | 5% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 15% |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。
・体調管理を怠らない。（飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。）
・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。
①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。
②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。
③服装については、授業担当者の指示に従うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ダンス　Ⅱ | 関連資格 | 教員免許状（中高保体）、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 | 参考書 | 片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991 |
| オフィスアワー | 火曜日:13:00～15:30 | その他 | 山梨研究室:第4体育館1階 |

| 授業科目名 | 海浜実習<br>Activity & Swim Camp | | | | 担当教員 | 渡邉　泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用しての水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて7月中旬に3泊4日間の日程で開講する。 | v |

**授業の一般目標**

事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳（約3km・2時間）完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。 |

**授業計画（全体）**

事前オリエンテーション、事前実技講習有り。実習日程は7月中旬（海の日を含む）に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み（事前に掲示にて告知）。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅳ【実技】<br>[内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、右回りと左回りでの方向転換の違いを説明する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ② | [テーマ] 海浜活動の理論Ⅰ【講義】<br>[内容] 海浜活動実施上の注意点及び安全管理の方法と万一有事の際の対処方法を解説する。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅴ【実技】<br>[内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、右回りと左回りの方向転換を組み合わせて目標地点まで泳ぐ。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ③ | [テーマ] 海浜活動の理論Ⅱ【講義】<br>[内容] 気象と海象の関係について解説する。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅵ【実技】<br>[内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、遠泳中の目標地点の変更とその対処方法について説明する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ④ | [テーマ] 海浜活動の理論Ⅲ【講義】<br>[内容] 風と波の関係及び潮汐の変化について解説する。加えて離岸流及び逆潜流の危険性について説明し、対処方法を解説する。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅶ【実技】<br>[内容] 泳能力別に目標時間を設定し、泳ぐペースを調整しながら目的地点まで泳ぐ。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑤ | [テーマ] 海浜活動の理論Ⅳ【講義】<br>[内容] 遠泳の歴史とその意義について解説すると共に、実習の具体的な運営方法や練習方法について説明する。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑬ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅷ【実技】<br>[内容] 泳能力別の隊列を解体し、実習生全体の隊列を再編成する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑥ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅰ【実技】<br>[内容] プールにて海浜活動における点呼の方法を説明すると共に、海浜を想定した隊列泳を実施し、泳力を確認する。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑭ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅸ【実技】<br>[内容] 実習生全体で大遠泳を実施し、全員の完泳を目指す。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑦ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅱ【実技】<br>[内容] 海浜にて海浜活動における点呼の方法を説明すると共に、泳能力別に隊列泳を実施し、泳力を確認する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | ⑮ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅹ【実技】<br>[内容] 着衣で落水した場合の対処方法を説明すると共に、落水を想定した体験活動を通して自己保全の方法を解説する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑧ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅲ【実技】<br>[内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、ペース配分と方向転換の方法を説明する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 | ⑯ | [テーマ] 海浜活動の実践Ⅺ【実技】<br>[内容] レクリエーション活動を通して、その他の海浜活動にふれる。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |

**成績評価方法（方針）**

本実習に関わる全ての日程（オリエンテーション、学内事前指導を含む）に参加し、大遠泳を完泳することが単位修得の条件となる。実習中の取り組みかた、レポート等の課題を総合的に判断して評価する。提出されたレポートは、コメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | ◎ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない（合否は問わない）。
②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100％でなければ参加できない。
③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的な受講態度が要求される。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 水泳、水上安全法（含実習） | 関連資格 | なし |
| 教科書 | なし | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 火曜日12:00～13:00（LC棟2階207研究室） | その他 | 連絡先:ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スキーⅠ<br>SkiⅠ(P.A.) | | | | 担当教員 | 井上　望・柴山一仁・高橋弘彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | スキー指導経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

スキーの基礎的理論・技術および指導法を習得する。また、学外実習の運営方法を学ぶとともに、集団生活を通して協調性やコミュニケーション力を育む。実習は、2月後半に、山形温泉蔵王温泉スキー場で実施する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

各技能ごとに班分けを行い、各自のスキー技術習得を目指す。教員の実務経験を活かし、初心者は全日本スキー連盟バッジテスト3級を目標とし、初級者及び中級者は2級、上級者は1級以上の技能獲得をできるよう努める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各自のレベルにおけるスキー技術について理解している |
| ■ | 情意的領域 | スキー及びスノースポーツに興味を持ち、熱意を持って取り組める |
| ■ | 技能表現的領域 | 自身の上達を実感し、各自のレベルに応じてスキー滑走ができる |

**授業計画(全体)**

初日に技術レベルごとに班編成をする。技術習得の効率を高めるため、原則として1班10名程度とする。午前・午後は指導員による講習を受講し、ナイターは各自の課題をもって班ごとの自主練習を行う。最終日には、班ごとにデモストレーション滑走を行う。
※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。その際は、4月の履修登録者が優先される。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] スキー用具の取り扱い方、基本的な動作<br>[内容] スキー用具の名称や取り扱い方、装着方法を理解する。スキーを装着した上での歩行動作、階段登行、転び方、立ち方等を習得する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑨ | [テーマ] パラレルターン2<br>[内容] ターン弧や身体の傾きを調整して、様々な斜面を滑ることができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ② | [テーマ]プルークファーレン、制動と停止<br>[内容] プルーク形状(ハの字)でまっすぐ滑れるようになる。正しいポジションと押し開きによって、停止できるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑩ | [テーマ] パラレルターン3<br>[内容] リズムやスピードを調整し、パラレルターンの小回りができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ③ | [テーマ]プルークボーゲン1<br>[内容] プルーク形状でターンできるようになる。連続したプルークボーゲンができるようになる(押し開き、外足荷重)。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑪ | [テーマ] カービングターン1<br>[内容] カービングターンの要素を加え、速度の要素を減らしながらパラレルターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ④ | [テーマ] プルークボーゲン2<br>[内容] 様々なターン弧・リズムで、プルークボーゲンができるようになる(ポジション、上下動、荷重)。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑫ | [テーマ] カービングターン2<br>[内容] カービングの要素を強め、加速しながらスピード感のあるパラレルターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑤ | [テーマ] パラレルターンへの展開1<br>[内容] パラレル形状(板を並行に揃えた状態)で、横滑りができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑬ | [テーマ] 不整地<br>[内容] 様々な雪面に対応できる技術を身につけ、不整地やコブを滑れるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑥ | [テーマ] パラレルターンへの展開2<br>[内容] シュテムターン(ハの字に開き出してターンし、後半にスキーを揃える)ができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑭ | [テーマ] デモンストレーション1<br>[内容] 同じ班のメンバーと協働して、各班のレベルに応じたデモンストレーション滑走(フォーメンション)を考案する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑦ | [テーマ] パラレルターンへの展開3<br>[内容] プルークボーゲンの外足荷重を強め、内膝を返したプルークターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑮ | [テーマ] デモンストレーション1<br>[内容] 考案したデモンストレーション滑走を練習し、全体で発表する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] パラレルターン1<br>[内容] 両足同時操作による、安定したパラレルターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑯ | [テーマ] ふりかえり<br>[内容] 学んだスキー技術、指導法、集団生活の過ごし方などをふりかえり、まとめる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |

**成績評価方法(方針)**

スキーへの取り組み、講習中およびホテルでの態度を総合的に評価する。スキー技術へのフィードバックは、班別レッスンの中で随時行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・オリエンテーションに無断欠席・遅刻した者、提出物や実習費振込が遅れた者は、実習への参加を認めない。欠席・遅刻する場合は事前に担当教員のところに相談にくるように。最初のオリエンテーションは11月を予定(掲示板で告知)
・実習費は43,000円程度を予定。スキーセット(ブーツ含)のレンタルは別途6,000円程度必要。レンタルウェアーはないため各自で準備する。
・実習期間中は禁酒・禁煙。違反者は自費で帰宅し、放棄扱いとなる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スキーⅡ(3年) | 関連資格 | 特になし |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 日本スキー教程(山と渓谷社) |
| オフィスアワー | 木曜4限 | その他 | 不明な点や相談があれば、事前に担当教員を訪ねること |

| 授業科目名 | キャンプ<br>Camp (P.A.) | | | | 担当教員 | 井上　望 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | キャンプ指導及びキャンプ指導者育成経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを通して、一般的な野外活動に必要とされるスキルや、プログラムの運営方法等を、体験を通して学んでもらう。さらに、指導者からは、実務経験を活かしながら指導法やキャンプ指導の魅力を伝える。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を促進する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。　・野外活動に必要な知識、技術を身につける。
・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 野外活動に必要な知識・技術を身につける。 |
| ■ | 情意的領域 | 自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。 |

**授業計画（全体）**

第一団8月29日（土）～9月1日（火）、第二団9月3日（木）～6日（日）（予定）に、南蔵王野営場で、原始的野外生活と冒険的活動を中心とした3泊4日の実習を行う。6人程度の班を編成し、1班に一人ずつ指導者がついて生活・活動の指導を行う。各実習は定員100名し、希望者多数の場合は抽選とする。キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う（詳細はオリエンテーション等で説明）。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 野外レクリエーション<br>[内容] 野外レクエーションを通して、班のメンバーの交流を深める。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑨ | [テーマ] 登山準備<br>[内容]3日目の登山の概要を理解し、登山スキルや装備について学習し、登山の準備をする。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ② | [テーマ]装備・道具の使い方<br>[内容] キャンプで使用する装備・道具の名称や正しい使い方を理解する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑩ | [テーマ] 野外炊事3<br>[内容] 2日目の夕食を作成する。実習生が主体的に考え、行動し、協力しながら時間内の完成を目指す。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ③ | [テーマ]テント設営<br>[内容] 家型テント及びドーム型テントを設営し、テントの設営方法を学ぶ。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑪ | [テーマ] 登山1<br>[内容] 縦走登山を体験する。地図やコンパスを使って、自分たちで主体的に登山を行う。登頂時の達成感を味わったり、ストレス環境下で自己理解を深める。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ④ | [テーマ] ナタの使い方・薪割り<br>[内容] ナタの正しい使い方を習得し、薪割りの技術を身につける。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑫ | [テーマ] 登山2<br>[内容] 縦走登山を体験する。困難な状況でも仲間と協力し合い、リーダーシップやフォロワーシップを学ぶ。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑤ | [テーマ] 野外炊事1<br>[内容] 1日目の夕食を作成する。薪割り、火おこし、調理など、班で協力して時間内の完成を目指す。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑬ | [テーマ] 登山3<br>[内容] 縦走登山を体験する。高山植物や野生生物などに触れ、自然への興味関心を育む。自然への肯定的感情を育み、自然配慮の精神を養う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑥ | [テーマ] 野外炊事2<br>[内容] 2日目の朝食及び弁当を作成する。前回の体験を活かし、スムーズに野外炊事を進めることを目指す。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑭ | [テーマ] キャンプファイヤー<br>[内容] キャンプでの体験を仲間とともにふりかえる。各班オリジナルのスタンツを作成し、発表する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑦ | [テーマ] 沢歩き1<br>[内容] 沢歩きを体験する。水の中で活動する楽しさや魅力を理解する。また、沢歩きを通して、グループの凝集性を高める。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑮ | [テーマ] 撤収<br>[内容] キャンプ用品の正しい撤収方法を学ぶ。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] 沢歩き2<br>[内容] 沢歩きを体験する。地図・コンパスの使い方やリスクマネジメントについて学ぶ。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑯ | [テーマ] ふりかえり<br>[内容] キャンプでの体験をふりかえり、レポートとしてまとめる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |

**成績評価方法（方針）**

実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。提出されたレポートについては、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 25% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・オリエンテーション等に無断欠席・遅刻した者、提出物や実習費振込が遅れた者は、実習への参加を認めない。欠席・遅刻する場合は事前に担当教員のところに相談にくるように。最初のオリエンテーションは5月を予定（掲示板で告知）
・実習費は11,000円程度を予定。必要最低限の道具は各自で揃えてもらう（詳しくはオリエンテーションで説明）
・実習期間中は禁酒・禁煙。違反者は自費で帰宅し、放棄扱いとなる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レク実Ⅰ・Ⅱ（1・2年）、スポマネ実習（2年）、野外教育活動論（3年）、野外・レクマネ論（3年）、野外レクマネ実習（3年） | 関連資格 | 特になし |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | （公社）日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」 |
| オフィスアワー | 木曜4限 | その他 | 不明な点や相談があれば、事前に担当教員を訪ねること |

| 授業科目名 | スケート<br>Skating(P.A.) | | | | 担当教員 | 川口鉄二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 幼稚園、中学、高校での教師経験を有する<br>日本スケート連盟主催講習の実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スケートに関する理論(歴史・滑走原理)及び基本技術(直進系・曲進系・転向系・停止系)を学習する。更に選択種目(フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー)の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを経験する。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

スケートの基本技術及び戦術の学習を通して指導力の前提となる種目特有のできる楽しさを理解し、安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の特性や管理方法なども理解する。日本スケート連盟バッジテストC級以上の取得を原則とし、更に、アイスホッケー競技の基礎経験をもとに、生涯スポーツとして継続できる原志向位相を身に付ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スケーティングの基本技術を理解している。 |
| ■ | 情意的領域 | フィギュア、アイスホッケー、スピードスケートの競技特性を踏まえ、自らの課題を理解して取り組める |
| ■ | 技能表現的領域 | 競技ルールに基づいて楽しみながら協力して課題、ゲームに取り組む |

**授業計画(全体)**

領域は希望と経験を考慮し、基礎、ﾌｨｷﾞｭｱ、アイスホッケー、インラインホッケーの各コースのいずれかを選択して実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場を予定。基礎技能を確認した後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級相当の技能テストを行い、更に、競技会形式などによってスケートを楽しめる技能を身につけていく。実習は春、秋(県内)、冬(盛岡)に行うが、ホッケーは用具の関係で人数制限あり(オリエンテーションで詳細を説明)。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 実習の概要、参加・選択方法、達成課題及び評価等について<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] 応用練習①<br>[内容] 検定課題に沿った技術習得練習。防具を装着しての滑走練習。<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ]各コース毎の概要説明<br>[内容] 基礎、フィギュア、アイスホッケー、インラインホッケーのコース毎の実習計画と参加方法についての説明<br>[授業外学修]参加登録方法についての理解 | ⑩ | [テーマ] 応用練習②<br>[内容] 検定課題に沿った技術習得練習。その場でのパスおよびハンドリング練習<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 実習コース毎の用具の知識と確認<br>[内容]実習に必要となる用具類の準備と安全確保への配慮<br>[授業外学修] | ⑪ | [テーマ] 応用練習③<br>[内容] 検定課題に沿った技術習得練習。滑走しながらのパスおよびシュート練習<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 基礎スケーティング①<br>[内容]準備運動、ペンギン歩行、前進滑走<br>[授業外学修] | ⑫ | [テーマ] 応用練習④<br>[内容] 検定課題に沿った技術習得練習。パックの奪い合い、連係プレーによるシュート練習<br>[授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] 基礎スケーティング②<br>[内容]フォアスケーティング、ひょうたん、スネーク、カービング、イの字ストップ<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] 応用練習⑤<br>[内容] 検定課題に沿った技術習得練習。ミニゲームとルールの理解<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] 基礎スケーティング③<br>[内容]イの字ストップ、バック歩行、滑走、ひょうたん、スネーク<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] 応用練習⑥<br>[内容] 検定課題に沿った技術習得練習。ルールに基づいた試合形式によるゲーム体験。<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 基礎スケーティング④<br>[内容]クロッシング、8の字カービング<br>[授業外学修] | ⑮ | [テーマ]テスト(C級、B級相当)<br>[内容] 予め提示された規定滑走のテスト検定<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 基礎スケーティング⑤<br>[内容] モフォークターン,バックカービング、二の字ストップ<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] まとめとレポート作成<br>[内容] 活動内容の総括とレポートの提出<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

実習割合の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。
毎時間提出のレポーは感覚の学習内容が記述されていることを条件とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 70% |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
①履修希望者は必ずオリエンテーションに参加し、実習参加登録が必要です。
②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具(スキー系ウェア、帽子、手袋)を身に付け、けがの防止に留意すること。④春、秋季(インライン・アイスホッケー:仙台市内他10,000程度)、と冬季(盛岡¥39,500程度、温泉泊)の選択が可能です。⑤スケート技能を身に付けようとする学生を優先するので、事前の学内練習を推奨します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 「コツとカンの運動学」大修館 |
| オフィスアワー | A403川口　水曜:13:00-2:00 | その他 | |

# 3.　発展科目

## ≪スポーツコーチングコース≫

| 授業科目名 | スポーツコーチング概論<br>Introduction to Coaching | | | | 担当教員 | 武石/阿部肇/石丸/吉井/桑原/門野/柴山/黒澤/名取/宮崎/渡邉(泰)/河野/川戸/林/小野寺 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この授業では測定系種目、判定系種目、評定系種目、武道各種目のコーチング方法について講義を行う。スポーツコーチング演習(専門的なコーチング)、スポーツコーチング実習(実践的なコーチング)との関連性を踏まえ講義を行う。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

測定系種目、評定系種目、判定系種目、武道各種目のコーチングの同じ点、異なる点を知り、スポーツコーチングのポイントを理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 測定系種目、評定系種目、判定系種目、武道の各種目のコーチングの特徴について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツコーチングのあるべき姿を追求すべく、多様な人とコミュニケーションを取りながら授業に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 授業にて得た知識を自身の専門競技におけるパフォーマンス発揮やスポーツ指導に活用できる。 |

**授業計画(全体)**

測定系種目:陸上競技、漕艇、水泳、判定種目:新体操、判定系種目:野球、テニス、バレーボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、武道の各種目を講義していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(武石)<br>[内容] スポーツコーチングについて 担当教員紹介、評価方法<br>[授業外学修]事前にスポーツコーチングを調べておくこと | ⑨ | [テーマ] 判定系種目 バドミントン(林)<br>[内容] バドミントンのコーチング方法<br>[授業外学修]事前にバドニントンの特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ② | [テーマ]測定系種目 陸上競技(門野・柴山)<br>[内容] 陸上競技のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に陸上競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑩ | [テーマ] 判定系種目 バレーボール(石丸)<br>[内容] バレーボールのコーチング方法<br>[授業外学修]バレーボールの特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ③ | [テーマ] 測定系種目 陸上競技(宮崎・名取)<br>[内容] 陸上競技のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に陸上競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 判定系種目 ハンドボール(桑原)<br>[内容] ハンドボールのコーチング方法<br>[授業外学修]ハンドボールの特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ④ | [テーマ] 測定系種目 漕艇 (阿部肇)<br>[内容] 漕艇競技のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に漕艇競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑫ | [テーマ] 判定系種目 サッカー男子(吉井)<br>[内容] サッカーのコーチング方法<br>[授業外学修]事前にサッカーの特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 測定系種目 水泳 (渡邉)<br>[内容] 水泳競技のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に水泳競技の特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑬ | [テーマ] 判定系種目 サッカー女子(黒澤)<br>[内容] サッカーのコーチング方法<br>[授業外学修]事前にサッカーの特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 評定系種目 新体操(河野)<br>[内容] 新体操のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に新体操の特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑭ | [テーマ] 判定系種目 ラグビー(武石)<br>[内容] ラグビーのコーチング方法<br>[授業外学修]事前にラグビーの特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 判定系種目 野球(小野寺)<br>[内容] 野球のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に野球の特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑮ | [テーマ] 武道 柔道(川戸)<br>[内容] 柔道のコーチング方法<br>[授業外学修]事前に柔道の特性とコーチングの方法を調べておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 判定系種目 テニス(佐藤周)<br>[内容] テニスのコーチング方法<br>[授業外学修]事前にテニスの特性とコーチングの方法を調べておくこと | ⑯ | [テーマ] 試験(武石)<br>[内容] 各種目のコーチング方法・共通の課題について<br>[授業外学修]事前にこれまでの講義内容をノートから確認しておくこと |

**成績評価方法(方針)**

試験レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。試験レポート課題について1回目のオリエンテーションにてポイントを説明する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | ○ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまうこと。授業計画は多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツコーチング演習、スポーツコーチング実習 | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員、NSCA-CPT、CSCS |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | トレーニング方法論<br>Training Methods | | | | 担当教員 | 柴山一仁/門野洋介/黒澤尚 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本講義では、トレーニングの一般原則ならびに競技力向上を狙いとした各種トレーニングの方法論を概説する。また、実際にトレーニング計画を立案する際に問題となる、個々のトレーニングをいかにして組み合わせ、配置するかについて、トレーニング構成の諸原則に基づき説明する。 | i |

**授業の一般目標**

主に競技力向上を目指した各種トレーニングの一般的理論およびそれらの具体的な方法論を理解する。また、短期、中期、長期的それぞれの観点に立ったトレーニング構成を理論的に考え、実際の計画立案ができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツトレーニング理論に基づく各種方法論を説明できる。トレーニング計画の理論的な立案ができるようになる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツトレーニング理論に関して、積極的な興味関心を持てるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

本講義では、競技力向上を目的とした運動(手段)すべてを「スポーツ・トレーニング」と捉え、筋力、スピード、持久力、柔軟性、調整力を養成する各種体力トレーニングの方法論について講義を行う。その後に、個々のトレーニングをいかに構成するかについて、大きく週間、月間、年間でのトレーニング周期に分けて、各々における諸原則を示す。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(柴山)<br>[内容] 担当教員の紹介および授業の内容、成績評価方法等について説明する<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] スキルの獲得とその獲得過程(黒澤)<br>[内容] スキルの獲得とその獲得過程について説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ② | [テーマ] トレーニングとは(柴山)<br>[内容] スポーツ・トレーニングの定義を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑩ | [テーマ] 技術・戦術トレーニング(黒澤)<br>[内容] 技術・戦術を向上させるためのトレーニングの理論・方法論を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ③ | [テーマ] トレーニングの一般原則(柴山)<br>[内容] トレーニングを遂行する上での一般的な原則を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑪ | [テーマ] トレーニング構成の一般原理(黒澤)<br>[内容] トレーニング構成の一般的な諸原理を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ④ | [テーマ] トレーニング負荷(柴山)<br>[内容] トレーニング負荷について量と強度の関係を含め説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑫ | [テーマ] 競技的状態(スポーツ・フォーム)(門野)<br>[内容] 競技的状態とは何か、その周期的発達特性を含めて説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 筋力の養成法(柴山)<br>[内容] 筋力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑬ | [テーマ] トレーニングの期分け(門野)<br>[内容] トレーニングの期分けについて説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ] スピード・パワーの養成法(柴山)<br>[内容] スピードおよびパワーの種類とそれらの具体的な養成法を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑭ | [テーマ] 週間、月間、年間のトレーニング構成(門野)<br>[内容] 1週間、1ヶ月、1年間を基本単位としたトレーニング構成の実例を紹介する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 持久力の養成法(柴山)<br>[内容] 持久力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑮ | [テーマ] トレーニング分析と管理(門野)<br>[内容] トレーニングの分析と管理の具体的な方法論を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 巧緻性の養成法(柴山)<br>[内容] 巧緻性とは何か、そしてその具体的な養成法を説明する<br>[授業外学修]配布資料を復習しておくこと | ⑯ | [テーマ] テスト(全教員)<br>[内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う<br>[授業外学修]試験内容の確認をしておくこと |

**成績評価方法(方針)**

試験は期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポートを課す場合がある(評価割合30%)。提出されたレポートは必要に応じて解説しながら返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・私語等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。
・授業計画は授業の進み具合いにより変更する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | アスレティックトレーナー |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 柴山研究室　A棟415　オフィスアワー　金曜4限 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ技術観察論<br>Morphology of Sports Movement | | | | 担当教員 | 川口鉄二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校,中学での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 体育教師やスポーツコーチの指導対象となるコツやカンの概念を理解し、その独特の形成位相と発生のための指導方法について人間学的運動学の立場から理解する。また、その際に必要となる運動観察法について、コーチングや審判で用いられる映像分析の例証を用いながら具体的に解説していく。 | i |

**授業の一般目標**

他者の動感観察により問題点を見抜き、適正な分析により課題を提示できるようにする。また、発生指導(できるようにする指導)の際には身近な映像機器類を適正かつ積極的に利用できるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各種スポーツ運動の技術を、各領域の概念や専門用語を用いて説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 各領域の観点から興味・関心を抱き、運動技術、戦術力について理解できる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

最新の理論を具体的な実技・演習も取り入れながら動感体験とともに理解していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] シラバスに基づき、本講義の授業概要、目標、評価方法、課題提出方法、参考文献などの説明を行う。<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ]測定系種目の判定基準にまつわる問題性<br>[内容] 測定系スポーツにおける審判の観察能力と測定基準の問題点を具体的な例証をもとに解説する<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ]ものの形と運動のかたち<br>[内容] 時間の中で出現する運動の「かたち」は、実際にどのようにして観察しているのか。ゲーテの色彩論を参考に運動のかたちを主観的に捉えていく必要性を解説する<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑩ | [テーマ] 判定系種目の判定基準にまつわる問題性<br>[内容] 判定系スポーツにおける審判の観察能力の問題点と判定基準を具体的な例証をもとに解説する<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 運動観察のための諸概念<br>[内容] コツ、カン、運動、技能、フォーム、等の、観察の際に必要となる関連概念についての現状認識を確認していく<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑪ | [テーマ] 評定系種目の判定基準にまつわる問題性<br>[内容]評定スポーツにおける審判の観察能力の問題点と採点基準を具体的な例証をもとに解説する<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 「動きの質」を見抜く<br>[内容] 実際の「運動」を例にその種類と質的特徴について解説する。また、その質を量化してしまう傾向の問題点を具体的に示し、類型の特性について解説する。<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑫ | [テーマ]「カン」を働かせる<br>[内容]実際のカン習得の経験を試みることでその感覚の発生様相を理解し、「カン」の記述の難しさやコツとの関係を実感しながら図式化を試みる。<br>[授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] コツの習得と運動アナロゴン<br>[内容] コツ習得の試みによってその感覚の発生様相を理解し、同時に「コツ」記述の難しさを実感しながら図式化を試みる。また、コツ習得の際の適正な技術認識と運動アナロゴンの重要性について解説する。<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑬ | [テーマ] 生涯スポーツと基礎的動感能力<br>[内容] 生涯スポーツの類型及び運動学的な基礎的動感能力がどこに求められるのかを考察する。<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] 運動の構造を把握する<br>[内容] 練習目標となる動き方の課題に関する分析方法を知る。マイネルの局面構造の理解と更なる感覚意識の構造を踏まえながら解説する。<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑭ | [テーマ] スポーツ傷害・イップスの運動学的分析<br>[内容]生理学的条件や心理学的問題に還元されやすいスポーツ障害やイップスについて、運動学的な志向分析を踏まえて解説する。<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ]運動の質を把握する<br>[内容] 運動の先取りをはじめ、マイネルのその他の質的メルクマールについて解説する。<br>[授業外学修]身近な例を用いて復習する | ⑮ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 授業のまとめと課題<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ]運動分析のための映像利用の歴史と問題性<br>[内容] 運動分析の歴史紹介。授業などにおけるICT導入の現状とその問題点について解説する。<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 記述形式を中心とした問題<br>[授業外学修]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。 |

**成績評価方法(方針)**

テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたのかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて具体的に記述させながら評価していきます。レポートは解説した上で返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | ○ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動学(含運動方法学)、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論 | 関連資格 | |
| 教科書 | 運動学講義(大修館) | 参考書 | スポーツ運動学(明和出版) |
| オフィスアワー | 水曜13:00-14:30 | その他 | tt-kawaguchi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツ技術観察論<br>Studies Sport Movement | | | | 担当教員 | 宮西　智久 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツバイオメカニクスはバイオメカニクスの「基礎編」であるのに対して、本講義はスポーツバイオメカニクスの「応用編」であり、実質的な内容は「スポーツ技術のバイオメカニクス論」である。走・跳・投をはじめ、具体的なスポーツ動作の技術について、コーチング(スポーツ技術・体力トレーニング論)の観点からバイオメカニクス的原理・原則(evidence-based coaching: EBC)について学ぶ。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ

**授業の一般目標**

スポーツバイオメカニクスで学んだ基礎知識を踏まえて、具体的に各種スポーツ運動の技術(動作)について定性的な観点からだけでなく、定量的な観点から科学的・合理的に理解することができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ運動動作の技術についてスポーツバイオメカニクスの基礎的知識を用いて説明し、応用することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ運動技術および体力トレーニングについて、バイオメカニクスの観点から興味・関心を示し、合理的に考える態度を身に付けている。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

本講義は、各種スポーツの運動動作、すなわち歩、走、跳、投、打、蹴などの「陸上運動」、泳などの「水中・水上運動」、滑などの「氷上・氷雪運動」の動作についてバイオメカニクス的観点から取り上げ解説する。教科書の内容を復習するとともに発展的に講述する。授業の後半では受講生の専門種目における技術的・体力的課題について取り上げ解説する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　コーチングのバイオメカニクス<br>[内容]　オリエンテーション、スポーツ技術及び体力トレーニング指導におけるバイオメカニクス的原理・原則。科学的エビデンス。<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ]　投げる動作のバイオメカニクスⅡ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ② | [テーマ]　歩く動作のバイオメカニクスⅠ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑩ | [テーマ]　打つ動作のバイオメカニクスⅠ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ③ | [テーマ]　歩く動作のバイオメカニクスⅡ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑪ | [テーマ]　打つ動作のバイオメカニクスⅡ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ④ | [テーマ]　走る動作のバイオメカニクスⅠ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑫ | [テーマ]　蹴る動作のバイオメカニクス<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ⑤ | [テーマ]　走る動作のバイオメカニクスⅡ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑬ | [テーマ]　泳ぐ・漕ぐ動作のバイオメカニクスⅠ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ⑥ | [テーマ]　跳ぶ動作のバイオメカニクスⅠ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑭ | [テーマ]　泳ぐ・漕ぐ動作のバイオメカニクスⅡ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ⑦ | [テーマ]　跳ぶ動作のバイオメカニクスⅡ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑮ | [テーマ]　滑る動作のバイオメカニクス<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 |
| ⑧ | [テーマ]　投げる動作のバイオメカニクスⅠ<br>[内容]　運動の定義、定性的観察、力学的課題、運動局面<br>[授業外学修]　教科書・配布プリントの予習と復習 | ⑯ | [テーマ]　試験<br>[内容]　選択問題(マークシート方式)<br>[授業外学修]　教科書、ノート、配布プリントを復習し試験に万全を期すこと。 |

**成績評価方法(方針)**

定期試験等に基づき評価する(解答掲出)。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ○ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | ― |
| 授業外レポート | | | | ― |
| 演習・実技 | | | | ― |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

受講条件他:
1)学生証を忘れた者及びその破損によりポータブルカードリーダーで読み取れない者は欠席とする。
2)教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない者は成績評価から減点する。
3)学期末定期試験の受験資格者は総授業時数の2/3以上の出席率(学則第34条)を満たした者である。授業の公欠はない。受験資格者は最終講義後に掲示板にて発表する。試験は学則(第34条)に基づき実施する。
4)指定座席に座ること。
5)スマホや携帯電話の使用は緊急時(災害時等)以外は原則禁止する。
6)教育環境の保全に協力すること。すなわち、講義に集中し静聴すること。静聴できない学生は周囲に多大な迷惑を掛けるだけでなく、講義の進行に支障を来すので受講しないこと。なお、受講態度(私語、飲食他)が悪い学生は減点するだけでなく、退室させる場合がある。
7)教科書、配布プリントの予習・復習を行うこと。
8)筆記用具、関数電卓を持参すること。
9)大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
10)その他重要事項(試験、出欠方法)の詳細は第1回目の講義において伝えるので必ず受講すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツバイオメカニクス(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、卒業論文(4年) | 関連資格 | 教員免許状、健康運動指導士・同実践指導者、ｱｽﾚﾁｯｸﾄﾚｰﾅｰ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、NSCA-CPT、CSCS、JPSUｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ |
| 教科書 | スポーツバイオメカニクス(宮西編著, 化学同人)<br>スポーツバイオメカニクス完全準拠ワークブック(宮西著, 化学同人)<br>その他:プリント配布 | 参考書 | スポーツ・バイオメカニクス入門(金子著, 杏林書院)<br>スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店)<br>バイオメカニクス(金子・福永編, 杏林書院) |
| オフィスアワー | 木曜日5時限(16:00-17:30) | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング研究法<br>Research Methods in Sports Coaching | | | | 担当教員 | 川口/門野/柴山/栗木/齋藤/中屋敷/佐藤久夫/宮西/児玉/南條/森本/阿部肇/武石/石丸/吉井/仲田/桑原/山梨/鈴木良/河野/黒澤/溝口/佐藤周 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本講義では，スポーツコーチング分野に関する研究を行う上で必要な方法論について概説し，コーチングコースの各教員の研究分野についての説明を行う．それらをもとに，研究テーマの設定や，文献の利用方法，データの解釈，統計的手法の選択方法など，様々な観点から研究の進め方について解説する． | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

スポーツコーチングに関係する様々な研究手法を用いて，具体的な研究課題の設定や研究の進め方を計画できるようになる．また，研究課題や課題達成のために用いる方法の妥当性について，適切に評価することができる．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツコーチングに関する様々な研究方法を説明できる．また，具体的に研究課題を設定し，それを解決するための方法を選択できるようになる． |
| ■ | 情意的領域 | スポーツコーチング分野の研究方法について興味，関心を持てるようになる． |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本講義では，研究論文を執筆できるようになることを目的として，先ず研究課題の設定方法や，その課題を達成するために必要な研究方法について講義を行う．その後，実験の計画方法や分析手法について説明し，それらの知識を基に論文執筆方法について学ぶ．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業内容についての説明，成績評価の説明等を行う．<br>[授業外学修] シラバスを確認しておくこと | ⑨ | [テーマ]研究分野の紹介⑧<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ]研究分野の紹介①<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ]研究の本質<br>[内容] スポーツコーチング分野における研究の意義や種類について説明する．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習しておくこと |
| ③ | [テーマ]研究分野の紹介②<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑪ | [テーマ]研究課題の設定<br>[内容] 研究課題の設定方法や諸言の記述方法について説明する．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習しておくこと |
| ④ | [テーマ]研究分野の紹介③<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑫ | [テーマ] 文献の利用方法<br>[内容] 文献レビューの目的や基本的な文献検索方法について説明する．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習しておくこと |
| ⑤ | [テーマ]研究分野の紹介④<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] 実験計画の作成<br>[内容] 実験を計画するための原則や，手順について説明する．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ]研究分野の紹介⑤<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] 分析方法の選択<br>[内容] 実験で得られたデータを分析するために選択すべき方法や，その方法に基づいたデータ処理過程について説明する．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ]研究分野の紹介⑥<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑮ | [テーマ] 研究と学問における倫理的問題<br>[内容] 科学的な不正行為や著作権などの倫理的問題について説明する．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ]研究分野の紹介⑦<br>[内容] スポーツコーチング分野における様々な研究分野について，コーチングコース所属の各教員が説明する．<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 授業の理解度を確かめるための試験を行う．<br>[授業外学修] 配布資料を基に復習し，試験対策を行っておくこと |

**成績評価方法（方針）**

試験（評価割合80%），授業内レポート（評価割合20%）によって評価する．授業における態度は減点対象とし，出席は欠格条件とする．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | 70% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
・20分以上の遅刻は欠席とみなす．
・授業中の私語は厳禁とする．
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜：13:00-2:00 | その他 | A棟403（川口） |

| 授業科目名 | スポーツコーチング演習<br>Sports Coaching Method | | | | 担当教員 | 武石/阿部肇/門野/柴山/黒澤/佐藤(周)/宮崎/佐藤周/渡邉(泰)/河野/林/入澤 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| コーチはどう考えるべきか、コーチングスキルを実践場面でどのように使うかを演習形式で行う。演習のまとめとしてコーチとしての方向性を明確にするためにコーチング現場視察、自己分析を行う。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

競技者やチームの目標設定、目標達成のために必要となるコーチング能力の基礎スキルを理解し、その重要性とその習得のためのトレーニングを知る。また自己の課題を知り、併せて現場のコーチングに不可欠な指導者としての考え方や心構えなどを学習を通して学ぶ

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | コーチング全般についての理解を深め、測定系種目、判定系種目、評定系種目、武道におけるコーチング方法を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツコーチングのあるべき姿を追求すべく、多様な人とコミュニケーションを取りながら授業に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 演習にて得た知識を自身の専門競技におけるパフォーマンス発揮やスポーツ指導に活用できる。 |

**授業計画(全体)**

授業テーマに応じた演習を複数の教員が同時開講形式で行う。各教員は種目ごとの個別方法論に基づいた演習、一般方法論についての演習を展開する。また最終課題として本学の実技授業、部活動の現場をコーチング的な視点、目的を持ち視察することを行い、コーチとしての方向性を明確にするために自己分析を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(武石)<br>[内容] 授業内容の説明、担当教員の紹介、評価方法の説明<br>[授業外学修]事前にスポーツコーチングについて調べてくること | ⑨ | [テーマ] 分析研究をコーチングに活かす(林)<br>[内容] バドミントンの配球分析、心理・技術・体力・戦術<br>[授業外学修]事前にバドミントンのゲーム内容について調べてくること |
| ② | [テーマ]コーチの仕事とは(川戸)<br>[内容]コーチのみるとは(見る、観る、診る、視る、診る)<br>[授業外学修]事前にコーチの仕事について調べてくること | ⑩ | [テーマ] 見方を変えてみる(渡邉泰)<br>[内容] 選手の能力を最大限伸ばす、対象者を把握して指導する<br>[授業外学修]事前に水泳とコーチングについて調べてくること |
| ③ | [テーマ] 年代別指導方法(門野)<br>[内容] 人の発達、発達段階、児童期から思春期の神経系の発達、加齢に伴うパフォーマンス<br>[授業外学修]事前に年代別指導方法について調べてくること | ⑪ | [テーマ] 質の高い学び・指導者の質(宮崎)<br>[内容] トレーニング計画の整理、心技体の関係、ハラスメントの理解<br>[授業外学修]事前にトレーニング、ハラスメントについて調べてくること |
| ④ | [テーマ] 学習指導案づくり(柴山)<br>[内容] 学習指導案の書き方、何を参考にするのか、生徒がとる行動、コーチが配慮すべき点や留意点<br>[授業外学修]事前に学習指導案について調べてくること | ⑫ | [テーマ] 活発なミーティングを行うためのヒント(入澤)<br>[内容] ブレーンストーミング、エバリュエーション、ポストイットの活用、個人で考える、グループで考える、全体で考える<br>[授業外学修]事前にミーティングの方法について調べてくること |
| ⑤ | [テーマ]コーチと選手に必要な言語能力(阿部肇)<br>[内容] コーチが思っていることを言葉にして正確に伝える、言葉を使う技術<br>[授業外学修]事前にコミュニケーションについて調べてくること | ⑬ | [テーマ] 初心者1日目の練習メニューを考える(武石)<br>[内容] スポーツは諸刃の剣、何を選手に育むためにコーチングするのか<br>[授業外学修]事前にスポーツの目的について調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] コーチと選手の目標設定(黒澤)<br>[内容] 分からないものを分かるように説明する、目的を明確化する<br>[授業外学修]事前にコミュニケーションについて調べてくること | ⑭ | [テーマ] 実技授業・部活動視察と報告書の作成(武石)<br>[内容] 本学実技授業を視察し、報告書にまとめる<br>[授業外学修]事前に各種目のコーチング方法について調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] 表現力について(河野)<br>[内容] 新体操の採点方、評価<br>[授業外学修]事前に新体操について調べてくること | ⑮ | [テーマ] 実技授業・部活動視察と報告書の作成(武石)<br>[内容] 本学実技授業を視察し、報告書にまとめる<br>[授業外学修]事前に各種目のコーチング方法について調べてくること |
| ⑧ | [テーマ] プレー中のメンタル面について(佐藤周)<br>[内容] ミスの原因を考える、人間力の育成<br>[授業外学修]事前にテニスとメンタルの関係について調べてくること | ⑯ | [テーマ] まとめ(武石)<br>[内容] コーチとしての方向性を明確にするため、自己分析を行う<br>[授業外学修]事前にスポーツコーチングについて調べてくること |

**成績評価方法(方針)**

評価は、定期試験30%、授業外レポート30%、演習の実施状況40%とする。出席は欠格条件となる。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 30% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | 30% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
スポーツコーチングコース所属学生向けの内容となる。2／3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。テーマに応じて全体もしくはグループ形式で授業を行う。
授業内容は授業の進度等により若干変更される場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツコーチング概論、スポーツコーチング実習 | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜:10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 阿部　肇 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | JOCコーチングディレクターとしての経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 競技レベルごとの競技活動を知ることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | イベントや行事に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本授業は漕艇の競技特性を理解したうえで、競技未経験者から競技経験者までを対象として実習を行う。競技の理解度、技術の習熟度など対象者の段階にあった指導法を学ぶうえで自身の競技理解度を向上させる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 授業の進め方、目標と目的、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを理解すること | ⑨ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級1<br>[内容] JOCコーチングディレクターとしての指導現場での実務経験を活かして、実習に向けて指導法について解説をする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級1<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝える手法を検討する<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級2<br>[内容] 国際競技力を有するアスリートととの合同トレーニング実施<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級2<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝える手法を検討する<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級3<br>[内容] 国際競技力を有するアスリートととの合同トレーニングから学んだコーチングに対するディスカッション<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級3<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝える手法を検討する<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級4<br>[内容] 国際競技力を有するアスリートととの合同トレーニングから学んだコーチングに対するディスカッション<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級4<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝えるためのイベントの企画<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級5<br>[内容] 全国マシンローイング大会東北ブロック大会の企画・運営<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級5<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝えるためのイベントの実施<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級6<br>[内容] 全国マシンローイング大会東北ブロック大会の企画・運営<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級6<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝えるためのイベントの実施<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ]漕艇競技のコーチング上級7<br>[内容] 全国マシンローイング大会東北ブロック大会の振り返り<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ]漕艇競技のコーチング初級7<br>[内容] 漕艇競技経験のない方や初心者へ、競技の魅力を伝えるためのイベントの振り返り<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法（方針）**

出席点数の評価割合を100％とする。授業中における消極的な姿勢や指導対象者に対する誠実さに欠ける態度などは減点対象とする。
全ての提出物（企画書・レポートなど）はコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 10% |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | | 80% |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
　私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 火曜　10:00-12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 栗木一博 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習のコンセプトを明確に理解することができる。また、実習先の業務内容を適切に理解することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加し、自主的に活動することができる。仲間と協力することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本実習のねらいや目標を理解するために，担当教員が実習前のオリエンテーションを数回行う．宮城県、山形県で行われている「コーチング」をキーワードとしたワークショップの一部を企画し、実際に活動を運営する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 実習内容の説明を聞き、その内容やコンセプトを的確に理解する<br>[授業外学修]あらかじめ示される実習の実施要領を熟読する | ⑨ | [テーマ] ワークショップの計画の確認と連絡調整②<br>[内容] 実習の対象となるワークショップ全体のコンセプトを把握し、自分たちのプログラムとの整合性について検討する。<br>[授業外学修]ワークショップ全体の構成を理解する |
| ② | [テーマ]プログラムの確認と準備①<br>[内容] 実習の中でどのような役割を果たすのかを的確に認識する。<br>[授業外学修]あらかじめ示される実習の実施要領を熟読する | ⑩ | [テーマ] プログラムのシミュレーション①<br>[内容] 自分たちの企画立案したプログラムのシミュレーションを行う。問題点などを明らかにし、修正を行う。<br>[授業外学修]プログラムの計画書を作成する |
| ③ | [テーマ] プログラムの確認と準備②<br>[内容] 実習の役割分担を決め、自分がどのような役割を担わなければならないかを理解する<br>[授業外学修]あらかじめ示される実習の実施要領を熟読する | ⑪ | [テーマ] プログラムのシミュレーション②<br>[内容] 自分たちの企画立案したプログラムのシミュレーションを行う。問題点などを明らかにし、さらに修正を行う。<br>[授業外学修]プログラムの計画書を作成する |
| ④ | [テーマ] プログラムの企画立案①<br>[内容] 自分が担当するプログラムを企画する。<br>[授業外学修]プログラムを理解し、その内容の構想を練る | ⑫ | [テーマ] ワークショップの運営とプログラムの実施①<br>[内容] ワークショップ全体の運営を行う。自分たちが企画立案したプログラムを実際に対象者の前で実施する。<br>[授業外学修]プログラムの最終確認を行う |
| ⑤ | [テーマ] プログラムの企画立案②<br>[内容] 自分が担当するプログラムを企画し、具体的な実施計画案を作成する。<br>[授業外学修]プログラムを理解し、その内容の構想を練る | ⑬ | [テーマ] ワークショップの運営とプログラムの実施②<br>[内容] ワークショップ全体の運営を行う。自分たちが企画立案したプログラムを実際に対象者の前で実施する。評価活動を行う。<br>[授業外学修]プログラムの評価を行う |
| ⑥ | [テーマ] プログラムの評価①<br>[内容] プログラムを評価するためにどのような方法があるのかについて調べ、自分たちの活動にあった評価方法を提案する<br>[授業外学修]プログラムの評価方法を調べる | ⑭ | [テーマ] ワークショップの運営とプログラムの実施③<br>[内容] ワークショップ全体の運営を行う。自分たちが企画立案したプログラムを実際に対象者の前で実施する。反省のためのミーティングを実施する。<br>[授業外学修]プログラムの反省を行う |
| ⑦ | [テーマ] プログラムの評価②<br>[内容] プログラム評価の具体的な手法を決定し、評価計画を策定する<br>[授業外学修]プログラムの評価計画の事例を調べる | ⑮ | [テーマ] 報告書の作成<br>[内容] ワークショップ全体の報告書を作成する。また、自分たちのプログラムがどのように機能したかについても話し合いを経て報告書に記載する<br>[授業外学修]報告書の作成計画を立案する |
| ⑧ | [テーマ] ワークショップの計画の確認と連絡調整①<br>[内容] 実習の対象となるワークショップ全体のコンセプトを把握し、他のプログラムとの連絡調整を実施する。<br>[授業外学修]ワークショップ全体の構成を理解する | ⑯ | [テーマ] 個人レポートの提出<br>[内容] 実習全体を振り返って自分が果たした役割について客観的なレポートを作成する。<br>[授業外学修]レポートの構成について考える |

**成績評価方法（方針）**

演習・実技での成果（50%），授業外レポート（25%），授業態度（25%），などを基に、総合的に成績評価を行う。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない（欠格条件）。
提出されたレポートは授業内で返却し、解説する。

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 25% |
| 演習・実技 | ○ | ○ | | 50% |
| 授業態度 | ○ | ○ | | 25% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
事前オリエンテーションには，必ず出席すること．そのためにも，掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。
事前の準備やシミュレーションが頻繁に行われるので、それにも参加して十分な準備が行えることを前提とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 石丸出穂 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験、Vリーグコーチの実務経験を有する<br>バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加し、お互いに尊重及び協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 指導の実践を通じてコーチングスキルを獲得できる。 |

**授業計画(全体)**

本実習のねらいや目標を理解するために、担当教員がバレーボール日本代表アナリスト、高校での教員経験、Vリーグコーチ実務経験を活かし、実習前のオリエンテーションを数回行う。具体的な活動内容は、学外クラブチームの実技指導(もしくは補助)、である.

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 第1回オリエンテーション(掲示板にて連絡)<br>[内容] 実習内容の説明、学生連絡先の確認(学内メール使用予定)<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておく | ⑨ | [テーマ] 事前準備(補助指導者)②<br>[内容] 実技補助指導のための指導案の作成について、個人で考え、よりよいサポート体制を検討する。<br>[授業外学修]バレーボールのドリルを調査する |
| ② | [テーマ]学外クラブチーム指導サポートの為の指導案作成について①<br>[内容] 実技指導のための指導案の作成について、グループで議論し、理解を深める<br>[授業外学修]スポーツコーチング概論・演習の復習を行っておく | ⑩ | [テーマ] オンサイト活動(補助指導者)②<br>[内容] 主体となる指導者をサポートしつつ、指導のポイントや課題を見極める。<br>[授業外学修]指導案を確認する |
| ③ | [テーマ] 事前準備(補助指導者)①<br>[内容] 実技補助指導のための指導案の作成について、個人で考え、よりよいサポート体制を検討する。<br>[授業外学修]バレーボールのドリルを調査する | ⑪ | [テーマ] 事後指導(補助指導者)②<br>[内容] 主体となる指導者と指導のポイントや課題について議論を深める。<br>[授業外学修]オンサイト活動を振り返る |
| ④ | [テーマ] オンサイト活動(補助指導者)①<br>[内容] 主体となる指導者をサポートしつつ、指導のポイントや課題を見極める。<br>[授業外学修]指導案を確認する | ⑫ | [テーマ] 事前準備(指導者)②<br>[内容] 実技指導のための指導案の作成について、個人で考え、よりよい指導体制を検討する。<br>[授業外学修]バレーボールのドリルを調査する |
| ⑤ | [テーマ] 事後指導(補助指導者)①<br>[内容] 主体となる指導者と指導のポイントや課題について議論を深める。<br>[授業外学修]オンサイト活動を振り返る | ⑬ | [テーマ] オンサイト活動(指導者)②<br>[内容] 補助指導者を戦略的に活用しつつ、説明、デモンストレーション、フォロー、等、対応する。<br>[授業外学修]指導案を確認する |
| ⑥ | [テーマ] 事前準備(指導者)①<br>[内容] 実技指導のための指導案の作成について、個人で考え、よりよい指導体制を検討する。<br>[授業外学修]バレーボールのドリルを調査する | ⑭ | [テーマ] 事後指導(指導者)②<br>[内容] 補助指導者と指導のポイントや課題について議論を深める。<br>[授業外学修]オンサイト活動を振り返る |
| ⑦ | [テーマ] オンサイト活動(指導者)①<br>[内容] 補助指導者を戦略的に活用しつつ、説明、デモンストレーション、フォロー、等、対応する。<br>[授業外学修]指導案を確認する | ⑮ | [テーマ] 全体での振り返り<br>[内容] オンサイト活動を振り返り、報告書(指導計画、それぞれの指導案、実際の内容とレビュー、反省レポート)を個別にまとめる<br>[授業外学修]報告書等まとめておく |
| ⑧ | [テーマ] 事後指導(指導者)①<br>[内容] 補助指導者と指導のポイントや課題について議論を深める。<br>[授業外学修]オンサイト活動を振り返る | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

演習・実技での成果(50%), 授業外レポート(25%), 授業態度(25%), などを基に、総合的に成績評価を行う。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。提出されたレポートは、相互理解を深める為のディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | | 25% |
| 演習・実技 | ○ | ◎ | | 50% |
| 授業態度 | ○ | ◎ | | 25% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

事前オリエンテーションには, 必ず出席すること. そのためにも, 掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること.

バレーボールの経験が豊富で. 知識もある程度持ち合わせている者. 本学バレーボール実技授業受講済みの者. 10名程度を限度と考えている. 遅刻・無断欠席は絶対にしない. 自ら授業を作り上げていく姿勢が求められるので, 何事にも積極的な態度が必要. 外部の機関を対象に指導等を行うので、上記のことが守れない場合や, 茶髪, 長髪, 髭等, 身なりが整っていない者は受け付けない.

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツコーチング概論、スポーツコーチング演習、バレーボール、種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール) | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50 | その他 | 石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum | | | | 担当教員 | 門野洋介／柴山一仁／宮崎利勝／名取英二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 陸上競技の指導体験を通して、指導方法および指導技能について教授する。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

中学生または高校生に対して、陸上競技の走・跳・投各種目の専門的指導を行い、指導方法および指導技能を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 陸上競技の指導方法が理解できる。 |
| ■ | 情意的領域 | やる気や熱意を持って指導に携わることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 陸上競技の指導方法を効果的に用いることができる。 |

**授業計画（全体）**

中学生または高校生を対象にした、①陸上競技の専門的内容の指導計画の作成し、②計画に基づいて指導をおこない、③さいふごに振り返りを行う、という手順で授業を進めていく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野)<br>[内容] 授業計画について説明する。<br>[授業外学修] 授業計画の復習をしておく | ⑨ | [テーマ] 指導の実施(門野)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ② | [テーマ]指導計画づくり(名取)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画の見直しをしておく | ⑩ | [テーマ] 指導の実施(名取)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ③ | [テーマ] 指導計画づくり(柴山)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] | ⑪ | [テーマ] 指導の実施(柴山)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ④ | [テーマ] 指導計画づくり(宮崎)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画の見直しをしておく | ⑫ | [テーマ] 指導の実施(宮崎)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ⑤ | [テーマ]指導計画づくり(門野)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画の見直しをしておく | ⑬ | [テーマ] 指導の実施(門野)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ⑥ | [テーマ] 指導計画づくり(名取)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画の見直しをしておく | ⑭ | [テーマ] 指導の実施(名取)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ⑦ | [テーマ] 指導計画づくり(柴山)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画の見直しをしておく | ⑮ | [テーマ] 指導の実施(柴山)<br>[内容] 作成した指導計画にもとづき、指導を行う。<br>[授業外学修] 指導の振り返りをしておく |
| ⑧ | [テーマ] 指導計画づくり(宮崎)<br>[内容] 指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画の見直しをしておく | ⑯ | [テーマ] 指導の振り返り(宮崎)<br>[内容] 指導の振り返りを行う。<br>[授業外学修] 振り返りレポートを作成する |

**成績評価方法（方針）**

・①指導計画、②指導内容と行動、③振り返りレポートで評価する。
・授業態度も評価に含む。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 25% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | 25% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・種目別コーチング演習Ⅰおよび Ⅱ（陸上競技）の単位を修得済であることを履修の条件とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰおよび Ⅱ（陸上競技） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 門野（A408）月曜10:00-11:00 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 川口鉄二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 幼稚園、中学、高校での教師経験を有する<br>日本スケート連盟主催講習の実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

初心者対象のスポーツ指導現場を通して、運動遊びや基礎技能の習得に関する発生指導、計画・管理方法などの知識を身につける。ジュニアキャンプあるいはスケート、ホッケー指導においてインターンシップを行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 実習概要の説明および担当実習の説明および決定<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ]ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] 学校体育教師、及び日本スケート連盟での実務経験を生かし、アイキッズスポーツ教室, 森の幼稚園(県内・外における野外活動教室), 冬季野外教室(スキー教室等)。全学部学生対象のスケート授業における補助学生として指導を補佐する<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 担当実習前の備品装備類の確認<br>[内容]実習に必要となる用具類の準備と安全確保への配慮<br>[授業外学修] | ⑪ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] | ⑫ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] | ⑮ | [テーマ] 用具管理、記録簿の作成<br>[内容] 実習にかかわる用具・備品などの管理とメンテナンス及び報告<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] ジュニアスポーツ指導ないしスケート実習の補佐<br>[内容] ②に沿って具体的な活動を行う<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] まとめとレポート作成<br>[内容] 活動内容の総括とレポートの提出<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

出席と実習及びレポート評価による。
レポートは解説した上で返却する

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | ○ | ○ | ○ | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | A403川口　水曜:13:00-2:00 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (RhythmicGymnastics) | | | | 担当教員 | 神野未来 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | (公財)日本スポーツ協会　公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 実習の成果をレポートにまとめることができる。事前指導で学んだことを、指導に生かすことができる。 |

**授業計画(全体)**

仙台大学開放講座ジュニア新体操教室の企画・運営・実践指導等を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の概要の説明。事前指導。<br>[授業外学修]シラバスを確認してくること。 | ⑨ | [テーマ] レッスン8回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ② | [テーマ] レッスン1回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑩ | [テーマ] レッスン9回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ③ | [テーマ] レッスン2回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑪ | [テーマ] レッスン10回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ④ | [テーマ] レッスン3回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑫ | [テーマ] レッスン11回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ⑤ | [テーマ] レッスン4回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑬ | [テーマ] レッスン12回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ⑥ | [テーマ] レッスン5回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑭ | [テーマ] レッスン13回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ⑦ | [テーマ] レッスン6回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑮ | [テーマ] レッスン14回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |
| ⑧ | [テーマ] レッスン7回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 | ⑯ | [テーマ] レッスン15回目<br>[内容] 準備体操・レクリエーション・演技伝達の指導補佐を行う。<br>[授業外学修] 指導内容の予習をしてくること。 |

**成績評価方法(方針)**

実習への積極性・参加態度・レポート等を見て、総合的に成績評価を行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ◎ | ○ | 40% |
| 授業態度 | ○ | ◎ | ○ | 40% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 新体操　種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(新体操) | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室:第4体育館1階 |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習（バスケットボール）<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 山田恵子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 大学・高専での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 競技レベルの違いによって、適切な指導法の選択ができる。 |

**授業計画（全体）**

大学・高専での実務経験を活かし、指導計画から指導までの一連の流れを実践を通して指導を行う。
小中高校生を対象に、バスケットボール競技に関する、指導計画の作成・指導・振り返りを行う。また、大学生以上のチームの指導現場を見学する。様々な競技レベルの対象者に沿った指導法を学ぶうえで、自身の競技理解度を向上させる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業概要の説明<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ]バスケットボールの技術指導3<br>[内容] 指導計画を基に、実習先で実際に指導を行う。<br>[授業外学修]指導者の役割を整理しておくこと |
| ② | [テーマ]バスケットボールの指導方法1<br>[内容] バスケットボールの指導方法について、ルールと照らし合わせながら説明する。<br>[授業外学修]バスケットボールのルールの整理をしておくこと | ⑩ | [テーマ] トップレベルチームの練習見学と補助1<br>[内容] 大学生以上のチームの現場見学（もしくは補助）を行い、バスケットボールの教養を深める。<br>[授業外学修]訪問先のチームについて調べておくこと |
| ③ | [テーマ] バスケットボールの指導方法2<br>[内容] 小中学生の指導方法を検討する。指導する際の留意点や問題点などについてまとめる。<br>[授業外学修]バスケットボールの戦術についてまとめておくこと | ⑪ | [テーマ] トップレベルチームの練習見学と補助2<br>[内容] 大学生以上のチームの現場見学（もしくは補助）を行い、バスケットボールの教養を深める。<br>[授業外学修]訪問先のチームについて調べておくこと |
| ④ | [テーマ]指導計画の作成1<br>[内容] 実際に指導を行うチームの課題や改善点を基に、指導計画を立案する。<br>[授業外学修]指導計画を熟考しておくこと | ⑫ | [テーマ]トップレベルチームの練習見学と補助3<br>[内容] 大学生以上のチームの現場見学（もしくは補助）を行い、バスケットボールの教養を深める。<br>[授業外学修]訪問先のチームについて調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 指導計画の作成2<br>[内容] 実際に指導を行うチームの課題や改善点を基に、指導計画を立案する。<br>[授業外学修]指導計画を熟考しておくこと | ⑬ | [テーマ] トップレベルチームの試合見学1<br>[内容] トップレベルチームの練習から試合までにの一連の流れを理解し、検討を行う。<br>[授業外学修]チームの戦術をまとめておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 指導計画の作成3<br>[内容] 指導計画を基に、受講生に模擬指導を行う。<br>[授業外学修]指導計画を熟考しておくこと | ⑭ | [テーマ] トップレベルチームの試合見学2<br>[内容] トップレベルチームの練習から試合までにの一連の流れを理解し、検討を行う。<br>[授業外学修]チームの戦術をまとめておくこと |
| ⑦ | [テーマ] バスケットボールの技術指導1<br>[内容] 指導計画を基に、実習先で実際に指導を行う。<br>[授業外学修]指導者の役割を整理しておくこと | ⑮ | [テーマ] 実習レポートの作成と発表1<br>[内容] カテゴリーの違いによる指導方法などを比較検討する。実習の内容についてパワーポイントまとめ、発表する。<br>[授業外学修]これまでの情報をまとめておくこと |
| ⑧ | [テーマ] バスケットボールの技術指導2<br>[内容] 指導計画を基に、実習先で実際に指導を行う。<br>[授業外学修]指導者の役割を整理しておくこと | ⑯ | [テーマ] 実習レポートの作成と発表2<br>[内容] 実習の内容についてパワーポイントまとめ、発表する。<br>[授業外学修]これまでの情報をまとめておくこと |

**成績評価方法（方針）**

指導計画の内容、指導の内容および行動、振り返りのレポートを基に、総合的に評価をする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ○ | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・専門的な知識も含めた授業になるためバスケットボール経験者が望ましい。
・事前オリエンテーションに必ず参加すること。
・意欲を持って、協力的に授業に参加すること。

| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ（バスケットボール） | 関連資格 | |
|---|---|---|---|
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日10:20-12:00 | その他 | 研究室：第5体育館　25 |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum（P.A.） | | | | 担当教員 | 黒澤　尚 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 日本サッカー協会の指導現場での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加し、お互いに尊重及び協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 指導の実践を通じてコーチングスキルを獲得できる。 |

**授業計画（全体）**

柴田町女子サッカーフェスティバルにアシスタントコーチとして参加し、企画・運営、基礎技術指導法等を学び実践する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意<br>[授業外学修] 選択する種目等についてシラバスで確認しておく | ⑨ | [テーマ] 指導の実践の振り返り<br>[内容] 指導の実践について振り返り、グループ内でディスカッションを行う<br>[授業外学修] 実習の課題を振り返り、整理しておく |
| ② | [テーマ] サッカーの指導法について<br>[内容] 日本サッカー協会の指導現場での実務経験を活かして、実習に向けてサッカーの指導法について解説をする<br>[授業外学修] サッカーの指導法について調べ、確認しておく | ⑩ | [テーマ] 指導のための事前準備<br>[内容] 作成した指導案をもとに用具を準備し、実際の指導に向けたシミュレーションを行う<br>[授業外学修] 指導案の見直しと課題について整理しておく |
| ③ | [テーマ] 指導案の作成<br>[内容] 実技指導を行うためにグループでディスカッションし、指導案の作成を行う<br>[授業外学修] 指導案の作成について調べ、整理しておく | ⑪ | [テーマ] 実習（指導の実践） その3<br>[内容] 柴田町女子サッカーフェスティバルにアシスタントコーチとして参加し、指導の実践を行う<br>[授業外学修] 指導案をもとに指導のポイントについて調べ、整理しておく |
| ④ | [テーマ] 指導のための事前準備<br>[内容] 作成した指導案をもとに用具を準備し、実際の指導に向けたシミュレーションを行う<br>[授業外学修] 指導案の見直しと課題について整理しておく | ⑫ | [テーマ] 指導の実践の振り返り<br>[内容] 指導の実践について振り返り、グループ内でディスカッションを行う<br>[授業外学修] 実習の課題を振り返り、整理しておく |
| ⑤ | [テーマ] 実習（指導の実践） その1<br>[内容] 柴田町女子サッカーフェスティバルにアシスタントコーチとして参加し、指導の実践を行う<br>[授業外学修] 指導案をもとに指導のポイントについて調べ、整理しておく | ⑬ | [テーマ] 指導のための事前準備<br>[内容] 作成した指導案をもとに用具を準備し、実際の指導に向けたシミュレーションを行う<br>[授業外学修] 指導案の見直しと課題について整理しておく |
| ⑥ | [テーマ] 指導の実践の振り返り<br>[内容] 指導の実践についてグループ内で振り返り、ディスカッションを行う<br>[授業外学修] 実習の課題を振り返り、整理しておく | ⑭ | [テーマ] 実習（指導の実践） その4<br>[内容] 柴田町女子サッカーフェスティバルにアシスタントコーチとして参加し、指導の実践を行う<br>[授業外学修] 実習の課題を振り返り、整理しておく |
| ⑦ | [テーマ] 指導のための事前準備<br>[内容] 作成した指導案をもとに用具を準備し、実際の指導に向けたシミュレーションを行う<br>[授業外学修]指導案の見直しと課題について整理しておく | ⑮ | [テーマ] 実習の振り返り<br>[内容] 実習を振り返り、グループ内でディスカッションする。またそれに対して解説を行う。<br>[授業外学修] 実習に対する総合的な自己評価を行う |
| ⑧ | [テーマ] 実習（指導の実践） その2<br>[内容] 柴田町女子サッカーフェスティバルにアシスタントコーチとして参加し、指導の実践を行う<br>[授業外学修] 指導案をもとに指導のポイントについて調べ、整理しておく | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

指導実践を終えてのレポート、実習の出席と受講態度及び指導実践などをもとに総合的に成績評価を行う。
提出されたレポートはコメントを付した上で返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ○ | 60% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ◎ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本実習を受講するにあたり、子どもたちを指導するのに相応しい態度や言動が出来る学生を希望する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 研究室：A棟409　オフィスアワー：火曜日14:00～15:00 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 桑原　康平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツコーチングを実践する上で、必要な能力について意見を述べることができる。<br>スポーツコーチングの実践力を向上させるために必要な取り組みについて、具体的な意見を述べることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。学外の人たちと積極的にコンタクト、コミュニケーションを図ることができ、主体的に実習に参加することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

実習の前に事前準備として、運営企画案、指導案等を作成する。その上で、必要な準備物や起こりうる事態に対する対処の仕方等についてシミュレーションを行う。また、実際にコーチングを行い、そこで感じたことをレポートすることで、コーチング全般について学ぶ。なお、実習はハンドボールを通じて行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目的、計画、評価方法について、説明する。基本的なスポーツコーチングに関する理論を学ぶ。<br>[授業外学修]シラバスを読み、科目の概要の理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導4<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 |
| ② | [テーマ]実習現場の現状1<br>[内容] 高校勤務の実務経験を活かし、高等学校や中学校の運動部活動の現状について説明する。<br>[授業外学修]高等学校・中学校学習指導要領「総則」の部分を読んでおくこと。 | ⑩ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導1<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 実習現場の現状2<br>[内容] スポーツ少年団や小学生クラブチームの現状について説明する。<br>[授業外学修]小学校学習指導要領「総則」の部分を読んでおくこと | ⑪ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導2<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 指導計画作成の実習1<br>[内容] 種目の特性に応じた基礎理論に即して指導計画を作成する。<br>[授業外学修]種目特性について整理しておくこと。 | ⑫ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導3<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 指導計画作成の実習2<br>[内容] 種目の特性に応じた基礎理論に即して指導計画を作成する。<br>[授業外学修]種目特性について整理しておくこと。 | ⑬ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導4<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導1<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 | ⑭ | [テーマ] 実習の振り返り1<br>[内容] 実習日誌を振り返りながら、実習を終えての感想や気づきについて、実習生と教員がフリートークする。<br>[授業外学修]フリートークで話した内容について情報をまとめる。 |
| ⑦ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導2<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 | ⑮ | [テーマ] 実習の振り返り2<br>[内容] 実習を経て、今後に活かせる知見や、反省点について5分程度で発表する。<br>[授業外学修]今後に活かせる知見について情報をまとめる。 |
| ⑧ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導3<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]実習日誌に実践した内容の記録と所感をまとめておくこと。 | ⑯ | [テーマ] 実習レポートの作成<br>[内容] 実習全体を1600字程度でレポートする。<br>[授業外学修]Wordソフトを用いてレポートを作成する。 |

**成績評価方法（方針）**

実習受け入れ先の評価および、実習日誌の内容や振り返りのレポートを基に、総合的に評価をする。なお、提出されたレポートについては、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 50% |
| 授業外レポート | ◎ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
受講者は、スポーツコーチングの現場において、ハンドボール競技の指導を行うため、ハンドボール競技を継続的に実践している者が履修することが望ましい。
受講者は、学校運動部活動など、大学外での実習になるため、周囲の環境に対応した身なりや服装を整えること。
受講者は、実習先や担当教員との連絡調整を行い、実習が計画通り行えるようにすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習（ハンドボール）Ⅰ<br>種目別コーチング演習（ハンドボール）Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | コーチング学への招待（大修館書店）<br>球技のコーチング学（大修館書店） |
| オフィスアワー | 前期（水）12:40-14:10　後期（木）10:20-11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 齋藤浩二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の指導内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 自らも基本的な動作を示すことから基本に忠実な技術を身に付けることができる。 |

**授業計画(全体)**

種目別コーチング演習Ⅰで行った指導法を基に、実際に「剣道」の授業に参加して剣道の技術指導を学び、指導の補助を行う。また、集中では中学生を対象とした練成会や講習会にて審判や指導の補助を実践する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の概要の説明、事前指導<br>[授業外学修]シラバスを確認をしてくること。 | ⑨ | [テーマ] 切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古<br>[内容] 切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古までの指導を補佐する<br>[授業外学修]]払い技の指導内容の予習をしてくること |
| ② | [テーマ]礼法・基本動作の修得<br>[内容] 礼法と基本動作までの指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容の予習をしてくること | ⑩ | [テーマ] 連続技(二段技)の修得、互格稽古<br>[内容] 連続技(二段技)の修得、互格稽古までの指導を補佐する<br>[授業外学修]連続技の指導内容の予習をしてくること |
| ③ | [テーマ] 基本動作から打突動作への展開<br>[内容] 基本動作から基本の打突動作までの指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容を予習してくること | ⑪ | [テーマ] 引き技の修得、互格稽古<br>[内容] 引き技の修得、互格稽古までの指導を補佐する<br>[授業外学修]引き技の指導内容の予習をしてくること |
| ④ | [テーマ] 打突の仕方、打たせ方、面打ちの修得<br>[内容] 素振り、基本動作、打突の仕方の指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容の予習をしてくること。 | ⑫ | [テーマ] 技の練習、試合への導入<br>[内容] 技の練習、試合への導入までの指導を補佐する<br>[授業外学修]試合規則の予習をしてくること |
| ⑤ | [テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入<br>[内容] 基本打突(面打ち)と剣道具(垂・胴)着装の指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容の予習をしてくること | ⑬ | [テーマ] 試合への導入<br>[内容] 試合への導入 の指導を補佐する<br>[授業外学修]試合の仕方を考えてくる |
| ⑥ | [テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入<br>[内容] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)までの指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容の予習をしてくること | ⑭ | [テーマ] 簡易試合<br>[内容] 試合の審判を行う<br>[授業外学修]審判法を予習してくる |
| ⑦ | [テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の修得<br>[内容] 打突の仕方(面・胴・小手) の指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容の予習をしてくること | ⑮ | [テーマ] 簡易試合<br>[内容] 試合の審判を行う<br>[授業外学修]審判法を予習してくる |
| ⑧ | [テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入<br>[内容] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入までの指導を補佐する<br>[授業外学修]次回の指導内容の予習をしてくること | ⑯ | [テーマ] 実習誌の作成<br>[内容] 実習内容のまとめて作成する<br>[授業外学修]実習内容をまとめてくること |

**成績評価方法(方針)**

実習での指導補助の評価(70%)、毎回の行った内容をまとめる(授業内レポート30%)、実習の態度や行動等を総合的な判断して評価する。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | | | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | | ○ | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・武道を学んで学生として、ふさわしい態度で臨んでください。好ましくない態度や事前指導の欠席の者は実習に参加することができません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ、剣道 | 関連資格 | |
| 教科書 | 『武道の必修化に伴う体育実技(剣道)指導』 | 参考書 | 『剣道指導要領』 |
| オフィスアワー | 木曜日　11:00～12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 佐藤周平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 国立競技場体育指導員(テニス)の経験有 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ii、iii、iv |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | テニスの競技特性を理解し,テニスのコーチングにおいて重要な点を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本技術を習得し、応用する指導に対しても対応することができる。 |

**授業計画(全体)**

テニスをコーチングするということを体で感じ、実践を通して理解を深めることのできる授業構成としている。前・後水曜日3・4限のテニスの指導補助を、3時間以上、柴田町テニス教室にコーチとして参加し、企画、運営、基礎技術の指導に関して学ぶ。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] テニスの競技性について<br>実習内容の説明<br>[授業外学修]テニスの競技特性について調べてくる | ⑨ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑥<br>[内容] テニスプレーヤーのメンタルマネジメント<br>[授業外学修]メンタルマネジメントマニュアル第3章を予習してくる |
| ② | [テーマ] 実習準備<br>[内容] 対象に合わせたの指導計画の確認と検討<br>[授業外学修]段階別指導方法の予習してくる | ⑩ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑦<br>[内容] 戦術的指導について<br>[授業外学修]試合動画(錦織対フェレール)を見て戦術要素を書き出してくる |
| ③ | [テーマ] 実習物品の確認<br>[内容] 実習で使う準備物の確認<br>[授業外学修]現場での使用物品の予習してくる | ⑪ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑧<br>[内容] フットワークの指導について<br>[授業外学修]フットワークの基礎を調べてくる |
| ④ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック①<br>[内容] 手を使ったボールフィーディング<br>[授業外学修]練習方法の予習をしてくる | ⑫ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑨<br>[内容] 模擬レッスン<br>[授業外学修]レッスン計画を立ててくる |
| ⑤ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック②<br>[内容] ラケットを使ったボールフィーディング<br>[授業外学修]練習方法の予習をしてくる | ⑬ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑩<br>[内容] 模擬レッスン<br>[授業外学修]レッスン計画の反省を踏まえたうえで、再度立て直してくる |
| ⑥ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック③<br>[内容] ボールフィーディングのバリエーション<br>[授業外学修]ビデオ教材を使って予習してくる | ⑭ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑪<br>[内容] テニススクールでの見学<br>[授業外学修]現場で起きていたことをまとめてくる |
| ⑦ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック④<br>[内容] 声かけ(ポジティブ・ネガティブ)<br>[授業外学修]言葉の力について予習してくる | ⑮ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑫<br>[内容] 模擬レッスン<br>[授業外学修]実習後の反省と、改善点をまとめてくる |
| ⑧ | [テーマ] テニスのコーチングテクニック⑤<br>[内容] テニスコーチのメンタルマネジメント<br>[授業外学修]メンタルマネジメントマニュアル第10章を予習してくる | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] レポート作成<br>[授業外学修]テニスのコーチングについてまとめてくる |

**成績評価方法(方針)**

授業態度、参加度、理解度、協力度などを総合的に評価する。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 10% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 40% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | ◎ | 40% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
テニスシューズを必ず用意する事

専門的な知識も含めた授業になるため、テニス経験者が望ましい

事前オリエンテーションに必ず参加する。掲示板連絡を見落とさないこと

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ(テニス)、種目別コーチング演習Ⅱ(テニス) | 関連資格 | |
| 教科書 | 選手とコーチのためのメンタルマネジメント・マニュアル | 参考書 | |
| オフィスアワー | 前期:木曜10:20-11:50 後期:金曜14:20-15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 鈴木 良太 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本的な技能を身に付け、それらを応用技能へ発展させ指導することができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業では、器械運動で学んだことをふまえ、応用技能への指導を中心に、実習(実技)の形式を用いて幇助法をについて授業を展開していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介, 授業の進め方, シラバス説明, 成績評価の方法<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] 授業の組み立て<br>[内容] 授業としての組み立ておよび割合について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ② | [テーマ] 準備運動①<br>[内容] 準備運動の重要性について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑩ | [テーマ] 発展運動①<br>[内容] 発展技を理解し、移行期について学ぶ(マット運動)<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ③ | [テーマ] 準備運動②<br>[内容] マット運動のための準備運動について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑪ | [テーマ] 発展運動②<br>[内容] 発展技を理解し、移行期について学ぶ(鉄棒)<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ④ | [テーマ] 準備運動③<br>[内容] 鉄棒のための準備運動について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑫ | [テーマ] 発展運動③<br>[内容] 発展技を理解し、移行期について学ぶ(跳び箱)<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑤ | [テーマ] 準備運動④<br>[内容] 跳び箱のための準備運動について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑬ | [テーマ] 出来栄えおよび評価方法①<br>[内容] 評価を行う上での注意点を理解する<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑥ | [テーマ] 幇助方法①<br>[内容] 安全を考慮し必要な場合の見極め(マット運動編)について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑭ | [テーマ] 出来栄えおよび評価方法②<br>[内容] マット運動の出来栄えおよび評価方法について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑦ | [テーマ] 幇助方法②<br>[内容] 安全を考慮し必要な場合の見極め(鉄棒編)について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑮ | [テーマ] 出来栄えおよび評価方法③<br>[内容] 鉄棒の出来栄えおよび評価方法について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑧ | [テーマ] 幇助方法③<br>[内容] 安全を考慮し必要な場合の見極め(跳び箱編)について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑯ | [テーマ] 出来栄えおよび評価方法④<br>[内容] 跳び箱の出来栄えおよび評価方法について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |

**成績評価方法(方針)**

授業への出席情況や態度および理解度を評価の対象とする。 また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語、遅刻等は授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とす。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ(体操競技) | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室:A棟4階412 |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum(P.A) | | | | 担当教員 | 武石　健哉 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | － |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえ、ラグビー競技に関連するイベント、競技会、本学ラグビー授業における企画・運営及び実技指導などに関する体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ラグビー競技の歴史、15人制、7人制ラグビー、タグラグビーの競技規則を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に対して積極的に参加する。実習生との関わり、実習先での指導対象者との関係を構築できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツコーチングにおけるコーチと選手の役割や関係性を理解しつつ、プレーのテクニック、コミュニケーションスキルを発揮できる。 |

**授業計画（全体）**

本実習のねらいや目標を理解するために、担当教員が実習前にオリエンテーションを行う。さらに、実習先の担当者からのオリエンテーションも受講する。ねらいや目標を達成すべく、実習に取り組む。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] 実習の進め方、方針、評価方法の確認<br>[授業外学修]事前にラグビーについて調べてくること | ⑨ | [テーマ] タグラグビー指導<br>[内容] 指導の振り返り<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること |
| ② | [テーマ]ラグビー授業補助<br>[内容] ラグビー授業の内容確認、事前指導<br>[授業外学修]事前にラグビーについて調べてくること | ⑩ | [テーマ] タグラグビー指導<br>[内容] タグラグビー指導<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること |
| ③ | [テーマ] ラグビー授業補助<br>[内容] ラグビー授業の補助<br>[授業外学修]事前にラグビーについて調べてくること | ⑪ | [テーマ] 柴田町ラグビーフェスティバル<br>[内容] ラグビーフェスティバルの説明<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること |
| ④ | [テーマ] ラグビー授業補助<br>[内容] ラグビー授業の内容確認、事前指導<br>[授業外学修]事前にラグビーについて調べてくること | ⑫ | [テーマ] 柴田町ラグビーフェスティバル<br>[内容] タグラグビーフェスティバル補助<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] ラグビー授業補助<br>[内容] ラグビー授業の補助<br>[授業外学修]事前にラグビーについて調べてくること | ⑬ | [テーマ] 柴田町ラグビーフェスティバル<br>[内容] タグラグビーフェスティバル補助<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] タグラグビー指導<br>[内容] タグラグビーの全体像、ルール<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること | ⑭ | [テーマ] 柴田町ラグビーフェスティバル<br>[内容] タグラグビーフェスティバル補助<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] タグラグビー指導<br>[内容] タグラグビー実技練習<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること | ⑮ | [テーマ] 柴田町ラグビーフェスティバル<br>[内容] 振り返り<br>[授業外学修]事前に自身の活動をまとめておくこと |
| ⑧ | [テーマ] タグラグビー指導<br>[内容] タグラグビー指導<br>[授業外学修]事前にタグラグビーについて調べてくること | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 全体振り返り<br>[授業外学修]事前に自身の活動をまとめておくこと |

**成績評価方法（方針）**

実習評価（70%),振り返りレポート（30%）、事前オリエンテーションの参加状況・実習態度などをもとに、総合的に成績評価を行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 30% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
ラグビー授業単位修得者、ラグビー経験者が望ましい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ラグビー、種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜：10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum(P.A.) | | | | 担当教員 | 南條充寿・川戸湧也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実習は，スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて，競技スポーツに関連する様々なイベント，競技会，講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験，或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって，より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである．

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

現場に適した態度で，仲間と協力して積極的に業務に専念する態度を養う．
指導者としての資質を高める．特に指導者が身に付けるべき知識・技術についてその素地を身に付ける．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 指導者として必要な知識構造を理解している． |
| ■ | 情意的領域 | 仲間と協力して業務に参画することができる． |
| ■ | 技能表現的領域 | 実習を通して指導者として必要な指導技術を獲得し，発揮することができる． |

**授業計画（全体）**

本実習のメインとなるイベントは，「全日本少年柔道育成会東北ブロック」という合同練習会である．
本実習では，イベント前に4回の事前ミーティングを行う．実習前日にはミーティングおよび準備を行う．実習当日は練習の補助と進行を行う．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容]<br>授業概要を理解する．<br>[授業外学修]昨年度資料を通読する． | ⑨ | [テーマ] 事前ミーティング⑧<br>[内容]<br>役割分担と業務内容を確認する．<br>[授業外学修]本年度資料を通読する． |
| ② | [テーマ]事前ミーティング①<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の作成とその修正を行う．<br>[授業外学修]前年度資料を通読し，本年度資料を作成する． | ⑩ | [テーマ] 事前ミーティング、およびイベント準備<br>[内容]<br>補助スタッフ全員と要綱の内容を共有するとともに，イベントの準備を行う．<br>[授業外学修]準備物の整理と準備 |
| ③ | [テーマ]事前ミーティング②<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の作成とその修正を行う．<br>[授業外学修]前年度資料を通読し，本年度資料を作成する． | ⑪ | [テーマ] イベントの運営①<br>[内容]<br>指導補助を行う．主に体落，大腰，一本背負投，大外刈を指導する．<br>[授業外学修]指導手順および指導内容について確認すること． |
| ④ | [テーマ] 事前ミーティング③<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の確認とその修正<br>[授業外学修]前年度資料を通読し，本年度資料を作成する． | ⑫ | [テーマ] イベントの運営②<br>[内容]<br>指導補助を行う．主に体落，大腰，一本背負投，大外刈を指導する．<br>[授業外学修]指導手順および指導内容について確認すること． |
| ⑤ | [テーマ] 事前ミーティング④<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の確認とその修正<br>[授業外学修]前年度資料を通読し，本年度資料を作成する． | ⑬ | [テーマ] イベントの運営③<br>[内容]<br>指導補助を行う．主に体落，大腰，一本背負投，大外刈を指導する．<br>[授業外学修]指導手順および指導内容について確認すること． |
| ⑥ | [テーマ] 事前ミーティング⑤<br>[内容]<br>イベント要綱を完成させる．<br>[授業外学修]前年度資料を通読し，本年度資料を作成する． | ⑭ | [テーマ] イベントの運営④<br>[内容]<br>指導補助を行う．主に体落，大腰，一本背負投，大外刈を指導する．<br>[授業外学修]指導手順および指導内容について確認すること． |
| ⑦ | [テーマ] 事前ミーティング⑥<br>[内容]<br>イベント要綱を完成させる．<br>[授業外学修]前年度資料を通読し，本年度資料を作成する． | ⑮ | [テーマ] イベントの運営⑤<br>[内容]<br>指導補助を行う．主に体落，大腰，一本背負投，大外刈を指導する．<br>[授業外学修]指導手順および指導内容について確認すること． |
| ⑧ | [テーマ] 事前ミーティング⑦<br>[内容]<br>役割分担と業務内容を確認する．<br>[授業外学修]本年度資料を通読する． | ⑯ | [テーマ] イベントの撤収作業および反省<br>[内容]<br>イベントで使用した物品を撤収し，清掃を行う．運営について反省を共有する．<br>[授業外学修]特に指定しない． |

**成績評価方法（方針）**

本実習では「レポート課題」および「観察」を用いて評価を行う．レポート課題では，実習全体を通した報告書を作成するとともに，反省を記したレポートを課す．レポートは学期末にコメントを付けて返却する．観察では，実習全体を通して主体的に関わろうとする態度を評価する．評価基準はオリエンテーションで提示しする．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 0% |
| 授業内レポート | | | | 0% |
| 授業外レポート | ◎ | | | 25% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ◎ | | 25% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目の性格上，授業への欠席については厳しく対応します．合計で4単位時間欠席した学生は評価の対象としません．
・本科目で企画するイベントには，学外から多くの子どもとその保護者が来場します．安全への配慮を著しく欠く学生は，出席状況に関わらず，単位不認定とする可能性があります．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に定めない | 参考書 | 特に定めない |
| オフィスアワー | 南條研究室（前）月14:30-15:20／（後）金10:30-11:20 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 宮西　智久 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | データを収集・分析できる。 |

**授業計画（全体）**

スポーツバイオメカニクス、スポーツ技術観察論の学習を踏まえて、それらの科学的知識が生産される現場体験を通じ、スポーツバイオメカニクスの観点からスポーツの技術やトレーニング指導（コーチング）に資する実践的な科学的知識・技術を学ぶ。具体的には、動作分析の初歩的理論を学んだ後に、実験や測定などを通して動作分析を体験学習する。走・跳・投などのスポーツ動作を対象に実際に被験者や測定者となって実験を実施する。関連学会大会、講演会等への参加・運営を通して最先端の科学的知識を学ぶ。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション（授業概要、目標、評価他）を行う。<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 | ⑨ | [テーマ] 動作分析法－実践編④<br>[内容] 跳躍動作解析<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ② | [テーマ] 動作分析法の歴史<br>[内容] 古代－中世－近代－現代－未来<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ] 動作分析法－実践編⑤<br>[内容] 投動作実験<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ③ | [テーマ] 動作分析法－理論編①<br>[内容] 写真解析法、映画解析法（シネマトグラフィ）<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 | ⑪ | [テーマ] 動作分析法－実践編⑥<br>[内容] 投動作解析<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ④ | [テーマ] 動作分析法－理論編②<br>[内容] 画像解析法（2次元、3次元）<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 | ⑫ | [テーマ] 動作分析法－実践編⑦<br>[内容] 打撃動作実験<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ⑤ | [テーマ] 動作分析法－理論編③<br>[内容] 床反力解析法、モーションキャプチャ解析法、データj処理法<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] 動作分析法－実践編⑧<br>[内容] 打撃動作解析<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ⑥ | [テーマ] 動作分析法－実践編①<br>[内容] 歩行動作実験<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 | ⑭ | [テーマ] 実習－まとめ①<br>[内容] 動作分析法の変遷史、動作分析法理論編<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ⑦ | [テーマ] 動作分析法－実践編②<br>[内容] 歩行動作解析<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 | ⑮ | [テーマ] 実習－まとめ②<br>[内容] 動作分析法実践編、課題提示<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 |
| ⑧ | [テーマ] 動作分析法－実践編③<br>[内容] 跳躍動作実験<br>[授業外学修] 教科書・参考書、配布プリントの予習・復習 | ⑯ | [テーマ] 課題等の提出<br>[内容] 課題レポートの提出<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

課題に対するレポートの提出（解説とともに返却）その他。毎回授業に出席すること（学則上2/3以上の出席率）。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | ― |
| 授業内レポート | | | | ― |
| 授業外レポート | ○ | | | 30% |
| 演習・実技 | | | ○ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

1)授業の特性を考慮して、実験・分析は集中（土日祝日、休業日）で実施する場合がある。
2) 高度な動作分析装置を使用するため、実験実施要領をきちんと理解し勝手な行動を取らないこと。
3)スポーツバイオメカニクス、スポーツ技術観察論の単位修得者であること。
4)授業への主体的な参加姿勢が求められる。
5)大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
6)その他重要事項を含めて詳細は第1回目の講義において伝えるので必ず受講すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツバイオメカニクス（2年）、スポーツ技術観察論(2年)、卒業論文（4年） | 関連資格 | |
| 教科書 | 身体運動のバイオメカニクス研究法（阿江・宮西編，大修館書店）<br>その他：配布プリント | 参考書 | スポーツバイオメカニクス（宮西編著，化学同人）<br>スポーツバイオメカニクス完全準拠ワークブック（宮西著，化学同人） |
| オフィスアワー | 木曜日5時限（16:00-17:30） | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 入澤裕樹・森本吉謙・小野寺和也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本実習は、高校や社会人での野球選手あるいは指導者としての実務経験のある教員によるスポーツコーチングについての指導を踏まえ、受講生らが主体となり、小学生あるいは中高生を対象とした野球教室や技術講習会等における企画、運営および技術指導を通じて、より実践的なコーチングに対する理解と基本的能力の獲得を目指す。 | ii、iii、iv |

**授業の一般目標**

様々な年齢や競技レベルの対象者(選手)に対して、各々に応じた適切な技術指導を行うことが出来るようになると共に、野球を通じて習得されるべきマナーや態度についても教授出来るようになる。また，こうした社会的活動の中で社会性を身に付けることを目指す。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| □ | 認知的領域 | |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる、協調性をもって取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々な年齢や競技レベルの対象者に対して、適切な技術指導ができる。 |

**授業計画(全体)**

受講生は定められた日程において、野球教室や技術講習会及び高校生との交流試合等の運営及び体験に参加する。また、それらに関する企画運営を事前に行う。参加後は個人またはグループにおいてディスカッションやレポート作成を基に実習の振り返り(反省)を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、概要や評価方法、受講対象学生の説明を行う。<br>シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 小学生対象の野球教室に関する企画運営①<br>[内容] 年齢に適した指導内容について学生間で意見を交わし、ねらいや目的、時間配分等を明確にし、テーマを決定する。<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ]各年齢に適したコンディショニングの実践<br>[内容] 野球という競技の特性を踏まえた上でのウォーミングアップを実践する。<br>[授業外学修] コンディショニングに関する指導書を熟読すること | ⑩ | [テーマ] 小学生対象の野球教室に関する企画運営②<br>[内容] 投球及び守備について守備位置毎にグループを組み、指導内容を作成する。<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 体育授業におけるベースボール型種目の実践<br>[内容] 中学で必修化されたベースボール型種目についての指導内容を立案し、実践する。<br>[授業外学修]学習指導要領の内容を事前に把握すること | ⑪ | [テーマ] 小学生対象の野球教室に関する企画運営③<br>[内容] グループを組み、打撃についての指導内容を作成する。<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 指導現場への見学①<br>[内容] 各年代(小・中・高・大・社会人)の指導者のコーチング技術を観察する。<br>[授業外学修] | ⑫ | [テーマ] 小学生対象の野球教室の実施①<br>[内容] キャッチボールや投球練習などによる投球動作に関する指導を行う。<br>[授業外学修] 関連ある野球指導書を熟読すること |
| ⑤ | [テーマ] 指導現場への見学②<br>[内容] 各年代(小・中・高・大・社会人)の指導者のコーチング技術を観察する。<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] 小学生対象の野球教室の実施②<br>[内容] ノックなどによる守備動作の指導を行う。<br>[授業外学修] 関連ある野球指導書を熟読すること |
| ⑥ | [テーマ] 交流試合の運営①<br>[内容] 試合での審判や放送、イニングスコアの記入や用具、備品の管理等を受講生が行い、試合を実際に運営する実践的な能力を養う。<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] 小学生対象の野球教室の実施③<br>[内容] フリー打撃やトス打撃などによる打撃動作の指導を行う。<br>[授業外学修] 関連ある野球指導書を熟読すること |
| ⑦ | [テーマ] 交流試合の運営②<br>[内容] 試合での審判や放送、イニングスコアの記入や用具、備品の管理等を受講生が行い、試合を実際に運営する実践的な能力を養う。<br>[授業外学修] | ⑮ | [テーマ] 小学生対象の野球教室の実施④<br>[内容] ベースランニングや短距離走による走塁動作の指導を行う。<br>[授業外学修] 関連ある野球指導書を熟読すること |
| ⑧ | [テーマ] 交流試合の運営③<br>[内容] 試合での審判や放送、イニングスコアの記入や用具、備品の管理等を受講生が行い、試合を実際に運営する実践的な能力を養う。<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] レポート作成指導<br>[内容] 本実習での活動内容についての報告事項について、レポートを作成するにあたり、作成上の注意点や提出期限、評価などについて説明を行う。<br>[授業外学修]前回までの内容を整理しておくこと |

**成績評価方法(方針)**

実習における技能および情意的な評価を行う(評価割合70%)。また、授業外レポートを課す(評価割合30%)。これらの結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付した上で返却する。実習中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | 30% |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | ○ | ◎ | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本実習内容の特性上、受講生は原則的として(硬式)野球を競技として専門的に行っている者に限る。茶髪、長髪、髭等、身なりが整っていない者は受け付けない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 山梨　雅枝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ダンス公演における総監督の経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

1月に開催されるダンス公演「DAN DAN DANCE & SPORTS」の企画・運営を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 実習に関する内容と授業展開について説明する。また、前年度のダンス公演のパンフレットを配布し、公演の趣旨を理解する。<br>[授業外学修]公演パンフレットに記載されている内容を確認する。 | ⑨ | [テーマ] 挨拶文及び案内状の作成<br>[内容] 公演の挨拶文及び案内状を作成する。<br>[授業外学修]挨拶文の書き方を事前に調べる。 |
| ② | [テーマ]ダンス公演「DAN DAN DANCE & SPORTS」のDVD鑑賞①<br>[内容] 前年度のダンス公演のDVDを鑑賞し、パンフレットにあるコンセプトと作品内容を確認する。<br>[授業外学修]DVD鑑賞で感じたこと、気づいた点をレポートにまとめる | ⑩ | [テーマ] 受付用品及び備品準備<br>[内容] 受付の看板や各種案内表紙等々の作成する。<br>[授業外学修]ワードの使い方を各自で確認する。 |
| ③ | [テーマ] ダンス公演「DAN DAN DANCE & SPORTS」のDVD鑑賞②<br>[内容] 前年度のダンス公演のDVDを鑑賞し、パンフレットにあるコンセプトと作品内容を確認する。<br>[授業外学修]]DVD鑑賞で感じたこと、気づいた点をレポートにまとめる。 | ⑪ | [テーマ] 出演順番の決定<br>[内容] 申し込まれた団体の出演順番の決定を行う。<br>[授業外学修]出演順番をエクセルにまとめる。 |
| ④ | [テーマ] アンケートの確認<br>[内容] 前年度に実施したアンケートを読み、観客と出演者が本公演に求めているものや、改善点などを検討する。<br>[授業外学修]各自アンケートの集計を行う。 | ⑫ | [テーマ] 出演者のバス送迎表作成<br>[内容] 大河原駅から劇場までの送迎を各団体の駅到着時間に合わせて作成する。<br>[授業外学修]送迎時間をエクセルにまとめる。 |
| ⑤ | [テーマ] 公演写真を用いて運営業務の確認<br>[内容] 劇場のバックヤード写真を見ながら、公演運営業務についての理解を深める。<br>[授業外学修]自分が担当する運営業務について、資料を熟読する。 | ⑬ | [テーマ] 劇場研修<br>[内容] 避難経路など、不測の事態に対する対応を学ぶ。<br>[授業外学修]劇場の見取り図に避難経路を書き込む。 |
| ⑥ | [テーマ] 劇場見学<br>[内容] 公演で使用する劇場を見学し、施設の設備や使用方法を確認する。<br>[授業外学修]見学でとったメモをデータにし、各担当ごとにまとめる。 | ⑭ | [テーマ] 会場設営及びリハーサル<br>[内容] 劇場の設営及び、照明/音響を確認する。<br>[授業外学修]自分の役割について事前に確認する。 |
| ⑦ | [テーマ] 公演のテーマを決める<br>[内容] 今年度の公演のテーマについて、話し合う。<br>[授業外学修]テーマになる素材を事前に各自で収集する。 | ⑮ | [テーマ] 公演当日<br>[内容] 各自の担当に別れ、運営業務を行う。<br>[授業外学修]各自、リハーサルでの反省を踏まえ、役割を確認する。 |
| ⑧ | [テーマ] 公演ポスターデザインの検討<br>[内容] 公演のポスターデザインについて、デザイナーと打合せを行う。<br>[授業外学修]デザインサンプルを各自で収集する。 | ⑯ | [テーマ] 振返り<br>[内容] アンケートの集計及び、当日役割での気づいた点等々を発表する。<br>[授業外学修]公演運営に関する各自の役割についてレポートにまとめる。 |

**成績評価方法（方針）**

授業で課されるレポートや提出物及び、担当した運営業務への態度など、総合的に判断する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | | | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | | | 20% |
| 演習・実技 | | ◎ | ○ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
イベントの企画運営に興味がある者。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ダンス　Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜日：13：00～15：30 | その他 | 山梨研究室：第4体育館1階 |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習（サッカー）<br>Coaching practicum(P.A.)(SOCCER) | | | | 担当教員 | 吉井秀邦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は，スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて，競技スポーツに関連する様々なイベント，競技会，講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験，或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって，より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。また、高校での教員経験を活かし、授業を実際に行う教員の観点から講義を行う。 | ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

現場に適した態度で，仲間と協力して積極的に業務に専念する態度を養う。
指導者としての資質を高める．特に指導者が身に付けるべき知識・技術についてその素地を身に付ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 指導者として必要な知識構造を理解している。 |
| ■ | 情意的領域 | 仲間と協力して業務に参画することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 実習を通して指導者として必要な指導技術を獲得し，発揮することができる。 |

**授業計画（全体）**

柴田町サッカークリニックにアシスタントコーチとして参加し、企画・運営、基礎技術指導法等を学び実践する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容]<br>授業概要を理解する.<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 事前ミーティング④<br>[内容]<br>役割分担と業務内容を確認する.<br>[授業外学修] 運動時の事故例について事前に調べてくる |
| ② | [テーマ]事前ミーティング①<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の作成とその修正を行う.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる | ⑩ | [テーマ] 事前ミーティング⑤およびイベント準備<br>[内容]<br>補助スタッフ全員と要綱の内容を共有するとともに，イベントの準備を行う.<br>[授業外学修] イベント運営について事前に調べてくる |
| ③ | [テーマ]事前ミーティング①<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の作成とその修正を行う.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる | ⑪ | [テーマ] イベントの運営<br>[内容]<br>指導補助を行う。ジュニアの技術面を指導する.<br>[授業外学修] イベント運営について事前に調べてくる |
| ④ | [テーマ] 事前ミーティング②<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の確認とその修正<br>[授業外学修] 指導時の安全面について事前に調べてくる | ⑫ | [テーマ] イベントの運営<br>[内容]<br>指導補助を行う。ジュニアの技術面を指導する.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる |
| ⑤ | [テーマ] 事前ミーティング②<br>[内容]<br>イベント要綱（案）の確認とその修正<br>[授業外学修] 指導時の安全面について事前に調べてくる | ⑬ | [テーマ] イベントの運営<br>[内容]<br>指導補助を行う。ジュニアの技術面を指導する.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる |
| ⑥ | [テーマ]<br>[内容] 事前ミーティング③<br>イベント要綱を完成させる.<br>[授業外学修] ジュニア練習メニューについて事前に調べてくる | ⑭ | [テーマ] イベントの運営<br>[内容]<br>指導補助を行う。ジュニアの技術面を指導する.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる |
| ⑦ | [テーマ]<br>[内容] 事前ミーティング③<br>イベント要綱を完成させる.<br>[授業外学修] ジュニア練習メニューについて事前に調べてくる | ⑮ | [テーマ] イベントの運営<br>[内容]<br>指導補助を行う。ジュニアの技術面を指導する.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる |
| ⑧ | [テーマ] 事前ミーティング④<br>[内容]<br>役割分担と業務内容を確認する.<br>[授業外学修] 運動時の事故例について事前に調べてくる | ⑯ | [テーマ] イベントの撤収作業および反省<br>[内容]<br>イベントで使用した物品を撤収し、運営について反省を共有する.<br>[授業外学修] ジュニア指導法について事前に調べてくる |

**成績評価方法（方針）**

本実習では「レポート課題」および「観察」を用いて評価を行う。
レポート課題では，実習全体を通した報告書を作成するとともに，今後の課題を記したレポートを課す。
観察では，実習全体を通して主体的に関わろうとする態度を評価する。また，イベント中の指導状況についても評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 0% |
| 授業内レポート | | | | 0% |
| 授業外レポート | ◎ | | | 25% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ◎ | | 25% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目の性格上，授業への欠席については厳しく対応します。合計で4単位時間欠席した学生は評価の対象としない。
・本科目で企画するイベントには，学外から多くの子どもとその保護者が来場します．安全への配慮を著しく欠く学生は，出席状況に関わらず，単位不認定とする可能性があります．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に定めない | 参考書 | 特に定めない |
| オフィスアワー | 研究室:A棟4F414　木曜日12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 渡邉　泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ii、iii、iv |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 指導対象者の技能習熟度や発育発達段階を適切に見極めてトレーニングを考案することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 指導対象者に対して積極的にコミュニケーションをとることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 指導対象者の運動を客観的に分析して、競技力向上のための具体的な指導をすることができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、水泳競技の指導体験を通じて、競技力向上のための具体的な方法について学ぶ。トレーニングの立案、現場での指導、指導対象者のスポーツパフォーマンスの分析と評価、さらには、競技力向上のためのトレーニングの考案とその処方について、理論と実践の両面から展開する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（トレーニング法）Ⅰ【実技】<br>[内容] 実際の指導現場の見学する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ② | [テーマ] 水泳競技の指導理論（トレーニング法）Ⅰ【講義】<br>[内容] 水泳競技の特性を踏まえ、トレーニングの目的、方法、種類について解説する。<br>[授業外学修] 水泳トレーニングの目的、方法、種類について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（トレーニング法）Ⅱ【実技】<br>[内容] 現場指導者へのインタビューを通して、トレーニング内容を検討する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ③ | [テーマ] 水泳競技の指導理論（トレーニング法）Ⅱ【講義】<br>[内容] 各種トレーニング器具・用具の取り扱い方を解説する。<br>[授業外学修] トレーニング器具・用具の取り扱いについて復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（トレーニング法）Ⅲ【実技】<br>[内容] 水泳競技の競技力向上に関わるトレーニングを考案する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ④ | [テーマ] 水泳競技の指導理論（トレーニング法）Ⅲ【講義】<br>[内容] 選手育成のためのトレーニングの実例を紹介するとともに、トレーニングの立案方法を解説する。<br>[授業外学修] トレーニングの立案方法について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（トレーニング法）Ⅳ【実技】<br>[内容] 水泳競技の競技力向上に関わるトレーニングを実践する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑤ | [テーマ] 水泳競技の指導理論（コーチング法）Ⅰ【講義】<br>[内容] 指導内容を検討して指導計画を作成する。<br>[授業外学修] 指導計画についてよく考えること。 | ⑬ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（コーチング法）Ⅰ【実技】<br>[内容] 実際の指導現場を見学する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑥ | [テーマ] 水泳競技の指導理論（コーチング法）Ⅱ【講義】<br>[内容] 作成した指導計画を精査して、具体的な指導方法を検討する。<br>[授業外学修] 具体的な指導法をよく考えること。 | ⑭ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（コーチング法）Ⅱ【実技】<br>[内容] 現場指導者へのインタビュー、コーチング内容を検討する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑦ | [テーマ] 水泳競技の指導理論（コーチング法）Ⅲ【講義】<br>[内容] 指導上の要点（服装、振る舞い、言語技術など）を確認する。<br>[授業外学修] 指導上の要点について復習すること。 | ⑮ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（コーチング法）Ⅲ【実技】<br>[内容] 水泳競技の競技力向上に関わるわざ（＝技術）の習得のための指導を体験する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |
| ⑧ | [テーマ] 水泳競技の指導理論（コーチング法）Ⅳ【講義】<br>[内容] わざ（＝技術）の習得ならびに改善のための方法を紹介する。<br>[授業外学修] わざの習得と改善の方法について復習すること。 | ⑯ | [テーマ] 水泳競技の指導実習（コーチング法）Ⅳ【実技】<br>[内容] 運動を分析・評価する。<br>[授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。 |

**成績評価方法（方針）**

出席状況、態度、理解度、レポートを総合的に評価する。授業中における消極的な姿勢や指導対象者に対する誠実さにかける態度などは減点対象とする。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 10% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
水泳競技を専門的に実践している、もしくは、過去にしていた学生の履修が望ましい。
事前オリエンテーションに必ず出席すること。また、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。
集合時刻や提出物の期日を厳守すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 水泳、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、種目別コーチング演習Ⅱ（水泳） | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認水泳コーチ1、日本スポーツ協会公認水泳コーチ3 |
| 教科書 | 必要に応じて連絡する。 | 参考書 | 水泳指導教本（日本水泳連盟編）、水泳コーチ教本（日本水泳連盟編） |
| オフィスアワー | 火曜日12:00～13:00（LC棟2階207研究室） | その他 | 連絡先：ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum(P.A.) | | | | 担当教員 | 林　直樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | (公財)日本バドミントン協会　医事トレーニング管理部・分析スタッフの経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力について理解と基本的能力獲得を目指すものである。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 選手の課題を抽出し、その改善策を講じるためのトレーニングとターゲットを設定し、具体的に表現することができる。 |

**授業計画(全体)**

バドミントンのコーチングに必要な理論や実践を学び、コーチとしての資質を養成する。コーチは知識や技術の獲得だけでなく、発信力も必要になってくることから、積極的な姿勢や具体的な表現力の養成にも力を入れる。実務経験を活かして分析的視点を積極的に取り入れて指導する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、実習内容の説明、成績評価の説明、連絡先の確認などを行う。<br>[授業外学修]長期練習計画を作成する。 | ⑨ | [テーマ] 大学チームでのコーチング(実習3)<br>[内容] ウォーミングアップ、基本練習、ノック練習についてのコーチングを実習する。<br>[授業外学修]実習におけるポイントをまとめる。 |
| ② | [テーマ]バドミントンのコーチング理論<br>[内容] バドミントン競技における技術・体力・心理・戦術の4つのディマンドを解説し、練習計画の作成についてディベートする。<br>[授業外学修]前週に作成した長期練習計画を修正する。 | ⑩ | [テーマ] 大学チームでのコーチング(実習4)<br>[内容] パターン練習、技術練習、クーリングダウンについてのコーチングを実習する。<br>[授業外学修]実習におけるポイントをまとめる。 |
| ③ | [テーマ] バドミントン競技の世界的現状の把握<br>[内容]直近の世界ランキングやBWFの議題についてインターネットにて調べ、ディベートする。<br>[授業外学修]作成している練習計画に、PDCAサイクルの視点を加える。 | ⑪ | [テーマ] 実業団チームでのコーチング(実習5)<br>[内容] ウォーミングアップ、基本練習、ノック練習についてのコーチングを実習する。<br>[授業外学修]実習におけるポイントをまとめる。 |
| ④ | [テーマ] オンコート・トレーニングのコーチング<br>[内容] オンコート・トレーニングにおけるターゲットの設定と評価の方法を解説する。<br>[授業外学修]短期練習計画を作成する。 | ⑫ | [テーマ] 実業団チームでのコーチング(実習6)<br>[内容] パターン練習、技術練習、クーリングダウンについてのコーチングを実習する。<br>[授業外学修]実習におけるポイントをまとめる。 |
| ⑤ | [テーマ] オフコート・トレーニングのコーチング<br>[内容] オフコート・トレーニングにおけるターゲットの設定と評価の方法を解説する。<br>[授業外学修]前週に作成した短期練習計画を修正する。 | ⑬ | [テーマ]コーチングコンセプト映像作成1<br>[内容] コーチングのポイント(練習課題)となる映像を抽出して、コンセプト映像を作成するためのシナリオを作成する。<br>[授業外学修]映像によって伝えたいことは何かを文章化する。 |
| ⑥ | [テーマ] 試合におけるコーチング<br>[内容] コーチの着眼点とインターバルにおけるアドバイスを、対象試合の映像を観戦してからディベートする。<br>[授業外学修]練習計画を完成させて、受講生全員にメニューを配布する。 | ⑭ | [テーマ] コーチングコンセプト映像作成2<br>[内容] 前回作成したシナリオをもとに、映像作成ファイルを用いてコンセプト映像を作成する。<br>[授業外学修]文章化したものと映像がマッチしているかを検証する。 |
| ⑦ | [テーマ] 中学、高校チームでのコーチング(実習1)<br>[内容] ウォーミングアップ、基本練習、ノック練習についてのコーチングを実習する。<br>[授業外学修]実習におけるポイントをまとめる。 | ⑮ | [テーマ] コーチングコンセプト映像作成3<br>[内容] コンセプト映像を完成させて全体の流れをチェックする。<br>[授業外学修]プレゼンテーションの準備を行う。 |
| ⑧ | [テーマ] 中学、高校チームでのコーチング(実習2)<br>[内容] パターン練習、技術練習、クーリングダウンについてのコーチングを実習する。<br>[授業外学修]実習におけるポイントをまとめる。 | ⑯ | [テーマ] プレゼンテーション<br>[内容] 作成したコーチングコンセプト映像を映し、それをもとにプレゼンテーションを行う。<br>[授業外学修]プレゼンの練習を行っておく。 |

**成績評価方法(方針)**

授業内レポート(20%)と授業外レポート(30%)、演習・実技での成果(50%)にて総合的に評価する。尚、授業態度が劣悪な場合と出席が規定に満たない場合は欠格とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |
| 出席 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

本実習は外部のバドミントンチームでのコーチングを学んだり、地域のバドミントン教室の企画・運営をしたりするので、真摯な姿勢と態度が求められる(身だしなみも含む)。専門的な知識と経験を獲得する授業であるので、バドミントンを専門競技と捉えている者の受講を認める。尚、種目別コーチング演習I・II(バドミントン)を併せて履修することが望ましい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | バドミントン実技、種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バドミントン) | 関連資格 | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する。 | 参考書 | バドミントンの指導理論1(日本バドミントン指導者連盟)<br>バドミントン年間強化ドリル(仲尾修一,ベースボールマガジ |
| オフィスアワー | F棟2階213(林直樹研究室)　火曜日10:20～11:50 | その他 | no-hayashi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツコーチング実習<br>Coaching practicum (P.A.) | | | | 担当教員 | 溝口　絵里加 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 教育現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。 | ii、iii、iv |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習内容を理解し、説明できる。体操の様々な基本動作の内容を理解し、説明ができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本技術を習得し、応用する指導に対しても対応することができる。 |

**授業計画（全体）**

体操（含体つくり運動）についてや体操の指導方法について理解を深めることのできる授業構成としている。具体的な活動内容は、体操（含体つくり運動）の実技授業の指導補助、及びねらいに合わせた運動や準備運動を考案し、模擬授業を行う（90分授業の1コマは必ず担当）。また、模擬授業前後には、指導内容の検討や反省会を含めた教員との打ち合わせを行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 実習内容の説明，成績評価の方法<br>[授業外学修] 体つくり運動について調べて、予習をしておくこと | ⑨ | [テーマ] 指導方法について②<br>[内容] 発達の段階に応じた適切な「体つくり運動」の授業について<br>[授業外学修] 指導方法についてポイントをレポートにまとめてくること |
| ② | [テーマ] 基本的な動きを身に付ける①<br>[内容] 体つくり運動の授業の考え方と進め方について<br>[授業外学修] 体つくり運動について調べて、予習をしておくこと | ⑩ | [テーマ] 指導方法について③<br>[内容] 体力の違いに配慮するなどの様々な学習場面における具体的な指導について<br>[授業外学修] 指導方法についてポイントをレポートにまとめてくること |
| ③ | [テーマ] 基本的な動きを身に付ける②<br>[内容] ] 体つくり運動の基本的な動きについて<br>[授業外学修] 基本的な動きについてポイントをレポートにまとめておくこと | ⑪ | [テーマ] 指導計画<br>[内容] 指導計画の作成<br>[授業外学修] 指導計画について事前に情報を収集しておくこと |
| ④ | [テーマ] 基本的な動きを身に付ける③<br>[内容]「体ほぐしの運動」について<br>[授業外学修] 基本的な動きについてポイントをレポートにまとめておくこと | ⑫ | [テーマ] 指導計画の実践①<br>[内容] 指導計画に沿って模擬授業を実施する<br>[授業外学修] 実習の反省を踏まえたうえで、再度計画を立て直してくること |
| ⑤ | [テーマ] 基本的な動きを身に付ける④<br>[内容]「多様な動きをつくる運動」について<br>[授業外学修] 基本的な動きについてポイントをレポートにまとめておくこと | ⑬ | [テーマ] 指導計画の実践②<br>[内容] 指導計画に沿って模擬授業を実施する<br>[授業外学修] 実習後の反省と、改善点をまとめておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 基本的な動きを身に付ける⑤<br>[内容]「体力向上を目的とした運動」について<br>[授業外学修] 基本的な動きについてポイントをレポートにまとめておくこと | ⑭ | [テーマ] 指導の工夫<br>[内容] 主体的な取り組みを促す指導の工夫について<br>[授業外学修] 指導方法についてポイントをレポートにまとめてくること |
| ⑦ | [テーマ] 基本的な動きを身に付ける⑥<br>[内容] リズム体操の見本役を行う<br>[授業外学修] 実習後の反省と、改善点をまとめておくこと | ⑮ | [テーマ] 評価方法<br>[内容] 評価の工夫や、評価基準の作成について<br>[授業外学修] 指導方法についてポイントをレポートにまとめてくること |
| ⑧ | [テーマ] 指導方法について①<br>[内容]「体つくり運動」の指導の基本的な考え方について<br>[授業外学修] 体つくり運動の指導方法について調べて、予習をしておくこと | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] レポート作成<br>[授業外学修] 実習の振り返り行いポイントをまとめておくこと |

**成績評価方法（方針）**

授業態度、参加度、理解度、協力度などを総合的に評価する。
授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない（欠格条件）。
提出されたレポートは，相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・事前オリエンテーションに必ず参加する。掲示板連絡を見落とさないこと
・本学の体操（含体つくり運動）の単位を修得済であることを履修の条件とする。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・活動の妨げになるものは一切身に付けないこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし　必要に応じて資料を配布する | 参考書 | |
| オフィスアワー | 前/月14:30～16:00 後/金10:30～12:00 | その他 | 連絡先　er-mizoguchi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ(陸上競技)<br>Coaching seminar in different events Ⅰ | | | | 担当教員 | 門野洋介／柴山一仁／宮崎利勝／名取英二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| ① 陸上競技全般および走・跳・投の各種目の競技特性について解説する。<br>② ①に基づいたトレーニング法および指導法について解説する。 | i |

**授業の一般目標**

陸上競技全般および各種目の競技特性を理解し、それに基づいたトレーニング法や指導法を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 陸上競技の各種目における競技特性、トレーニング法、指導法がわかる。 |
| ■ | 情意的領域 | 陸上競技の競技特性、トレーニング法、指導法について興味，関心が持てる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々な陸上競技の指導場面に応じた指導計画が作成できる。 |

**授業計画(全体)**

下記のテーマに沿って講義・演習形式で授業を進め、最終回に試験を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野)<br>[内容]<br>授業計画について説明する。<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] 跳躍競技(鉛直種目)の競技特性、トレーニング法、指導法(柴山)<br>[内容]<br>跳躍競技(鉛直種目)の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ] 発育発達を踏まえた陸上競技の指導(宮崎)<br>[内容]<br>子どもの発育・発達を踏まえた陸上競技の指導について学習する。<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ] 跳躍競技(水平種目)の競技特性、トレーニング法、指導法(柴山)<br>[内容]<br>跳躍競技(水平種目)の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ] 体育授業における陸上運動・陸上競技(宮崎)<br>[内容]<br>小学校・中学・高校の体育における陸上競技の指導について学習する。<br>[授業外学修] | ⑪ | [テーマ] 投擲競技の競技特性、トレーニング法、指導法(宮崎)<br>[内容]<br>投擲競技の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 短距離走の競技特性、トレーニング法、指導法(名取)<br>[内容]<br>短距離走の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] | ⑫ | [テーマ] 投擲競技の競技特性、トレーニング法、指導法(宮崎)<br>[内容]<br>投擲競技の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] リレーの競技特性、トレーニング法、指導法(名取)<br>[内容]<br>リレーの競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] 陸上競技のトレーニング理論①(門野)<br>[内容]<br>陸上競技のトレーニングに関する基礎理論ついて学習する。<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] ハードル走の競技特性、トレーニング法、指導法(柴山)<br>[内容]<br>ハードル走の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] 陸上競技のトレーニング理論②(名取)<br>[内容]<br>陸上競技のトレーニングに関する基礎理論ついて学習する。<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 中距離走の競技特性、トレーニング法、指導法(門野)<br>[内容]<br>中距離走の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] | ⑮ | [テーマ] 陸上競技のトレーニング理論③(柴山)<br>[内容] 陸上競技のトレーニングに関する基礎理論ついて学習する。<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 長距離走の競技特性、トレーニング法、指導法(門野)<br>[内容]<br>長距離走の競技特性、トレーニング法、指導法について学習する。<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] 試験(名取)<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

・①出席、②定期試験で評価する。
・受講態度も評価に含む。
・レポートを評価に含める場合もある。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ(陸上競技)<br>スポーツコーチング実習(陸上競技) | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 門野(A408)月曜10:00-11:00 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（体操競技）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ（Gymnastics） | | | | 担当教員 | 鈴木 良太 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、体操競技の技能習得を目的した指導法および幇助法を学習し、指導者としての資質を高めるものである。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいて授業概要および授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して体操競技の面白さを学習し、指導者としての資質を高めることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体操競技の変遷や特性および基本的な技能を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体操競技に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 体操競技の基本的な技能を身に付け、それらを指導することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、体操競技の変遷や競技特性の学習、指導の学習、基本技能の習得およびそれらの指導の実践を中心に、講義および実習（実技）の各形式を用いて授業を展開していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] 平行棒のコーチング<br>[内容] 平行棒の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ② | [テーマ]体操競技の変遷<br>[内容] 体操競技の変遷について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑩ | [テーマ] 鉄棒のコーチング<br>[内容] 鉄棒の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ③ | [テーマ] 体操競技の競技特性①<br>[内容] 体操競技の競技特性（採点競技）について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑪ | [テーマ] 女子跳馬のコーチング<br>[内容] 女子跳馬の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ④ | [テーマ] 体操競技の競技特性②<br>[内容] 体操競技の競技特性（筋力）について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑫ | [テーマ] 段違い平行棒のコーチング<br>[内容] 段違い平行棒の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑤ | [テーマ] ゆか運動のコーチング<br>[内容] ゆか運動の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑬ | [テーマ] 平均台のコーチング<br>[内容] 平均台の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑥ | [テーマ] あん馬のコーチング<br>[内容] あん馬の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑭ | [テーマ] 女子ゆか運動のコーチング<br>[内容] 女子ゆか運動の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑦ | [テーマ] つり輪のコーチング<br>[内容] つり輪の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑮ | [テーマ] 体操競技審判（採点方法）<br>[内容] 体操競技における審判の役割ついて学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑧ | [テーマ] 跳馬のコーチング<br>[内容] 跳馬の基本知識および基本技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 授業の理解度、技能の習熟度のまとめをする<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |

**成績評価方法（方針）**

授業への出席情況や態度および理解度を評価の対象とする。 また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

私語、遅刻等は授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とす。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ（体操競技） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室：A棟4階412 |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（新体操）<br>Coaching seminar in different evvents Ⅰ（R.G.） | | | | 担当教員 | 神野未来 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | （公財）日本スポーツ協会　公認コーチ（新体操）の現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 2017年より改訂された新体操採点規則集の読み取り、理解を中心に行う。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

新体操競技の採点規則をもとに、専門的な知識を高め、将来新体操の指導者になる為のあらゆる技術を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 採点規則の把握。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 文献を読み取り、理解する能力を身に付ける。<br>実技指導の能力を身に付ける。 |

**授業計画（全体）**

2017年より改訂された新体操採点規則集の読み取り、理解を中心に行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 様々な身体の難度の練習<br>[内容] 実技として身体の難度を練習を行ってみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ② | [テーマ]新体操について知る<br>[内容] 新体操について、歴史や手具について知る<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] ADの創作・練習<br>[内容] 実技としてADの創作・練習を行ってみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ③ | [テーマ] ルールをを知る①<br>[内容] 採点規則 （総則について）<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 様々なダンスステップコンビネーションの練習①<br>[内容] 実技としてダンスステップコンビネーションの練習を行ってみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ④ | [テーマ] ルールをを知る②<br>[内容] 採点規則 （難度Dについて）<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] 様々なダンスステップコンビネーションの練習②<br>[内容] 実技としてダンスステップコンビネーションの練習を行ってみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑤ | [テーマ] ルールをを知る③<br>[内容] 採点規則 （難度Eについて）<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑬ | [テーマ] DERの創作・練習<br>[内容] 実技としてDERの創作・練習を行ってみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑥ | [テーマ] ルールをを知る④<br>[内容] 採点規則 （ADについて）<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑭ | [テーマ] 演技を構成してみる①<br>[内容] 学習した採点規則に基づき、演技を構成してみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑦ | [テーマ] ルールをを知る⑤<br>[内容] 採点規則 （ダンスステップコンビネーションについて）<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑮ | [テーマ] 演技を構成してみる②<br>[内容] 学習した採点規則に基づき、演技を構成してみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑧ | [テーマ] ルールをを知る⑥<br>[内容] 採点規則 （DERについて）<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑯ | [テーマ] 演技を構成してみる③<br>[内容] 学習した採点規則に基づき、演技を構成してみる<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |

**成績評価方法（方針）**

出席を重視するとともに、授業への取り組みや態度を考慮して評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | ○ | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・欠席・遅刻等の報告は必ず事前に行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ（新体操） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | Code of Points Rhythmic Gymnastics<br>新体操採点規則2017-2020 |
| オフィスアワー | 水曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室：第4体育館1階 |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ(Swimming) | | | | 担当教員 | 渡邉　泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、水泳コーチングの基本的な考え方と指導体系について講義する。水泳の特性、歴史、基本泳法における技術の構造、指導上の要点に加え、安全管理と衛生管理等、運営上の要点について紹介する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

水泳の基本的知識を修得し、基本技術の構造をよく理解し、対象者の技能習熟度や発育発達段階に応じて、適切な指導法を選択できるようになる。水泳における指導上の要点をよく理解し、安全に十分に配慮して指導することができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 水泳の歴史、水の特性、安全管理や衛生管理について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 水泳の指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 水泳の基本技術の構造をよく理解し、対象者の状況に応じて適切な指導法を選択することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、前半で、水泳の意義、特性、歴史に関する講義に加え、初心者から競技者、若年者から高齢者までの基本泳法における技術の構造を解説し、対象者の状況に応じた指導法ならびに補助法について説明する。後半では、用具の取り扱い方やプールでの監視方法などの安全管理と、水質検査や応急手当などの衛生管理について説明すると共に、実際の水泳事故とその判例について紹介する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の趣旨、内容、展開方法等について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 水泳競技のトレーニングのための基礎原理と展開<br>[内容] 水泳におけるﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ立案のための基盤となるﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学的原理について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ② | [テーマ] 水泳の意義と特性<br>[内容] 水泳が現代社会に果たす役割とその特性について、競技スポーツと生涯スポーツのそれぞれの観点から学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] 水泳の安全管理（事故防止法）<br>[内容] 水上安全法のうちの事故防止を主体とした安全管理について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ③ | [テーマ] 水泳の歴史と現在<br>[内容] 水泳の起源と発展について、国内外の事象を振り返りながら、泳法の変化や運動様式の変遷について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 水泳一般公開およびｽｲﾐﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ等の運営方法<br>[内容] 水泳一般公開時およびｽｲﾐﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ等の運営システムやプール監視体制等について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ④ | [テーマ] 水・水泳技術の特性<br>[内容] 水泳の媒体となる水自体の力学的・生理学的・医学的特性を学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] 水泳用具の使用方法とその管理<br>[内容] 水泳用具の使用上の要点と、管理方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑤ | [テーマ] 各水泳競技種目の技術的構造と競技特性<br>[内容] 近代4泳法の技術的構造と特性について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑬ | [テーマ]水泳と保健<br>[内容] 水泳施設の衛生管理（水質基準と検査法）、応急手当の仕方について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑥ | [テーマ] 水泳指導の基本<br>[内容] 水泳指導の考え方と、指導者に必要な知識、基本的資質、コミュニケーションスキルについて学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑭ | [テーマ] 水泳事故と法的責任<br>[内容] 水泳指導時における事故と指導者の法的責任について、日本における事例ならびに判例を基に学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑦ | [テーマ] 状況に応じた水泳指導法と展開（水中運動含む）<br>[内容] 技能習熟度別の指導法、発育発達段階別の指導法・補助法と、その展開（水中運動含む）について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑮ | [テーマ] 水泳競技規則と審判法<br>[内容] 水泳競技における競技規則と審判法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑧ | [テーマ] 水泳競技のコーチング<br>[内容] 競技としてのコーチングについて学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度についてテストする。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業内課題を評価対象とする（評価割合20%）。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における消極的な姿勢や、誠実さにかける態度については減点対象とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

私語、遅刻等の授業進行の妨げとなる行為や、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 水泳、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅱ（水泳）、スポーツコーチング実習（渡邉泰クラス） | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認水泳コーチ1、日本スポーツ協会公認水泳コーチ3、健康運動指導士、健康運動実践指導者 |
| 教科書 | なし | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 火曜日12:00～13:00（LC棟2階207研究室） | その他 | 連絡先:ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（バレーボール）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Volleyball) | | | | 担当教員 | 石丸出穂 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験、Vリーグコーチの実務経験を有する<br>バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

バレーボールのコーチングにおける試合中の主要な戦術、技術（アタック、ブロック、サーブ、レセプション、ディグ、セット）の指導体系を明らかにし、競技力向上を目指した指導上の方法論を、バレーボール日本代表アナリスト、高校での教員経験、Vリーグコーチ実務経験を活かし、学習、実践していく。また、試合におけるデータの活用法や審判法、歴史や用語についても学ぶ。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

バレーボールにおける試合中の主要な戦術，各種技術（アタック、ブロック、サーブ、パス、レセプション、ディグ、セット）について，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する（手本を示せる）こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする．また，データの活用法や審判法、歴史や用語を理解し，説明できるようになる．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バレーボールの試合における戦術，技術，データの活用法および審判法、歴史、用語を説明できる． |
| ■ | 情意的領域 | バレーボール指導に関する理論的な思考を持つことができる． |
| ■ | 技能表現的領域 | バレーボールの戦術，競技力向上に必要な技術を身に付け，それらを指導することができる． |

**授業計画（全体）**

本授業では，バレーボールの試合におけるデータの活用法や審判法、歴史や用語の学習，試合中の主要な戦術，各種技術（アタック、ブロック、サーブ、パス、レセプション、ディグ、セット）の指導体系の学習，そこで求められる技術の習得および指導の実践を中心に，講義および実習（実技）の各形式を用いて授業を展開していく．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 基本技術のコーチング（レセプション②）<br>[内容] ゲームに近い形での練習法（ゲームライクドリル）の中で、レセプションのスキルアップの要素、などを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ] バレーボールの変遷（歴史と用語）<br>[内容] バレーボールの変遷について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ] 基本技術のコーチング（ディグ①）<br>[内容] ディグの練習法、フォームのチェック法、など、テクニックからスキルへつなげる方法を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ] バレーボールの仕組みとその特性<br>[内容] バレーボールの仕組み（6人制や9人制、ソフトバレーボール、など）やその特性、初心者に対する導入法、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ] 基本技術のコーチング（ディグ②）<br>[内容] ゲームに近い形での練習法（ゲームライクドリル）の中で、ディグのスキルアップの要素、などを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] チームマネジメント（ミーティングの仕方や施設運営管理）<br>[内容] 組織運営における、ミーティングのやり方や、物事を決めていく流れ、そして、施設運営管理、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ] 攻撃の戦術・戦略1（サーブ、アタック、コンビ、など）<br>[内容] バレーボールのオフェンスに関わるスキルであるサーブ、アタック（コンビネーション）について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] チームマネジメント（バレーボール部の在り方，地域との関わり）<br>[内容] バレーボール部をはじめ、組織を運営するにあたっての規律、不文律、存在意義、地域とのかかわり方、などを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ] 攻撃の戦術・戦略2（レセプションアタック）<br>[内容] バレーボールのトータルオフェンスである、レセプションからのオフェンスついて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 練習のプログラム（年間計画，チーム練習法）<br>[内容] 練習計画の立て方、考え方、チーム練習法、ドリルの考案、について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ] 攻撃技能のコーチング（アタックフォーム）<br>[内容] 攻撃技能について、さまざまなスパイクフォームの強みと弱みを理解し、その習得方法を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 基本技術のコーチング（パス）<br>[内容] パス（オーバー＆アンダーハンド）の種類や連手法、テクニックについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ] 攻撃技能のコーチング（コンビネーションアタック）<br>[内容] 攻撃技能について、複数人でのコンビネーションアタックの種類や練習法を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] 基本技術のコーチング（レセプション①）<br>[内容] レセプションの練習法、フォームのチェック法、など、テクニックからスキルへつなげる方法を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法（方針）**

試験は，期末試験を1回実施する（評価割合60%）．また，授業内課題を評価対象とする（評価割合10%）．演習・実技については技術が身についているか，指導ができるかを評価対象とする（評価割合30%）．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | | | 10% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．演習ⅠとⅡを両方履修することが条件であり、演習Ⅰの最初のオリエンテーションに欠席した場合履修できない場合がある。現在バレーボールを実践している学生の履修とし実技の場として協力していただく男女バレーボール部のトレーニング（練習）に参加できる学生とする。それ以外の学生はオリエンテーション参加時に確認すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | バレーボール，種目別コーチング演習Ⅱ（バレーボール） | 関連資格 | |
| 教科書 | コーチングバレーボール基礎編（日本バレーボール協会・編） | 参考書 | Volleypediaバレーボール百科事典、バレークロニクル |
| オフィスアワー | 石丸研究室（E棟2階）　水曜日 10:20-11:50 | その他 | 石丸：iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（バスケットボール）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Basketball) | | | | 担当教員 | 山田恵子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 大学・高専での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業は、高専での教員経験を活かし、バスケットボールにおける指導方法学を講義する．バスケットボールの歴史的変遷に触れながら競技特性をについて説明し理解を図る．

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

バスケットボールにおける競技特性を理解しながら各基本技術について学び，自ら技術を習得する(手本を示せる)ことと同時に，指導方をディベイト方式を通し考察する．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バスケットボールの変遷や特性および基本的な技術を説明できる． |
| ■ | 情意的領域 | バスケットボール指導に関する理論的な思考を持ち積極的に参加できる． |
| ■ | 技能表現的領域 | バスケットボールの基本的な技術を身に付け，適切な指導ができる． |

**授業計画（全体）**

本授業では，バスケットボールの変遷や競技特性の学習，各基本技術における指導体系の学習，各基本技術の習得と指導の実践を中心に，講義および演習(実技含)の各形式を用いて授業を展開していく．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法等の説明<br>[授業外学修] 授業概要を確認しておく | ⑨ | [テーマ] ディフェンスのコーチングⅠ<br>[内容] フットワークと基本動作と技術<br>[授業外学修] 授業配布資料を復習する |
| ② | [テーマ] バスケットボールの歴史的変遷<br>[内容] バスケットボールの歴史を追う<br>[授業外学修] 授業配布資料を復習する | ⑩ | [テーマ] ディフェンスのコーチングⅡ<br>[内容] ディフェンスの基本技術とプレー<br>[授業外学修] 授業配布資料を予習しておく |
| ③ | [テーマ] バスケットボールの競技特性<br>[内容] バスケットボールの競技特性とは<br>[授業外学修] 授業配布資料を復習する | ⑪ | [テーマ] ディフェンスのコーチングⅢ<br>[内容] マンツーマンディフェンス<br>[授業外学修] 授業配布資料を予習しておく |
| ④ | [テーマ] オフェンスのコーチングⅠ<br>[内容] フットワークと基本動作<br>[授業外学修] 授業配布資料を復習する | ⑫ | [テーマ] ディフェンスのコーチングⅣ<br>[内容] ゾーンディフェンス<br>[授業外学修] 授業配布資料を予習する |
| ⑤ | [テーマ] オフェンスのコーチングⅡ<br>[内容] オフェンスの基本技術<br>[授業外学修] 授業内容を復習する | ⑬ | [テーマ] ディフェンスのコーチングⅤ<br>[内容] 特殊なディフェンスの技術理論について学ぶ<br>[授業外学修] 授業配布資料を復習する |
| ⑥ | [テーマ] オフェンスのコーチングⅢ<br>[内容] オフェンスの基本プレー<br>[授業外学修] 授業配布資料を予習しておく | ⑭ | [テーマ] バスケットボールの評価方法<br>[内容] バスケットボールの競技分析の紹介<br>[授業外学修] 授業配布資料を復習する |
| ⑦ | [テーマ] オフェンスのコーチングⅣ<br>[内容] 各ポジションにおける戦術的特性について<br>[授業外学修] 授業配布資料を予習しておく | ⑮ | [テーマ] 著名コーチの紹介<br>[内容] 著名コーチのコーチングについて学ぶ<br>[授業外学修] 今までの授業内容を復習する |
| ⑧ | [テーマ] オフェンスのコーチングⅤ<br>[内容] いろいろなオフェンスの紹介<br>[授業外学修] 授業配布資料を予習しておく | ⑯ | [テーマ] 試 験<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

試験は基本的に実施しない．授業態度や各種レポート課題で評価する．(評価割合80%)また，これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | | | 10% |
| 授業外レポート | ○ | | | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | ○ | | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は不可とする．授業計画は授業の進み方により変更する場合がある．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | バスケットボール実技<br>種目別コーチング演習Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日 10:20～12:00 | その他 | 研究室：第5体育館 25 |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（ハンドボール）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ(Handball) | | | | 担当教員 | 桑原　康平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| コーチングに関する基本的な知識・技能を教員の実務経験を活かした講義や実践で紹介する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

ハンドボールのコーチングに関わる全般的な知識・技能を身に付け、現場で通じる実践力の基礎を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ハンドボールに関する基本的な知識を理解し、説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 得た知識・技能を積極的に実践に応用しようとする。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ハンドボールのコーチングに関する技能を身に付け、実践に応用することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業は、コーチングを行う上での基本的な知識・技能を身に付けるために講義や実践を用いて展開する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]事前にシラバスに目を通すこと | ⑨ | [テーマ] ハンドボールの構造的理解3<br>[内容] ハンドボールを行う上で求められる体力的要素について資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]コーチング学への招待P149-181を読んでおくこと |
| ② | [テーマ]指導者養成の考え方<br>[内容] あるべき指導者像についてディスカッションを深める。<br>[授業外学修]配布された資料について自分の考えをまとめること | ⑩ | [テーマ] ハンドボールの構造的理解4<br>[内容] オフェンスの技術と戦術の種類とその特徴について資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ]指導者の役割<br>[内容] コーチングとは何か？についてディスカッションを深める。<br>[授業外学修]配布された資料について自分の考えをまとめること | ⑪ | [テーマ] ハンドボールの構造的理解5<br>[内容] ディフェンスの技術と戦術の種類とその特徴について資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] ハンドボールの特性<br>[内容] 競技概要や国内外動向について説明する<br>[授業外学修]罰則の種類とその基準について調べてくること | ⑫ | [テーマ]ハンドボールの構造的理解6<br>[内容]<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] ハンドボールの歴史1<br>[内容] ハンドボールの歴史について、資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]ハンドボールの歴史について、事前に調査しておくこと | ⑬ | [テーマ]ハンドボールの構造的理解7<br>[内容] 選手への伝え方について、教員の実践経験と資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] ハンドボールの歴史2<br>[内容] ハンドボールの歴史について、現在のハンドボールとの違いを認識する。<br>[授業外学修]昔のハンドボールの映像資料をインターネットで検索しておく | ⑭ | [テーマ]ハンドボールの構造的理解8<br>[内容] 発達段階によって最適な内容が異なることを資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ] ハンドボールの構造的理解1<br>[内容] 構造的特性と局面の存在について資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]試合局面の変化を理解しながら試合映像を視聴する。 | ⑮ | [テーマ]ドーピング防止<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] ハンドボールの構造的理解2<br>[内容] 技術と戦術の種類、技術と戦術の違いについて資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]コーチング学への招待P97-148を読んでおくこと | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] まとめ<br>[授業外学修]指導者の在り方や身につけるべき能力についてレポートする |

**成績評価方法（方針）**

授業内に行われる筆記試験(30%)、授業で課される課題の提出状況・内容（40%）、授業に対する関心・意欲・態度等（30%）を評価する。
出席は欠格条件とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ◎ | 40% |
| 授業態度 | ○ | ○ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
履修時においてハンドボールを専門的に実践している（いた）学生のみ履修を認めます。また、コーチ（指導者）を目指す学生の受講を望みます。
パソコンを用いてスコア集計やゲーム分析を行うため、パソコンの基本的な操作法は予め身に付けておくこと。また、課題は遅滞無く提出をすることなど、基本的なルールを守ること。その他の諸注意は初回のオリエンテーションで行います。
授業計画は順序が前後することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習（ハンドボール）Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | 基本が身につくハンドボール練習メニュー200　池田書店<br>コーチング学への招待　球技のコーチング学 |
| オフィスアワー | 前期（水）12:40-14:10　後期（木）10:20-11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（サッカー）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Soccer) | | | | 担当教員 | 黒澤　尚 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 日本サッカー協会の指導現場での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業はサッカーの理論と実技・実践の2部構成から成る。理論は，サッカーのゲームの成り立ちやプレイの構成を示す原理・原則について説明する。実践は、基礎・基本としてサッカーの専門用語を中心に課題を設定し，受講者全員にパワーポイントでのプレゼンテーションを課す。また、授業の充実と指導の徹底のためT＆Tにて実施する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

本授業は演習科目として、サッカーの理論と実技・実践の2部構成から成る。理論については，サッカーのゲームの成り立ちやプレイの構成を示す原理・原則について説明する。実践については、基礎・基本としてサッカーの専門用語を中心とした課題を設定し，受講者全員にパワーポイントでのプレゼンテーションを課す授業を実践する。また、授業の充実と指導の徹底のため、T＆Tにて授業実施する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | サッカーの正しい専門知識を数多く獲得することでハイレベルな指導説明ができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 将来の指導者の資質の獲得により，更なるモチベーションの向上につながる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 理論とプレゼンテーションで獲得した知識を基に、プレイヤーとしての競技力向上にもつながる。 |

**授業計画（全体）**

日本サッカー協会の指導現場での実務経験を活かして、日本サッカー協会のコーチング法の観点からサッカー競技のベースとなる原理・原則については理論として座学講義で学修する。次に特殊ポジションのゴールキーパーについては、理論と実技として2コマで実施。パワーポイントでのプレゼンテーションは、1人持ち時間15分で発表・ディスカッション・コメントを行う。発表人数は1コマ最大で6名（6課題）とする。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] 課題プレゼンテーション その1（6課題）<br>[内容] サッカーの理論系に関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ② | [テーマ]自分が考える日本代表チームについて<br>[内容] 選手選考とチーム機能を一致させたチーム作りの考え方を解説する<br>[授業外学修]解説により、変更した日本代表チームを再作成し次回提出 | ⑩ | [テーマ] 課題プレゼンテーション その2（6課題）<br>[内容] サッカーのピッチやエリアに関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ③ | [テーマ] サッカーの良いゲームの分析について<br>[内容] 良いゲームの成り立ちと構成について解説する。<br>[授業外学修]配布資料をまとめ，授業ノートを準備・作成する。 | ⑪ | [テーマ] 課題プレゼンテーション その3（6課題）<br>[内容] サッカーのトレーニングの種類と方法に関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ④ | [テーマ] サッカーのプレイの原則について<br>[内容] ゲーム中のプレイの成り立ちと構成について解説する。<br>[授業外学修]配布資料をまとめ，授業ノートを準備・作成する。 | ⑫ | [テーマ] 課題プレゼンテーション その4（6課題）<br>[内容] サッカーのコーチング技法に関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ⑤ | [テーマ] サッカーのマークの原則について<br>[内容] マークの原則におけるポジショニングとアプローチ、そしてチャレンジプライオリティーについて解説<br>[授業外学修]配布資料をまとめ，授業ノートを準備・作成する。 | ⑬ | [テーマ]課題プレゼンテーション その5（6課題）<br>[内容] サッカーの技術に関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ⑥ | [テーマ]特異性の原則とコーチングの関係について<br>[内容] 特異性の原則に基づく良いコーチングが、より高いトレーニング効果直結することを解説する。<br>[授業外学修]配布資料をまとめ，授業ノートを準備・作成する。 | ⑭ | [テーマ] 課題プレゼンテーション その6（6課題）<br>[内容] サッカーの戦術に関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ⑦ | [テーマ] サッカーのゴールキーパーの理論<br>[内容] 特殊ポジションであるゴールキーパーのプレイ理論について解説する。<br>[授業外学修]配布資料をまとめ，授業ノートを準備・作成する。 | ⑮ | [テーマ] 課題プレゼンテーション その7（6課題）<br>[内容] サッカーのプレイに関するパワーポイントプレゼンテーションとディスカッション、そしてコメント。<br>[授業外学修]次回の6課題について授業ノートに予習してくること |
| ⑧ | [テーマ] サッカーのゴールキーパーのコーチング法（実技）<br>[内容] ゴールキーパーの基本技術を中心としたプレイとトレーニングのコーチング法を実践する。<br>[授業外学修]配布資料をまとめ，授業ノートを準備・作成する。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 原理・原則に関わる範囲内のペーパーテスト<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

定期テストが40%、演習としてのパワーポイントプレゼンテーションが40%、授業外レポートとしての授業ノートの作成が20%で評価する。授業態度と出席は減点・欠格条件とする。受講生への改善フィードバックは、理論系は授業ノートを基に、プレゼンテーションはコメント及び授業後に個別で実施する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 40% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ○ | 40% |
| 授業態度 | | | | 欠格条件 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・「公」と「私」のチャンネルチェンジのできる、「学ぶ」高いモチベーションを有した受講生を強く希望する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | サッカー（実技）、種目別コーチング演習Ⅱ（サッカー） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 研究室：A棟409　オフィスアワー：火曜日14:00～15:00 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ(ラグビー)<br>Coaching seminar in different events Ⅰ(Rugby) | | | | 担当教員 | 武石 健哉 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | - |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業では，競技種目としてのラグビーコーチングにおける，パス、ランニング、コンタクトの各基本技術の指導体系を明らかにし，競技力向上を目指した指導上の方法論を学習，実践していく。また，ラグビーの変遷や競技特性についても学ぶ。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

ラグビーにおけるパス，ランニング，コンタクトの各基本技術について，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する(手本を示せる)こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする。また,ラグビーの変遷や競技特性を理解し，説明できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ラグビーの変遷や特性および基本的な技術を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | ラグビー指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ラグビーの基本的な技術を身に付け，それらを指導することができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業では，ラグビーの変遷や競技特性の学習，パス，ランニング，コンタクトの各基本技術における指導体系の学習，各基本技術の習得およびそれらの指導の実践を中心に，講義および実習(実技)の各形式を用いて授業を展開していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]事前にラグビーの歴史、ルールについて調べてくること | ⑨ | [テーマ] ランニングスキルのコーチング③<br>[内容] 防御の状況に応じてランニングスキルを変えることを学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのラニングスキルについて調べてくること |
| ② | [テーマ]]ラグビーの変遷<br>[内容] ラグビーの原型、アマチュアリズムからプロ化へ、ルールの変遷について学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーの歴史、ルールについて調べてくること | ⑩ | [テーマ] コンタクトスキルのコーチング①<br>[内容] ボールキャリアーのコンタクトプレーを学ぶ<br>[授業外学修]事前にボールキャリアーのコンタクトプレーを調べてくること |
| ③ | [テーマ] ラグビーの競技特性<br>[内容] ラグビーゲームの仕組みとその競技特性について学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのゲーム構造について調べてくること | ⑪ | [テーマ] コンタクトスキルのコーチング②<br>[内容] サポートプレイヤーのコンタクトプレーを学ぶ<br>[授業外学修]事前にサポートプレイヤーのコンタクトプレーを調べてくること |
| ④ | [テーマ] パススキルのコーチング①<br>[内容] ラグビーボールの形状、パスされたボールの動きを学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーボールの形状について調べてくること | ⑫ | [テーマ] コンタクト技術のコーチング③<br>[内容] ディフェンスのコンタクトプレーを学ぶ<br>[授業外学修]事前にディフェンスのコンタクトプレーを調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] パススキルのコーチング②<br>[内容] 立ったままでのパス、走りながらのパスを比較し、体の動かし方を学ぶ<br>[授業外学修]事前にパスの方法について調べてくること | ⑬ | [テーマ] タッチラグビー<br>[内容] タッチラグビーにて攻撃、防御のスキルを学ぶ<br>[授業外学修]事前にタッチラグビーのルールを調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] パススキルのコーチング③<br>[内容] 防御に対応してパスをすることを学ぶ<br>[授業外学修]事前にパスの方法について調べてくること | ⑭ | [テーマ] 7人制ラグビー<br>[内容] 7人制のルールを学ぶ、実践する<br>[授業外学修]事前に7人制のルールを調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] ランニングスキルのコーチング①<br>[内容] 防御を引き付けるランニングを学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのランニングスキルについて調べてくること | ⑮ | [テーマ] 7人制ラグビー<br>[内容] 7人制の試合にてパス、ランニング、コンタクトの技術を学ぶ<br>[授業外学修]事前に7人制のルールを調べてくること |
| ⑧ | [テーマ] ランニングスキルのコーチング②<br>[内容] 防御を迂回するランニングを学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのランニングスキルについて調べてくること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] テスト問題と実技テストを実施する<br>[授業外学修]事前にラグビーのコーチングとスキルについて調べてくること |

**成績評価方法(方針)**

試験は，期末試験を1回実施する(評価割合80%)．また，授業内課題を評価対象とする(評価割合20%)．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする．

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | | 20% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない(欠格条件)．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．受講生数によっては、集中授業形式で行う可能性もある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ(ラグビー) | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜:10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（テニス）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Tennis) | | | | 担当教員 | 佐藤　周平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 国立競技場体育指導員（テニス）の経験有 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、競技種目としてのテニス（硬式）における、基本技術（ストローク、ボレー、スマッシュ、サーブ、リターン）の指導体系を理解し、競技力向上を目指した指導上の方法や理論を学習していく。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

基本技術、戦術、など習得する。（手本を自ら示せるようになること）最終的には習得した技術や理論、経験を基に指導を行うことが出来るようになること。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | テニスの基本的な技術、競技特性、ルールについて説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | テニスの指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | テニスの技術を身につけ、それらを指導することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、競技種目としてのテニス（硬式）における、基本技術の指導体系の学習。競技力向上を目指した指導上の方法や理論を授業計画に基づいて授業を実践していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価の説明<br>[授業外学修]シラバスを読んでくること | ⑨ | [テーマ] 基本技術の指導方法③<br>[内容] サーブ<br>[授業外学修]肩関節の動きの理解をまとめてくる |
| ② | [テーマ] 基本技術①<br>[内容] ストロークについて理論の習得<br>[授業外学修]準備動作について調べてくること | ⑩ | [テーマ] 指導時における言葉<br>[内容] 指導時の言葉について<br>[授業外学修]指導時の専門用語を調べてくる |
| ③ | [テーマ] 基本技術②<br>[内容] ストローク:フォアハンドの実践<br>[授業外学修]準備動作について調べてくる事 | ⑪ | [テーマ] 試合形式の実践①<br>[内容] シングルスのゲーム性の理解<br>[授業外学修]シングルスのゲームを2試合見てくる |
| ④ | [テーマ] 基本技術③<br>[内容] ストローク:バックハンドの実践<br>[授業外学修]準備局面について調べてくる | ⑫ | [テーマ] 試合形式の実践②<br>[内容] ダブルスのゲーム性の理解<br>[授業外学修]ダブルスの試合を2試合見てくる |
| ⑤ | [テーマ] 基本技術④<br>[内容] ボレーの実践<br>[授業外学修]主要局面について調べてくる | ⑬ | [テーマ] テニスのゲーム①<br>[内容] シングルス5セットマッチの実践<br>[授業外学修]リカバリーについて調べてくる |
| ⑥ | [テーマ] 基本技術⑤<br>[内容] オーバーヘッド技術の実践<br>[授業外学修]終末局面について調べてくる | ⑭ | [テーマ] テニスのゲーム②<br>[内容] ダブルス3セットマッチの実践<br>[授業外学修]連携について調べてくる |
| ⑦ | [テーマ] 基本技術の指導方法①<br>[内容]グラウンドストロークのボールフィーディングについて<br>[授業外学修]ボールフィーディーングについて調べてくる | ⑮ | [テーマ] テスト:習得技術やコーチングの実践<br>[内容] オンコートコーチングの実践<br>[授業外学修]コーチング計画を立ててくる |
| ⑧ | [テーマ] 基本技術の指導方法②<br>[内容] ボレー・スマッシュのボールフィーディングについて<br>[授業外学修]ボールフィーディーングについて調べてくる | ⑯ | [テーマ] テスト:筆記<br>[内容] テニスのコーチングの専門用語,<br>[授業外学修]テストに向けた知識の復習 |

**成績評価方法（方針）**

実技試験（模擬レッスン）を実施し、習得したコーチングテクニックを含めて評価する。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 10% |
| 授業内レポート | | | | 10% |
| 授業外レポート | | | | 10% |
| 演習・実技 | ○ | | ○ | 30% |
| 授業態度 | | | | 40% |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
テニスシューズを各自準備すること。

・ラケット、ボールは貸し出し可能。

・質疑応答に関して積極的に行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 前期:木曜10:20-11:50 後期金曜14:20-15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習I(バドミントン)<br>Coaching seminar different events I(Badminton) | | | | 担当教員 | 林　直樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | (公財)日本バドミントン協会　医事トレーニング管理部・分析スタッフの経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業では、バドミントン競技における技術・体力・心理・戦術の4つのディマンドについて解説し、それぞれのディマンドに応えていくコーチングの方法論を、スポーツ科学各論からのアプローチによって明らかにしていく理論と実践を解説する。実務経験を活かして分析的視点を積極的に取り入れて指導する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

上記の4つのディマントに関して、技術論についてはバイオメカニクスや解剖生理学、体力論については運動生理学やトレーニング方法論、心理論についてはスポーツ心理学、戦術論についてはスポーツ情報戦略論などの既修科目の知識を動員し、今まで経験してきた専門的知識とを融合させたスポーツ科学的コーチングの理論と方法論を構築する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バドミントン競技における4つのディマンドとスポーツ科学科目との関連を理解し説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | バドミントンのコーチングに関して経験に依存し過ぎることなく理論的な理解をすることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | バドミントンのコーチングにおける4つのディマンドについて表現する方法を獲得し、指導することができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業は、日本バドミントン協会公認の指導理論を活用し、全国大会出場から上位クラスまでのコーチングを担当できる知識と方法の獲得を目指していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業内容の説明、成績評価の説明、連絡先の確認などを行う。<br>[授業外学修]次回予習として4つのディマンドについて考えてくる。 | ⑨ | [テーマ] 体力論(3)　2400m走とVO2max<br>[内容] 2400m走の記録からVO2maxを推定する方法を解説する。<br>[授業外学修]トレーニング方法論の筋力アップの構造について復習しておく。 |
| ② | [テーマ]バドミントンの指導理論<br>[内容] バドミントン競技における技術・体力・心理・戦術の4つのディマンドを解説し、練習計画の作成についてディベートする。<br>[授業外学修]解剖生理学の視機能について復習しておく。 | ⑩ | [テーマ] 体力論(4)　レジスタンストレーニング<br>[内容] 筋肉の適応機序から、バドミントン競技に適切なレジスタンストレーニングを解説する。<br>[授業外学修]技術論、体力論についてレポートとしてまとめる。 |
| ③ | [テーマ] 技術論(1)　視機能と運動構造の理解<br>[内容] デュアルビジョンの機能的構造とバドミントンの運動構造を解説する。<br>[授業外学修]バイオメカニクスの回転力(トルク)について復習しておく。 | ⑪ | [テーマ] 戦術論(1)　戦術の原則<br>[内容] 様々な競技における戦術分析を紹介し、バドミントンに適した戦術分析についてディベートする。<br>[授業外学修]分析対象とする試合の映像を用意してスコアを記録しておく。 |
| ④ | [テーマ] 技術論(2)　コンタクト技術、ヒッティング技術、スイング技術<br>[内容] 理想的なストロークを理論の上から考えて、現実の運動構造とのマッチングを行う。<br>[授業外学修]バイオメカニクスの重心について復習しておく。 | ⑫ | [テーマ] 戦術論(2)　エース・エラー分析<br>[内容] ラリーの帰結としてのエースとエラーを、その数量と傾向について分析する。<br>[授業外学修]取り組んだ分析を完成させる。 |
| ⑤ | [テーマ] 技術論(3)　トラベリング技術<br>[内容] トラベリングのアプローチとリカバリーに分類して、その技術について解説する。<br>[授業外学修]昭和30～40年代の図書から誤った表現を探しておく。 | ⑬ | [テーマ] 戦術論(3)　配球エリア分析<br>[内容] ラリー中すべての配球をすべて記録し、その数量と傾向について分析する。<br>[授業外学修]取り組んだ分析を完成させる。 |
| ⑥ | [テーマ] 技術論(4)　主観に依るいままでの誤ったコーチング例<br>[内容] 経験や観察に基づいた誤った指導方法の歴史について解説する。<br>[授業外学修]トレーニング方法論の原理原則について復習しておく。 | ⑭ | [テーマ] 戦術論(4)　時間分析<br>[内容] ラリー中のストローク時間やラリー時間、休息時間を計測し、その長短や比率を分析する。<br>[授業外学修]取り組んだ分析を完成させる。 |
| ⑦ | [テーマ] 体力論(1)　トレーニングの原理原則と課題の抽出<br>[内容] トレーニングの原理原則を解説し、バドミントン競技とのマッチングを行う。<br>[授業外学修]運動生理学の呼吸と血液循環について復習しておく。 | ⑮ | [テーマ] 心理論(1)　「インナーゲーム」(ガルウェイ)の紹介<br>[内容] 心理的アプローチについて、著書から紹介・解説する。<br>[授業外学修]技術論についてレポートとしてまとめる。 |
| ⑧ | [テーマ] 体力論(2)　心拍数と血中乳酸<br>[内容] ターゲットHRを設定し、運動前後の血中乳酸濃度を測定する。<br>[授業外学修]運動生理学の最大酸素摂取量について復習しておく。 | ⑯ | [テーマ] 心理論(2)　T・ナダルのコーチング<br>[内容] トニー・ナダルのコーチングについて録画映像を完勝し、そのマインドについてディベートする。<br>[授業外学修]新理論についてレポートとしてまとめる。 |

**成績評価方法(方針)**

授業内レポート(30%)と授業外レポート(70%)にて総合的に評価する。尚、授業態度が劣悪な場合と出席が規定に満たない場合は欠格とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 30% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |
| 出席 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

本授業はバドミント競技における専門的な知識と経験を獲得する授業であるので、バドミントンを専門競技と捉えている者の受講を認める。尚、スポーツコーチング実習(バドミントン)を併せて履修することが望ましい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | バドミントン実技、種目別コーチング演習Ⅱ(バドミントン)、スポーツコーチング実習(バドミントン) | 関連資格 | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する。 | 参考書 | バドミントンの指導理論1(日本バドミントン指導者連盟)<br>バドミントン上達システム(高瀬秀雄,ベースボールマガジン |
| オフィスアワー | F棟2階213(林直樹研究室)　火曜日10:20～11:50 | その他 | no-hayashi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（野球）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Baseball) | | | | 担当教員 | 小野寺和也・入澤裕樹・森本吉謙 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 大学・高校野球の指導者としての実務経験を有する<br>社会人野球選手としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 競技種目としての野球のコーチングにおける，投球，打撃，捕球，走塁の各基本技術の指導体系を明らかにし，競技力向上を目指した指導上の方法論を学習，実践していく．また，野球の変遷や競技特性についても学ぶ．大学・高校野球の指導者および社会人野球選手の実務経験を活かし実践的な講義または演習を行う． | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

野球における投球，打撃，捕球，走塁の各基本技術について，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する（手本を示せる）こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする．また，野球の変遷や競技特性を理解し，説明できるようになる．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 野球の変遷や特性および基本的な技術を説明できる． |
| ■ | 情意的領域 | 野球指導に関する理論的な思考を持つことができる． |
| ■ | 技能表現的領域 | 野球の基本的な技術を身に付け，それらを指導することができる． |

**授業計画（全体）**

本授業では，野球の変遷や競技特性の学習，投球，打撃，捕球，走塁の各基本技術における指導体系の学習，各基本技術の習得およびそれらの指導の実践を中心に，講義および実習（実技）の各形式を用いて授業を展開していく．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 防御技術のコーチング（捕手）<br>[内容] 捕手におけるキャッチング，難球処理，送球，バント処理について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ] 野球の変遷<br>[内容] 野球の変遷について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ] 打撃技術のコーチング（バットの特性）<br>[内容] 形状，重量の違いによるバットの特性および選び方について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ] 野球の競技特性<br>[内容] 野球の仕組みとその競技特性について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ] 打撃技術のコーチング（打撃フォーム）<br>[内容] 打撃におけるバットの握り方，スイング構造について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] 防御技術のコーチング（グラブの特性）<br>[内容] 各ポジションにおけるグラブの違いと特性および選び方について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ] 打撃技術のコーチング（打撃ポイント）<br>[内容] 各打撃ポイント（高低，内外）におけるスイングについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 防御技術のコーチング（キャッチボール）<br>[内容] キャッチボールにおけるボールの握り方，送球，捕球について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ] 打撃技術のコーチング（バント）<br>[内容] 各種バント（犠牲，セフティ，スクイズ，プッシュ）について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 防御技術のコーチング（投球フォーム）<br>[内容] 投手のピッチングにおける投球フォームの基本について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ] 走塁技術のコーチング（ベースランニング）<br>[内容] 打者走者および各塁走者の走塁について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 防御技術のコーチング（ゴロ処理）<br>[内容] ゴロ処理における構え，移動，捕球姿勢，グラブの使い方について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ] 走塁技術のコーチング（ベースコーチ）<br>[内容] ベースコーチにおける判断，ジェスチャーについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] 防御技術のコーチング（フライ処理）<br>[内容] フライ処理における構え，移動，捕球姿勢，グラブの使い方について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法（方針）**

試験は，期末試験を1回実施する（評価割合80%）．また，授業内課題を評価対象とする（評価割合20%）．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ（野球） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室：第二体育館2階（小野寺） |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（漕艇）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Rowing) | | | | 担当教員 | 阿部　肇 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | JOCコーチングディレクターの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業は、競技志向的な漕艇のコーチングにおける、基本技術の指導体系を明らかにし、競技力向上を目指した指導上の方法論を学習，実践していく。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

漕艇における艇に動力を与える局面であるドライブ、次ドライブへの準備となるフォワードなどの各基本技術について、指導体系を理解すること、自ら技術を習得する（手本を示せる）こと、さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 漕艇の競技特性および基本的な技術を理解し、説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 漕艇指導に関して、選手の発達段階を理解し、指導できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 漕艇の基本的な技術を身に付け、自ら実践および指導することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業は、漕艇の競技特性の学習、基本技術の理解、指導体系の学習、基本技術の習得およびそれらの指導の実践を中心に、講義および実習（実技）の各形式を用いて実践的に分かりやすく授業を展開する。漕艇競技の経験のある学生は積極的に器具の準備や安全管理に協力してもらいたい。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 授業の進め方、目標と目的、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを理解すること | ⑨ | [テーマ] COXの役割<br>[内容] 主に練習期間において、COXは選手たちをいかにサポートし、いかに指示を与えれば良いのかを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ] 漕艇の競技特性とコーチング<br>[内容] 漕艇の競技特性とJOCコーチングディレクターとしての経験を活かしてコーチングを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ] 漕艇の技術トレーニングの方法①<br>[内容]「ドライブ」局面を指導する場合の技術トレーニングを学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ] 漕艇の基本技術①<br>[内容]水に動力を与える局面である「ドライブ」について学ぶ。当該局面における基本用語を使用できるようになる。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ] 漕艇の技術トレーニングの方法②<br>[内容]「フォワード」局面を指導する場合の技術トレーニングを学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] 漕艇の基本技術②<br>[内容] 次なる「ドライブ」への準備局面である「フォワード」について学ぶ。当該局面における基本用語を使用できるようになる。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ] 漕艇の技術トレーニングの実践①<br>[内容]対象者について、「ドライブ」局面を指導する場合、技術トレーニングをデザインし実践する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 漕艇の基本技術③<br>[内容]グリップの握り方など、正しい道具の使い方について学ぶ種目による基本動作の違いを明らかにする。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ] 漕艇の技術トレーニングの実践②<br>[内容]対象者について、「フォワード」局面を指導する場合、技術トレーニングをデザインし実践する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 漕艇の基本技術④<br>[内容] 各ポジションにおいて力の伝わり方がどのように異なるか、したがって各ポジションにどのような役割があるかについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ] 漕艇の技術トレーニングの実践③<br>[内容]対象者について、「スウィープ種目の動作」を指導する場合、技術トレーニングをデザインし実践する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ]漕艇の基本技術⑤<br>[内容] スウィープ種目における基本技術を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ] 漕艇の技術トレーニングの実践④<br>[内容]対象者について、「スカル種目の動作」を指導する場合、技術トレーニングをデザインし実践する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] 漕艇の基本技術⑥<br>[内容] スカル種目における基本技術を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法（方針）**

出席点数の評価割合を50％とする。また、期末試験及び授業内課題（各単元の理解度、選手への声掛け、実践したトレーニングの完成度など）を評価対象とする（評価割合50%）。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。3回以上の欠席は欠格条件とす

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・私語・携帯電話使用（メール、アプリなど）は厳に慎むこと。電卓・辞書などの機能を携帯電話で使いたい場合は、申告が必要である。授業の妨げにならないことであれば、自主的に発言し、積極的に学ぶ姿勢を常に持ち続けてて欲しい。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ（漕艇） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜　10:00-12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（柔道）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ（Judo） | | | | 担当教員 | 川戸湧也／南條充寿 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本科目では、学校体育と課外活動における柔道実技に着目し、その指導における正しい理論と技術を説明する。<br>投技と連絡技においては、専門的な指導技術が必要なものを抽出し、その方法や留意点について説明する。<br>学校体育と課外活動の柔道において、起こりやすい間違いや事故について解説する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

投技68本の中から、学校体育と課外活動の両者において必要と思われる技術について基本的な動きから実戦での応用までを理解する。
学校体育の指導現場において、初心者に起こりやすい間違いなども把握して理解する。
技能の習得を通じて、柔道の本質である「精力善用」自他共栄」の精神を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 技術の伝達において、その理論も含め、説明をすることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本動作（礼法・姿勢・組み方・進退動作・受身）の説明ができる。<br>技術の伝達（基本動作、投技と連絡技）とその留意点が説明できる。 |

**授業計画（全体）**

学校体育と課外活動において必要と思われる技術について、基本的な動きから実戦での応用までに迫り、他者に指導ができるようになることを目的としている。
また、立技においては「連絡技」の修得を通じて理合の向上を目指す。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション（南條）<br>[内容]<br>授業全体の流れや評価の目安について説明する。<br>[授業外学修] 柔道の知識についてまとめておくこと | ⑨ | [テーマ] 投技④（川戸）<br>[内容] 大外刈、大内刈について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること |
| ② | [テーマ] 指導上の注意（南條）<br>[内容] 中学校で武道が必修化された理由を考える。<br>また、柔道の事故について知る。<br>[授業外学修] 柔道で起こった事故について調べてくること | ⑩ | [テーマ] 投技⑤（川戸）<br>[内容] 小内刈、小外刈について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること |
| ③ | [テーマ] 受身①（南條）<br>[内容] 後受身、横受身、前受身について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上の注意点を説明する。<br>[授業外学修] 柔道における受身の種類について調べてくること | ⑪ | [テーマ] 投技⑥（川戸）<br>[内容] 巴投と捨身技について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること |
| ④ | [テーマ] 受身②（南條）<br>[内容] 前回受身（低い姿勢から）について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 前回り受身の形を調べてくること | ⑫ | [テーマ] 連絡技①（川戸）<br>[内容] これまで習得した技術をつなげて施す「連絡技」について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 技を連続させるタイミングについて事前に調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] 受身③（南條）<br>[内容] 前回受身（高い姿勢から）について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 前回り受身の形を調べてくること | ⑬ | [テーマ] 連絡技②（川戸）<br>[内容] これまで習得した技術をつなげて施す「連絡技」について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 技を連続させるタイミングについて事前に調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] 投技①（南條）<br>[内容] 出足払、送足払、燕返、膝車、支釣込足について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること | ⑭ | [テーマ] 連絡技③（川戸）<br>[内容] これまで習得した技術をつなげて施す「連絡技」について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 技を連続させるタイミングについて事前に調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] 投技②（南條）<br>[内容] 大腰、払腰について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること | ⑮ | [テーマ] 復習（南條）<br>[内容]<br>全14回で説明してきた技術についてふりかえる。<br>[授業外学修] それぞれの技に対する指導の方法をふりかえっておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 投技③（南條）<br>[内容] 体落、背負投について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容]<br>これまで解説してきた柔道について理解度を確かめる。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

実技試験と各授業における取り組みを観察し評価する。実技試験ならびに観察の基準についてはオリエンテーションで提示する。評価得点は個人にフィードバックする。
ただし、出席回数が2/3に満たない場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ○ | 20% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・柔道に対する正しい理論と技術を修得しておくことが大切である。
・授業中は、道場内でのルールを厳守する。著しく実践できない学生については受講を遠慮してもらう可能性がある。
・柔道衣は各自で準備する。
・柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 柔道、スポーツコーチング実習、種目別コーチング演習Ⅱ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に定めない | 参考書 | 特に定めない |
| オフィスアワー | 木曜日 10:20～11:50（川戸） | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅰ（剣道）<br>Coaching seminar in different events Ⅰ（Kendo） | | | | 担当教員 | 齋藤浩二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 剣道の初心者を対象とした指導方法を取り上げて、技術の指導構成を基にした内容を実践していく。その上で指導体験として模擬指導を展開する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

剣道の指導内容を整理して、その手順を知ることができる。指導をすることの難しさと何をどのように伝えればいいのかという指導のポイントを理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 剣道の指導の手順を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 剣道の技術に理論的な思考をもつことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 剣道の模範的な基本動作が身につけることができる。 |

**授業計画（全体）**

剣道の初心者指導の手順に則り、技術の取得と指導方法を展開していく。（基本動作から剣道具着装し、基本打突まで）指導体験として、グループに分かれて指導案作成から模擬授業を実施する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の概要<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 剣道具着装と打ち方（Ⅳ）<br>[内容] 剣道具（面・小手）の着装、面・胴打ち<br>[授業外学修]手ぬぐいの付け方の説明を考えてくること |
| ② | [テーマ]剣道について、竹刀の説明<br>[内容] 実技指導前の基礎知識として、剣道について、竹刀について取り上げる<br>[授業外学修]竹刀の名称、規格を調べてくること | ⑩ | [テーマ] 基本打突（Ⅰ）<br>[内容] 基本打突（面・胴打ち）<br>[授業外学修]胴打ちの仕方を考えてくること |
| ③ | [テーマ] 基本動作（Ⅰ）<br>[内容] 礼法、構え、振り方、足さばき<br>[授業外学修]剣道における礼法とはを調べてくること | ⑪ | [テーマ] 基本打突（Ⅱ）<br>[内容] 基本打突（面・胴・小手打ち）<br>[授業外学修]小手打ちの仕方を考えてくること |
| ④ | [テーマ]基本動作（Ⅱ）<br>[内容] 素振り、踏み込み<br>[授業外学修]素振りと打つことの関連について考えてくること | ⑫ | [テーマ] 模擬指導（Ⅰ）<br>[内容] 基本動作（Ⅰ）礼法、構え、振り方、足さばき<br>[授業外学修]指導案を作成すること |
| ⑤ | [テーマ] 基本打突<br>[内容] 基本打突（面打ち）<br>[授業外学修]自分の面打ちのやり方をまとめてくること | ⑬ | [テーマ] 模擬指導（Ⅱ）<br>[内容] 基本動作（Ⅱ）素振り、踏み込み<br>[授業外学修]指導案を作成すること |
| ⑥ | [テーマ] 剣道具着装と打ち方（Ⅰ）<br>[内容] 剣道具（垂・胴）の着装、胴のその場打ち<br>[授業外学修]剣道具（垂・胴）の名称を調べてくること | ⑭ | [テーマ] 模擬指導（Ⅲ）<br>[内容] 基本打突（面打ち）<br>[授業外学修]指導案を作成すること |
| ⑦ | [テーマ] 剣道具着装と打ち方（Ⅱ）<br>[内容] 剣道具（垂れ・胴）の着装、面・胴打ち<br>[授業外学修]胴の紐の結び方の説明を考えててくること | ⑮ | [テーマ] 剣道の教材の工夫<br>[内容] 竹刀を用いての教材の工夫<br>[授業外学修]竹刀を用いた内容を考えてくること |
| ⑧ | [テーマ] 剣道具着装と打ち方（Ⅲ）<br>[内容] 剣道具（面・小手）の着装、面・胴・小手のその場打ち<br>[授業外学修]剣道具（面・小手）の名称を調べてくること | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 授業の理解度を試験する<br>[授業外学修]これまでの内容をまとめてくること |

**成績評価方法（方針）**

試験（50%）、模擬授業（50%）、授業態度を総合的に評価する。試験については（授業内で）解説し伝える。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 50% |
| 授業態度 | △ | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・節度ある態度で受講してもらいます。ふさわしくない場合は、厳しく指導します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ（剣道） | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定はありません。 | 参考書 | 『剣道指導要領』 |
| オフィスアワー | 木曜日　11:00～12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ(陸上競技)<br>Coaching seminar in different events Ⅱ | | | | 担当教員 | 門野洋介／柴山一仁／宮崎利勝／名取英二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 教員、指導者として教育、指導経験あり |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 種目別コーチング演習Ⅰで学習した内容をもとに、学校体育や部活動等、様々な陸上競技の指導場面に応じた指導理論や指導方法を、主に演習を通して教授する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

① 様々な陸上競技の指導場面を想定し、それに応じた指導計画が作成できる。
② ①をもとに陸上競技の模擬指導を行なうことで、指導理論や指導方法が身につく。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 陸上競技の指導理論・方法がわかる。 |
| ■ | 情意的領域 | 陸上競技の指導理論・方法について興味、関心が持てる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々な陸上競技の指導場面に応じた指導計画が作成でき、指導ができる。 |

**授業計画(全体)**

① 様々な陸上競技の指導場面を想定し、それに応じた指導計画を作成する。
② ①をもとに、模擬指導を行なう。
③ 模擬指導の振り返りを行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス(門野)<br>[内容]<br>授業計画について説明する。<br>[授業外学修]授業計画について復習しておく | ⑨ | [テーマ] 模擬指導⑥(門野)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ② | [テーマ] 指導計画づくり①(名取)<br>[内容]<br>指導計画を作成する。<br>[授業外学修]指導計画を見直しておく | ⑩ | [テーマ] 模擬指導⑦(名取)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ③ | [テーマ] 指導計画づくり②(柴山)<br>[内容]<br>指導計画を作成する。<br>[授業外学修]指導計画を見直しておく | ⑪ | [テーマ] 模擬指導⑧(柴山)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ④ | [テーマ] 模擬指導①(宮崎)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく | ⑫ | [テーマ] 模擬指導⑨(宮崎)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ⑤ | [テーマ] 模擬指導②(門野)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] 模擬指導⑩(門野)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ⑥ | [テーマ] 模擬指導③(名取)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく | ⑭ | [テーマ] 模擬指導⑪(名取)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ⑦ | [テーマ] 模擬指導④(柴山)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく | ⑮ | [テーマ] 模擬指導⑫(柴山)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく |
| ⑧ | [テーマ] 模擬指導⑤(宮崎)<br>[内容]<br>指導計画をもとに模擬指導を行なう。<br>[授業外学修]模擬指導の振り返りをしておく | ⑯ | [テーマ] 指導の振り返りをしておく(宮崎)<br>[内容]<br>模擬指導の振り返りを行なう。<br>[授業外学修] 振り返りレポートを作成する |

**成績評価方法(方針)**

・①出席、②指導計画および模擬指導の出来栄え、③振り返りレポートで評価する。
・受講態度も評価に含む。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | 50% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・種目別コーチング演習Ⅰ(陸上競技)の単位を修得済であることを履修の条件とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅱ(陸上競技)<br>スポーツコーチング実習(陸上競技) | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 門野(A408)月曜10:00-11:00 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（体操競技）<br>Coaching seminar in different eventsⅡ（Gymnastics） | | | | 担当教員 | 鈴木 良太 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、体操競技の技能習得を目的した指導法および幇助法を学習し、指導者としての資質を高めるものである。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいて授業概要および授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して体操競技の面白さを学習し、指導者としての資質を高めることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体操競技の変遷や特性および基本的な技能をふまえて応用技能の説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体操競技に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 体操競技の基本的な技能を身に付け、基本的技能を応用技能へ発展させる過程を指導することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、体操競技の変遷や競技特性の学習、指導の学習、基本技能の習得およびそれらの指導の実践を中心に、講義および実習（実技）の各形式を用いて授業を展開していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] 平行棒のコーチング<br>[内容] 平行棒の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ② | [テーマ] 体操競技の応用技能①<br>[内容] 体操競技の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑩ | [テーマ] 鉄棒のコーチング<br>[内容] 鉄棒の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ③ | [テーマ] 体操競技の応用技能②<br>[内容] 体操競技の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑪ | [テーマ] 女子跳馬のコーチング<br>[内容] 女子跳馬の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ④ | [テーマ] 体操競技の応用技能③<br>[内容] 体操競技の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑫ | [テーマ] 段違い平行棒のコーチング<br>[内容] 段違い平行棒の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑤ | [テーマ] ゆか運動のコーチング<br>[内容] ゆか運動の応用技能ついて学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑬ | [テーマ] 平均台のコーチング<br>[内容] 平均台の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑥ | [テーマ] あん馬のコーチング<br>[内容] あん馬の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑭ | [テーマ] 女子ゆか運動のコーチング<br>[内容] 女子ゆか運動の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑦ | [テーマ] つり輪のコーチング<br>[内容] つり輪の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑮ | [テーマ] 応用技能のための補強<br>[内容] 応用技能のための補強ついて学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |
| ⑧ | [テーマ] 跳馬のコーチング<br>[内容] 跳馬の応用技能について学ぶ<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 授業の理解度、技能の習熟度のまとめをする<br>[授業外学修]専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。 |

**成績評価方法（方針）**

授業への出席情況や態度および理解度を評価の対象とする。 また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語、遅刻等は授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とす。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ（体操競技） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室：A棟4階412 |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ(新体操)<br>Coaching seminar in different evvents Ⅰ(R.G.) | | | | 担当教員 | 神野未来 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | (公財)日本スポーツ協会　公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 新体操競技について採点規則への理解を深め、実際に試合に対応できる演技を創作できるようにする。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

新体操競技の採点規則をもとに、専門的な知識を高め、将来新体操の指導者になる為のあらゆる技術を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 採点規則の把握。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 文献を読み取り、理解し、他者に分かりやすく伝えられる能力を身に付ける。<br>実技指導の能力を身に付ける。 |

**授業計画(全体)**

2017年より改訂された新体操採点規則集の読み取り、理解を中心に行う。実際に現場で生かされる能力を身に付ける。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。<br>[授業外学修] シラバスを熟読してくること。 | ⑨ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック④<br>[内容] 実際に演技を見て採点し合う<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ② | [テーマ]新体操を知る<br>[内容] 新体操について、歴史や手具について知る<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック④の反省と改善<br>[内容] 演技の振り返りと見直し<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ③ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック①<br>[内容] 実際に演技を見て採点し合う<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック⑤<br>[内容] 実際に演技を見て採点し合う<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ④ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック①の反省と改善<br>[内容] 演技の振り返りと見直し<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック⑤の反省と改善<br>[内容] 演技の振り返りと見直し<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑤ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック②<br>[内容] 実際に演技を見て採点し合う<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑬ | [テーマ] 競技会での採点①<br>[内容]<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑥ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック②の反省と改善<br>[内容] 演技の振り返りと見直し<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑭ | [テーマ] 競技会での採点②<br>[内容]<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑦ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック③<br>[内容] 実際に演技を見て採点し合う<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑮ | [テーマ] 競技会での採点③<br>[内容]<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑧ | [テーマ] 採点規則の確認と演技チェック③の反省と改善<br>[内容] 演技の振り返りと見直し<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑯ | [テーマ] 競技会での採点④<br>[内容]<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |

**成績評価方法(方針)**

出席を重視するとともに、授業への取り組みや態度を考慮して評価する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業態度 | | | ○ | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・欠席・遅刻等の報告は必ず事前に行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | Code of Points Rhythmic Gymnastics<br>新体操採点規則2017-2020 |
| オフィスアワー | 水曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室:第4体育館1階 |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習 Ⅱ（水泳）<br>Coaching seminar in different events Ⅱ(Swimming) | | | | 担当教員 | 渡邉　泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、水泳コーチングの競技力向上のための戦略と方法論について講義する。各種目別の特性、規則、力学と生理学に加え、メンタルトレーニングを含めた心身のコンディショニング方法を紹介する。その他、水泳パフォーマンスを評価するための各種測定と分析方法を解説し、データの活用方法について説明する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

水泳の基礎理論を修得し、科学的なエビデンスに基づくトレーニングおよびコンディショニング方法をよく理解し、対象者の状況に応じて適切な指導法を実践することができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 水泳の科学を理解し、トレーニングおよびコンディショニング方法について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 水泳の指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 水泳の競技力向上を目的としたトレーニングおよびコンディショニング方法と、水泳パフォーマンスを評価するための測定と客観的分析方法をよく理解し、対象者の状況に応じて適切な指導法を実践することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、前半で、水泳競技の特性、組織、各種競技規則に関する講義に加え、水泳競技のトレーニング科学と、水泳パフォーマンスを評価するための各種測定と分析方法、データ処理とその活用方法について解説する。後半では、心身のコンディショニングについて心理学、栄養学、医学の観点から説明する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の趣旨、内容、展開方法等について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 水泳競技の心理学Ⅰ<br>[内容] 水泳競技の動機付けとゴールセッティングの方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ② | [テーマ] 水泳競技概説Ⅰ<br>[内容] 水泳競技の特性と歴史、および競技団体としての組織と指導者育成システムについて学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑩ | [テーマ] 水泳競技の心理学Ⅱ<br>[内容] メンタルトレーニングの方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ③ | [テーマ] 水泳競技概説Ⅱ<br>[内容] 水泳競技を実施するプールの規格と各種目別競技規則、および競技会運営に関わる留意点等について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 水泳競技の心理学Ⅲ<br>[内容] 水泳競技のコミュニケーション・スキルとコーチング・スキルについて学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ④ | [テーマ] 水泳競技のバイオメカニクスⅠ<br>[内容] 近代4泳法における上肢・下肢動作の力学と推進力発揮のメカニズムについて学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑫ | [テーマ] 水泳競技の栄養学<br>[内容] 食事の摂り方とサプリメントの活用法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑤ | [テーマ] 水泳競技のバイオメカニクスⅡ<br>[内容] スタートおよびターンにおける力学と推進力発揮のメカニズムについて学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑬ | [テーマ] 水泳競技の医学<br>[内容] 水泳競技の主な疾病および障害、アンチ・ドーピング規則とその対処法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑥ | [テーマ] 水泳競技のバイオメカニクスⅢ<br>[内容] 水球、アーティスティックスイミング、飛込の力学について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑭ | [テーマ] 水泳競技の障害・外傷予防とケアⅠ<br>[内容] 水泳競技のトレーナーが果たす役割と日本水泳連盟医事・科学委員会の活動について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑦ | [テーマ] 水泳競技の生理学Ⅰ<br>[内容] 水泳競技における筋の収縮様式、循環器系応答、代謝応答について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑮ | [テーマ] 水泳競技の障害・外傷予防とケアⅡ<br>[内容] 各種目別で多くみられる障害・外傷とその対処法、ストレッチと体力トレーニングの方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |
| ⑧ | [テーマ] 水泳競技の生理学Ⅱ<br>[内容] 水泳競技におけるエネルギー供給系ならびに水泳パフォーマンスと生理的指標について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 | ⑯ | [テーマ] 水泳競技の障害・外傷予防とケアⅢ<br>[内容] スポーツマッサージと応急処置（RICE）について学ぶ。<br>[授業外学修] 授業内容について復習すること。 |

**成績評価方法（方針）**

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業内課題を評価対象とする（評価割合20%）。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における消極的な姿勢や、誠実さにかける態度については減点対象とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

私語、遅刻等の授業進行の妨げとなる行為や、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 水泳、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、スポーツコーチング実習（渡邉泰クラス） | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認水泳コーチ3 |
| 教科書 | なし | 参考書 | 水泳コーチ教本（日本水泳連盟編） |
| オフィスアワー | 火曜日12:00～13:00（LC棟2階207研究室） | その他 | 連絡先：ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ(バレーボール)<br>Coaching seminar in different eventsⅡ(Volleyball) | | | | 担当教員 | 石丸出穂 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験、Vリーグコーチの実務経験を有する<br>バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

バレーボールのコーチングにおける試合中の主要な戦術，技術(アタック，ブロック，サーブ，レセプション，ディグ，セット)の指導体系を明らかにし，競技力向上を目指した指導上の方法論を，バレーボール日本代表アナリスト，高校での教員経験，Vリーグコーチ実務経験を活かし，学習，実践していく．また，試合におけるデータの活用法や審判法、歴史や用語についても学ぶ．

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

バレーボールにおける試合中の主要な戦術，各種技術(アタック、ブロック、サーブ、パス、レセプション、ディグ、セット)について，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する(手本を示せる)こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする．また，データの活用法や審判法、歴史や用語を理解し，説明できるようになる．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バレーボールの試合における戦術，技術，データの活用法および審判法、歴史、用語を説明できる． |
| ■ | 情意的領域 | バレーボール指導に関する理論的な思考を持つことができる． |
| ■ | 技能表現的領域 | バレーボールの戦術，競技力向上に必要な技術を身に付け，それらを指導することができる． |

**授業計画(全体)**

本授業では，バレーボールの試合におけるデータの活用法や審判法、歴史や用語の学習，試合中の主要な戦術，各種技術(アタック、ブロック、サーブ、パス、レセプション、ディグ、セット)の指導体系の学習，そこで求められる技術の習得および指導の実践を中心に，講義および実習(実技)の各形式を用いて授業を展開していく．

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 防御技術のコーチング(ブロック①)<br>[内容] ブロックについての技術(ステップ、形作り)について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ] 攻撃技能のコーチング(サーブ)<br>[内容] 攻撃技能のサーブについて、ルーティンや、レセプションとのチェーンスキル、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ] 防御技術のコーチング(ブロック②)<br>[内容] ブロックについての戦術(反応:リード・コミット、配置:バンチ・スプレッド、など)について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ] 攻撃技能のコーチング(セット)<br>[内容] 攻撃技能に関わるセットについて、役割や考え方、ブロックとの駆け引き、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ] 防御技術のコーチング(サーブ＆ブロック)<br>[内容] サーブを起点とするブロック戦術について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] 攻撃技能のコーチング(レセプションアタック)<br>[内容] 攻撃技能に関わるレセプションアタックについて、トータルオフェンスとしての考え方や練習方法、テンポの概念、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ] 防御技術のコーチング(ブロック＆ディグ)<br>[内容] ブロックを起点とするディグの戦術、フォーメーション、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] バレーボールの情報戦略活動①<br>[内容] バレーボールの情報戦略活動の中心であるアナリストについて、収集、分析、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ] 防御技術のコーチング(トータルディフェンス)<br>[内容] サーブ、ブロック、ディグを包括した、トータルディフェンスについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] バレーボールの情報戦略活動②<br>[内容] バレーボールの情報戦略活動の中心であるアナリストについて、伝達、などについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ] 審判法<br>[内容] バレーボールの審判法について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 防御の戦術・戦略1(ブロック、レセプション、ディグ)<br>[内容] ディフェンスの戦術に不可欠であるブロックやディグ、レセプションについて、理論や混合戦術の展開について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ] バレーボールコーチングの研究動向<br>[内容] さまざまな最新の研究報告から、世界のバレーボールのトレンドを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] 防御の戦術・戦略2(トータルディフェンス)<br>[内容] トータルディフェンスとしてのフォーメーションや理論を学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法(方針)**

試験は，期末試験を1回実施する(評価割合60%)．また，授業内課題を評価対象とする(評価割合10%)．演習・実技については技術が身についているか，指導ができるかを評価対象とする(評価割合30%)．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | | | 10% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない(欠格条件)．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．演習ⅠとⅡを両方履修することが条件であり、演習Ⅰの最初のオリエンテーションに欠席した場合履修できない場合がある。現在バレーボールを実践している学生の履修とし実技の場として協力していただく男女バレーボール部のトレーニング(練習)に参加できる学生とする。それ以外の学生はオリエンテーション参加時に確認すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | バレーボール，種目別コーチング演習Ⅰ(バレーボール) | 関連資格 | |
| 教科書 | コーチングバレーボール基礎編(日本バレーボール協会・編) | 参考書 | Volleypediaバレーボール百科事典、バレークロニクル |
| オフィスアワー | 石丸研究室(E棟2階)　水曜日 10:20-11:50 | その他 | 石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（バスケットボール）<br>Coaching seminar in different eventsⅡ(Basketball) | | | | 担当教員 | 山田恵子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 大学・高専での指導経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業は、高校での教員経験を活かし、バスケットボールにおける指導方法学を講義する。バスケットボールの戦術を中心に講義や演習を展開していく中で、指導体系を明らかにし、競技力向上を目指す指導者の資質を高める。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

バスケットボールの主要な攻防の本質を理解し、技術体系から成り立つ指導手順と方法を理解する。又、原理原則から成り立つ連携プレイを解明しながら、より原理原則の理解を高め競技力向上の指導ができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バスケットボールの勝敗に関する分析や勝因や敗因を解明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | バスケットボール指導における理論的な思考と説明ができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | バスケットボール指導における口述表現や、指導手順並びに指導方法を学び、演習を通して指導することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では、一般的なスポーツ指導者の哲学領域と、バスケットボールの基本的な攻防の原理原則を講義を通して学習し、試合中の主要な戦術や連係プレーの指導体系の学習、その中で求められる技術の習得および指導方法などは、実践を中心に授業を展開していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 地域防御法の原理 2<br>[内容] ゾーン防御法や特殊防御法を学ぶ<br>[授業外学修]ゾーン防御法の必要性について理解しておくこと |
| ② | [テーマ]名将の指導哲学 1<br>[内容] 日本バスケットボール界で名将と言われている指導者の指導哲学を学ぶ<br>[授業外学修]あらゆる競技の指導者の哲学について調べておくこと | ⑩ | [テーマ]オリジナル 防御法の作成<br>[内容] 学んだ防御法から自分なりのオリジナル防御法を作り上げ発表する<br>[授業外学修]防御法について整理しておくこと |
| ③ | [テーマ] 名将の指導哲学 2<br>[内容] 日本バスケットボール界で名将と言われている指導者の指導哲学を学ぶ<br>[授業外学修]バスケットボールの指導者の哲学について調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 攻撃法（マンツウマン）<br>[内容] マンツウマン防御に対しての攻撃方法を学ぶ<br>[授業外学修]マンツウマン防御の攻撃の方法を調べておくこと |
| ④ | [テーマ] 個人防御法の原理 1<br>[内容] マンツウマン防御における原理原則と必要とする体力や基本技術を学ぶ<br>[授業外学修]ディフェンスについて調べておくこと | ⑫ | [テーマ] 攻撃法（ゾーン）<br>[内容] ゾーン防御に対しての攻撃方法を学ぶ<br>[授業外学修]ゾーン防御の攻撃の方法を調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 個人防御法の原理 2<br>[内容] マンツウマン防御における原理原則と必要とする体力や基本技術を学ぶ<br>[授業外学修]マンツウマン防御の種類について調べておくこと | ⑬ | [テーマ] オリジナル攻撃方法の作成（マンツウマン）<br>[内容] モーションオフェンスを共通のテーマにして、オリジナルモーションオフェンスを作成発表する。<br>[授業外学修]モーションオフェンスについて調べておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 個人防御法の展開 1<br>[内容] 戦術的要素を含む個人防御法の展開を学ぶ<br>[授業外学修]マンツウマン防御の必要性について理解しておくこと | ⑭ | [テーマ] オリジナル攻撃方法の作成（ゾーン）<br>[内容] ゾーン攻撃法を独自に作り上げ発表する。<br>[授業外学修]ゾーン防御の弱点をまとめておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 個人防御法の展開 2<br>[内容] 戦術的要素を含む個人防御法の展開を学ぶ<br>[授業外学修]マンツウマン防御の戦術について調べておくこと | ⑮ | [テーマ] 指導実践<br>[内容]独自に作成した オリジナル防御と攻撃方法について、実際に実技指導をする。指導実践において指導方法や指導ポイントを修得する<br>[授業外学修]独自の指導計画を作る際に必要な情報を整理しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 地域防御法の原理 1<br>[内容] ゾーン防御法や特殊防御法を学ぶ<br>[授業外学修]ゾーン防御法種類について調べておくこと | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 指導実践からの反省をもとにオリジナルバスケットボールの攻防のいずれかを発表しその習熟度をテストする<br>[授業外学修]総合的にバスケットボールについてまとめておくこと |

**成績評価方法（方針）**

期末試験及び授業内課題を基に、評価を行う。試験は、期末試験を1回実施する。提出された課題は、授業内で解説をしながら返却する。他に、授業中における態度は減点対象とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 40% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | | 20% |
| 演習・実技 | | | ○ | 20% |
| 授業態度 | ○ | | | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業進行の妨げる行為等を厳禁する。20分以上の遅刻は欠席とみなし、2/3以上の出席がない場合には試験を受けることができない（欠格条件）。
・授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ（バスケットボール） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日10:20-12:00 | その他 | 研究室：第5体育館 25 |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（ハンドボール）<br>Coaching seminar in different events Ⅱ(Handball) | | | | 担当教員 | 桑原　康平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| コーチングに関する基本的な知識・技能を教員の実務経験を活かした講義や実践で紹介する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

ハンドボールのコーチングに関わる全般的な知識・技能を身に付け、現場で通じる実践力の基礎を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ハンドボールに関する基本的な知識を理解し、それを基に考えを発展させることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 得た知識・技能を積極的に実践に応用できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ハンドボールのコーチングに関する技能を身に付け、実践に応用することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業は、コーチングを行う上での基本的な知識・技能を身に付けるために講義や実習を用いて展開する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]事前にシラバスに目を通すこと | ⑨ | [テーマ] 現場における救急処置1<br>[内容] ハンドボールに多いけがの種類とその応急手当の方法について学ぶ。<br>[授業外学修]RICE処置について調べておくこと。 |
| ② | [テーマ] 競技力の情報分析とその活用1<br>[内容] スコア集計とゲーム分析の仕方について資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]スコア集計表の指標の算出方法について理解をしておくこと。 | ⑩ | [テーマ] 現場における救急処置（テーピング含む）2<br>[内容] 足関節と膝関節のテーピングの種類について学ぶ。<br>[授業外学修]テープの種類とその効果についてまとめておく。 |
| ③ | [テーマ] 競技力の情報分析とその活用2<br>[内容] 実際の映像を用いてスコア集計とゲーム分析を行う<br>[授業外学修]エクセルの数式機能について学んでおくこと | ⑪ | [テーマ] 指導計画作成の実習1<br>[内容] ピリオダイゼーションの考え方について資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]コーチング学への招待P212-236を読んでおくこと |
| ④ | [テーマ] ハンドボールの一貫指導1<br>[内容] 発達段階によって最適な内容が異なることを資料を用いて説明する。<br>[授業外学修]発育発達曲線について理解すること。 | ⑫ | [テーマ] 指導計画作成の実習2<br>[内容] ピリオダイゼーションの考え方に基づいてトレーニング計画、練習メニューを作成してみる<br>[授業外学修]コーチング学への招待P212-236を読んでおくこと |
| ⑤ | [テーマ] ハンドボールの一貫指導2、ハンドボールの科学的理解1<br>[内容] ハンドボールをバイオメカニクス的観点から学ぶ<br>[授業外学修]ハンドボールにバイオメカニクスは必要か否かを考えてくる。 | ⑬ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導1<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]攻撃に必要な個人的技能について整理しておくこと |
| ⑥ | [テーマ] ハンドボールの科学的理解2<br>[内容] ハンドボールを生理学的観点から学ぶ<br>[授業外学修]ハンドボールに適した筋組成について調べておくこと。 | ⑭ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導2<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]1回目の指導実践の反省をまとめておく |
| ⑦ | [テーマ] 攻撃・防御に必要な体力トレーニングの実際1<br>[内容] ハンドボールに必要な持久力（間欠的持久力）のトレーニングを実践する。<br>[授業外学修]持久力の種類について、整理しておくこと。 | ⑮ | [テーマ] 攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導3<br>[内容] 部活動、または学外チームにおいてコーチングを実践する<br>[授業外学修]防御に必要な個人的技能について整理しておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 攻撃・防御に必要な体力トレーニングの実際2<br>[内容] ハンドボールに必要なコンタクトフィットネスのトレーニングを実践する。<br>[授業外学修]コンタクトフィットネスについて調べておくこと。 | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] まとめ<br>[授業外学修]指導者の在り方や身につけるべき能力についてレポートする |

**成績評価方法（方針）**

授業内に行われる筆記試験(30%)、コーチング実践（40%)、授業に対する関心・意欲・態度等（30%）を評価する。
出席は欠格条件とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | ◎ | 40% |
| 授業態度 | ○ | ○ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
種目別コーチング演習Ⅰ（ハンドボール）の単位取得者のみ履修を認めます。
パソコンを用いてスコア集計やゲーム分析を行うため、パソコンの基本的な操作法は予め身に付けておくこと。また、課題は遅滞無く提出をすることなど、基本的なルールを守ること。その他の諸注意は初回のガイダンスの中で行います。
授業計画は順序が前後することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習（ハンドボール）Ⅰ<br>スポーツコーチング実習 | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | 基本が身につくハンドボール練習メニュー200　池田書店<br>コーチング学への招待 球技のコーチング学 |
| オフィスアワー | 前期（水）12:40-14:10　後期（木）10:20-11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（サッカー）<br>Coaching seminar in different eventsⅡ(soccer) | | | | 担当教員 | 吉井秀邦、西村雄一 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・実技 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では，競技種目としてのサッカーのコーチングにおける，試合中の主要な戦術の指導体系を明らかにし，競技力向上を目指した指導上の方法論を学習，実践していく。また，サッカーの試合におけるデータの活用法や審判法についても学ぶ。また、高校での教員経験を活かし、授業を実際に行う教員の観点から講義を行う。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

サッカーにおける試合中の主要な戦術について，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する（手本を示せる）こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする。また，データの活用法や審判法を理解し，説明できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | サッカーの試合における戦術，連携，データの活用法および審判法を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | サッカー指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | サッカーの戦術に必要な技術を身に付け，それらを指導することができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業では，サッカーの試合におけるデータの活用法や審判法の学習，試合中の主要な戦術の指導体系の学習，そこで求められる技術の習得および指導の実践を中心に，講義および実習（実技）の各形式を用いて授業を展開していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] ヘディング＆シュート<br>[内容] ヘディング＆シュート技術について学ぶ<br>[授業外学修] ヘディング＆シュートについて事前に調べてくる |
| ② | [テーマ] サッカー競技と日本サッカー協会（理論）<br>[内容] 日本サッカー協会の方針、サッカーの歴史について学ぶ<br>[授業外学修] サッカーのルールについて事前に調べてくる | ⑩ | [テーマ] 戦術理論（オフェンス）（理論）<br>[内容] 集団・グループ・個人の攻撃戦術について学ぶ<br>[授業外学修] 攻撃戦術について事前に調べてくる |
| ③ | [テーマ] ボールフィーリング<br>[内容] ボールフィーリングについて学ぶ<br>[授業外学修] ボールフィーリングについて事前に調べてくる | ⑪ | [テーマ] オフザボールの動きの改善<br>[内容] オフザボールの動き・状況判断について学ぶ<br>[授業外学修] オフザボールの動きについて事前に調べてくる |
| ④ | [テーマ] 発育発達と一貫指導（理論）<br>[内容] 発育発達に応じた指導について学ぶ<br>[授業外学修] 発育発達について事前に調べてくる | ⑫ | [テーマ] 戦術理論（ディフェンス）（理論）<br>[内容] 集団・グループ・個人の守備戦術について学ぶ<br>[授業外学修] 守備戦術について事前に調べてくる |
| ⑤ | [テーマ] ドリブル＆ラン・ウィズ・ザ・ボール<br>[内容] ボールを運ぶ技術について学ぶ<br>[授業外学修] ドリブルについて事前に調べてくる | ⑬ | [テーマ] 中盤で積極的に奪う守備の改善<br>[内容] 中盤で積極的に奪う守備ついて学ぶ<br>[授業外学修] 中盤での守備について事前に調べてくる |
| ⑥ | [テーマ] コーチングのポイント（理論）<br>[内容] ピックオフと塁間での挟殺（ランダウン）プレイについて学ぶ<br>[授業外学修] コーチングについて事前に調べてくる | ⑭ | [テーマ] データの活用（理論）<br>[内容] 試合におけるデータの活用法について学ぶ<br>[授業外学修] データの活用について事前に調べてくる |
| ⑦ | [テーマ] パス＆コントロール<br>[内容] パス＆コントロールの技術について学ぶ<br>[授業外学修] パス＆コントロールについて事前に調べてくる | ⑮ | [テーマ] 審判法（理論）<br>[内容] 試合における審判法について学ぶ<br>[授業外学修] 審判法について事前に調べてくる |
| ⑧ | [テーマ] コーチの役割（理論）<br>[内容] 指導者の役割について学ぶ<br>[授業外学修] 指導者の役割について事前に調べてくる | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする |

**成績評価方法（方針）**

出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。また、提出されたレポートは解説をしながら返却をする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 40% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 60% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ（サッカー） | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定なし | 参考書 | 特に指定なし |
| オフィスアワー | 研究室:A棟4F414　木曜日12:40～14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ(ラグビー)<br>Coaching seminar in different events Ⅱ(Rugby) | | | | 担当教員 | 武石　健哉 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | − |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業では，競技種目としてのラグビーのコーチングにおける，試合中の主要な戦術，FW,BK各種ユニットプレイの指導体系を明らかにし，競技力向上を目指した指導上の方法論を学習，実践していく。また，ラグビーの試合におけるデータの活用法や審判法についても学ぶ。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

ラグビーにおける試合中の主要な戦術，各ユニットプレイについて，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する(手本を示せる)こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする。また，データの活用法や審判法を理解し，説明できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ラグビーの試合における戦術，連携，データの活用法および審判法を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | ラグビー指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ラグビーの戦術，連携に必要な技術を身に付け，それらを指導することができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業では，ラグビーの試合におけるデータの活用法や審判法の学習，試合中の主要な戦術，各ユニットプレイの指導体系の学習，そこで求められる技術の習得および指導の実践を中心に，講義および実習(実技)の各形式を用いて授業を展開していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]事前にラグビーの戦術について調べてくること | ⑨ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング<br>[内容] 地域ごとの攻撃戦術を学ぶ<br>[授業外学修]事前に攻撃戦術を調べてくること |
| ② | [テーマ]防御戦術のコーチング<br>[内容] ディフェンスのキーファクターを学ぶ<br>[授業外学修]事前に防御戦術を調べてくること | ⑩ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング<br>[内容] FWユニットの攻撃戦術を学ぶ<br>[授業外学修]事前に攻撃戦術を調べてくること |
| ③ | [テーマ] 防御戦術のコーチング<br>[内容] ディフェンのストラクチャーを学ぶ<br>[授業外学修]事前に防御戦術を調べてくること | ⑪ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング<br>[内容] BKユニットの攻撃戦術を学ぶ<br>[授業外学修]事前に攻撃戦術を調べてくること |
| ④ | [テーマ] 防御戦術のコーチング<br>[内容] 地域ごとの防御戦術を学ぶ(ブリッツ、アンブレラ、Tシステム、スライド)<br>[授業外学修]事前に防御戦術を調べてくること | ⑫ | [テーマ] データの活用<br>[内容] 自チームのデータ活用方法を学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのゲーム分析を調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] 防御戦術のコーチング<br>[内容] FWユニットの防御戦術を学ぶ<br>[授業外学修]事前に防御戦術を調べてくること | ⑬ | [テーマ] データの活用<br>[内容] 敵チームのデータ活用方法を学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのゲーム分析を調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] 防御戦術のコーチング<br>[内容] BKユニットの防御戦術を学ぶ<br>[授業外学修]事前に防御戦術を調べてくること | ⑭ | [テーマ] レフリーについて<br>[内容] ルール、レフリングを学ぶ<br>[授業外学修]事前にラグビーのレフリングを調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング<br>[内容] シェイプ戦術を学ぶ(シェイプ・リンケージ・モーション)<br>[授業外学修]事前に攻撃戦術を調べてくること | ⑮ | [テーマ] 15人制ラグビーと7人制ラグビー<br>[内容] 15人制・7人制を比較検討し、競技特性について学ぶ<br>[授業外学修]事前に15人制、7人制を調べてくること |
| ⑧ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング<br>[内容] ポッド戦術を学ぶ(ナロー＆ワイド・ディレクション・モーション)<br>[授業外学修]事前に攻撃戦術を調べてくること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]事前に攻防の戦術について調べてくること |

**成績評価方法(方針)**

試験は，期末試験を1回実施する(評価割合70%)．また，授業内課題を評価対象とする(評価割合10%)．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | ○ | | | 10% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | | 20% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない(欠格条件)．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ(ラグビー) | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 指定しない |
| オフィスアワー | 火曜:10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ(テニス)<br>Coaching seminar in different events Ⅰ (Tennis) | | | | 担当教員 | 佐藤　周平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 国立競技場体育指導員(テニス)の経験有 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業では、競技種目としてのテニス(硬式)における、基本技術の指導体系を理解し、競技力向上を目指した指導上の方法や理論を学習していく。また、プレーにおける様々なのシチュエーションをより詳しく理解し、その場に合わせた対処能力を向上させる。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

基本技術、戦術、など習得する。(手本を自ら示せるようになること)最終的には習得した技術や理論、経験を基に指導を行うことが出来るようになること。専門用語を間違いなくコーチングの中で活用し、他の分野のコーチとも議論できるようにすること。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | テニスの基本的な技術、競技特性、ルールについて説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | テニスの指導に関する理論的な思考を持つことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | テニスの技術を身につけ、それらを指導することができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業では、競技種目としてのテニス(硬式)における、基本技術の指導体系の学習。競技力向上を目指した指導上の方法や理論、競技者の勝敗におけるメンタルの重要性の理解などを、授業計画に基づいて実践していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価の説明<br>[授業外学修]シラバスを読むこと | ⑨ | [テーマ] 基本技術の指導方法③<br>[内容] サーブに必要な能力について議論し、指導方法も検討する<br>[授業外学修]段階別指導方法をまとめてくる |
| ② | [テーマ] 基本技術の応用について①<br>[内容] グラウンドストロークについて理論の習得<br>[授業外学修]グラウンドストロークの応用動作の予習 | ⑩ | [テーマ] 戦術の指導①<br>[内容] 戦術的な指導ついて<br>[授業外学修]テニスコートの特性の理解してくる |
| ③ | [テーマ] 基本技術の応用について②<br>[内容] グラウンドストローク:フォアハンドについて<br>[授業外学修]フォアハンドのコーチングについてまとめてくる | ⑪ | [テーマ] 指導時における言葉<br>[内容] 指導時の言葉について<br>[授業外学修]相手に伝わる言葉についてまとめてくる |
| ④ | [テーマ] 基本技術応用について③<br>[内容] ストローク:バックハンドの実践<br>[授業外学修]バックハンドのコーチングについてまとめてくる | ⑫ | [テーマ] 試合形式の実践①<br>[内容] 試合の結果に関するフィードバックについて<br>[授業外学修]フィードバックに対する振り返り |
| ⑤ | [テーマ] 基本技術の応用について④<br>[内容] ボレー:フォアハンドボレーの実践<br>[授業外学修]フォアハンドボレーのコーチングについてまとめてくる | ⑬ | [テーマ] テニスのゲーム②<br>[内容] シングルスゲームを見て、選手へのフィードバックを行う<br>[授業外学修]振り返りと、反省点などをまとめる |
| ⑥ | [テーマ] 基本技術の応用について⑤<br>[内容]スマッシュ: オーバーヘッド技術の実践<br>[授業外学修]スマッシュ動作について分析しまとめてくる | ⑭ | [テーマ] テニスのゲーム③<br>[内容] ダブルスゲームを見て、選手へのフィードバックを行う<br>[授業外学修]振り返りと、反省点などをまとめる |
| ⑦ | [テーマ] 基本技術の指導方法①<br>[内容]ストロークに必要な能力について議論し、指導方法も検討する<br>[授業外学修]段階別指導方法をまとめてくる | ⑮ | [テーマ] テスト:習得技術やコーチングの実践<br>[内容] 5名程、のグループに対してオンコートコーチング<br>[授業外学修]反省点をまとめてくる |
| ⑧ | [テーマ] 基本技術の指導方法②<br>[内容] ネットプレーに必要な能力について議論し、指導方法も検討する<br>[授業外学修]段階別指導方法をまとめてくる | ⑯ | [テーマ] テスト:筆記<br>[内容] コーチングの基本技術と理論的な理解について<br>[授業外学修]テストに向けて予習してくる |

**成績評価方法(方針)**

実技試験(模擬レッスン)を実施し、習得したコーチングテクニックを含めて評価する。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 10% |
| 授業内レポート | | | | 10% |
| 授業外レポート | | | | 10% |
| 演習・実技 | ○ | | ○ | 30% |
| 授業態度 | | | | 40% |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
テニスシューズを各自準備すること。

・ラケット、ボールは貸し出し可能。

・質疑応答に関して積極的に行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 前期:木曜10:20-11:50 後期金曜14:20-15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習II(バドミントン)<br>Coaching seminar different events II(Badminton) | | | | 担当教員 | 林　直樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | (公財)日本バドミントン協会　医事トレーニング管理部・分析スタッフの経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

種目別コーチング演習I(バドミントン)において、バドミントン競技における技術・体力・心理・戦術の4つのディマンドについて解説し、それぞれのディマンドに応えていくコーチングの方法論を、スポーツ科学各論からのアプローチによって明らかにした。本授業では、より実践的な内容について具体的に解説していく。実務経験を活かして分析的視点を積極的に取り入れて指導する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i 、iii、iv

**授業の一般目標**

スポーツ科学理論に基づいた練習計画の立案・作成を行い、具体的な方法についても言及する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | バドミントン競技における4つのディマンドとスポーツ科学科目との関連を理解し説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | バドミントンのコーチングに関して経験に依存し過ぎることなく理論的な理解をすることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | バドミントンのコーチングにおける4つのディマンドについて表現する方法を獲得し、指導することができる。 |

**授業計画(全体)**

本授業は、日本バドミントン協会公認の指導理論を活用し、全国大会出場から上位クラスまでのコーチングを担当できる知識と方法の獲得を目指していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業内容の説明、成績評価の説明、連絡先の確認などを行う。<br>[授業外学修]それぞれ与えられた歴史課題について調べてくる。 | ⑨ | [テーマ] コーチング(1) ウォーミングアップとクーリングダウン<br>[内容] 運動処方論の観点から、ウォーミングアップとクーリングダウンの方法についてディベートする。<br>[授業外学修]練習計画のターゲットを決める。 |
| ② | [テーマ]バドミントンの歴史<br>[内容] スポーツとしての成り立ちと競技としての歴史について解説する。<br>[授業外学修]ルールブックを熟読してくる。 | ⑩ | [テーマ] コーチング(2) フットワーク<br>[内容] トラベリング技術を細分化し、練習方法の計画立案についてディベートする。<br>[授業外学修]練習計画の立案について、アウトラインを作成する。 |
| ③ | [テーマ] ルールと審判<br>[内容] 3級審判員試験程度の問題について解説し、判断に迷う過去の事例を紹介する。<br>[授業外学修]過去に訴訟に発展した事例について調べてくる。 | ⑪ | [テーマ] コーチング(3) 基本打ち<br>[内容] 基本打ちから抽出できる基本要素をあげていき、基本打ちのバリエーションについてディベートする。<br>[授業外学修]練習計画の強度設定とその理由について記してくる。 |
| ④ | [テーマ] バドミントン倫理<br>[内容] バドミントン競技における訴訟事例について解説する。<br>[授業外学修]年間トレーニング計画を立案する。 | ⑫ | [テーマ] コーチング(4) ノック練習<br>[内容] ノックの本数、セット数、強度の設定について、目的に応じた計画が行えるようにディベートする。<br>[授業外学修]練習計画のプレゼンを行うために、資料を作成する。 |
| ⑤ | [テーマ] トレーニングのピリオダイゼーション<br>[内容] ピリオダイゼーションについて解説し、年間の参加大会やターゲットからふさわしい年間計画についてディベートする。<br>[授業外学修]スキャモンの発育発達曲線について予習する。 | ⑬ | [テーマ] コーチング(5) パターン練習<br>[内容] 意図するパターンの設定について、目的に応じた計画が行えるようにディベートする。<br>[授業外学修]練習計画のプレゼンを行うために、資料を作成する。 |
| ⑥ | [テーマ] 発育発達に見合ったコーチング<br>[内容] スキャモンの発育発達曲線から年齢に見合ったトレーニングの処方についてディベートする。<br>[授業外学修]2016年の「闇カジノ違法賭博事件」について調べてくる。 | ⑭ | [テーマ] コーチング(6) ダブルス練習<br>[内容] ダブルスのプレーの中における練習課題の抽出についてディベートする。<br>[授業外学修]最終回プレゼンのパワーポイントを完成させてくる。 |
| ⑦ | [テーマ] スポーツインテグリティ<br>[内容] スポーツインテグリティについて解説し、スポーツマンシップとともにアスリートマインドについてディベートする。<br>[授業外学修]所属チームに関するインテグリティについてまとめる。 | ⑮ | [テーマ] コーチング(7) ハンディキャップ練習<br>[内容] ハンディキャップマッチやエースに対する強化練習の処方についてディベートする。<br>[授業外学修]プレゼンテーションの準備を行う。 |
| ⑧ | [テーマ] スカウティング<br>[内容] スカウティングの事例を紹介し、有効なスカウティングについてディベートする。<br>[授業外学修]ここまでの課題について、レポートを作成する。 | ⑯ | [テーマ] プレゼンテーション<br>[内容] ここまで学んだ内容について、課題練習(案)を作成し、プレゼンテーションを行う。<br>[授業外学修]プレゼンの練習を行っておく。 |

**成績評価方法(方針)**

授業内レポート(30%)と授業外レポート(70%)にて総合的に評価する。尚、授業態度が劣悪な場合と出席が規定に満たない場合は欠格とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 30% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |
| 出席 | ◎ | ◎ | ◎ | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

本授業はバドミント競技における専門的な知識と経験を獲得する授業であるので、バドミントンを専門競技と捉えている者の受講を認める。尚、スポーツコーチング実習(バドミントン)を併せて履修することが望ましい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | バドミントン実技、種目別コーチング演習I(バドミントン)、スポーツコーチング実習(バドミントン) | 関連資格 | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する。 | 参考書 | バドミントンの指導理論1(日本バドミントン指導者連盟)<br>バドミントン攻め勝つドリル(米倉加奈子,ベースボールマガジン社) |
| オフィスアワー | F棟2階213(林直樹研究室)　火曜日10:20～11:50 | その他 | no-hayashi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（野球）<br>Coaching seminar in different events Ⅱ(Baseball) | | | | 担当教員 | 小野寺和也・入澤裕樹・森本吉謙 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 大学および高校野球の指導者としての実務経験を有する<br>社会人野球選手としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

競技種目としての野球のコーチングにおける，試合中の戦術，投内・内外の連携プレイの指導体系を明らかにし，競技力向上を目指した指導上の方法論を学習，実践する．また，試合におけるデータの活用法や審判法についても学ぶ．大学・高校野球の指導者および社会人野球選手の実務経験を活かし実践的な講義または演習を行う．

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

野球における試合中の主要な戦術，各種連携プレイについて，指導体系を理解すること，自ら技術を習得する（手本を示せる）こと，さらにそれらを他者に指導できるようになることを目標とする．また，データの活用法や審判法を理解し，説明できるようになる．

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 野球の試合における戦術，連携，データの活用法および審判法を説明できる． |
| ■ | 情意的領域 | 野球指導に関する理論的な思考を持つことができる． |
| ■ | 技能表現的領域 | 野球の戦術，連携に必要な技術を身に付け，それらを指導することができる． |

**授業計画（全体）**

本授業では，野球の試合におけるデータの活用法や審判法の学習，試合中の主要な戦術，各種連携プレイの指導体系の学習，そこで求められる技術の習得および指導の実践を中心に，講義および実習（実技）の各形式を用いて授業を展開していく．

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（バントディフェンス）<br>[内容] バントに対応した各種の防御シフトについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ] 防御の戦術<br>[内容] 試合における防御戦術の選択判断について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（ダブルプレイ）<br>[内容] 防御戦術としてのダブルプレイについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（配球）<br>[内容] 投手，捕手間の打者に対する配球について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ] 攻撃の戦術<br>[内容] 試合における攻撃戦術の選択判断について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（フォーメーション）<br>[内容] 防御における野手の各種フォーメーションを学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング（ヒットエンドラン，盗塁）<br>[内容] 攻撃におけるヒットエンドランおよび盗塁について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（牽制）<br>[内容] 牽制球に関わる投手の技術，野手の動き，タッチプレイについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ] 攻撃戦術のコーチング（バスター，バスターエンドラン）<br>[内容] 攻撃におけるバスターおよびバスターエンドランについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（挟殺プレイ）<br>[内容] ピックオフと塁間での挟殺（ランダウン）プレイについて学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ] データの活用<br>[内容] 試合における投手，打者，戦術データの活用法について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（投内連携）<br>[内容] 防御における投手と内野手の連携について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ] 審判法<br>[内容] 試合における主審および各塁審の審判法について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] 防御戦術のコーチング（内外連携）<br>[内容] 防御における内野手と外野手の連携について学ぶ<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法（方針）**

試験は，期末試験を1回実施する（評価割合80%）．また，授業内課題を評価対象とする（評価割合20%）．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ（野球） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日10:20～11:50 | その他 | 研究室：第二体育館2階（小野寺） |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（漕艇）<br>Coaching seminar in different events Ⅱ(Rowing) | | | | 担当教員 | 阿部　肇 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | JOCコーチングディレクターの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業は、競技志向的な漕艇の年間を通したトレーニングの方法と実践について学ぶ。また、いかに健康的にレース期、レース日を過ごし、インシーズンに高いパフォーマンスを発揮、維持できるかということも実践的に理解する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

漕艇競技における生理学、栄養学など学術的な裏付けをもとに次のことを深める。すなわち、年間を通した基礎トレーニングのデザイン、レース期の調整トレーニング、レース期の技術トレーニング、トレーニングにおけるデータの活用法など「種目別コーチング演習Ⅰ（漕艇）」より競技的な内容に触れていく。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 漕艇のレース・トレーニングにおける望ましいデザインとその理由について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 他者と協力し積極的学ぼうとすることができる。選手の現状を理解し、臨機応変な指導ができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 漕艇の基本技術を身につけることができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業は、漕艇競技の生理学、栄養学、心理学的内容の学習、年間トレーニングと準備期・レース期とによる目的の違い、などを踏まえより実践的にコーチングができるように授業を展開する。講義形式による十分な知識を確認したうえで実習形式の授業に移りたい。漕艇競技の経験のある学生は積極的に器具の準備や安全管理に協力してもらいたい。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 授業の進め方、目標と目的、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを理解すること | ⑨ | [テーマ] COXの役割<br>[内容] 主にレース期間において、COXは選手たちをいかにサポートし、いかに指示を与えれば良いのかを学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ② | [テーマ] 漕艇競技の生理学①<br>[内容] レースに必要となる生理学的機序を学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑩ | [テーマ] 漕艇のトレーニング指導の実践①<br>[内容] 「漕艇競技の生理学②」において学んだトレーニングの基礎原理を活かしトレーニングメニューを考案、実践及びコーチングを行う。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ③ | [テーマ] 漕艇競技の生理学②<br>[内容] レースに必要であった生理学的機序から日頃のトレーニングにおいて、どのような能力を高めなければならないか理解する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑪ | [テーマ] 漕艇のトレーニング指導の実践①<br>[内容] 「漕艇競技のトレーニングデザイン③」において学んだことを活かしトレーニングメニューを考案、実践及びコーチングを行う。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ④ | [テーマ] 漕艇競技のトレーニングデザイン①<br>[内容] 主に年間を通して必要なトレーニングとカテゴリー、ボリュームを学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑫ | [テーマ] 漕艇のトレーニング指導の実践②<br>[内容] 「漕艇競技のトレーニングデザイン①」において学んだことを活かしトレーニングメニューを考案、実践及びコーチングを行う。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 漕艇競技のトレーニングデザイン②<br>[内容] 主にレース期における調整とトレーニング、カテゴリー、ボリュームを学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑬ | [テーマ] 漕艇のトレーニング指導の実践③<br>[内容] 「漕艇競技のトレーニングデザイン②」において学んだことを活かしトレーニングメニューを考案、実践及びコーチングを行う。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 漕艇競技のトレーニングデザイン③<br>[内容] 主にシーズンオフの準備期間におけるトレーニングとカテゴリー、ボリュームについて学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑭ | [テーマ] 漕艇のトレーニング指導の実践④<br>[内容] 出席学生をトレーニング対象者とし、技術的・生理学的見地から総合的にトレーニングを作成し実践する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑦ | [テーマ] レースにおける選手のサポート①<br>[内容] レースまたはレース期において選手は心身のバランスを崩しやすい。栄養の面から健康的なレースの過ごし方を考える。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑮ | [テーマ] 漕艇のトレーニング指導の実践⑤<br>[内容] 出席学生をトレーニング対象者とし、技術的・生理学的見地から総合的にトレーニングを作成し実践する。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |
| ⑧ | [テーマ] レースにおける選手のサポート②<br>[内容] レースまたはレース期において選手は心理的に様々なストレスと戦うこととなる。これらストレスにうまく対処する方法を学ぶ。<br>[授業外学修]授業内容について復習すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]授業内容について復習すること |

**成績評価方法（方針）**

出席点数の評価割合を50%とする。また、期末試験及び授業内課題（各単元の理解度、選手への声掛け、実践したトレーニングの完成度など）を評価対象とする（評価割合50%）。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。3回以上の欠席は欠格条件とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・私語・携帯電話使用（メール、アプリなど）は厳に慎むこと。電卓・辞書などの機能を携帯電話で使いたい場合は、申告が必要である。授業の妨げにならないことであれば、自主的に発言し、積極的に学ぶ姿勢を常に持ち続けてて欲しい。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ（漕艇） | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜　10:00-12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（柔道）<br>Coaching seminar in different events Ⅱ（Judo） | | | | 担当教員 | 川戸湧也／南條充寿 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本科目では、学校体育と課外活動における柔道実技に着目し、その指導における正しい理論と技術を説明する。<br>固技技術においては、専門的な指導技術が必要なものを抽出し、その方法や留意点について説明する。<br>国際柔道連盟試合審判規定と「投の形」についても専門性の向上が臨めるよう説明する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

固技32本の中から、学校体育と課外活動の両者において必要と思われる技術について、基本的な動きから実戦での応用までを理解する。
国際柔道連盟試合審判規定と「投の形」について、その知識と技術を理解する。
技能の習得を通じて、柔道の本質である「精力善用」自他共栄」の精神を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 技術の伝達において、その理論も含め、説明をすることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 固技（抑込技・絞技・関節技）と投の形の技術伝達ができる。<br>国際柔道連盟試合審判規定について、その留意点が説明できる。 |

**授業計画（全体）**

学校体育と課外活動において必要と思われる技術について、基本的な動きから実戦での応用までに迫り、他者に指導ができるようになることを目的としている。
また、国際柔道連盟試合審判規定においては、その内容を把握することで、知識の向上を目指す。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション（南條）<br>[内容]<br>授業全体の流れや評価の目安について説明する。<br>[授業外学修] 演習Ⅰで得た知識についてまとめておくこと | ⑨ | [テーマ] 試合審判法④（川戸）<br>[内容]<br>柔道の試合のビデオ(スコア無表示)を見て試合の勝敗を理解する。<br>[授業外学修] 試合時における審判員の役割について調べてくること |
| ② | [テーマ] 固技①（南條）<br>[内容] 抑込技の袈裟固、横四方固、上四方固について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること | ⑩ | [テーマ] 投げの形①（川戸）<br>[内容] 投の形における手技3本（浮落、背負投、肩車）について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の演武について事前に調べてくること |
| ③ | [テーマ] 固技②（南條）<br>[内容] 絞技の送襟絞、片羽絞について解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること | ⑪ | [テーマ] 投げの形②（川戸）<br>[内容] 投の形における腰技3本（浮腰、払腰、釣込腰）について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の演武について事前に調べてくること |
| ④ | [テーマ] 固技③（南條）<br>[内容] 関節技の腕挫十字固解説し、受講生に修得させる。<br>また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の技の形について事前に調べてくること | ⑫ | [テーマ] 投げの形③（川戸）<br>[内容] 投の形における足技3本（送足払、支釣込足、内股）について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の演武について事前に調べてくること |
| ⑤ | [テーマ] 固技④（南條）<br>[内容] 固技の3種類を用いた乱取における注意点を解説しながら、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] これまで解説してきた固技についてふりかえっておくこと | ⑬ | [テーマ] 投げの形④（川戸）<br>[内容] 投の形における真捨身技3本（巴投、裏投、隅返）について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の演武について事前に調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] 試合審判法①（南條）<br>[内容] 柔道の歴史と現在のルールについて説明する。<br>また、審判員のジェスチャーについて説明する。<br>[授業外学修] 試合時における審判員の振る舞いについて調べてくること | ⑭ | [テーマ] 投げの形⑤（川戸）<br>[内容] 投の形における横捨身技3本（横掛、横車、浮技）について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。<br>[授業外学修] 上記の演武について事前に調べてくること |
| ⑦ | [テーマ] 試合審判法②（南條）<br>[内容] 受講生同士が試合と審判を行う。また、確認と復習ができるようにビデオ撮影を行う。主に投技の判定について説明する。<br>[授業外学修] 試合時における技の評価について調べてくること | ⑮ | [テーマ] 復習（南條）<br>[内容]<br>全14回で説明してきた技術についてふりかえる。<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 試合審判法③（南條）<br>[内容] 受講生同士が試合と審判を行う。また、確認と復習ができるようにビデオ撮影を行う。主に反則行為について説明する。<br>[授業外学修] 試合時における罰則について調べてくること | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容]<br>これまで解説してきた柔道について理解度を確かめる。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

実技試験と各授業における取り組みを観察し評価する。実技試験ならびに観察の基準についてはオリエンテーションで提示する。評価得点は個人にフィードバックする。
ただし、出席回数が2/3に満たない場合は成績評価の対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ○ | 20% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・柔道に対する正しい理論と技術を修得しておくことが大切である。
・授業中は、道場内でのルールを厳守する。著しく実践できない学生については受講を遠慮してもらう可能性がある。
・柔道衣は各自で準備する。
・柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 柔道、スポーツコーチング実習、種目別コーチング演習Ⅰ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に定めない | 参考書 | 特に定めない |
| オフィスアワー | 木曜日 10:20～11:50（川戸） | その他 | |

| 授業科目名 | 種目別コーチング演習Ⅱ（剣道）<br>Coaching seminar in different events Ⅱ (Kendo) | | | | 担当教員 | 齋藤浩二 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 剣道における技の修得に必要な「日本剣道形」を取り上げて、太刀の形7本、小太刀の形3本を解説する。 | ⅰ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

「日本剣道形」の歴史的な変遷を理解した上で、10本を打太刀・仕太刀の両方をマスターする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 剣道の「日本剣道形」10本を理解することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 全日本剣道連盟の昇段の際に必要な高度な技能を身につけることができる。 |

**授業計画（全体）**

「日本剣道形」の歴史的な変遷を学習をし、「日本剣道形」の基本的な所作、注意事項等を理解させてうえ。太刀の形・小太刀の形の修得に展開する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の概要について説明する<br>[授業外学修]シラバスを熟読してくること | ⑨ | [テーマ] 総合練習Ⅰ<br>[内容] 太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する<br>[授業外学修]各自、打太刀・仕太刀ともに理解してくること |
| ② | [テーマ]日本剣道形の基本的な所作<br>[内容]「日本剣道形」の変遷と留意点、形を行なううえでの注意点と基本動作<br>[授業外学修]形の基本的な所作を理解してくること | ⑩ | [テーマ] 総合練習Ⅱ<br>[内容] 太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する。<br>[授業外学修]各自、打太刀・仕太刀ともに理解してくること |
| ③ | [テーマ] 基本動作、太刀の形1本目・2本目<br>[内容] 基本動作、太刀の形1本目か2本目を解説してくる<br>[授業外学修]太刀の形1本目と2本目を予習してくること | ⑪ | [テーマ] 総合練習Ⅲ<br>[内容] 太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する<br>[授業外学修]各自、打太刀・仕太刀ともに理解してくること |
| ④ | [テーマ] 太刀の形3本目<br>[内容] 太刀の形1本目から2本目の復習、3本目を解説する<br>[授業外学修]太刀の形3本目を予習してくること | ⑫ | [テーマ] 総合練習Ⅳ<br>[内容] 太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する<br>[授業外学修]各自、打太刀・仕太刀ともに理解してくること |
| ⑤ | [テーマ] 太刀の形4本目・5本目<br>[内容] 太刀の形1本目から3本目の復習、4本目と5本目を解説する<br>[授業外学修]太刀の形4本目と5本目を予習してくること | ⑬ | [テーマ] 刃引きによる修得<br>[内容] 刃引きを用いて、太刀の形1本目から7本目を練習する<br>[授業外学修]刀の取り扱いについて調べてくること |
| ⑥ | [テーマ] 太刀の形6本目・7本目<br>[内容] 太刀の形1本目から5本目の復習、太刀6本目と7本目を解説する<br>[授業外学修]太刀の形6本目と7本目を予習してくること | ⑭ | [テーマ] 実技試験 Ⅰ<br>[内容] 実技試験の1回目、打太刀・仕太刀のどちらかを太刀の形1本目から7本目まで実施する<br>[授業外学修]各自、練習をしてくること。 |
| ⑦ | [テーマ] 小太刀の形1本目・2本目<br>[内容] 太刀の形1本目から7本目の復習、小太刀1本目と2本目を解説する<br>[授業外学修]小太刀の形1本目と2本目を予習してくること | ⑮ | [テーマ] 実技試験 Ⅱ<br>[内容] 実技試験の2回目、打太刀・仕太刀のどちらかを太刀の形1本目から7本目まで実施する<br>[授業外学修]各自、練習をしてくること |
| ⑧ | [テーマ] 小太刀の形3本目<br>[内容] 太刀の形1本目から7本目の復習、小太刀3本目を修得する<br>[授業外学修]小太刀の形3本目を予習してくること | ⑯ | [テーマ] 実技試験 Ⅲ<br>[内容] 実技試験の3回目、打太刀・仕太刀とも小太刀の形1本目から3本目まで実施する<br>[授業外学修]各自、練習をしてくること |

**成績評価方法（方針）**

実技試験（70%）と各技能の習得状況（30%）を総合的に評価する。試験については（授業内で）解説し伝える。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% |
| 授業態度 | | | △ | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール（礼法、服装、注意事項など）を厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 種目別コーチング演習Ⅰ（剣道） | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定はありません。 | 参考書 | 『全解日本剣道形』 |
| オフィスアワー | 木曜日11:00～12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | トップアスリート論<br>Top Athlete Coaching(L.) | | | | 担当教員 | 阿部(肇), 武石, 名取, 南條, 吉井,桑原,鈴木(良),他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| トップアスリート養成に必要な指導法を探求しながら, 特にトップアスリート育成の実践的なコーチ自身の資質・必要条件について学ぶ. 授業後半は全日本レベルのコーチ経験を有する本学教員をはじめ, 外部著名指導者を招きながら, トップアスリートの在り方や, 独自の指導術をオムニバス形式の講義で学ぶ. | ii |

**授業の一般目標**

将来, 世界や日本一を目指すトップアスリートの育成に必要な知識や実践力を身に付ける為, 指導の基礎から輝かしい実績を誇る指導経験者の「指導術」ともいうべき生の声を通して自己独自の指導法を身に付ける事を望む.

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 豊かな指導経験のある各著名コーチの話を通して, 自己のコーチングスタイルを示すことが出来る. |
| ■ | 情意的領域 | 競技活動, 選手育成に携わってきた指導者の体験談を基にしたノウハウを指導現場に寄与する意欲を持たせる. |
| ■ | 技能表現的領域 | 各講義での体験談や知識を基に, 自己の指導スタイルを描き実践する事が出来る. |

**授業計画(全体)**

総括は児玉が担当, 前半はトップアスリート概論に関する講義を行う. 後半は本学教員および外部講師若干名が担当. オムニバス形式の講義で進めて行く. そこでは各講義毎にレポート提出(小テスト)をしてもらう. 最終的に、全体のまとめとしてアスリート関するテーマにディベート方式で考える.

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス (阿部)<br>[内容] 授業内容や担当者の日割り日程等を説明する<br>[授業外学修] 従来のコーチング(事例参考)についてイメージしておく | ⑨ | [テーマ] オリンピックを、世界一を目指して(仮)(鈴木良太)<br>[内容] 体操競技ナショナルチーム経験者である指導者からの講話<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる |
| ② | [テーマ] トップアスリート論の概論・定義(阿部)<br>[内容] 授業の主要な部分を取り上げ,アスリートと指導者に必要な要素について考えていく。<br>[授業外学修] 自己のコーチ観と授業時提供のコーチ像とを比較してみる | ⑩ | [テーマ] 日本ラグビーから見た社会人スポーツの成功例(仮)(武石)<br>[内容] 社会人ラグビー選手(日本一)経験者の講話<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる |
| ③ | [テーマ] トップアスリート育成の指導法の仕組み (Ⅰ)(阿部)<br>[内容] 指導方法を段階的・系統的に理解し, 各内容について触れる. 指導理念や目標について考える<br>[授業外学修] 授業資料のコーチング特性について考察しておく | ⑪ | [テーマ] サッカー競技の世界観(仮)(吉井)<br>[内容] 本学サッカー部, ベガルタ仙台へと, サッカー開拓の道のりの講話<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる |
| ④ | [テーマ] トップアスリート育成の指導法の仕組み (Ⅱ)(阿部)<br>[内容] 指導方法を段階的・系統的に理解し, 各内容について触れる. トレーニング計画の作成等<br>[授業外学修] 配布資料について予習しておく | ⑫ | [テーマ] 日本柔道の国際的役割と責任(仮)(南條)<br>[内容] 全日本女子柔道チーム監督就任から現在までの指導経験談<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる |
| ⑤ | [テーマ] アスリートと指導者 (Ⅰ)(阿部)<br>[内容] トップアスリートについて考えてみる.それぞれのトピックに触れる<br>[授業外学修] 配布資料について予習しておく | ⑬ | [テーマ] オリンピックまでの歩み(仮)(外部講師)<br>[内容] 全日本チームの監督を招き, 国際大会で出場の意義について触れる<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる |
| ⑥ | [テーマ] アスリートと指導者 (Ⅱ)(桑原)<br>[内容] ハンドボール競技を通して、指導者のあり方と取り組む姿, 資質と条件について<br>[授業外学修] 配布資料について予習しておく | ⑭ | [テーマ] アスリート・コンディションの実際(仮)(阿部)<br>[内容] 全日本トップアスリート・トレーニングコーチのコンディショニングに関する最新情報の提供<br>[授業外学修] 講義配布資料について復習してみる |
| ⑦ | [テーマ]日本一「愛される」チームを目指して(仮)(名取)<br>[内容] 速さを追求する厳しい陸上競技の世界をわかりやすく説明. トップチーム育成の秘話を聞く<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる | ⑮ | [テーマ] 資料作成(阿部)<br>[内容] 各招聘講師の聴講内容から, コーチの指導理念等を整理し、独自の指導計画の作成<br>[授業外学修] 事前資料を予習しておく |
| ⑧ | [テーマ] 世界を目指して(仮)(加畑)<br>[内容] 新体操競技からみた日本代表チームの使命についての講話<br>[授業外学修] 講義配布資料を復習してみる | ⑯ | [テーマ] 筆記試験 (児玉)<br>[内容] 指導者に求められる理論的理解度を評価する<br>[授業外学修] 事前資料を予習しておく |

**成績評価方法(方針)**

出席状況および小テスト(講演時感想レポート)と本筆記試験成績を重視, 提出されたレポートはチェックをした上で返却する

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ○ | ○ | | 30% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ○ | 35% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・講師招聘授業においては, 時間配分として講師紹介, 各講師に1時間程の自論を講演してもらう. 質疑応答時間を設ける. また, 各講師のスケジュールについては講師の都合により若干の変更が考えられる.
・最終段階で各講師の指導理念について小テストという形で感想レポートを提出してもらうので, 講師招聘授業を欠席すると評価において極めて不利となる.

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツコーチングコース系設置科目 | 関連資格 | |
| 教科書 | な し | 参考書 | な し |
| オフィスアワー | 火曜日 10:20 ～12:00 | その他 | 研究室 A棟406室 |

| 授業科目名 | スポーツ情報戦略論<br>Sport Intelligence (L.) | | | | 担当教員 | 石丸出穂／粟木一博 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する<br>スポーツ情報戦略活動(後方支援)の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

競技力向上を目的とした情報戦略活動や試合を有利に進めるために必要とされるさまざまな情報戦略活動について、バレーボール日本代表アナリストの実務経験を活かして紹介し、情報戦略活動の必要性やあり方、望まれるスタッフの資質や能力などについて講義する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

「情報戦略」とは何か、その本質や社会のニーズに検討を加え、その必要性の背景や概要を理解する。また、情報戦略活動はスポーツ活動のさまざまな分野で行なわれていることを理解し、それぞれの分野・現場において必要な活動と望まれる人材の役割や資質や能力について知る。さらに、情報戦略活動を行なうために必要となる原理や原則を理解し、併せて基礎的なスキルを知る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 「情報戦略活動」の歴史的変遷、社会的ニーズ、現状の課題、国際的動向などを事例を通して知る。 |
| ■ | 情意的領域 | 「情報戦略活動」の意義や価値、あるべき姿について本質的に考え、創造的に検討を加える視点や態度を身に付ける。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 「情報戦略活動」に必要な基本的スキルについて知り、体験学習を通してその重要性や身に付けるための方法を理解する。 |

**授業計画(全体)**

各授業テーマに沿った資料を用いた講義とワークショップを中心にすすめる。より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行い、最後に定期試験を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーションと総論(石丸)<br>[内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法⑥(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動で利用されている、身近なクラウドアプリの利用法を学ぶ<br>[授業外学修] スポーツで使用できるアプリを調査しておく |
| ② | [テーマ]スポーツ情報戦略とは何か(定義と用語)(石丸)<br>[内容]「なぜスポーツ情報戦略なのか」「スポーツ情報戦略の必要性」「原理・原則・定義」「用語」について学ぶ<br>[授業外学修]専門種目の情報戦略について調査しておく | ⑩ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法⑦(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動でベースとなる、コーチングの重要性について(ゲーム理論含む)学ぶ<br>[授業外学修] 「コーチング学への招待」を熟読しておく |
| ③ | [テーマ] スポーツ情報戦略の歴史(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動の歴史的変遷、その本質について学ぶ<br>[授業外学修] 日本のスポーツ情報戦略のルーツを調査しておく | ⑪ | [テーマ] ソフトを使用したスポーツ情報戦略活動の必要性①(石丸)<br>[内容] スポーツコード等のソフトを使用して情報戦略活動を行うメリットやデメリットを学ぶ。<br>[授業外学修] スポーツコード(分析ソフト)を調査しておく |
| ④ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法①(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動の、基礎的な理論、収集について学ぶ(バレーボールを例に)<br>[授業外学修] 専門種目のデータ収集方法と使用している機材を調査しておく | ⑫ | [テーマ] ソフトを使用したスポーツ情報戦略活動の必要性②(石丸)<br>[内容] ダートフィッシュ等のソフトを使用して情報戦略活動を行うメリットやデメリットを学ぶ。<br>[授業外学修] ダートフィッシュ(分析ソフト)を調査しておく |
| ⑤ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法②(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動の、基礎的な理論、分析について学ぶ(バレーボールを例に)<br>[授業外学修] 専門種目のゲーム構造や種目特性を整理しておく | ⑬ | [テーマ] 国際総合競技大会における情報戦略①(粟木)<br>[内容] 日本オリンピック委員会における情報戦略活動を通して統括組織の視点から学ぶ<br>[授業外学修] オリンピックについて調査しておく |
| ⑥ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法③(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動の、基礎的な理論、伝達について学ぶ(バレーボールを例に)<br>[授業外学修] フィードバックについて文献調査しておく | ⑭ | [テーマ] 国際総合競技大会における情報戦略②(粟木)<br>[内容] 国立スポーツ科学センターにおける情報戦略活動を通して国家情報機関の視点から学ぶ<br>[授業外学修] 国立スポーツ科学センターについて調査しておく |
| ⑦ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法④(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動では欠かせない、会議やミーティングの仕方を学ぶ<br>[授業外学修] 会議やミーティングに関する文献を調査しておく | ⑮ | [テーマ] 国際総合競技大会における情報戦略③(粟木)<br>[内容] 国際オリンピック委員会(IOC)が開催する国際総合競技大会を通して国際スポーツの未来の視点から学ぶ<br>[授業外学修] 国際オリンピック委員会について調査しておく |
| ⑧ | [テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法⑤(石丸)<br>[内容] スポーツ情報戦略活動で必要な、プレゼンテーションについて学ぶ<br>[授業外学修] プレゼンテーションに関する文献を調査しておく | ⑯ | [テーマ] 定期試験<br>[内容] これまで講義、演習等で学んだ内容の確認を踏まえた定期試験を行う。<br>[授業外学修] これまでの復習を行っておく |

**成績評価方法(方針)**

授業への参加態度、演習の積極的参加や工夫は加点対象とし、定期試験が評価の中心となる。試験に関わるフィードバックについては、成績評価終了後に希望者のみ個別に行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 10% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 10% |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | 10% |
| 授業態度 | | ◎ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

本授業では、本質について考える態度を醸成するとともに、必要とされる考え方やスキル(目的を達成する能力)について学習します。したがって、授業中で、抽象的な事柄に対して考えることや作業を通して学ぶことを求めます。授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、教員の判断により警告を与え、3回以上警告を受けた学生は、退出してもらいます。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができません(欠格条件)。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 「知的コーチングのすすめ」勝田隆著(大修館書店)<br>「スポーツ・インテリジェンス」和久貴洋著(NHK出版) | 参考書 | 授業で紹介、または参考資料を配布 |
| オフィスアワー | 石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50 | その他 | 石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | メンタルマネジメント<br>Mental Management(L.) | | | | 担当教員 | 栗木一博・佐藤周平・山田恵子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 競技力を向上させるために心理的側面の強化の重要性を認識させる。そして、メンタルトレーニング、メンタルマネジメントの具体的な事例を詳解しつつ、その方法について解説する。さらに、それらを自己の心理面のマネジメントのために役立てる方法を学習させる。 | i 、iv、v |

**授業の一般目標**

様々なスポーツの場面から心理的な問題を抽出し、それを科学的な視点から説明できるようになる。また、そこから得られた知識や情報を自分自身の競技力向上や指導の現場に活用できるトレーニング形式に展開する能力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ心理学で用いられている用語についてその意味を理解する。メンタルトレーニングの各種技法についてその理論的背景を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 競技力向上あるいはスポーツの指導場面で学んだ様々な技法や理論を応用してその問題点に対処しようとする態度を身につける。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

スポーツ心理学に関する基礎的な知識、各種メンタルトレーニング、メンタルスキル向上のための方策等について解説する。これらの情報を応用して自分自身で活用できる心理的トレーニングプログラムを考える時間を設定する。具体的には目標の設定、イメージ、注意集中のためのトレーニングなどが題材として考えられる。授業時間中に実施されるプレゼンテーション実習やディスカッションに積極的に参加することを促し、知識や応用力の定着の確認を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(栗木)<br>[内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方についての説明を行なう<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] メンタルトレーニング技法の基礎―心理技法―(佐藤)<br>[内容] 行動変容技法、イメージ技法、積極的思考法など具体的な技法について解説する<br>[授業外学修] メンタルトレーニングに関する事例を集めておく |
| ② | [テーマ] 心理的アセスメント(栗木)<br>[内容] 具体的ないくつかの心理検査を取り上げ、その内容と評価の注意点について解説する<br>[授業外学修] 各種心理検査について調べる | ⑩ | [テーマ] 試合前の心理的コンディショニング(佐藤)<br>[内容] 様々なトレーニングの心理的な意味を解説するとともに、行動のルーチンに関して事例を紹介し、解説する<br>[授業外学修] 自分の競技中の活動を振り返ることができるようにしておく |
| ③ | [テーマ] トレーニング日誌の作成(栗木)<br>[内容] 自分あるいはチームのパフォーマンスを振り返ることの重要性に気づき、記入しやすい日誌の作成を行なう<br>[授業外学修] 自分の活動記録を残す方法について考えておく | ⑪ | [テーマ] 実力発揮のための心理的スキルのトレーニング(佐藤)<br>[内容] 競技力向上の基盤となる競技意欲向上のトレーニングについて解説する<br>[授業外学修] 自分自身の競技意欲について考えておく |
| ④ | [テーマ] ゴールセッティング(栗木)<br>[内容] 動機づけ理論を背景に目標設定理論について解説し、実際に目標設定作業を実施する<br>[授業外学修] 自分の競技目標を発表できるように準備する | ⑫ | [テーマ] スポーツの集団とメンタルトレーニング(山田)<br>[内容] スポーツ集団のメンタルトレーニングについて解説するとともに、競技集団の心理的側面の特徴について解説する<br>[授業外学修] 個人競技と集団競技の違いについて整理する |
| ⑤ | [テーマ] ピークパフォーマンス分析(栗木)<br>[内容] クラスタリングの手法を用いて自分のピークパフォーマンスを分析する手法について解説する<br>[授業外学修] 事例として自己最高のパフォーマンスについて考えておく | ⑬ | [テーマ] スポーツ集団の注意集中技法(山田)<br>[内容] 集中力のメカニズムに関して解説をしたうえで集団競技における集中力のトレーニングについて解説する<br>[授業外学修] 集中力に関する基本的な情報を収集する |
| ⑥ | [テーマ] 競技力向上とメンタルトレーニングについて(栗木)<br>[内容] 心理的な側面と生理的側面が密接に関連しあってパフォーマンスに影響を及ぼしていることに気づかせ、そのメカニズムを解説する<br>[授業外学修] 自分自身のメンタルトレーニングに課する情報を整理する | ⑭ | [テーマ] スポーツ集団の競技意欲向上(山田)<br>[内容] 競技意欲に関する基本的な事項を確認し、スポーツ集団のモラールや凝集性に関する解説を行う。<br>[授業外学修] スポーツの動機付けに関する基本的な情報を整理する |
| ⑦ | [テーマ] メンタルトレーニングの展開(佐藤)<br>[内容] アスリートをはじめとするメンタルトレーニングの対象者との関係づくりについて解説する<br>[授業外学修] 自分と指導者との関係について考えておく | ⑮ | [テーマ] チームワーク(山田)<br>[内容] 集団競技の心理的な特徴について触れ、チームビルディングについて解説する。<br>[授業外学修] チームワークを自分なりに定義づけておく |
| ⑧ | [テーマ] メンタルトレーニング技法の基礎―評価技法―(佐藤)<br>[内容] メンタルトレーニングの効果をどのように評価するのかについて解説し、その技法を紹介する<br>[授業外学修] メンタルトレーニングの効果について整理しておく | ⑯ | [テーマ] テスト(山田)<br>[内容] 授業の理解度、目標への到達度を確認するためのテストを行なう<br>[授業外学修] テストの準備をする |

**成績評価方法(方針)**

試験は、期末試験実施する。また、授業内レポート、プレゼンテーションなどの課題を課す。これらの結果を総合的に判断して成績評価を行う。出席は評価配分には加えず欠格条件となる。
提出されたレポートは授業内で返却し解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いとする。
・授業計画は授業の進度等により若干変更される場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ心理学(1年) | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない<br>必要に応じて資料を配布する | 参考書 | 特に指定しない<br>必要に応じて授業中に紹介する |
| オフィスアワー | 栗木 ： 前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 | その他 | |

| 授業科目名 | ジュニアスポーツコーチング論<br>Coaching of Junior Sports | | | | 担当教員 | 川口・柴田 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校,中学での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| ジュニアスポーツ指導における「運動の楽しさ」を中心にした基本的な考え方を示し、身体的発達に応じた具体的な指導を実際に体験することでジュニア世代特有の指導のあり方について理解を深めていく。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

幼児、子供のスポーツ指導の基本的な知識と能力を身に付ける。ジュニアスポーツを取り巻く現状の理解と目指すべき方向性を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 子供の身体特性と運動能力の形成特性について理解する |
| ■ | 情意的領域 | 運動の楽しさの本質と運動感覚の発生と共感への方法論について理解する |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

3人の教員によるオムニバス形式によって行う。授業時間内に小テストの実施やレポートを提出することがあります。一部は実技を通して理解を深めていく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(川口)<br>[内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行う。<br>[授業外学修]講義の受講方法を理解する | ⑨ | [テーマ] あそびの写真から、運動財を考える。(柴田)<br>[内容] 1枚の写真に隠されている動きの世界を知る。<br>[授業外学修]自分で、写真やVTRから情報を収集する。 |
| ② | [テーマ] ジュニア指導者の資格(川口)<br>[内容] ジュニアスポーツ指導員資格と免除制度の概要およびその問題点を解説する。<br>[授業外学修]関連諸資格の種類と取得のための方法について理解する | ⑩ | [テーマ] 言葉の上達は競技を上達させる。(柴田)<br>[内容] 冷静な結果や現状を知り、次なるステップに向けた目標設定を決める。<br>[授業外学修]「ジュニアから大人への成長に向けて」レポート作成。 |
| ③ | [テーマ] ジュニア期の年齢別カテゴリーの分類<br>[内容] 発育発達上の特徴からジュニア期は3つの年齢カテゴリーに分類される事を解説する<br>[授業外学修]配布資料中の性差や個体差について調べてくること | ⑪ | [テーマ] ジュニアスポーツの指導者とは(柴田)<br>[内容] 今日の学校スポーツ、クラブスポーツ、幼児体育指導における具体的諸問題を取り上げ、発生指導の立場から問題点を浮き彫りにする。<br>[授業外学修]スポーツ指導にまつわる問題を復習する |
| ④ | [テーマ] ジュニア期スポーツ指導の心得について<br>[内容] コーチング領域からのジュニア期指導の心得と保護者の心得についての内容を説明する<br>[授業外学修]配布資料の心得について各自の過去をあてはめて回答するように簡易レポート課題 | ⑫ | [テーマ] 子供の動きの発達と動感コミュニケーション(川口)<br>[内容] スポーツ運動の習熟位相及び局面構造の理解とともに、ジュニア期に重要となる「原志向位相」「探索位相」における共感指導について具体的に解説する。<br>[授業外学修]コミュニケーションの意味について復習する |
| ⑤ | [テーマ] ゴールデンエイジ その2<br>[内容ゴールデンエイジの発育発達上の特徴を解説し、その指導法を説明する<br>[授業外学修]ゴールデンエイジの特徴を復習する | ⑬ | [テーマ] ジュニアスポーツと生涯スポーツ(川口)<br>[内容] ジュニア期にどのような運動経験を体験することで生涯スポーツとしての基礎が作られるのかを学習位相との関係から説明する。<br>[授業外学修]生涯スポーツの本質を復習する |
| ⑥ | [テーマ] ジュニアスポーツとは。<br>[内容] スポーツは子どもを大人にし、大人を紳士、淑女にする。<br>[授業外学修]子どものあそびを観察する。 | ⑭ | [テーマ] タレント発掘の落とし穴(川口)<br>[内容]子供の能力・才能を早期に確定しようとする背景に何が潜んでいるのか。旧東側諸国の発掘事業を振り返りながら問題点を把握する。<br>[授業外学修]タレント発掘と評価の違いを復習する |
| ⑦ | [テーマ]言葉がジュニアを育てる。(柴田)<br>[内容] スポーツと言葉、動きを言葉にし、言葉を文字にする。<br>[授業外学修]スポーツ選手の言葉(コメント)を収集する。 | ⑮ | [テーマ] まとめ(川口)<br>[内容] 授業のまとめとテスト課題の解説<br>[授業外学修]授業のまとめを復習する |
| ⑧ | [テーマ] あそびにまつわる、冒険・挑戦と危険性 (柴田)<br>[内容] あそびとスポーツについて考える。<br>[授業外学修]遊びの中の目的について復習する | ⑯ | [テーマ] 試験(川口)<br>[内容] 記述形式を中心とした問題<br>[授業外学修]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。 |

**成績評価方法(方針)**

オムニバスそれぞれのテスト(レポート)及び出席率と受講態度をもとに評価します。レポートは解説した上で返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | ○ | | | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 減点対象 |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ技術観察論、ｽﾎﾟｰﾂｺｰﾁﾝｸﾞ実習(川口)、運動学(含む方法学) | 関連資格 | |
| 教科書 | スポーツ運動学(明和出版) | 参考書 | 新しい体育授業の運動学(明和出版) |
| オフィスアワー | 水曜13:00-14:30 | その他 | tt-kawaguchi@sendai-u.ac.jp |

# ≪スポーツトレーナーコース≫

| 授業科目名 | スポーツトレーナー概論<br>Introduction to Sports Trainer | | | | 担当教員 | 小勝健司/竹村英和/山口貴久 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 身体能力測定およびアスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツトレーナーにとって最も基礎的な内容について、実務経験を活かして具体的な内容を交え講義する。 | i |

**授業の一般目標**

スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツトレーナーの各種活動について説明できる。身体能力測定の目的と方法について説明できる。スポーツを科学的視点か捉えることができる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

授業テーマに沿った内容について資料を用いて解説する。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] アスレティックトレーナー(以下AT)とは(山口)<br>[内容] ATの役割、歴史的背景、活動と資質、および必要な専門領域について解説する<br>[授業外学修] ATの役割について授業資料を基にまとめること |
| ② | [テーマ] 運動と健康・体力増進の関係 (竹村)<br>[内容] 運動が健康・体力増進に及ぼす影響について説明する。また、パーソナルトレーナーなどの関連資格との関係を併せて説明する。<br>[授業外学修] 運動と健康・体力増進の関係について資料を基に要約する | ⑩ | [テーマ] 検査・測定と評価(山口)<br>[内容] ATの主要業務のひとつである検査・測定と評価について解説する<br>[授業外学修] 検査・測定と評価について授業資料を基にまとめること |
| ③ | [テーマ] 運動プログラムを作成する際の留意点 (竹村)<br>[内容] 目的に応じた運動プログラムを作成するための留意点等について説明する<br>[授業外学修] 運動プログラム作成の留意点について資料を基に要約する | ⑪ | [テーマ] スポーツ傷害の予防(山口)<br>[内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ傷害の予防について解説する<br>[授業外学修] スポーツ傷害の予防について授業資料を基にまとめること |
| ④ | [テーマ] 運動・栄養・休養とコンディショニング (竹村)<br>[内容] 超回復とコンディショニングの関係について説明する<br>[授業外学修] 運動・栄養・休養とコンディショニングについて要約する | ⑫ | [テーマ] スポーツ現場における応急処置(山口)<br>[内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ現場での応急処置について解説する<br>[授業外学修] スポーツ現場の応急処置について授業資料を基にまとめること |
| ⑤ | [テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス (竹村)<br>[内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する<br>[授業外学修] 持久力とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する | ⑬ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション(小勝)<br>[内容] ATの主要業務のひとつであるアスレティックリハビリテーションについて解説する<br>[授業外学修] アスリハについて授業資料を基にまとめること |
| ⑥ | [テーマ] 筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンス (竹村)<br>[内容] 筋力・筋パワーがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する<br>[授業外学修] 筋力・筋パワーとパフォーマンスについて資料を基に要約する | ⑭ | [テーマ] コンディショニング(小勝)<br>[内容] ATの主要業務のひとつであるコンディショニングについて解説する<br>[授業外学修] コンディショニングについて授業資料を基にまとめること |
| ⑦ | [テーマ] 調整力・柔軟性とスポーツパフォーマンス (竹村)<br>[内容] 調整力(敏捷性・巧緻性・平衡性)や柔軟性がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する<br>[授業外学修] 調整力、柔軟性とパフォーマンスについて資料を基に要約する | ⑮ | [テーマ] 健康管理と組織運営・ATの倫理と関係法規(小勝)<br>[内容] ATが担う健康管理および組織運営とATに必要な倫理および関係法規について解説する<br>[授業外学修] 関係法規について授業資料を基にまとめること |
| ⑧ | [テーマ] 発育・発達・老化とスポーツパフォーマンス (竹村)<br>[内容] 発育・発達・老化がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する<br>[授業外学修] 発育発達老化とパフォーマンスについて資料を基に要約する | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 筆記試験<br>[授業外学修]期末試験の振り返りを実施すること |

**成績評価方法(方針)**

試験の結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナー実習/演習、体力相談と運動処方、S&C演習、FTI実習,JSPO-AT必修の各科目 | 関連資格 | NSCA-CSCS |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | |
| オフィスアワー | 小勝:木曜12:40-14:10 | その他 | 連絡先:第2体育館2階　小勝研究室 |

| 授業科目名 | スポーツ医学A<br>Sports Medicine A （Ｌ.） | | | | 担当教員 | 橋本　実 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 医療現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたリハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。 | i |

**授業の一般目標**

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の進め方などについて説明<br>[授業外学修]当日配布するプリントとを参照すること | ⑨ | [テーマ] 前腕、手指の外傷・障害<br>[内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ② | [テーマ] 整形外科学の基礎<br>[内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑩ | [テーマ] 下肢帯の外傷・障害<br>[内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ③ | [テーマ] 顔面頚部外傷<br>[内容] 顔面頚部外傷の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑪ | [テーマ] 大腿の外傷・障害<br>[内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ④ | [テーマ]　腰部外傷・障害<br>[内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑫ | [テーマ] 膝の外傷・障害<br>[内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 胸部外傷・障害<br>[内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑬ | [テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害<br>[内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 上肢帯の外傷・障害<br>[内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑭ | [テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害<br>[内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること |
| ⑦ | [テーマ] 上腕、肘の外傷・障害<br>[内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する<br>[授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること | ⑮ | [テーマ] 後半の振り返りと試験<br>[内容]　講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |
| ⑧ | [テーマ] 前半の振り返りと試験<br>[内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する<br>[授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること |

**成績評価方法（方針）**

公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席（5回までの欠席に）するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 95% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 5% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | | | | |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

| 教科書 | スポーツ医学A 講義ノート | 参考書 | 特になし |
|---|---|---|---|
| オフィスアワー | 研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 発育発達と老化<br>Growth, Development and Aging (L.) | | | | 担当教員 | 竹村英和 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 健康・体力づくりや競技力向上を目的とした運動指導を行う際には、対象者の年齢や性別など個人の特性を考慮する必要がある。本講義では、乳幼児期から壮年中高年期におけるからだの発育・発達と老化に関する特性およびこれらの特性を考慮した運動・トレーニングの在り方について、運動生理学および体力学的側面から解説する。 | i 、iii |

**授業の一般目標**

乳幼児期から壮年中高年期に至るヒトの発育・発達と老化に関する生理学的特性や体力・運動能力特性に関する知識を身につける。また、これらの特性をふまえ、健康・体力づくりを考慮したライフスタイルの在り方や運動・トレーニングについて思考する能力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ヒトの一生における発育・発達と老化に関する特性および運動・トレーニングとの関連性について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 発育・発達と老化に関する特性を考慮した運動指導の重要性について認識できるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

授業はパワーポイントを用いた講義となり、使用するスライドは資料として配布する。授業前半は主に発育・発達に関する内容を、後半では老化に関する内容をとりあげる。また、課題解決型学習の一環として、発育・発達の個人差をふまえた体力評価などの実例を提示し、ディスカッションを取り入れながら、望ましい運動の在り方について考察する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 発育・発達と老化を学ぶ必要性、授業の目標と進め方、成績評価方法について説明する<br>[授業外学修] シラバスを熟読し、関連する参考書を概観する | ⑨ | [テーマ] 加齢に伴う体力・運動能力の変化<br>[内容] 加齢に伴う身体活動量の減少と体力・運動能力の低下について説明する<br>[授業外学修] 体力・運動能力の低下について、体力要素別に調べる |
| ② | [テーマ] 発育・発達と老化の概観<br>[内容] ヒトの一生におけるライフステージを概観するとともに、発育・発達の一般的原則、器官別の発育等について説明する<br>[授業外学修] スキャモンの発育曲線について調べる | ⑩ | [テーマ] 加齢に伴う形態の変化<br>[内容] 青年期以降の加齢に伴う形態の変化について説明する<br>[授業外学修] 加齢に伴う形態的変化について調べる |
| ③ | [テーマ] 形態・体格指数と生理的年齢<br>[内容] 発育を評価するための形態指数、体格指数、生理的年齢について説明する<br>[授業外学修] 生理的年齢の指標と、その内容について調べる | ⑪ | [テーマ] 加齢に伴う生理的機能の変化<br>[内容] 青年期以降の加齢に伴う生理的機能の変化について説明する<br>[授業外学修] 青年期以降における筋・呼吸循環機能等の変化について調べる |
| ④ | [テーマ] 乳幼児期の発育・発達特性<br>[内容] 乳幼児期の形態や生理的機能の変化および運動との関わりについて説明する<br>[授業外学修] 幼児期運動指針について調べる | ⑫ | [テーマ] 壮年期・中年期における機能変化と身体運動<br>[内容] 壮年期・中年期における身体機能の変化と運動との関わりについて説明する<br>[授業外学修] 壮年期・中年期における身体機能の変化について調べる |
| ⑤ | [テーマ] 青少年期の発育・発達特性<br>[内容] 青少年期の形態や生理的機能の変化および運動との関わりについて説明する<br>[授業外学修] PHV年齢および体力・運動能力との関わりについて調べる | ⑬ | [テーマ] 高齢期における機能変化と身体運動<br>[内容] 高齢期における身体機能の変化と運動との関わりについて説明する<br>[授業外学修] 高齢期の身体的特徴と、望ましい運動の在り方について調べる |
| ⑥ | [テーマ] 発育・発達とトレーニング(筋系・神経系・内分泌系)<br>[内容] 筋・神経・内分泌系の発育・発達を考慮したトレーニングの在り方について説明する<br>[授業外学修] 筋・神経・内分泌系の発育・発達特性について調べる | ⑭ | [テーマ] 形態および生理的機能と体力・運動能力の性差<br>[内容] 形態や生理的機能、体力・運動能力に関する男女の違いについて、発育・発達と老化の観点から説明する<br>[授業外学修] 体力・運動能力の性差について、年代別に調べる |
| ⑦ | [テーマ] 発育・発達とトレーニング(呼吸循環系)<br>[内容] 呼吸循環系の発育・発達を考慮したトレーニングの在り方について説明する<br>[授業外学修] 呼吸循環系の発育・発達特性について調べる | ⑮ | [テーマ] 健康・体力づくりとライフステージに応じた運動<br>[内容] 発育・発達と老化に関する身体諸機能の変化に応じた運動の在り方について説明する<br>[授業外学修] 生涯を通じた運動の在り方について調べる |
| ⑧ | [テーマ] 現代社会における青少年期の体力特性と身体運動<br>[内容] 現代社会における青少年期の体力について、特に子どもの体力の現状と問題点を中心に説明する<br>[授業外学修] 国の統計資料から、子どもの体力の現状について調べる | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する<br>[授業外学修] 全15回の授業内容を復習する |

**成績評価方法(方針)**

評価は、筆記試験(期末に実施、持ち込み不可)に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、授業態度に問題のある場合は減点する。なお、試験も含めた授業内容に関する疑問点等については、随時、質問を受け付けたうえで解説・助言を行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目は、スポーツトレーナーコースのコース必修科目である。
・授業中の私語、スマートフォン等の端末の使用は厳禁とする。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。
・授業で配布する資料は書き込み式にしてあるが、指示された内容のみを書くのではなく、必要に応じてメモをとること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、体力相談と運動処方 | 関連資格 | 健康運動指導士、障がい者スポーツ指導員 |
| 教科書 | 特に指定しない(授業テーマに沿った資料を配布する) | 参考書 | からだの発達と加齢の科学(髙石昌弘　監修, 大修館書店)ほか |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20～15:50 | その他 | 研究室:C棟3階 |

| 授業科目名 | 健康と栄養・食事<br>Nutrition for Health Management(L.) | | | | 担当教員 | 平良拓也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 食べ物にはどのような栄養成分が含まれているのか。私たちは食べ物をどのようにして摂り入れ、それをどのようにして身体中で利用し、健康な生活を送っているのだろうか。日本人の食生活の現状と問題点を踏まえて、講義を進める。 | i |

**授業の一般目標**

「運動・栄養・休養」を基本とした健康増進プログラムの運営に向けて、特に栄養や食事に関する基礎的知識の習得をすることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 健康増進にかかる栄養や食事についての知識を習得することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 「運動・栄養・休養」を基本とした健康増進プログラムの運営に役立つことを意識して取り組むことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

前半は栄養学の基本的な知識を学ぶ。一方、後半は健康と栄養・食事に関する実践的な知識を学ぶ。主にPower Pointを使い授業を進め、必要に応じて資料を配布する。また、毎時間、導入時に授業テーマにとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関係する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介する。なお、毎回ミニッツペーパーを用いて授業の振り返りを行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] 日本人の食生活指針、食事バランスガイド<br>[内容] 日本人の食生活指針と食事バランスガイドについて理解する<br>[授業外学修] 食事バランスガイドを活用できるようにすること |
| ② | [テーマ] 健康と過体重・肥満<br>[内容] 健康および肥満の定義、日本人の栄養摂取状況について理解する<br>[授業外学修] 肥満基準の一つであるBMIを基に、自身の肥満度を評価する | ⑩ | [テーマ] 乳・幼児期の栄養<br>[内容] 乳・幼児期の栄養状態の特徴と問題点について理解する<br>[授業外学修] 乳・幼児期の栄養状態の問題点について把握すること |
| ③ | [テーマ] 栄養・食事の基本<br>[内容] 栄養および栄養素の定義、日本人の栄養摂取状況について理解する<br>[授業外学修] 国民健康栄養調査について調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 学童・思春期の栄養<br>[内容] 学童・思春期の栄養状態の特徴と問題点について理解する<br>[授業外学修] 学童・思春期の栄養状態の問題点について把握すること |
| ④ | [テーマ] 食事摂取基準<br>[内容] 日本人の食事摂取基準の考え方について理解する<br>[授業外学修] 配布された資料を熟読すること | ⑫ | [テーマ] 成人期の栄養<br>[内容] 成人期の栄養状態の特徴と問題点について理解する<br>[授業外学修] 成人期の栄養状態の問題点について把握すること |
| ⑤ | [テーマ] 推定エネルギー必要量<br>[内容] 推定エネルギー必要量の考え方について理解する<br>[授業外学修] 身体活動レベルや体格に応じて評価できるようにすること | ⑬ | [テーマ] 高齢期の栄養<br>[内容] 高齢期の栄養状態の特徴と問題点について理解する<br>[授業外学修] 高齢期の栄養状態の問題点について把握すること |
| ⑥ | [テーマ] 栄養素の機能と代謝①<br>[内容] 炭水化物、たんぱく質、脂質について、その機能と代謝について理解する<br>[授業外学修] 各栄養素の特徴について把握すること | ⑭ | [テーマ] 最近の研究動向について<br>[内容] 食事・栄養と肥満との関連についての研究動向について、最近の知見を紹介する。<br>[授業外学修] 興味のある栄養問題について調べておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 栄養素の機能と代謝②<br>[内容] ビタミン、ミネラルについて、その機能と代謝について理解する<br>[授業外学修] 各栄養素の特徴について把握すること | ⑮ | [テーマ] 最近の研究動向について<br>[内容] 食事・栄養と肥満との関連についての研究動向について、最近の知見を紹介する。<br>[授業外学修]] 興味のある栄養問題について調べておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 栄養素の機能と代謝③<br>[内容] 食物・栄養素の消化吸収過程について理解する。<br>[授業外学修] 各消化器官の消化吸収過程について把握すること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う<br>[授業外学修] テストに備えて復習をすること |

**成績評価方法(方針)**

定期試験および授業内レポート(ミニッツペーパー)の総合評価とする。テストおよびレポートのフィードバックを希望する者には返却しながら解説をする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 55% |
| 授業内レポート | ○ | | | 45% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ◎ | | 減点あり |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業計画は、授業の進み具合により多少前後する。
・資料の配布やミニッツペーパーの管理、フィードバックはGoogleドライブ等を活用する。そのため、スマートフォン等で大学アカウントによるログインができるようにしておくこと。
・教室に入りきらない人数が受講を希望した場合、トレーナー所属学生を優先し、残りは抽選となる場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ栄養学(2年)、ストレングス&コンディショニング演習(3年) | 関連資格 | |
| 教科書 | 授業の都度、必要な資料を配布する | 参考書 | 健康づくりの栄養学 第2版(建帛社) |
| オフィスアワー | 金曜日2コマ | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツトレーナー演習<br>Seminor of Sports Trainer (S) | | | | 担当教員 | 山口・鈴木省・高橋弘・内丸・竹村・小田・高橋陽・真野・小勝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 身体能力測定およびアスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートすることから、各種データの分析結果に基づいた評価およびプログラム立案を行うことが必要となる。本演習では、スポーツトレーナーとして必要な基本的能力を身につけるために各種データの分析・活用方法や実践法について実務経験を活かした演習を行う。 | ⅰ、ⅱ、ⅳ |

**授業の一般目標**

スポーツトレーナー領域の研究法・研究動向をふまえた基礎資料および実験データの収集と分析、統計処理や図表の作成、論理的思考に基づいたレポートの作成、これらを処理するためのPCの活用など、研究の基礎手法が実施できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各種分析結果に基づいた資料収集ができ、データ処理や活用法について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツトレーナーとして、対象者のニーズに応じたサポート活動に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツトレーナーとして活動するための各種データ分析や評価、管理を実践することができる。 |

**授業計画（全体）**

授業は少人数によるグループ形式での実施を基本とし、原則としてスポーツトレーナー実習で得られた個々の測定結果などについて、基本的な統計処理や図表の作成を行い、集計結果を基にディスカッションを行う。また、各テーマの内容に応じて授業内もしくは授業外レポートを提出させることで、理解度・到達度の確認を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] スポーツトレーナーとして各種データの分析・活用方法や実践法を理解する必要性、授業目標と進め方、成績評価について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読する。授業を基に関連内容を調べる。 | ⑨ | [テーマ] 触診（体表解剖）<br>[内容] 体表から触診可能な筋肉の位置と作用について学修する。<br>[授業外学修] 筋肉の位置と作用を授業前後でまとめる。 |
| ② | [テーマ] 体力テストⅠ<br>[内容] 文部科学省の新体力テスト（20～64歳用）について、評価方法や活用方法を説明する。<br>[授業外学修] 新体力テストの評価・活用方法を授業前後でまとめる。 | ⑩ | [テーマ] ストレッチング<br>[内容] ストレッチングの効果について解説・実践する。<br>[授業外学修] ストレッチングの方法と効果を授業前後でまとめる。 |
| ③ | [テーマ] 体力テストⅡ<br>[内容] 文部科学省の新体力テスト（65～79歳用）について、評価方法や活用方法を説明する。<br>[授業外学修] 新体力テストの評価・活用方法を授業前後でまとめる。 | ⑪ | [テーマ] 脳震盪評価<br>[内容] 脳震盪について解説し、対応や評価の方法について議論する。<br>[授業外学修] 脳震盪の対応・評価方法を授業前後でまとめる。 |
| ④ | [テーマ] 体力テストⅢ<br>[内容] 高齢者および介護予防のための体力測定について、評価方法や活用方法を説明する。<br>[授業外学修] 介護予防のための体力テストの評価・活用方法をまとめる。 | ⑫ | [テーマ] アライメント<br>[内容] アスレティックリハビリテーションに必要なアライメントチェック・柔軟性テスト・関節弛緩性テストのチェックを行い評価する。<br>[授業外学修] アライメント等の評価・活用方法を授業前後でまとめる。 |
| ⑤ | [テーマ] 心拍数・心電図<br>[内容] ステップテスト前後の心拍数の変動レポートをもとに、運動強度や心理的ストレス、持久力、コンディション等について討論する。<br>[授業外学修] 心拍数の評価・活用方法を授業前後でまとめる。 | ⑬ | [テーマ] 筋力測定（BIODEX）<br>[内容] BIODEXによる筋力測定の結果を用いて、それぞれのデータの分析方法を学修する。<br>[授業外学修] BIODEXを用いた筋力評価方法を授業前後でまとめる。 |
| ⑥ | [テーマ] 形態計測・体脂肪測定<br>[内容] 前期の実習で測定した値を基に、体格指数を算出・評価する。また、生物学的法則による比較を行う。<br>[授業外学修] 測定結果の評価・活用方法を授業前後でまとめる。 | ⑭ | [テーマ] 動作観察<br>[内容] アスレティックリハビリテーションに必要な走行を中心とした動作観察の方法について学修する。<br>[授業外学修] 走行を中心とした動作観察方法を授業前後でまとめる。 |
| ⑦ | [テーマ] エネルギー代謝<br>[内容] 前期の実習で得られたデータを基に、安静時・活動時代謝の測定法や1日の総エネルギー消費量などに関する説明および演習を行う。<br>[授業外学修] エネルギー代謝の評価・活用方法を授業前後でまとめる。 | ⑮ | [テーマ] スポーツ選手と食事<br>[内容] スポーツ選手の食事環境と生活リズムを考え、コンディショニング管理を栄養学的観点から学修する。<br>[授業外学修] スポーツ選手の食事管理のありかたを授業前後でまとめる。 |
| ⑧ | [テーマ] 無酸素パワー<br>[内容] 前期の実習で得られたデータを基に、無酸素パワーについて評価する。<br>[授業外学修] 無酸素パワーの評価・活用方法を授業前後でまとめる。 | ⑯ | [テーマ] 総括<br>[内容] すべてのテーマについて質疑応答形式でまとめを行う。<br>[授業外学修]各テーマについて整理する。 |

**成績評価方法（方針）**

評価は、演習・実技の実施状況（授業に対する取り組み；50%）、授業内レポート（25%）および授業外レポート（25%）に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、無断欠席や遅刻、授業態度に問題のある場合は減点する。レポートは授業内容を振り返り、理解度を高める目的で課していることから、作成中あるいは作成後の疑問点等について随時、質問を受け付けたうえでフィードバックを行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 25% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | ◎ | 25% |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

- 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
- スポーツトレーナーコース所属学生向けの授業である（コース必修）。
- スポーツトレーナーコース以外の学生は、スポーツトレーナー実習の単位を修得済であること、または資格取得の関係から今後の履修予定が明確であることを履修の条件とする。
- 授業の詳細を1回目の授業にて連絡するので必ず出席すること。
- Excel・Word・PowerPointの基本操作ができることが望ましい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツトレーナー実習、運動生理学など | 関連資格 | 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | |
| オフィスアワー | 山口：第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツトレーナー実習<br>Sports Trainer Practicum (F.E.) | | | | 担当教員 | 山口・鈴木省・高橋弘・内丸・竹村・小田・高橋陽・小勝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 身体能力測定およびアスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。本実習では、スポーツトレーナーとして必要な基礎的能力を身につけるために、具体的なプログラムを評価する科学的測定方法や実践方法について、実務経験を活かした実習を行う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅳ

**授業の一般目標**

スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための基礎手法を実施できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 対象者の状況に応じた分析・評価・管理に関する基礎知識と具体的手法について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツトレーナーとして、対象者のニーズに応じたサポート活動に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツトレーナーとして活動するための各種分析や評価、管理を実践することができる。 |

**授業計画(全体)**

授業は少人数によるグループ形式での実施を基本とする。また、各テーマの内容に応じて授業内もしくは授業外レポートを提出させることで、理解度・到達度の確認を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] スポーツトレーナーとして科学的測定方法や実践方法を理解する必要性、授業目標と進め方、成績評価について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読する。授業を基に関連内容を調べる。 | ⑨ | [テーマ] ROM(関節可動域)<br>[内容] 骨のランドマークを触知し、関節の基本軸と移動軸を学んで、関節可動域測定を実践する。<br>[授業外学修] 関節可動域の測定方法を授業前後でまとめる。 |
| ② | [テーマ] 体力テストⅠ<br>[内容] 文部科学省の新体力テスト(20～64歳用)について、テスト方法や注意点を説明しながら、実際にテストを行う。<br>[授業外学修] 新体力テストの測定方法・注意点を授業前後でまとめる。 | ⑩ | [テーマ] ストレッチング<br>[内容] ストレッチングの効果に関する測定方法と、その実際について解説・実践する。<br>[授業外学修] ストレッチングの方法と効果を授業前後でまとめる。 |
| ③ | [テーマ] 体力テストⅡ<br>[内容] 文部科学省の新体力テスト(65～79歳用)について、テスト方法や注意点を説明しながら、実際にテストを行う。<br>[授業外学修] 新体力テストの測定方法・注意点を授業前後でまとめる。 | ⑪ | [テーマ] バランス・全身反応時間測定<br>[内容] バランス能力と全身反応時間について解説し、実際に測定を行う。<br>[授業外学修] バランス・全身反応時間の測定方法を授業前後でまとめる。 |
| ④ | [テーマ] 体力テストⅢ<br>[内容] 高齢者および介護予防のための体力測定について、テスト方法や注意点を説明しながら、実際にテストを行う。<br>[授業外学修] 介護予防のための体力テストの測定方法等をまとめる。 | ⑫ | [テーマ] アライメント<br>[内容] アスレティックリハビリテーションに必要な動作観察の方法とアライメントチェックについて解説・実践する。<br>[授業外学修] 動作観察・アライメントチェックの方法をまとめる。 |
| ⑤ | [テーマ] 心拍数・心電図<br>[内容] 心拍計を装着し、ステップテストを実施する。データ分析と評価法、さらに心拍計の操作方法について紹介する。<br>[授業外学修] 心拍数・心電図の測定方法を授業前後でまとめる。 | ⑬ | [テーマ] 筋力測定(BIODEX)<br>[内容] BIODEXを用いて筋力測定を実施することにより、その操作方法も同時に理解する。<br>[授業外学修] BIODEXを用いた筋力測定方法を授業前後でまとめる。 |
| ⑥ | [テーマ] 形態計測・体脂肪測定<br>[内容] マルチン氏型人体測定器を用いて、人体各部(長さ・厚さ・深さ・径)の測定を行う。<br>[授業外学修] 形態計測の方法を授業前後でまとめる。 | ⑭ | [テーマ] 動作観察<br>[内容] アスレティックリハビリテーションに必要な歩行を中心とした動作観察の方法について学修する。<br>[授業外学修] 歩行を中心とした動作観察方法を授業前後でまとめる。 |
| ⑦ | [テーマ] エネルギー代謝<br>[内容] 呼吸代謝測定装置を用いて酸素摂取量や二酸化炭素排出量などの呼気ガス分析を行い、安静時代謝を測定する。<br>[授業外学修] エネルギー代謝の測定方法を授業前後でまとめる。 | ⑮ | [テーマ] 測定データの分析<br>[内容] 各種測定で得られたデータの分析方法について説明し、実際に分析を行う。<br>[授業外学修] トレーナー領域におけるデータ分析方法をまとめる。 |
| ⑧ | [テーマ] 無酸素パワー<br>[内容] パワーマックスを用いて無酸素パワーテストを実施する。<br>[授業外学修] 無酸素パワーの測定方法を授業前後でまとめる。 | ⑯ | [テーマ] 総括<br>[内容] すべてのテーマについて質疑応答形式でまとめを行う。<br>[授業外学修]各テーマについて整理する。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、演習・実技の実施状況(授業に対する取り組み;50%)、授業内レポート(25%)および授業外レポート(25%)に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、無断欠席や遅刻、授業態度に問題のある場合は減点する。レポートは授業内容を振り返り、理解度を高める目的で課していることから、作成中あるいは作成後の疑問点等について随時、質問を受け付けたうえでフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 25% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | ◎ | 25% |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・スポーツトレーナーコース所属学生向けの授業である(コース必修)。
・スポーツトレーナーコース以外の学生は、スポーツトレーナー演習の単位を修得済であること、または資格取得の関係から今後の履修予定が明確であることを履修の条件とする。
・授業の詳細を1回目の授業にて連絡するので必ず出席すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナー演習、JSPO-AT必修の各科目 | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | 体力相談と運動処方<br>Exercise Prescription and Physical Fitness (L.) | | | | 担当教員 | 鈴木省三／竹村英和／馬　佳濛 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 健診機関において体力相談・運動処方業務に従事した実務経験を有する(第8・10・11回目担当者) |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

生活習慣の一つである「運動・スポーツ」が、健康の維持増進や体力向上に効果があることは多くの研究で明らかにされている。本講義では、健康づくりのために運動習慣を持つことの大切さと、体力向上を狙いとした運動プログラムの作成方法について、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅲ

**授業の一般目標**

運動不足が体力に及ぼす影響について理解し、クライエントの目的に応じた適切な運動プログラムを作成するための能力を身につける。また、応用として、5段階評価表、メッツを用いた運動プログラム、体脂肪を減少させるための有酸素プログラム、高齢者の筋肉量を増加させるための筋力トレーニングプログラム等の作成と評価方法を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体力相談や運動処方を実施するための基礎的事項について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 科学的手法を用いた運動プログラムの構築に取り組むことができるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 子どもから高齢者のニーズに応じた基本的な運動プログラムを構築することができる。 |

**授業計画(全体)**

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では基本的な理論と実践を取りあげるとともに、課題解決型学習の一環として、子どもから高齢者、スポーツ選手、メタボリックシンドローム予備軍らの運動プログラムの作成を行う。また、プログラムの作成にあたっては、グループワークやディスカッションを取りいれる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション (鈴木・竹村・馬)<br>[内容] 体力相談と運動処方の概要、授業の目標と進め方、成績評価について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読する。授業を基に関連する参考書を概観する。 | ⑨ | [テーマ] 5段階評価表によるスポーツ選手の運動処方(作業2) (鈴木)<br>[内容] クライエントのデータから5段階評価表を作り、目的を達成させるための運動プログラムを作成する。<br>[授業外学修] 解説をふまえ、運動プログラムを作成する要点をまとめる。 |
| ② | [テーマ] 体力相談と運動処方の意義 (鈴木)<br>[内容] 現代の健康阻害要因と中高年のメタボリックシンドローム、介護が必要な高齢者との関係から体力相談と運動処方の意義を説明する。<br>[授業外学修] 年齢に応じた健康上の問題と運動処方についてまとめる。 | ⑩ | [テーマ] ITを用いた運動処方の実際 (竹村)<br>[内容] 実務経験を活かし、実際の運動処方場面を想定したITの活用方法や、その実際について説明する。<br>[授業外学修] 運動処方場面でのITの活用事例について調べる。 |
| ③ | [テーマ] メタボリックシンドローム (馬)<br>[内容] メタボリックシンドロームに関する基礎的事項や改善方法の概略を説明する。<br>[授業外学修] メタボリックシンドロームの定義や改善方法について調べる。 | ⑪ | [テーマ] METsを用いた運動処方 (竹村)<br>[内容] 実務経験を活かし、実際の運動処方場面を想定したうえで、METsを用いた運動中のエネルギー消費量の推定等を実施する。<br>[授業外学修] METsによる各種計算を反復し、方法について習熟する。 |
| ④ | [テーマ] 運動不足の影響とトレーニング効果 (馬)<br>[内容] 運動不足やトレーニングが健康や体力に及ぼす影響について説明する。<br>[授業外学修] 運動が体力や生理機能に及ぼす影響について調べる。 | ⑫ | [テーマ] 身体活動支援法 (馬)<br>[内容] 健康・体力の維持増進を目的とした身体活動支援法について説明する。<br>[授業外学修] 身体活動の推進を支援する方法について調べる。 |
| ⑤ | [テーマ] 運動処方のプロセス (鈴木)<br>[内容] クライエントの目的を達成するための運動処方のプロセスについて説明する。<br>[授業外学修] 運動処方の手順や注意点について調べる。 | ⑬ | [テーマ] 高齢者の運動処方 (鈴木)<br>[内容] 高齢者の生理学的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する。<br>[授業外学修] 加齢に伴う形態・体力・生理機能の変化について調べる。 |
| ⑥ | [テーマ] 体力向上を目的とした運動処方(作業1) (鈴木)<br>[内容] 体力向上を目的としたクライエントのプログラムを作成する(作業)。<br>[授業外学修] 体力向上を目的としたトレーニング方法について調べる。 | ⑭ | [テーマ] 子ども(幼児・児童・生徒)の運動処方 (鈴木)<br>[内容] 子ども(幼児・児童・生徒)の発育・発達特性や生理学的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する。<br>[授業外学修] 子どもの発育・発達特性について調べる。 |
| ⑦ | [テーマ] 運動プログラムの組み立て手順 (鈴木)<br>[内容] 前回のプログラム作成のポイントについて解説をする。<br>[授業外学修] 解説をふまえ、運動プログラムを作成する要点をまとめる。 | ⑮ | [テーマ] 生活習慣病の予防・改善のための運動処方 (鈴木)<br>[内容] ケーススタディ研究から、生活習慣病についての運動処方のポイントについて説明する。<br>[授業外学修] 解説をふまえ、運動処方のポイントについて要約する。 |
| ⑧ | [テーマ] 5段階評価表の作成法 (竹村)<br>[内容] 実務経験を活かし、実際の運動処方場面を想定した5段階評価表の作成法と分析手順について説明する。<br>[授業外学修] 5段階評価表の作成を反復し、方法について習熟する。 | ⑯ | [テーマ] テスト (鈴木・竹村・馬)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。<br>[授業外学修] 全15回の授業内容を復習すること。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、定期試験(70%)および授業内レポート(30%)に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、授業態度に問題のある場合は減点する。なお、レポートは授業内で解説しながらフィードバックする。また、試験も含めた授業内容に関する疑問点等については、随時、質問を受け付けたうえで解説・助言を行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 70% |
| 授業内レポート | | ○ | ◎ | 30% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナーコース関連科目 | 関連資格 | スポーツプログラマー、健康運動実践指導者、健康運動指導士、CSCS、NSCA-CPT、中学・高校教員免許(保健体育) |
| 教科書 | 特に指定しない(授業テーマに沿った資料を配布する) | 参考書 | 「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識　第2版」<br>「ストレングストレーニング＆コンディショニング　第4版」 ほか |
| オフィスアワー | 金曜日 11:00～12:30(鈴木) | その他 | 研究室:鈴木(A棟4階)・竹村(C棟3階)・馬(5体2階) |

| 授業科目名 | トレーニングのプログラムデザイン<br>Designing a Training Program (L.) | | | | 担当教員 | 竹村英和／鈴木省三 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 適切なトレーニングプログラムは、トレーニングの原理・原則の応用に基づいて、プログラムデザインと呼ばれる手順を踏んで構築される。本講義では、トレーニングの原理・原則を解説するとともに、どのようにトレーニングプログラムを構築していくかについて、最近の研究結果や具体例を基に解説する。 | i 、iii |

**授業の一般目標**

各種トレーニングプログラムの変数について理解し、適切なトレーニングプログラムをデザインするための能力を身につける。また、応用として、各自が実施しているスポーツ種目を中心に、競技種目の特異性に関する分析方法や年間トレーニングプログラムの構築および評価方法を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | プログラムデザインを実施するための基礎的事項について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 科学的手法を用いたトレーニングプログラムの構築に取り組むことができるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 基本的なトレーニングプログラムについて、選手やクライエントのニーズに応じて構築することができる。 |

**授業計画(全体)**

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業前半は主に基本的な理論を取りあげ、後半では課題解決型学習の一環として、各自の実施している競技種目の特異性分析や年間トレーニングプログラムの作成を行う。プログラムの作成にあたっては、グループワークやディスカッションを取り入れる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション (竹村・鈴木)<br>[内容] 科学的視点に基づいたプログラムデザインの重要性、授業の目標と進め方、成績評価方法について説明する<br>[授業外学修] シラバスを熟読し、参考書を概観する | ⑨ | [テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析 (鈴木)<br>[内容] スポーツ種目の特異性を分析するための基礎的理論について説明し、実際に分析を行う<br>[授業外学修] 各自が実施しているスポーツ種目の特異性を検討する |
| ② | [テーマ] トレーニングの計画・実践・分析・評価の重要性 (竹村)<br>[内容] トレーニングにおける計画・実践・分析・評価の実例をとりあげ、プログラムデザインの重要性について説明する<br>[授業外学修] プログラムデザインの必要性について調べる | ⑩ | [テーマ] 年間トレーニングプログラム(ピリオダイゼーション) (鈴木)<br>[内容] トレーニング期分け(ピリオダイゼーション)に関する基礎的事項について説明する<br>[授業外学修] ピリオダイゼーションの意味と、その内容について調べる |
| ③ | [テーマ] トレーニングの計画・実践・分析・評価の概観 (竹村)<br>[内容] トレーニングの計画・実践・分析・評価に関する基礎的事項・応用方法の概略について説明する<br>[授業外学修] トレーニングの計画や分析に必要な事項について調べる | ⑪ | [テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案 (鈴木)<br>[内容] トレーニング期分けを行うための方法について説明し、実際に年間トレーニングプログラムを作成する<br>[授業外学修] 各自の年間トレーニング計画について検討する |
| ④ | [テーマ] レジスタンストレーニングのプログラムデザインの変数 (竹村)<br>[内容] レジスタンストレーニングプログラムをデザインするための変数について説明する<br>[授業外学修] レジスタンストレーニングの変数と、その内容について調べる | ⑫ | [テーマ] トレーニングプログラムの評価 (竹村)<br>[内容] 各種トレーニングの負荷設定や生理的適応を評価するための方法について説明する<br>[授業外学修] 各種の生理学的機能を評価する方法を調べる |
| ⑤ | [テーマ] レジスタンストレーニングの強度設定 (竹村)<br>[内容] レジスタンストレーニングプログラムをデザインするための変数のうち、特に強度について説明する<br>[授業外学修] レジスタンストレーニングの強度と効果の関連性を調べる | ⑬ | [テーマ] トレーニングに伴うコンディションの評価 (竹村)<br>[内容] 生理・心理的パラメータを用いたコンディションチェックや総トレーニング量を評価するための方法について説明する<br>[授業外学修] コンディションチェックの指標を調べる |
| ⑥ | [テーマ] 有酸素性トレーニングのプログラムデザインの変数 (竹村)<br>[内容] 有酸素性トレーニングプログラムをデザインするための変数について説明する<br>[授業外学修] 有酸素性トレーニングの変数と、その内容について調べる | ⑭ | [テーマ] IT機能を活用したコンディション評価の実例 (竹村)<br>[内容] IT機能を活用したコンディション評価の実例について紹介する<br>[授業外学修] コンディション評価(分析)を行う手法について調べる |
| ⑦ | [テーマ] 有酸素性トレーニングの強度設定とトレーニングタイプ (竹村)<br>[内容] 有酸素性トレーニングプログラムをデザインするための変数(運動強度)と主なトレーニングタイプについて説明する<br>[授業外学修] 有酸素性トレーニングの種類と期待される効果について調べる | ⑮ | [テーマ] プログラムデザインの実例 (竹村)<br>[内容] トップアスリートにおける計画・実践・分析・評価に基づいたプログラムデザインの実例について紹介する<br>[授業外学修] トップアスリートのトレーニングについて調べる |
| ⑧ | [テーマ] 各種トレーニングのプログラムデザインの変数 (竹村)<br>[内容] スピード・アジリティトレーニングなどの各種トレーニングプログラムをデザインするための変数について説明する<br>[授業外学修] 上記トレーニングの変数と、その内容について調べる | ⑯ | [テーマ] テスト (竹村・鈴木)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する<br>[授業外学修] 全15回の授業内容を復習する |

**成績評価方法(方針)**

評価は、定期試験(80%)および授業内レポート(20%)に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、授業態度に問題のある場合は減点する。なお、レポートは授業内で解説しながらフィードバックする。また、試験も含めた授業内容に関する疑問点等については、随時、質問を受け付けたうえで解説・助言を行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | | ○ | ◎ | 20% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業中の私語、スマートフォン等の端末の使用は厳禁とする。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。
・授業で配布する資料は書き込み式にしてあるが、指示された内容のみを書くのではなく、必要に応じてメモをとること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナーコース関連科目 | 関連資格 | CSCS、NSCA-CPT |
| 教科書 | 特に指定しない(授業テーマに沿った資料を配布する) | 参考書 | 「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識　第2版」<br>「ストレングストレーニング＆コンディショニング　第4版」 |
| オフィスアワー | 火曜日 14:20～15:50(竹村) | その他 | 研究室:竹村(C棟3階)・鈴木(A棟4階) |

| 授業科目名 | ストレングス&コンディショニング演習<br>Seminar of Strength & Conditioning (S.) | | | | 担当教員 | 内丸仁/鈴木省三/高橋弘彦/竹村英和 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

コンディショニングは、傷害予防、健康増進や競技力向上を目的として、体力の諸要素を高め、発揮させようとする過程であり、トレーニングやスポーツ生理学などの関連分野の科学的基礎知識を応用することが必須となる。本演習では、スポーツ医科学・健康増進の研究成果やトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場の実際を踏まえて、コンディショニングに関連するスポーツ生理学、環境生理学、トレーニングに関する演習を行う。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

トレーニングやスポーツ生理学などに関する専門的知識と具体的応用方法について理解するとともに、コンディショニングに応用するための知識を身につける。また、文献考証を通して最新の知見について理解し、自ら問題点や課題を検証するための知識と手法を身につけ、大学での学業の集大成である卒業論文の作成に向けた基礎的内容を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | トレーニングやスポーツ生理学、環境生理学に関わる専門知識や応用方法について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 対象者のニーズに応じたコンディショニングに取り組むことができるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 身体諸機能を評価するための各種機器の使用方法を習得し、問題点や課題の解決に応用することができる。 |

**授業計画（全体）**

授業は、担当教員の専門分野を基にグループ別に行う。授業は、一部、実習形式の内容を含め、各分野に関する演習を行う。また、授業外レポートを提出させることで、理解度・到達度の確認を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] 実験機器の使用方法（環境生理学系）<br>[内容] 人工気象室や常圧低酸素室、高圧高酸素室など、環境制御装置や関連機器の使用方法について説明する<br>[授業外学修] 機器の使用方法について復習する |
| ② | [テーマ] 文献検索の方法<br>[内容] 関連分野（トレーニング・スポーツ生理学・環境生理学）の文献を検索する方法について説明する<br>[授業外学修] 文献検索の方法について復習する | ⑩ | [テーマ] 実験機器の使用方法（スポーツ生理学系）<br>[内容] 多用途筋力測定装置や呼気ガス分析器など、スポーツ生理学分野に関わる各種測定機器の使用方法について説明する<br>[授業外学修] 機器の使用方法について復習する |
| ③ | [テーマ] 文献検索<br>[内容] 実際に関連分野（トレーニング・スポーツ生理学・環境生理学）の文献を検索する<br>[授業外学修] 検索しようとする文献のキーワードを検討する | ⑪ | [テーマ] 実験機器の使用方法（生体情報系）<br>[内容] 全身反応時間測定器や動体視力計などの機器の使用方法について説明する<br>[授業外学修] 機器の使用方法について復習する |
| ④ | [テーマ] 先行研究の検討（文献の通読：緒言・方法）<br>[内容] 各分野における先行研究（文献）のうち、緒言と方法について通読し、その内容について質疑応答を行う<br>[授業外学修] 興味のあるテーマに基づき、引き続き文献検索・考証を行う | ⑫ | [テーマ] 各分野における実践検証の課題設定<br>[内容] 各分野の先行研究をふまえ、実際に検証する課題を設定する<br>[授業外学修] 設定課題について復習する |
| ⑤ | [テーマ] 先行研究の検討（文献の通読：結果・考察）<br>[内容] 各分野における先行研究（文献）のうち、結果と考察について通読し、その内容について質疑応答を行う<br>[授業外学修] 興味のあるテーマに基づき、引き続き文献検索・考証を行う | ⑬ | [テーマ] 各分野における課題の検証（測定・調査）<br>[内容] 各自あるいはグループで設定した課題について、実際に測定・調査を行い検証する<br>[授業外学修] 得られたデータのまとめ方について検討する |
| ⑥ | [テーマ] 先行研究の検討（文献の通読：結論・参考文献）<br>[内容] 各分野における先行研究（文献）のうち、結論と参考文献について通読し、その内容について質疑応答を行う<br>[授業外学修] 興味のあるテーマに基づき、引き続き文献検索・考証を行う | ⑭ | [テーマ] 各分野における課題の検証（データ分析）<br>[内容] 各自あるいはグループで設定した課題について、実際に収集した測定データをまとめ、その内容について検討する<br>[授業外学修] 得られたデータから導きだせる結論についてまとめる |
| ⑦ | [テーマ] 先行研究の検討（文献内容のまとめ）<br>[内容] 各自、検索した文献を通読し、不明な点などを調べたうえで内容をまとめる<br>[授業外学修] 専門用語など、わからない点を調べる | ⑮ | [テーマ] 各分野における課題の検証（まとめ）<br>[内容] 各自が収集したデータを基に討論を行う<br>[授業外学修] 討論のためのデータの理解とまとめ作業をする |
| ⑧ | [テーマ] 先行研究の検討（文献内容の発表）<br>[内容] 各自が検索した文献の内容について発表し、質疑応答および討論を行う<br>[授業外学修] 発表内容について熟知する | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

評価は、演習・実技の実施状況（評価割合70%）、授業外レポート（評価割合30%）に基づき行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | 30% |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本演習は、スポーツトレーナーコース・フィットネストレーナー領域に所属する学生を対象として、コース関連科目を基盤とした応用的な内容で演習を行う。したがって、FT領域所属学生以外は、初回授業に必ず出席し説明を受けること。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業は、担当教員の専門分野を基にグループ別に行う。なお、授業展開の詳細については、1回目の授業にて連絡するので必ず出席すること。
・授業計画は、授業の進行状況により、変更することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナーコース関連科目 | 関連資格 | CSCS、NSCA-CPT、健康運動指導士、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 研究室：C棟2F　オフィスアワー：火曜日2校時 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | ストレングス＆コンディショニング実習<br>Strength & Conditioning Practicum (F.E.) | | | | 担当教員 | 内丸仁/鈴木省三/橋本実/高橋弘彦/宮西智久/竹村英和/真野芳彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

コンディショニングには、トレーニングやスポーツ生理学をはじめとする関連分野の科学的基礎知識を理解し、実践的に応用することが必須となる。本実習では、スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での経験を活かしたコンディショニングやトレーニングに関する実践方法と評価方法について実習を行う。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

トレーニングやスポーツ生理学、バイオメカニクス、スポーツ栄養学、環境生理学などコンディショニングに応用するための基礎知識、実践・評価方法を身につける。また、目的に応じて身体諸機能を向上させるコンディショニングのあり方や実際のトレーニングに関する科学的背景を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ストレングス＆コンディショニングに関わる基礎知識や科学的背景、具体的手法について説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手やクライアントのニーズに応じたコンディショニングに取り組むことができるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | レジスタンストレーニングをはじめとする各種トレーニングを正確に実践し、指導に役立てることができる。 |

**授業計画（全体）**

一部、演習形式の内容を含め、授業テーマに応じた実習を行う。授業は、担当教員の専門領域に応じて、全体形式もしくはグループ形式で行う。また、各テーマの内容に応じてレポートを提出させることで、理解度・到達度の確認を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明<br>[授業外学修]シラバスをよく読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] レジスタンストレーニングⅠ<br>[内容] 筋バランス、重心制御、フットコンタクトの実践と評価を基本とした改善プログラムを紹介する<br>[授業外学修] プログラムを自分自身で実践する |
| ② | [テーマ] 運動負荷試験実習Ⅰ<br>[内容] 運動負荷試験の目的と方法、適応と禁忌、安全対策と中止基準、心電図誘導法と心電図異常について講義する<br>[授業外学修] 基礎知識を復習してから次回以降の実習に参加する | ⑩ | [テーマ] レジスタンストレーニングⅡ<br>[内容] ダイナミックウォーミングアッププログラム（子どもから高齢者）の理論と実践を紹介する<br>[授業外学修] プログラムを自分自身で実践する |
| ③ | [テーマ] 運動負荷試験実習Ⅱ<br>[内容] トレッドミルや自転車エルゴメーターを用いた運動中の呼吸循環応答を測定する<br>[授業外学修] 運動中の呼吸循環応答の変化について復習する | ⑪ | [テーマ] レジスタンストレーニングⅢ<br>[内容] プライオメトリックス、アジリティプログラムの理論と実践を紹介する<br>[授業外学修] プログラムを自分自身で実践する |
| ④ | [テーマ] 運動負荷試験実習Ⅲ<br>[内容] テレメータ心電図を用いて運動中の心電図記録や血圧測定等を行う<br>[授業外学修] 運動時の心拍数や血圧の変化について復習する | ⑫ | [テーマ] レジスタンストレーニングⅣ<br>[内容] ベンチプレス挙上のプログラム理論と実践を紹介する<br>[授業外学修] プログラムを自分自身で実践する |
| ⑤ | [テーマ] 運動負荷試験実習Ⅳ<br>[内容] 潜水反射試験の実施方法や機序について実例を基に説明する<br>[授業外学修] テスト方法や生理応答について復習する | ⑬ | [テーマ] レジスタンストレーニングⅤ<br>[内容] スクワット挙上のプログラム理論と実践を紹介する<br>[授業外学修] プログラムを自分自身で実践する |
| ⑥ | [テーマ] レジスタンストレーニングのバイオメカニクス<br>[内容] レジスタンストレーニングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、バイオメカニクスの視点から説明する<br>[授業外学修] 力学的観点からスポーツパフォーマンスへの影響について復習する | ⑭ | [テーマ] レジスタンストレーニングⅥ<br>[内容] ハングクリーン挙上のプログラム理論と実践を紹介する<br>[授業外学修] プログラムを自分自身で実践する |
| ⑦ | [テーマ] 健康とパフォーマンスにおける栄養学的要因<br>[内容] 自分自身の日ごろの食生活を見直すためにコンピュータを用いた栄養分析を行う<br>[授業外学修] 授業前3日間の食事内容を記録する。 | ⑮ | [テーマ] 体力・運動能力測定の実際<br>[内容] 専門機器を用いた体力・運動能力測定の方法について紹介する<br>[授業外学修] 授業内容を基に復習する |
| ⑧ | [テーマ] 物理的環境とウォーミングアップ<br>[内容] 物理的環境要因がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する。それを基に各自のウォーミングアップ等について評価する<br>[授業外学修] ウォーミングアップの効果やパフォーマンスへの影響について復習する | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。<br>[授業外学修] これまでの復習をすること |

**成績評価方法（方針）**

評価は、出席状況、実習・実技の実施状況、授業外レポートに基づき行う。各項目の評価割合は、出席状況が15%、演習・実技の実施状況が50%、レポートが35%とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 70% |
| 授業内レポート | | | | 30% |
| 授業外レポート | ◎ | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・スポーツトレーナーコース・フィットネストレーナー領域に所属する学生向けの授業である。したがって、コース所属学生以外は、初回授業に必ず出席し説明を受けること。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・テーマに応じて全体もしくはグループ形式で授業を行う。なお、授業展開の詳細については、1回目の授業にて連絡するので必ず出席すること。
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツ医学概論、スポーツ栄養学、スポーツトレーナー概論、スポーツトレーナー実習・演習、体力相談と運動処方、トレーニングのプログラムデザイン、ストレングス＆コンディショニング演習、フィットネストレーナー・インターンシップ実習 | 関連資格 | CSCS、NSCA-CPT、健康運動指導士、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識」<br>「ストレングストレーニング＆コンディショニング第4版」 |
| オフィスアワー | 研究室：C棟2F　オフィスアワー：火曜日2校時 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | フィットネストレーナー・インターンシップ実習<br>Fitness Trainer Internship (F.E.) | | | | 担当教員 | 鈴木省三 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| フィットネストレーナー関連の指導者を志す上で、リーダーシップ・知識・技能・応用力は求められる必須要素となる。本実習では様々なエクササイズを通し、特にリーダーシップと応用力について、自身の現状を把握することで改善点を明確にし、具体的な実践を通した指導力を構築する。 | ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

希望する職種に関する詳細を整理し、それぞれの環境で求められる知識と技能を確認する。その上で、バックスクワットを始めとした多様なトレーニング種目の実技を通して、NSCAが推奨するS&Cの理論と実践に対する理解を深める。また、個々のクライアントのニーズを把握し、適切なプログラムを作成した上で効果的な指導が実践できる総合的な技能の向上を目指す。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 運動選手をはじめ、子供から中高年・高齢者に対するS&Cトレーニングの必要性を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | より良いトレーナーになるために必要な自己の課題を明確化できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 各指導対象者のニーズを的確に分析し、S&Cの基礎理念や実技を用いた適切なプログラミングができるようになる。 |

**授業計画（全体）**

授業テーマに沿って作成したワークシートと、その内容を基にした実践指導への応用が中心となる。授業では、これまでに学習したS&Cの基本理念や実技の確認を行いつつ、各指導対象の身体的・精神的特徴や指導環境に合わせた指導内容の応用に焦点をあてる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] フィットネストレーナー・インターンシップ実習の概要、授業の目標と進め方、成績評価について説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読する。授業を基に関連する参考書を概観する。 | ⑨ | [テーマ] ベンチプレス（応用編）<br>[内容] ベンチプレス種目のバリエーション（オーバーヘッド系含む）を実践し、各種目の特徴とその活用法に関する理解を深める。<br>[授業外学修] NSCA参考書から4種目を選び、指導ポイントを確認する。 |
| ② | [テーマ] 現状確認<br>[内容] 希望する職種に対し、職務の具体的な内容やそれに関わる自身の現在の意識・知識・技能について確認作業を行う。<br>[授業外学修] 希望する職種について様々なメディアを活用し、調査する。 | ⑩ | [テーマ] ハングクリーン（応用編）<br>[内容] クリーン種目のバリエーションを実践し、各種目の特徴とその活用法に関する理解を深める。<br>[授業外学修] ハングクリーンが実施出来ないケース（怪我等）を考える。 |
| ③ | [テーマ] バックスクワット<br>[内容] バックスクワットの実技を通して、適切なフォームで実施するために必要な要素、エラー動作とその背景、修正方法を考察する。<br>[授業外学修] スクワットのバリエーション種目を調べる。 | ⑪ | [テーマ] アシスタンス種目<br>[内容] 上半身プル系・体幹トレーニング種目を実践し、各種目の特徴とその活用法に関する理解を深める。<br>[授業外学修] NSCA参考書から4種目を選び指導ポイントを確認する。 |
| ④ | [テーマ] ベンチプレス<br>[内容] ベンチプレスの実技を通して、適切なフォームで実施するために必要な要素、エラー動作とその背景、修正方法を考察する。<br>[授業外学修] ベンチプレスのバリエーション種目を調べる。 | ⑫ | [テーマ] 指導シミュレーション 1<br>[内容] モニタリングで抽出した指導対象者の特徴を踏まえた上で、事前に準備したプログラムの模擬指導を実施する。<br>[授業外学修] NSCA参考書から4種目を選び、指導ポイントを確認する。 |
| ⑤ | [テーマ] ハングクリーン<br>[内容] ハングクリーンの実技を通して、適切なフォームで実施するために必要な要素、エラー動作とその背景、修正方法について考察する。<br>[授業外学修] クリーンのバリエーション種目を調べる。 | ⑬ | [テーマ] 指導シミュレーション2<br>[内容] モニタリングで抽出した指導対象者の特徴を踏まえた上で、事前に準備したプログラムの模擬指導を実施する。<br>[授業外学修] NSCA参考書から4種目を選び、指導ポイントを確認する。 |
| ⑥ | [テーマ] 指導対象モニタリング1<br>[内容] バレー部のトレーニングを特定の学生を選択した上で観察し、言動や行動、指導者とのやり取りから、その特徴を抽出・分析する。<br>[授業外学修] 観察した言動・行動の背景にある要素を考える。 | ⑭ | [テーマ] ニーズ分析<br>[内容] 想定される指導対象者について、身体的特徴や体力レベル、目的を明確にした上で、ワークシートに沿ってニーズ分析を行う。<br>[授業外学修] トレーニング種目の特徴や変数が及ぼす効果を復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 指導対象モニタリング2<br>[内容] サッカー部のトレーニングを特定の学生を選択した上で観察し、言動や行動、指導者とのやり取りから、その特徴を抽出・分析する。<br>[授業外学修] 観察した言動・行動の背景にある要素を考える。 | ⑮ | [テーマ] プログラムデザイン<br>[内容] ニーズ分析を基に、3ヵ月間のトレーニングプログラムを作成する。<br>[授業外学修]月毎の現実的且つ具体的（質・量的）な短期目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] スクワット（応用編）<br>[内容] スクワット種目のバリエーション（ランジ系含む）を実践し、各種目の特徴とその活用法に関する理解を深める。<br>[授業外学修] NSCA参考書から4種目を選び、指導ポイントを予習する。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するために面接試験を実施する。<br>[授業外学修] 全15回の授業内容を復習すること |

**成績評価方法（方針）**

評価は、授業内レポート（30%）と面接テスト（20%）および実践を通した指導力と師範力の技能（50%）に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、授業態度に問題のある場合は減点する。なお、レポートは授業内で解説しながらフィードバックする。また、試験も含めた授業内容に関する疑問点等については、随時、質問を受け付けたうえで解説・助言を行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | △ | △ | △ | 20% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 30% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学、スポーツトレーナーコース関連科目 | 関連資格 | CSCS、NSCA-CPT、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識　第2版」<br>「ストレングストレーニング＆コンディショニング　第4版」 |
| オフィスアワー | 金曜日 11:00～12:30（鈴木） | その他 | 研究室：A棟4階 |

| 授業科目名 | アスレティックトレーニング論Ⅰ<br>Athletic Training Ⅰ(L) | | | | 担当教員 | 山口貴久/小田桂吾/高橋陽介/小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツトレーナーに必要不可欠な運動器の機能解剖について、実務経験を活かしスポーツトレーナーの観点から講義する。 | i |

**授業の一般目標**

関連分野へ応用できる程度まで運動器の機能解剖を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 様々な身体運動について解剖学的観点から説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

概論に続き、各論では身体部位ごとに、1)骨　2)関節と靭帯　3)筋・腱　4)その他の重要な軟部組織について解説する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(山口)<br>[内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う<br>[授業外学修] 教科書p2-26を熟読し理解してくること | ⑨ | [テーマ] 体幹の機能解剖Ⅰ(山口)<br>[内容] 頸部の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p41-44を熟読し理解してくること |
| ② | [テーマ] 概論Ⅰ(小田)<br>[内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する<br>[授業外学修] 骨・関節・靭帯の概論について事前に調べてくること | ⑩ | [テーマ] 体幹の機能解剖Ⅱ(山口)<br>[内容] 胸部の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p45-54を熟読し理解してくること |
| ③ | [テーマ] 概論Ⅱ(小田)<br>[内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する<br>[授業外学修] 骨格筋の概論について事前に調べてくること | ⑪ | [テーマ] 体幹の機能解剖Ⅲ(山口)<br>[内容] 腰部の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p55-64を熟読し理解してくること |
| ④ | [テーマ] 概論Ⅲ(小田)<br>[内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する<br>[授業外学修] 教科書p106-123を熟読し理解してくること | ⑫ | [テーマ] 上肢の機能解剖Ⅰ(小勝)<br>[内容] 肩関節の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p55-64を熟読し理解してくること |
| ⑤ | [テーマ] 下肢の機能解剖Ⅰ(高橋)<br>[内容] 足部・足関節・下腿の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p96-105を熟読し理解してくること | ⑬ | [テーマ] 上肢の機能解剖Ⅱ(小勝)<br>[内容] 肩関節の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p65-77を熟読し理解してくること |
| ⑥ | [テーマ] 下肢の機能解剖Ⅱ(高橋)<br>[内容] 膝関節の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p90-105を熟読し理解してくること | ⑭ | [テーマ] 上肢の機能解剖Ⅲ(小勝)<br>[内容] 肘関節の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 教科書p78-89を熟読し理解してくること |
| ⑦ | [テーマ] 下肢の機能解剖Ⅲ(高橋)<br>[内容] 股関節・大腿の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 中間テストに備えること | ⑮ | [テーマ] 上肢の機能解剖Ⅳ(小勝)<br>[内容] 手関節と手の解剖と機能について解説する<br>[授業外学修] 期末テストに備えること |
| ⑧ | [テーマ] 中間試験(山口)<br>[内容] 運動器の機能解剖の概論と下肢の機能解剖に関する筆記試験<br>[授業外学修] 教科書p27-40を熟読し理解してくること | ⑯ | [テーマ] 期末試験(山口)<br>[内容] 体幹と上肢の機能解剖に関する筆記試験<br>[授業外学修] 期末試験の振り返りを実施すること |

**成績評価方法(方針)**

中間および期末試験の結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること
・非常に情報量の多い科目なので、必ず授業外学修を行うこと。これを前提に講義を展開していく。講義の進行は非常に速いので、授業外学修を行わなければ講義についてこられないことを認識し、講義に臨むこと
・アスレティックトレーニング論Ⅱを履修予定の学生は、必ず履修すること
・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | JSPO-AT必修の各科目 | 関連資格 | 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本体育協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト② | 参考書 | |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | アスレティックトレーニング論Ⅱ<br>Athletic Training Ⅱ (L) | | | | 担当教員 | 山口貴久・小田桂吾・高橋陽介・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツトレーナーに必要不可欠な運動器(筋と骨格)の機能解剖について、実務経験を活かしスポーツトレーナーの観点から触診、可動域の測定、徒手筋力検査などの各種検査法と合わせて解説する。 | ⅰ、ⅱ |

**授業の一般目標**

運動器の機能解剖を理解し、各種検査法を実施できるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各種検査法を解剖学的観点から説明できる。スポーツ傷害の評価に必要な各種検査方法を列挙できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 各種検査法が実施できる。 |

**授業計画(全体)**

触診、可動域測定、徒手筋力検査、タイトネステスト、整形外科的徒手検査など各種検査法の実技を交えながら運動器の機能解剖について解説していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う<br>[授業外学修] 教科書②p106-123および⑤の関連個所を熟読してくること | ⑨ | [テーマ] 頚部と胸背部<br>[内容] 頚部と胸背部の各種検査法について解説する<br>[授業外学修] 教科書p55-64および⑤の関連個所を熟読してくること |
| ② | [テーマ] 足部、足関節と下腿①<br>[内容] 足部、足関節と下腿の触診と可動域測定について解説する<br>[授業外学修] 足部、足関節と下腿の各種検査方法を事前に調査してくること | ⑩ | [テーマ] 肩甲帯、肩関節と上腕①<br>[内容] 肩甲帯、肩関節と上腕の触診について解説する<br>[授業外学修] 肩関節の可動域測定と徒手筋力検査の方法を調査してくること |
| ③ | [テーマ] 足部、足関節と下腿②<br>[内容] 足部、足関節と下腿の徒手筋力検査、タイトネステスト、整形外科的徒手検査について解説する<br>[授業外学修] 教科書②p96-105および⑤の関連個所を熟読してくること | ⑪ | [テーマ] 肩甲帯、肩関節と上腕②<br>[内容] 肩甲帯、肩関節と上腕の可動域測定と徒手筋力検査について解説する<br>[授業外学修] 肩関節の整形外科的徒手検査の方法を調査してくること |
| ④ | [テーマ] 膝関節と大腿①<br>[内容] 膝関節と大腿の触診と可動域測定について解説する<br>[授業外学修] 膝関節と大腿の各種検査方法を事前に調査してくること | ⑫ | [テーマ] 肩甲帯、肩関節と上腕③<br>[内容] 肩甲帯、肩関節と上腕のタイトネステスト、整形外科的徒手検査について解説する<br>[授業外学修] 教科書p65-77および⑤の関連個所を熟読してくること |
| ⑤ | [テーマ] 膝関節と大腿②<br>[内容] 膝関節と大腿の徒手筋力検査、タイトネステスト、整形外科的徒手検査について解説する<br>[授業外学修] 教科書②p90-105および⑤の関連個所を熟読してくること | ⑬ | [テーマ] 肘関節<br>[内容] 肘関節の各種検査法について解説する<br>[授業外学修] 教科書p78-89および⑤の関連個所を熟読してくること |
| ⑥ | [テーマ] 股関節<br>[内容] 股関節の各種検査法について解説する<br>[授業外学修] 教科書②p45-54および⑤の関連個所を熟読してくること | ⑭ | [テーマ] 前腕、手関節と手<br>[内容] 前腕、手関節と手の触診と可動域測定について解説する<br>[授業外学修] 前腕、手関節と手の整形外科的徒手検査を調査してくること |
| ⑦ | [テーマ] 腰部<br>[内容] 腰部の各種検査法について解説する<br>[授業外学修] 中間テストに備えること | ⑮ | [テーマ] 前腕、手関節と手<br>[内容] 前腕、手関節と手の徒手筋力検査法、タイトネステスト、整形外科的徒手検査について解説する<br>[授業外学修] 期末テストに備えること |
| ⑧ | [テーマ] 中間試験<br>[内容] 下肢および腰部における各種検査法の実技試験<br>[授業外学修] 教科書②p27-54および⑤の関連個所を熟読してくること | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 頚胸背部および上肢における各種検査法の実技試験<br>[授業外学修] 期末試験の振り返りを実施すること |

**成績評価方法(方針)**

中間および期末試験の結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目はアスレティックトレーニング論Ⅰを修了していることを前提に授業を展開していく
・本科目は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること
・身体各部が露出でき、かつ動きやすいる服装で臨むこと。
・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない

| 関連科目 | JSPO-AT必修の各科目 | 関連資格 | 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー |
|---|---|---|---|
| 教科書 | 日本体育協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト②、⑤ | 参考書 | 運動器の徒手検査法、徒手筋力検査 |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | アスレティックトレーニング演習<br>Athletic Training Seminar(S.) | | | | 担当教員 | 小田桂吾・山口貴久・高橋陽介 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| アスレティックトレーナーとして必要な評価、競技復帰プログラムの作成および実践と、傷害予防を目的とした評価、トレーニングプログラム作成および実践を総合的に学習し、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に必要な知識と技術を深める。 | i 、iii |

**授業の一般目標**

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に必要な知識と技術を獲得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックトレーナーとして活動するにあたって必要な知識を習得し、活用できるようにする。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手のアスレティックトレーニング指導において選手および他領域の専門家とコミニュケーションが取れるようにする。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 選手のコンディションに応じて、アスレティックトレーニングの指導が出来るようにする。 |

**授業計画(全体)**

スポーツ選手に対するアスレティックリハビリテーションおよびトレーニング指導が出来るようにグループワークおよび実技のデモンストレーションを中心に行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] アスレティックトレーニング①<br>[内容] 競技種目特性とコンディショニングについて解説およびグループワークを行う<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑥303～318ページを参考に復習を行う |
| ② | [テーマ]検査・測定および評価①<br>[内容] 機能評価に必要なプロセスについて解説する。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑤2～19ページを参考に復習を行う | ⑩ | [テーマ] アスレティックトレーニング②<br>[内容] 競技種目特性とコンディショニングについて解説およびグループワークを行う<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑥320～365ページを参考に復習を行う |
| ③ | [テーマ]検査・測定および評価②<br>[内容] 機能評価に必要な検査測定方法について解説およびグループワークを行う。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑤20～53ページを参考に復習を行う | ⑪ | [テーマ] テーピング①<br>[内容] 足部・足関節のテーピング<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑥224～236ページを参考に復習を行う |
| ④ | [テーマ]検査・測定および評価③<br>[内容] スポーツ動作の観察と分析について解説およびグループワークを行う。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑤105～170ページを参考に復習を行う | ⑫ | [テーマ] テーピング②<br>[内容] 膝関節・下腿・大腿のテーピング<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑥237～242ページを参考に復習を行う |
| ⑤ | [テーマ] 救急処置①<br>[内容] スポーツ現場における救急処置について解説およびグループワークを行う。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑧2～7ページを参考に復習を行う | ⑬ | [テーマ] テーピング③<br>[内容] 体幹・上肢のテーピング<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑥243～253ページを参考に復習を行う |
| ⑥ | [テーマ] 救急処置②<br>[内容] スポーツ現場における緊急時の救命処置について解説およびグループワークを行う。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑧8～11ページを参考に復習を行う | ⑭ | [テーマ] テスト①<br>[内容] 実技試験(救急処置、検査測定と評価)<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑤、⑧を参考に復習を行う |
| ⑦ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション①<br>[内容] 競技種目特性に基づいたリハビリテーションプログラム作成および指導について解説およびグループワークを行う。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑦256～285ページを参考に復習を行う | ⑮ | [テーマ] テスト②<br>[内容] 実技試験(アスレティックリハビリテーション)<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑦を参考に復習を行う |
| ⑧ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション②<br>[内容] 競技種目特性に基づいたリハビリテーションプログラム作成および指導について解説およびグループワークを行う。<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑦285～351ページを参考に復習を行う | ⑯ | [テーマ] テスト③<br>[内容] 実技試験(テーピング)<br>[授業外学修]AT専門科目テキスト⑥を参考に復習を行う |

**成績評価方法(方針)**

評価はグループワークの取り組みおよび実技試験の結果にに基づき行い、成績は授業内で解説しながらフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は 退出させ、それ以降の講義への出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | アスレティックトレーニング論Ⅰ・Ⅱ、コンディショニング実習、アスレティックリハビリテーション実習・演習 | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑤～⑧ | 参考書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト①②③④⑨ |
| オフィスアワー | 担当:小田(水曜日12:40～14:10) | その他 | kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | アスレティックリハビリテーション論<br>Introduction to Sports Rehabilitation(L.) | | | | 担当教員 | 小田　桂吾 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

アスレティックリハビリテーションは、対象者が希望するスポーツへの復帰を目標としたリハビリテーションである。基本的なリハビリテーション知識とともに、対象者がスポーツという高いレベルでの身体活動を行えるようにするための知識が要求される。本講義では、アスレティックリハビリテーションに必要とされる基礎知識について各テーマ毎に具体例を上げ解説していく。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i

**授業の一般目標**

アスレティックリハビリテーションで必要とされる手法、プログラムの進め方を学習する。また、具体的な事例を通して怪我をした競技者が安全に、受傷前と同等あるいはそれ以上のレベルでスポーツ復帰するための過程を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックリハビリテーションの基礎的事項を説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

授業テーマに合わせ、スポーツ現場における実務経験を生かしたアスレティックトレーナーの観点と教科書とパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識②<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域回復、拡大エクササイズのプログラミングについて説明<br>[授業外学修] 教科書35～36ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ② | [テーマ]アスレティックリハビリテーションの定義について<br>[内容] リハビリテーションの概念、アスレティックリハビリテーションの定義について説明<br>[授業外学修] 教科書2～9ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑩ | [テーマ] 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識③<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域回復、拡大エクササイズの実際について説明<br>[授業外学修] 教科書37～39ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ③ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションの概要①<br>[内容] アスレティックリハビリテーションの進め方について説明<br>[授業外学修] 教科書10～12ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑪ | [テーマ] 神経筋協調性回復、向上エクササイズの基礎知識<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける神経筋協調性回復、向上エクササイズのプログラミングならびに実施時の留意点について説明<br>[授業外学修] 教科書40～47ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ④ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションの概要②<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける機能評価について説明<br>[授業外学修] 教科書13～14ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑫ | [テーマ] 物理療法の基礎知識①<br>[内容] アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる物理療法(温熱、寒冷療法)の基礎知識について説明<br>[授業外学修] 教科書63～77ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ⑤ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションの概要③<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおけるリスク管理について説明<br>[授業外学修] 教科書15～17ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑬ | [テーマ] 物理療法の基礎知識②<br>[内容] アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる物理療法(電気刺激療法)の基礎知識について<br>[授業外学修] 教科書78～84ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ⑥ | [テーマ] 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識①<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける筋力回復、筋力増強エクササイズ実施時の留意点について説明<br>[授業外学修] 教科書18～25ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑭ | [テーマ] 鍼、灸、マッサージの有効利用方法<br>[内容] スポーツ分野の鍼灸マッサージの有効利用方法と注意事項について説明<br>[授業外学修] 教科書85～87ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ⑦ | [テーマ] 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識②<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける筋力回復、筋力増強エクササイズのプログラミングについて説明<br>[授業外学修] 教科書26～32ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑮ | [テーマ] 装具、補装具の基礎知識<br>[内容] アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる装具、補装具の基礎知識について説明<br>[授業外学修] 教科書88～102ページ, 配布資料を参照に復習する |
| ⑧ | [テーマ] 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識①<br>[内容] アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域回復、拡大エクササイズ実施時の留意点について説明<br>[授業外学修] 教科書33～34ページ, 配布資料を参照に復習する | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業理解度の確認のため筆記試験を行なう<br>[授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |

**成績評価方法(方針)**

評価は筆記試験(評価割合100%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内で解説しながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は　退出させ、それ以降の講義への出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ・アスレティックリハビリテーション実習<br>・アスレティックリハビリテーション演習 | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑦ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日:12:40-14:10 | その他 | 連絡先:kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | コンディショニング論<br>Introduction to Conditioning | | | | 担当教員 | 小勝健司／髙橋陽介／小田桂吾 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小勝健司／髙橋陽介／小田桂吾<br>高校・大学・プロ現場でアスレティックトレーナー経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を実務経験を活かして具体的な事例を交え解説する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ

**授業の一般目標**

コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | コンディショニングの基礎的事項を説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。 |

**授業計画(全体)**

授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(小勝)<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] トレーニング計画②(髙橋)<br>[内容] トレーニング計画の立案、設計について説明<br>[授業外学修]教科書p70-84を読んで予習と復習をする |
| ② | [テーマ]コンディショニングとは(小田)<br>[内容] コンディショニングの概念、目的について説明<br>[授業外学修]教科書p2-10を読んで復習と予習をする | ⑩ | [テーマ] ストレッチング(小勝)<br>[内容] ストレッチングの方法、目的、基礎知識について説明<br>[授業外学修]教科書p178-208;p272-277を読んで復習と予習をする |
| ③ | [テーマ] コンディショニングの要素①(小田)<br>[内容] コンディショニングに関わる身体的因子について説明<br>[授業外学修]教科書p6-21を読んで復習と予習をする | ⑪ | [テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン(小勝)<br>[内容] ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明<br>[授業外学修]教科書p272-277;p93-97を読んで復習と予習をする |
| ④ | [テーマ] コンディショニングの要素②(小田)<br>[内容] コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明<br>[授業外学修]教科書p12-24を読んで復習と予習をする | ⑫ | [テーマ] レジスタンス・パワートレーニング①(小田)<br>[内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明<br>[授業外学修]教科書p95-97;p120-135を読んで復習と予習をする |
| ⑤ | [テーマ] コンディション評価①(髙橋)<br>[内容] コンディション評価の目的、方法について説明<br>[授業外学修]教科書p27-50を読んで復習と予習をする | ⑬ | [テーマ] レジスタンス・パワートレーニング②(小田)<br>[内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明<br>[授業外学修]教科書p120-135;p87-93;p139-147を読んで復習と予習をする |
| ⑥ | [テーマ] コンディション評価②(髙橋)<br>[内容] コンディション評価の目的、方法について説明<br>[授業外学修]教科書p35-59を読んで復習と予習をする | ⑭ | [テーマ] アジリティー・スタビライゼーショントレーニング(小田)<br>[内容] アジリティー・スタビライゼーショントレーニングの方法、実施時の注意点について説明<br>[授業外学修]教科書p87-93;p139-147を読んで復習する |
| ⑦ | [テーマ] トレーニングの基礎(髙橋)<br>[内容] トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明<br>[授業外学修]教科書p52-64を読んで復習と予習をする | ⑮ | [テーマ] 総括・復習(小勝)<br>[内容] これまでの講義内容を復習し、テストに備える<br>[授業外学修]これまでカバーした教科書の内容を復習する |
| ⑧ | [テーマ] トレーニング計画①(髙橋)<br>[内容] トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明<br>[授業外学修]教科書p60-76を読んで復習と予習をする | ⑯ | [テーマ] 期末試験(小勝)<br>[内容] 授業理解度の確認のため、筆記試験をおこなう<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。試験については、必要に応じ解説をしながら返却する。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | コンディショニング実習 | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー, JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑥ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10 | その他 | 連絡先:第2体育館2階　小勝研究室 |

| 授業科目名 | コンディショニング実習<br>Conditioning Practicum | | | | 担当教員 | 小勝健司・山口貴久・高橋陽介・小田桂吾 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、競技力向上および傷害予防を目的としたコンディショニング指導に必要な知識と技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ、ⅴ |

**授業の一般目標**

アスレティックトレーナーによる実務経験を生かし、その観点からアスレティックトレーナーとして種目別の競技特性を理解し、実際に指導を実践できることを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る知識を習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手、スタッフ、他領域の専門家とコミニュケーションが取れるようにする。 |
| ■ | 技能表現的領域 | アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る技術を習得する。 |

**授業計画（全体）**

各テーマに合わせた内容の実習を行う。各実習終了後、実技テストを行い理解度、到達度の確認を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] サーキットトレーニング<br>[内容] サーキットトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書162～168ページを参照に復習する。 |
| ② | [テーマ]コンディショニング概論<br>[内容] コンディショニングの基礎知識を学ぶ。<br>[授業外学修]配布資料を参照に復習する。 | ⑩ | [テーマ] ストレッチング<br>[内容] ストレッチングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書178～213ページを参照に復習する。 |
| ③ | [テーマ] 代謝系トレーニング<br>[内容] 代謝系トレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]　教科書91～97ページを参照に復習する。 | ⑪ | [テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン<br>[内容] ウォーミングアップとクーリングダウンの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書272～279ページを参照に復習する。 |
| ④ | [テーマ] コーディネーショントレーニング<br>[内容] コーディネーショントレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書119～126ページを参照に復習する。 | ⑫ | [テーマ] フィットネスチェック（基礎体力チェック）<br>[内容] フィットネチェックの基礎知識を学び、フィットネステストの企画、運営、測定が出来るようにする。<br>[授業外学修]教科書280～288ページを参照に復習する。 |
| ⑤ | [テーマ] スタビリティトレーニング<br>[内容] スタビリティトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書127～135ページを参照に復習する。 | ⑬ | [テーマ] フィールドテスト（専門体力テスト）<br>[内容] フィールドテストの基礎知識を学び、フィールドテストの企画、運営、測定が出来るようにする。<br>[授業外学修]教科書289～294ページを参照に復習する。 |
| ⑥ | [テーマ] アジリティトレーニング<br>[内容] アジリティトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書139～147ページを参照に復習する。 | ⑭ | [テーマ] 身体測定<br>[内容] 身体組成測定の基礎知識を学び、身体組成検査の企画、運営、測定が出来るようにする。<br>[授業外学修]教科書295～302ページを参照に復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] スプリントトレーニング<br>[内容] スプリントトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書149～158ページを参照に復習する。 | ⑮ | [テーマ] 実技テスト①<br>[内容] 授業理解度の確認のため上肢の実技試験を行なう<br>[授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |
| ⑧ | [テーマ] エンデュランストレーニング<br>[内容] エンデュランストレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]教科書158～161ページを参照に復習する。 | ⑯ | [テーマ] 実技テスト②<br>[内容] 授業理解度の確認のため下肢の実技試験を行なう<br>[授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |

**成績評価方法（方針）**

評価は実技試験の結果に基づき評価する。試験については授業内で解説しながらフィードバックする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。
・授業計画はオリエンテーション時に連絡する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | コンディショニング論、アスレティックトレーニング論Ⅰ | 関連資格 | ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・<br>・JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑥ | 参考書 | 日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト①～⑤、⑦～⑨ |
| オフィスアワー | 担当：小勝（水曜日12:40～14:10） | その他 | 連絡先：第2体育館2階　小勝研究室 |

| 授業科目名 | スポーツ医学B<br>Sports Medicine B | | | | 担当教員 | 柴原茂樹／橋本　実 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツによって引き起こされる内科的疾患と、生活習慣病の運動療法について取り上げる。 | i |

**授業の一般目標**

スポーツによって引き起こされる内科的疾患とスポーツを安全に行うためのメディカルチェックを理解させる。生活習慣病の運動療法についても知識を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツによって引き起こされる内科的疾患と生活習慣病の運動療法について理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツを安全に行えるようにする。生活習慣病の患者に対して、運動療法を指導できるようにする。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

毎回プリントに沿った内容で講義を進める。講義の後半には、小テストを行って、講義内容が理解できているか確認する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 生活習慣病(1)　メタボリックシンドローム<br>[内容] メタボリックシンドロームについて解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑨ | [テーマ] 生活習慣病(6)　脂質異常症<br>[内容] 脂質異常症について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ② | [テーマ] 生活習慣病(2)　肥満と肥満症<br>[内容] 肥満、肥満症について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑩ | [テーマ] 生活習慣病(7)　糖尿病<br>[内容] 糖尿病について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 運動療法(1)(柴原)<br>[内容] 運動療法とはどのようなものかを解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑪ | [テーマ] 生活習慣病(8)　虚血性心疾患<br>[内容] 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 運動療法(2)(柴原)<br>[内容] どのような疾患が運動療法の適応になるのかを解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑫ | [テーマ] 生活習慣病(9)　ガン<br>[内容] ガン(悪性新生物)について解説した後、その予防法などについて解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 服薬者の運動プログラム(柴原)<br>[内容] 服薬者の運動プログラム作成上の注意について解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑬ | [テーマ] 生活習慣病に対する運動療法プログラム<br>[内容] 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成上の注意について解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 生活習慣病(3)　骨粗鬆症(柴原)<br>[内容] ロコモーティブシンドロームの骨粗鬆症について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑭ | [テーマ] 内科的メディカルチェックと循環器疾患<br>[内容] 突然死を予防するための内科的メディカルチェックとはどのようなものか、運動によって引き起こされる心臓疾患について解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 生活習慣病(4)　関節リウマチと変形性関節症(橋本)<br>[内容] 運動器退行性疾患の関節リウマチと変形性関節症について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑮ | [テーマ] スポーツによって引き起こされる、呼吸器疾患と血液疾患<br>[内容] 運動によって誘発される気管支喘息、過換気症候群や貧血について解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 生活習慣病(5)　高血圧症<br>[内容] 高血圧症について解説した後、その運動療法についても解説する。<br>[授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。 | ⑯ | [テーマ] 試験<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するために、筆記試験を行う。<br>[授業外学修] 授業内容(配布資料)についてよく復習しておくこと。 |

**成績評価方法(方針)**

授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ医学概論、スポーツ医学A | 関連資格 | 健康運動指導士、日本スポーツ協会公認AT、JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 特に指定しない。プリントを使用する。 | 参考書 | 健康運動指導士養成講習会テキスト |
| オフィスアワー | | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ障害の予防と評価<br>Sports Injury Prevention & Evaluation(L) | | | | 担当教員 | 山口貴久・小田桂吾・高橋陽介・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| アスレティックトレーナーの業務として、応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどの場面で必要とされる、適切な評価方法、各種テスト方法について、実務経験を活かしアスレティックトレーナーの観点から理論とともに実技を交えて解説する。 | i 、iii、iv、v |

**授業の一般目標**

応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングにおける評価、検査の意義、基礎知識を理解し、スポーツ傷害の機能評価が実施できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実施した評価の目的やその結果について説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々なスポーツ傷害に対して、傷害評価と機能評価が実施できる。 |

**授業計画(全体)**

スポーツ傷害の概要およびその予防法について身体部位ごとに解説し、またその評価法について実技を交えながら学修する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]教科書⑤p2-19を熟読する | ⑨ | [テーマ] 肩関節外傷<br>[内容] 肩関節のスポーツ外傷とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p56-57を中心に他も熟読する |
| ② | [テーマ] 評価、検査の意義と基礎<br>[内容] 評価、検査の目的、評価、検査に必要な基本能力について解説する<br>[授業外学修]教科書③p130-135を中心に他も熟読する | ⑩ | [テーマ] 肩関節障害<br>[内容] 肩関節のスポーツ傷害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p59-69を中心に他も熟読する |
| ③ | [テーマ] 足部・足関節傷害①<br>[内容] 足部と足関節のスポーツ外傷とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p135-155を中心に他も熟読する | ⑪ | [テーマ] 肘関節傷害<br>[内容] 肘関節のスポーツ障害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p70-84を中心に他も熟読する |
| ④ | [テーマ] 足部・足関節傷害②<br>[内容] 足部と足関節のスポーツ障害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p101-110を中心に他も熟読する | ⑫ | [テーマ] 手関節傷害<br>[内容] 手関節のスポーツ傷害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p6-19を中心に他も熟読する |
| ⑤ | [テーマ] 膝関節傷害①<br>[内容] 膝関節のスポーツ外傷とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p111-118を中心に他も熟読する | ⑬ | [テーマ] 頚部外傷<br>[内容] 頚部のスポーツ傷害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p20-26を中心に他も熟読する |
| ⑥ | [テーマ] 膝関節傷害②<br>[内容] 膝関節スポーツ障害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p119-129を中心に他も熟読する | ⑭ | [テーマ] 腰部傷害<br>[内容] 腰部のスポーツ傷害とその評価について解説する<br>[授業外学修]実技試験に備える |
| ⑦ | [テーマ] 下腿部傷害<br>[内容] 下腿部のスポーツ傷害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p85-98を中心に他も熟読する | ⑮ | [テーマ] 実技試験<br>[内容] スポーツ傷害の評価について実技試験を行う<br>[授業外学修]筆記試験に備える |
| ⑧ | [テーマ] 大腿部傷害<br>[内容] 大腿部のスポーツ傷害とその評価について解説する<br>[授業外学修]教科書③p49-56を中心に他も熟読する | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容] スポーツ傷害の評価について筆記試験を行う<br>[授業外学修]筆記試験の振り返りを実施すること |

**成績評価方法(方針)**

評価は授業への取り組み姿勢、および実技試験の結果に基づき行う。実技試験の解説は問い合わせに対して個別に対応する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 20% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目はアスレティックトレーニング論Ⅱを合わせて履修していることを前提に授業を展開していく
・身体各部が露出でき、かつ動きやすいる服装で臨むこと。
・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | JSPO-AT必修の各科目 | 関連資格 | 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー |
| 教科書 | 日本体育協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト②、③、⑤ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | アスレティックリハビリテーション演習<br>Athletic Rehabiritation Seminar(S.) | | | | 担当教員 | 小田桂吾・山口貴久・高橋陽介・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本科目では、学生によるアスレティックリハビリテーションの立案から指導までのシュミレーション対し、実務経験を活かした演習を行う。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

代表的なスポーツ傷害に対し、各競技の特性に合わせたアスレティックリハビリテーションを立案し指導ができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 立案したアスレティックリハビリテーションメニューの目的が説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 機能評価に基づいたアスレティックリハビリテーションを立案できる。アスレティックリハビリテーションの各種エクササイズを正確に指導ができる。 |

**授業計画(全体)**

実際のスポーツ現場を想定し、与えられた課題(スポーツ傷害のシナリオ)に対して、機能評価からアスレティックリハビリテーションの立案・指導までのシュミレーションを行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]教科書⑦p179-199を中心に他も熟読する | ⑨ | [テーマ] 中間試験<br>[内容] 代表的なスポーツ傷害に対するアスレティックリハビリテーションについて実技試験を行う<br>[授業外学修]教科書⑦p276-351で足関節捻挫に関する所を熟読する |
| ② | [テーマ] 足関節捻挫①<br>[内容] 足関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]教科書⑦p199-211を中心に他も熟読する | ⑩ | [テーマ] 足関節捻挫②<br>[内容] 足関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーションについて特に競技復帰直前に着目して演習を行う<br>[授業外学修]教科書⑦p276-351で膝靭帯損傷に関する所を熟読する |
| ③ | [テーマ] 膝靭帯損傷①<br>[内容] 膝靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]教科書⑦p211-219を中心に他も熟読する | ⑪ | [テーマ] 膝靭帯損傷②<br>[内容] 膝靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーションについて特に競技復帰直前に着目して演習を行う<br>[授業外学修]教科書⑦p276-351で下肢筋腱損傷に関する所を熟読する |
| ④ | [テーマ] 下肢の筋腱損傷<br>[内容] 下肢の筋腱損傷に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]教科書⑦p103-132を中心に他も熟読する | ⑫ | [テーマ] 下肢の筋腱損傷②<br>[内容] 下肢肉ばなれとアキレスけん断裂に対するアスレティックリハビリテーションについて特に競技復帰直前に着目して演習を行う<br>[授業外学修]教科書⑦p276-351で腰部疾患に関する所を熟読する |
| ⑤ | [テーマ] 腰部疾患①<br>[内容] 腰痛症に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]教科書⑦p133-140を中心に他も熟読する | ⑬ | [テーマ] 腰部疾患②<br>[内容] 腰痛症に対するアスレティックリハビリテーションについて特に競技復帰直前に着目して演習を行う<br>[授業外学修]教科書⑦p276-351で肩関節外傷に関する所を熟読する |
| ⑥ | [テーマ] 肩関節外傷①<br>[内容] 肩関節外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]教科書⑦p154-160を中心に他も熟読する | ⑭ | [テーマ] 肩関節外傷②<br>[内容] 肩関節外傷に対するアスレティックリハビリテーションについて特に競技復帰直前に着目して演習を行う<br>[授業外学修]教科書⑦p276-351で投球障害に関する所を熟読する |
| ⑦ | [テーマ] 肘関節外傷<br>[内容] 肘関節外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]教科書⑦p144-178を中心に他も熟読する | ⑮ | [テーマ] 投球障害②<br>[内容] 投球障害に対するアスレティックリハビリテーションについて特に競技復帰直前に着目して演習を行う<br>[授業外学修]期末試験に備える |
| ⑧ | [テーマ] 投球障害①<br>[内容] 投球障害に対するアスレティックリハビリテーションについてシュミレーションを行い、これに対してディスカッションを行う<br>[授業外学修]中間テストに備える | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 代表的なスポーツ傷害に対するアスレティックリハビリテーションについて実技試験を行う<br>[授業外学修]期末試験の振り返りを実施する |

**成績評価方法(方針)**

評価はグループワークへの取り組み姿勢、および実技試験の結果に基づき行う。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 40% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること
・JSPO-AT必修科目をすべて履修していることを想定して授業を展開する
・授業はグループワークを中心とするので積極的な参加を期待する
・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー |
| 教科書 | 日本体育協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト②、③、⑤、⑥、⑦ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 山口:水曜12:40-14:10 | その他 | |

| 授業科目名 | アスレティックリハビリテーション実習<br>Athletic Rehabilitation Practicum（F.E.） | | | | 担当教員 | 小田桂吾・山口貴久・高橋陽介・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| アスレティックトレーナーには基本的なリハビリテーションの知識とともに、対象者がスポーツという高いレベルでの身体活動を行えるようにするための知識が要求される。アスレティックリハビリテーションの指導に際し必要とされる全ての知識と技術の基礎を教員の実技経験を生かしながら，実技を交え解説していく。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

アスレティックトレーナーによる実務経験を生かし、その観点からアスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる知識と技術の習得。また、それらを選手や対象者に指導できるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックリハビリテーションに必要とされる知識を習得する |
| ■ | 情意的領域 | アスレティックリハビリテーション指導時に選手、対象者、他領域の専門家とコミュニケーションがとれる |
| ■ | 技能表現的領域 | 各手法を状況に応じて使い分けることができる |

**授業計画（全体）**

授業テーマに合わせた資料とデモンストレーションを中心に実習を行う。テーマごとに授業内、授業外レポートを提出させることで理解度、到達度の確認を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] 頚椎捻挫に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 頚椎捻挫に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書103～115ページを参照に復習する |
| ② | [テーマ]アスレティックリハビリテーション概論<br>[内容] アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学ぶ<br>[授業外学修]配布資料を参照に復習する | ⑩ | [テーマ] 肩関節脱臼に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 肩関節脱臼に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書133～153ページを参照に復習する |
| ③ | [テーマ] 足関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 足関節捻挫に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書179～187ページを参照に復習する | ⑪ | [テーマ] 外傷性肘関節疾患に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 主に肘関節損傷に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書154～171ページを参照に復習する |
| ④ | [テーマ] 膝関節内側側副靱帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 膝関節靱帯損傷に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書188～199ページを参照に復習する。 | ⑫ | [テーマ] 投球障害に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 投球障害肩、肘に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書144～153ページを参照に復習する |
| ⑤ | [テーマ] 膝関節前十字靱帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 膝関節前十字靱帯損傷に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書200～211ページを参照に復習する。 | ⑬ | [テーマ] 手関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 手関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書172～178ページを参照に復習する |
| ⑥ | [テーマ] 大腿部肉ばなれに対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 大腿部肉ばなれに対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書212～219ページを参照に復習する。 | ⑭ | [テーマ] 頭部外傷、脳震盪に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 頭部外傷受傷後のアスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]配布資料を参照に復習する |
| ⑦ | [テーマ] 下肢オーバーユース症候群に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 下肢オーバーユース症候群に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書220～254ページを参照に復習する | ⑮ | [テーマ] 実技テスト①<br>[内容] 授業理解度の確認のため上肢の実技試験を行なう<br>[授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |
| ⑧ | [テーマ] 腰部疾患に対するアスレティックリハビリテーション<br>[内容] 腰部疾患に対する評価、アスレティックリハビリテーションの流れを理解する<br>[授業外学修]教科書117～132ページを参照に復習する | ⑯ | [テーマ] 実技テスト②<br>[内容] 授業理解度の確認のため下肢の実技試験を行なう<br>[授業外学修]テストに備え全範囲を復習する |

**成績評価方法（方針）**

評価は実技試験（評価割合50%）、演習・実技（評価割合50%）、授業態度（評価割合減点あり）に基づき行う。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。試験については授業内で解説しながらフィードバックする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は評価対象外とする（欠格条件）
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある
・授業には運動のできる服装で臨むこと

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | アスレティックリハビリテーション論・演習、スポーツ傷害の予防と評価、コンディショニング論・実習 | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト⑦ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 担当：小田（水曜日：12:40-14:10） | その他 | 連絡先：kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅰ<br>Athletic Trainer Internship Ⅰ (F.E.) | | | | 担当教員 | 髙橋陽介・小田桂吾・山口貴久・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、アスレティックトレーナーの実務経験を生かし、現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

アスレティックトレーナーの業務内容を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックトレーナーの業務内容を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手、スタッフとのコミュニケーションがとれる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

・公認アスレティックトレーナーの下で見学実習を行う。各テーマに合わせた内容の実習を行なう。テーマによっては授業外レポートを提出させることで理解度、到達度の確認を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] アスレティックトレーニング関連施設におけるスタッフの役割について②<br>[内容] 関連施設のスタッフの役割について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ② | [テーマ]アスレティックトレーニング関連施設のスケジュール管理①<br>[内容] 関連施設のスケジュール管理、運営について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑩ | [テーマ] アスレティックトレーニング関連施設におけるスタッフの役割について③<br>[内容] 関連施設のスタッフの役割について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ③ | [テーマ]アスレティックトレーニング関連施設のスケジュール管理②<br>[内容] 関連施設のスケジュール管理、運営について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑪ | [テーマ] 屋内スポーツにおけるトレーナー活動①<br>[内容] 屋内スポーツにおけるアスレティックトレーナーの業務内容について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ④ | [テーマ]アスレティックトレーニング関連施設のスケジュール管理③<br>[内容] 関連施設のスケジュール管理、運営について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑫ | [テーマ] 屋内スポーツにおけるトレーナー活動②<br>[内容] 屋内スポーツにおけるアスレティックトレーナーの業務内容について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ⑤ | [テーマ] アスレティックトレーニング関連施設の備品管理①<br>[内容] 関連施設の備品について使用方法、管理方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑬ | [テーマ] 屋内スポーツにおけるトレーナー活動③<br>[内容] 屋内スポーツにおけるアスレティックトレーナーの業務内容について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ⑥ | [テーマ] アスレティックトレーニング関連施設の備品管理②<br>[内容] 関連施設の備品について使用方法、管理方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑭ | [テーマ] 屋外スポーツにおけるトレーナー活動①<br>[内容] 屋外スポーツにおけるアスレティックトレーナーの業務内容について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ⑦ | [テーマ] アスレティックトレーニング関連施設の備品管理③<br>[内容] 関連施設の備品について使用方法、管理方法について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑮ | [テーマ] 屋外スポーツにおけるトレーナー活動②<br>[内容] 屋外スポーツにおけるアスレティックトレーナーの業務内容について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |
| ⑧ | [テーマ] アスレティックトレーニング関連施設におけるスタッフの役割について①<br>[内容] 関連施設のスタッフの役割について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する | ⑯ | [テーマ] 屋外スポーツにおけるトレーナー活動③<br>[内容] 屋外スポーツにおけるアスレティックトレーナーの業務内容について学ぶ。<br>[授業外学修] 専門テキスト①を熟読して復習する |

**成績評価方法(方針)**

評価は、レポート(評価割合20%)、実技の実施状況(評価割合80%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内で解説をしながらフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | アスレティックリハビリテーション論・実習・演習 | 関連資格 | |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト①～⑨ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 担当:小田(水曜日12:40～14:10) | その他 | kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅱ<br>Athletic Trainer Internship Ⅱ(F.E.) | | | | 担当教員 | 髙橋陽介・小田桂吾・山口貴久・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、アスレティックトレーナーの実務経験を生かし、現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、アスレティックトレーナーの実務経験を生かし、その観点から現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックトレーナーに必要とされる検査、測定、評価に関する知識を習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手、スタッフとのコミュニケーションがとれる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 検査方法、測定方法、評価方法を状況に応じて使い分けることができる。 |

**授業計画(全体)**

本学運動クラブのメディカルチェック等を通じて検査，測定を行い，アスレティックトレーナーに必要とされる評価能力を習得する。
各テーマに合わせた内容の実習を行なう。テーマによっては授業外レポートを提出させることで理解度、到達度の確認を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読 | ⑨ | [テーマ] 測定評価の解釈、活用能力①<br>[内容] 測定評価から得られた結果から問題点の抽出し、フィードバックシートを作成することが出来るよう実践力を身につける。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ② | [テーマ]評価に必要な基本能力①<br>[内容] 上肢の関節可動域測定の基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑩ | [テーマ] 測定評価の解釈、活用能力②<br>[内容] 測定評価から得られた結果から問題点の抽出し、フィードバックシートを作成することが出来るよう実践力を身につける。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ③ | [テーマ]評価に必要な基本能力②<br>[内容] 下肢の関節可動域測定の基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑪ | [テーマ] 測定評価の解釈、活用能力③<br>[内容] 測定評価から得られた結果から問題点の抽出し、フィードバックシートを作成することが出来るよう実践力を身につける。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ④ | [テーマ]評価に必要な基本能力③<br>[内容] 体幹の関節可動域測定の基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑫ | [テーマ] プレゼンテーションスキルとコミュニケーション能力<br>[内容] 測定評価した結果をまとめ、選手やチームにフィードバックするコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ⑤ | [テーマ]評価に必要な基本能力④<br>[内容] 上肢の筋力測定の基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑬ | [テーマ] プレゼンテーションスキルとコミュニケーション能力<br>[内容] 測定評価した結果をまとめ、選手やチームにフィードバックするコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ⑥ | [テーマ]評価に必要な基本能力⑤<br>[内容] 下肢の筋力測定の基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑭ | [テーマ] メディカルチェック企画・運営①<br>[内容] 本学運動クラブの競技特性に合わせた評価項目を立案し、メディカルチェックを企画・運営・フィードバックまで行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ⑦ | [テーマ]評価に必要な基本能力⑥<br>[内容] 体幹の筋力測定の基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑮ | [テーマ] メディカルチェック企画・運営②<br>[内容] 本学運動クラブの競技特性に合わせた評価項目を立案し、メディカルチェックを企画・運営・フィードバックまで行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |
| ⑧ | [テーマ]評価に必要な基本能力⑦<br>[内容] フィールドテストの基礎知識を学び、実践できるよう実技を行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 | ⑯ | [テーマ] メディカルチェック企画・運営③<br>[内容] 本学運動クラブの競技特性に合わせた評価項目を立案し、メディカルチェックを企画・運営・フィードバックまで行う。<br>[授業外学修]専門テキスト⑤を熟読して復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、レポート(評価割合20%)、実技の実施状況(評価割合80%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内で解説しながらフィードバックする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | コンディショニング論・実習、スポーツ傷害の予防と評価 | 関連資格 | |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト①～⑨ | 参考書 | 運動器の徒手検査法(文光堂) |
| オフィスアワー | 担当:小田(水曜日12:40～14:10) | その他 | kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅲ<br>Athletic Trainer Internship Ⅲ(F.E.) | | | | 担当教員 | 山口貴久・小田桂吾・高橋陽介・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

アスレティックトレーナー(AT)の実務経験を活かし、ATの観点からアスレティックリハビリテーションのプログラム作成方法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックリハビリテーションプログラム作成に必要とされる知識を習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手、スタッフとのコミュニケーションがとれる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | アスレティックリハビリテーションプログラム作成に必要とされる技術を習得する。 |

**授業計画(全体)**

各テーマに合わせた内容の実習、レポート作成を行い、理解度、到達度の確認を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読する。 | ⑨ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションで用いる手法②<br>[内容] アスレティックリハビリテーションで用いる運動療法について学び、実技を学ぶ。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ② | [テーマ]機能評価の考え方①<br>[内容] 上肢の機能評価について学び、実践できるように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑩ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションで用いる手法③<br>[内容] アスレティックリハビリテーションで用いる運動療法について学び、実技を学ぶ。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ③ | [テーマ]機能評価の考え方①<br>[内容] 下肢の機能評価について学び、実践できるように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑪ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションで用いる手法④<br>[内容] アスレティックリハビリテーションで用いる運動療法について学び、実技を学ぶ。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ④ | [テーマ]機能評価の考え方①<br>[内容] 頚部、体幹の機能評価について学び、実践できるように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑫ | [テーマ] プログラム作成①<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを実際に作成する<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑤ | [テーマ]リスク管理①<br>[内容] 上肢のリハビリテーションプログラムを作成する際のリスク管理を学び、プログラムを作成する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑬ | [テーマ] プログラム作成②<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを実際に作成する<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑥ | [テーマ]リスク管理②<br>[内容] 下肢のリハビリテーションプログラムを作成する際のリスク管理を学び、プログラムを作成する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑭ | [テーマ] プログラム作成③<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを実際に作成する<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑦ | [テーマ]リスク管理③<br>[内容] 頚部、体幹のリハビリテーションプログラムを作成する際のリスク管理を学び、プログラムを作成する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑮ | [テーマ] プログラム作成④<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを実際に作成する<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑧ | [テーマ] アスレティックリハビリテーションで用いる手法①<br>[内容] アスレティックリハビリテーションで用いる運動療法について学び、実技を学ぶ。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑯ | [テーマ] プログラム作成⑤<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを実際に作成する<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、レポート(評価割合20%)、実技の実施状況(評価割合80%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内で解説しながらフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | アスレティックリハビリテーション論・実習・演習、コンディショニング論・実習 | 関連資格 | |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト①～⑨ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階　水曜日　12時40分～14時10分 | その他 | kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅳ<br>Athletic Trainer Internship Ⅳ(F.E.) | | | | 担当教員 | 山口貴久・小田桂吾・高橋陽介・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

アスレティックトレーナー(AT)現場での実務経験を活かし、ATの観点からアスレティックリハビリテーションのプログラム指導方法を習得する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックリハビリテーションプログラム指導に必要とされる知識を習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手、スタッフとのコミュニケーションがとれる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | アスレティックリハビリテーションプログラム指導に必要とされる技術を習得する。 |

**授業計画(全体)**

アスレティックリハビリテーションで行うプログラムを実際に指導するための知識，技術を習得する。各テーマに合わせた内容の実習、レポート作成を行ない、理解度、到達度の確認を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読する。 | ⑨ | [テーマ]プログラム指導⑧<br>[内容]スピードトレーニングの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ② | [テーマ]プログラム指導①<br>[内容] 筋力回復エクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑩ | [テーマ]プログラム指導⑨<br>[内容]敏捷性の指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ③ | [テーマ]プログラム指導②<br>[内容]関節可動域改善エクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑪ | [テーマ]プログラム指導⑩<br>[内容]再発予防トレーニングの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ④ | [テーマ]プログラム指導③<br>[内容]関節可動域改善エクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑫ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション指導①<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを指導実践する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑤ | [テーマ]プログラム指導④<br>[内容]神経筋協調性エクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑬ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション指導②<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを指導実践する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑥ | [テーマ]プログラム指導⑤<br>[内容]コーディネーションエクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑭ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション指導③<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを指導実践する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑦ | [テーマ]プログラム指導⑥<br>[内容]全身持久力改善エクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑮ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション指導④<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを指導実践する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑧ | [テーマ]プログラム指導⑦<br>[内容]身体組成管理エクササイズの指導実践が出来るように実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑯ | [テーマ] アスレティックリハビリテーション指導⑤<br>[内容] 設定された選手のリハビリテーションプログラムを指導実践する。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、レポート(評価割合20%)、実技の実施状況(評価割合80%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内で解説しながらフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト①～⑨ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 担当:小田(水曜日12:40～14:10) | その他 | kg-oda@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅴ<br>Athletic Trainer Internship Ⅴ(F.E.) | | | | 担当教員 | 小勝健司・山口貴久・高橋陽介・小田桂吾 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー(AT)の業務全般を理解し，実際に業務を行い、ATによる実務経験を活かし、ATの観点からATに必要な知識、技術を状況に応じて使い分けることができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ現場においてアスレティックトレーナーに必要とされる知識を習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手および他領域の専門家とコミュニケーションがとれる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 習得した技術を状況に応じて使い分けることができる。 |

**授業計画(全体)**

アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場で必要とされる対応について、各テーマに合わせた内容の実習を行う。テーマによっては授業外レポートを提出させることで理解度、到達度の確認を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読する。 | ⑨ | [テーマ] スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務について ③<br>[内容] トレーナー活動における緊急時対応のプランニング、実際の対応について学び実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ② | [テーマ]他職種との連携について①<br>[内容] 医師や他のメディカルスタッフとの連携、役割分担について設定された条件でシュミレーションを行い、実際の現場でも実践できるようにする。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑩ | [テーマ] 現場実習①<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内のスポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ③ | [テーマ]他職種との連携について②<br>[内容] 医師や他のメディカルスタッフとの連携、役割分担について設定された条件でシュミレーションを行い、実際の現場でも実践できるようにする。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑪ | [テーマ] 現場実習②<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内スポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ④ | [テーマ] スポーツ現場における救急対応について①<br>[内容] スポーツ現場で実施する応急処置，評価方法等について学び、実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑫ | [テーマ] 現場実習③<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内スポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑤ | [テーマ] スポーツ現場における救急対応について②<br>[内容] スポーツ現場で実施する応急処置，評価方法等について学び、実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑬ | [テーマ] 現場実習④<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内スポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑥ | [テーマ] スポーツ現場における救急対応について③<br>[内容] スポーツ現場で実施する応急処置，評価方法等について学び、実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑭ | [テーマ] 現場実習⑤<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内スポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務について ①<br>[内容] トレーナー活動における企画、運営、管理等を学び、実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑮ | [テーマ] 現場実習⑥<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内スポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |
| ⑧ | [テーマ] スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務について ②<br>[内容] トレーナー活動における企画、運営、管理等を学び、実技を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 | ⑯ | [テーマ] 現場実習⑦<br>[内容] 公認アスレティックトレーナーのもと、学内スポーツ現場におけるトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料を参考に復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、レポート(評価割合20%)、実技の実施状況(評価割合80%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内でフィードバックを行いながら解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | アスレティックリハビリテーション実習・演習、コンディショニング実習、スポーツ傷害の予防と評価 | 関連資格 | JPSUスポーツトレーナー |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト①～⑨ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 担当:小勝(水曜日12:40～14:10) | その他 | 連絡先:第2体育館2階　小勝研究室 |

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅵ<br>Athletic Trainer Internship Ⅵ(F.E.) | | | | 担当教員 | 小勝健司・山口貴久・高橋陽介・小田桂吾 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、現場実習を通じて、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術の向上を図る。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に向けてアスレティックトレーナー(AT)による実務経験を活かし、ATの観点から実習を行い、ATに必要な知識，技術を習得する.

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックトレーナーの業務全般に必要とされる知識を習得する。 |
| ■ | 情意的領域 | 選手、スタッフおよび他領域の専門家と円滑なコミュニケーションがとれる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | アスレティックトレーナーの業務全般に必要とされる技術を習得する。 |

**授業計画(全体)**

各テーマに合わせた内容の実習を行なう。テーマによっては授業外レポートを提出させることで理解度、到達度の確認を行なう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明<br>[授業外学修]シラバスの熟読する。 | ⑨ | [テーマ] 総合実習⑧<br>[内容] 学内の部活動に帯同しトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ② | [テーマ] 総合実習①<br>[内容] メディカルチェックの企画、運営、フィードバックまで実践する。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑩ | [テーマ] 総合実習⑨<br>[内容] 学内の部活動に帯同しトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ③ | [テーマ] 総合実習②<br>[内容] メディカルチェックの企画、運営、フィードバックまで実践する。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑪ | [テーマ] 総合実習⑩<br>[内容] 学内の部活動の遠征に帯同しトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ④ | [テーマ] 総合実習③<br>[内容] フィールドテストの企画、運営、フィードバックまで実践する。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑫ | [テーマ] 総合実習⑪<br>[内容] 学内の部活動の遠征に帯同しトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ⑤ | [テーマ] 総合実習④<br>[内容] フィールドテストの企画、運営、フィードバックまで実践する。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑬ | [テーマ] 総合実習⑫<br>[内容] 学内の部活動の遠征に帯同しトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ⑥ | [テーマ] 総合実習⑤<br>[内容] トレーナーブース活動の企画、運営、フィードバックまで実践する。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑭ | [テーマ] 実技テスト①<br>[内容] 今まで行ったトレーナー現場実習を踏まえ、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー検定試験と同様の実技試験を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 総合実習⑥<br>[内容] トレーナーブース活動の企画、運営、フィードバックまで実践する。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑮ | [テーマ] 実技テスト②<br>[内容] 今まで行ったトレーナー現場実習を踏まえ、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー検定試験と同様の実技試験を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |
| ⑧ | [テーマ] 総合実習⑦<br>[内容] 学内の部活動に帯同しトレーナー活動を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 | ⑯ | [テーマ] 実技テスト③<br>[内容] 今まで行ったトレーナー現場実習を踏まえ、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー検定試験と同様の実技試験を行う。<br>[授業外学修]配布資料およびテキストを参考に復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

評価は、レポート(評価割合20%)、実技の実施状況(評価割合80%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。試験については授業内で解説しながらフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | | | 20% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降、講義の出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | アスレティックリハビリテーション実習・演習、コンディショニング実習・、スポーツ傷害の予防と評価・アスレティックトレーニング演習 | 関連資格 | |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー<br>専門科目テキスト①～⑨ | 参考書 | 運動器の徒手検査法(文光堂) |
| オフィスアワー | 担当:小勝(水曜日12:40～14:10) | その他 | 連絡先:第2体育館2階　小勝研究室 |

# ≪スポーツマネジメントコース≫

| 授業科目名 | スポーツマネジメント概論<br>Introduction to Sports Management(L) | | | | 担当教員 | 永田秀隆／弓田恵里香／馬佳濛／井上望 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | コース必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について概説する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を説明し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった様々な視点から理解を深める。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅴ

**授業の一般目標**

スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について理解する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を理解し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業といった様々な視点から考察できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツマネジメントを構成する諸領域を知り、それぞれの現状や課題について説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本授業は、スポーツマネジメント・コース教員によるオムニバス形式で開講する。担当者がそれぞれ授業を担当する。スポーツマネジメントの基礎となる理論について学習することを主とし、具体的には生涯スポーツ、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった分野について取り上げる。基本的な内容を幅広く理解することを念頭に置き、各教員が授業を展開していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション（馬）<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法について説明する。生涯スポーツの意義について概説する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] スポーツクラブのマネジメント（弓田）<br>[内容] クラブビジネス、組織のマネジメントについて解説し、現状や課題について考える。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること |
| ② | [テーマ] ヘルスプロモーション（馬）<br>[内容] ヘルスプロモーションの考え方と、それを基本戦略とした健康増進施策について学ぶ。現場における健康づくりの実践例を紹介する。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑩ | [テーマ] スポーツファンのマネジメント（弓田）<br>[内容] 地域密着の必要性やマーケティングとの関連性について理解し、日本におけるファンマネジメントの課題について考える。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること |
| ③ | [テーマ]身体活動・運動（馬）<br>[内容] 身体活動・運動の身体的、心理的、社会的および環境的効果を解説する。健康支援について考える。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑪ | [テーマ] スポーツリーグのマネジメント（弓田）<br>[内容] リーグの類型や役割について概説し、ガバナンスの重要性と課題について考える。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること |
| ④ | [テーマ]野外教育・レクリエーションの重要性（井上）<br>[内容] 野外教育やレクリエーションなどの言葉の定義について解説する。野外教育・自然体験活動の事例紹介も行う。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑫ | [テーマ] スポーツマネジメントの概説（永田）<br>[内容] スポーツマネジメントについて、学問や立場によって捉え方が一様でないことを前11回の講義も含め理解する。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること |
| ⑤ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際①プログラム編（井上）<br>[内容] 野外・レク事業のプログラムについて学ぶ。事業の評価の視点や企画の際に必要なプログラムデザインについて解説する。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑬ | [テーマ] スポーツ事業論①　（永田）<br>[内容] スポーツ経営の仕組みとスポーツ事業論（A.S.　P.S.　C.S.）について解説する。<br>[授業外学修]スポーツ事業とは何か、調べておく |
| ⑥ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際②マネジメント編（井上）<br>[内容]野外・レク事業のマネジメントについて学ぶ。事業の事前準備に必要なマネジメントをあげ、それぞれの必要性を解説する。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑭ | [テーマ] スポーツ事業論②　（永田）<br>[内容] スポーツ事業論（A.S.　P.S.　C.S.）を用い、事例により運動生活の現状を理解する。<br>[授業外学修]自身の児童・生徒時代のスポーツとの関わりを考えておく |
| ⑦ | [テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際③まとめ（井上）<br>[内容] 野外・レク事業の運営方法について学ぶ。事前、事中、事後のマネジメントについて整理し、事業運営に必要な知識を身につける。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑮ | [テーマ] スポーツ事業論③及びまとめ（永田）<br>[内容] 前2回で学んだスポーツ事業論（学校を基盤とした理解）が、学校以外の領域においてどのように応用できるか考える。<br>[授業外学修]学校以外の領域でのスポーツ経営の仕組みについて考えておく |
| ⑧ | [テーマ] クラブ系のマネジメント　導入（弓田）<br>[内容]スポーツマネジメントの発展経緯、スポーツ現場で求められるマネジメントを3つのレベルに分けて紹介する。<br>[授業外学修]学習内容を復習すること | ⑯ | [テーマ] レポート<br>[内容] レポートの振り返り<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

馬（授業内レポート25%）、　（授業内レポート25%）、弓田（授業内レポート25%）、永田（授業内レポート25%）
授業内レポートは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 100% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点アリ |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本授業はスポマネ・コースの必修科目であり、コース所属教員によりオムニバス形式で実施するため全ての授業を受講してほしい。4名の教員が担当するが1名の担当回数中半分以上休むことがないようにすること。
・全体で2/3以上の出席がない学生も単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・予習・復習をしっかりとすること。
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツマネジメント実習、スポーツマーケティング論、野外教育・活動論、スポーツマネジメント演習、など | 関連資格 | |
| 教科書 | 柳沢和雄他「テキスト体育・スポーツ経営学」<br>大修館書店（永田担当分） | 参考書 | 授業時に各教員から紹介する（永田以外） |
| オフィスアワー | 馬（火4）、弓田（火4）、永田（火2） | その他 | 永田（hd-nagata@sendai-u.ac.jp） |

| 授業科目名 | スポーツマーケティング論<br>Sport Marketing(L) | | | | 担当教員 | 弓田恵里香/マーティ・キーナート |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | プロスポーツチーム経営の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| スポーツの特性やスポーツ消費者の性質を理解した上で、スポーツマーケティング理論や戦略について学ぶ。身近なケースと照らし合わせながらより理解を深められるよう、授業内外での作業を行う。また、プロスポーツチーム経験の実務経験を活かし国内外のスポーツマーケティング事例も紹介していく。 | i 、iv、v |

**授業の一般目標**

スポーツマーケティングの基本、特性、戦略を理解することで、より顧客志向な考え方ができるようになる。また、身近なスポーツ現場を取り上げ実際に作業することで、幅広く、また柔軟な思考が身につく。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツマーケティングの基本、特性、戦略について説明でき、顧客志向でスポーツプロダクトやサービスについて考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 身近なスポーツ事業において顧客志向で取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | SWOT分析やマーケティング・ミックスなど、さまざまな手法を場面に応じて活用できる。 |

**授業計画(全体)**

第1回～第12回までは弓田が担当し、スポーツマーケティングの理論について幅広く概説する。第13回～第15回はキーナートが担当し、海外を中心としたスポーツマーケティングの事例を中心に解説する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(弓田)<br>[内容] 担当教員、授業の目標と進め方、成績評価方法などについて説明し、顧客志向について導入部分を概説する。<br>[授業外学修] 顧客と販売志向の違いについて理解を深める。 | ⑨ | [テーマ] ブランディング(弓田)<br>[内容] スポーツプロダクトやサービスのブランディングについて理解を深める。<br>[授業外学修]身近な事例を用いてどうブランディングできるか考える。 |
| ② | [テーマ] スポーツマーケティングとは(弓田)<br>[内容] 一般的なマーケティングの定義を踏まえ、スポーツマーケティングについて説明する。また、重要な3つのポイントを示す。<br>[授業外学修]マーケティングに重要な点についてまとめる。 | ⑩ | [テーマ] スポーツ消費者行動(弓田)<br>[内容] スポーツ消費者のニーズ把握から購買に至るまで、その後のサイクルについて概説する。<br>[授業外学修]身近な事例を用いて消費者行動について理解を深める。 |
| ③ | [テーマ] スポーツプロダクトとは(弓田)<br>[内容] スポーツマーケティングが対象とするプロダクトやサービスについて説明する。<br>[授業外学修]身近なスポーツプロダクトの性質について理解を深める。 | ⑪ | [テーマ] ソーシャルメディアマーケティング(弓田)<br>[内容] 近年重要度を増しているソーシャルメディアとスポーツマーケティングの関係性について説明する。<br>[授業外学修] SNSの効果的な利用方法について考えをまとめる。 |
| ④ | [テーマ] スポーツ消費者とは(弓田)<br>[内容] スポーツマーケティングで対象とするスポーツ消費者について理解を深める。<br>[授業外学修]スポーツ消費者と一般消費者の違いについてまとめる。 | ⑫ | [テーマ] 中間テスト(弓田)<br>[内容] ①～⑪までの内容について、授業内にテストを実施する。<br>[授業外学修] スポーツマーケティングとは、が説明できること。 |
| ⑤ | [テーマ] STP戦略(弓田)<br>[内容] 集めた情報をもとに実施するセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて説明する。<br>[授業外学修]なぜターゲティングが重要か考えをまとめる。 | ⑬ | [テーマ] スポーツマーケティングの実際①(キーナート)<br>[内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(野球)。<br>[授業外学修]授業内で紹介した野球の事例について考えをまとめる。 |
| ⑥ | [テーマ] 環境分析(弓田)<br>[内容] マーケティング・プランでまず必要となる情報収集で、基本となる環境分析について学ぶ。<br>[授業外学修]身近な事例を用いてSWOT分析を行う。 | ⑭ | [テーマ] スポーツマーケティングの実際②(キーナート)<br>[内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(サッカー、バスケットボール)。<br>[授業外学修]授業内で紹介したサッカーなどの事例について理解をする。 |
| ⑦ | [テーマ] マーケティング・プラン(弓田)<br>[内容] マーケティングで基本となるマーケティング・プラン(ステップ)について概説する。<br>[授業外学修]実際にマーケティング・プランを立てる。 | ⑮ | [テーマ] スポーツマーケティングの実際③(キーナート)<br>[内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(海外のスポーツ)。<br>[授業外学修]授業内で紹介したことを踏まえ日米比較を行う。 |
| ⑧ | [テーマ] マーケティング・ミックス(弓田)<br>[内容] マーケティングをしていく中で必要となる4Pについて理解し、身近な例を使って作業を行う。<br>[授業外学修]実際にマーケティング・ミックスを用いて立案する。 | ⑯ | [テーマ] 授業外レポート(各教員)<br>[内容] 各教員が課したテーマについて授業外レポートに取り組む。<br>[授業外学修]根拠を示すためにも資料を用いて作成にあたること。 |

**成績評価方法(方針)**

弓田が80%、キーナートが20%評価する。評価方法は各担当によって異なるが、主に授業内レポート、授業内テストで総合的に評価する。出席は評価割合に加えない。詳細についてはオリエンテーション及び各担当者より授業時に説明がある。なお、提出された授業内レポートは授業で解説をしながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 100% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと
・授業計画は、授業の進行状況により変更することがある
講義途中でも質問があれば積極的に発言し、講義内容のみならず参考書等を用いて各自予習・復習をすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論など | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | 原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編著(2018)<br>『スポーツマーケティング』大修館書店 |
| オフィスアワー | 弓田(火4)、キーナート(月4) | その他 | 弓田連絡先:er-yumita@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツ産業論<br>Sports Industry(L) | | | | 担当教員 | 弓田恵里香/マーティ・キーナート |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | プロスポーツチーム経営の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| まず、スポーツが我々の生活でどのような位置づけであり、どのような役割を持つかという基本的概念を復習する。その上で、「体育」とは異なる「ビジネス」としてのスポーツの捉え方を学んでいく。国内の市場規模やスポーツ産業の各領域について理解を深め、それらに関連する概念、理論を紹介していく。また、後半では海外のスポーツビジネスと比較しながら日本の現状や可能性について考察していく。 | i 、iv、v |

**授業の一般目標**

スポーツ産業における各領域の特色を理解する。また、それら領域を多面的に捉えるために必要となるデータや概念を説明できるようになる。さらに、国内外の事例と照らし合わせながら学習することで、実際にスポーツ産業界で起こっている現象を分析し、思考する能力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ産業の概要、各領域が説明でき、国内外の事情の相違点についても考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツの「体育」ではなく、「産業(ビジネス)」としての側面に関心が高まる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

第1回～第10回までは弓田が担当し、日本のスポーツ産業について幅広く概説する。第11回～第15回はキーナートが担当し、米国のスポーツ産業を中心に解説する。キーナートはプロスポーツチーム経営の実務経験も踏まえて講義を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(弓田)<br>[内容] 担当教員、授業の目標と進め方、成績評価方法などについて説明する。スポーツ産業におけるスポーツの捉え方を紹介する。<br>[授業外学修] スポーツビジネスに含まれる事象について理解を深めること。 | ⑨ | [テーマ] スポーツイベント産業(弓田)<br>[内容] 参加型や観戦型のスポーツイベントの種類やそれらがもたらすインパクトについて理解を深めていく<br>[授業外学修]イベントがもたらす功罪について考えをまとめること。 |
| ② | [テーマ]日本のスポーツ産業の現状(弓田)<br>[内容] 他主要産業と比較しどの程度の規模なのか、どのような領域から成り立っているのか、その全体像について紹介する。<br>[授業外学修]伝統的3領域について説明できるようになること。 | ⑩ | [テーマ] 中間テスト(弓田)<br>[内容] 第1回～9回までの授業内容について学習到達度の確認を行う。<br>[授業外学修]十分に理解できていなかった箇所について復習すること。 |
| ③ | [テーマ] スポーツ用品産業(弓田)<br>[内容] 日本のスポーツ産業を支えるスポーツ用品の現状とその発展について説明する。<br>[授業外学修]品質と価格戦略の違いについて理解を深めること。 | ⑪ | [テーマ]米国のスポーツ事情①(キーナート)<br>[内容] 米国のプロスポーツについて解説する。<br>[授業外学修]関心あるチームや競技について調べる。 |
| ④ | [テーマ] スポーツ施設空間産業(弓田)<br>[内容] する・見るスポーツ現場には欠かせないスポーツ施設とそのビジネス化について説明する。<br>[授業外学修]ネーミングライツなど施設特有ビジネスについて理解すること。 | ⑫ | [テーマ] 米国のスポーツ事情②(キーナート)<br>[内容] 米国のプロスポーツについて解説する。<br>[授業外学修]講義を踏まえ、日本での事例について考える。 |
| ⑤ | [テーマ] スポーツサービス産業①(弓田)<br>[内容] 「見る」スポーツにおけるサービスの仕組みを概説し、ファンビジネスにまつわる特性について紹介する。<br>[授業外学修]ファンビジネスの特有の課題を捉えられるようになること。 | ⑬ | [テーマ]米国のスポーツ事情③(キーナート)<br>[内容] 米国のプロスポーツについて解説する。<br>[授業外学修]講義を踏まえ、日米の違いについて考えをまとめる。 |
| ⑥ | [テーマ] スポーツサービス産業②(弓田)<br>[内容] 「する」スポーツにおけるサービスに着目し、スクールやフィットネス、スポーツクラブについて解説する。<br>[授業外学修]クラブ事業におけるホスピタリティについて検討してみること。 | ⑭ | [テーマ] 米国のスポーツ事情④(キーナート)<br>[内容] 米国のプロスポーツについて解説する。<br>[授業外学修]講義を踏まえ、日米の類似点をまとめる。 |
| ⑦ | [テーマ] 複合産業としてのスポーツツーリズム(弓田)<br>[内容] 新たな成長産業のひとつとして期待されるスポーツツーリズムの可能性や課題について解説する。<br>[授業外学修]スポーツツーリズムと関連ある産業について認識すること。 | ⑮ | [テーマ] 米国のスポーツ事情⑤(キーナート)<br>[内容] 米国のプロスポーツについて解説する。<br>[授業外学修]講義を踏まえ、日本でも実践可能な点について考える。 |
| ⑧ | [テーマ] スポーツITおよびメディア産業(弓田)<br>[内容]。魅力的なメディアコンテンツとなるスポーツについて理解を深め、進むIT化や多様なメディアについても触れていく。<br>[授業外学修]スポーツとITやメディアの相性について考えをまとめること。 | ⑯ | [テーマ] 授業外レポート(各教員)<br>[内容] 各教員が課したテーマについて授業外レポートに取り組む。<br>[授業外学修]根拠を示すためにも資料を用いて作成にあたること。 |

**成績評価方法(方針)**

弓田が65%、キーナートが35%分評価する。各担当によって評価方法は異なるが、主に授業内レポート、授業内テストなどで総合的に評価する。出席は評価割合に加えない。詳細についてはオリエンテーション及び各担当者より授業時に説明がある。提出された授業内レポートは授業で解説をしながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 100% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと
・授業計画は、授業の進行状況により変更することがある
・講義途中でも質問があれば積極的に発言し、講義内容のみならず参考書等を用いて各自予習・復習をすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論、スポーツマーケティング論など | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | 原田宗彦編著(2011)『スポーツ産業論第5版』杏林書院 |
| オフィスアワー | 弓田(火4)、キーナート(月4) | その他 | 弓田連絡先:er-yumita@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 地域スポーツ戦略論<br>Sport in Community(L) | | | | 担当教員 | 永田秀隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本講義では、スポーツイベント開催を通じた地域活性化やスポーツを通じたまちづくり等についての事例を紹介しながら、スポーツが地域に果たす役割について解説する。 | i、ii、v |

**授業の一般目標**

地域スポーツの現状と課題について学び、地域スポーツの意義について理解できるようになる。また、地域の活性化やまちづくりを念頭においたスポーツイベントやスポーツ活動を企画する力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 地域の現状や地域活性化の方法、および地域スポーツの意義や課題について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 地域と地域スポーツに興味・関心をもち、積極的にスポーツイベント等に参加できるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 地域活性化やまちづくりを視野にスポーツイベントやスポーツ活動を企画できるようになる。 |

**授業計画(全体)**

資料を用いた講義を中心とする。前半は、スポーツイベントとしてのオリンピック競技大会を対象に、さまざまな視点から地域スポーツについて考える機会とする。後半、地域活性化やまちづくりをねらいとしたスポーツイベントやスポーツ活動の企画に向けて各テーマについて解説する。授業内課題に個人またはグループで取り組むことによって、理解を深める。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 地域スポーツとは<br>[内容] 本授業で取り扱う地域スポーツの射程について解説するとともに、授業計画、成績評価方法等について説明する。<br>[授業外学修] 自分が暮らす地域の現状について発表できるようにしておく | ⑨ | [テーマ] 体育・スポーツ行政の仕組みと組織(2)<br>[内容] 日本の地方自治体における体育・スポーツ行政の仕組みと組織について解説する。<br>[授業外学修] 地方自治体について調べておくこと |
| ② | [テーマ] ママさんバレーと東洋の魔女<br>[内容] ママさんバレーを地域スポーツの萌芽ととらえ、コミュニティの課題解決手段としてのスポーツについて解説する。<br>[授業外学修] 東洋の魔女について調べておくこと | ⑩ | [テーマ] スポーツ実施状況の現状と課題<br>[内容] 第2期スポーツ基本計画の概要を説明し、日本におけるスポーツの実施状況の現状と課題について解説する。<br>[授業外学修] 第2期スポーツ基本計画について調べておくこと |
| ③ | [テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(1)<br>[内容] 1964年東京大会を対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。<br>[授業外学修] 1964年東京大会について調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 生涯スポーツと総合型地域スポーツクラブ<br>[内容] 生涯スポーツという概念について解説するとともに、総合型地域スポーツクラブの理念や課題について説明する。<br>[授業外学修] 自分が暮らす地域のクラブについて調べておくこと |
| ④ | [テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(2)<br>[内容] 1998年長野冬季大会を対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。<br>[授業外学修] 1998年長野冬季大会について調べておくこと | ⑫ | [テーマ] 運動部活動問題<br>[内容] 運動部活動における諸問題を概観し、地域スポーツの視点から課題解決の方策について探る。<br>[授業外学修] 運動部活動にかかわる問題について調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(3)<br>[内容] 聖火リレーを対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。<br>[授業外学修] 聖火リレーについて調べておくこと | ⑬ | [テーマ] 大学スポーツと地域<br>[内容] 大学スポーツと地域の関わりについて国内の事例を紹介し、日本版NCAA構想の可能性について議論する。<br>[授業外学修] 日本版NCAA構想について調べておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 2020年東京大会の検証<br>[内容] 2020年東京大会が地域にもたらすものとは何か。大会計画を解説し、個別及びグループワークを通じて検証する。<br>[授業外学修] 2020年東京大会の開催計画を調べておくこと。 | ⑭ | [テーマ] 企業スポーツと地域<br>[内容] 国内のバレーボールチームの状況を概観しながら、企業スポーツと地域の関係について解説する。<br>[授業外学修] 企業とは何かについて発表できるようにしておくこと |
| ⑦ | [テーマ] スポーツイベント×地域<br>[内容] これまでの講義内容を整理し、スポーツイベント開催を通じた地域の活性化やまちづくりの可能性について解説する。<br>[授業外学修] これまでの授業内容について復習する | ⑮ | [テーマ] 本講義のまとめ<br>[内容] 授業内容の振り返りを行い、事前に出題された課題に関する解説を行う。<br>[授業外学修]出題された課題に取り組むこと |
| ⑧ | [テーマ] 体育・スポーツ行政の仕組みと組織(1)<br>[内容] 日本の中央政府における体育・スポーツ行政の仕組みと組織について解説する。<br>[授業外学修] 文部科学省とスポーツ庁の関係について調べておく | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容] 授業の理解度を確認するため、筆記試験を行う。<br>[授業外学修]授業内容を振り返り、試験準備をおこなうこと |

**成績評価方法(方針)**

テスト(50%)、授業内課題(30%)、授業外課題(20%)、以上を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業において解説し、内容についてフィードバックを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | | 30% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 加点 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

- 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
- 2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。
- 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- 受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。
- 授業計画は進捗状況等に応じて変更することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ社会学(1年)，スポーツ経営学(1年)、スポーツマーケティング論(2年)、スポーツ産業論(3年) | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定なし | 参考書 | 授業において適宜紹介する。 |
| オフィスアワー | 木曜3限 | その他 | ai-aramaki@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | スポーツマネジメント演習<br>Seminar on sport management (S.) | | | | 担当教員 | 馬・仲野・永田・井上・弓田・荒井 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | コース必修 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 各教員ごとのゼミに所属し、各専門分野に沿って演習形式の授業を行う。文献検索の方法や文献のまとめ方、論文の執筆法などを学び、卒業論文の執筆に向けて基本的なアカデミックライティングの作法を身につける。 | v |

**授業の一般目標**

卒業論文の執筆において必要な、以下に挙げるアカデミックライティングの作法を身につける。
・論文とはどのようなものか　・文献検索法　・先行研究のまとめ方　・研究の方法　・引用と剽窃の違い　・論文の基本的書式

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツマネジメントコース所属教員・協力教員の専門分野に関する基礎知識を身につける |
| ■ | 情意的領域 | 自ら文献を検索し、入手し、まとめ、発表することができる |
| ■ | 技能表現的領域 | アカデミックライティングの基礎技能を身につける |

**授業計画（全体）**

初回は全体講義を行い、授業計画について説明を行う。演習は、第2回～第5回の第1ステージ、第6回～第9回の第2ステージ、第12回～第15回の第3ステージに分けられる。第1、第2ステージでは、受講生の関心のある教員のゼミに所属して、各専門分野における基礎文献を講読し、発表を行う。第10回は全体で集まり、論文の基本的作法を学ぶ。第11回は面談日で、卒業論文の担当教員を決定する。第3ステージでは卒業論文の担当教員のゼミで活動を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション（全体）<br>[内容] 演習の内容説明、卒論とは何か、各ゼミの紹介、ゼミの振り分け調査<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 第2ステージ④<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと |
| ② | [テーマ]第1ステージ①<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑩ | [テーマ] 文献検索について（全体）<br>[内容] 文献検索の必要性、文献の種類、文献検索の方法についての解説。および、卒業論文担当者の最終振り分けについての説明。<br>[授業外学修]興味がある文献を一つ選び、まとめてくる |
| ③ | [テーマ]第1ステージ②<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑪ | [テーマ] 卒業論文ゼミの面談（全体）<br>[内容] 卒業論文執筆のためのゼミの面談を行う<br>[授業外学修]各ゼミでの活動を振り返っておくこと |
| ④ | [テーマ]第1ステージ③<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑫ | [テーマ] 第3ステージ①<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと |
| ⑤ | [テーマ]第1ステージ④<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑬ | [テーマ] 第3ステージ②<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと |
| ⑥ | [テーマ] 第2ステージ①<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑭ | [テーマ] 第3ステージ③<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと |
| ⑦ | [テーマ] 第2ステージ②<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑮ | [テーマ] 第3ステージ④<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと |
| ⑧ | [テーマ] 第2ステージ③<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと | ⑯ | [テーマ] 研究計画書の作成<br>[内容] 各ゼミごとの活動<br>[授業外学修]各教員の指示に従うこと |

**成績評価方法（方針）**

第1～第3ステージ各ゼミでの活動における取り組みの内容、発表の内容および成果が評価対象となる。第1・第2ステージは各30%、第3ステージは40%。ただし、出席回数が2/3未満の場合は、評価対象外となる。なお、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 100% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・4年生次に取り組む卒業論文の執筆に向けて非常に重要な科目である。素晴らしい卒業論文を執筆して胸を張って卒業していくために、この演習から気持ちを入れてがんばって取り組んでほしい。
・当然のことながら演習の授業であるため、受動的な態度では単位の修得が難しい。指定された課題に対して積極的に取り組み、素晴らしい成果を発表してほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論、スポーツマーケティング論、スポーツ産業論など | 関連資格 | |
| 教科書 | 各教員ごとに個別に指示する | 参考書 | 各教員ごとに個別に指示する |
| オフィスアワー | 馬研究室　五体2階、オフィスアワー　火曜日2限 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツマネジメント実習<br>Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.) | | | | 担当教員 | 井上望・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・馬佳濛 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | コース必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の場を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。実習施設は、宮城県蔵王自然の家、宮城県志津川自然の家、国立花山青少年自然の家を予定している(自分で実習先を選ぶことはできないが、夏季や冬季の希望は出せる)。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の業務内容を理解し、説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。 |

**授業計画(全体)**

本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。体育学科スポーツマネジメントコース(コース必修)は4月、それ以外のコース・学科の学生(選択)は5月に最初のオリエンテーションを行う。実習施設の代表者による最終オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、導入<br>[内容] 授業の概要を理解する。社会教育施設の意義や現状、実習の意味を理解する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑨ | [テーマ] 施設の環境整備1<br>[内容] 施設内外を点検し、活動しやすいように改善する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ② | [テーマ]施設の理解1<br>[内容] 施設職員からの説明を受け、受入先の施設の特徴、歴史、活動及び実習の内容を理解する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑩ | [テーマ] 施設の環境整備2<br>[内容] 活動前は備品の準備・点検、活動中は利用者への貸出・管理、活動後は備品の確認を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ③ | [テーマ]施設の理解2<br>[内容] 施設を利用しながら、施設の利用方法、利用者への説明の仕方などを学ぶ。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑪ | [テーマ] 指導演習準備1<br>[内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ④ | [テーマ] 指導体験1<br>[内容] 朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操などの指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑫ | [テーマ] 指導演習準備2<br>[内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑤ | [テーマ] 指導体験2<br>[内容] レクリエーションやゲーム・ソングなどの指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑬ | [テーマ] 指導演習1<br>[内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑥ | [テーマ] 指導体験3<br>[内容]団体利用者に対して、野外炊事の指導・支援を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑭ | [テーマ] 指導演習2<br>[内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑦ | [テーマ] 指導体験4<br>[内容]団体利用者に対して、ハイキングやクラフトなどの野外活動の指導・支援を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑮ | [テーマ] 指導演習の評価<br>[内容] 指導演習及び実習を評価する。職員や利用者からフィードバックをもとに、自身の指導の良かったところ・改善点を整理する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] 利用者の生活指導<br>[内容] 施設利用者に対して、施設内の利用の仕方や生活指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑯ | [テーマ] ふりかえり<br>[内容] 実習を通して学んだことをふりかえり、実習日誌にまとめる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |

**成績評価方法(方針)**

実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。実習日誌は学生に返却し、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・事前オリエンテーション(3回)には、必ず全て出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。本人のミスで連絡事項を見逃した場合や無断欠席した場合、実習に行かせることはできない。中途半端な態度のものは、実習に行かせないこともある。
・予定調整は5月中旬に行い、6月中旬には実習先及び日時が決定する。
・実習費は、15,000円程度を予定。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年) | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター、<br>レクリエーション・インストラクター、ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 木曜4限 | その他 | 相談・提出は各施設担当者へ |

| 授業科目名 | スポーツ施設の経営・管理<br>Sport Facilities Management (L.) | | | | 担当教員 | 永田秀隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 第5回、第11回の授業担当者が実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

公共・商業スポーツ施設が独立した経営体として固有なスポーツ事業を提供している点に着目し、そこでの経営・管理の現状を概説し、さらに効果・効率的なスポーツ施設の経営・管理のあり方について説明する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

スポーツ施設の基本的な概念や構造について理解する。また、各領域（公共や商業）毎のスポーツ施設における経営・管理の現状を把握し、今後の望ましい(効果・効率的な)経営・管理のあり方について、実践的な視点で考察する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ施設の基本構造が説明できる。公共・商業スポーツ施設の経営・管理の現状を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 公共スポーツ施設や商業スポーツ施設での経営・管理を職業としても意識することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツ施設での経営・管理の理解を通して、実際にスポーツ施設を経営・管理できうる位の技術や技能を身につけられる。 |

**授業計画（全体）**

本授業は、スポーツ経営学の領域別応用編と位置づけており、公共・商業という視点でスポーツ施設の経営・管理の現状を中心に紹介することになる。
毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布する。また、受講者の理解を深めることに配慮しIT機器の活用、さらにスポーツ施設の経営・管理の実務者からも実務経験を活かした話をいただく。授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション／スポーツ施設の概念<br>[内容] 教員紹介、授業概要（目標、進め方、シラバス、成績評価方法等）の説明。／スポーツ施設の概念について構造的に理解する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] スポーツ施設の有効活用<br>[内容] 仙台大学のスポーツ施設をフィールドワークし、スポーツ施設の効果・効率的な経営・管理の手法を学ぶ。<br>[授業外学修]実態を今後の改善に向けて考える |
| ② | [テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理①<br>[内容] 商業スポーツ施設の経営目標、経営方針と計画を具体的に述べる。<br>[授業外学修]特定の商業スポーツ施設の経営目標・方針等を調べておく | ⑩ | [テーマ] スポーツ施設と指定管理者制度<br>[内容] 指定管理者制度の考え方を理解するとともに、公の施設（スポーツ施設）における指定管理者制度の現状を知り、今後のあり方について考える。<br>[授業外学修]指定管理者制度の事例について調べておく |
| ③ | [テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理②<br>[内容] 商業スポーツ施設のスポーツ事業、またその運営（組織）の現状を理解し、今後のあり方について考える。<br>[授業外学修]特定の商業スポーツ施設のスポーツ事業を調べておく | ⑪ | [テーマ] スポーツ施設と指定管理者制度の実際<br>[内容] 指定管理者制度の実例について、実務家による実務経験を踏まえた現場の話を伺い、今後の望まれる運用のあり方について考察を深める。<br>[授業外学修]当該のスポーツ施設の指定管理者制度について調べておく |
| ④ | [テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理③<br>[内容] 商業スポーツ施設での評価活動の現状を理解するとともに、経営課題について正確に認識する。<br>[授業外学修]特定の商業スポーツ施設の課題について調べておく | ⑫ | [テーマ] 公共スポーツ施設の整備の現状と課題<br>[内容] 保健体育審議会答申での公共スポーツ施設の整備指針に基づく施設の整備の現状について、事例を取り上げながらその功罪について考える。<br>[授業外学修]保体審答申での公共スポーツ施設の整備指針概要を調べる |
| ⑤ | [テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理の実際<br>[内容] 商業スポーツ施設における実務者にお越しいただき、実務経験を踏まえた現場での経営・管理の現状や問題点について報告いただく。<br>[授業外学修]当該商業スポーツ施設のことを調べておく | ⑬ | [テーマ] 職域としての公共・商業スポーツ施設<br>[内容] スポーツ施設における雇用の現状や今後の方向について概説する。<br>[授業外学修]スポーツ施設のスタッフについて調べておく |
| ⑥ | [テーマ] 公共スポーツ施設の経営・管理①<br>[内容] 公共スポーツ施設の経営目標、経営方針と計画につき具体的に述べる。<br>[授業外学修]特定の公共スポーツ施設の経営目標・方針等を調べておく | ⑭ | [テーマ] スポーツ施設経営論（体育施設管理士資格重点テーマ）<br>[内容] スポーツ施設全般の経営論、具体的にはスポーツ経営体としての特質について説明する。<br>[授業外学修]スポーツ経営体・経営組織について調べておく |
| ⑦ | [テーマ] 公共スポーツ施設の経営・管理②<br>[内容] 公共スポーツ施設のスポーツ事業、またその運営（組織）の現状を理解し、今後のあり方について考える。<br>[授業外学修]特定の公共スポーツ施設のスポーツ事業を調べておく | ⑮ | [テーマ] スポーツ施設マーケティング（体育施設管理士資格重点テーマ）<br>[内容] スポーツ施設全般におけるマーケティングの考え方について解説し、基本的な構造について理解を深める。<br>[授業外学修]マーケティングやスポーツマーケティングについて調べる |
| ⑧ | [テーマ] 公共スポーツ施設の経営・管理③<br>[内容] 公共スポーツ施設での評価活動の現状を理解するとともに、経営課題について正確に認識する。<br>[授業外学修]特定の公共スポーツ施設の課題について調べておく | ⑯ | [テーマ] レポート<br>[内容] レポートの振り返り。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

授業外レポート（25%）、授業内レポートとリアクションペーパー（75%）の結果に基づき、総合的に評価する。
授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 75% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | ○ | 25% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 加点減点アリ |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本授業は体育施設管理士の資格取得時の必修科目であることから、4/5以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・外部講師による講義を予定しているが、講義日時は講師の都合により多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツマーケティング論、スポーツ産業論、スポーツクラブ・マネジメント論、スポーツクラブ・マネジメント実習、など | 関連資格 | 体育施設管理士、社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | | 参考書 | 山下秋二他『スポーツ経営学』大修館書店<br>間野義之『公共スポーツ施設のマネジメント』体育施設出版 |
| オフィスアワー | 永田（火2） | その他 | 永田（hd-nagata@sendai-u.ac.jp） |

| 授業科目名 | スポーツクラブ・マネジメント論（含演習）<br>Management of Sport Clubs (L.(S.)) | | | | 担当教員 | 永田秀隆・弓田恵里香 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 第8回、第12回の授業担当者が実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方は公共・民間を問わず重要である。スポーツ組織としての各種スポーツクラブに着目し、そこでのマネジメントの現状を踏まえ、今後よりよく実践していくためにはどのような視点、あるいは技術が必要となるのか、認識した上で実践できるようにする。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

各種のスポーツクラブ等におけるマネジメントに関する知識を理解するとともに、その知識を踏まえ現場で実践できるような技術を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツクラブにおけるマネジメントの基本構造が説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブでのマネジメントを職業としても意識することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | スポーツクラブでのマネジメントの理解を通して、実際にクラブを経営できうる技量と同等程度の技能を身につけることができる。 |

**授業計画（全体）**

本授業はスポーツクラブ・マネジメント実習にスムーズに取り組めるための前提科目と考えており、より現場を意識した実践的な授業内容（演習的要素が強い）となる。授業方法はティーム・ティーチング方式を取り入れ、個々の学生やグループワークにキメの細かい対応ができるように心がける。テーマに沿った資料を必要に応じて配布し、また理解を深めるため映像機器等も活用する。数回授業内容に沿ったレポートを課すので、授業内容を各自が理解しておくことが重要である。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション／生涯スポーツ論<br>[内容] 教員紹介、授業概要（目標、進め方、シラバス、成績評価方法等）の説明。／生涯スポーツの概念、必要性や方法について概説する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] クラブのつくり方<br>[内容] 事業計画（ビジネスプラン）作成に向け組織・プロセス・法人格といった構成要素の説明も含めDVD等の視聴により総合型クラブの実際の姿をイメージする。<br>[授業外学修]総合型クラブのモデル例を踏まえ今後の具体化に備える |
| ② | [テーマ] スポーツクラブの意義<br>[内容] 総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）や民間スポーツクラブがなぜ必要なのか、その意義や役割について解説し、考察する。<br>[授業外学修]スポーツクラブとはどのようなものか調べておく | ⑩ | [テーマ] マーケティング<br>[内容] スポーツクラブのマーケティングにおける意義、プロセス、広告・宣伝・会員募集戦略等について説明し、実際の方法について考える。<br>[授業外学修]マーケティングとは何か、復習しておく |
| ③ | [テーマ] 地域におけるスポーツ行政<br>[内容] 総合型クラブの場合、行政との関わりは必要不可欠であることが多い事から、地域社会における総合型クラブと行政との連関について考える。<br>[授業外学修]行政がクラブにどのような役割を果たすか考える | ⑪ | [テーマ] スポーツ施設・設備の管理<br>[内容] スポーツ施設や設備等といった、特にハード面の経営・管理について概説し、近年注目される指定管理者制度との兼ね合いについても述べる。<br>[授業外学修]指定管理者となっているスポーツクラブの事例を収集しておく |
| ④ | [テーマ] クラブの事業計画と事業内容<br>[内容] クラブのミッションやビジョンに基づき、スポーツクラブの柱となる事業について、その計画の立て方や内容について説明する。<br>[授業外学修]クラブの事業内容に関するイメージを膨らませておく | ⑫ | [テーマ] 財源の確保と効率的な資金運用（会計事務管理含む）<br>[内容] 上記テーマについて、専門的な立場の方をお招きし、その詳細及び具体例について実務経験も踏まえ解説いただき、また試算等を体験する。<br>[授業外学修]スポーツクラブにおける支出の項目（費目）を考えてくる |
| ⑤ | [テーマ] 事業評価（経営評価）と結果の活用<br>[内容] 前回授業の事業計画と内容を評価することの必要性とその仕方、また結果をその後へ活用させることの意義等について述べる。<br>[授業外学修]経営評価とはどういうことか調べておく | ⑬ | [テーマ] リスクマネジメント<br>[内容] 指導レベルでのリスクのみならず、クラブ運営にまつわるリスクの存在を列挙し、そのことについて考察を深める。<br>[授業外学修]リスクマネジメントの定義を調べておく |
| ⑥ | [テーマ] 事業評価（経営評価）の実際<br>[内容] 事業評価（経営評価）の考え方の中から、特に住民側の評価（経営成績の評価）について、質問紙調査を想定し、実際にアンケートを作成する。<br>[授業外学修]質問紙を下書きし、ワープロで打ち、期限までに提出する | ⑭ | [テーマ] 事業計画書（ビジネスプラン）の作成①<br>[内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する。<br>[授業外学修]クラブが対象とする地域的な範囲や特性について調べる |
| ⑦ | [テーマ] クラブマネジャーの役割<br>[内容] クラブの核となるクラブマネジャーの役割、資質等について解説し、その後チェックシートにて各自のマネジャーとしての能力・資質を確認する。<br>[授業外学修]マネジャーの役割についてイメージを膨らませておく | ⑮ | [テーマ] 事業計画書（ビジネスプラン）の作成②<br>[内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する、という前回の続きだが、ワープロで仕上げる。<br>[授業外学修]事業計画書（ビジネスプラン）の書式をフォーマットしておく |
| ⑧ | [テーマ] ホスピタリティ・マネジメント<br>[内容] 現場で活躍するクラブマネジャー（相当の方）を外部講師で招き、実務経験について、ホスピタリティ・マネジメントの考え方も交え報告いただく。<br>[授業外学修]当該スポーツクラブのことを事前に調べておく | ⑯ | [テーマ] レポート<br>[内容] レポートの振り返り。可能であれば一部受講者による好事例のプレゼンテーション。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

授業外レポート（50%）、授業内レポートとリアクションペーパー（50%）の結果に基づき、総合的に評価する。
授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 50% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 加点減点アリ |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・スポーツクラブ・マネジメント実習の前提科目との位置づけでもあるので、前記実習を志望する学生は、特に皆出席を目指してもらいたい。
・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツマーケティング論、地域スポーツ戦略論、スポーツクラブ・マネジメント実習、スポーツ政策論など | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | | 参考書 | (財)日本体育協会『総合型クラブ創設ガイド』、武藤泰明『プロスポーツクラブのマネジメント』東洋経済新報社他 |
| オフィスアワー | 永田（火2）、弓田（火4） | その他 | 永田（hd-nagata@sendai-u.ac.jp） |

| 授業科目名 | スポーツクラブ・マネジメント実習<br>Sports Club Management Internship(P.A.) | | | | 担当教員 | 弓田恵里香・永田秀隆・馬佳濛 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 各実習先ではスポーツ事業に関する実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 大学での講義・演習の授業で習得した知識・技能をもとに、実社会における現場実習を通し、より実践的な能力を培う。特に、各種スポーツクラブ等におけるマネジメントの知識・技術を関連施設における2週間以上（実働10日間以上）の実習を通して体験的に学習する。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

事前指導においては、実習先における職務を理解する。実習中は、職場に適した態度で職務に専念し、協調を図る。事後指導では、実習内容をレポートにまとめるとともに、パワーポイントを用いて発表をする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の職務内容を説明でき、実習内容を発表することができる |
| ■ | 情意的領域 | 実社会での現場活動を通じて責任を持つということ、学んだことをどのように発揮できるかということ、さまざまな人と協力し合うことなどについて意識することができる |
| ■ | 技能表現的領域 | 実習中には指示されたことに対し的確に動く技術や技能を身につけ、実習後には実習内容をまとめ発表することができる |

**授業計画（全体）**

予め設定されている実習先の中から各自の興味関心に応じて実習先を決定する（それら以外に希望する実習先がある場合は、事前に担当教員に要相談）。事前＆事後指導は実習先毎に演習形式で3回実施する。事前指導においてレポート課題を提示し、問題意識を持って実習先で体験的に学習する。事後指導時にレポートおよびパワーポイントを用いて発表することにより、理解度・到達度を確認する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 全体でのオリエンテーション<br>[内容] 実習の概要説明と各実習先の紹介<br>[授業外学修]志望理由レポートを作成する | ⑨ | [テーマ] 実習6日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 |
| ② | [テーマ]実習先ごとのオリエンテーション<br>[内容] 実習先ごとに集まり、実習先や職務について理解を深める<br>[授業外学修]実習計画書の作成を行う | ⑩ | [テーマ] 実習7日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 |
| ③ | [テーマ] 実習先との調整<br>[内容] 実習先の担当者から事前オリエンテーションを受け、具体的な実習期間の日程調整を行う<br>[授業外学修]実習先に関するリサーチを行う | ⑪ | [テーマ] 実習8日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 |
| ④ | [テーマ] 実習1日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 | ⑫ | [テーマ] 実習9日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 |
| ⑤ | [テーマ] 実習2日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 | ⑬ | [テーマ] 実習10日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌とふりかえり欄への記入 |
| ⑥ | [テーマ] 実習3日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 | ⑭ | [テーマ] 事後の振り返り<br>[内容] 実習計画に対し、実際に行った実習内容や成果について振り返る<br>[授業外学修]事後レポートを作成する |
| ⑦ | [テーマ] 実習4日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 | ⑮ | [テーマ] 実習報告の準備<br>[内容] 実習報告を行うため、資料作成を行う<br>[授業外学修]実習報告用の発表資料を完成させる |
| ⑧ | [テーマ] 実習5日目<br>[内容] 実習先の指示に従い、業務にあたる<br>[授業外学修]活動内容を踏まえ、実習日誌への記入 | ⑯ | [テーマ] 実習報告を行う<br>[内容] 次年度実習へ行く学生向けに実習報告を口頭にて行う<br>[授業外学修]発表までの含め自身の学びについて振り返りをする |

**成績評価方法（方針）**

実習先の指導担当者による評価（50%）および実習前後の課題（25%）とプレゼンテーション（25%）の結果を総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。提出されたレポートや事後報告発表については、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら振り返りを行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

各自が主体的・積極的に取り組むことが何よりも大切な前提条件となる。単なるシミュレーションという気持ちではなく、卒業後の就職につながるように前向きな気持ちで積極的に関わってもらいたい。事前指導に出席していない学生は、実習に参加することができない。なお、実習にあたっては、受入団体への交通費等を自己負担する必要があるので注意すること。原則として、実習は2週間以上（実働10日以上）とし、出席が足りない学生は単位を修得することができない（欠格条件）。態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ産業論、スポーツ施設の経営・管理、スポーツクラブ・マネジメント論（含演習）など | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | 原田宗彦・小笠原悦子編著（2008）『スポーツマネジメント』大修館書店 |
| オフィスアワー | 弓田（火4）、永田（火2）、馬（火4） | その他 | |

| 授業科目名 | 野外教育・活動論<br>Outdoor Education & Outdoor Activity | | | | 担当教員 | 井上　望 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | キャンプ指導および野外教育指導者育成の経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例(担当教員の実務経験から)を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。 |

**授業計画(全体)**

前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンツの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンプインストラクターの資格について説明する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読する。 | ⑨ | [テーマ] キャンプと人<br>[内容] キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 |
| ② | [テーマ]野外教育と野外活動<br>[内容] グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 | ⑩ | [テーマ] キャンプと自然<br>[内容] キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史的変遷を説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 |
| ③ | [テーマ] 冒険教育とは<br>[内容] 冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 | ⑪ | [テーマ] キャンプのルールとマナー<br>[内容] キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。<br>[授業外学修]必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。 |
| ④ | [テーマ] 冒険教育の実際<br>[内容] 冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 | ⑫ | [テーマ]　Leave No Trace<br>[内容] 自然の中で活動する時の7つの原則(技能や倫理観)を説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 |
| ⑤ | [テーマ] 環境教育とは<br>[内容] 環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。 | ⑬ | [テーマ] キャンプの安全管理1<br>[内容] キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 |
| ⑥ | [テーマ] 環境教育の実際<br>[内容] 環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。 | ⑭ | [テーマ] キャンプの安全管理2<br>[内容] キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 |
| ⑦ | [テーマ] キャンプの特性<br>[内容] キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 | ⑮ | [テーマ] まとめと振り返り<br>[内容] 授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。<br>[授業外学修]これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。 |
| ⑧ | [テーマ] キャンプの指導<br>[内容] キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。<br>[授業外学修]配布資料をもとに復習しておく。 | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容] 筆記試験を実施する。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

授業での小レポート:20点　→毎回の授業の最後に提出する。次回の授業でそのコメントに対して回答する。
課題(課題レポートとグループ課題発表)　:30点　→小レポートとグループ課題について、授業内で発表、ディスカッション及び解説を行う
筆記試験(期末試験):50点　→試験終了後、試験問題についての解説を行う

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | ○ | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | ◎ | 15% |
| 演習・実技 | ○ | ◎ | ◎ | 15% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ｷｬﾝﾌﾟ(1年)、ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ実習(2年)、野外・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論(3年)、野外・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ実習(3年) | 関連資格 | (公社)日本キャンプ協会「キャンプディレクター2級」 |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 杏林書院「野外教育の理論と実践」 |
| オフィスアワー | 木曜4限 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | 野外・レクリエーション・マネジメント論（含む演習）<br>manegement of outdoor and school recreation activities（L. S. ） | | | | 担当教員 | 仲野隆士・高崎義輝・井上　望 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | レク指導者講習や野外教育講習などの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 野外・学校レクリエーション ・イベント企画について、企画立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について事例を用いたり実際にグループワークを通して習得させる。また、国民に親しまれている「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レク・イベントの実際について習得させる。 | ⅰ、ⅲ、ⅴ |

**授業の一般目標**

企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について実際にグループワークを通して学習し理解する。「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 野外・学校レクリエーションのマネジメントに必要な基礎的な知識や技術を説明できる |
| ■ | 情意的領域 | 野外・学校レクリエーション活動の楽しみや面白さなどを体験を交えて伝えることができる |
| ■ | 技能表現的領域 | ウォークラリーや簡単な野外・学校レクリエーションの企画と運営ができる |

**授業計画（全体）**

レクリエーションや野外活動などの指導者が地域や職場、学校などで野外における活動支援（イベントや教室を含む）を実施する場合に要求されるレクリエーション・マネジメントの部分を主眼に学習を進める。ウォークラリーの企画と運営は、実際に作成したコマ図を基にコースを歩き体験する。その他は野外・学校レクリエーション事業のマネジメントの授業を7回展開する。各教員の専門領域における指導者養成講習の実務経験を活かし、具体的なGWを通して講義と演習を行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　オリエンテーション（仲野・高崎・未定）<br>[内容]　・担当教員の紹介、授業目標と進め方、成績評価の方法<br>・野外レクリエーションの実際(ウオークラリーの事例)<br>[授業外学修]　シラバスを読んでおく。 | ⑨ | [テーマ] 野外教育プログラム指導<br>[内容] グループごとに開発したイニシアティブゲームを、実際に指導する。参加者からのフィードバックをもとに、アクティビティを完成させる。<br>[授業外学修]フィードバックをもとにアクティビティを完成させレポートを作成する。 |
| ② | [テーマ]　ウオークラリー・イベント企画1<br>[内容]　・ウオークラリー・イベント企画のための基礎知識<br>・ウォーキングマップの作成のための現場下見<br>[授業外学修]　配付資料をもとに復習しておくこと | ⑩ | [テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際　仲野1<br>[内容] 野外・学校レクのマネジメントの実際：目玉っこコンクールを題材に3人1組で実践<br>[授業外学修]　野外レクリエーションの面白さを理解する |
| ③ | [テーマ]　ウオークラリー・イベント企画2<br>[内容]　・ウォーキングマップの作成<br>[授業外学修]　配付資料をもとに復習しておくこと | ⑪ | [テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際　仲野2<br>[内容] 目玉っこコンクールを実施し、表彰までを演出する<br>[授業外学修]　身近なテーマでできる野外レクイベントを理解する |
| ④ | [テーマ]　ウオークラリー・イベント企画3<br>[内容]　・ミニウォーラリー大会の実施<br>[授業外学修]　配付資料をもとに復習しておくこと | ⑫ | [テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習　仲野3<br>[内容] 学校や地域におけるレクリエーション・イベント企画のための基礎理論の学習<br>[授業外学修]レジャー・レクリエーション関連のイベントについて話ができるようにしておくこと |
| ⑤ | [テーマ]　ウオークラリー・イベント企画4<br>[内容]　・ミニウォーラリー大会の振り返りとまとめ<br>[授業外学修]　配付資料をもとに復習しておくこと | ⑬ | [テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習　仲野4<br>[内容] 具体的な事例に基づくレクリエーション・イベントの立案　分けられた班毎に取り組む<br>[授業外学修]　配布されたイベント立案に必要な資料を予め予習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ]　野外教育プログラム体験<br>[内容]　少人数グループに分かれて野外教育プログラムの一つであるイニシアティブゲーム（ASE:）を体験する。その理論と実践方法を体験的に学習する。<br>[授業外学修]イニシアティブゲーム開発のアイディアを考えてくる。 | ⑭ | [テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習　仲野5<br>[内容] レクリエーション・イベント企画案のプレゼンテーションの準備<br>[授業外学修]　時間内にまとめきれない場合は、班毎に集まり完成させておくこと |
| ⑦ | [テーマ]　野外教育プログラム体験及び開発<br>[内容] 引き続き、イニシアティブゲームを体験する。授業後半は、プログラム開発に取り組む。<br>[授業外学修]イニシアティブゲーム開発のアイディアを考えてくる。 | ⑮ | [テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習　仲野6<br>[内容] レクリエーション・イベント企画案プレゼンテーションの実施：各班10分程度のプレゼンテーションとする<br>[授業外学修]　プレゼンテーションのためのパワーポイントスライドを完成させておく |
| ⑧ | [テーマ]　野外教育プログラム開発及び改善<br>[内容]　イニシアティブゲームの開発を行う。グループごとにアクティビティを考案し、実験を重ね、改善する。<br>[授業外学修]必要に応じてグループで集まり、アクティビティ開発に取り組む。 | ⑯ | [テーマ] 総括：全体のまとめ　修了レポート作成<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

イベント企画の企画書の内容、ウォークラリーのコマ図の完成度、野外教育プログラムの完成度、プレゼンテーションなどを基に、総合的に評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ○ | | | 40% |
| 授業外レポート | | | ◎ | 30% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | ◎ | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レジャー・レク論、レク支援論、野外教育・活動論など | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 特に無し | 参考書 | 『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編　他 |
| オフィスアワー | 仲野：月3限、高崎水4限：、未定：　限 | その他 | A棟508、F棟2F |

| 授業科目名 | 野外レクリエーション・マネジメント実習<br>Outdoor Recreation Management Internship | | | | 担当教員 | 仲野隆士・井上　望 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | コース必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

大学での講義・演習の授業で修得した知識・技能をもとに、実社会における現場実習を通し、より実践的な能力を育成する。特に、野外活動指導者やレクリエーションの指導者として身につけるべき資質・知識・技術を関連施設における10日程度の実習を通してマネジメントの観点から体験的に学習してもらう。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

事前指導においては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、積極的に業務に取り組み、現場での経験を通して、野外レクリエーションの実態を学ぶ。実習後は、実習先の課題と現状をレポートとしてまとめる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 実習先の職務内容を理解し、説明できる. 実習先の現状と課題を把握・分析することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 実習先で積極的に取り組む。協力することができる |
| ■ | 技能表現的領域 | 実習先での日々の成果を日誌にまとめることができる。 |

**授業計画（全体）**

本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを数回行う。5～6月に受講生全員を集めてオリエンテーションを行い、その際に最終的に実習先施設を決定する。6月以降は、施設ごとに事前指導を受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に10日間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、導入<br>[内容] 授業の概要を理解する。野外・レクリエーション活動施設の意義や現状、実習の意味を理解する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑨ | [テーマ] 施設の環境整備1<br>[内容] 施設内外を点検し、活動しやすいように改善する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ② | [テーマ]施設の理解1<br>[内容] 施設職員からの説明を受け、受入先の施設の特徴、歴史、活動及び実習の内容を理解する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑩ | [テーマ] 施設の環境整備2<br>[内容] 活動前は備品の準備・点検、活動中は利用者への貸出・管理、活動後は備品の確認を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ③ | [テーマ]施設の理解2<br>[内容] 施設を利用しながら、施設の利用方法、利用者への説明の仕方などを学ぶ。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑪ | [テーマ] 指導演習準備1<br>[内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ④ | [テーマ] 指導体験1<br>[内容] 利用者に対して、レクリエーションやゲーム・ソングなどの指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑫ | [テーマ] 指導演習準備2<br>[内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑤ | [テーマ] 指導体験2<br>[内容] 利用者に対して、レクリエーションやゲーム・ソングなどの指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑬ | [テーマ] 指導演習1<br>[内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑥ | [テーマ] 指導体験3<br>[内容]団体利用者に対して、ハイキングやクラフト、野外炊事などの野外活動の指導・支援を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑭ | [テーマ] 指導演習2<br>[内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑦ | [テーマ] 指導体験4<br>[内容]団体利用者に対して、ハイキングやクラフト、野外炊事などの野外活動の指導・支援を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑮ | [テーマ] 指導演習の評価<br>[内容] 指導演習及び実習を評価する。職員や利用者からフィードバックをもとに、自身の指導の良かったところ・改善点を整理する。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] 利用者の生活指導<br>[内容] 施設利用者に対して、施設内の利用の仕方や生活指導を行う。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑯ | [テーマ] ふりかえり<br>[内容] 実習を通して学んだことをふりかえり、実習日誌にまとめる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |

**成績評価方法（方針）**

実習先の指導担当者による評価、レポート、事前オリエンテーション参加状況・態度などを基に、総合的に成績評価を行う。提出されたレポートについては、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・各自が、主体的・積極的に取り組むことが何よりも大切な前提条件となる。単なる授業として取り組むのではなく、卒業後の就職につながるように前向きな気持ちで積極的に関わってもらいたい。
・事前指導に出席していない学生は、実習に参加することができないので、掲示板を確認のうえ必ず事前指導に参加すること。なお、実習にあたっては、受け入れ団体への交通費・滞在費・食等を自己負担する必要があるので注意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツマネジメント概論（2年）、スポーツクラブ・マネジメント実習（3年）、野外・レクリエーション・マネジメント実習（3年） | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 前期月曜3限　後期金曜2限 | その他 | 相談・提出は各施設担当者へ |

# 4. 応用科目

| 授業科目名 | 日本国憲法<br>Constitution of Japan | | | | 担当教員 | 加藤 英俊 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。 | v |

**授業の一般目標**

憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べることができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。 |
| ■ | 情意的領域 | 特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

シラバスに挙げた事項につきテキストの関係個所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス ・ 導入授業<br>[内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。<br>「日本国民」とは誰か<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑨ | [テーマ] 生存権の特徴<br>[内容] 朝日訴訟上告審(最大判昭42・5・24)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ② | [テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1)<br>[内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑩ | [テーマ] 信教の自由と政教分離(1)<br>[内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ③ | [テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2)<br>[内容] 国法体系における憲法の地位:最高法規性の意味<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑪ | [テーマ] 信教の自由と政教分離(2)<br>[内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8)、<br>津地鎮祭事件(最大判昭52・7・13)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ④ | [テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか(1)<br>[内容] 平等保障の概説、 国籍法違憲判決(最大判平20・6・4)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑫ | [テーマ] 人権保障と公共の福祉(1)<br>[内容] 「公共の福祉」の概説、 職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ⑤ | [テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか(2)<br>[内容] 国籍法違憲判決(最大判平20・6・4)<br>尊属殺重罰違憲判決(最大判昭48・4・4)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑬ | [テーマ] 人権保障と公共の福祉(2)<br>[内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ⑥ | [テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1)<br>[内容] 私的自治の原則の概説、 日産自動車事件(最判昭56・3.24)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑭ | [テーマ] 司法裁判所の裁判<br>[内容] 「法律上の争訟」の意味、 板まんだら事件(最判昭56・4・7)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 |
| ⑦ | [テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2)<br>[内容] 日産自動車事件(最判昭56・3.24)<br>三菱樹脂事件(最大判昭48・12・12)<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑮ | [テーマ] 日本国憲法の違憲審査制<br>[内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、 警察予備隊違憲訴訟<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 基本的人権の分類<br>[内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴<br>[授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘 | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・テキストを必ず授業で携行すること。

| 関連科目 | | 関連資格 | |
|---|---|---|---|
| 教科書 | ワンステップ憲法(嵯峨野書院) | 参考書 | |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

| 授業科目名 | データ処理の基礎<br>Fundamentals of Data Processing （L.） | | | | 担当教員 | 内野秀哲 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 実証的研究において得られるデータは、そのままの形では何を示唆しているかわかりにくい。それらをまとめ、見やすくわかりやすい形にするのがデータ処理であると言える。本講では高等学校及び大学初年次に履修した情報関連科目の内容を補完しつつ、表計算アプリケーションを用いてこれらのデータ処理の技法を練習、検討する。 | i 、ii 、iii、iv、v |

**授業の一般目標**

データにふさわしい処理（代表値、グラフなど）ができる。またそれらを正しく読み取れる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 表計算ソフトを活用することができる。また、それらにより代表値を算出することができる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 各種代表値を見やすく、また趣旨をわかりやすくグラフ化することができる。 |

**授業計画（全体）**

表計算アプリケーション（EXCEL）の操作方法をまず行い、それらに習熟した後、身近な事例等によって実際に処理技法を適用してみることを通じて、初歩的統計手法の概略を理解してもらう。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション：表計算スキル調査（準備）<br>[内容] 授業の概説と、到達目標のスキルを提示するとともに、次週に予定するEXCELのスキルを確認するための調査の準備を行う。<br>[授業外学修] 学内メールアカウント、アプリの登録などの準備をしてください。 | ⑨ | [テーマ] スキル調査②（プレゼンテーション）<br>[内容] 各自の報告課題について相互評価を行い、スキルの獲得と向上に向けた自律サイクルの目標を検討する。<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 |
| ② | [テーマ] 表計算スキル調査<br>[内容] EXCELを含めたICTスキルについて、受講前の状況を各自で把握しておくための調査を行い、履修の目標設定を検討する。<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 | ⑩ | [テーマ] データ処理実践Ⅰ<br>[内容] 授業内で計量した実験データをもとに、各種代表値により検討する。<br>[授業外学修] 様々なグラフを作ってみてください。 |
| ③ | [テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅰ：番地計算など<br>[内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。<br>[授業外学修] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。 | ⑪ | [テーマ] データ処理実践Ⅱ<br>[内容] 授業内で計量した実験データによる検討結果を確認する。<br>[授業外学修] 検討方法ならびに検討論理について確認しなさい。 |
| ④ | [テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅱ：関数など<br>[内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。<br>[授業外学修] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。 | ⑫ | [テーマ] データ処理実践Ⅲ<br>[内容] 授業内で計量した実験データをもとに、相関、相関係数を学ぶ。<br>[授業外学修] 様々なグラフを作ってみてください。 |
| ⑤ | [テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅲ：グラフなど<br>[内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。<br>[授業外学修] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。 | ⑬ | [テーマ] データ処理実践Ⅳ<br>[内容] 授業内で計量した実験データをもとに、検定の手順を学ぶ。<br>[授業外学修] 検定の流れと検定結果の表現についてまとめておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅳ：データベース機能など<br>[内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。<br>[授業外学修] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。 | ⑭ | [テーマ] データ処理実践Ⅴ<br>[内容] 授業内で計量した調査データをもとに、単純集計その他の表現方法を学ぶ。<br>[授業外学修] 集計の手順についてまとめておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅴ：さまざまなグラフ表現とその特徴<br>[内容] 各種のグラフを取り上げ、その特徴と主な利用法について説明する。<br>[授業外学修] 復習を中心に。様々なデータに適当なグラフを考えること。 | ⑮ | [テーマ] データ処理実践Ⅵ<br>[内容] 授業内で計量した調査データまとめを通じ、結果からの結論をまとめてみる。<br>[授業外学修] 分析内容、目的について確認しておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] スキル調査①（表計算）<br>[内容] 表計算スキルを測定するための授業内テストを行い、解答解説を通じ、確実なものとする。<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 | ⑯ | [テーマ] データ処理スキルの評価<br>[内容] これまでの学習内容について、学生相互の相互の評価を含めたデータ処理スキルの評価を行う。<br>[授業外学修] これまでの学修内容を整理しておくこと。 |

**成績評価方法（方針）**

スキル調査のレポートや試験のほか、授業内・外レポートなどを評価する。レポート等はLMS（アプリ）上で共有し、相互評価なども行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする（欠席多の場合には評価対象としない）。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 20% |
| 授業内レポート | ◎ | | | 50% |
| 授業外レポート | ◎ | | ◎ | 30% |
| 演習・実技 | | | | 加減点要素 |
| 授業態度 | | | | 加減点要素 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

データ処理の主な手段となる表計算アプリケーションと、教育学習活動の支援を意図するLMS（アプリ）の活用を前提とする。従って、実習室内のPC利用と、学内アドレスでのメール利用が教材活用の必要条件となる。

※その他の注意

実習室の定員の都合上、実施クラスの再編成や抽選を行う場合もある。

学内メールの利用が必要条件になるので、事前にアカウントの確認をしておくこと。

「情報処理」の単位を修得済みであることが望ましい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 使用しない（電子媒体の教材をLMSにて運用） | 参考書 | 必要に応じて授業内で提示 |
| オフィスアワー | 4体1F 内野研究室 火曜14:20-15:50 | その他 | 連絡先：hd-uchino@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | メディア・リテラシー実習<br>Media Literacy | | | | 担当教員 | 内野秀哲 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

高等学校及び大学初年次で履修する情報関連科目を補完し、YouTubeの「やってみたシリーズ」等を含め、音声や映像番組の制作・発信する側の視点を体験することにより、受動的にとどめてしまいがちなメディアからの情報を、客観的・合理的に理解する能力を高める。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

ICTなどによるメディアを用いた情報の受発信が適切に行えるようになる。また、メディアからの情報について客観的な情報判断ができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | メディア関連のアプリケーションを活用することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 客観的な表現ができる。また、客観的に受けとめる事ができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 合理的な情報伝達が行なえる。 |

**授業計画（全体）**

コンピュータに限らず、映像等を含めたマルチメディア情報の操作技能およびそれらの取り扱いについて総合的に学習する。
主には、軽微な番組制作を目指し、計画・立案から相互批評にいたるまでの一連の実習と、専門家の情報（実際の聴視または書籍から）などを有効に活用して学習を進めていく。なお、下記授業計画は、動画作成を教材とした場合の内容である。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーションと授業準備<br>[内容] 事前説明と授業準備、用具準備などについて<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 | ⑨ | [テーマ] 映像番組の作成3<br>[内容] 絵コンテや台詞など、台本の作成と検討を行う<br>[授業外学修] 効率良く作業できるよう、復習してください。 |
| ② | [テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成1<br>[内容] コンテンツ作成の計画と検討を行なう<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 | ⑩ | [テーマ] 映像番組の作成4<br>[内容] 撮影場所の設定やカメラワークなどの検討を行う<br>[授業外学修] 効率良く作業できるよう、復習してください。 |
| ③ | [テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成2<br>[内容] 絵コンテや台詞の作成と検討を行なう<br>[授業外学修] 効率良く作業できるよう、復習してください。 | ⑪ | [テーマ] 映像番組の作成5<br>[内容] リハーサルの実施と撮影計画の検討を行う<br>[授業外学修] リハーサルの結果や撮影計画について再確認をしてください。 |
| ④ | [テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成3<br>[内容] 背景やキャラクタの設定について検討を行なう<br>[授業外学修] 効率良く作業できるよう、復習してください。 | ⑫ | [テーマ] 映像番組の作成6<br>[内容] 撮影準備と番組撮影の実施1<br>[授業外学修] 実施結果を振り返り、整理して下さい。 |
| ⑤ | [テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成4<br>[内容] アプリケーションツールに簡易番組の作成情報を設定し番組作りを行なう<br>[授業外学修] 効率良く作業できるよう、復習してください。 | ⑬ | [テーマ] 映像番組の作成7<br>[内容] 撮影準備と番組撮影の実施2<br>[授業外学修] 実施結果を振り返り、整理して下さい。 |
| ⑥ | [テーマ] プレゼンテーションと相互評価1<br>[内容] 各自の作品について、相互評価を行なう<br>[授業外学修] 相互評価の結果を元に、復習してください。 | ⑭ | [テーマ] プレゼンテーションと相互評価2<br>[内容] 各自の作品について、相互評価を行なう<br>[授業外学修] 相互評価の結果を振り返り、整理して下さい。 |
| ⑦ | [テーマ] 映像番組の作成1<br>[内容] ビデオカメラの操作・撮影方法を学習する<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 | ⑮ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 相互評価を参考に撮影計画と内容の再確認を行い、内容を整理する<br>[授業外学修] 実施結果を振り返り、整理して下さい。 |
| ⑧ | [テーマ] 映像番組の作成2<br>[内容] コンテンツ作成の計画と検討を行なう<br>[授業外学修] 復習を中心にしてください。 | ⑯ | [テーマ] （レポート提出）<br>[内容] アニメーション作品、映像作品、撮影計画の提出<br>[授業外学修] これまでの学修を振り返り、整理して下さい。 |

**成績評価方法（方針）**

課題提出状況と出席状況を単位認定の必要条件とし、成績は各課題の内容によって評価する。レポート等はLMS（アプリ）上で共有し、相互評価なども行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 対象としない |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | ◎ | 100% |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 欠格条件 |
| 演習・実技 | | | ○ | 加減点要素 |
| 授業態度 | | | | 加減点要素 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・「情報処理」の履修が完了していること（学内メールが使えること）
・実習室にて講義と操作実習を実施する
・履修人数によっては、講義と実習部門を交互に実施する場合がある
※教育学習活動の支援を意図するLMS（アプリ）の活用を前提とする。従って、実習室内のPC利用と、学内アドレスでのメール利用が教材活用の必要条件となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 使用しない（電子媒体の教材をLMSにて運用） | 参考書 | 必要に応じて授業内で提示 |
| オフィスアワー | 4体1F　内野研究室　火曜14:20-15:50 | その他 | 連絡先：hd-uchino@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 文章表現論Ⅰ<br>Academic Writing Ⅰ(L) | | | | 担当教員 | 末永精悦・齋藤博・大宮勇雄・小野寺和也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 文章は、「文は人なり」と言われるように、書き手の全人格が集約されるものである。自己表現の重要な手段として様々な文章表現に習熟することを目的とする授業である。また、中学校での実務経験を生かし、常用漢字2136字を文章の中で適切に使いこなすことも目指す。 | v |

**授業の一般目標**

文章の書き方の基本的な考え方と技能を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方の理論を理解し、書く力を身に付ける。自由作文、課題作文①、課題作文②、書簡文、自分史、詩歌創作(俳句、短歌、詩)、研究論文(テーマを自分で決めて書く簡易な論文)などを書く。また、語彙力を身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 様々な様式の文章の書き方の理論を理解する。より多くの言葉の使い方を知る。 |
| ■ | 情意的領域 | 文章表現に意欲的かつ真剣に取り組む。日本語に対する強い興味・関心を持つ。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々な文章の書き方に習熟する。より多くの漢字を読み書きできる。 |

**授業計画(全体)**

全体として、様々な文章表現に習熟するように、文章を書くことの意味、書き方の基本などについて説明する。自由作文については、最も書きたいテーマを自分で決め800字詰め原稿用紙に書くこと。課題作文①、②については、読解力、思考力、表現力、判断力を身に付けるために、テーマに基づき、小論文としてまとめること。書簡文では、書き方の基本を理解すること。自分史は自分のアイデンティティの確立を目指すこと。詩歌の創作では鑑賞会を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、言葉シリーズの説明、成績評価の方法、授業の感想(授業評価)を書く。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] 「自分史」1(他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。<br>[内容] これまでの自分を振り返り800字詰め原稿用紙2枚にまとめる。書簡文2の返却。言葉シリーズ7の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 |
| ② | [テーマ]文章についての考え方<br>[内容] 様々な文章についての説明。授業の感想。<br>[授業外学修] 次回の自由作文の題材について考える。 | ⑩ | [テーマ] 「自分史」2(他)<br>[内容] 自分史をまとめる。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 |
| ③ | [テーマ] 自由作文1<br>[内容] 自由作文についての説明。各自で最も書きたいテーマを決め、原稿用紙にまとめる。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]自由作文2の題材をについて考える。 言葉シリーズの復習。 | ⑪ | [テーマ] 詩歌創作(俳句、他)<br>[内容] 俳句(他)の作り方を説明する。俳句(他)を作る。添削した履歴書を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 |
| ④ | [テーマ] 自由作文2<br>[内容] 自由作文2をまとめる。添削した自由作文1を返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑫ | [テーマ] 詩歌創作(短歌、他)<br>[内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。授業の感想。<br>[授業外学修]詩歌創作について。 |
| ⑤ | [テーマ] 課題作文①<br>[内容] 一字の題(習、空、器から選択)に基づき800字で書く。添削した自由作文2を返す。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑬ | [テーマ] 詩歌(作品集鑑賞)<br>[内容] 俳句(他)、短歌(他)の作品を作者が読み上げ相互に鑑賞し合う。添削した短歌(他)を返す。授業の感想。<br>[授業外学修]次回の研究論文のテーマについて考えておく。 |
| ⑥ | [テーマ] 課題作文②<br>[内容] 資料を読んでテーマに沿って800字にまとめる。添削した課題作文①を返す。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]手紙を出す相手について考えること。言葉シリーズの復習。 | ⑭ | [テーマ] 研究論文<br>[内容] 研究論文の書き方を説明する。各自のテーマに基づき、図書館、パソコン室等で情報収集する。授業の感想。<br>[授業外学修]研究論文についてまとめる。 |
| ⑦ | [テーマ] 書簡文1<br>[内容] 書簡文の書き方の説明。手紙や封筒を書く。添削した課題作文②を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑮ | [テーマ] 研究論文<br>[内容] 研究論文を完成させる。授業の感想。学内の授業評価。<br>[授業外学修]授業全体を各自が振り返る。 |
| ⑧ | [テーマ] 書簡文2<br>[内容] ハガキ、往復ハガキを書く。添削した書簡文1を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]次回の履歴書の書き方を確認すること。言葉シリーズの復習。 | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

提出された作品は(授業内で)解説しながら返却する。提出された作品の内容、授業への取組み状況などを総合的に見て成績評価を行う。その場合、作品が70%、授業への取組み状況を30%とする。なお、出席状況については、原則2/3以上とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・石垣は基礎が最も重要。一カ所でも手を抜けばもろくも崩れ去ります。1回でも欠席すれば、基礎の部分に手抜きができることになりますので、注意しましょう。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 末永:月曜日14:20～15:50(A棟310研究室) | その他 | |

| 授業科目名 | 文章表現論Ⅱ<br>Academic Writing Ⅱ(L) | | | | 担当教員 | 末永精悦・齋藤博・大宮勇雄・小野寺和也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 中学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 原則として、文章表現論Ⅰを履修済みの受講生を対象とする。Ⅰよりも、より内面的・思索的・感性的な文章を書くことを目指す授業となる。また、実務経験を生かし、言葉の基礎的な知識の確認と定着を図る。 | v |

**授業の一般目標**

Ⅰで学習し身に付けた文章の書き方の基本的な考え方と技能を踏まえ、更に上の段階を目指し、文章力、語彙力を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方を習得し、書く力を養う。自由作文、課題作文①、課題作文②、履歴書等の書き方、童話・短編小説の創作、書簡文、詩歌創作(俳句、短歌、詩)。一方、語彙などを更に多く身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 様々な様式の文章をより完成度の高いものにする。より広範な言葉についての活用力を身に付ける。 |
| ■ | 情意的領域 | 文章表現に積極的かつ意欲的に取り組む。日本語に対する興味・関心をより高める。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々な文章の書き方に習熟することを目指す。より多くの漢字や言葉の使い方ができる。 |

**授業計画(全体)**

様々な文章の書き方に関してより理解を深めるようにし、書き方の工夫などができるようにする。自由作文については、各自現在最も関心を抱く人生上の事柄に関するテーマで800字の原稿用紙に書くこととする。課題作文①、②については、内面的な思索を深め、感性を磨き、自分の考えとして的確に表現できるようになることを目指す。書簡文では日本の文化としての形式についても考えるよう指示する。どの場合でも、提出作品は添削し、受講生と面談して返す。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、言葉シリーズの説明、成績評価の説明、授業の感想(授業評価)を書く。<br>[授業外学修] シラバスをよく確認すること。 | ⑨ | [テーマ] 童話、短編小説等<br>[内容] 童話または短編小説を仕上げる。授業の感想。<br>[授業外学修] 次回の詩歌創作(俳句、短歌、詩、他)について想を練る。 |
| ② | [テーマ] 文章についての考え方<br>[内容] 様々な文章をよりよく書くための心構えについて説明。授業の感想。<br>[授業外学修] 次回の自由作文について考える。 | ⑩ | [テーマ] 詩歌創作1(俳句、他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。<br>[内容]俳句(他)のつくり方の説明。俳句(他)を作る。感想を付して、童話、短編小説を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]短歌(他)について想を練る。言葉シリーズの復習。 |
| ③ | [テーマ] 自由作文1<br>[内容] 人生上の課題について内面的な思索を深めた上での自由作文について説明。原稿用紙に書く。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]自由作文2について想を練る。言葉シリーズの復習。 | ⑪ | [テーマ] 詩歌創作2(短歌、他)<br>[内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]詩について想を練る。言葉シリーズの復習。 |
| ④ | [テーマ] 自由作文2<br>[内容] 自由作文2を書く。添削した自由作文1を面談して返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑫ | [テーマ] 詩歌創作3(詩)<br>[内容] 詩について説明する。詩作する。添削した短歌(他)を返す。言葉シリーズ7を学習する。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 |
| ⑤ | [テーマ] 課題作文①<br>[内容] 論理的な文章を読み、その内容に基づいて思索を深め、自分の考えとして論理的にまとめる。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑬ | [テーマ] 書簡文1<br>[内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキの書き方を説明する。手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した詩を返す。言葉シリーズ8の学習。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 |
| ⑥ | [テーマ] 課題作文②<br>[内容] 図表から読み取れることをまとめ、そのことについて自分の考えを書く。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑭ | [テーマ] 書簡文2<br>[内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した手紙等を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 |
| ⑦ | [テーマ] 履歴書Ⅰ<br>[内容] 就職活動のために必要な履歴書の書き方について学び実際に書いてみる。{授業外の指示等} 次回の自己PRについて予習する。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑮ | [テーマ] 詩歌の作品鑑賞会<br>[内容]受講生が創作した俳句、短歌の作品集を鑑賞する。授業の感想。学内の授業評価。<br>[授業外学修]授業全体を各自が総括する。 |
| ⑧ | [テーマ] 履歴書Ⅱ<br>[内容] 自己分析をし、更に自己PRとしてまとめる。<br>[授業外学修]言葉シリーズの復習。 | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

提出された作品は(授業内で)解説しながら返却する。提出作品の状況、授業への取組み状況などを総合的にみて成績評価を行う。その割合は、提出作品70%、授業への取組み状況30%とする。なお、出席状況は原則2/3以上とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・文章上達のコツは、ひたすら「書く」ことです。実際に文章を書き、推敲を重ねることによって書く力が身に付くのです。自分を鍛え、実力を向上させる授業だと考えてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 末永:月曜日14:20～15:50(A棟310研究室) | その他 | |

| 授業科目名 | 体育原理<br>Philosophy of Physical Education | | | | 担当教員 | 入澤／田口 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業では、体育・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅴ

**授業の一般目標**

体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。また、スポーツを指導する人間に求められる倫理観や教養を身に付ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体育・スポーツに関する諸概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

一貫して「よい体育の追求」および「よいスポーツ指導の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていく。また、この授業では担当教員の高校教員としての実務経験を活かしつつ、各回ごとに異なるテーマを設定した上で講義を進めていく。主なテーマ「体育とスポーツ」「身体教育」「運動指導」「身体文化教育」「指導者」「スポーツ指導の問題」「競技者」「オリンピック」「ルール」「スポーツと美しさ」「スポーツとコミュニティ」「スポーツとの良好な関係」

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 「体育原理」についてのオリエンテーション<br>[内容] 「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。<br>[授業外学修] 参考書「はじめに」を読む。 | ⑨ | [テーマ] スポーツ指導の問題性<br>[内容] 体罰・暴力のメカニズムを解説した上でスポーツ指導の在り方について解説する。<br>[授業外学修] スポーツ指導に関する最近のニュースを調べる。参考書「第6章」 |
| ② | [テーマ] スポーツとは何か？<br>[内容] スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義について解説する。<br>[授業外学修] スポーツという言葉の意味を調べてくる。参考書「第1章第1節」を | ⑩ | [テーマ] 競技者の世界と理想の姿<br>[内容] 競技者とスポーツ愛好者の違い、競技者が競技に惹きつけられる理由、競技者の理想の姿について解説する。<br>[授業外学修] 自分自身がスポーツに感じる魅力をまとめてくる。参考書「第7章」 |
| ③ | [テーマ] 体育とは何か？<br>[内容] 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素について解説する。<br>[授業外学修] 体育という言葉の意味を調べてくる。参考書「第1章第2節」を読 | ⑪ | [テーマ] オリンピックと世界平和<br>[内容] オリンピズムの本質、オリンピックの問題点、世界平和とオリンピックとの関係について解説する。<br>[授業外学修] オリンピックについて調べてくる。参考書「第8章」を読む。 |
| ④ | [テーマ] 教科としての体育の成り立ち<br>[内容] 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷、体育理念の変遷について解説する。<br>[授業外学修] 教科体育の歴史を調べてくる。参考書「第1章第3節」を読む。 | ⑫ | [テーマ] スポーツのルールを考える<br>[内容] スポーツにおけるルールの機能、およびルールと選手との関係について解説する。<br>[授業外学修] 自分が行っている競技のルールを調べてくる。参考書「第9章」を |
| ⑤ | [テーマ] 身体教育という考え方<br>[内容] 身体教育が対象とする身体の捉え方、および身体教育としてのスポーツの可能性について解説する。<br>[授業外学修] 日本人の身体観を調べてくる。参考書「第2章」を読む。 | ⑬ | [テーマ] スポーツにおける美しさを考える<br>[内容] スポーツと美しさとの関係、およびスポーツと芸術との関係について解説する。<br>[授業外学修] 採点競技のルールについて調べてくる。参考書「第10章」を読 |
| ⑥ | [テーマ] 運動を指導するための考え方<br>[内容] 運動実践と運動習得、および運動実践と運動指導について解説する。<br>[授業外学修] これまでの自分自身の運動経験をまとめてくる。参考書「第3章」を | ⑭ | [テーマ] コミュニティとスポーツをめぐる諸問題<br>[内容] コミュニティとスポーツの現状と課題、およびコミュニティづくりにおけるスポーツの可能性について解説する。<br>[授業外学修] スポーツによる地域振興について調べてくる。参考書「第11章」を |
| ⑦ | [テーマ] 身体文化教育という考え方<br>[内容] 身体文化と教育の関係、芸道と身体、身体の模倣と学びについて解説する。<br>[授業外学修] 日本の伝統芸能について調べてくる。参考書「第4章」を読む。 | ⑮ | [テーマ] スポーツと人間との良好な関係を考える<br>[内容] スポーツがもつ功罪、スポーツとの良好な関係が崩れてしまう要因、良好な関係づくりに向けて求められるものについて解説する。<br>[授業外学修] 自分の好きなアスリートについて調べてくる。参考書「第12章」を読 |
| ⑧ | [テーマ] 体育・スポーツ指導者<br>[内容] 体育教師の専門性、運動部活動の指導者、体育・スポーツ指導者の身体について解説する。<br>[授業外学修] 部活動の課題を調べてくる。参考書「第5章」を読む。 | ⑯ | [テーマ] 論述形式での試験を実施<br>[内容] 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。<br>[授業外学修] 試験勉強 |

**成績評価方法（方針）**

基本的には、試験（70%）、課題（30%）とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容ももちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかも評価の対象とします。レポートの返却については申し出に応じて対応し、評価の高いレポートについては授業中に内容を紹介します。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 70% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | | 30% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ◎ | | 加点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
2. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。
3. 講義中は静寂を保ち、静寂を維持できない方は受講をやめてください。
4. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。
5. 詳細については第一回目の講義で説明します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教員免許状（中・高　保健体育）取得関連諸科目 | 関連資格 | 教員免許状（中・高　保健体育） |
| 教科書 | 指定なし。 | 参考書 | 髙橋徹編（2018）『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』<br>株式会社みらい．2,000円（税別） |
| オフィスアワー | 前期・後期とも水曜2時限目（予定） | その他 | 研究室：G棟2階　アドレス：tr-takahashi@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 解剖・生理学<br>Anatomy and Physiology (L.) | | | | 担当教員 | 髙橋陽介／柴原茂樹／(非常勤:和田) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校・大学のスポーツ現場、医療機関での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 健康管理や健康増進に携わる者にとって、また、運動・トレーニングを安全かつ効果的に行うためにも、からだの構造や機能などに関わる知識を身につける必要があり、これらの内容を十分に理解するためには、基礎的な解剖・生理学の知識が必要となる。このような観点から、本講義では人体の構造と機能に関する基礎的事項を解説する。 | i |

**授業の一般目標**

骨格と骨格筋、呼吸循環系、消化器系、内分泌系、神経系、免疫系などヒトのからだを構成する様々な器官系の構造(仕組み)を理解するとともに、これらの機能(働き)に関する基礎的知識(解剖学的・生理学的特徴)を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ヒトのからだを構成する人体各部の名称やその働きについて体系的に説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | ヒトのからだについて興味・関心を持つとともに、健康管理や運動指導に関わるうえでの解剖・生理学の重要性を認識できるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

基本的には教科書に準じて授業を行うが、授業テーマによってはスライドや資料を用いるが、担当教員の裁量で補助的な資料を提示することもある。全授業終了後の筆記試験によって理解度・到達度を確認する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(髙橋)<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価などについて説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] 血管系(和田)<br>[内容] 脈管系の構成および心収縮に伴う血管内の血圧等の変化について説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第7章を読んでおくこと。 |
| ② | [テーマ] 骨格と骨格筋(1)(髙橋)<br>[内容]アスレティックトレーナーとしての実務経験を活かし、頭頸部・上肢の構造と関節運動についてスポーツ現場での例を交えて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第3章を読んでおくこと。 | ⑩ | [テーマ] 血液と体液(和田)<br>[内容] 血液の一般的性質や血球成分、血漿および体液の区分等について説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第8章を読んでおくこと。 |
| ③ | [テーマ] 骨格と骨格筋(2)(髙橋)<br>[内容] 骨盤・下肢の構造と関節運動について説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第3章を読んでおくこと。 | ⑪ | [テーマ] 内分泌(柴原)<br>[内容] 生体の内部環境を調節する役割を担う内分泌系とホルモン分泌の仕組みについて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第15章を読んでおくこと。 |
| ④ | [テーマ] 骨格と骨格筋(3)(髙橋)<br>[内容] 骨格と骨格筋についてのまとめを行う。<br>[授業外学修] 教科書の第3章を読んでおくこと。 | ⑫ | [テーマ] 免疫系と生体防御(和田)<br>[内容] 病原性生物などによる感染を防ぐ役割をもつ免疫系の働きについて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第6章の白血球、リンパ球の項目を読んでおくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 細胞と人体の構成(和田)<br>[内容] 医師としての実務経験を活かし、人体を構成している細胞、組織、器官について医学的知識を交えて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第1章を読んでおくこと。 | ⑬ | [テーマ] 腎臓の構造と腎機能(和田)<br>[内容] 腎臓の構造と尿の生成の仕組みについて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第13章を読んでおくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 消化器系の構造と機能、消化吸収(和田)<br>[内容] 口腔、胃、小腸、大腸、膵臓、肝臓など食物の消化吸収に関わる器官の構造とその働きについて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第11章を読んでおくこと。 | ⑭ | [テーマ] 中枢神経系(髙橋)<br>[内容] 大脳、小脳、中脳、延髄、脊髄などの中枢神経系の構造と役割について解説する。<br>[授業外学修] 教科書の第4章の脳、脊髄の項目を読んでおくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 呼吸器系の構造と機能(和田)<br>[内容] 肺を中心とした呼吸器系の構造および呼吸運動、酸素・二酸化炭素運搬などについて説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第10章を読んでおくこと。 | ⑮ | [テーマ] 末梢神経系(髙橋)<br>[内容] 運動の指令や感覚情報を伝える体性神経系と内臓の機能に関与する自律神経系について説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第4章の脳神経、自律神経の項目を読んでおくこと |
| ⑧ | [テーマ] 心臓の構造とポンプ作用(和田)<br>[内容] 心臓の構造と心収縮に関わる刺激伝達系、血液を送り出すポンプ作用について説明する。<br>[授業外学修] 教科書の第6章を読んでおくこと。 | ⑯ | [テーマ] 試験(髙橋)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。<br>[授業外学修] これまでの授業内容(教科書、プリント)を復習しておくこと。 |

**成績評価方法(方針)**

授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 運動生理学(2年)、スポーツ医学概論(1年) | 関連資格 | 教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、NSCA-CPT、CSCS、障害者スポーツ指導員 |
| 教科書 | 人体の構造と機能　医歯薬出版 | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 第4体育館1階髙橋(陽)研究室　水曜日　12時50分～15時20分 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ史<br>Sport History(L.) | | | | 担当教員 | 藪　耕太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業は、個々のスポーツ種目の成り立ちではなく、スポーツを通じて近代社会の特徴や問題点を析出することを目的とする。なお、近代に着目するのは、この時代こそが私たちが生きる「いま・ここ」の基底をなしており、従って近代と向き合うことは、現代を理解し未来を展望することに繋がるからである。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i

**授業の一般目標**

スポーツをもって近代という時代・社会を語れる能力を獲得して欲しい。その際、近代の延長上にある現代の諸問題を射程に入れて、つまり現在や未来と過去とを結び付けて考察できればなお好ましい。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 近代スポーツについて多角的に考察でき、かつその眼差しをもって近代という時代、あるいは現代社会を投射できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 批判的思考力を駆使してスポーツの現在・過去・未来を語ることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 学術的な専門用語や概念を駆使できる。 |

**授業計画(全体)**

各回ごとに異なるひとつのテーマ(視点)に基づいて講義をするが、それらは全て上記の授業概要で示した大きなテーマに基づく。従って、スポーツの何を知っているか、ではなく、スポーツを通じて何を語れるか、ということに力点を置きたい。そのために、スポーツという文化そのものに着目するのではなく、その文化の成立を可能とさせる時代状況や社会背景を丹念に辿る。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　近代という時代<br>[内容]　現代とは、近代の延長線上にあり、かつそれを乗り越えようとする時代である。ここでは近代を理解する必要性と意義を説明する。<br>[授業外学修]　図書館などでスポーツ関連の著作に触れておく。 | ⑨ | [テーマ]　スポーツと栄養・健康<br>[内容]　養生から衛生、そして健康へと至る過程を通じて、生権力としての健康の意味を検討する。<br>[授業外学修]　体力章検定について調べる。 |
| ② | [テーマ]　近代体育の誕生<br>[内容]　市民革命期から近代国民国家の誕生過程を追いながら、国民形成と体育の関係を検討する。<br>[授業外学修]　グーツムーツやヤーンについて調べる。 | ⑩ | [テーマ]　スポーツとメディア<br>[内容]　新聞・ラジオ・テレビを通じて、メディアとスポーツの関係性の歴史的変化がもつ意味を検討する。<br>[授業外学修]　ラジオ体操について調べる。 |
| ③ | [テーマ]　スポーツと教育<br>[内容]　パブリックスクールを事例に、スポーツと教育との結合について検討する。<br>[授業外学修]　トマス・アーノルドについて調べる。 | ⑪ | [テーマ]　スポーツと伝統<br>[内容]　武道の誕生過程に着目し、それが創られた伝統であることを検討する。<br>[授業外学修]　柔道の歴史を調べる。 |
| ④ | [テーマ]　スポーツと階級<br>[内容]　スポーツを介したコミュニティ形成やシティズンシップの育成について検討する。<br>[授業外学修]　パブリックハウスについて調べる。 | ⑫ | [テーマ]　スポーツと国民<br>[内容]　スポーツに向けられた「眼差し」に着目し、国民という集合的身体が可視化される過程を検討する。<br>[授業外学修]　ラジオ体操について調べる。 |
| ⑤ | [テーマ]　スポーツと帝国主義<br>[内容]　植民地支配の道具としてのスポーツとスポーツを介した抵抗の可能性について検討する。<br>[授業外学修]　クリケットの歴史を調べる。 | ⑬ | [テーマ]　スポーツと政治<br>[内容]　思想善導の手段としてのスポーツについて、大正-昭和戦前期の日本を事例に検討する。<br>[授業外学修]　運動会の歴史を調べる。 |
| ⑥ | [テーマ]　スポーツとジェンダー/セクシュアリティ<br>[内容]　スポーツが生み出す様々な性差の問題について、幾つかの歴史的事例を挙げて検討する。<br>[授業外学修]　人見絹江について調べる。 | ⑭ | [テーマ] まとめ①<br>[内容]　第2回-第7回までの授業内容の振り返りと要点の確認。<br>[授業外学修]　配布済みのレジュメを利用して事前学習。 |
| ⑦ | [テーマ]　スポーツと人種<br>[内容]　スポーツと人種主義について、セントルイス五輪・ベルリン五輪・メキシコ五輪を事例に検討する。<br>[授業外学修]　いずれかの五輪について調べる。 | ⑮ | [テーマ] まとめ②<br>[内容]　第8回-第13回までの授業内容の振り返りと要点の確認。<br>[授業外学修]　配布済みのレジュメを利用して事前学習。 |
| ⑧ | [テーマ]　スポーツと労働<br>[内容]　スポーツが気晴らしからレクリエーション(労働力の再生産)へと移行することの意味を検討する。<br>[授業外学修]　新中間層ということばを調べる。 | ⑯ | [テーマ] 定期試験<br>[内容]　近代スポーツ史の知識をもとに近現代のスポーツの諸問題の所在を的確に抽出し批判できるかを判定する。<br>[授業外学修]　現代スポーツの問題点の洗い出し。 |

**成績評価方法(方針)**

成績の大部分は到達度確認テスト(定期試験)の点数で評価する。また、自学自習(授業外レポート)の提出の有無、回数、内容に応じて加点する。自学自習の提出は執筆要件を含めて任意だが、レポート作成時に利用した文献などの出典は必ず明記すること。それが無い場合は判定しない。優れた自学自習の内容は授業時間を通じてフィードバック(解説)し、添削のうえ提出者に返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 80% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・他者への迷惑となる行為には厳正に対処する。特に私語は絶対厳禁。
・プリント等は授業時にのみ配布する。数回分をまとめて配るので適切に管理すること。また取り損ねた場合は下記にアクセスして自力で入手すること。
https://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/　パスワード:sportshistory

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ社会学　体育原理　その他教養科目全般 | 関連資格 | 教員免許状(中高保体) |
| 教科書 | 使用しない | 参考書 | 授業時に適宜アナウンスする |
| オフィスアワー | 前期:月曜2コマ　後期:水曜2コマ | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ計量学<br>Metrics on Sports(L) | | | | 担当教員 | 菊地 直子／林 直樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 日本バドミントン協会医事・トレーニング管理部、分析スタッフの経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 体育・スポーツ場面において、様々なデータを採取し取り扱う必要性が高まってきている。本講義では②から⑧においては計量の概論と「スポーツにおける計量の実際」について、⑩から⑮においては統計的な「データの取り扱いの基礎」について、実務経験を活かしてそれぞれ解説する。 | i 、v |

**授業の一般目標**

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | データの意味を知り、2次データまで整理することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | データについて、正しく取り扱う慎重な態度が形成される。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

本講義は、まずスポーツ場面での計量を中心に解説し、後半にそのデータを統計的に解析し、現場にフィードバック可能なものにするまでの概要を解説する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(菊地・林)<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法、クラス分け<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ]中間テスト(林)<br>[内容] ②～⑧回分についてテストを行う。<br>[授業外学修]配布資料を熟読しておく。 |
| ② | [テーマ] 「スポーツ計量学」の意味と意義について考える(林)<br>[内容] 日常において行われる計量とスポーツにおける計量を比較してスポーツ計量の範囲を共に考え、スポーツ計量学の本質を解説する。<br>[授業外学修] 「スポーツ」「計量学」という言葉の定義を復習する。 | ⑩ | [テーマ]事象を計量する・調査研究の基本的な流れ(菊地)<br>[内容] 自然科学アプローチで一般的な統計解析を念頭に置き、スポーツ場面において計量することについて具体的なイメージを持たせる。<br>[授業外学修]配布資料を熟読しておく。 |
| ③ | [テーマ] 体力の測定・計量(林)<br>[内容]文部科学省の体力テストを含めた体力・運動能力テストの現状や内容を解説する。形態や姿勢を含めた体力の計量について議論する。<br>[授業外学修] 体力の概念をキーワードを用いて説明できるように復習する。 | ⑪ | [テーマ]データの種類,データの整理(菊地)<br>[内容] データの種類、尺度について解説する。度数分布表を使って名義、比尺度データの整理を説明した後、演習を通して理解させる。<br>[授業外学修]研究法と調査の流れについて復習しておく。 |
| ④ | [テーマ] 様々な体力の計量とその可能性(林)<br>[内容] パフォーマンスに影響を及ぼす「体力」の計量について、特に視力、聴力などを計量することの意味とその可能性を解説する。<br>[授業外学修]視覚情報獲得の「輻輳(ふくそう)」の構造を理解する。 | ⑫ | [テーマ] 代表値、散らばりの尺度(菊地)<br>[内容] 代表値、域値、四分位範囲、箱ひげ図の考え方と特徴について説明した後、演習を通して理解させる。<br>[授業外学修]配布資料等を熟読する。 |
| ⑤ | [テーマ] 血圧・血中乳酸を測定する(一次データの利用)(林)<br>[内容] 心臓から全身を巡る血液に関する基本的な計量を実際に紹介し、その意味や計量意義に関して解説する。血中乳酸の測定を紹介する。<br>[授業外学修] 乳酸の働きに関して復習し、競技場面での利用方法を考える。 | ⑬ | [テーマ] 標準偏差と標準化(菊地)<br>[内容] 標準偏差、標準化および偏差値について説明した後、演習を通して理解させる。<br>[授業外学修]配布資料を熟読し、 不明な点を抽出しておく。 |
| ⑥ | [テーマ] 位置情報から速度や角度を算出する(二次データの利用)(林)<br>[内容] 連続写真の中の位置の変化から距離や角度を算出し、時間微分することにより速度や角速度を算出する方法を解説する。<br>[授業外学修] 二次データの利用として速度の算出を完璧にマスターする。 | ⑭ | [テーマ] 2変数の相関(菊地)<br>[内容]ピアソンの積率相関係数の概要とその算出の仕方について説明した後、演習を通して理解させる。<br>[授業外学修]配布資料等を熟読する。 |
| ⑦ | [テーマ]加速度、力、運動量を算出する(二次データの利用)(林)<br>[内容] 算出した速度を更に時間微分し、加速度を算出する方法を解説する。そして加速度から力や運動量などを算出する方法を解説する。<br>[授業外学修] 提示した量的パラメータの意味について復習して理解する。 | ⑮ | [テーマ] T検定、$\chi^2$乗検定(菊地)<br>[内容]T検定と、クロス集計表の作成および、$\chi$2検定について説明した後、演習を通して理解させる。<br>[授業外学修]演習を見直し、課題を提出する。 |
| ⑧ | [テーマ]様々な測定・計量とその評価(林)<br>[内容] 量的・質的な計量手法を紹介し、それぞれの評価をフィードバックする適切な手法について解説する。<br>[授業外学修]図表やICT機器でのフォードバック方法を復習する。 | ⑯ | [テーマ] テストと総括(菊地)<br>[内容] ⑩～⑮回分のテストを行う。<br>[授業外学修]ここまでの復習、テストの準備をしておく。 |

**成績評価方法(方針)**

主に、定期試験の結果(前後半それぞれのテストの合計点)に重点をおいて評価する。
試験は授業内で返却し、解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | | 80% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ◎ | | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・簡易なもので構わないので、電卓を用意すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | スポーツプログラマー、健康運動実践指導者 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 火曜10:20～11:50(菊地) | その他 | |

| 授業科目名 | 衛生・公衆衛生学<br>Public Health(L.) | | | | 担当教員 | 高橋弘彦/小松正子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 健康診断実務経験を有する(小松) |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ |

**授業の一般目標**

衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

テキスト、配布資料、パワーポイントをもとに講義を中心に行う。学習効果を高めるための小問も随時課し、提出させる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 衛生・公衆衛生学とは (小松)<br>[内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する。公衆衛生と社会の関わりの実例を学ぶ。<br>[授業外学修]社会における役割について復習しておくこと | ⑨ | [テーマ] 環境の把握とその評価(1)(高橋)<br>[内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等)。<br>[授業外学修]地球環境問題とその影響についてについて復習しておくこと |
| ② | [テーマ]健康の概念、医事法規 (小松)<br>[内容]健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規等の制度についても学ぶ。<br>[授業外学修]他者に説明できるよう復習する。 | ⑩ | [テーマ] 環境の把握とその評価(2)(高橋)<br>[内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等)。<br>[授業外学修]生活環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと |
| ③ | [テーマ] 生活習慣病概論 (小松)<br>[内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。事例として、特定健診・特定保健指導についても学ぶ。<br>[授業外学修]各自の生活習慣を見直して、考察する。 | ⑪ | [テーマ] 環境の把握とその評価(3)(高橋)<br>[内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等)。<br>[授業外学修]化学的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと |
| ④ | [テーマ]健康づくり施策 (小松)<br>[内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷。健康診断現場での実務経験も活かし、大局的観点から現状をとらえ考察する。<br>[授業外学修]他者にも説明できるように復習する。 | ⑫ | [テーマ] 環境の把握とその評価(4)(高橋)<br>[内容] 生物的環境問題について(ウィルス感染症、HIV、AIDS他)<br>[授業外学修]生物的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 禁煙など<br>[内容] 公衆衛生上の身近な課題として、禁煙(運動の健康行動への影響等)、食中毒、有機溶剤などについて学ぶ。生活習慣変容を理解する。<br>[授業外学修]各自の生活を見直して、考察する。 | ⑬ | [テーマ] 物理的環境要因(1)(高橋)<br>[内容]気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する。<br>[授業外学修]生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 運動基準・運動指針 (小松)<br>[内容]健康づくりのための身体活動基準2013とアクティブガイド等を理解する。運動前のメディカルチェック(健診)の実務経験に基づくことがらにも触れる。<br>[授業外学修]各自の運動習慣を見直して、考察する。 | ⑭ | [テーマ] 物理的環境要因(2)(高橋)<br>[内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する。<br>[授業外学修]学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ]介護予防概論 (小松)<br>[内容]高齢社会で公衆衛生上の重要課題である介護予防について、考え方や実践例について学ぶ<br>[授業外学修]他者にも説明できるように復習する。 | ⑮ | [テーマ] まとめ (高橋)<br>[内容]全体を振り返る。<br>[授業外学修]各自、理解不足のところを補習すること |
| ⑧ | [テーマ] 軽度認知障害、認知症<br>[内容] 現代の課題である認知症や関連疾患について学ぶ<br>[授業外学修]他者にも説明できるように復習する。 | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 全15回の内容について知識の確認をする。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。そのほか、理解度確認のための小問を時折行い、その回答をまとめたものの配布・解説などする。試験の結果は希望者に開示・解説を行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | ○ | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | 注意参照 |
| 出席 | | | | |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
試験を欠席した場合(所定時間を経過し遅刻した場合も含む)、放棄となる。授業・掲示等をよく確認のこと。受講態度に著しい問題が認められた学生に対しては成績評価から減点する。授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 学校保健学等 | 関連資格 | 保体科教諭、健康運動指導士・実践指導者、社会福祉主事任用資格等 |
| 教科書 | 衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション) | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 高橋弘彦(木4・C棟3階)、小松正子(火2・F棟2階) | その他 | |

| 授業科目名 | 学校保健学<br>School Health (L.) | | | | 担当教員 | 小浜明/小松正子/高橋弘彦/入澤裕樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 中学・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 児童生徒及び教職員の健康の保持増進について、中学・高校での教育経験を有する一部担当教員の実務経験も活かしながら、担当教員全員が学校健康教育活動(保健教育と保健管理)の観点から講義を行なう。 | ii、iii |

**授業の一般目標**

学校保健の概要と心身両面からの保健管理(対人管理・環境管理)と、保健教育(保健学習・保健指導)を学び，理解することを目標とする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体育・スポーツ、健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、学校教育に関わる上で学校保健の果たす役割を深く理解している |
| ■ | 情意的領域 | 子どものいのちと健康を守ることを目的とする学校保健への関心や意欲が高く、子どもの健康課題を深く探求し、主体的に課題解決に取り組もうとしている |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるためのICTも用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、共同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行うこともある。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(小浜)<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]配布資料あり。オリエンテーションは必ず出席してください。 | ⑨ | [テーマ] 保健室の役割(小松)<br>[内容] 保健室の役割について<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ② | [テーマ] 「学校保健」とは何か(小浜)<br>[内容] 学校保健を探す<br>[授業外学修]レポート提出の指示がある場合はそれに従うこと | ⑩ | [テーマ] 学校でみられる疾病(小松)<br>[内容] 学校で多く見られる疾病・異常等について<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ③ | [テーマ] 身体の発育・発達(小浜)<br>[内容] 学童期の身体の発育・発達の特徴について<br>[授業外学修]]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑪ | [テーマ] 性教育・薬物中毒・小児生活習慣病(小松)<br>[内容] 避妊、薬物、小児糖尿病等に関する知識をビデオ供覧も行いながら修得する<br>[授業外学修]気になった点を参考書や図書館資料を使い調べること |
| ④ | [テーマ] 健康状態の評価(小浜)<br>[内容] 児童生徒の健康状態を把握するための指標について<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑫ | [テーマ] 学校でみられる重要な疾患(小松)<br>[内容] 心臓病、腎臓病など生活管理指導が特に必要な疾患について<br>[授業外学修]難しく感じた点、興味が沸いた点は図書館で調べること |
| ⑤ | [テーマ] 健康診断(小浜)<br>[内容] 学校で行われる健康診断について<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑬ | [テーマ] 学校管理下の事故の実態と防止(高橋)<br>[内容] 小・中・高校における事故発生状況とその予防について説明する<br>[授業外学修]学校区分ごとの事故発生状況とその要因を復習すること |
| ⑥ | [テーマ] 児童生徒の健康状態(小浜)<br>[内容] 児童生徒の健康状態の変遷と現在の課題について<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑭ | [テーマ] 学校環境衛生(高橋)<br>[内容] 点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと<br>[授業外学修]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 児童生徒の健康と教育(小浜)<br>[内容] 保健学習・保健指導について<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑮ | [テーマ] まとめ(入澤)<br>[内容] これまでの学習についてまとめる。<br>[授業外学修]これまで学習したところを復習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 心の発達と諸問題(入澤)<br>[内容] 事例を中心にして考える<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑯ | [テーマ] テスト(小浜・小松・高橋・入澤)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う<br>[授業外学修]テストに備えて復習をすること |

**成績評価方法(方針)**

期末試験を1回(評価割合90%)と、授業内レポート(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。なお、試験の結果は開示希望者を対象に開示しながら解説をする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 90% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | | 10% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | 欠格条件 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。(欠格条件)・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更をしたりする場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 衛生・公衆衛生学(2年)、保健体育科教育論Ⅱ(3年) | 関連資格 | 特に指定しない |
| 教科書 | 新版・基礎から学ぶ学校保健(建帛社) | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 小浜A棟314　前後期:火曜1420～1550 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツとマスメディア<br>Sports and massmedia | | | | 担当教員 | 日下三男 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 新聞社で記者経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツとマスメディアの関係を、歴史や実例など多角的な観点から講義する。記者経験を生かして、実態に即した切り口で解説する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅱ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

メディアが報じるスポーツの記事や番組が、どのように作られているかを学び、スポーツ記事や番組放送、あるいはメディアとどう接したらいいかを考える力(メディアリテラシー)をつける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツによる感動をメディアはどう伝えるのか、考える。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に学ぶ。 |

**授業計画(全体)**

新聞の紙面やテレビの映像を使いながら、具体的な例を基にメディアとスポーツの関係に理解を深める。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 何を学ぶか<br>[内容] 授業の全体像<br>[授業外学修]新聞やテレビ、雑誌のスポーツ報道に接する | ⑨ | [テーマ] 海外のスポーツ報道<br>[内容] 米国や欧州のメディアはスポーツをどのように伝えているのか。日本とのスタンスの違いを学ぶ。<br>[授業外学修]海外の代表的なスポーツ関係のメディアを調べておく |
| ② | [テーマ]メディアとは何か<br>[内容] マスメディアが置かれている現在の状況を説明するなかで、メディアとスポーツのかかわりを示す。<br>[授業外学修]新聞やテレビの報道に日頃から接する | ⑩ | [テーマ] 勝者と敗者の視点<br>[内容] 力道山vs木村政彦の一戦などをビデオ鑑賞し、勝者と敗者それぞれの立場から「戦評」を書く。<br>[授業外学修]地方紙、全国紙の書き方の違いを学んでおく |
| ③ | [テーマ] ヒーローの形成<br>[内容] 力道山、長嶋茂雄、円谷幸吉、イチローらのヒーローはいかにして生まれたか。メディアの果たした役割は？<br>[授業外学修]一般紙、スポーツ紙を読む | ⑪ | [テーマ] スポーツ報道とジェンダー<br>[内容] 女性アスリートをメディアはどう報じているかを検証する。<br>[授業外学修]メディアにおける女性アスリートの伝え方を考える |
| ④ | [テーマ] メガイベントとメディア<br>[内容] 五輪に代表されるビッグ大会にメディアはどう関わっているのかを探る。<br>[授業外学修]テレビのスポーツ中継を見る | ⑫ | [テーマ] 障害者スポーツとメディア<br>[内容] メディアの障害者スポーツ報道は2020東京パラで変わるのか。歴史をたどりながら予測する。<br>[授業外学修]障害者スポーツの報道で日頃疑問に思うことを整理しておく |
| ⑤ | [テーマ] スポーツの産業化とマスメディアの発達<br>[内容] 「ゴールデン・カップル」の誕生を歴史に探る。<br>[授業外学修]図書館で関係書物を探す | ⑬ | [テーマ] スポーツと芸術<br>[内容] スポーツと芸術は密接なかかわりを持つ。映画、文学、詩などの分野から優れた作品を鑑賞する。<br>[授業外学修]スポーツ関係の芸術作品に接する |
| ⑥ | [テーマ] スポーツイベントと広告<br>[内容] 広告論からスポーツを考える。<br>[授業外学修]スポーツ関係のキャッチコピーに接する | ⑭ | [テーマ] スポーツとAI<br>[内容]メディアはスポーツ報道でAI導入を進めている。メディア、そしてスポーツは新しい技術によってどう変わろうとしているのか。<br>[授業外学修]これまでの講義内容を復習し最終レポートにつなげる |
| ⑦ | [テーマ] 伝統競技とメディア<br>[内容] 独特な歩みをみせる大相撲報道を考える。<br>[授業外学修]大相撲関係のニュースをピックアップする | ⑮ | [テーマ] 最終レポート<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 物語ジャーナリズムとは何か<br>[内容] メディアは「物語」「ドラマ」でスポーツを語ろうとする一面がある。その功罪とは？<br>[授業外学修]日頃のスポーツ報道から「物語」を探す | ⑯ | [テーマ] 予備<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

出席状況と授業内レポートを加味し、定期試験(評価割合90%)の結果で総合評価する。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 90% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 10% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | △ | △ | △ | 減点対象 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・私語厳禁。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | メディア関係科目 | 関連資格 | |
| 教科書 | なし | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 木曜10:20～11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 企業スポーツ論<br>Corporate Sports | | | | 担当教員 | 日下三男／学外講師(ベガルタ仙台役員) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 新聞社での実務経験あり／J1クラブ現役役員 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 日本独自のスポーツ文化といえる企業スポーツの歴史、現状や実務経験を踏まえたプロスポーツ企業の実態を学びながら、これからの企業スポーツのあり方を考え、体育系大学生として将来の職業選択を含めた知識を蓄える。 | i、ii、v |

企業スポーツ全般についての知識を学ぶ。自分が関与していたり、興味を持っていたりするスポーツと企業との関係を知り、職業選択の一助とする。自分が興味を持っているスポーツの意味をほかの人にも理解してもらう知識と技術を学ぶ。授業では講義内容の感想を小作文で表すことがあり、文章表現にも慣れる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 企業活動とスポーツとの関連性に関する総合的な知識を修得する |
| ■ | 情意的領域 | 企業スポーツの実例に対して評価をすることができる |
| ■ | 技能表現的領域 | 企業スポーツの課題と展望に関して意見を述べることができる |

**授業計画(全体)**

講義を進めるなかで、それぞれのテーマについて知識や問題意識を高め、企業スポーツ全体についての理解を深めるようにする

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] なぜ企業スポーツを学ぶのか(日下)<br>[内容] 企業スポーツ論を学ぶ意義と授業計画についてオリエンテーションする。<br>[授業外学修]実業団スポーツの全般について調べる | ⑨ | [テーマ] 第2二章:事例研究Jリーグを考える④(学外講師担当)<br>[内容]Jの試合運営は多くの人手を必要とする。クラブ職員だけでは間に合わず、ボランティアに業務をお願いしているのが実態である。興行の実務を考える。<br>[授業外学修]Jリーグ各クラブの興行実績を調べる |
| ② | [テーマ]第1章:企業スポーツの歴史①(日下)<br>[内容] 日本における明治以降のスポーツそのものの歴史とあわせながら、戦前までの企業スポーツの歴史を解説する。<br>[授業外学修]日本における野球の歴史を調べること | ⑩ | [テーマ] 第2章:事例研究Jリーグを考える⑤(学外講師担当)<br>[内容]強いクラブ、弱いクラブの差は歴然となっている。格差は解消するのか。なぜ地域差が出てしまうのか。リーグで顕在化する「二極化」の光と影を追う。<br>[授業外学修]第二章を総括復習する |
| ③ | [テーマ]第1章: 企業スポーツの歴史②(日下)<br>[内容] 企業スポーツが興隆した戦後の歴史をたどる。とくに、女子バレーなどオリンピックへの企業スポーツの貢献を解説する。<br>[授業外学修]高校の教科書で日本の近代史・現代史を読み直すこと | ⑪ | [テーマ] 第2章の総括とレポート作成(日下)<br>[内容] Jリーグの誕生から現在に至るまでの歴史と現状を総括し、課題提起レポートを作成する。<br>[授業外学修]Jリーグとは別のプロリーグの実態を調べる |
| ④ | [テーマ] 第1章:企業スポーツの歴史③(日下)<br>[内容] バブル崩壊以降、休部や廃部が相次いだ企業スポーツの現在の動向を解説する。<br>[授業外学修]新聞・テレビの経済ニュースで廃部情報を集めること。 | ⑫ | [テーマ] 第3章:企業スポーツの現在と未来①(日下)<br>[内容] 企業スポーツの現況に関する実例を基に、現状の課題と将来への展望を考察する。「東京2020」への影響はあるのか？<br>[授業外学修]授業で扱う実例についてより詳しく調べること |
| ⑤ | [テーマ] 第1章の総括とレポート作成(日下)<br>[内容] 企業スポーツ発祥から発展の歴史を総括し、レポートを作成する。<br>[授業外学修]Jリーグの運営母体を調べる | ⑬ | [テーマ] 第3章:企業スポーツの現在と未来②(日下)<br>[内容] 海外事情を詳しく解説する。企業スポーツの現況に関する実例を基に、現状の課題と将来への展望を考察する。<br>[授業外学修]授業で扱う実例についてより詳しく調べること |
| ⑥ | [テーマ] 第2章:事例研究Jリーグを考える①(学外講師担当)<br>[内容]ベガルタ仙台の誕生を振り返る。前身ブランメル仙台の創設前夜の歴史を丹念に説明する。チームは企業名との決別を迫られる。<br>[授業外学修]実業団クラブの歴史を調べる | ⑭ | [テーマ] 第3章:企業スポーツの現在と未来③(日下)<br>[内容] 企業スポーツの現況に関する実例を基に、現状の課題と将来への展望、可能性を考える。<br>[授業外学修]授業で扱う実例についてより詳しく調べること |
| ⑦ | [テーマ]第2章: 事例研究Jリーグを考える②(学外講師担当)<br>[内容] 企業スポーツの実業団がプロリーグの発足で、どう変質したかを学ぶ。J57クラブの地域における挑戦はいかなるものだったのか。<br>[授業外学修]Jリーグの成り立ちをHPで調べること | ⑮ | [テーマ] 小論文(日下)<br>[内容] これまでの講義の総括と小論文の作成。<br>[授業外学修]小論文の論旨をまとめておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 第2章:事例研究Jリーグを考える③(学外講師担当)<br>[内容]Jリーグのクラブにとって プロ化の道は険しいものだった。スポンサー企業の獲得はどのように行われたのか。そして現状は？<br>[授業外学修]試合運営を補助するボランティアの実態を調べる | ⑯ | [テーマ] 予備<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

授業は3章で構成。各章終了時点で中間レポート、再講義終了後に小論文を提出、知識修得度と課題形成視点等を中心に総合評価する。提出されたレポートは解説しながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 40% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | ◎ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

- 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
- 私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。
- 出席日数が2/3に満たない場合は欠格となります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特にないが、なるべく多くの競技連盟や企業のHPを参照すること |
| オフィスアワー | (月)10:20-11:50 | その他 | |

| 授業科目名 | スポーツ政策論<br>Sport Policy(L.) | | | | 担当教員 | 永田秀隆 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツ政策の理論と制度について説明し、主に国によるスポーツ政策、地域のスポーツ政策、スポーツの国際政策について講義を行う。具体的な政策課題を取り上げながら、スポーツに関する政策の主体と構造を踏まえ、その決定プロセスについて解説する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i

**授業の一般目標**

国や地域、国際的なスポーツ政策に関する基礎的な知識を修得し、スポーツ政策をめぐる諸問題について理解を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 国や地域、国際的なスポーツ政策に関する基礎的知識を身につけ、特に日本におけるスポーツ政策の現状と課題について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツ政策の視点から、身近なスポーツに関する事業に興味を持つことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

資料を用いた講義を中心とする。スポーツ政策の理論と制度について解説した後、国によるスポーツ政策、地域のスポーツ政策、スポーツの国際政策について説明する。授業内課題に個人やグループで取り組むことにより理解を深める。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] スポーツ政策とは<br>[内容] 授業の概要、進め方について説明する。また、政策科学という領域ついて紹介しながら、スポーツ政策とは何かについて紹介する。<br>[授業外学修]政策とは何か発表できるようにしておくこと | ⑨ | [テーマ] 国によるスポーツ政策(4)<br>[内容] 日本の学校体育政策について、特に運動部活動の政策的展開と体育教員をめぐる諸課題について解説する。<br>[授業外学修]運動部活動とは何かについて発表できるようにしておくこと |
| ② | [テーマ] 日本のスポーツ行政組織<br>[内容] 日本のスポーツ行政組織を対象に、国と地方公共団体のスポーツ行政組織について説明する。<br>[授業外学修]スポーツに振興に関わる関連中央省庁について調べておくこと | ⑩ | [テーマ] 地域のスポーツ政策(1)<br>[内容] 地方自治体のスポーツ行政について説明する。また、国民体育大会の現状と課題についても解説する。<br>[授業外学修]国民体育大会の歴史について調べておくこと |
| ③ | [テーマ] スポーツ政策の形成過程<br>[内容] スポーツ基本法について紹介し、国レベルと地方公共団体におけるスポーツ政策の形成過程について説明する。<br>[授業外学修]スポーツ基本法の前文を読んでおくこと | ⑪ | [テーマ] 地域のスポーツ政策(2)<br>[内容] 地方自治体によるスポーツ産業振興について、プロ・スポーツチームの誘致やスポーツイベント開催等の事例を用いて解説する。<br>[授業外学修]地方自治体によるスポーツ産業振興の事例を調べておくこと |
| ④ | [テーマ] スポーツ政策の体系と実施<br>[内容] 日本のスポーツの行政計画について説明し、諸外国のスポーツ振興計画についても紹介する。<br>[授業外学修]自分が関心のある国のスポーツ振興計画について調べておくこと | ⑫ | [テーマ] スポーツの資格と雇用<br>[内容] 日本におけるスポーツに関わる資格について説明する。特に、日本体育協会の資格認定制度について紹介する。<br>[授業外学修]スポーツに関わる資格にどんなものがあるか調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] スポーツ政策の主体と構造<br>[内容] 日本のスポーツ統括団体の役割を中心に、スポーツ政策の主体とその構造について説明する。<br>[授業外学修]日本のスポーツ統括団体について調べておくこと | ⑬ | [テーマ] スポーツの国際政策<br>[内容] ヨーロッパを中心に、国際的なスポーツに関わる憲章等について紹介するとともに、国際連合のスポーツ政策についても解説する。<br>[授業外学修]政策の評価とはどのようなことか説明できるようなること |
| ⑥ | [テーマ] 国によるスポーツ政策(1)<br>[内容] スポーツの公共性という視点から、生涯スポーツという概念や日本の健康体力政策について説明する。<br>[授業外学修]生涯スポーツという概念について調べておくこと | ⑭ | [テーマ] オリンピックと政策<br>[内容] オリンピック競技大会の招致等のプロセスについて説明し、スポーツ政策の視点からオリンピック・ムーブメントについて解説する。<br>[授業外学修]諸外国におけるスポーツ政策について説明できるようになること |
| ⑦ | [テーマ] 国によるスポーツ政策(2)<br>[内容] 日本の競技スポーツ政策について説明する。また、アンチ・ドーピング政策についても解説する。<br>[授業外学修]アンチ・ドーピングに関する活動について調べておくこと | ⑮ | [テーマ] 本講義のまとめ<br>[内容] 授業内容の振り返りを行い、事前に出題された課題に関する解説を行う。<br>[授業外学修]出題された課題に取り組むこと |
| ⑧ | [テーマ] 国によるスポーツ政策(3)<br>[内容] 日本のスポーツ施設の現状と政策課題について解説する。また、スポーツ施設の設置基準と整備計画、管理運営についても説明する。<br>[授業外学修]日本のスポーツ施設の現状について調べておくこと | ⑯ | [テーマ] 筆記試験<br>[内容] 授業の理解度を確認するため、筆記試験を行う。<br>[授業外学修]授業内容を振り返り、試験準備をおこなうこと |

**成績評価方法(方針)**

テスト(50%)、授業内課題(30%)、授業外課題(20%)、以上を総合して成績評価を行う。提出された課題は授業において解説し、返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | ○ | ◎ | | 30% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 加点 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業は静粛を条件とし、質問に対しては積極的に発言すること。
・授業計画は、進捗状況により変更することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ経営学(1年)、スポーツ社会学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年) | 関連資格 | |
| 教科書 | 指定しない | 参考書 | 菊幸一ら編(2011)スポーツ政策論. その他授業中に適宜紹介する。 |
| オフィスアワー | 木曜3限 | その他 | ai-aramaki@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 障害者とスポーツ<br>Adapted Sports (L.)(P.A) | | | | 担当教員 | 早川公康／関矢貴秋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 特別支援学校教員、障害者スポーツ上級指導員、健康運動指導士、CSCS、幼少年体育指導士として実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業は、障害者のスポーツに関する歴史、制度、指導等について講義を行う。また、実際に障害者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について実技も行う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

障害者スポーツに関する知識や考え方を学び、理解を深める。また、実際にいくつかのスポーツを体験し、障害者の競技スポーツにおける道具やルールの工夫や配慮事項について理解し、実際の指導方法について思考する能力を身に付け、対応できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 障害者スポーツについて、基本的な知識や考え方に関して説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 障害者スポーツについて、指導的立場で考え、取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 障害者スポーツについて、配慮事項、安全管理を考え、対応できる。 |

**授業計画(全体)**

講義は、主に授業テーマに沿った資料を用いるが、必要に応じて視聴覚教材も用いる。ディスカッションも行い、障害者とスポーツに関して理解を深める。小テストや授業内レポートにより、理解度を確認する。実技は、実際に体験し、各競技スポーツの安全管理についてレポート提出により確認する。特別支援学校教員、障害者スポーツ上級指導員、健康運動指導士、CSCS、幼少年体育指導士としての実務経験もふまえつつ授業を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(関矢・早川)<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを確認すること | ⑨ | [テーマ]重度障がい者のスポーツ(早川)<br>[内容] 重度障がい者のスポーツについて解説する<br>[授業外学修]重度障がい者のスポーツの資料を見直すこと |
| ② | [テーマ] 障がいのある人たちのスポーツ(早川)<br>[内容] 障がいのある人たちのスポーツ実践例を紹介する<br>[授業外学修]障がいのある人たちのスポーツに関する資料を見直すこと | ⑩ | [テーマ] 冬季パラリンピック(早川)<br>[内容] 冬季パラリンピックを紹介し、その意義について説明する<br>[授業外学修]冬季パラリンピックの資料を見直すこと |
| ③ | [テーマ] 障がい者とは・障がい者の分類・アダプテッド(早川)<br>[内容] 障がい者とは・障がい者の分類・アダプテッドについて解説する<br>[授業外学修]障がい者の分類・アダプテッドの資料を見直すこと | ⑪ | [テーマ] 障がい者とスポーツの理論のまとめ(早川)<br>[内容] 障がい者とスポーツの理論をまとめる<br>[授業外学修]障がい者とスポーツの理論に関する資料を見直すこと |
| ④ | [テーマ] 夏季パラリンピック(早川)<br>[内容] 夏季パラリンピックを紹介し、その意義について説明する<br>[授業外学修]夏季パラリンピックに関する資料を見直すこと | ⑫ | [テーマ] 実技 車いすの操作と応用(関矢)<br>[内容] 医療用車いす、競技用車いす、足こぎ車いすの機能と操作方法の学習<br>[授業外学修]どのような障害の方に活用されているか調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 障害をどうとらえるか・障害の理解(早川)<br>[内容] 障害のとらえ方・障害の理解について解説する<br>[授業外学修]障害をどうとらえるか・障害の理解の資料を見直すこと | ⑬ | [テーマ] 実技 車椅子スラローム(関矢)<br>[内容] 車椅子スラロームとはどのような競技かを紹介し、実際に体験する<br>[授業外学修]なぜ競技種目となっているか説明できるようにしておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 障がい児の学校体育・スポーツ(早川)<br>[内容] 障がい児の学校体育・スポーツの実践例を紹介する<br>[授業外学修]障がい児の学校体育・スポーツの資料を見直すこと | ⑭ | [テーマ] 実技 シッティング・ハンドボール(関矢)<br>[内容] シッティング・ハンドボール、シッティング・諸ゲームのルールなどを紹介し、実際に体験する<br>[授業外学修]ルールや道具の工夫について理解しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 障がい者の競技スポーツ(早川)<br>[内容] 障がい者の競技スポーツについて解説する<br>[授業外学修]障がい者の競技スポーツの資料を見直すこと | ⑮ | [テーマ] シッティング・バレーボール(関矢)<br>[内容] シッティング・バレーボール、シッティング・諸ゲームのルールなどを紹介し、実際に体験する<br>[授業外学修]ルールや道具の工夫について理解しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 障がいの受容へのプロセス(早川)<br>[内容] 障がいの受容へのプロセスについて解説する<br>[授業外学修]障がいの受容へのプロセスの資料を見直すこと | ⑯ | [テーマ] 実技のまとめ(関矢)<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために実技のまとめを行う<br>[授業外学修]課題レポートに備えて復習をすること |

**成績評価方法(方針)**

講義の試験は、期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内小テスト・レポート(評価割合10%)を課す。実技の評価は、授業における実技(評価割合40%)と学外活動レポート(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。試験やレポート等は、必要に応じて解説をしながら返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 40% |
| 授業内レポート | | ◎ | | 10% |
| 授業外レポート | ◎ | | | 10% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | | | 減点アリ |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、価値的に、多少変更することがある。
・各種イベントを見学したり、参加したりする学外の活動も必要である。学外行事への自発的な参加を期待する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 各種教育系・運動系・健康系・医学系科目等 | 関連資格 | 障がい者スポーツ指導員(初級・中級) |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 『障がい者スポーツ指導教本(初級・中級)』 |
| オフィスアワー | 月曜14:30～16:00早川 | その他 | 早川研究室(F206) |

| 授業科目名 | 音楽・器楽演奏<br>Instrumental music performance | | | | 担当教員 | 荒井　富雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本学は体育系大学として、各専門スポーツで培ったチームワークのよさを、音楽実技を通してコミュニケーション能力を高め、他を思いやる心の育成を計る。 | iv |

**授業の一般目標**

音楽のもつ多様なコミュニケーション能力を用いて、人間関係を円滑で豊かにする資質を養う。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 音楽の三要素の一つであるリズムは、体育活動においても重要な要素であることを認識できるようになる。 |
| ■ | 情意的領域 | 音楽活動を通して音楽の一体化を図れるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

1.キーボードを使って各自のレベルに応じた曲を弾く
2.二部合唱練習
3.有名作曲家の物語りを通して作品や時代背景等の学習（ビデオやDVDの鑑賞）

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]オリエンテーション後の授業テーマの取り組みについて考える | ⑨ | [テーマ] 合唱練習<br>[内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習<br>[授業外学修]合唱・器楽を通して仲間との心の問題を考える |
| ② | [テーマ] 音楽の三要素<br>[内容] ①音楽の三要素　②これからの合唱における各パート決め<br>[授業外学修]音楽の三要素の成り立ち、自己の声域について考える | ⑩ | [テーマ] 合唱練習<br>[内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習<br>[授業外学修]合唱・器楽を通して仲間との心の問題を考える |
| ③ | [テーマ] 合唱練習<br>[内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習<br>[授業外学修]自己パート反復練習 | ⑪ | [テーマ] 合唱発表<br>[内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する<br>[授業外学修]仲間の表現力や曲想への考え方を知る |
| ④ | [テーマ] 合唱練習<br>[内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習<br>[授業外学修]自己パート反復練習 | ⑫ | [テーマ]　器楽演奏発表<br>[内容]　器楽演奏発表<br>[授業外学修]音楽を表現する前の心の準備や精神力の持ち方を考える |
| ⑤ | [テーマ] 合唱発表<br>[内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する<br>[授業外学修]合唱効果を高める練習方法の思考 | ⑬ | [テーマ] 鑑　賞<br>[内容] 鑑　賞<br>[授業外学修]鑑賞することにより、心の変容はどうか検討する |
| ⑥ | [テーマ] 鑑　賞<br>[内容] 鑑　賞<br>[授業外学修]鑑賞した曲との関連作品を聴く | ⑭ | [テーマ] 鑑　賞<br>[内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）<br>[授業外学修]自他との鑑賞成果を評価する |
| ⑦ | [テーマ] 鑑　賞<br>[内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）<br>[授業外学修]自他との鑑賞成果を評価する | ⑮ | [テーマ] まとめ(レポート)<br>[内容] まとめ(レポート)<br>[授業外学修]自他との精神面や技術面での関わり方について思考する |
| ⑧ | [テーマ] 音楽心理学<br>[内容] ①音楽心理学　②ボディパーカッション(リズムアンサンブル)<br>[授業外学修]音楽を通じての感情の持ち方、心の変化を考える | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 実技テスト<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

毎時間の授業態度(興味・関心・意欲・態度)など50点、実技試験30点、レポート20点の配分で総合的に評価する。
出席率が2/3以上に達しない者は、原則として評価の対象外とする。(各時間毎に、準備した評価カードに学生の自己評価を記入させる。)

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | 20% |
| 演習・実技 | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | ◎ | | | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・毎週の90分の授業参加では、単位を修得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通して行うこと。 |

| 授業科目名 | 水上安全法(含実習)<br>Aquatic Life Saving | | | | 担当教員 | 渡邉 泰典 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・実技 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業では、水難事故を未然に防ぐための具体的な方法と、万一の事故に適切に対処するための自己保全ならびに一次救命処置の方法について講義と実践形式で展開する。日本赤十字社水上安全法および日本ライフセービング協会ウォーターセーフティー双方のメソッドを導入し、水辺で「命」を守るための基礎技能を養成する。 | v |

**授業の一般目標**

水難事故の発生リスクと事故を未然に防ぐための要点をよく理解し、自己保全に努めることができる。万一、水難事故に遭遇した場合でも、生きながらえるための浮き身の方法と人命救助のための方法を修得し、状況に応じて適切に使い分けることができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 水難事故の現状、発生リスク、事故を未然に防ぐための具体的な方法と、一次救命処置の方法を正しく説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 人命尊重の精神、水泳指導者としての安全確保と事故防止の精神について知る。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 立ち泳ぎ、横泳ぎ、浮き身と人命救助(心肺蘇生を含む)のための基本的な技能を身につける。 |

**授業計画(全体)**

前半4回の授業は教室にて水上安全法の理論を講義する。その後プールにて実技に移行する。第1段階は基礎泳力として立泳ぎ、横泳ぎを教示し、第2段階で浮き身と救助法、第3段階で心肺蘇生法について理論と実践を併用して説明する。これと平行して海浜実習を利用し、補助学生という立場で必修参加させ、実地での指導マナー・救助マニュアルを体験させる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 水上安全法とは何か、救助員資格取得と本授業との関連性、授業の進め方等について教室にて説明し、再度、受講の意思確認する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読すること。 | ⑨ | [テーマ] キャリー&一次救命処置方法紹介【実技】<br>[内容] 溺者上陸後、担ぎ方・おろし方(ﾌｧｲｱﾏﾝｽﾞｷｬﾘｰ)から心肺蘇生法までの方法を紹介する。<br>[授業外学修] 実技試験に備え、よく練習しておくこと。 |
| ② | [テーマ] 水上安全法理論Ⅰ【講義】<br>[内容] 日本赤十字社と日本ライフセービング協会の人命救助の精神と意義について学ぶ。<br>[授業外学修] 資格取得に向けてよく復習すること。 | ⑩ | [テーマ] キャリー&一次救命処置方法訓練【実技】<br>[内容] 溺者上陸後、担ぎ方・おろし方(ﾌｧｲｱﾏﾝｽﾞｷｬﾘｰ)から心肺蘇生法までの方法を練習する。<br>[授業外学修] 実技試験に備え、よく練習しておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 水上安全法理論Ⅱ【講義】<br>[内容] 水難事故の現状と発生リスク、事故を未然に防ぐための具体策について学ぶ。<br>[授業外学修] 資格取得に向けてよく復習すること。 | ⑪ | [テーマ] 水上安全法(救助法)に関わる実技試験【実技】<br>[内容] 「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」「水難者への接近」「キャリー&一次救命処置」の実技試験を実施する。<br>[授業外学修] 遠征作業に合わせ、携帯品等を準備しておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 水上安全法理論Ⅲ【講義】<br>[内容] 水難事故における対処法を「救助者」「要救助者」の双方の視点から学ぶ。<br>[授業外学修] 次回より実技を開始する。事前にプールで泳いでおくこと。 | ⑫ | [テーマ] 海浜実習指導補助・救助体験【実技】<br>[内容] 海浜実習実施前日より現地出発、事前準備・事前指導救助訓練実施。本隊合流後、指導・救助補助に当たる。<br>[授業外学修] 報告会にあわせ、体験談をレポートにまとめておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 水上安全法(救助法)に関わる基礎技能紹介【実技】<br>[内容] 救助のための基礎泳力となる「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」等を解説するとともに、受講生の能力を確認する。<br>[授業外学修] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと。 | ⑬ | [テーマ] 海浜実習補助指導・救助体験報告【講儀】<br>[内容] 海浜実習体験、帰還後、反省を含めた報告会を実施する。<br>[授業外学修] 次回筆記試験に合わせ、理論について、復習しておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ]水上安全法(救助法)に関わる基礎技能訓練【実技】<br>[内容] 救助のための基礎泳力となる「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」を練習をする。<br>[授業外学修] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと。 | ⑭ | [テーマ]水上安全法(救助法)筆記試験【講儀】<br>[内容] 本授業初期に学んだ水上安全法理論を主に、指導補助体験から得た指導法・救助法について筆記試験を実施する。<br>[授業外学修] 採点結果を踏まえ、よく復習しておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 水上安全法(救助法)における水難者への接近方法紹介【実技】<br>[内容] 溺者発見から「順下飛び」→「出足・フロントクロール」→「潜水」→「接近」→「チンプル」→「逆アオリ」→「キャリー」→上陸までの手順を紹介する。<br>[授業外学修] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと。 | ⑮ | [テーマ] 授業総括【講儀】<br>[内容] 本授業の総括とともに、本授業目標に対し、習得状況を確認し、授業点検評価を実施する。<br>[授業外学修] 資格取得に向けてよく復習すること。 |
| ⑧ | [テーマ] 水上安全法(救助法)における水難者への接近方法訓練【実技】<br>[内容] 溺者発見から「順下飛び」→「出足・フロントクロール」→「潜水」→「接近」→「チンプル」→「逆アオリ」→「キャリー」→上陸までの手順を練習する。<br>[授業外学修] 実技試験に備え、よく練習しておくこと。 | ⑯ | [テーマ]水上安全法(救助法)最終実技試験【実技】<br>[内容] 日本赤十字社救助員資格のための実技ノルマ未修得者を対象に最終実技テストを実施する。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

フロントクロール、立ち泳ぎ、横泳ぎ、潜水及び一次救命処置に関わる実技すべてに合格して(可)評価となる。加えて、順下飛び、接近、キャリーを正しく遂行できるようになれば(良)評価、状況に応じて複数のキャリーを使い分けられれば(優)評価となる。溺者発見から一次救命処置までの一連の行程を正確且つ素早く遂行できる高技能者は(秀)評価となる。試験は、授業内で解説しながらフィードバックする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 10% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
①1年次開講の水泳実技科目および海浜実習科目を受講済みで単位修得者に限る。
②7月中旬に実施される海浜実習に補助学生として参加しなくてはならない。
③習得スキルが多いので公認欠席以外の欠席は許されない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 水泳、海浜実習、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)、スポーツコーチング実習(渡邉泰クラス) | 関連資格 | 日本スポーツ協会公認水泳コーチ1、日本スポーツ協会公認水泳コーチ3 |
| 教科書 | なし | 参考書 | なし |
| オフィスアワー | 火曜日12:00～13:00 (LC棟2階207研究室) | その他 | 連絡先:ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ<br>Intermediate Athletic Training Ⅰ | | | | 担当教員 | 髙橋陽介 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 遠隔授業 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 米国スポーツを取り巻く環境や体制を学習することで、アスレティックトレーナー職域拡大の背景や教育体制などを知る。また、最新の動向についても知識を深める。<br>英単語を用いながら学生自ら積極的に参加する授業スタイルを通して、英語学習の重要性を知り、海外留学の意欲を高める。 | ⅱ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

・米国でアスレティックトレーナーの職域が拡大した背景を述べることができる。
・米国アスレティックトレーニングの最新の動向を理解し、意見を述べることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | アスレティックトレーニング用語を英語を用いて学習できる。米国アスレティックトレーナーの実際を理解する |
| ■ | 情意的領域 | アスレティックトレーニングにおける国際的な感覚を身に付ける |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

学生からの発言が進行を左右する為、各自の強い積極性が求められる。また、ハワイ大学のオンライン授業支援システム「Laulima（ラウリマ）」を利用し、レポートなどの課題を提出することが要求される。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法の説明<br>[授業外学修]Emailアカウントの取得 | ⑨ | [テーマ] Hot Topic③ 続き<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]プレゼンテーション発表用の資料を作成する |
| ② | [テーマ]Hot Topic①<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]Hot Topicの内容を各自リサーチし、復習する | ⑩ | [テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション<br>[内容] Hot Topic③で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する<br>[授業外学修]プレゼンテーション資料を加筆・修正する |
| ③ | [テーマ] Hot Topic① 続き<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]プレゼンテーション発表用の資料を作成する | ⑪ | [テーマ] Hot Topic④<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]Hot Topicの内容を各自リサーチし、復習する |
| ④ | [テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション<br>[内容] Hot Topic①で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する<br>[授業外学修]プレゼンテーション資料の加筆・修正をする | ⑫ | [テーマ] Hot Topic④ 続き<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]プレゼンテーション発表用の資料を作成する |
| ⑤ | [テーマ] Hot Topic②<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]Hot Topicの内容を各自リサーチし、復習する | ⑬ | [テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション<br>[内容] Hot Topic④で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する<br>[授業外学修]プレゼンテーション資料の加筆・修正をする |
| ⑥ | [テーマ] Hot Topic② 続き<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]プレゼンテーション発表用の資料を作成する | ⑭ | [テーマ] Hot Topic⑤<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]Hot Topicの内容を各自リサーチし、復習する |
| ⑦ | [テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション<br>[内容] Hot Topic②で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する<br>[授業外学修]プレゼンテーション資料の加筆・修正をする | ⑮ | [テーマ] Hot Topic⑤ 続き<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]これまで学んだHot Topicを各自復習し、まとめる |
| ⑧ | [テーマ] Hot Topic③<br>[内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介<br>*テーマは随時変更<br>[授業外学修]Hot Topicの内容を各自リサーチし、復習する | ⑯ | [テーマ] 総括<br>[内容] 学生による過去の授業における復習と質疑応答<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

出席は3分の2以上（欠格条件）。評価は、授業態度50%、そして授業外レポート25%、授業内プレゼンテーションが25%となる。提出されたレポートやプレゼンテーションは、授業内で解説しながら評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 25% |
| 授業外レポート | | | | 25% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ◎ | | 50% |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本授業は双方参加型の通信システムを利用した遠隔授業である為、学生に対し強い積極性が求められる。また、専門用語等に英語が用いられ、内容も比較的高度になることから、事前の予習・復習が重要となる。
・各学生は「Laulima」利用にあたり、学期開始までにEmailアドレスの取得をしなければならない。
・ハワイ大学スクーリングへの参加が期待される。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | NATAアスレティックトレーナーの実際II | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | 各種医学英和辞典、英和辞典 |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10 | その他 | 連絡先：第4体育館1階研究室（3） 髙橋（陽）研究室 |

| 授業科目名 | NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅱ<br>Intermediate Athletic Training Ⅱ | | | | 担当教員 | 山口貴久 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | アスレティックトレーナー現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本科目はインターネット環境を利用したハワイ大学との遠隔授業「NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ」の発展クラスであり、インストラクターがハワイから英語を用いて基礎解剖を説明、また代表的なスポーツ症例を実務経験を踏まえて解説する。 | ⅰ、ⅱ |

**授業の一般目標**

米国のアスレティックトレーニングに関する題材を軸に機能解剖学の用語を英語で説明できる。アスレティックトレーナーに対する認識を深め、米国と日本のアスレティックトレーニングにおける状況を比較し説明することができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 基本的な解剖学用語、アスレティックトレーニング用語を英語で理解し活用できる。アスレティックトレーニングの本質を説明できる |
| □ | 情意的領域 | |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

インターネット環境を活用し、ハワイから現地講師が基礎解剖と代表的なスポーツ症例を英語を交えて解説する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修] Laurima利用方法の復習 | ⑨ | [テーマ] Wrist, Hand & Fingers[手関節、手、手指]<br>[内容] 手関節、手、手指の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 次回復習の質問を持参する。中間試験の準備を開始する。 |
| ② | [テーマ] Language of Anatomy 「解剖学用語」<br>[内容] 解剖学をる理解する上で必要な用語(英語)を紹介する。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Surface of Anatomy」についてまとめる | ⑩ | [テーマ] Midterm Review 「復習」<br>[内容] 学生による過去の授業における質問<br>[授業外学修] ラウリマでの中間試験の受験を開始する。 |
| ③ | [テーマ] Surface of Anatom 「表面解剖学」<br>[内容] 人体の表層部の解剖学的名称を紹介する。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Language of Athletic Training」についてまとめる | ⑪ | [テーマ] Midterm Exam「中間試験」<br>[内容] 中間試験<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Hip」についてまとめる |
| ④ | [テーマ] Language of Athletic Training 「アスレティックトレーニング用語」<br>[内容] アスレティックトレーニングで普段使われる用語などを紹介する。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Axial Division」についてまとめる | ⑫ | [テーマ] Hip「股関節」<br>[内容] 股関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Knee」についてまとめる |
| ⑤ | [テーマ] Axial Division 「体幹部」<br>[内容] 体幹部の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Appendicular Division」についてまとめる | ⑬ | [テーマ] Knee 「膝関節」<br>[内容] 膝関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Ankle & Foot」についてまとめる |
| ⑥ | [テーマ] Appendicular Division 「付属骨格/筋」<br>[内容] 四肢の骨格/筋肉の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Shoulder」についてまとめる | ⑭ | [テーマ] Ankle & Foot「足関節/足部」<br>[内容] 足関節/足部 の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 次回復習の質問を持参する。 |
| ⑦ | [テーマ] Shoulder 「肩関節」<br>[内容] 肩関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Elbow」についてまとめる | ⑮ | [テーマ] Final Review「復習」(予備日)<br>[内容] 学生のよる過去の授業における質問<br>[授業外学修] 期末試験の準備をする。 |
| ⑧ | [テーマ] Elbow 「肘関節」<br>[内容] 肘関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。<br>[授業外学修] 授業資料を基に「Wrist, Hand, & Fingers」についてまとめる | ⑯ | [テーマ] Final Exam「期末試験」<br>[内容] 期末試験<br>[授業外学修]期末試験の振り返りを行う。 |

**成績評価方法(方針)**

最終成績は出席3分の2以上。出席は評価割合に加えず、欠格条件とする。中間試験(評価割合50%)、期末試験(50%)、小テスト(試験に加点)の結果で評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本授業は双方参加型の通信システムを利用した遠隔授業である。学生による発表が中心である為、学生に対し強い積極性が求められる。
・専門用語等に英語が用いられ、内容も比較的高度になることから、事前の予習・復習が重要となる。
・学生は「Laulima」利用にあたり、学期開始までにEmailアドレスの取得をしなければならない。
・Laulimaを通して、小テスト、定期試験を実施する

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ | 関連資格 | |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 各種医学英和辞典、英和辞典 |
| オフィスアワー | 山口:第4体育館1階 水曜日 12時40分～14時10分 | その他 | |

| 授業科目名 | レジャー・レクリエーション論<br>Theory of leisure and recreation (L.) | | | | 担当教員 | 仲野　隆士 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | レク指導者養成テキスト作成の実務経験あり |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。レク指導者養成テキスト作成等の実務経験を活かし、国内外におけるレジャー・レクの現状や課題、意義や価値といった観点から講義を行う。 | i 、ii 、iv |

**授業の一般目標**

社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる |
| ■ | 情意的領域 | レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーションとイントロダクション<br>[内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他<br>[授業外学修] シラバスを読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと |
| ② | [テーマ] レクリエーション活動と健康の関係<br>[内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する<br>[授業外学修] 配布資料で復習しておくこと | ⑩ | [テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して)<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと |
| ③ | [テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑪ | [テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連)<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと |
| ④ | [テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑫ | [テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1　高齢社会の課題とレクリエーション<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと |
| ⑤ | [テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史的変遷・1<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | ⑬ | [テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2　少子化の課題とレクリエーション<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史的変遷・2<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | ⑭ | [テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3　地域の課題とレクリエーション<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] レクリエーション運動の変遷<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと | ⑮ | [テーマ] レクリエーション事業の計画と安全<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] レジャー・レクリエーションの機能<br>[内容] パワーポイントのスライドを用い説明する<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 持込可の筆記試験を実施する<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 50% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 50% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レク支援論、野外・レク・マネジメント論(含演習)など | 関連資格 | レクリエーション・インストラクター　レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編 | 参考書 | 『やさしいレクリエーション実践』(財)日本レクリエーション協会編 |
| オフィスアワー | 金曜日2限(10:20-11:50) | その他 | A棟508・仲野研究室 |

| 授業科目名 | レクリエーション支援論<br>Instruction method for recreation activities(L. ) | | | | 担当教員 | 仲野　隆士 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | レク指導者養成テキスト作成の実務経験あり |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本講義では、レクリエーション運動を推進する上で多領域において重要な役割を担うであろうレクリエーション支援者が理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に概説する。レク指導者養成テキスト作成等の実務経験を活かし、他領域におけるレク支援の観点から講義を行う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅳ

**授業の一般目標**

レクリエーション運動を推進するレクリエーション支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 支援者として求められる問題解決技法、レジャーカウンセリング、イベント企画などの基礎がわかる |
| ■ | 情意的領域 | 支援者として支援する楽しさや喜びがわかる |
| ■ | 技能表現的領域 | グループワークやプレゼンテーション資料の作成などを通して、支援に必要な技術を高める |

**授業計画(全体)**

新世紀を迎えた現在、私達はこれまでにない多くの自由時間を得ている。その余暇社会の中において、レクリエーション支援者の果すべき役割は過去のどの時代よりの重要になっていくであろう。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 授業オリエンテーション<br>[内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他<br>[授業外学修] シラバスを読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] レクリエーションサービス論<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ② | [テーマ] レクリエーション支援者の支援場面に学ぶ<br>[内容] レクリエーションのベテラン支援者の支援場面のビデオを観察し、どのような点で優れているのか、個々の支援者の個性はどうなのか、自分ならどのように支援しよう<br>[授業外学修] 授業で気づいたことをまとめておくこと | ⑩ | [テーマ] レクリエーション・マーケティング1<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ③ | [テーマ] レクリエーション指導・支援の意味と役割<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑪ | [テーマ] レクリエーション・マーケティング2<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ④ | [テーマ] レクリエーション指導・支援の原則<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑫ | [テーマ] ネットワーキング<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ⑤ | [テーマ] レクリエーション指導・支援の技術<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑬ | [テーマ] プレゼンテーション<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ⑥ | [テーマ] レクリエーション指導・支援の内容と支援者に求められる資質<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑭ | [テーマ] プロモーション<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ⑦ | [テーマ] レクリエーション支援の理論<br>[内容] 上記テーマについて板書しながら解説する<br>[授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと | ⑮ | [テーマ] 会議の持ち方、経理・財務管理<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] 配布資料を復習しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] レクリエーション組織の経営論<br>[内容] 資料を配布し、説明する<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 持ち込み「可」による筆記試験を実施(レポート形式)<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

筆記試験(レポート形式)の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 40% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
興味関心の強い学生は、教室の前の方で受講してほしい。また、教室後方で受講する学生も、周りに迷惑を及ぼすような言動や行動を慎むことを基本的なルールとする。質問のある学生は、授業中に質問してもかまわないし、研究室に来て質問をしてもかまわない。
黒板に書かれた内容のみをノートに書き写すのではなく、説明などの話で重要と思われる内容はメモするように心がけてほしい。
出席は毎回取るので、試合や実習等で欠席する場合は欠席届を提出。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レジャー・レクリエーション論、野外レクマネ論(含む演習) | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 『レクリエーション・コーディネートのすすめ方』(財)日レク協会編 | 参考書 | 『レクリエーションマネジメント』・『レジャーカウンセリング』(財)日本レクリエーション協会編 |
| オフィスアワー | 金曜2限 | その他 | 仲野研究室・A棟508 |

| 授業科目名 | レクリエーション実技Ⅰ<br>Practical Skill on Recreation Ⅰ(P.A.) | | | | 担当教員 | 南條/伊藤、小池/高崎 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | レク指導者や社会教育主事講習などの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| レク支援者は、単にレク種目(レク財)を伝達するだけではない。人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめ、価値ある人生と社会への一歩を築く方向性めざす支援を行う。ここでは、レク指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクなどでの支援能力を養成する。 | ⅰ、ⅲ、ⅴ |

**授業の一般目標**

実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について。 |
| ■ | 情意的領域 | 様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる |
| ■ | 技能表現的領域 | ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。 |

**授業計画(全体)**

基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション 南條/伊藤、小池/高崎<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け<br>[授業外学修] 授業ノート・1回目に記入 | ⑨ | [テーマ] 体力づくりゲーム 南條、高崎<br>[内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する(ハードル設定を用いる)<br>[授業外学修] 授業ノート・9回目に記入 |
| ② | [テーマ] 室内ゲーム1 伊藤、小池<br>[内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングゲームを紹介する<br>[授業外学修] 授業ノート・2回目に記入 | ⑩ | [テーマ] 体解しゲーム 南條、高崎<br>[内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する(ハードル設定を用いる)<br>[授業外学修] 授業ノート・10回目に記入 |
| ③ | [テーマ] 室内ゲーム2 伊藤、小池<br>[内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングゲームで、前回とは異なる内容を紹介する<br>[授業外学修] 授業ノート・3回目に記入 | ⑪ | [テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ1 南條、高崎<br>[内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ)<br>[授業外学修] 授業ノート・11回目に記入 |
| ④ | [テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 伊藤、小池<br>[内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動<br>[授業外学修] 授業ノート・4回目に記入 | ⑫ | [テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ2 南條、高崎<br>[内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ペタンク)※インドア、アウトドア両方<br>[授業外学修] 授業ノート・12回目に記入 |
| ⑤ | [テーマ] コミュニケーション・ワーク 伊藤、小池<br>[内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験<br>[授業外学修] 授業ノート・5回目に記入 | ⑬ | [テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ3 南條、高崎<br>[内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー<br>[授業外学修] 授業ノート・13回目に記入 |
| ⑥ | [テーマ] レクリエーションダンス 伊藤、小池<br>[内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス(音楽に合わせた身体活動を含む)<br>[授業外学修] 授業ノート・6回目に記入 | ⑭ | [テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ4 南條、高崎<br>[内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー)<br>[授業外学修] 授業ノート・14回目に記入 |
| ⑦ | [テーマ] 身近なものを用いたレクリエーション 伊藤、小池<br>[内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目(レクリエーション財)の体験(CSSプロセスを用いる)<br>[授業外学修] 授業ノート・7回目に記入 | ⑮ | [テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ5 南條、高崎<br>[内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目<br>[授業外学修] 授業ノート・15回目に記入 |
| ⑧ | [テーマ] 室外ゲーム 伊藤、小池<br>[内容] 様々な室外ゲームを紹介する(CSSプロセスを用いる)<br>[授業外学修] 授業ノート・8回目に記入 | ⑯ | [テーマ] 総括 南條/伊藤、小池/高崎<br>[内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

出席状況、学習態度、授業ノートの内容により総合的に評価する 授業ノートはコメントを付した上で返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 80% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ◎ | 20% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レク実技Ⅱ、レジャー・レク論、野外・レク・マネジメント論など | 関連資格 | 各種レクリエーション指導者資格 |
| 教科書 | 特に無し | 参考書 | 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』日本レクリエーション協会偏 |
| オフィスアワー | 小池:水4限、高崎:水4限 | その他 | F棟2F |

| 授業科目名 | レクリエーション実技Ⅱ<br>Practical Skill on Recreation Ⅱ(P. A. ) | | | | 担当教員 | 仲野・小池・高崎・井上 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | レク指導者や社会教育主事講習などの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作　小池:支援実習1(レク種目指導)　高崎:支援実習2(レク活動の創作)　井上:支援実習3(スタンツ)　学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する。 | ⅰ、ⅲ、ⅴ |

**授業の一般目標**

様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 創作や演出の基本や留意点が理解できる |
| ■ | 情意的領域 | 人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく |
| ■ | 技能表現的領域 | レクダンス・レクゲーム・スタンツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく |

**授業計画(全体)**

＜ローテーション＞　はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・井上 )
①クラス (1体 → 4体 → 剣道)　②クラス (4体 → 剣道 → 1体)　③クラス (剣道 → 1体 → 4体)　各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション・仲野1<br>[内容] 授業の全体像を理解する ・ アイスブレイクの技法 :受講学生全員並びに班分けされた班員相互の雰囲気作りをねらいいとしたアイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ | ⑨ | [テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3<br>[内容] ①指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習　②グループによる指導演習(ロールプレイ)　③指導演習評価　④レクリエーション指導のまとめ |
| ② | [テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング　仲野2<br>[内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニングその1:1対1(2人)→2対2(4人)→4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる | ⑩ | [テーマ] レク活動の創作1・高崎1<br>[内容] レクリエーション活動の創作について、1)その学習の必要性、2)基本的な創作の方法について、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。 |
| ③ | [テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング　仲野3<br>[内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニングその2　リピートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する | ⑪ | [テーマ]　レク活動の創作2・高崎2<br>[内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。 |
| ④ | [テーマ] レクリエーションダンス　仲野4<br>[内容] レクリエーションダンスの技法:ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。後半に、オリジナルレクダンスのテーマ曲を発表し、創作への手順や留意点を説明する。 | ⑫ | [テーマ]　レク活動の創作3・高崎3<br>[内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。 |
| ⑤ | [テーマ] レクリエーションダンス　仲野5<br>[内容] レクリエーションダンスの捜索:設定されたテーマ曲を確認し、曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをしていき、レクダンスを完成させる。 | ⑬ | [テーマ]　スタンツとは　井上1<br>[内容]　スタンツがどのようなものかを体験的に学ぶ。まずスタンツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタンツを作成し、発表する。<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] レクリエーションダンス　仲野6<br>[内容] レクリエーションダンスの発表会:最終リハーサルが終了したら、オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。 | ⑭ | [テーマ]　スタンツのバリエーション　井上2<br>[内容]　楽しく面白いスタンツを作るための導入ゲームを幾つか紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタンツの練習を行う。<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1<br>[内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション　②指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習　③グループによる指導演習(ロールプレイ)　④指導演習評価 | ⑮ | [テーマ]　スタンツの発表　井上3<br>[内容]　グループごとにスタンツを発表し、受業生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタンツを用いる際の留意点を説明する。<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ]　レクリエーションゲーム指導演習・小池2<br>[内容] ①指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習　②グループによる指導演習(ロールプレイ)　③指導演習評価 | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | 70% |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | | |
| 演習・実技 | | ◎ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レク実技Ⅰ、レジャー・レク論、レク支援論など | 関連資格 | 各種レクリエーション指導者資格 |
| 教科書 | 特に無し | 参考書 | 『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会偏　他 |
| オフィスアワー | 仲野:月3限、小池:水4限、高崎:水4限、井上:　限 | その他 | A棟508、F棟2F、F棟2F、 |

| 授業科目名 | エアロビックダンス<br>Aerobic Dance | | | | 担当教員 | 渋谷　祐子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | インストラクターとしての実務経験あり |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

iii、iv

**授業の一般目標**

エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。 |

**授業計画（全体）**

各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について。<br>[授業外学修]授業の振り返り | ⑨ | [テーマ] 指導法1<br>[内容] 集団の運動指導について説明する。<br>配布資料を理解しておくこと。<br>[授業外学修]配布資料の理解 |
| ② | [テーマ] エアロビックダンス体験1<br>[内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する。<br>[授業外学修]授業の振り返り | ⑩ | [テーマ] 指導法2<br>[内容] 集団の運動指導について説明する。<br>配布資料を理解しておくこと。<br>[授業外学修]配布資料の理解 |
| ③ | [テーマ] エアロビックダンス体験2<br>[内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。実技のため体調管理、ケガの予防を伝える。<br>[授業外学修]授業の振り返り | ⑪ | [テーマ] プログラム作成1<br>[内容] メインエクササイズの運動プログラム作成について説明する。<br>配布資料を理解しておくこと。<br>[授業外学修]配布資料の理解 |
| ④ | [テーマ] エアロビックダンス体験3<br>[内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する。筋力トレーニング（自重負荷運動）について説明する。実技のため体調管理、ケガの予防を伝える。<br>[授業外学修]授業の振り返り | ⑫ | [テーマ] プログラム作成2<br>[内容] 作成したプログラムの修正を行う（グループ発表）<br>プログラムを覚え指導練習をすること。<br>[授業外学修]指導練習の反復 |
| ⑤ | [テーマ] エアロビックダンスの基礎理論<br>[内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。配布資料を理解しておくこと。<br>[授業外学修]配布資料の理解 | ⑬ | [テーマ] プログラム作成と指導1<br>[内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表）<br>[授業外学修]指導練習の反復 |
| ⑥ | [テーマ] メインエクササイズの運動強度について<br>[内容] 指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する。配布資料を理解しておくこと。<br>[授業外学修]配布資料の理解 | ⑭ | [テーマ] プログラム作成と指導2<br>[内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表）<br>テストに備えて復習をすること。<br>[授業外学修]復習 |
| ⑦ | [テーマ] 対象者別の運動プログラム体験<br>[内容] 対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する。<br>[授業外学修]授業の振り返り | ⑮ | [テーマ] テスト1<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。<br>[授業外学修]テスト対策 |
| ⑧ | [テーマ] 筆記テスト<br>[内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する。<br>[授業外学修]テスト対策 | ⑯ | [テーマ] テスト2<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。<br>[授業外学修]テスト対策 |

**成績評価方法（方針）**

試験は、実技試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合30%）と、学習態度（評価割合10%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | | ◎ | 30% |
| 授業外レポート | | | | 予定なし |
| 演習・実技 | | ◎ | | 10% |
| 授業態度 | | ◎ | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（放棄とみなす）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。見学者は申告すること。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまい、マナーモードにすること。
・実技中心なのでシューズ、ウエア、水分を各自用意すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 健康運動実践指導者・健康運動指導士 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、「エアロビックダンスEX理論」（社）日本フィットネス協会 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通しとすること。 |

| 授業科目名 | ニューゲームズ<br>New Games(P.A.) | | | | 担当教員 | 仲野隆士・弓田恵里香・佐藤周平 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | レク指導者や社会教育主事講習などの実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本授業では、これまでに考案されてきたニュー・ゲームを領域毎に紹介し実践する。さらに、最後の2回は全体授業とし、新しいオリジナルゲームを考案する方法について学習した上で、グループ毎に実際にオリジナルゲームを考案し、他のグループに対して発表する場面を設定する。 | i 、iii 、v |

**授業の一般目標**

限られた用具(体育館の倉庫に配置されているボールやネットなど)を用い、創意工夫を凝らして新しいオリジナルゲームを考案し提供する能力(応用力)を習得する。最終的には、学校での授業や行事、地域でのレクリエーションなどで指導・支援できる能力を養成する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ルールや用具などのアレンジの仕方がわかる・できる |
| ■ | 情意的領域 | ルールを変えることで面白さが変化することを知り、ルールを変える遊び心と好奇心の大切さがわかる |
| ■ | 技能表現的領域 | 既存のスポーツをアレンジすることで新たに出現するニューゲームの楽しみ方を実践を通して理解できる |

**授業計画(全体)**

＊ 全体を3つに分けたグループ毎に、各教員の授業を4回受ける。4回終了したら、次の教員の授業を4回というようにローテーションしていく。なお、最後の2回は仲野・弓田・佐藤の3名が合同で担当する。14回目以降は1体に集合し、全体で実施する。最終回は各班が考案したオリジナルニューゲームを発表する(説明書は提出)。各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(仲野・弓田・佐藤)<br>[内容] 授業の全体像の理解と教員の把握、班分けと名簿作成<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] フライングディスク(弓田4)<br>[内容] フライングディスク その3 これまでの技能を用いてアルティメットを体験し、グループで戦術的課題を考案し、挑戦する<br>[授業外学修] |
| ② | [テーマ] バスケットボール型(仲野1)<br>[内容] バスケットボール型ニューゲームの概要を説明し，体験していく中でオリジナルなバスケットボール型ニューゲームについて思案する<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ] ラケット型1・テニスのアレンジ1(佐藤1)<br>[内容] 体育館の室内で実施可能なテニスをベースとしたパドルテニス・ラケットテニス・フリーテニスについて体験的に学習する<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ] バレーボール型1(仲野2)<br>[内容] バレーボール型ニューゲームの概要を説明し，既に紹介されているバレーボール型のニューゲームを体験していく<br>[授業外学修] | ⑪ | [テーマ] ラケット型2・テニスのアレンジ2(佐藤2)<br>[内容] テニスコートにてプレイステイのボールを用いたテニス形のアレンジを学ぶと共に、テニス型のニューゲームを思案する<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] バレーボール型2(仲野3)<br>[内容] バレーボールのルールや用具をアレンジしてできる様々なバリエーションを体験するとともに、バレーボール型のニューゲームズを思案する<br>[授業外学修] | ⑫ | [テーマ] ラケット型3・バドミントンのアレンジ(佐藤3)<br>バドミントンコートを使用し、バドミントンをアレンジしたニューゲーム(含むリングテニス・フリンゴ)を体験的に学ぶと共にニューゲームを思案する<br>[授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] サッカー型(仲野4)<br>[内容] サッカー型ニューゲームの概要を説明し，体験していく中でオリジナルなサッカー型ニューゲームについて思案する<br>[授業外学修] | ⑬ | [テーマ] ラケット型4・卓球のアレンジ(佐藤4)<br>[内容] 卓球をアレンジした様々なニューゲームを体験的に学ぶと共に卓球方のニューゲームを思案する<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] フライングディスク(弓田1)<br>[内容] フライングディスク その1 フライングディスクの種目等について概説し、基本的なスローを用いてアキュラシーなどを体験する<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] ニューゲーム作成の考え方と方法の理解(仲野・弓田・佐藤)<br>[内容] ニューゲームを考案するには、どのような考え方や作成手順が必要か理解する。その上で、班毎にニューゲーム考案の作業を開始する<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] フライングディスク(弓田2)<br>[内容] フライングディスク その2 子どもから高齢者まで楽しめるドッジビーを用いたゲームを体験する<br>[授業外学修] | ⑮ | [テーマ] オリジナルニューゲームの作成と説明書作成(仲野・弓田・佐藤)<br>[内容] オリジナルニューゲームを完成させ、指定された用紙にまとめる。授業後半に、作成したニューゲームズを他の班に紹介する。<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] フライングディスク(弓田3)<br>[内容] フライングディスク その3 基本スロー以外の応用について学習し、アルティメットの基礎についても学習する<br>[授業外学修] | ⑯ | [テーマ] レポート提出<br>[内容] 体験したことについて各自が振り返り、それをレポートにまとめ提出する<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

出席を重視すると共に、レポート提出内容、グループ毎の授業への取り組みや態度を考慮して、総合的に判断して評価を出す。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 0 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱなど | 関連資格 | レクリエーション・コーディネーター |
| 教科書 | 特に無し | 参考書 | 『新しい軽スポーツのすすめ』仲野隆士・原田宗彦 杏林書院 |
| オフィスアワー | 仲野:金2限、弓田:火4限、佐藤:金4限 | その他 | A508、A504、LC棟2F |

| 授業科目名 | ソフトボール<br>Softball (P.A.) | | | | 担当教員 | 入澤裕樹・森本吉謙・小野寺和也 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する<br>高校部活動での外部指導者の経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| ソフトボールは、投・打・走・捕など、基本的運動の多くが含まれるベースボール型のスポーツ種目である。本授業では、ベースボール型種目指導の実務経験のある教員が基本的な技術や戦術を概説し、また、それらを習得するための各種の練習方法を紹介する。加えて、ゲームを通じて、実際のゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。 | i 、iii、v |

**授業の一般目標**

ソフトボールにおける技術や戦術の基本、およびそれらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようになり、かつ集団競技の中で他所との関わりを積極的に持つことが出来るようになる。特にソフトボール特有の技術であるウインドミル投法に関しては、最終的に自身が出来るようになると同時に、適切な指導法を身に付ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ソフトボールの基本的な技術や戦術およびそれらの練習方法を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 集団競技として積極的に他社との関わりを持てるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 理解したことを実践でき、加えてウインドミル投法ができるようになる。 |

**授業計画(全体)**

毎時間テーマに沿った各技術を学習した後、それらの技術を発揮しやすいケースで試合形式の実践を行う。先ずキャッチボール、投手のウインドミル投法、野手の守備といった個人の防御技術、および、基本的な打撃、バントやヒットエンドラン等の戦術的な打撃といった個人の攻撃技術を学習する。その後に、併殺プレイや内外野の連携プレイといった集団における防御技術の学習へと発展する。最終的にはチームに分かれてリーグ戦を行い、実際のゲームの中で勝敗を競い合う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 講義ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを事前に読むこと | ⑨ | [テーマ] 集団の防御技術⑧ (送球および併殺プレイ)<br>[内容] 主に内野における連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の戦術に関する教本を読むこと |
| ② | [テーマ] 個人の防御技術① (キャッチボールの基本)<br>[内容] キャッチボールの基本を学び各種ドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の守備に関する教本を読むこと | ⑩ | [テーマ] 集団の防御技術⑨ (内外野の連携プレイ)<br>[内容] 内外野の連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の戦術に関する教本を読むこと |
| ③ | [テーマ] 個人の防御技術② (ウインドミル投法その1)<br>[内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する<br>[授業外学修]ソフトボールの投手の投法について調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 審判法<br>[内容] 試合における審判の判定方法およびジェスチャーを学ぶ<br>[授業外学修]ソフトボールのルールブックを事前に読むこと |
| ④ | [テーマ] 個人の防御技術③ (ウインドミル投法その2)<br>[内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する<br>[授業外学修]ソフトボールの投手の投法について調べておくこと | ⑫ | [テーマ] ゲーム①<br>[内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節)<br>[授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 個人の防御技術④ (野手の基本技術)<br>[内容] ゴロ処理、フライ処理の習得のためのドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の守備に関する教本を読むこと | ⑬ | [テーマ] ゲーム②<br>[内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節)<br>[授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 個人の攻撃技術⑤ (打撃の基本技術その1)<br>[内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の打撃教本を読むこと | ⑭ | [テーマ] ゲーム③<br>[内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節)<br>[授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと |
| ⑦ | [テーマ]個人の攻撃技術⑥ (打撃の基本技術その2)<br>[内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の打撃教本を読むこと | ⑮ | [テーマ] ゲーム④<br>[内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節)<br>[授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 個人の攻撃技術⑦ (戦術的な攻撃と走塁)<br>[内容] バント、ヒットエンドラン等の戦術的な打撃を習得するための各種ドリルを実践する<br>[授業外学修]ベースボール型種目の戦術に関する教本を読むこと | ⑯ | [テーマ] テスト(実技試験)<br>[内容] 授業の理解度、技術の習熟度をテストする<br>[授業外学修]示される実技試験内容について事前に練習すること |

**成績評価方法(方針)**

試験は、授業内にて実技試験を1回実施する(評価割合100%)。試験後には評価についての振り返りを行う。
授業中における態度は試験結果からの減点対象となる。
出席は欠格条件とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | |
| 授業態度 | | ○ | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
バットやグローブ等の用具の準備、後片付けを全員で協力して行うこと。また、遅刻者については、ウォーミングアップが不十分となるので、障害防止の観点から授業参加を認めない場合もある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。実技試験を実施し、授業内で口頭にて技能の振り返りを行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | ジュニアスポーツ指導員 |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日 14:20～15:50 (入澤) | その他 | 研究室(入澤):A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 新体操<br>Rhythmic Gymnastic (P.A) | | | | 担当教員 | 神野未来 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | (公財)日本スポーツ協会 公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。(公財)日本スポーツ協会公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を活かし、競技・指導者育成の観点から授業を行う。 | i |

**授業の一般目標**

学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 様々な基本動作の内容が説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 新体操の演技をフレーズで創ることができる。 |

**授業計画(全体)**

新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。
技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方<br>[授業外学修] 軽度の運動を行い、身体のコンディションを整える | ⑨ | [テーマ] フープ②<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とフープの基本操作を覚える。 |
| ② | [テーマ]ロープ①<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とロープの基本操作について、ポイントを整理する。 | ⑩ | [テーマ] フープ③<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。<br>[授業外学修] 事前にフープの操作方法について復習してくる。 |
| ③ | [テーマ] ロープ②<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とロープの基本操作を覚える。 | ⑪ | [テーマ] リボン①<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とリボンの基本操作について、ポイントを整理する。 |
| ④ | [テーマ] ロープ③<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。<br>[授業外学修] 事前にロープの操作方法について復習してくる。 | ⑫ | [テーマ] リボン②<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とリボンの基本操作を覚える。 |
| ⑤ | [テーマ] ボール①<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とボールの基本操作について、ポイントを整理する。 | ⑬ | [テーマ] リボン③<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回までのリボンの操作と連係をもとに演技を創作する。<br>[授業外学修] 事前にリボンの操作方法について復習してくる。 |
| ⑥ | [テーマ] ボール②<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とボールの基本操作を覚える。 | ⑭ | [テーマ] クラブ①<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とクラブの基本操作について、ポイントを整理する。 |
| ⑦ | [テーマ] ボール③<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。<br>[授業外学修] 事前にボールの操作方法について復習してくる。 | ⑮ | [テーマ] クラブ②<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とクラブの基本操作を覚える。 |
| ⑧ | [テーマ] フープ①<br>[内容] ・徒手の動作について覚える。<br>・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。<br>[授業外学修] 徒手動作とフープの基本操作について、ポイントを整理する。 | ⑯ | [テーマ] 演技発表会<br>[内容] ・創作した演技を発表する。<br>[授業外学修] 事前に創作した演技を復習してくる。 |

**成績評価方法(方針)**

個人の創作演技の内容と、発表会でのスキル、新体操への理解度も含め、総合して成績評価を行う。
授業内での協力的な貢献度や授業態度についても、成績評価の判断の材料とする。
尚、発表会で求める個人のスキルについては、評価の基準を授業内で説明する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | | ○ | 20% |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日 14:20～15:50 | その他 | 研究室:第4体育館1階 |

| 授業科目名 | ダンスⅡ<br>DANCEⅡ(P.A) | | | | 担当教員 | 山梨　雅枝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ダンス振付及び公演運営の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本授業では[ダンスⅠ(1・半期)]で学んだ内容に加え、実務経験を生かして、舞台効果(音響、照明、構成など)について学ぶ。授業の最終目標としては、会場を貸しきり、地域の方々も交えたダンス発表会(DanDanDance＆Sports)へ出演する。これらの活動から、催し物の企画・運営能力も養う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅴ

**授業の一般目標**

互いが持つ能力を互いに享受し合い、創作作品を創り上げていく。また、舞台に立つ体験することでしか得ることのできない学び、個人が持つ「表現力」の多様性を実感する。運営委員として公演開催に関する準備にも積極的に関わり、責任をもって行動する能力を養う。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 公演の運営に携わることで、自分ができる仕事を自ら見つけ、責任を持って実行する力がある。 |
| ■ | 情意的領域 | 表現することに興味・関心を持ち、公演をきっかけに多くの人々と触れ合う中で心動かされる体験をする。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 身体表現を通じて、見る側と見られる側とのコミュニケーションを行う。 |

**授業計画(全体)**

動きを引き出す為に必要と思われる方法を互いに持ち寄り、実践しながら検討する。その過程でよい方法を導き出し、作品づくりへと移行していく。
最終的には、4分程度の発表会への参加作品を創り、出演する。
ダンス発表会へは実行委員として関る。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法について。<br>[授業外学修]鑑賞したDVDについてレポートを作成する | ⑨ | [テーマ] 創作活動 ③<br>[内容] 創作活動を進める。<br>[授業外学修]選曲を行う |
| ② | [テーマ]演歌で踊ろう ①<br>[内容] 歌詞内容に合った振付を考える。<br>[授業外学修] | ⑩ | [テーマ] 創作活動 ④<br>[内容] 創作活動を進める。<br>[授業外学修]振付を考える |
| ③ | [テーマ] 演歌で踊ろう ②<br>[内容]] 歌詞内容に合った振付を考える。<br>[授業外学修]演歌の選曲を行う | ⑪ | [テーマ] 創作活動 ⑤<br>[内容] 創作活動を進める。また、衣装を考える。<br>[授業外学修]衣装を作成する |
| ④ | [テーマ] 演歌で踊ろう ③<br>[内容] 歌詞内容に合った振付を考える。<br>[授業外学修]演歌の歌詞について確認する | ⑫ | [テーマ] 中間発表<br>[内容] グループごとに、創作作品を発表する。VTRに記録し、自分たちで確認、改善する。<br>[授業外学修]自班の作品についてレポートを作成する |
| ⑤ | [テーマ] 演歌で踊ろう ④<br>[内容] 歌詞内容に合った振付を考える。<br>[授業外学修]振付を考える | ⑬ | [テーマ] 創作活動 ⑥<br>[内容] 改善すべき箇所の検討、作品を完成度を高める。また、照明案・音響案を作成する。<br>[授業外学修]照明案について考える |
| ⑥ | [テーマ] 学内発表<br>[内容] 観客を招き、学内発表を行う。<br>[授業外学修]衣装を作成する | ⑭ | [テーマ]創作活動 ⑦<br>[内容] 作品を完成させる。また、照明案・音響案を作成する。<br>[授業外学修]作品の練習を行う |
| ⑦ | [テーマ] 創作活動 ①<br>[内容] 前年度までの受講生が実施した、Dandandance＆SuportsのDVDを観て、作品づくりの手がかりとする。<br>[授業外学修]鑑賞したDVDについてのレポートを作成する | ⑮ | [テーマ] リハーサル<br>[内容] 発表会作品のリハーサルに加え、運営全般の最終確認を行う。<br>[授業外学修]衣装や舞台の出入りについて確認する |
| ⑧ | [テーマ] 創作活動 ②<br>[内容] 作品のテーマ、曲などについて話し合いを進める。話し合いの内容を記録し、次週に活動を繋げる。<br>[授業外学修]作品のテーマを考える | ⑯ | [テーマ] 公演<br>[内容] 作品を発表するとともに、他の作品を鑑賞し、表現の多様性について学ぶ。<br>[授業外学修]公演についてのレポートを作成する |

**成績評価方法(方針)**

ダンス公演 「DAN DAN DANCE & SPORTS 16th」に参加作品を創作し、出演することが単位取得の最低条件である。公演当日をまでの積極的な取り組みや出席状況を総合的に評価する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | ◎ | 50% |
| 授業内レポート | ○ | ○ | | 5% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | ◎ | ◎ | 15% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。
・体調管理を怠らない。(飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。)
・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。
①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。
②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。
③服装については、授業担当者の指示に従うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ダンス Ⅱ | 関連資格 | 教員免許状(中高保体)、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 | 参考書 | ナンシー・レイノイズ,マルコム・マコーミック『20世紀ダンス史』慶応義塾大学出版,2013 |
| オフィスアワー | 火曜日:13:00～15:30 | その他 | 山梨研究室:第4体育館1階 |

| 授業科目名 | ゴルフ<br>Golf (P.A.) | | | | 担当教員 | 内野秀哲 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| ゴルフの歴史、ルール、マナー・エチケット等の関連知識、及びゴルフに必要なスキルなどについて、実技実習などを通して解説する | i 、ii 、iii、iv、v |

**授業の一般目標**

ゴルフの種目特性を理解し、適切に競技進行するための基礎知識・技能を習得する

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 用具の役割や特徴が説明できる |
| ■ | 情意的領域 | 状況や自身の能力に応じて、適切な道具が選択できる |
| ■ | 技能表現的領域 | 状況に応じて適切に道具を使用できる |

**授業計画(全体)**

本実習は実技実習を学外の一般施設で行うため、便宜上2コマ連続の8週分の期間で実施する。基礎理論の学習の後、難易度の低い用具から順に効率的に実習を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 1週目①:オリエンテーションのグループ編成<br>[内容] 授業の履修方法と実習時のグループ編成などについて説明する<br>[授業外学修] 配布されたオリエンテーション資料をよく読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] 5週目⑨:ロングアイアン1<br>[内容] ＃4アイアンまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ② | [テーマ] 1週目②:ゴルフの基礎知識<br>[内容] ゴルフの基礎知識について説明する<br>[授業外学修] 図書館などを活用し、ゴルフの概要程度の知識を得ておくこと | ⑩ | [テーマ] 5週目⑩:ロングアイアン2<br>[内容] ＃3アイアンまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ③ | [テーマ] 2週目③:ゴルフの競技・コースの解説<br>[内容] ゴルフの競技方法、競技コースの解説を行う<br>[授業外学修] 図書館などを活用し、ゴルフ競技の実際例を調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 6週目⑪:ウッド1<br>[内容] パフィーまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ④ | [テーマ] 2週目④:ルールと用具の解説<br>[内容] 競技ルールとマナー・エチケット、用具の解説を行う<br>[授業外学修] 図書館などを活用し、ルールとマナーについて調べておくこと | ⑫ | [テーマ] 6週目⑫:ウッド2<br>[内容] スプーンまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 3週目⑤:ショートアイアン1<br>[内容] サンドウェッジ、ピッチングウェッジの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと | ⑬ | [テーマ] 7週目⑬:ウッド3<br>[内容] ドライバーまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 3週目⑥:ショートアイアン2<br>[内容] ＃9アイアン、＃8アイアンの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと | ⑭ | [テーマ] 7週目⑭:ウッド3<br>[内容] ドライバーまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 4週目⑦:ミドルアイアン1<br>[内容] ＃7アイアン、＃6アイアンの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと | ⑮ | [テーマ] 8週目⑮:ショートゲーム1<br>[内容] バンカーからのショット<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 4週目⑧:ミドルアイアン2<br>[内容] ＃5アイアンまでのクラブの実技実習<br>[授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと | ⑯ | [テーマ] 8週目⑯ショートゲーム2(テスト)<br>[内容] ショートアイアンによる距離と方向のコントロール<br>[授業外学修] これまでの学修を振り返って整理をして下さい。 |

**成績評価方法(方針)**

成績は最終日に課すショートゲームの結果を評価し、ショートゲームの判定は実施後に通知する。出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | ○ | ◎ | 100% |
| 授業内レポート | | | | 加減点要素 |
| 授業外レポート | | | | 加減点要素 |
| 演習・実技 | ○ | | ○ | 加減点要素 |
| 授業態度 | ○ | | ○ | 加減点要素 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・一般に課せられるマナーやエチケットの厳守を履修の前提条件とする
・手袋の購入など、各自準備負担があるので事前に了承のこと
・学外施設の利用時には、その施設の規則を遵守し、方針等に従うこと
・学外施設を利用する関係上、抽選で実施クラスを編成する場合がある
・2週(実質4コマ)以上の欠席は、原則的に欠格扱いとするので注意すること
※教育学習活動の支援を意図するLMS(アプリ)の活用を前提とする。従って、実習室内のPC利用と、学内アドレスでのメール利用が教材活用の必要条件となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 使用しない(電子媒体の教材をLMSにて運用) | 参考書 | 必要に応じて授業内で提示 |
| オフィスアワー | 4体1F 内野研究室 火曜14:20-15:50 | その他 | 連絡先:hd-uchino@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | テーピング<br>Taping | | | | 担当教員 | 髙橋陽介・小田桂吾・山口貴久・小勝健司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 髙橋陽介・小田桂吾・山口貴久・小勝健司<br>高校・大学・プロ現場でのアスレティックトレーナーとしての経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習し、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ

**授業の一般目標**

スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | テーピングの目的を的確に説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | テーピングの効果を選手に指導できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 目的に応じたテーピングが巻ける。 |

**授業計画（全体）**

運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返しおこなう。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 教員の紹介. テーピングの購入方法. 授業の進め方. 成績・評価の説明<br>[授業外学修]教科書p214～p223を読んで予習する | ⑨ | [テーマ] 足関節テーピング⑥<br>[内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法をスピードでできるよう復習する |
| ② | [テーマ] テーピング総論<br>[内容] 高校・大学・プロ現場での実務経験を活かし、人体解剖や傷害発生のメカニズムとテーピング理論を結び付けて解説する<br>[授業外学修]教科書p214～p223を読んで復習，p224を読んで次回の予習をする | ⑩ | [テーマ] 足関節テーピング⑦<br>[内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法をスピードでできるよう復習する |
| ③ | [テーマ] テーピングとアンダーラップ<br>[内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明<br>[授業外学修]配布資料を参考にし方法を復習する | ⑪ | [テーマ] アーチテーピング<br>[内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技<br>[授業外学修]教科書p224～225を参考にしながら方法を復習する |
| ④ | [テーマ] 足関節テーピング①<br>[内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | ⑫ | [テーマ] 膝関節テーピング<br>[内容] 膝関節保護のテーピングの実技<br>[授業外学修]教科書p238～240を参考にしながら方法を復習する |
| ⑤ | [テーマ] 足関節テーピング②<br>[内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | ⑬ | [テーマ] 肘関節テーピング<br>[内容] 肘関節保護のテーピング実技<br>[授業外学修]教科書p247～248を参考にしながら方法を復習する |
| ⑥ | [テーマ] 足関節テーピング③<br>[内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | ⑭ | [テーマ] 指関節テーピング<br>[内容] 指関節保護のテーピング実技<br>[授業外学修]教科書p251～253を参考にしながら方法を復習する |
| ⑦ | [テーマ] 足関節テーピング④<br>[内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | ⑮ | [テーマ] 実技試験①<br>[内容] 学んだテーピングの実技評価<br>[授業外学修]教科書p214～253を参考にしながら実技試験の準備 |
| ⑧ | [テーマ] 足関節テーピング⑤<br>[内容] 足関節テーピング一連の流れの実技<br>[授業外学修]教科書p228～229を参考にしながら方法を復習する | ⑯ | [テーマ] 実技試験②<br>[内容] 学んだテーピングの実技評価<br>[授業外学修]教科書p214～253を参考にしながら実技試験の準備 |

**成績評価方法（方針）**

実技テスト90%、授業態度10%で評価する。実技テストについては、授業内で個別に解説し評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | | | | 評価対象外 |
| 授業外レポート | ○ | | | 有 |
| 演習・実技 | ◎ | | ◎ | 90% |
| 授業態度 | | ◎ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・実技であるので、技能の習得ができない場合の単位認定は認めない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | コンディショニング論 | 関連資格 | |
| 教科書 | 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥ | 参考書 | |
| オフィスアワー | 水曜日12:40～14:10 | その他 | 連絡先：第4体育館研究室(3)　髙橋（陽）研究室 |

| 授業科目名 | スキーⅡ<br>SkiⅡ(P.A.) | | | | 担当教員 | 井上　望・柴山一仁・高橋弘彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | スキー指導経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択必修 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

スキーⅠで習得したスキーの理論及び技術をさらに発展させる。また、スキーの指導法及び指導者としての資質を身につける。実習は、1月前半に、山形温泉蔵王温泉スキー場で実施する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

各技能ごとに班分けを行い、各自のスキー技術習得を目指す。教員の実務経験を活かし、中級者は2級、上級者は1級以上の技能獲得をできるよう努める。また、学外実習や集団生活の運営方法を身につけ、指導できるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各自のレベルにおけるスキー技術について理解し、説明・指導ができる |
| ■ | 情意的領域 | スキー及びスノースポーツに興味を持ち、熱意を持って取り組める |
| ■ | 技能表現的領域 | 自身の上達を実感し、各自のレベルに応じてスキー滑走・指導ができる |

**授業計画(全体)**

初日に技術レベルごとに班編成をする。技術習得の効率を高めるため、原則として1班5名程度とする。午前・午後は指導員による講習を受講し、ナイターは各自の課題をもって班ごとの自主練習を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] パラレルターンへの展開1<br>[内容] パラレル形状(板を並行に揃えた状態)で、横滑りができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑨ | [テーマ] カービングターン3<br>[内容] カービングの要素を強めたパラレルターンの小回りができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ② | [テーマ] パラレルターンへの展開2<br>[内容] シュテムターン(ハの字に開き出してターンし、後半にスキーを揃える)ができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑩ | [テーマ] 不整地1<br>[内容] 吸収動作や横滑りを駆使し、コブを滑れるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ③ | [テーマ] パラレルターンへの展開3<br>[内容] プルークボーゲンの外足荷重を強め、内膝を返したプルークターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑪ | [テーマ] 不整地2<br>[内容] ボトムターンやバンクターンなど、様々なコブの滑り方を身につける。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ④ | [テーマ] パラレルターン1<br>[内容] 両足同時操作による、安定したパラレルターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑫ | [テーマ] 不整地3<br>[内容] 雪から受ける抵抗をうまく利用しながら、新雪やナチュラルバーンを滑れるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑤ | [テーマ] パラレルターン2<br>[内容] ターン弧や身体の傾きを調整して、様々な斜面を滑ることができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑬ | [テーマ] 総合滑降・リズム変化<br>[内容] 斜面・雪質に合わせて、リズム変化を伴いながら、スピード感のある総合滑降ができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑥ | [テーマ] パラレルターン3<br>[内容] リズムやスピードを調整し、パラレルターンの小回りができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑭ | [テーマ] 指導演習1<br>[内容] 中級者を対象としたスキーの指導法を考え、指導実践を行い、フィードバックを受ける<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑦ | [テーマ] カービングターン1<br>[内容] カービングターンの要素を加え、速度の要素を減らしながらパラレルターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑮ | [テーマ] 指導演習2<br>[内容] 上級者を対象としたスキーの指導法を考え、指導実践を行い、フィードバックを受ける<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |
| ⑧ | [テーマ] カービングターン2<br>[内容] カービングの要素を強め、加速しながらスピード感のあるパラレルターンができるようになる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 | ⑯ | [テーマ] ふりかえり<br>[内容] 学んだスキー技術、指導法、集団生活の過ごし方などをふりかえり、まとめる。<br>[授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。 |

**成績評価方法(方針)**

スキーへの取り組み、講習中およびホテルでの態度を総合的に評価する。スキー技術へのフィードバックは、班別レッスンの中で随時行う。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・原則として、スキーⅠの単位習得者に限る。
・オリエンテーションに無断欠席・遅刻した者、提出物や実習費振込が遅れた者は、実習への参加を認めない。欠席・遅刻する場合は事前に担当教員のところに相談にくるように。最初のオリエンテーションは11月を予定(掲示板で告知)
・実習費は27,000円程度を予定。必ずカービングスキーを準備すること。スキー及びウェアのレンタルはない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スキーⅠ(1年) | 関連資格 | 特になし |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 日本スキー教程(山と渓谷社) |
| オフィスアワー | 木曜4限 | その他 | 不明な点や相談があれば、事前に担当教員を訪ねること |

| 授業科目名 | マリンスポーツⅠ<br>Marine Sports Ⅰ (P.A.) | | | | 担当教員 | 高橋　弘彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

スクーバダイビングを実施する。コンファインドウォーター（プール）において基本的な潜水技術を習得し、それを基にオープンウォーター（海洋）において応用技術を修得する。またスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学に関する知識も習得する。オープンウォーター実習（海洋実習）は、山形県鶴岡市にて実施する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅴ

**授業の一般目標**

スクーバダイビングに必要な水中技能を習得し、水中における物理学、生理学、医学等の分野について理解することにより、各自で安全にオープンウォーターでのダイビング活動が行えるようになる。
同時にNAUI SCUBA DIVERの資格認定を受ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 水中におけるダイバーの行動と安全性に関連する、物理学、生理学、医学等の分野について説明できる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | インストラクターの管理なしでオープンウォーターにおけるダイビング活動を行う事が出来るようになる。 |

**授業計画（全体）**

①水泳技能、②スキンダイビング技能、③スクーバダイビング技能と、段階的に技能を習得させていく。技能習得が不十分な場合には次の段階には進むことはできない。その場合、各自での個別練習が必要となる。併せてスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学等に関する理論講義及び筆記試験も実施する。
海洋でのダイビング本数は6本を予定。安全性確保の観点から、受講希望者が指導可能人数を超えた場合は、水泳技能上位者から受講を許可していく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業内容、日程等に関する説明<br>[授業外学修]シラバスを熟読する事 | ⑨ | [テーマ] コンファインドウォーター（プール）実習5<br>[内容] マスククリア・脱着、レギュレータクリア・リカバリー<br>[授業外学修]教科書による方法・手順の予習および復習 |
| ② | [テーマ]水泳技能<br>[内容] 長時間水泳、生存水泳、水平潜水<br>[授業外学修]泳力を高めるための個別練習 | ⑩ | [テーマ] コンファインドウォーター（プール）実習6<br>[内容] エア切れ対処法、浮力コントロール<br>[授業外学修]教科書による方法・手順の予習および復習 |
| ③ | [テーマ] コンファインドウォーター（プール）実習1<br>[内容] マスク、スノーケル、フィンの使用<br>[授業外学修]受講技能を高めるための個別練習 | ⑪ | [テーマ] オープンウォーター（海洋）トレーニング1<br>[内容] ライン潜行・浮上、浮力コントロール、安全停止<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ④ | [テーマ] コンファインドウォーター（プール）実習2<br>[内容] マスククリア、スノーケルクリア、フィンスイミング<br>[授業外学修]受講技能を高めるための個別練習 | ⑫ | [テーマ] オープンウォーター（海洋）トレーニング2<br>[内容] マスククリア・脱着、浮力コントロール<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑤ | [テーマ] コンファインドウォーター（プール）実習3<br>[内容] マスク・スノーケル脱着、サーフェスダイブ<br>[授業外学修]受講技能を高めるための個別練習 | ⑬ | [テーマ] オープンウォーター（海洋）トレーニング3<br>[内容] レギュレータクリア・リカバリー、浮力コントロール<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑥ | [テーマ] 学科講習1<br>[内容] 空気・水の物理的特性、水中における身体と圧力<br>[授業外学修]教科書による予習および復習 | ⑭ | [テーマ] オープンウォーター（海洋）トレーニング4<br>[内容] エア切れ対処法、浮力コントロール<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑦ | [テーマ] 学科講習2<br>[内容] ダイビング環境、潜水計画、器材の使用方法、筆記試験<br>[授業外学修]教科書による予習および復習 | ⑮ | [テーマ] オープンウォーター（海洋）トレーニング5<br>[内容] コンパスナビゲーション・浮力コントロール<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑧ | [テーマ] コンファインドウォーター（プール）実習4<br>[内容] スクーバシステムの組み立て・装着、潜行、浮上<br>[授業外学修]教科書による方法・手順の予習および復習 | ⑯ | [テーマ] オープンウォーター（海洋）トレーニング6<br>[内容] フリー潜航・浮上、浮力コントロール<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |

**成績評価方法（方針）**

修得技能と授業参加態度を総合して評価する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 欠格条件 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・履修希望者は、必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。学科講義、プール実習は6～7月、海洋実習は8月中旬から下旬を予定であるが、海洋実習は天候、海況により変更になる場合がある。
・費用（概算）は、テキスト（含む申請料）15000円、海洋タンクレンタル18000円、宿泊16000円である。また近視の者はマスク用オプチカルレンズ18000円が別途必要となる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | マリンスポーツⅡ（3年） | 関連資格 | NAUI　ADVANCED　SCUBA　DIVER |
| 教科書 | NAUI SCUBA DIVER　テキスト | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 木曜日　14時20分～15時50分 | その他 | |

| 授業科目名 | マリンスポーツⅡ<br>Marine SportsⅡ(P.A.) | | | | 担当教員 | 高橋　弘彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| マリンスポーツⅠでNAUI SCUBA DIVERとしての認定を受けた者に対し、各種のダイビング活動を紹介・実施させるとともに、海外リゾートにおけるダイビングスタイルを経験させる。<br>実習は、11月下旬から12月中旬の間に4泊5日の日程でグアムにて実施する。 | i、v |

**授業の一般目標**

マリンスポーツⅠで修得した水中技能をさらに高め、様々なダイビングスタイルを経験することにより、さらに安全なダイビング活動が行えるようになる。同時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの資格認定を受ける。NAUI ADVANCED SCUBA DIVER所持者に関しては、各種SPECIALTY DIVERの認定を受ける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 複数のダイブプランを作成できるようになる。 |
| □ | 情意的領域 | |
| ■ | 技能表現的領域 | 様々な条件下におけるダイビング活動を安全に行う事が出来るようになる。 |

**授業計画(全体)**

スクーバダイビングの経験本数を増やすことにより、ダイビングスキルを向上させていく。特にボートダイビング、ナビゲーション、ディープダイビングにおけるスキルを向上させる。
ダイビング本数は8本を予定。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業内容、日程等に関する説明<br>[授業外学修]シラバスを熟読する事 | ⑨ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング1<br>[内容] ボートダイビング、マスク脱着、レギュレータリカバリー、浮力コントロール、安全停止<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ② | [テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習1<br>[内容] マスククリア、スノーケルクリア、フィンスイミング<br>[授業外学修]スキンダイビング技能を高めるための個別練習 | ⑩ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング2<br>[内容] ボートダイビング、ドリフトダイビング、安全停止<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ③ | [テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習2<br>[内容] マスク・スノーケル脱着、サーフェスダイブ<br>[授業外学修]スキンダイビング技能を高めるための個別練習 | ⑪ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング3<br>[内容] ボートダイビング、ドリフトダイビング、安全停止<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ④ | [テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習3<br>[内容] スクーバシステムの組み立て・装着、潜行、浮上<br>[授業外学修]教科書による方法・手順の復習 | ⑫ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング4<br>[内容] ボートダイビング、ディープダイビング、安全停止<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑤ | [テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習4<br>[内容] マスククリア・脱着、レギュレータクリア・リカバリー<br>[授業外学修]教科書による方法・手順の復習 | ⑬ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング5<br>[内容] ボートダイビング、ディープダイビング、安全停止<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑥ | [テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習5<br>[内容] エア切れ対処法、浮力コントロール<br>[授業外学修]教科書による方法・手順の復習 | ⑭ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング6<br>[内容] ボートダイビング、コンパスナビゲーション<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑦ | [テーマ] 学科講習1<br>[内容] ボートダイビング、ディープダイビング<br>[授業外学修]教科書による予習および復習 | ⑮ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング7<br>[内容] ボートダイビング、フリー潜航・浮上、ナチュラルナビゲーション<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |
| ⑧ | [テーマ] 学科講習2<br>[内容] ナビゲーション、潜水計画<br>[授業外学修]教科書による予習および復習 | ⑯ | [テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング8<br>[内容] ボートダイビング、フリー潜航・浮上、ナチュラルナビゲーション<br>[授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入 |

**成績評価方法(方針)**

修得技能と授業参加態度を総合して評価する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 欠格条件 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・履修は、原則としてマリンスポーツⅠの単位修得者とする。
・履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合は、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。
・オリエンテーションは5月中旬を予定。
・費用(概算)は、テキスト(含む申請料)10000円、旅費150000円、出入国税・旅行保険10000円、ダイビング費用500ドルである。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | マリンスポーツⅠ(2年) | 関連資格 | NAUI　SCUBA　DIVER |
| 教科書 | NAUI ADVANCED　SCUBA DIVER　テキスト | 参考書 | 特に指定しない |
| オフィスアワー | 木曜日　14時20分～15時50分 | その他 | |

| 授業科目名 | 教育の基礎理論A<br>Fundamental Theory of Education (L.) | | | | 担当教員 | 山谷　幸司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

教育とは人間にとってどのような営みであるのか。本講義では、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観(思想)の諸類型の5テーマのもとに、教育の意義や役割、そのスタイルの歴史的展開等について概説する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅴ

**授業の一般目標**

「教育とは何か」という問いをもとに、⑴教育の基本概念と教育を成り立たせる諸要因、⑵教育の歴史的展開(教育および学校の変遷)、⑶教育や学校に関する様々な考え方や思想を理解する。また、以上の理解を土台として、教育に関して客観的な根拠にもとづき、できるだけ本質的に考えることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 「教育とは何か」について、本授業で取り上げたテーマにそくして理解できる。また、教育に関して自分の意見を論理的に述べることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 「教育とは何か」という問題について関心をもち、主体的に探究することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 「教育とは何か」という問題について、他者に説明することができる。 |

**授業計画(全体)**

⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマから、「教育とは何か」という問題について概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので各自が講義を聞き、板書を見ながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に「感想カード」を書いてもらう。授業内容に対する意見や疑問点、あるいは教師への要望を自由に書いてもらいたい。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 教育とは何か<br>[内容] 教育の基礎理論で学ぶ内容、担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] 改めて、教育とは何か<br>[内容] 本講義前半8回の内容を踏まえ、改めて教育とは何かを、グループ討議を通じて考える　※講義の進行状況により実施しないことがある<br>[授業外学修]教育とは何かにについて、各自の考えをまとめる |
| ② | [テーマ]教育という言葉⑴<br>[内容] 「教」と「育」の字源<br>[授業外学修]授業に即して「教育」という言葉を考える | ⑩ | [テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑴<br>[内容] 人間形成の多様性と無意図的教育<br>[授業外学修]授業に即して教育のスタイルのあり方を考える |
| ③ | [テーマ] 教育という言葉⑵<br>[内容] 「教育」という言葉の日用化の謎<br>[授業外学修]テーマⅠ全体の復習 | ⑪ | [テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑵<br>[内容] 意図的教育と学校教育の特質<br>[授業外学修]授業に即して教育のスタイルのあり方を考える |
| ④ | [テーマ] 教育は人間に必要なのか⑴<br>[内容]　動物としての人間の特殊性と教育①－哺乳類のなかの人間－<br>[授業外学修]授業に即して教育の必要性についての考える | ⑫ | [テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑶<br>[内容] 近代学校制度の成立と学校<br>[授業外学修]テーマ4全体の復習 |
| ⑤ | [テーマ] 教育は人間に必要なのか⑵<br>[内容] 動物としての人間の特殊性と教育②－学ぶ動物としての人間－<br>[授業外学修]授業に即して教育の必要性についての考える | ⑬ | [テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑴<br>[内容] 大工型モデルの教育観(思想)<br>[授業外学修]授業に即して教育観の諸相を考える |
| ⑥ | [テーマ] 教育は人間に必要なのか⑶<br>[内容] 社会的隔離児の記録が示すこと<br>[授業外学修]テーマ2全体の復習 | ⑭ | [テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑵<br>[内容] 農民型モデルの教育観(思想)<br>[授業外学修]授業に即して教育観の諸相を考える |
| ⑦ | [テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑴<br>[内容] 能力・特性の形成と遺伝・環境<br>[授業外学修]授業に即して教育の役割を考える | ⑮ | [テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑶<br>[内容] 経験主義モデルの教育観(思想)<br>[授業外学修]テーマ5全体の復習 |
| ⑧ | [テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑶<br>[内容] 遺伝と環境の相互作用と教育の役割<br>[授業外学修]テーマ3全体の復習 | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 授業全体を振り返り、理解を深める<br>[授業外学修]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する |

**成績評価方法(方針)**

期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。試験の結果は、随時研究室で開示し、内容を説明する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ○ | 95% |
| 授業内レポート | | | | 実施せず |
| 授業外レポート | | | | 実施せず |
| 演習・実技 | | | | 実施せず |
| 授業態度 | | △ | △ | 5% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・教師になるということは、学ぶ立場から、それをサポートする立場に変わることを意味する。しかし、学ぶことができない者が、学びをサポートすることなど到底できない。つまり、謙虚にかつ意欲的に学ぶことができるということが、教師になるための最低条件となる。このことを十分に自覚して、授業にのぞんでほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教職論A(1年)、教職論B(1年)、教育の制度(2年) | 関連資格 | 教員免許状(全免許) |
| 教科書 | 授業時に配布するプリントを使用する。 | 参考書 | 授業時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | 教育の心理<br>Educational Psychology | | | | 担当教員 | 荒井龍弥 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと(学ぶ者、援助する者、教える行為など)を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学習過程ならびに心身の発達を中心としたの諸概念について概説するとともに、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取りあげられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 学習者の視座を推測し、それに対する指導者としての向き合い方について間主観的な表現をすることができる。 |

**授業計画(全体)**

教育心理学の学問領域を学習過程ならびに心身の発達、さらには教育評価の3領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。<br>[授業外学修]教育心理学の必要性について自分なりに考えてみること。 | ⑨ | [テーマ] 発達② より配慮を必要とする児童生徒の特徴<br>[内容] 特別支援教育内外の障がいにかかわる事例や発達障がいの症例等を紹介し、教育の役割について改めて考える。<br>[授業外学修] 特に発達障がいの症例についてまとめておくこと |
| ② | [テーマ] 学習と知識の獲得<br>[内容]学習、知識の獲得をめぐる一般的信念と2種の心理学的アプローチについて検討し、教師として生徒に得させるべき知識内容を考える。<br>[授業外学修] 二種の心理学的アプローチについてより深く調べること | ⑩ | [テーマ] 発達③ 障がいのある子どもの発達の促進<br>[内容] ヴィゴツキーの最近接領域理論の観点から、障がいを抱えた子どもの発達事例を紹介し、教育の役割について再検討する。<br>[授業外学修] 特定の児童生徒への対応について原案を作成してみること |
| ③ | [テーマ] 学習内容の表象<br>[内容]学習した内容の適用範囲により2通りの考え方があることを紹介し、この枠組みから教師が獲得させたい学習内容について再検討する。<br>[授業外学修] 具体例で生産的学習と再生的学習を当てはめてみること | ⑪ | [テーマ] 知能と知能検査<br>[内容] 知能という概念の必要性と検査内容、ならびに知能指数をめぐる諸説を紹介し、自らの知能観を吟味する。<br>[授業外学修]知能という観点から児童生徒理解をする方法を考えること。 |
| ④ | [テーマ] 動機づけと欲求・要求<br>[内容]動機づけの2分類を紹介するとともに、内発的動機を高める取り組みについて考える。<br>[授業外学修]自分の行動を動機付けの観点から自省すること | ⑫ | [テーマ] 評価① 教育評価と測定<br>[内容] 教育評価と測定の違いを通じ、評価の目的について考える。また、具体的事例により課題空間・測定空間について検討する。<br>[授業外学修] 任意の実技について評価計画を考えてみること。 |
| ⑤ | [テーマ] 原因帰属<br>[内容] 内発的動機を高める方策として原因帰属に着目し、それらの違いによる効果を考えてみる。<br>[授業外学修] 自己効力感を高めるとされる取り組みについて調べること | ⑬ | [テーマ]評価② 完全習得学習と実技における評価<br>[内容] ブルームの完全習得学習の枠組みや比較対象としての絶対評価・相対評価等を検討し、体育実技での評価を検討する。<br>[授業外学修] 自分の評価計画をブラッシュアップすること |
| ⑥ | [テーマ] 人格① さまざまな人格検査<br>[内容] 人格検査のいろいろについて検討するとともに、それぞれのメリット・デメリットとその効用について考える。<br>[授業外学修] 興味のある人格検査について調べてみること | ⑭ | [テーマ] 学習集団の質と特徴<br>[内容] 学習集団のモラール等の諸特徴について紹介し、教師として必要な「集団づくり」の重要性について考える。<br>[授業外学修] 「学級開き」で何をすべきか、まとめておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 人格② 人格の諸理論<br>[内容] 類型論、特性論、状況主義といった人格をめぐる諸理論を紹介し、自らの人格観を再検討する。<br>[授業外学修] 状況主義の観点から生徒指導について考えてみること | ⑮ | [テーマ] まとめ 教育現場における教育心理学の発展<br>[内容]小・中学校による実務経験に照らし、教育現場での学習者像とその検討を紹介することにより、教育心理学的観点を再確認する。<br>[授業外学修]紹介した検討事項について自分なりに考えてみること |
| ⑧ | [テーマ] 発達①さまざまな発達段階説<br>[内容] 各種の発達段階説について紹介するとともに、特に生徒の道徳的発達段階について検討する。<br>[授業外学修] 各種発達段階説を整理しておくこと。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] これまでの学習内容について互いの評価を目的としたテストを行う。<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 40% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 50% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | | | 対象としない |
| 授業態度 | | | | 加減点要素 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教育方法論、教職総合演習、教職キャリア演習 | 関連資格 | 中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | | 参考書 | 本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社<br>宇野編授業に学び授業を作る教育心理学第二版中央法規 |
| オフィスアワー | 荒井A309 前期 月 4時限、 後期 月3時限 | その他 | |

| 授業科目名 | 教育の制度A<br>System of Education (L.) | | | | 担当教員 | 金井里弥 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について講義する。 | v |

**授業の一般目標**

①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。
②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

教育法規の基礎を紹介したうえで、教育の様々な側面から具体的な制度の在り様を見ていく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。<br>[授業外学修] シラバスを読んでおくこと。 | ⑨ | [テーマ] 学校・学級内の制度<br>[内容] 出席停止、懲戒、学校の設備を中心に、学校・学級内の制度を理解する。<br>[授業外学修]関連法規の主要な条文の内容を予習する。 |
| ② | [テーマ] 日本の教育制度史<br>[内容] 現在の教育制度がいかにして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。<br>[授業外学修]講義内容を予習・復習。 | ⑩ | [テーマ] 教育職員制度<br>[内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。<br>[授業外学修]関連法規を予習する。 |
| ③ | [テーマ] 教育法規の基礎知識<br>[内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する権利について理解する。<br>[授業外学修]教育法規について予習・復習する。 | ⑪ | [テーマ] 教員養成と教員免許制度<br>[内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教員免許のしくみを理解する。<br>[授業外学修] 関連法規を予習する。 |
| ④ | [テーマ] 教育基本法<br>[内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。<br>[授業外学修]教育基本法について予習・復習する。 | ⑫ | [テーマ] 社会背景と新たな教育課題<br>[内容] Society5における新たな教育課題とそれに応じた教育の在り方について理解する。<br>[授業外学修] Society5の特徴について予習する。 |
| ⑤ | [テーマ] 学校の種類と義務教育<br>[内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。<br>[授業外学修]学校教育法における義務教育制度を予習・復習する。 | ⑬ | [テーマ] 教育課程と教科書制度<br>[内容] 教育課程の編成、近年の改革動向、教科書の使用、検定、採択について理解する。<br>[授業外学修] 関連法規を予習する。 |
| ⑥ | [テーマ] 中央教育行政の理解<br>[内容] 中央教育行政の仕組みと、その働きを理解する。<br>[授業外学修]文部科学省および内閣府の教育政策について調べる。 | ⑭ | [テーマ] 学校の安全管理と安全教育<br>[内容] 学校教育における安全管理と安全教育の指針と内容について理解する。<br>[授業外学修] 近年の安全教育の動向について調べる。 |
| ⑦ | [テーマ] 地方教育行政の理解<br>[内容] 地方教育行政の仕組みと、その働きを理解する。<br>[授業外学修] 地方教育行政の仕組みについて予習・復習する。 | ⑮ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。<br>[授業外学修]本講義の要点の確認とその復習を行う。 |
| ⑧ | [テーマ] 学校の設置と管理運営<br>[内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。<br>[授業外学修]関連法規を予習する。 | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。<br>[授業外学修]本講義の要点の確認とその復習を行う。 |

**成績評価方法(方針)**

期末試験を100%とするが、宿題や授業参加の程度によって総合点に点数を加減する。
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
試験およびレポートの採点結果は、期末試験後に開示する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 100% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 加減点あり |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | 加減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。
・毎回の予習(宿題)を必須とする。
・指定している教科書は毎回必ず持参すること。
・学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。
※学習環境を損なう行為については厳格に対処する。
・履修希望者は第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教職論A・B、教育課程論、生徒指導論 | 関連資格 | 教員免許状(全免許種) |
| 教科書 | 『必携教職六法』(2020 or 2021年度版) | 参考書 | 授業時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 (研究室:A棟304) | その他 | 問合せ:kyoikunoseido@gmail.com |

| 授業科目名 | 教育課程論<br>Theory of Curriculum (L.) | | | | 担当教員 | 山谷　幸司 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、編成の実際等について概説する。とくに学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては、その意義や変遷とともに、平成29年と30年に改訂された新「学習指導要領」の方針や内容を詳述する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

i 、v

**授業の一般目標**

⑴教育課程の意義、⑵教育課程に関するきまり、⑶教育課程編成の実際、⑷教育課程の実施と評価について、概要を理解する。そして、このことを通して、学校教師として、教育課程を実際に編成するための基礎的な力量を養う。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について理解できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 学校での教育課程のあり方について関心をもち、自分の意見を論理的に述べることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について他者に説明できる。 |

**授業計画(全体)**

教育課程について、⑴教育課程の意義、⑵教育課程に関するきまり、⑶教育課程編成の実際、⑷教育課程の実施と評価の4テーマから概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので講義を聞き、テキストを参照しながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に各回のテーマに関する小テストを行う。どの程度まで講義内容が理解できたかを確認してもらいたい(小テストは評価に反映させない)。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 学校教育の不思議<br>[内容] 担当教員の紹介、教育課程論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを読んでおくこと | ⑨ | [テーマ] 学習指導要領⑵－教育課程に関するきまり⑦<br>[内容] 現行学習指導要領の内容と特質<br>[授業外学修]授業に即して現行の学習指導要領について振り返る |
| ② | [テーマ]教育課程とは何か<br>[内容] 学校教育の性質と教育課程の意義<br>[授業外学修]授業に即して教育課程の意義について振り返る | ⑩ | [テーマ] 学習指導要領⑶－教育課程に関するきまり⑧<br>[内容] 新学習指導要領の内容と特質<br>[授業外学修]授業に即して新学習指導要領について振り返る |
| ③ | [テーマ] 教育の目的・目標⑴－教育課程に関するきまり①<br>[内容] 教育の目的・目標に関するきまりの体系と教育全体の目的・目標<br>[授業外学修]授業に即して教育の目的・目標に関するきまりを振り返る | ⑪ | [テーマ] 学習指導要領⑷－教育課程に関するきまり⑨<br>[内容] 総合的な学習の時間の意義と内容<br>[授業外学修]授業に即して総合的な学習の時間について振り返る |
| ④ | [テーマ] 教育の目的・目標⑵－教育課程に関するきまり②<br>[内容] 義務教育(小学校・中学校)の目的と教育目標<br>[授業外学修]授業に即して教育の目的・目標に関するきまりを振り返る | ⑫ | [テーマ] 教育課程編成の実際⑴<br>[内容] 教育課程編成の主体、基本方針、留意事項<br>[授業外学修]授業に即して教育課程の編成について振り返る |
| ⑤ | [テーマ] 教育の目的・目標⑶－教育課程に関するきまり③<br>[内容] 高校の目的と教育目標<br>[授業外学修]授業に即して教育の目的・目標に関するきまりを振り返る | ⑬ | [テーマ] 教育課程編成の実際⑵<br>[内容] 教育課程編成の手順<br>[授業外学修]授業に即して教育課程の編成について振り返る |
| ⑥ | [テーマ] 教育内容と授業時数等⑴－教育課程に関するきまり④<br>[内容] 教育内容・授業時数等に関するきまりの体系と義務教育(小学校・中学校)における教育内容・授業時数等<br>[授業外学修]授業に即して教育の内容等に関するきまりを振り返る | ⑭ | [テーマ] 教育課程の実施と評価⑴<br>[内容] 指導計画と学習指導案<br>[授業外学修]授業に即して教育課程の実施等にについて振り返る |
| ⑦ | [テーマ] 教育内容と授業時数等⑵－教育課程に関するきまり⑤<br>[内容] 高校における教育内容・授業時数<br>[授業外学修]授業に即して教育の内容等に関するきまりを振り返る | ⑮ | [テーマ] 教育課程の実施と評価⑵<br>[内容] 教育課程の点検と評価(カリキュラムマネジメント)<br>[授業外学修]授業に即して教育課程の実施等にについて振り返る |
| ⑧ | [テーマ] 学習指導要領⑴－教育課程に関するきまり⑥<br>[内容] 学習指導要領の意義と変遷<br>[授業外学修]授業に即して学習指導要領について振り返る | ⑯ | [テーマ] 期末試験<br>[内容] 授業全体を振り返り、理解を深める<br>[授業外学修]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する |

**成績評価方法(方針)**

期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。試験の結果は、随時研究室で開示し、内容を解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | ○ | 95% |
| 授業内レポート | | | | 反映させない |
| 授業外レポート | | | | 実施せず |
| 演習・実技 | | | | 実施せず |
| 授業態度 | | △ | △ | 5% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・教育課程というと、細かなきまりが沢山あって難しいと考えるかもしれない。確かに教育課程にはきまりや約束事が多くあるが、順序良く体系的に学んでいけば、それらを理解することはそれほど難しいことではない。積み木のように、ひとつひとつの事項をていねいに積み上げながら授業を進めていくので、一回たりとも授業をおろそかにせず、各回の内容を着実に学んでほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教育の制度(1年)、道徳教育論(2年)、特別活動論(2年)、保健体育教育論Ⅰ(2年) | 関連資格 | 教員免許状(全免許) |
| 教科書 | 学校教育小六法、中学校・高等学校学習指導要領 | 参考書 | 授業時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | 保健体育科教育論Ⅰ<br>Pedagogy of Physical Education Ⅰ(L.) | | | | 担当教員 | 井上雅勝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 高等学校「体育」の学習指導を中心に保健体育科教育の基本的な考え方を，高校での指導経験を生かし基礎的な内容とその実際を具体的に説明する。 | iii |

高等学校「体育」の学習指導を中心に保健体育科教育の基礎的な内容とその実際を具体的に理解し，授業づくりを知る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 高等学校の「体育」の学習指導についての基礎的な内容とその実際を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 高等学校の「体育」の学習指導についての基礎的な内容とその課題の検討に参加できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 高等学校の「体育」の学習指導についての基礎的な内容を、「指導案」などに表することができる。 |

**授業計画(全体)**

講義形式で授業を進める。必要事項などを書き込めるプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワーポイントなどに沿って授業を展開する。期間中に数回のレポートを作成し，その成果をもフィードバックしながら授業を進める。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業のねらいと進め方、成績評価等について説明する<br>[授業外学修] 新学習指導要領における教科の目標を調べておくこと | ⑨ | [テーマ] 体育の学習指導(授業評価・学習形態)<br>[内容] 体育の学習指導(授業評価・学習形態)について概説する<br>[授業外学修] 授業評価のねらい・形態の種類について調べておくこと |
| ② | [テーマ] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件<br>[内容] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件について概説する<br>[授業外学修] 配付資料に関する教育法規などを調べておくこと | ⑩ | [テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画)<br>[内容] 体育科の指導計画について概説する<br>[授業外学修] 学習指導計画作成の意義について調べておくこと |
| ③ | [テーマ] 体育科教育の目的(新学習指導要領改訂の趣旨)<br>[内容] 体育科教育の目的を新学習指導要領改訂の趣旨から概説する<br>[授業外学修] 新学習指導要領の改訂の趣旨などを調べておくこと | ⑪ | [テーマ] 体育科の指導計画(年間計画)を作成する<br>[内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 年間計画)<br>[授業外学修] レポート作成に必要な資料などを準備しておくこと |
| ④ | [テーマ] 体育科教育の目標及び内容(高等学校の学習指導要領)<br>[内容] 体育科教育の目標及び内容を高等学校の学習指導要領を中心に概説する<br>[授業外学修] 新学習指導要領における体育科の目標などを調べておくこと | ⑫ | [テーマ] 体育科の指導計画(単元・時案計画)を作成する<br>[内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 単元・時案計画)<br>[授業外学修] レポート作成に必要な資料などを準備しておくこと |
| ⑤ | [テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:体つくり運動)<br>[内容] 体育科教育の内容として、「体つくり運動」を具体的に概説する<br>[授業外学修] 新学習指導要領の体つくり運動を調べておくこと | ⑬ | [テーマ] 体育科の学習指導(よい体育授業の条件)<br>[内容] よい体育授業の条件について概説する<br>[授業外学修] よい体育授業の考え方や具体的条件を調べておくこと |
| ⑥ | [テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:球技)<br>[内容] 体育科教育の内容として、「球技」を具体的に概説する<br>[授業外学修] 新学習指導要領の球技を調べておくこと | ⑭ | [テーマ] 教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連(運動部)<br>[内容] 教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連(運動部)について 概説する<br>[授業外学修] 運動部活動の現状について調べておくこと |
| ⑦ | [テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:武道)<br>[内容] 体育科教育の内容として、「武道」を具体的に概説する<br>[授業外学修] 新学習指導要領の武道を調べておくこと | ⑮ | [テーマ] 体育の事故防止<br>[内容] 体育及び学校管理下における事故について概説する<br>[授業外学修] 事故の実態について調べておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:水泳)<br>[内容] 体育科教育の内容として、「水泳」を具体的に概説する<br>[授業外学修] 新学習指導要領の水泳を調べておくこと | ⑯ | [テーマ] レポート作成及び提出<br>[内容] 体育科の授業づくり等に関する具体的な内容のレポートを作成し提出する。<br>[授業外学修] これまで配布した資料などをまとめておくこと |

**成績評価方法(方針)**

提出されたレポートなどを中心に評価する。なお、その結果については提出ごとにフィードバックするとともに授業内で解説し返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 80% |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 20% |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | ○ | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・「体育」の授業づくりを「教師」の立場から考えながら，本講義を受講する積極的な姿勢を期待する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | 関連資格 | 中・高保体教員免許 |
| 教科書 | 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 | 参考書 | 講義中、必要に応じて提示する |
| オフィスアワー | 火曜日3時限 | その他 | |

| 授業科目名 | 保健体育科教育論Ⅰ<br>Pedagogy of Physical Education Ⅰ(L.) | | | | 担当教員 | 郡山孝幸 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導について、学習指導要領に沿いながらその基本的な考え方を説明し、指導の実際についての理解認識を深めさせる。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅲ、ⅳ

**授業の一般目標**

主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導について、学習指導要領に沿いながらその基本的な考え方を学び、指導の実際についての理解認識を深める。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題などを積極的に検討することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を「指導案」などに表すことができる。 |

**授業計画(全体)**

講義形式で授業を進める。必要事項を書き込めるようなプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワーポイントに沿って授業を展開する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意<br>[授業外学修] | ⑨ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い②<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(水泳の指導)<br>[授業外学修]陸上競技についての講義内容を整理しておく |
| ② | [テーマ] 現代社会と体育の目標<br>[内容] 現代社会と体育の目標との関係を概説する<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する。 | ⑩ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い③<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(球技の指導)<br>[授業外学修]水泳についての講義内容を整理しておく |
| ③ | [テーマ] 児童生徒の体力と学校体育の在り方①<br>[内容]小学校教諭の経験を生かし、現代の子どもたちの体力を踏まえた学校体育の在り方を学習指導要領に関連づけながら概説する<br>[授業外学修]前回までの講義内容を整理しておく | ⑪ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い④<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(体つくり運動の指導)<br>[授業外学修]球技についての講義内容を整理しておく |
| ④ | [テーマ] 児童生徒の体力と学校体育の在り方②<br>[内容小学校教諭の経験を基に現場での実践例を参考に、保健体育指導の在り方を概説する。<br>[授業外学修]前回までの講義内容を整理しておく | ⑫ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い⑤<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(器械運動の指導)<br>[授業外学修]体つくり運動についての講義内容を整理しておく |
| ⑤ | [テーマ] 児童生徒の体力と学校体育の在り方②<br>[内容] 小学校教諭の経験を生かし、発達段階に応じた保健体育指導の在り方を概説する<br>[授業外学修]前回までの講義内容を整理しておく | ⑬ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い⑥<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(武道の指導)<br>[授業外学修]器械運動についての講義内容を整理しておく |
| ⑥ | [テーマ] 学習指導要領の趣旨と評価方法①<br>[内容] 学習指導要領に基づいた授業づくりと評価の方法を概説する<br>[授業外学修]前回までの講義内容を整理しておく | ⑭ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い⑦<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(ダンスの指導)<br>[授業外学修]武道についての講義内容を整理しておく |
| ⑦ | [テーマ] 学習指導要領の趣旨と評価方法②<br>[内容]新旧の学習指導要領を対比しながら、授業づくりと評価の方法についてレポートにまとめ理解を深める。(中間テストを兼ねる)<br>[授業外学修]前回までの講義内容を整理しておく | ⑮ | [テーマ] 保健体育科学習指導案の書き方<br>[内容] 保健体育科の学習指導案の記載方法について概説する<br>[授業外学修]ダンスについての講義内容を整理しておく |
| ⑧ | [テーマ] 特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い①<br>[内容] 運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する(陸上競技の指導)<br>[授業外学修]学習指導要領についての講義内容を整理しておく | ⑯ | [テーマ] テスト 保健体育科学習指導案作成の実際<br>[内容] 指示された条件のもとに保健体育科の学習指導案を記載する<br>[授業外学修]指導案作成について講義内容を整理しておく |

**成績評価方法(方針)**

講義期間中に作成したレポートの内容を評価する(評価割合30%)。テストとしては学習指導要領に関すること及び学習指導案の作成についての理解度を評価する(評価割合70%)。なお、その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 70% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 30% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・「体育」の授業づくりを「教師」の立場として考えながら本講義を受講すること。
・講義を受動的に受けるのではなく質問するなど積極的な取り組みを求める

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | 関連資格 | 中高保健体育科教員免許状 |
| 教科書 | 中学校学習指導要領解説保健体育編<br>高等学校学習指導要領解説保健体育編 | 参考書 | 講義中必要に応じて提示する |
| オフィスアワー | 火曜日3コマ | その他 | 研究室電話番号 0224－55－1491 |

| 授業科目名 | 保健体育科教育論Ⅱ<br>Pedagogy of Health Education Ⅱ (L.) | | | | 担当教員 | 入澤裕樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 中学校・高等学校における「保健」の学習指導についての基本的な考え方とその実際について学ぶ。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ |

**授業の一般目標**

「保健」学習指導の基礎・基本について知り、児童生徒の実態を通じて保健の授業を構成・展開できるようになる。特に、保健の授業を模擬的に実施することで、実践的能力の基礎を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学習指導要領に示された目標や内容ついて説明できる。児童生徒の健康課題を考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 保健科教育の内容について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。 |

**授業計画(全体)**

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、アクティブラーニングの観点から協同作業としてのグループワークによる指導案の作成や模擬授業も行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 保健科教育の位置づけ(オリエンテーション含む)<br>[内容] 学校保健活動と保健科教育の関わりについて学習する。教員紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価について通知する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] 保健科の学習指導1<br>[内容] 授業の学習形態と模擬授業の実施方法について理解する。<br>[授業外学修] 学習形態の種類について調べておく |
| ② | [テーマ] 保健科教育の位置づけ2<br>[内容] カリキュラムに関する基本的事項を押さえ、実施・運用に必要な力を養う。<br>[授業外学修]カリキュラムについて指定教科書で調べておく | ⑩ | [テーマ] 保健科の学習指導2<br>[内容] ICT活用を含めた教材・教具について理解すると共に単元に見合った教材・教具を発案しあう。<br>[授業外学修] ICT教育の事例を調べておく |
| ③ | [テーマ] 保健科教育の背景となる学問領域の理解と教材研究への活用<br>[内容] 戦後の授業観・学習観の変遷を学び、自身の『観』を形成するための信念や考え方を考察する。<br>[授業外学修]学習指導要領の変遷について調べておく | ⑪ | [テーマ] 保健科の学習指導3<br>[内容] 良い保健授業の条件について理解する。<br>[授業外学修] 授業の構成要素について調べておく |
| ④ | [テーマ] 保健科教育の発展的な学習内容と学習指導への活用<br>[内容] 諸外国の保健教育の現状を知り、我が国と比較しつつ、現状や課題を見い出す力を養う。<br>[授業外学修]諸外国での保健科教育について指定教科書で調べておく | ⑫ | [テーマ] 保健科の指導計画1<br>[内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすための学習指導案とはどのようなものかを考察する。<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する |
| ⑤ | [テーマ] 保健科教育の目的<br>[内容] 現行学習指導要領の改定とその趣旨について学習する。<br>[授業外学修]学習指導要領について事前に調べておく | ⑬ | [テーマ] 保健科の指導計画2<br>[内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすための学習指導案を作成する。<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する |
| ⑥ | [テーマ] 保健科教育の目標<br>[内容] 学習指導要領を中心に戦後の保健科教育における目的・目標の変遷について学習する<br>[授業外学修]過去の学習指導要領を熟読しておく | ⑭ | [テーマ] 保健科の指導計画3<br>[内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすために作成した学習指導案を発表し合い、議論する。<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する |
| ⑦ | [テーマ] 保健科教育の内容1<br>[内容] 多様な保健科教育の全体像と系統性について学習する。<br>[授業外学修]系統性とは何か調べておく | ⑮ | [テーマ] 保健科の学習・授業評価方法<br>[内容] 児童・生徒に対する授業に対する理解力や思考力の評価方法について学習する。実務経験を基にした評価の事例も取り上げ紹介する。<br>[授業外学修] 授業評価に関する資料を読む |
| ⑧ | [テーマ] 保健科教育の内容2<br>[内容] 単元計画の把握と構造図について理解し、作成する。<br>[授業外学修]単元計画について調べておく | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを実施する。<br>[授業外学修] 過去の授業の資料やノートを見直す |

**成績評価方法(方針)**

期末試験を1回実施する(評価割合60%)。場合によっては模擬授業に替える場合もある。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す予定。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。レポート等については授業内で解説しながら返却する。
出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は原則携帯電話をかばんの中にしまうこと。
授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年) | 関連資格 | 教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養) |
| 教科書 | 保健科教育法入門(大修館書店) | 参考書 | 中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編 |
| オフィスアワー | 木曜日 14:20～15:50 | その他 | 研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 保健体育科教育論 Ⅲ<br>Pedagogy of Education Ⅲ(L.) | | | | 担当教員 | 郡山孝幸・入澤裕樹・山梨 雅枝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 小・中・高校での勤務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 「保健体育科教育論Ⅰ」での学びを踏まえ、中学校・高等学校における「体育」の実技指導場面の指導方法を紹介するとともに、および指導内容の在り方について検討させる機会とする。また、中学校(小・高校を含む)での実務経験を活かし、教具の工夫や安全面の配慮の観点から講義・演習を行う。 | ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

中学校・高等学校における「体育」の学習指導について、教育の質を向上させるための授業の在り方を知り、授業実践を行うことで指導方法を探求していく。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。 |
| ■ | 情意的領域 | より良い体育学習の進め方を見出すことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる。 |

**授業計画(全体)**

・2～9回目は、受講者を2つの教室に振り分け授業を行う。内容は、郡山が運動領域「陸上競技、水泳、球技、武道」、山梨が運動領域「体つくり運動、器械運動、ダンス」を担当する。
・模擬授業は、小グループを編成し、グループ内で体育の学習指導についての具体的な進め方を検討したり、実際に授業を組み立てて実践する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意<br>[授業外学修] シラバスに目を通す。「保健体育科教育論Ⅰ」を思い出す | ⑨ | [テーマ] 「G. ダンス」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する |
| ② | [テーマ]学習指導要領改訂について<br>[内容] 保健体育科教育論Ⅰで学んできた内容を想起し、体育の授業づくりについて考えを深める。<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑩ | [テーマ] 模擬授業に関するガイダンス<br>[内容] 模擬授業 グループ編成＆指導領域の割り振り<br>各班で指導内容の検討・指導案作成<br>[授業外学修]グループ毎に指導案の作成 |
| ③ | [テーマ] 「A. 体つくり運動」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑪ | [テーマ] 模擬授業の実践 ①<br>[内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する<br>[授業外学修]指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する |
| ④ | [テーマ]「B. 器械運動」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑫ | [テーマ] 模擬授業の実践 ②<br>[内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する<br>[授業外学修]指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する |
| ⑤ | [テーマ] 「C. 陸上競技」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑬ | [テーマ] 模擬授業の実践 ③<br>[内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する<br>[授業外学修]指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する |
| ⑥ | [テーマ]「D. 水泳」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑭ | [テーマ] 模擬授業の実践 ④<br>[内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する<br>[授業外学修]指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する |
| ⑦ | [テーマ] 「E. 球技」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑮ | [テーマ] 模擬授業の実践 ⑤<br>[内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する<br>[授業外学修]指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する |
| ⑧ | [テーマ]「F. 武道」について<br>[内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える<br>[授業外学修]運動領域に関して学習指導要領を確認する | ⑯ | [テーマ] 模擬授業の実践 ⑥<br>[内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する<br>[授業外学修]指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する |

**成績評価方法(方針)**

・2～5回目、6～9回目は、授業担当者による授業後のレポート内容について評価する。10～16回目においては模擬授業における指導案作成、指導内容・指導過程・声がけの仕方について等、生徒役のグループによる授業評価と照らし合わせて総合的に評価する。その結果については提出ごと、実践授業ごとにフィードバックするとともに講義演習内で適宜解説する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | | | 50% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 評価対象外 |
| 出席 | | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する。
・講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する。
・授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う。
・数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど)。
・各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加することを望む。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | ・保健体育科教育論 Ⅰ ・保健体育科教育論Ⅳ<br>・各領域の実技授業 | 関連資格 | 教員免許状(中・高保健体育) |
| 教科書 | 中学校学習指導要領解説保健体育編 | 参考書 | |
| オフィスアワー | 火曜日:13:00～15:30 | その他 | 郡山研究室(LC棟204)、山梨研究室(第4体育館1F)、入澤研究室(A棟3階) |

| 授業科目名 | 保健体育科教育論Ⅳ<br>Pedagogy of Health and Physical Education Ⅳ(L.) | | | | 担当教員 | 入澤裕樹・小浜明・郡山孝幸・井上雅勝 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 中学校・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 保健体育科教育論Ⅰ～Ⅲの学習を踏まえ，生徒の学力や経験等を想定しながら中学・高校における「保健」と「体育」の学習指導に関する模擬授業を実施し，その展開の仕方を学ぶ。 | ⅲ、ⅳ |

**授業の一般目標**

保健体育の単元計画，学習指導案づくり,模擬授業を通して，授業の実践的能力の基礎・基本を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 体育・スポーツ，健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、保健体育科の教育内容について深く理解している |
| ■ | 情意的領域 | 体育・スポーツ，健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、生徒の実態に合わせて授業を構想できる |
| ■ | 技能表現的領域 | 体育・スポーツ，健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、教科指導の導入・展開を的確に表現することができる |

**授業計画(全体)**

保健および体育の授業づくりの概要について知り，小グループ(あるいは個人)で，模擬授業を実施する。授業は中学・高校の実務経験を活かし、科学的概念と学習者の知識の葛藤を生じさせようとする観点からの講義と演習を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ] 体育の授業をつくる①<br>[内容] 球技(ゴール型①)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ② | [テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)①<br>[内容] 心身の発達と心の成長の分野で模擬授業を実施する<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑩ | [テーマ] 体育の授業をつくる②<br>[内容] 球技(ゴール型②)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ③ | [テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)②<br>[内容] 環境と健康の分野で模擬授業を実施する<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑪ | [テーマ] 体育の授業をつくる③<br>[内容] 球技(ゴール型③)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ④ | [テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)③<br>[内容] 傷害の防止の分野で模擬授業を実施する<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑫ | [テーマ] 体育の授業をつくる④<br>[内容] 球技(ネット型①)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ⑤ | [テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)④<br>[内容] 健康な生活と病気の予防の分野で模擬授業を実施する<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑬ | [テーマ] 体育の授業をつくる⑤<br>[内容] 球技(ネット型②)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ⑥ | [テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)①<br>[内容] 現代生活と健康の分野で模擬授業を実施する<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑭ | [テーマ] 体育の授業をつくる⑥<br>[内容] 球技(ネット型③)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ⑦ | [テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)②<br>[内容] 生涯を通じる健康の分野で模擬授業を実施する<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑮ | [テーマ] 体育の授業をつくる⑦<br>[内容] 球技(ベースボール型)の模擬授業を行う<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること |
| ⑧ | [テーマ] 保健の授業をつくる(中学校・高等学校)<br>[内容] 全体をまとめる<br>[授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。<br>[授業外学修]場合によっては指導案の提出やレポートに替える場合もある。 |

**成績評価方法(方針)**

模擬授業、学生相互評価、振り返りシートによるリフレクションとこれらを基にした感想文の提出によって評価する(評価割合100%)。模擬授業後のリフレクションでは、学生とデスカッションを行いながら授業づくりの奥深さへの相互理解を深める。感想文の返却希望者には解説しながら返却する。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。詳細はオリエンテーション時に説明するので、欠席しないこと。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 100% |
| 授業態度 | | | | 評価対象外 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。シラバスを参考にしっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅰ(2年)，保健体育科教育論Ⅱ(3年),保健体育科教育論Ⅲ(3年) | 関連資格 | 特に指定しない |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 中学,高校版・「授業書」方式による保健の授業(大修館書店)・中学校及び高等学校学習指導要領解説(保健体育編) |
| オフィスアワー | A棟3階306　前後期:火曜日　14:20～15:50 | その他 | |

| 授業科目名 | 教育方法論A<br>Educational Methodology A (L.) | | | | 担当教員 | 荒井　龍弥 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

教育場面を改善するためには、教える側および学習者側双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場面を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

学習を支援するという立場から、特定の目標を実現するための計画を案出できる。また計画を実施した際の学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を明示的に予想できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 授業をはじめとする教育場面のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようとすることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒・学習者の反応の違いを予想することができる。 |

**授業計画(全体)**

教育場面の計画・実施、とりわけ授業を実践する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立やその改善向上を目指すべく援助していく。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ～教育場面・授業の道具立て<br>[内容] 学習効果を左右する諸要因について解説し、その必要性と学習結果におよぼす影響を知る。<br>[授業外学修] 理想的な道具立てについて考えてみること | ⑨ | [テーマ] 指導言② 指示<br>[内容] 指示の内容とタイミングの重要性について検討するとともに、実際に自らも指示を試行してみる。<br>[授業外学修] 様々な場面で指示内容を改善してみること |
| ② | [テーマ] 目標・目標行動と型わけ<br>[内容] 各種教育課程で理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。<br>[授業外学修]身近な教材で、自分自身の理解を検討すること。 | ⑩ | [テーマ] 指導言③ 発問<br>[内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。<br>[授業外学修] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみること。 |
| ③ | [テーマ] 学習指導案と評価規準<br>[内容] 学習指導案を検討するともに、目標行動としての評価規準の考え方にふれる。<br>[授業外学修] 自らも学習指導案を試作してみること | ⑪ | [テーマ] 指導言④ 発問作成練習<br>[内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。<br>[授業外学修]自分が作成した発問案をさらに修正してみること。 |
| ④ | [テーマ] 学習指導の基礎理論～ルレッグシステム<br>[内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレッグシステムについて説明をする。さらに教科書等の記述を分析してみる。<br>[授業外学修]他の単元、テキスト等でも分析してみること。 | ⑫ | [テーマ] 板書の方法とノンバーバル・コミュニケーション<br>[内容] 板書の際の留意点について検討すると共に、立ち位置、巡回方法、視点等の影響について考える。<br>[授業外学修]他の授業などでも教師の振る舞いを観察すること |
| ⑤ | [テーマ] 学習者の理解と教授ストラテジー<br>[内容] 小・中学校の実務経験を踏まえ、学習者の理解の様相とそれに応じた教授方略(教授ストラテジー)について紹介する。<br>[授業外学修]気に入ったストラテジーを用いた発問系列を考えてみること。 | ⑬ | [テーマ] 情報機器の活用① 教育場面で用いられるメディアの発展<br>[内容] 教育場面で用いられる各種メディアとを紹介し、その得失と使用上の留意点を中心に述べる。<br>[授業外学修] 自分なりにメディアの利用上の得失について検討すること。 |
| ⑥ | [テーマ] 発問とｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ<br>[内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。<br>[授業外学修]身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること | ⑭ | [テーマ] 情報機器の活用② 自作動画の制作と効果<br>[内容] 教育における映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。<br>[授業外学修] 任意の内容で自作映像の内容や構成について考えてみること |
| ⑦ | [テーマ] 教育評価のサイクル<br>[内容] 一連の授業の計画、実施、振り返りにおける教育評価のポイントとその繰り返しによる授業改善の必要性について考える。<br>[授業外学修]各時点における評価内容について整理しておくこと。 | ⑮ | [テーマ] 情報機器の活用③ 双方向型情報機器の活用<br>[内容] 教育場面で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点、情報モラルの問題を紹介する。<br>[授業外学修] 教育者の情報モラルについて改めて整理しておくこと |
| ⑧ | [テーマ] 指導言① 説明<br>[内容] 説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。<br>[授業外学修]身近な例で抽象度操作をしてみること。 | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 授業実践を深め、検討する方法についてまとめ、教職を基盤とした自らの人生について改めて考える。<br>[授業外学修] 自らの指導者としてのﾗｲﾌｺｰｽについて改めて考えること |

**成績評価方法(方針)**

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。提出されたレポートについては、事後授業内でコメントを付しフィードバックする。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 40% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | △ | 50% |
| 授業外レポート | | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | | | 対象としない |
| 授業態度 | | | | 加減点要素 |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。
教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教育方法論、教職総合演習、教職ｷｬﾘｱ演習 | 関連資格 | 中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭<br>社会教育主事(生涯学習支援論の一部に充当) |
| 教科書 | | 参考書 | 宇野編　授業に学び授業を作る教育心理学第二版　中央法規 |
| オフィスアワー | 荒井A309　前期　月　4時限、　後期　月3時限 | その他 | |

| 授業科目名 | 教育相談<br>School Educational Counseling(L) | | | | 担当教員 | 青沼　一民 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 小・中学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

教育相談は生徒指導・学習指導と同様に重要である。教育相談学は、その理論と内容・方法め技術・校内指導体制・校外機関との連携・生徒理解・関係心理学等を体系的に講義する。また、教育現場の実務経験を活かし、いじめや不登校、虐待、発達障害等の直面する問題の現状と課題を把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて講義形式で解説する。さらに、外部講師を招いて、専門的知見を活かし講義を行う。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

学校における教育相談活動の歴史、意義と原理、目的、方法、内容、技法、関連する心理学的基礎、指導体制、生徒指導等を理解する。さらに、不登校・いじめ・虐待・発達障害等の様々な教育相談上の現状と課題を把握・理解し、教育現場での活用に繋げられるよう考察する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教育相談の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制、生徒指導等について理解する。また、教育相談上の現状と課題を把握・理解し、望ましい教育相談や対応を説明する。 |
| ■ | 情意的領域 | 生徒のよりよい人格の発達や有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような相談支援を理解し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、教育相談を実践する力を養うことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

各授業のテーマに沿った講義が中心となり、実践的力量が高められるように校外学習への率先した取り組みや自主的な教育ボランティア等の体験を勧める。また、実践事例の紹介や視聴覚資料を通して対応の在り方を考察する。さらに、教育相談の周辺領域に係る科目(学校保健学・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することで更なる地域の定着と構造化が図られる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 教員免許取得における位置づけ、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項について説明する。<br>[授業外学修]シラバス・教科書(生徒指導提要)を準備する。 | ⑨ | [テーマ] 教育相談の進め方し技法、保護者面接、心理教育と基礎理論等について<br>[内容] 教育相談の進め方と技法と保護者面接の在り方、心理教育ときそ理論、心理療法等を概説し、視聴覚資料で補充する。<br>[授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行う。 |
| ② | [テーマ]教育相談の歴史と理念(沿革と発展)<br>[内容] 我が国における教育相談の歩みとアメリカにおけるスクールカウンセリングとの関係、スクールカウンセラー制度について概説する。<br>[授業外学修]プリントで復習するとともに興味ある箇所をさらに追求する。 | ⑩ | [テーマ] 教育相談の課題(1)-①<br>[内容] 「いじめ」の構造・態様・変容・現状と課題等について解説する。<br>[授業外学修]学習プリント・PC等で考察する。 |
| ③ | [テーマ] 教育相談の意義・目的・役割・機能など<br>[内容] 教育相談の意義、目的、役割、機能等について解説する。<br>[授業外学修]学習指導要領総則・特活編等を復習する。 | ⑪ | [テーマ] 教育相談の課題(1)-②<br>[内容] 「いじめ」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化を図る。<br>[授業外学修]図書館、新聞、PC等で「いじめ」問題に関連する記事で考察する。 |
| ④ | [テーマ] 教育相談と生徒指導、教育相談の特質・方法・形態など<br>[内容] 教育相談と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態などについて解説する。<br>[授業外学修]学習プリントをもとに復習する。 | ⑫ | [テーマ] 教育相談の課題(2)-①<br>[内容] 「不登校」の構造・態様・変容・現状と課題について解説する。<br>[授業外学修]学習プリント・PC等で考察する。 |
| ⑤ | [テーマ] 校内外の教育相談体制と連携、各教員の役割、教育相談の基本など<br>[内容] 学校内外における教育相談体制づくりと連携、学級担任を中心とした多様な教員による教育相談の在り方を解説する。<br>[授業外学修]プリントをもとに復習する。 | ⑬ | [テーマ] 教育相談の課題(2)-②<br>[内容] 「不登校」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化を図る。<br>[授業外学修]図書館、新聞、PC等で不登校問題に関する記事で考察する。 |
| ⑥ | [テーマ] 教育相談と児童生徒理解(心理アセスメント含)の方法<br>[内容] 効果的な教育相談の実践を支える児童生徒理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する。<br>[授業外学修]プリント及び図書館学習で復習する。 | ⑭ | [テーマ] 教育相談の課題(3)-①<br>[内容] 「発達障害」「虐待」「少年非行」等の理解、現状と課題について解説する。<br>[授業外学修]学習プリント、PC等で復習する。 |
| ⑦ | [テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見1<br>[内容] 教育相談を支える児童・青年期の心理と発達、様々な欲求と行動、欲求不満、心の構造等について解説する。<br>[授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行う。 | ⑮ | [テーマ] 教育相談の課題(3)-②<br>[内容] 「発達障害」の理解を深め、相談対応あり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化を図る。<br>[授業外学修]学習プリント、新聞、PC等で発達障害関連の記事を読み考察する。 |
| ⑧ | [テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見1<br>[内容] 教育相談を支える関係心理学における葛藤、適応と不適応並びに適応(防衛)機制の特徴等について説明する。<br>[授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行う。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業の理解度、達成度を確かめるために期末テストを実施する。<br>[授業外学修]これまでの学習の復習をしっかり行い対策を図る。 |

**成績評価方法(方針)**

定期の筆記試験の結果(80%)に、受講態度や授業内レポート・意欲・関心(20%)を加味して評価する。なお、学則に従い総授業回数のうち3/2以上の出席のない者定期試験の受験資格がない。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 80% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

①教員志望で意欲のある学生の受講を基本　②授業態度や確認小テストも評価の観点として加点、自己都合による20分以上の遅刻は欠席　③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。　自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届け出を提出しても欠席　④授業は意欲や視力、希望等を考慮した座席指定制として初回授業で決定。初回授業欠席の場合は事前相談を必ず行うこと。　⑤授業の進度で内容の前後や変更の可能性もあり得る。詳細は初回授業で説明する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学等 | 関連資格 | 中・高校教員免許 |
| 教科書 | 生徒指導提要(文部科学省　教育図書出版) | 参考書 | 学習指導要領(解説含) |
| オフィスアワー | 火曜日の10:20～11:50 | その他 | 連絡先:青沼研究室(A313) |

| 授業科目名 | 生涯学習概論A<br>Introduction to Lifelong Learning A (L.) | | | | 担当教員 | 門真　洋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 社会教育主事としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 授業では、生涯学習の理念を確認した上で、わが国における社会教育についての基本的事項を概説する。近代の社会教育の特性と対比させながら、現代の社会教育の基本的性格ならびに社会教育活動を支える施設や職員に関する基本的事項について説明し、さらに生涯学習と社会教育をめぐる諸問題について説明を行なう。 | iv |

**授業の一般目標**

生涯学習と社会教育の関係を理解するとともに、わが国の社会教育の歴史をふまえて生涯学習社会における社会教育に関わる施設、職員の役割について理解する。また、その理解をもとに現代社会における社会教育に関心を持ち、その問題点について主体的に考えることができるようになる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 1. 生涯学習、社会教育とは何か、さらに社会教育の歴史についての説明ができる。<br>2. 生涯学習社会における社会教育の課題を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 生涯学習社会および社会教育について関心と問題意識を持ち主体的に考えることができる。また自ら生涯をみすえての学習をすることができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

本授業は社会教育主事任用資格取得のための導入的な授業である。下記の関連科目を履修する上でどうしても理解しておくべき基本的事項を扱うので、その理解という点を重視して授業を行なう（よって、上記の認知的領域に重点を置く）。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 社会教育主事任用資格の概要を説明したのち、本授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 社会教育教育主事の役割と職務（1）<br>[内容] 社会教育主事の役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ② | [テーマ] 生涯学習とは何か<br>[内容] 生涯学習という概念の意味について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑩ | [テーマ] 社会教育教育主事の役割と職務（2）<br>[内容] 社会教育主事の資質・能力について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ③ | [テーマ] 社会教育とは何か<br>[内容] 生涯学習社会における社会教育という教育領域の位置づけについて説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑪ | [テーマ] 社会教育に関する団体と指導者<br>[内容] 社会教育関係団体の法的位置づけと実態および社会教育行政との関係について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ④ | [テーマ] 日本における社会教育の歴史（1）<br>[内容] 社会教育の歴史的展開について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑫ | 生涯学習社会と家庭教育（1）<br>[内容] 家庭教育支援の現状と課題について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑤ | [テーマ] 日本における社会教育の歴史（2）<br>[内容] 社会教育の歴史的展開について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑬ | 生涯学習社会と家庭教育（2）<br>[内容]生涯学習社会における家庭教育支援の役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑥ | [テーマ] 社会教育の基本法令・施策<br>[内容] 社会教育関係法令について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑭ | [テーマ] 生涯学習社会と学校教育（1）<br>[内容] 生涯学習と学校教育の関係について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑦ | [テーマ] .社会教育行政の組織と役割<br>[内容] 社会教育行政の意義・組織・役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑮ | [テーマ] 生涯学習社会と学校教育（2）<br>[内容] 学校・家庭・地域の連携・協働の意義について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑧ | [テーマ] 社会教育行政における委員<br>[内容] 設置の意義と根拠・職務と役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。<br>[授業外学修] テストに備えて授業内容全体の十分な復習をしておく。 |

**成績評価方法（方針）**

上記の授業計画の項で述べたように、本授業は生涯学習、社会教育に関する基本的事項の理解という点に重点を置くので、期末試験により認知的領域を中心として成績評価を行なう。また、習熟度を図る上で授業内でふりかえりのレポートを毎回課し、成績評価に加味する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・13回以上の出席がないと単位を修得することはできない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。飲食物の持ち込みは禁止。
・携帯、スマホ等は授業開始前にカバンの中へ入れる。
・受講者多数の場合は、レポート作成（400字）させ、そこから選抜。
・私語は絶対に慎むこと。（他人に迷惑をかけない）
●資格取得に必要な科目である。該当の資格に関心をもって受講すること。
※学生証は、忘れないこと。（忘れた場合は、欠席扱い）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B、社会教育演習B | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 講義の中で指示 | 参考書 | 講義の中で指示 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。 |

| 授業科目名 | 生涯学習概論B<br>Introduction to Lifelong Learning B (L.) | | | | 担当教員 | 門真　洋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 社会教育主事としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 「生涯学習概論A」の内容をふまえて、大きく変動しつつある現代社会に生きる人間の生涯にわたる発達ということと関連づけながら、わが国の社会教育の各領域の直面する課題及び 関連する理論について概説する。また、各領域の社会教育活動の事例として、わが国の代表的社会教育施設である公民館等における諸実践を紹介していく。 | iv |

**授業の一般目標**

人間の発達・社会化に関する基本的事項、現代社会の特徴について理解するとともに、社会教育の各領域が直面する課題およびそれに関連する理論を理解する。また、その理解にもとづいて、社会教育の各領域の問題に関心を持ち主体的に考えることができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 人間の発達・社会化と現代社会の特徴の理解をふまえて、社会教育各領域の課題、関連する理論を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 社会教育に対する関心の幅を広げ、問題意識を高めるとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考えることができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

各授業テーマに沿った資料や情報等を用いた講義が中心であるが、前半終了時と学期末にそこまでの授業内容についてのレポートを課し、授業内容をふまえて社会教育の各領域の問題について主体的に考察してもらう。また、講義のふりかえりとして発表も行なう。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 青少年問題と社会教育（1）<br>[内容] 青少年の教育に関する基本的事項について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ② | [テーマ] 社会教育施設の種類と役割（1）<br>[内容] 社会教育施設の法的根拠と公民館の役割・機能について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑩ | [テーマ] 青少年問題と社会教育（2）<br>[内容] 青少年の教育をめぐる近年の問題状況について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ③ | [テーマ] 社会教育施設の種類と役割（2）<br>[内容] 社会教育施設の図書館と博物館の役割・機能について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑪ | [テーマ] 青少年問題と社会教育（3）<br>[内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ④ | [テーマ] 社会教育施設の種類と役割（3）<br>[内容]その他の 社会教育施設（青少年教育施設・スポーツ施設・生涯学習センター等）の役割・機能について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑫ | [テーマ] 高齢化と社会教育（1）<br>[内容] 高齢化の問題に関する基本的事項について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑤ | [テーマ] 家庭教育と社会教育（1）<br>[内容] 家庭教育に関する基本的事項について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑬ | [テーマ] 高齢化と社会教育（2）<br>[内容] 高齢化の問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑥ | [テーマ] 家庭教育と社会教育（2）<br>[内容] 家庭教育をめぐる近年の問題状況について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑭ | [テーマ]　高齢化と社会教育（3）<br>[内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑦ | [テーマ] 家庭教育と社会教育（3）<br>[内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑮ | [テーマ] 現代社会における社会教育<br>[内容] これまでの単元で扱った内容を総合的に検討し、現代社会における社会教育の課題について考察する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑧ | [テーマ] レポート作成（1）<br>[内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。<br>[授業外学修] レポート作成に向けて準備をしておく。 | ⑯ | [テーマ] レポート作成（2）<br>[内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。<br>[授業外学修] レポート作成に向けて準備をしておく。 |

**成績評価方法（方針）**

前半終了時と学期末にレポートを課す（評価割合100%）。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。レポートは講評を付して返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | | 100% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・12回以上の出席がないと単位を修得することはできない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業で使用しないスマホ等は授業開始前にカバンの中に入れる。
・飲食物の持ち込みは禁止。
・座席指定、私語は絶対に慎むこと。（他人に迷惑をかけない）
●資格取得に必要な科目である。資格に関心をもって受講すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生涯学習概論A、教育社会学、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B、社会教育演習B | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 二訂　生涯学習概論　馬場裕次郎（ぎょうせい）　概論Aで使用 | 参考書 | ※左記の教科書は②・③・④・⑤・⑥・⑨の時間で使用予定 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。 |

| 授業科目名 | 社会教育計画A<br>Social Education Planning A(L.) | | | | 担当教員 | 針生　弘・郡山　孝幸 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 小学校教員及び社会教育現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 社会教育現場での実務経験を活かし，現代における社会教育計画の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの計画の在り方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育計画の作成ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、計画作成、事業のあり方について思考する能力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 社会教育計画を作成できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 社会教育主事として住民のニーズをとらえた計画作成に取り組めるようになる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

社会教育現場による実務経験を活かし，生涯学習の観点から講義を行う。各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法<br>[授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 社会教育施設計画(3)<br>[内容] 博物館の役割について説明する。<br>[授業外学修] 博物館の役割について説明できるようにしておくこと。 |
| ② | [テーマ] 生涯学習社会における社会教育の役割<br>[内容] 生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | ⑩ | [テーマ] 社会教育施設計画(4)<br>[内容] 青少年教育施設の役割について説明する。(特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ)<br>[授業外学修] 青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 生涯学習振興と社会教育計画<br>[内容] 生涯学習振興と社会教育計画の関連について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | ⑪ | [テーマ] 社会教育施設計画(5)<br>[内容] 青少年教育施設の事業と計画について説明する。(特に宮城県内の自然の家の役割について学ぶ)<br>[授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(1)<br>[内容] 市町村の事例(特に柴田町の事例)をもとに説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 | ⑫ | [テーマ] 社会教育施設計画(6)<br>[内容] 女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ)<br>[授業外学修] 女性教育施設について説明できるようにしておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(2)<br>[内容] 宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。(仙台市及び県内他市町村の事例を紹介)<br>[授業外学修] 授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。 | ⑬ | [テーマ] 社会教育施設計画(7)<br>[内容] 社会体育施設の役割について説明する。<br>[授業外学修] 社会体育施設について説明できるようにしておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 生涯学習時代における社会教育計画の作成<br>[内容] 社会教育計画作成の手順について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ(移動学習)<br>[授業外学修] 社会教育計画作成の手順について説明できるようにしておくこと。 | ⑭ | [テーマ] 社会教育施設計画(8)<br>[内容] 生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ)<br>[授業外学修] 生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 社会教育施設計画(1)<br>[内容] 公民館の役割について説明する。<br>[授業外学修] 公民館の役割について説明できるようにしておくこと。 | ⑮ | [テーマ] 生涯学習時代における社会教育施設の役割と計画<br>[内容] 社会教育施設の現代的役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 社会教育施設計画(2)<br>[内容] 図書館の役割について説明する。<br>[授業外学修] 図書館の役割について説明できるようにしておくこと。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。<br>[授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。 |

**成績評価方法（方針）**

試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)の内容を評価する。その結果については，提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後する事がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 「生涯学習概論」「社会教育計画B] | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 社会教育法 |
| オフィスアワー | 針生：火曜Ⅲコマ | その他 | 研究室電話番号　0224－55－1484 |

| 授業科目名 | 社会教育計画B<br>Social Education Planning B(L.) | | | | 担当教員 | 郡山　孝幸・針生　弘 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 小学校教員及び社会教育現場での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 「社会教育計画A」の内容を踏まえ、社会教育現場での実務経験を生かし社会教育事業のあり方を具体例をもとに説明するとともに、小学校教員の経験を生かし学校教育との連携をもとにした地域づくりについて具体例をもとに説明する。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

社会教育事業の企画と実践の仕方を考えることができるようになる。また、学社連携の実際について具体的に思考できる能力を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 社会教育事業の企画と実践について考えることができる。 |
| ■ | 情意的領域 | 社会教育事業の発展として学社連携を捉えることができるようになる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。 |

**授業計画（全体）**

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために現地見学や地域住民との交流を行う。またこれまで生活をしてきた柴田町の行政や地域の特色を知るために，生涯学習に関する広報紙を作成するなどの活動を通し，主体的な取り組みを促す。理解度，到達度の確認のために授業後の感想と課題を授業内レポートとして提出させることがある。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法<br>[授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 社会教育事業の展開(8)<br>[内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 |
| ② | [テーマ] 社会教育事業の展開(1)<br>[内容] 社会教育事業の企画のあり方について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 | ⑩ | [テーマ] 社会教育事業の展開(9)<br>[内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。(特に高齢者教育について学ぶ)<br>[授業外学修] 「高齢者教育」の実際について考えておくこと。 |
| ③ | [テーマ] 社会教育事業の展開(2)<br>[内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に行政機関による事業について)<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 | ⑪ | [テーマ] 社会教育事業の展開(10)<br>[内容]社会教育事業の計画を立てる。(仙台市内の生涯学習センターを見学する)<br>[授業外学修] 「生涯学習センター」の実際について考えておくこと。 |
| ④ | [テーマ] 社会教育事業の展開(3)<br>[内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に民間による事業推進について)<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 | ⑫ | [テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(1)<br>[内容] 学社連携・融合の事業計画をもとに具体的に説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 社会教育事業の展開(4)<br>[内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内生涯学習センター等を見学する)<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 | ⑬ | [テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(2)<br>[内容] 学校支援地域本部、コミュニティスクールの役割等について具体的に説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 社会教育事業の展開(5)<br>[内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内各地域における生涯学習の取り組みを見学する)<br>[授業外学修] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。 | ⑭ | [テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(3)<br>[内容] 宮城県内の学社連携・融合の事業推進について現地で学ぶ(各小学校における学校支援地域本部を見学する)<br>[授業外学修] 「学校支援地域本部」の実際について考えておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 社会教育事業の展開(6)<br>[内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙作成のための計画を立案する)<br>[授業外学修] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。 | ⑮ | [テーマ] 社会教育主事の役割<br>[内容] 生涯学習時代における社会教育主事の役割について説明する。<br>[授業外学修] 社会教育主事の役割について説明できるようにしておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 社会教育事業の展開(7)<br>[内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙の編集・印刷を行う)<br>[授業外学修] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。 | ⑯ | [テーマ] テスト<br>[内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。<br>[授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。 |

**成績評価方法（方針）**

試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 60% |
| 授業内レポート | | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | ◎ | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生涯学習概論 | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 特に指定しない | 参考書 | 社会教育法 |
| オフィスアワー | 主担当郡山のオフィスアワー　火曜Ⅲコマ | その他 | 郡山研究室電話番号　0224－55－1491 |

| 授業科目名 | 社会教育演習A<br>Seminar on Social Education A(S.) | | | | 担当教員 | 門真　洋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 社会教育主事としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて社会教育施設と連携して演習を行ない、地域の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。 | ⅳ |

**授業の一般目標**

(1)授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について理解する。
(2)演習をとおして生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考察することができる。
(3)演習をとおして生涯学習、社会教育について主体的に考察することができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 授業で取り上げる生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考察することができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 上記の考察の結果をまとめて講座を企画・立案して実践化することができる。 |

**授業計画（全体）**

オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて、連携先の社会教育施設との演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 社会教育施設講座企画(1)「個人」<br>[内容] 「高齢者教育」の（企画講座）の立案をする。<br>[授業外学修] 発表者は原稿を作成する。 |
| ② | [テーマ] 基本的事項の講義(1)<br>[内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑩ | [テーマ] 社会教育施設講座企画(2)「個人」<br>[内容] 「高齢者教育」の講座を企画・立案したものを発表する。<br>[授業外学修] 発表者は原稿を作成する。 |
| ③ | [テーマ] 基本的事項の講義(2)<br>[内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑪ | [テーマ] 社会教育施設講座全体企画(1)<br>[内容] 講座を企画・立案する。<br>[授業外学修] 講座企画について事前に十分考察する。 |
| ④ | [テーマ] 基本的事項の講義(3)<br>[内容] 演習を進めるにあたって社会教育施設の概要についての講義を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑫ | [テーマ] 社会教育施設講座全体企画(2)<br>[内容] 講座を企画・立案する。<br>[授業外学修] 前時に作成した講座企画について事前に十分考察する。 |
| ⑤ | [テーマ] 社会教育施設演習(1)<br>[内容] 社会教育施設の現場で学習し、概要を学ぶ。（船岡生涯学習センター）<br>[授業外学修] 社会教育施設の概要について事前に調べておく。 | ⑬ | [テーマ] 社会教育施設講座全体企画(3)<br>[内容] 講座を企画・立案する。<br>[授業外学修] 前時に作成した講座企画について事前に十分考察する。 |
| ⑥ | [テーマ] 社会教育施設演習(2)<br>[内容] 社会教育施設の現場で学習し、講座を見学する。（船岡生涯学習センター）<br>[授業外学修] 社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。 | ⑭ | [テーマ] 学生企画講座実施(1)<br>[内容] 社会教育施設において企画講座の実践を行なう。<br>[授業外学修] 役割分担を含め、事前に十分考察する。 |
| ⑦ | [テーマ] 社会教育施設演習(3)<br>[内容]船岡生涯学習センターでの演習したことの反省会を行なう。<br>[授業外学修] 社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。 | ⑮ | [テーマ] 学生企画講座実施(2)<br>[内容] 社会教育施設において企画講座の実践を行なう。<br>[授業外学修] 役割分担を含め、事前に十分考察する。 |
| ⑧ | [テーマ] 社会教育施設演習(4)<br>[内容] 「高齢者教育」のイベント（企画講座）を見学する。<br>[授業外学修] 社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。 | ⑯ | [テーマ] レポート作成<br>[内容] 演習全体のまとめとして期末のレポートを書く。<br>[授業外学修] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。 |

**成績評価方法（方針）**

演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメンテーターを割り当てるが、その企画内容、コメントの内容、毎回の授業のまとめとして全員に書いてもらう小レポートの内容及び期末のまとめのレポートの内容にて評価する。また、企画出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメント・小レポートについては評価して返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・14回以上の出席がないと単位を修得することはできない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
●資格取得に必要な科目なので、その該当の資格に関心をもって、受講してほしい。　・受講生の主体性を高めていくので、同僚に迷惑をかけないこと。
・授業外学習も重視して行く。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生涯学習概論A、生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育計画B、社会教育演習B | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。 |

| 授業科目名 | 社会教育演習B<br>Seminar on Social Education B(S.) | | | | 担当教員 | 門真　洋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 社会教育主事としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の2つのテーマで演習を行ない、関係施設において実践化する。
1.「地域社会と教育」をテーマとする企画・立案をとおして、具体的に考察する。
2.「学社融合」をテーマとする企画・立案をとおして、具体的に考察する。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

iv

**授業の一般目標**

(1)「地域社会と教育」に関する基本的事項について説明できる。
(2)「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
(3)上記の分野に関連する内容について主体的に考察できる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 「地域社会と教育」、「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 上記の分野に関心を持ち、関連する演習をとおして主体的に考察できる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 上記の考察の結果を論理的にまとめて発表・講座開設することができる。 |

**授業計画（全体）**

演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。受講生が各自講座やイベントを企画したものを発表、コメントをしながら演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、講座やイベントを実践化させる。さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを書いてもらう。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。<br>[授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 基本的事項の講義(3)<br>[内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社連携と学社融合」)を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ② | [テーマ] 基本的事項の講義(1)<br>[内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会の社会学」)を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑩ | [テーマ] 基本的事項の講義(4)<br>[内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社融合と社会教育施設」)を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ③ | [テーマ] 基本的事項の講義(2)<br>[内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会と教育」)を行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑪ | [テーマ]「学社融合」をテーマとする演習(1)<br>[内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。(前半のふりかえりを生かすようにする)<br>[授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。 |
| ④ | [テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする演習(1)<br>[内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。<br>[授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。 | ⑫ | [テーマ]「学社融合」をテーマとする演習(2)<br>[内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。<br>[授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。 |
| ⑤ | [テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする演習(2)<br>[内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。<br>[授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。 | ⑬ | [テーマ]「学社融合」をテーマとする演習(3)<br>[内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。(施設においてのイベントの準備を行なう)<br>[授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。 |
| ⑥ | [テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする演習(3)<br>[内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。<br>[授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。 | ⑭ | [テーマ]「学社融合」をテーマとする演習(4)<br>[内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。(施設においてイベントを実施する)<br>[授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。 |
| ⑦ | [テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする演習(4)<br>[内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。(施設においてのイベントの準備を行なう)<br>[授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。 | ⑮ | [テーマ] レポート作成<br>[内容] 授業全体のまとめとしてイベントのレポートを書く。<br>[授業外学修] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。 |
| ⑧ | [テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする演習(5)<br>[内容] 地域調査を基にして演習を行なう。(施設においてイベントを実施する)<br>[授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。 | ⑯ | |

**成績評価方法（方針）**

演習形式で行なう授業における発表・コメントの内容、各回の授業内容についての小レポートの内容および期末のまとめのレポートの内容により評価する。また、イベント企画内容も評価対象として重視していく。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 評価対象外 |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 60% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 40% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・主な理由がない場合に欠席をした時、単位を修得することはできない（欠格条件）。
・飲食物の持ち込みは禁止。（学内での授業中）
・講座企画、立案→実践するので移動の時は時間厳守。
・グループワークが多いので同僚に迷惑をかけない。
・授業外学習も重視していく。
・資格取得に必要な科目であるので該当の資格に関心をもって受講してほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生涯学習概論A、生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 特に指定しない。 | 参考書 | 特に指定しない。 |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。 |

| 授業科目名 | 教育社会学<br>Sociology of Education (L.) | | | | 担当教員 | 門真　洋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 社会教育主事としての実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| (1)現代社会が直面する各分野の問題及び関連する教育の課題について理解すると共に、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。<br>(2)上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。 | iv |

**授業の一般目標**

(1)現代社会が直面する各分野の問題及び関連する教育の課題について理解すると共に、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
(2)上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題を理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画（全体）**

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心である。各単元ごとに基本的事項の解説、近年の具体的状況の説明をし、それをふまえて教育施設における実践活動について紹介・検討することで社会教育の各領域の問題についての受講生の主体的考察につなげる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。<br>※レポート作成で受講者選抜<br>[授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。 | ⑨ | [テーマ] 子どもの社会学(4)<br>[内容] (1)～(3)の内容をふまえて、この分野のまとめを行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ② | [テーマ] 教師の社会学(1)<br>[内容] 教師に関する基本的事項について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑩ | [テーマ] 非行/逸脱・教育問題(1)<br>[内容] 社会の変化と教育問題について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ③ | [テーマ] 教師の社会学(2)<br>[内容] 教師の役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑪ | [テーマ] 非行/逸脱・教育問題(2)<br>[内容] 不登校・長期欠席・不就学等の教育問題について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ④ | [テーマ] 教師の社会学(3)<br>[内容] 教師・子ども・保護者の関係をめぐる近年の状況について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑫ | [テーマ] 非行/逸脱・教育問題(3)<br>[内容] 児童虐待・少年非行の社会学について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑤ | [テーマ] 教師の社会学(4)<br>[内容] (1)～(3)の内容をふまえて、この分野のまとめを行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑬ | [テーマ] 非行/逸脱・教育問題(4)<br>[内容] (1)～(3)の内容をふまえて、この分野のまとめを行なう。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑥ | [テーマ] 子どもの社会学(1)<br>[内容] 子どもの社会学に関する基本的事項について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑭ | [テーマ] 現代社会における社会教育<br>[内容] ここまで扱ったさまざまな問題を抱える現代社会における社会教育の役割について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 |
| ⑦ | [テーマ] 子どもの社会学(2)<br>[内容] 子どもと教育の関係に関する基本的事項について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑮ | [テーマ] テスト<br>[内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。<br>[授業外学修] テストに備え授業内容全体の十分な復習をしておく。 |
| ⑧ | [テーマ] 子どもの社会学(3)<br>[内容] 子ども教育の関係に関する近年の状況について説明する。<br>[授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。 | ⑯ | |

**成績評価方法（方針）**

学期末に授業内容全体の理解度を確かめるためのテストを実施し、その結果で成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評とともに返却する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ◎ | | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | | 40% |
| 授業外レポート | | | | 評価対象外 |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・受講希望者が多数の場合は、①の時、レポート(400字)作成で選抜する。
・13回以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・資格取得に必要な科目であるので、該当の資格に関心をもって受講してほしい。
・携帯、スマホは授業前にカバンの中へ入れること。
・飲食物の持ち込みは、禁止とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 生涯学習概論A、生涯学習概論B、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B、社会教育演習B | 関連資格 | 社会教育主事任用資格 |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | | その他 | 非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。 |

| 授業科目名 | スポーツ施設管理概論　Ⅰ<br>Introduction to Sport Facility Management Ⅰ | | | | 担当教員 | 小島　文雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | スポーツ施設工事現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツ施設の構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。学内・学外施設で実習や管理施設の見学を行い管理手法の具体例をスポーツ施設建設工事現場での実務経験を生かして講義する。教員を目指す学生に対し「体育施設管理士」の資格修得を目標として、授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設の運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅴ

**授業の一般目標**

(1)スポーツ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツ施設の「経営理念・社是・社訓」を考察する事が出来る様になる。施設管理を通して社会の構造を知る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ施設管理の各分野にわたり構造と維持管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。体育施設管理士(公益財団法人　日本体育施設協会　認定)の講習会と同等の知識を修得し、認定試験に合格し有資格者となる。 |
| ■ | 情意的領域 | 商業スポーツ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。 |

**授業計画（全体）**

各授業テーマに沿ったテキストと資料を用いた講義が中心であるが、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来るようになる。連絡事項や参考資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする(手続き無料)。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　オリエンテーション、「体育施設管理士」,「指定管理者制度」について<br>[内容]　担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。「体育施設管理士」、「指定管理者制度」について説明する<br>[授業外学修]　シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する | ⑨ | [テーマ]　スポーツ事故と対策、弁護士による講義<br>[内容]　スポーツ事故と法律知識、危機管理体制の整備、スポーツ事故判例について、安全配慮義務、過失相殺、管理の瑕疵など言葉の意味<br>[授業外学修]テキストを熟読し、新聞記事の事故判例などに興味を持つ |
| ② | [テーマ]　商業スポーツ施設の経営理念　その1<br>[内容]　「経営理念・社是・社訓」はどのように考えられて、実施されているかを説明する。企業経営の目的や経営方針書について説明する<br>[授業外学修]　自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する | ⑩ | [テーマ]　芝生の造成と維持管理その2　(芝生における実習)・課題提出期限<br>[内容]　維持管理プログラムを説明し,芝刈り機械の操作方法を実習する。<br>手押し式リールモア，自走式リールモア，手押し式エンジン駆動ロータリーモア<br>[授業外学修]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する |
| ③ | [テーマ ]商業スポーツ施設の経営理念　その2　授業外課題のヒント<br>[内容]　企業経営の財務管理(貸借対照表、損益計算書など)や損益分岐点について説明する。課題作成のヒントを説明する<br>[授業外学修]　夢実現の為、自らの「経営理念、社是、社訓」を考察する | ⑪ | [テーマ]　スポーツ施設の診断(保全と劣化)<br>[内容]　公共施設の保全、取り巻く環境・時代の変動や管理の現状と展望、劣化の代表的な具体例。賠償具体例、事後保全、予防保全について<br>[授業外学修]　身の回りのスポーツ施設の劣化を見つけ出す努力をする |
| ④ | [テーマ]　用器具と維持管理、陸上競技場の維持管理・第1回小テスト<br>[内容] 1. 保守点検の目的とポイント、保守点検整備の方法について<br>2. 陸上競技場の構造と施工断面構造について,公認規格について<br>[授業外学修]　用器具や陸上競技場を自ら保守点検する心がけで観察する | ⑫ | [テーマ]　整備道具の扱い方について実習する・第3回小テスト<br>[内容]　不陸整正道具である鉄製レーキと木製レーキ(トンボ)の操作方法について手ほどきをする。小テストの実施と解説をする<br>[授業外学修]　五感を鋭く働かせて整備の出来不出来を感じるように努める |
| ⑤ | [テーマ]　クレー系グラウンドの構造と維持管理その1<br>[内容]　種類と機能特性、施工断面構造、維持管理道具の実際の操作方法と維持管理の要点について説明する<br>[授業外学修]　グラウンドの乾燥時と湿潤時を比較して観察する | ⑬ | [テーマ]　商業スポーツ施設の経営理念　その3(授業外課題発表会)<br>[内容]　課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画)D(実施)C(点検)A(改善)サイクルを機能させて改善する<br>[授業外学修]　授業外課題を見直し、改善すべき時は再提出する |
| ⑥ | [テーマ]　芝生の造成と維持管理その1、国立競技場職員による講義<br>[内容]　種類と機能特性、施工断面構造、植物生理育成手法、利用水準と管理手法について説明する<br>[授業外学修]　各施設のHPから芝草を検索する。噴水廻り芝生を観察する | ⑭ | [テーマ]　定期試験<br>[内容]　授業の理解度・到達度を確かめる為に定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。<br>[授業外学修]　定期試験に備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ]　クレー系グラウンドの構造と維持管理その2　(陸上競技場で実習)<br>[内容]　化粧砂や苦汁の散布実習を行い、整備上不可欠な"均一に"を心掛ける整備手法を学ぶ。　雨天時や進入不能のときは順延する<br>[授業外学修]　日常の動作の中に"均一に"の心掛けを持つように考える | ⑮ | [テーマ]　学外施設見学会＝スポーツ施設管理の実際(土曜日午後実施)<br>[内容]　表蔵王国際ゴルフクラブを見学して、芝生の維持管理について説明する。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。<br>[授業外学修]　管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にする。 |
| ⑧ | [テーマ]　全天候グラウンドの構造と維持管理・第2回小テスト<br>[内容]　種類と機能特性、施工断面構造、維持管理の要点について説明する。小テストの実施と解説をする<br>[授業外学修]　全天候グラウンドを観察して断面構造を説明出来る様にする | ⑯ | [テーマ] 学外施設見学会＝スポーツ施設管理の実際(土曜日午後実施)<br>[内容]　2コマ分の所要時間で40人位ずつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。<br>[授業外学修]　上記と同じ |

**成績評価方法（方針）**

定期試験を1回，授業内レポート(小テスト)を3回実施する。授業外レポート(課題)を課す。課題は内容と表現力を査定する。これらの結果を総合して成績評価を行う。試験問題・解答は返却しないが、成績評価が自己採点出来る様に解説する。出席は欠格条件となる。欠席届(0．4ポイント扱い)と自習成果表(0．4から0．6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0．7ポイントとして加味する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 20% |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 減点あり |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない　・「体育施設管理士」を受験する学生は70%以上の出席が必要　・授業中の私語厳禁(指定席制も実施予定)　・板書しない事柄でも、重要なポイントはメモし、レポート作成時などに活用　・出席や小テストの点数などが不足するときは相談すること、救済策は自習成果表の提出や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない　・認定試験に合格後資格が付与される
・授業計画は、授業の進み方や実習の日の天候により、多少変更する

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ施設管理概論Ⅱ,スポーツ施設の経営管理,運動障害救急法,スポーツターフ管理概論Ⅰ,及びⅡ | 関連資格 | 体育施設管理士(公益財団法人日本体育施設協会認定) |
| 教科書 | (公財)日本体育施設協会編集のテキスト<br>(授業中に有料配布1,000円の予定，必須) | 参考書 | ＊体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方<br>＊屋外体育施設の建設指針 ＊ほか |
| オフィスアワー | A棟1階営繕管理室内:火曜日10:20～11:50 | その他 | Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579 |

| 授業科目名 | スポーツ施設管理概論 Ⅱ<br>Introduction to Sport Facility Management Ⅱ | | | | 担当教員 | 小島 文雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ｽﾎﾟｰﾂ施設工事現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

スポーツ施設の構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。学内施設や学外施設で実習や管理施設の見学を行い管理手法の具体例をスポーツ施設建設工事現場での実務経験を生かして講義する。教員を目指す学生に対し「体育施設管理士」の資格修得を目標として、授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅴ

**授業の一般目標**

(1)スポーツ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツ施設の「管理計画書」を考察する事が出来る様になる。施設管理を通して社会の構造を知る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツ施設管理の各分野にわたり構造と維持管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。体育施設管理士(公益財団法人 日本体育施設協会 認定)の講習会と同等の知識を修得し、認定試験に合格し有資格者となる。 |
| ■ | 情意的領域 | 商業スポーツ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や管理計画書を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。 |

**授業計画（全体）**

各授業テーマに沿ったテキストと資料を用いた講義が中心であるが、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来るようになる。連絡事項や参考資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする(手続き無料)。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、「体育施設管理士」,「指定管理者制度」について<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。「体育施設管理士」、「指定管理者制度」について説明する<br>[授業外学修] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する | ⑨ | [テーマ] スポーツ施設の照明と維持管理，課題提出期限<br>[内容]] 照明設備の基礎知識と機能特性、維持管理の要点について説明する。<br>[授業外学修] ランプ交換方式について説明出来る様にする |
| ② | [テーマ] 体育館・武道館の維持管理その1<br>[内容] 維持管理の目的、業務体系、留意点について説明する<br>[授業外学修] 体育館・武道館を授業で得た知識と照らし合わせて観察する | ⑩ | [テーマ] 第3回小テストおよび解説、その他<br>[内容] 小テストの実施と解説をする。その他<br>[授業外学修] スポーツ施設経営論およびマーケティングを復習する |
| ③ | [テーマ] 体育館・武道館の維持管理その2、および課題の説明<br>[内容] 環境負荷低減手法、ライフサイクルマネジメント、ファシリティマネジメントについて説明する<br>[授業外学修] 地球上の環境問題に興味を深める | ⑪ | [テーマ] 定期試験<br>[内容]] 授業の理解度・到達度を確かめる為に定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。<br>[授業外学修] 試験に備えて復習すること。小テストの問題に準じて復習する |
| ④ | [テーマ] 水泳プールの維持管理その1<br>[内容] プールの一般知識、水質維持装置、安全管理、日常管理について説明する 日本体育施設協会講師による講義<br>[授業外学修] 安全管理の意識を高め、危機管理について説明出来る様にする | ⑫ | [テーマ] 商業スポーツ施設の管理計画書(課題発表会)<br>[内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。 P(計画)D(実施)C(点検)A(改善)サイクルを機能させて良い物に改善する<br>[授業外学修] 授業外課題を見直し、改善すべき時は再提出する |
| ⑤ | [テーマ] 各種スポーツフロアの維持管理その1<br>[内容] 種類と機能特性、施工断面構造について説明する。<br>[授業外学修] 校内ｽﾎﾟｰﾂフロアに関して断面構造を考えながら観察する | ⑬ | [テーマ] 水泳プールの維持管理その2 (プール機械室にて見学)<br>[内容] 構内プール機械室を見学し、濾過循環システムについて説明する。また校内の管理機械(配電盤、受水槽等)を見学する<br>[授業外学修] ろ過循環システムについて水の流れを図で説明出来る様にする |
| ⑥ | [テーマ] 各種スポーツフロアの維持管理その2 ・第1回小テスト、解説<br>[内容] 保護、点検、補修、リフォームについて説明する。 小テストの実施と解説をする。<br>[授業外学修] 校内ｽﾎﾟｰﾂフロアの経年変化による劣化状態を観察する | ⑭ | [テーマ] 学外施設見学会＝スポーツ施設管理の実際(土曜日1日かけて実施)<br>[内容] グランディ・21を見学して、総合スポーツ施設の維持管理について説明する。 講義で学習した事項を現地にて確認する。<br>[授業外学修] スポーツ施設管理概論 Ⅰ，Ⅱの総合復習をする |
| ⑦ | [テーマ] 野球場・サッカー場の構造と維持管理<br>[内容] 施工断面構造、維持管理について説明する。<br>[授業外学修] 校内の野球場・サッカー場の施工断面を説明出来る様にする | ⑮ | [テーマ] 学外施設見学会＝スポーツ施設管理の実際(土曜日1日かけて実施)<br>[内容] 現地で 3コマ分の所要時間で40人位ずつに組み分けして⑭、⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。<br>[授業外学修] 上記と同じ |
| ⑧ | [テーマ] スポーツ施設の音響と維持管理・第2回小テスト、解説<br>[内容] 音響設備の基礎知識と機能特性、維持管理の要点について説明する。小テストの実施と解説をする。<br>[授業外学修] 音響システム構成概念と保守の目安を説明出来る様にする | ⑯ | [テーマ] 学外施設見学会＝スポーツ施設管理の実際(土曜日1日かけて実施)<br>[内容] 1年間の授業の総集編として各施設を見学しながら，授業項目について確認する。<br>[授業外学修] 上記と同じ |

**成績評価方法（方針）**

定期試験を1回，授業内レポート(小テスト)を3回実施する。授業外レポート(課題)を課す。課題は内容と表現力を査定する。これらの結果を総合して成績評価を行う。試験問題・解答は返却しないが、成績評価が自己採点出来る様に解説する。出席は欠格条件となる。欠席届(0．4ポイント扱い)と自習成果表(0．4から0．6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0．7ポイントとして加味する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 20% |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 減点あり |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | 0 | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない ・「体育施設管理士」を受験する学生は70%以上の出席が必要 ・授業中の私語厳禁(指定席制も実施予定) ・板書しない事柄でも、重要なポイントはメモし、レポート作成時などに活用 ・出席や小テストの点数などが不足するときは相談すること、救済策は自習成果表の提出や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない ・認定試験に合格後資格が付与される
・授業計画は、授業の進み方や実習の日の天候により、多少変更する

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツ施設管理概論Ⅰ,スポーツ施設の経営管理,運動障害救急法,スポーツタープ管理概論Ⅰ,及びⅡ | 関連資格 | 体育施設管理士(公益財団法人日本体育施設協会認定) |
| 教科書 | (公財)日本体育施設協会編集のテキスト<br>(授業中に有料配布1,000円の予定，必須) | 参考書 | *ｽﾎﾟｰﾂﾌﾛｱのﾒﾝﾃﾅﾝｽ *ｽﾎﾟｰﾂ照明の設計ﾏﾆｭｱﾙ<br>*ｽﾎﾟｰﾂ音響の設計ﾏﾆｭｱﾙ*ほか |
| オフィスアワー | A棟1階営繕管理室内:火曜日10:20～11:50 | その他 | Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579 |

| 授業科目名 | スポーツターフ管理概論　Ⅰ<br>Introduction to Sport Turf Management Ⅰ | | | | 担当教員 | 小島　文雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | スポーツ施設工事現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

受講生は80名以内(実習バスの定員)とし、希望者多数の時は初回の小テストの総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理についてスポーツ施設建設工事現場での実務経験を生かして講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化の知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業を目指す学生も同様である。芝草管理技術者3級の資格修得を目指す。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅴ

**授業の一般目標**

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツターフ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事が出来る様になる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を修得できる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツターフ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。 |

**授業計画(全体)**

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]　オリエンテーション。二つの資格について 解説する<br>[内容]　担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する<br>[授業外学修]　シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する | ⑨ | [テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念　その1，第1回小テスト<br>[内容]　経営理念・社是・社訓はどのように考えられ、実施されているかを説明。企業経営の目的や経営方針書について説明する<br>[授業外学修]　自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する |
| ② | [テーマ]　構内芝生における実習その1<br>[内容]　芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する<br>[授業外学修]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する | ⑩ | [テーマ]　芝生管理機械、芝草学会講師による講義<br>[内容]　1．草刈り機の種類と機能、2．管理機械の種類と機能、3．今後の管理機械について<br>[授業外学修]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する |
| ③ | [テーマ]　芝草入門　Ⅰ、芝草学会講師による講義<br>[内容]　芝生概説、芝生概論について説明する。芝生の持つ機能について、芝生の一般的な特性について<br>[授業外学修]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する | ⑪ | [テーマ]　芝生の雑草管理、芝草学会講師による講義<br>[内容] 1．雑草防除の基礎、2．芝草雑草の特徴、3．除草剤の作用特性、4．芝地における雑草<br>[授業外学修]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する |
| ④ | [テーマ]　芝草入門　Ⅱ、芝草学会講師による講義<br>[内容]　暖地型芝草の種類と特性、寒地型芝草の種類と特性について<br>[授業外学修]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する | ⑫ | [テーマ]　構内芝生における実習その4<br>[内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。小テストの実施と解説<br>[授業外学修]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する |
| ⑤ | [テーマ]　構内芝生における実習その2<br>[内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する<br>[授業外学修]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する | ⑬ | [テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念(課題発表会)、第2回小テスト<br>[内容]　課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画)　D(実施)　C(点検)　A(改善)サイクルで改善する<br>[授業外学修]　授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する |
| ⑥ | [テーマ]　芝生の一般管理、芝草学会講師による講義<br>[内容]　1．芝生の管理とは、2．芝生の刈り込み、3．芝生の施肥、4．芝生の灌水について説明する<br>[授業外学修]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する | ⑭ | [テーマ]　定期試験<br>[内容]　授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。<br>[授業外学修]　定期試験に備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ]　構内芝生における実習その3<br>[内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する<br>[授業外学修]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する | ⑮ | [テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際<br>[内容]　泉パークタウンゴルフ倶楽部を見学して、芝生の維持管理について説明。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。<br>[授業外学修]　芝生管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にす |
| ⑧ | [テーマ]　芝生に関する療法的知識、学外講師による講義<br>[内容]　芝生の生理的、心理的効果をストレス緩和や療法的効果に活かす手法について説明する<br>[授業外学修]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する | ⑯ | [テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際<br>[内容]　土曜日2コマ分の所要時間で20人位ずつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。<br>[授業外学修]　上記と同じ |

**成績評価方法(方針)**

定期試験を1回実施，実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。定期試験問題・解答は返却しないが、自己採点出来る様に解説する。小テストは解説をしながら返却する。出席は欠格条件となる。欠席届(0.4ポイント扱い)と自習成果表(0.4から0.6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 20% |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 減点あり |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・同名Ⅱを先に受講する事が出来る
・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない　・授業中の私語厳禁(指定席制も実施予定)　・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない　・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。 認定校申請準備中

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツターフ管理概論Ⅱ、スポーツ施設管理概論Ⅰ、スポーツ施設管理概論Ⅱ　スポーツ施設の経営管理 | 関連資格 | 芝草管理技術者資格3級，　スポーツターフ管理士(準備中) |
| 教科書 | 各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布) | 参考書 | ＊体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方<br>＊屋外体育施設の建設指針 ＊ほか |
| オフィスアワー | A棟1階営繕管理室内　:火曜日10:20～11:50 | その他 | Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579 |

| 授業科目名 | スポーツターフ管理概論 Ⅱ<br>Introduction to Sport Turf Management Ⅱ | | | | 担当教員 | 小島 文雄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | ｽﾎﾟｰﾂ施設工事現場での実務経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

受講生は80名以内(実習バスの定員)とし、希望者多数の時は初回の小テストの総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理についてスポーツ施設建設工事現場での実務経験を生かして講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化の知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業を目指す学生も同様である。芝草管理技術者3級の資格修得を目指す。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅴ

**授業の一般目標**

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。 (2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、スポーツターフ施設の管理の実際を考察する事が出来る様になる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を修得できる。 |
| ■ | 情意的領域 | スポーツターフ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。 |

**授業計画(全体)**

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、二つの資格について 解説する<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する<br>[授業外学修] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する | ⑨ | [テーマ] 農業気象学、課題提出期限, 第1回小テスト<br>[内容] 1. 農業気象の基礎、2. 主な農業気象災害、3. 異常気象と地球環境<br>[授業外学修] 常日頃、身の回りに起きている異常気象に関心を持つ様にする |
| ② | [テーマ] 芝生の土壌・肥料、芝草学会講師による講義<br>[内容] 1. 土壌の種類と組成、2. 物理性、3. 化学性、4. 微生物性、5. 芝生の土壌改良,6. 肥料の有効成分、7. 芝地の施肥法<br>[授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する | ⑩ | [テーマ] 農薬概論と関係法令 、学外講師による講義<br>[内容] 1.農薬の定義、2. 農薬の作用特性、3. 農薬のリスクと安全確保、4. 農薬に関わる法令、5. 農薬取締り法の概説<br>[授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する |
| ③ | [テーマ] 測量理論の解説, 芝生の造成<br>[内容] 芝生造成地の高低測量学について説明する。利用水準と管理手法について解説し、現場の状況から考察する。<br>[授業外学修] 利用者の要求と管理者の維持管理水準を比較する様心掛ける | ⑪ | [テーマ] 構内芝生における実習その4<br>[内容] 春季、夏季の除草剤、防虫剤、殺菌剤などの散布や散水を観察したり実習する。<br>[授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する |
| ④ | [テーマ] 構内芝生における実習その1 (芝生に関する工学的知識)<br>[内容] 芝生造成地の高低測量学について説明し、オートレベルを使用して操作方法を学習し、実際に数箇所のポイントの高さを測量する。<br>[授業外学修] スポーツターフ施設の表面勾配を観察する | ⑫ | [テーマ] 構内芝生における実習その5<br>[内容] 春季における芝生の成長を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する 。<br>[授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する |
| ⑤ | [テーマ] 芝生の病害防除、芝草学会講師による講義<br>[内容] 1. 植物病理学概論、2. 芝草病害概論、3. 芝草病害防除の基本、4. 今後の問題点<br>[授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する | ⑬ | [テーマ] 課題(維持管理機械の操作マニュアル)の発表会, 第2回小テスト<br>[内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する<br>[授業外学修] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する |
| ⑥ | [テーマ] 構内芝生における実習その2,課題の取り組み<br>[内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する<br>[授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する | ⑭ | [テーマ] 定期試験<br>[内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。<br>[授業外学修] 定期試験に備えて復習する |
| ⑦ | [テーマ] 構内芝生における実習その3、<br>[内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。春季、夏季の土壌改良(エアレーション)などを実践する。<br>[授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する | ⑮ | [テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際<br>[内容] ﾕｱﾃｯｸｽﾀｼﾞｱﾑを見学して、芝生の維持管理について説明する。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。<br>[授業外学修] 芝生管理の機械類の各種類について説明出来る様にする。 |
| ⑧ | [テーマ] 芝生の虫害防除、芝草学会講師による講義<br>[内容] 1. 害虫とは、2. 芝草害虫の種類、3. 重要害虫の種類、発生消長及び防除法、4.芝草管理と害虫<br>[授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する | ⑯ | [テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際<br>[内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位ずつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。2回実施の中から都合の良い時に参加する。<br>[授業外学修] 上記と同じ |

**成績評価方法(方針)**

定期試験を1回実施, 実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。定期試験問題・解答は返却しないが、自己採点出来る様に解説する。小テストは解説をしながら返却する。出席は欠格条件となる。欠席届(0.4ポイント扱い)と自習成果表(0.4から0.6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | ○ | | 60% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | | 20% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 20% |
| 演習・実技 | | ○ | ◎ | 減点あり |
| 授業態度 | | ○ | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・同名Ⅰを先に受講する事が出来る
・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない ・授業中の私語厳禁(指定席制も実施予定) ・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない ・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり ・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。 認定校申請準備中

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | スポーツターフ管理概論Ⅰ、スポーツ施設管理概論Ⅰ、スポーツ施設管理概論Ⅱ、スポーツ施設の経営管理 | 関連資格 | 芝草管理技術者資格3級, スポーツターフ管理士(準備中) |
| 教科書 | 各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布) | 参考書 | *ｶﾗｰﾍﾞﾝﾄｸﾞﾗｽ*芝生の校庭*園芸療法とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ<br>*目で見るゴルフ場の芝草病害*ほか |
| オフィスアワー | A棟1階営繕管理室内:火曜日10:20～11:50 | その他 | Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579 |

| 授業科目名 | ボランティア活動実践A<br>Voluntary Activity Practice A | | | | 担当教員 | 大山 さく子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 |

**授業計画(全体)**

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修①<br>[内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修②<br>[内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③<br>[内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告<br>[内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題)<br>[内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する<br>[授業外学修]レポート作成のため整理をすること |

**成績評価方法(方針)**

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | 参考書 | |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40～14:10 | その他 | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | ボランティア活動実践B<br>Voluntary Activity Practice B | | | | 担当教員 | 大山 さく子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 |

**授業計画(全体)**

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修①<br>[内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修②<br>[内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③<br>[内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告<br>[内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題)<br>[内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する<br>[授業外学修]レポート作成のため整理をすること |

**成績評価方法(方針)**

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | 参考書 | |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40～14:10 | その他 | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | ボランティア活動実践C<br>Voluntary Activity Practice C | | | | 担当教員 | 大山 さく子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 |

**授業計画(全体)**

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修①<br>[内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修②<br>[内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③<br>[内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告<br>[内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題)<br>[内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する<br>[授業外学修]レポート作成のため整理をすること |

**成績評価方法(方針)**

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | 参考書 | |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40～14:10 | その他 | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | ボランティア活動実践D<br>Voluntary Activity Practice D | | | | 担当教員 | 大山 さく子 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・通年 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | – |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。 |

**授業計画(全体)**

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ]オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ② | [テーマ]ボランティア事前研修①<br>[内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑩ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ③ | [テーマ] ボランティア事前研修②<br>[内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑪ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ④ | [テーマ] ボランティア事前研修③<br>[内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する<br>[授業外学修]配布資料を熟読する | ⑫ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑤ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑬ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑥ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑭ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する |
| ⑦ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑮ | [テーマ] ボランティア活動のまとめと報告<br>[内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる |
| ⑧ | [テーマ] ボランティア活動実践<br>[内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ<br>[授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する | ⑯ | [テーマ] テスト(レポート課題)<br>[内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する<br>[授業外学修]レポート作成のため整理をすること |

**成績評価方法(方針)**

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | | | 減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行) | 参考書 | |
| オフィスアワー | (前期)火曜日 12:40～14:10 | その他 | 連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 北米のプロスポーツ事情(S)<br>Pro Sports in North America | | | | 担当教員 | マーティ・キーナート/ Marty Kuehnert |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | — |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 世界の何処をみわたしても、北米のスポーツカルチャーのような文化は存在しない。スポーツはもはや北米の多くの人々にとっては“病みつき”といっていいほどのものである。スポーツビジネスを勉強する際、北米の事情を知らなければ始まらないだろう日本のスポーツ産業界にとっても学べる事は多い、と同時に学生はその異常なまでの極端さも考えて欲しい。最新の北米スポーツ事情とスポーツを検証し考える。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

学生は、北米における主なメジャースポーツの現在の事情を検証し、理解し、そしてその課題点について考える。最大のスポーツビジネス王国である北米においてそのビジネスの仕組み、現状と問題点を学ぶ。期末レポートでは、各自選択したテーマにおいて、自分で調査・研究した内容と共に自分の視点を述べる。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。 |
| ■ | 情意的領域 | 北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

各授業テーマに沿った資料、視聴覚教材を基に、北米のプロスポーツ業界の歴史、構造、現状、問題点を解説する。期末には、学生各自が選んだ課題のレポートを提出、各自が研究した内容と共に自分の視点を述べる事により、各スポーツの現状と課題点を考え、まとめる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業の内容とスケジュールの紹介<br>球団経営の実務経験から現状に沿った講義を行う。<br>[授業外学修] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。 | ⑨ | [テーマ] NHL(ナショナルアイスホッケーリーグ)について<br>[内容] 1918年からのプロ・ホッケーリーグとしての歴史、、組織・収益構造等 レポートB:期末レポートアウトライン提出<br>[授業外学修] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。 |
| ② | [テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について Ⅰ<br>[内容] 1869年からのプロ・ベースボールとしての歴史、その変遷と内容<br>[授業外学修] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。 | ⑩ | [テーマ] MLS(メジャーリーグ・サッカー)について<br>[内容] 1967年からのプロ・サッカーリーグとしての歴史、変遷,各国の事情<br>[授業外学修]次回内容のTV放送について、調査してくる事 |
| ③ | [テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について Ⅱ<br>[内容]現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等<br>[授業外学修] 期末レポートの題目次週提出の準備 | ⑪ | [テーマ] TV放映と放映権について<br>[内容] プロスポーツの重要な収入源であるTV放映権の仕組みと内容<br>[授業外学修] 次回内容のスタジアムについて、調査してくる事。 |
| ④ | [テーマ] マイナーリーグ プロベースボールについて<br>[内容] MLBの強みは1901年に始まるマイナーリーグの組織構造、<br>実情と役割等レポートA:期末レポート課題題目提出<br>[授業外学修] 期末レポートの題目次週提出の準備 | ⑫ | [テーマ] スタジアムについて<br>[内容] 成功するスポーツフランチャイズの条件としてスタジアムその実例と条件<br>[授業外学修] 今週のフレーズとセンテンスを習得 |
| ⑤ | [テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について Ⅰ<br>[内容] 1922年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容<br>[授業外学修] 次回内容のNFLについて、調査してくる事。 | ⑬ | [テーマ] アマチュアスポーツについて<br>[内容] 北米におけるカレッジスポーツはすでにプロ化している。その現状と問題点。<br>[授業外学修] 次回内容のエージェントについて、調査してくる事 |
| ⑥ | [テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について Ⅱ<br>[内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等<br>[授業外学修] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。 | ⑭ | [テーマ] エージェント<br>[内容] エージェントの役割と仕組み、北米と日本スポーツの現状と事情<br>[授業外学修] レポートC:期末レポート提出 ／質疑応答とまとめ |
| ⑦ | [テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について Ⅰ<br>[内容] 1947年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容<br>[授業外学修] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。 | ⑮ | [テーマ] ドラッグ<br>[内容] プロスポーツ界全体、そしてオリンピックにおけるドラッグの現状、問題点。<br>[授業外学修] 質疑応答の内容を考えてくる事 |
| ⑧ | [テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について Ⅱ<br>[内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等<br>[授業外学修] 期末レポートのアウトラインを、次週提出の準備 | ⑯ | [テーマ] 質疑応答／期末アンケート<br>[内容] 質疑応答、レポートおよび授業についてのディズカッション<br>[授業外学修] 質疑応答の内容を考えてくる事 |

**成績評価方法(方針)**

出席率30%、小テスト授業内レポートで20%、期末レポート50%

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 \ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ◎ | ◎ | | 50% |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | | 20% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | ○ | ○ | | |
| 出席 | ○ | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・講義受講人数は80人に限定。
それ以上の受講希望者がいた場合は、抽選にて選考。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、
単位習得不可。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠りお喋り携帯使用厳禁 3回目以上注意者は退室。
・自分でリサーチし自分の視点を述べた期末レポートを重視します。
・期末レポート不提出は、単位修得不可。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 教科書は使用しない。その都度プリント配布。 | 参考書 | 特になし 授業内で指示 |
| オフィスアワー | 月曜12:00 - 13:30 | その他 | m-kuehnert@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 海外短期研修A<br>Brief Seminar Abroad A | | | | 担当教員 | 国際交流センターセンター長 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 |
| ■ | 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 |

**授業計画（全体）**

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

**授業計画（各回のテーマ等）**

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国　ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
ハワイ大学　短期英語研修プログラム
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク　ノアフュンス国民大学　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド　カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾　台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ　シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム　ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国　瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国　龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド　カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

**成績評価方法（方針）**

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% |
| 授業態度 | | ○ | | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 海外短期研修B・C・D | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 （A棟1F） または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | その他 | |

| 授業科目名 | 海外短期研修B<br>Brief Seminar Abroad B | | | | 担当教員 | 国際交流センター長 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 |
| ■ | 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 |

**授業計画（全体）**

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

**授業計画（各回のテーマ等）**

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国　ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
ハワイ大学　短期英語研修プログラム
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク　ノアフュンス国民大学　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド　カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾　台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ　シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム　ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国　瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国　龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド　カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

**成績評価方法（方針）**

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% |
| 授業態度 | | ○ | | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 海外短期研修A・C・D | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 （A棟1F） または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | その他 | |

| 授業科目名 | 海外短期研修C<br>Brief Seminar Abroad C | | | | 担当教員 | 国際交流センター長 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 |
| ■ | 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 |

**授業計画（全体）**

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

**授業計画（各回のテーマ等）**

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国　ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
ハワイ大学　短期英語研修プログラム
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク　ノアフュンス国民大学　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド　カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾　台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ　シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム　ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国　瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国　龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド　カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

**成績評価方法（方針）**

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% |
| 授業態度 | | ○ | | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 海外短期研修A・B・D | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 （A棟1F） または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | その他 | |

| 授業科目名 | 海外短期研修D<br>Brief Seminar Abroad D | | | | 担当教員 | 国際交流センター長 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

**授業の概要**

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 |
| ■ | 情意的領域 | 海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。 |

**授業計画（全体）**

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

**授業計画（各回のテーマ等）**

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国　ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
ハワイ大学　短期英語研修プログラム
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク　ノアフュンス国民大学　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド　カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾　台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ　シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム　ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国　瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国　龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド　カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

**成績評価方法（方針）**

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | ○ | ○ | 30% |
| 授業態度 | | ○ | | 50% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 海外短期研修A・B・C | 関連資格 | |
| 教科書 | 各研修の担当者が指示する | 参考書 | 各研修の担当者が指示する |
| オフィスアワー | 事業戦略室 （A棟1F） または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp | その他 | |

# 5. 教職に関する科目

| 授業科目名 | 教職論A<br>Introduction to Teaching Profession A | | | | 担当教員 | 大内悦夫・井上雅勝・末永精悦・江尻雅彦・高橋仁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 1・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小、中、高等学校で長期に教員をしていた。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 教員の意識、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適正を考慮し、教職への意欲や一体感を養う。同時に、教職の希望実現に向けた学習計画の立案ができるようにする。 | i 、iv、v |

**授業の一般目標**

次の四つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を深める。③教職の服務規程、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、理想の教師像など実際に教員になった場合に必要な人間のあり方について学習し、自分の教員に関する考え方を豊かにする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。 |

**授業計画(全体)**

教員免許状取得のための教育課程についての学習、教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度などの関する学習、関係法規に関する学習、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、教科書と配布資料(プリント)等で講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 教員の身分と関係法規(江尻)<br>[内容] 教員の身分の法的位置づけ<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑨ | [テーマ] 教員の採用と研修(井上)<br>[内容]優れた人材確保と教員研修。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ② | [テーマ]学習指導要領と教員(江尻)<br>[内容] 学習指導要領とその変遷。学習指導要領と法的拘束力。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑩ | [テーマ] 教科指導と教員(高橋)<br>[内容] 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ③ | [テーマ] 特別支援教育(江尻)<br>[内容]特別支援教育のあり方。通常の学級における特別支援教育のあり方。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑪ | [テーマ] 教科外指導と教員(高橋)<br>[内容]教科外指導の特質、教科外指導の課題、これからの教科外指導。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ④ | [テーマ] 教職と関係法規Ⅰ(大内)<br>[内容]日本国憲法と教育基本法、学校教育法。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑫ | [テーマ] 学級経営、校務分掌と教員(高橋)<br>[内容] 望ましい学級経営、校務分掌のあり方と教員。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ⑤ | [テーマ]教職と関係法規Ⅱ(大内)<br>[内容] 学校教育法。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑬ | [テーマ] 教員の服務規程Ⅰ(末永)<br>[内容] 教員の服務規定について。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ⑥ | [テーマ]教職と関係法規Ⅲ(大内)<br>[内容] 学校教育法施行規則、学校保健安全法。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑭ | [テーマ]教員の服務規程Ⅱ(末永)<br>[内容] 教員の身分保障と分限・懲戒規定。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ⑦ | [テーマ]これからの教員に求められる資質・能力(井上)<br>[内容]望ましい教師像を求めて、いつの時代にも求められる教師像と今後求められる教師像についての概説。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑮ | [テーマ] チーム学校への対応、学校における防災教育(末永)<br>[内容] チーム学校としての対応の方法、防災教育のあり方について。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 |
| ⑧ | [テーマ] 教員養成と教員免許制度(井上)<br>[内容]教員養成制度と教員免許法。本学における履修のあり方。<br>[授業外学修]授業で指示されたレポート作成、本時の復習 | ⑯ | [テーマ]筆記試験<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。また、授業時数の2/3以上の出席を必要とする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業で内容を検討する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ◎ | 75% |
| 授業内レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 授業外レポート | ○ | | ○ | 10% |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 5% |
| 出席 | | | | 欠格事項 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
教師を目指すものとして、常に課題意識を持ち、真摯に受講することを望む。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | 教員免許状 |
| 教科書 | 「必携教職六法」(協同出版) | 参考書 | 「学習指導要領」 |
| オフィスアワー | 火曜日 11:50～12:40 | その他 | 問い合わせ先 A303 大内研究室 |

| 授業科目名 | 道徳教育論<br>Theory of Moral Education （L） | | | | 担当教員 | 久能和夫 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | 小学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

学校現場による実務経験を活かし、アクティブラーニングを主にした観点から講義を行う。小・中・高等学校の道徳教育を通じ，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い，自立し，健全な自尊感情を持ち，主体的・自律的に生きる力を育成するために道徳性を養う。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度，伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。 |
| ■ | 情意的領域 | 「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」について，どう意欲的に取り組むか理解する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。 |

**授業計画（全体）**

授業は，基本的にはプリントを用意し，それを基に講義中心に行うが，多くの機会にレポートを提出，常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 道徳教育とは何か<br>[内容] 今，求められている規範意識について学び，規範の根拠としての人間尊重の精神について考える<br>[授業外学修]慣習，法律，倫理と道徳の関係についての書籍を読む | ⑨ | [テーマ]道徳科の授業と評価<br>[内容]「特別の教科　道徳科」で示されている評価の在り方を基にして，「道徳科の教育における評価」について考える<br>[授業外学修]「道徳科」が目指す評価の方向性を調べる |
| ② | [テーマ]戦後の教育改革と道徳教育<br>[内容]戦後の教育改革で，一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ<br>[授業外学修]道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる | ⑩ | [テーマ]道徳科の授業と体験学習<br>[内容]体験活動の教育的意義，「特別の教科　道徳」と体験活動のかかわりについて考える<br>[授業外学修]学習指導要領を読む |
| ③ | [テーマ] 学習指導要領と道徳的価値<br>[内容]教育基本法と道徳教育，学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ<br>[授業外学修]学習指導要領の内容項目について調べる | ⑪ | [テーマ]個性の尊重<br>[内容]「個性」に対する日本と欧米の違い（価値観の相違）を分析し，学校教育における「個性」の伸長について考える<br>[授業外学修]学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる |
| ④ | [テーマ] 道徳授業の現状とその改善方法<br>[内容]これまでの「道徳の時間」をめぐる課題，その中での本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える<br>[授業外学修]道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える | ⑫ | [テーマ]道徳授業のアプローチ①<br>[内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。道徳の授業の実際についての映像を観る<br>[授業外学修]学習指導案の作成 |
| ⑤ | [テーマ] 道徳教育と家庭・地域社会の協力<br>[内容] 家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し，学校と家庭・地域社会の連携・協力につて考える<br>[授業外学修]新聞の関連ニュースを読む | ⑬ | [テーマ]道徳授業のアプローチ②<br>[内容]道徳科の学習指導案（展開場面）を作成する。道徳の授業の実際についての映像を観る<br>[授業外学修]学習指導案の作成 |
| ⑥ | [テーマ] 道徳授業の充実と教師の生き方<br>[内容]「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み，レポートを書く<br>[授業外学修]「教師論」に関係する書籍を読む | ⑭ | [テーマ]道徳授業のアプローチ③<br>[内容]道徳科の学習指導案（主題設定の理由を中心として）を作成する。道徳授業の実際についての映像を観る<br>[授業外学修]学習指導案の作成 |
| ⑦ | [テーマ] 学生の価値意識と「道徳教育の研究」<br>[内容]道徳性の発達（コールバーグ理論）と相対主義を踏まえ，若者と規範意識について考える<br>[授業外学修]「道徳性の発達」に関する書籍を読む | ⑮ | [テーマ]国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌<br>[内容]戦後日本の「愛国心」論の類型を知り，教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する<br>[授業外学修]関連する書籍を読む |
| ⑧ | [テーマ] 高校における道徳教育の位置づけ<br>[内容]学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられている高等学校における「道徳教育」の進め方について考える<br>[授業外学修]高等学校学習指導要領を読む | ⑯ | [テーマ]テスト<br>[内容]道徳教育論を学習してのまとめを行う<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

提出されたレポートは内容に応じてディスカッションや解説を行いながら返却する。レポート等のポートフォリオ評価資料と筆記試験の結果に，受講態度（出席状況含む）等を加味して評価する。なお，欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | ○ | 70% |
| 授業内レポート | | ○ | ◎ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | | | | |
| 授業態度 | | ○ | | 10% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

講義を中心に進めるが，自分が学習した道徳教育を振り返りながら，教師を目指す者として，常に課題意識を持って学んで欲しい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | | 関連資格 | |
| 教科書 | 中学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳編」 | 参考書 | 授業時に紹介する |
| オフィスアワー | 久能研究室（A307）　金（10:20～11:50） | その他 | |

| 授業科目名 | 生徒指導論A<br>Theory of student guidance A( L.) | | | | 担当教員 | 江尻 雅彦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

本講義では、生徒指導提要並びに学習指導要領に基づき、実際の教育現場で行われる生徒・進路指導及びキャリア教育の意義や原理と指導法、校内体制と家庭や関係機関との連携の在り方、個別の指導、指導上の課題に向き合う考え方を教育相談等の方法も含め38年間の高等学校教育現場経験を踏まえ解説する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

生徒指導の意義・目的・原理・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、校内における生徒指導や進路指導体制と家庭や関係機関との連携の在り方、教育相談や発達障害への具体的対応等を理解する。加えて、目まぐるしく変化する生徒指導の現状と課題を理解し、すべての児童生徒の良好な人格形成に繋げられる実践力を養う。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。また、生徒・進路指導上の現状と課題を把握し、より望ましい指導の在り方を指摘できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。 |
| ■ | 情意的領域 | 授業に真剣に臨むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら具体的な課題解決へ向けて思考・判断し生徒指導を実践する力を養うことができる。 |
| □ | 技能表現的領域 | |

**授業計画(全体)**

各授業のテーマに基づく講義が中心となる。講義ではこれまで高校の教育現場で経験した生の事例を取り上げ、児童・生徒、教師、保護者、地域住民のそれぞれの立場で考えさせる演習も行う。また、実践的力量を高めるため、授業外学修や教育ボランティアへの積極的参加を勧める。さらに、マスメディアを活用し、国や地方における生徒指導に係る教育施策や法的対応等の動向を把握させ、当事者意識を高揚させ、思考・判断や態度・行動と直結させ、実践力の向上への起点となる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 教員免許取得における位置付け、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項等について説明する。<br>[授業外学修]教科書(生徒指導提要)p1～21について予習する。 | ⑨ | [テーマ]進路指導の歴史と理念及び基礎理論<br>[内容]進路指導のねらい(定義)と意義、歴史、基礎理論と教育課程における位置づけ、生徒指導との関連について解説する。<br>[授業外学修]学習プリントと配付資料等に基づきながら学習を深める。 |
| ② | [テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(1)<br>[内容]生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と自己指導能力を育成する三機能、指導上の留意点等について解説する。<br>[授業外学修]教科書p1～p13、学習指導要領総則・特活等で学習を深める。 | ⑩ | [テーマ]進路指導の実践的展開とキャリア教育<br>[内容]進路指導の基本的性格と原理、キャリア教育の意義と内容を解説し、具体の進路指導(キャリア教育)の計画・展開、実践例を概説する。<br>[授業外学修]配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育の学習を深める。 |
| ③ | [テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法(2)<br>[内容]生徒指導における集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・成長を促す生徒指導、学校運営と生徒指導等について解説する 。<br>[授業外学修]教科書p14～22や学習プリントをもとに学習を深める。 | ⑪ | [テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(1)<br>[内容] 少年非行等・暴力行為・薬物乱用・喫煙・飲酒の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する。<br>[授業外学修]教科書p163～172やWeb等で考察を深める。 |
| ④ | [テーマ] 児童生徒理解の意義と方法<br>[内容] 生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する。<br>[授業外学修]教科書p40～41、66～74と学習プリントで学習を深める。 | ⑫ | [テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(2)<br>[内容]いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する。<br>[授業外学修]教科書p173～174やWebで文科省関係資料等に当たる。 |
| ⑤ | [テーマ] 教育相談と発達障害・生徒指導との関係<br>[内容] 生徒指導と教育相談・発達障害の関係、学校教育相談の特質・方法・対象・形態・技術について解説する。<br>[授業外学修]教科書p50～53、92～117を中心に学習を深める。 | ⑬ | [テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(3)<br>[内容]不登校の歴史的変遷、昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、不登校に関する関係法令・各種通知等について解説する 。<br>[授業外学修]教科書p187～189やWebで文科省関係資料等に当たる。 |
| ⑥ | [テーマ] 生徒指導体制と生徒指導の進め方<br>[内容] 教職員の役割と守秘義務・生徒指導体制(組織・生徒指導主事)のあり方、年間指導計画と基本的生活習慣と校内規律等を解説する。<br>[授業外学修]教科書p75～91、127～147と学習プリントで復習する。 | ⑭ | [テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(4)<br>[内容] その他の生徒指導上における課題(虐待・高校中途退学・自殺等)の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する。<br>[授業外学修]教科書p175～190やWeb等で関係省庁資料に当たる。 |
| ⑦ | [テーマ]生徒指導と危機管理について<br>[内容]学校における生徒指導と危機管理体制と安全教育、家庭・地域と関係機関との連携について解説する。<br>[授業外学修]教科書p148～151、208～218で学習を深める。 | ⑮ | [テーマ]生徒指導に関する法制度等<br>[内容]懲戒と体罰・校則・出席停止等の課題と現状、関係法制度や各種通知等について解説する 。<br>[授業外学修]教科書p192～197やWebで文科省資料等に当たる。 |
| ⑧ | [テーマ]教育課程と生徒指導<br>[内容]教育課程(教科・道徳教育・総合的な学習・特別活動等)と生徒指導・進路指導との関連について解説する。<br>[授業外学修]教科書P23～39で生徒指導と教育課程の相互関連をまとめる。 | ⑯ | [テーマ]期末テスト<br>[内容]授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(筆答試験)を行う。<br>[授業外学修]学習プリントを中心に学習を深める。 |

**成績評価方法(方針)**

定期の筆記試験の結果(70%)に、授業態度や授業内レポート・意欲・関心(30%)を加味して評価する。なお、提出されたレポート等は、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。学則に従い総欠席数が6回以上の者は評価対象外(放棄)とする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 70% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | 実施せず |
| 演習・実技 | | | | 評価対象外 |
| 授業態度 | ◎ | ◎ | | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |
| 関連科目 | 教育心理、教育相談、その他教職関連科目 | | | |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
①教師になろうという強い意欲のある学生の受講を基本とする。
②授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また、自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱いとする。
④授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る 詳細については、第一回授業時に紹介する。大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教科書 | 生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版) | 参考書 | 学習指導要領(総則・特別活動、含解説)・教育小六法 |
| オフィスアワー | 火曜日11:00～12:30 | その他 | |

| 授業科目名 | 特別活動論<br>Theory of Extracurricular Activities (L.) | | | | 担当教員 | 金井・針生・末永 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 2・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小学校、中学校での実務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

学校における特別活動の制度的枠組みとその内容を踏まえたうえで、実際に、学級活動をデザインし、実践する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

①特別活動の目標と内容について理解する。
②特別活動の指導計画を踏まえて、学級活動を計画する方法を身につける。
③学活の実践を通して、特別活動の目標と内容に対する理解を体験的に深めるとともに、学級活動において求められる指導力を知る。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 特別活動の意義や原理、目的、内容、方法、理論等について理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活がおくれるような支援について、具体的に考えられるようにする。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 学級活動をデザインし、実施することにより、実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、教師として活用できるようにする。 |

**授業計画(全体)**

特別活動の意義、原理、目的、内容、方法、理論等を最初の4コマで扱い、5コマ目以降は、グループワークによる学級活動のデザインと模擬授業を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション、特別活動の内容と目標<br>[内容] 授業の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を理解する。その後、特別活動の内容と目標を理解する。<br>[授業外学修] 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を読んでおく。 | ⑨ | [テーマ] 学級活動の実践 学校生活編②<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ② | [テーマ] 特別活動の史的変遷<br>[内容] 日本における特別活動がいかなる史的変遷のもとで展開し、成立してきたのかを理解する。<br>[授業外学修]日本史を復習する。 | ⑩ | [テーマ] 学級活動の実践 朝の会編①<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ③ | [テーマ] 学級・ホームルーム活動<br>[内容] 学級・ホームルーム活動の内容と目標、その意義、そしてその指導計画の手順について理解する。<br>[授業外学修]学習指導要領解説の特別活動編を読む。 | ⑪ | [テーマ] 学級活動の実践 朝の会編②<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ④ | [テーマ] 学校行事<br>[内容] 学校行事の内容と目標、その指導計画の手順について理解する。<br>[授業外学修]学習指導要領解説の特別活動編を読む。 | ⑫ | [テーマ] 学級活動の実践 文化祭編①<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ⑤ | [テーマ] 中間試験<br>[内容] 特別活動の意義、目的、内容、指導方法に関する知識の定着を図る。<br>[授業外学修]特別活動の意義、目的、内容、指導方法の復習。 | ⑬ | [テーマ] 学級活動の実践 文化祭編②<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ⑥ | [テーマ] 学級活動の目標の理解と授業設計<br>[内容] グループごとに、与えられたテーマにおける学級活動の目標を理解し、それを達成するための授業をデザインする。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 | ⑭ | [テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編①<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ⑦ | [テーマ] 学活の教材および学習指導案の作成<br>[内容] グループごとに、模擬授業において使用する教材および学習指導案を作成する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 | ⑮ | [テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編②<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 |
| ⑧ | [テーマ] 学級活動の実践 学校生活編①<br>[内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。<br>[授業外学修]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。 | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容] 本授業の全体を振り返り、グループごとに作成した成果物を提出する。<br>[授業外学修] 本授業の全体を復習する。 |

**成績評価方法(方針)**

(1) 中間試験(50%)、(2)授業内レポート・作成物(20%)、(3)模擬授業(30%)
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
各評価結果については授業内でフィードバックする。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 50% |
| 授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 20% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ○ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | | | | 加減点あり |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。
・第2～4回の講義回は予習(宿題)を必須とする。
・指定している教科書は第1回講義回から使用する。毎回必ず持参すること。
・学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。
※学習環境を損なう行為については厳格に対処する。
・履修希望者は第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教職論A・B、教職課程論、生徒指導論、教育相談 | 関連資格 | 教員免許状(小・中・高) |
| 教科書 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年7月―平成29年告示』 | 参考書 | 授業時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 木曜日12:40～14:10 (研究室:A棟304) | その他 | 問合せ: tokkatsu304@gmail.com |

| 授業科目名 | 教職総合演習<br>Seminar of Teaching Profession | | | | 担当教員 | 山谷・大内・渡邊・青沼・久能・荒井・入澤・金井・井上・針生・郡山・菊地博・末永・江口・江尻・高橋仁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 小・中・高での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的知識と技能について実践的に養う。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

学習指導に関しては、学校教師として授業を構想し、準備し実践するために必要な知識・技能を理解し、実践できる。生徒指導(集団行動)に関しては、児童生徒が集団としての行動を秩序正しく、かつ安全で能率的に行うことができるよう指導するために必要な知識・技能を理解し、かつ実践できる。本演習では班分けを行い、各担当教員により授業を実施する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な知識について理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 内容を確実に理解するために授業に積極的に参加し、他の受講者と協力して学習を進めることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な技能を身につけ、実践できる。 |

**授業計画(全体)**

(1)演習は15名程度の班ごとに実施する。(2)学習指導に関しては授業の構想(5回)と授業の実践(5回)に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。(3)生徒指導(集団行動)に関しては、班合同で実施する。集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 全体オリエンテーション<br>[内容] 担当者の紹介、演習の内容・進め方、評価の方法、班編成<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておくこと | ⑨ | [テーマ]授業の実践(3)<br>[内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。<br>[授業外学修]模擬授業につての振り返り |
| ② | [テーマ]授業の構想(1)-授業構想のプロセス-<br>[内容] 授業構想のプロセスと各段階での必要事項を理解する。<br>[授業外学修]授業に即して授業構想について振り返り | ⑩ | [テーマ]授業の実践(4)<br>[内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。<br>[授業外学修]模擬授業につての振り返り |
| ③ | [テーマ]授業の構想(2)-教材研究-<br>[内容] 教育内容と教材の違い、教材理解(解釈)と教材づくりについて理解する。<br>[授業外学修]授業に即して授業構想について振り返り | ⑪ | [テーマ]授業の実践(5)<br>[内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。<br>[授業外学修]模擬授業につての振り返り |
| ④ | [テーマ]授業の構想(3)-授業のデザイン-<br>[内容] 授業のデザインとは何か、授業のデザインの必要事項、手順などについて理解する。<br>[授業外学修]授業に即して授業構想について振り返り | ⑫ | [テーマ] 集団行動の指導(1)-集団行動の基本的な行動様式-<br>[内容] 集団行動の基本的な行動様式について理解する。<br>[授業外学修]授業に即して集団行動指導について振り返り |
| ⑤ | [テーマ]授業の構想(4)-学習指導案の作成-<br>[内容] 学習指導案とは何か、学習指導案の構成要素、作成手順と留意点について理解する。<br>[授業外学修]授業に即して学習指導案作成について振り返り | ⑬ | [テーマ] 集団行動の指導(2)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点1-<br>[内容] 基本的な行動様式(姿勢・方向転換・集合・整頓)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。<br>[授業外学修]授業に即して集団行動指導について振り返り |
| ⑥ | [テーマ]授業の構想(5)-学習指導案の作成-<br>[内容] 前回の授業を踏まえ、学習指導案を実際に作成する。<br>[授業外学修]学習指導案の完成 | ⑭ | [テーマ] 集団行動の指導(3)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点2-<br>[内容] 基本的な行動様式(列の作り方)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。<br>[授業外学修]授業に即して集団行動指導について振り返り |
| ⑦ | [テーマ]授業の実践(1)<br>[内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。<br>[授業外学修]模擬授業につての振り返り | ⑮ | [テーマ] 集団行動の指導(4)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点3-<br>[内容] 基本的な行動様式(開列、行進、足踏み、礼)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。<br>[授業外学修]授業に即して集団行動指導について振り返り |
| ⑧ | [テーマ]授業の実践(2)<br>[内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。<br>[授業外学修]模擬授業につての振り返り | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

学習指導および生徒指導(集団行動)の担当者が、受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。課題の達成度等は各担当者の研究室において随時、理由を含めて解説する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 実施しない |
| 授業内レポート | | | | 実施しない |
| 授業外レポート | | | | 実施しない |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

・本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身につけておかなければならいものであるので、各時間ともに真剣に受講して欲しい。また、受講者の主体的な授業参加が演習の充実度を左右するので、一人ひとりが演習を運営するという自覚をもって望んでもらいたい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 既習の教職関連科目 | 関連資格 | 教員免許状(全免許) |
| 教科書 | 学習指導要領、同解説(保健体育)、中高保健体育教科書 | 参考書 | 授業時に紹介する |
| オフィスアワー | 山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | |

| 授業科目名 | 教職総合実技<br>Exercise of teaching profession(P.A) | | | | 担当教員 | 入澤裕樹　他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 実技 | 実務経験の有無 | 高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性（表紙裏参照） |
|---|---|
| 本授業は、将来教職に就くことを強く希望している学生を対象とし、学校体育の現場における体育授業に関わる基本的な技術・技能の習得を目指すものである。学生自身に各授業回に受講する種目を選択させ展開していく。 | ⅰ、ⅲ |

**授業の一般目標**

保健体育の教員として、授業に関わる各実技種目の基本的な技術・技能を習得する。また、各実技種目において、履修計画の中で選択的に不得手なものを受講していき、その克服していく過程において、運動が苦手な生徒に対する実技指導に必要な要点を学習する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 各実技種目の要点を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 「できる」喜びを身をもって知る。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 体育授業に関わる基本的な技術・技能を身につける。 |

**授業計画（全体）**

種目は教員採用試験内容を想定し、【ハードル走、マット運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、柔道、剣道、ダンス等】から選択制とする。5種目を選択し、それぞれ3回ずつ受講するものとする。（5種×3講義＝15コマ相当）出席については各実技担当教員の受講認定印を所定の出席票に記録する形で進めていく。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、目標の進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意<br>[授業外学修]シラバスを熟読すること | ⑨ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（武道②）<br>[内容] 柔道・剣道に関する「わざ」についての基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]武道に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ② | [テーマ]基本的技術・技能の習得（ハードル走①）<br>[内容] ハードル走における「抜き足」に関する正しい基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]ハードル走に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑩ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（武道①）<br>[内容] 乱取りや切り返しなどを繰り返し行い、「わざ」の技術向上を図る。<br>[授業外学修]武道に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ③ | [テーマ]基本的技術・技能の習得（ハードル走②）<br>[内容] ハードル走における「踏切位置」に関する正しい基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]ハードル走に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑪ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（水泳・マット運動①）<br>[内容] クロールの基本的技術・技能を学ぶ。【水泳】<br>前転（後転）に関する基本的技術・技能を学ぶ。【マット運動】<br>[授業外学修]各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ④ | [テーマ]基本的技術・技能の習得（ハードル走③）<br>[内容] 複数のハードルを連続して越えることができるように、リズムと姿勢について正しい基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]ハードル走に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑫ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（水泳・マット運動②）<br>[内容] 平泳ぎの基本的技術・技能を学ぶ。【水泳】<br>開脚（閉脚）前転（後転）に関する基本的技術・技能を学ぶ。【マット運動 】<br>[授業外学修]各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ⑤ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（ダンス①）<br>[内容] フォークダンスについての基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]ダンスに関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑬ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（水泳・マット運動③）<br>[内容] ターンの基本的技術・技能を学ぶ。【水泳】<br>「わざ」の組み合わせに関する基本的技術・技能を学ぶ。【マット運動】<br>[授業外学修]各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ⑥ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（ダンス②）<br>[内容] 創作ダンスについての基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]ダンスに関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑭ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（球技①）<br>[内容] サーブに関する基本的技術・技能を学ぶ。【バレー】<br>ドリブルに関する基本的技術・技能を学ぶ。【バスケット】<br>[授業外学修]各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ⑦ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（ダンス③）<br>[内容] 現代的なダンスについての基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]ダンスに関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑮ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（球技②）<br>[内容] アンダー（オーバー）ハンドパスの基本的技術・技能を学ぶ。【バレー】チェスト（バウンド）パス等の基本的技術・技能を学ぶ。【バスケット】<br>[授業外学修]各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |
| ⑧ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（武道①）<br>[内容] 柔道・剣道に関する作法について基本的技術・技能を学ぶ。<br>[授業外学修]武道に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 | ⑯ | [テーマ] 基本的技術・技能の習得（球技③）<br>[内容] スパイクの基本的技術・技能を学ぶ。【バレー】<br>シュートの基本的技術・技能を学ぶ。【バスケット】<br>[授業外学修]各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。 |

**成績評価方法（方針）**

成績評価は、履修した各実技種目における到達レベルを総合的に判断する。（評価割合80%）
各種目の要点を整理したレポートを提出する。（評価割合20%）レポートはコメントを付したうえで返却する。
授業中における態度は減点対象とし、出席については欠格条件とする。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | ◎ | | | 20% |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ○ | ◎ | ◎ | 80% |
| 授業態度 | | ◎ | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
本授業の対象者は、4年次に教員採用試験を必ず受験する強い意志を持っている者に限る。保健体育科教員の候補者として優れた人材の育成をねらいとしているので、目標が不明確のままでの受講は、他の学生の迷惑となるので厳に慎むこと。理由なく最初のオリエンテーションを欠席した場合、履修できない場合がある。なお、各種目において受講者数が著しく偏るようであれば人数調整を行う場合がある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅰ・Ⅲ、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、柔道、剣道、ダンスⅠ | 関連資格 | 教員免許状（保健体育） |
| 教科書 | 特になし | 参考書 | |
| オフィスアワー | 木曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室：A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 教職実践演習【中高教(保体)】<br>Seminar for Teaching Profession | | | | 担当教員 | 大内・井上・山谷・針生・郡山・渡邉・青沼・入澤・金井・末永・江尻・関矢 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | ― |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

次の4テーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情②社会性、対人関係能力③生徒理解、学級経営④教科の指導力。各テーマに関する講義ののち、自己評価シート作成および教育実習の振り返りを行う。学校2校を訪問し学校現場の実践を観察。自分の教育実習との比較、各学校の対応等を発表する。

**DPとの関連性(表紙裏参照)**

ⅰ、ⅳ、ⅴ

**授業の一般目標**

教職課程の履修を通じてこれまでに学んだ知識技能と教育実習、また、学校現場の実践の観察から得られた教科指導、生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成を図ると共に、あわせてその確認を行う。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教職の実践的指導力について理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 教職に実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察する。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 教職の実践的指導力について基礎的・基本的技能を習得する。 |

**授業計画(全体)**

(1)演習は20名程度の班毎に実施する。(2)教育実習のレポート作成、その発表を行う。(3)各学校に訪問する場合の観察観点や留意事項を作成する。(4)各学校を訪問し、その実践を観察する。(5)(3)で作成した目標と(4)の観察等を比較し、また、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] ガイダンス<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の説明<br>[授業外学修]シラバスを熟読する。 | ⑨ | [テーマ] 各学校での実践を観察する。<br>[内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。<br>[授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。 |
| ② | [テーマ]本演習の取り組み<br>[内容] 本演習に対する基本的な取り組みの意識について説明する。訪問校の調査をする。<br>[授業外学修]自身の教育実習の内容をまとめる。 | ⑩ | [テーマ] 各学校での実践を観察する。<br>[内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。<br>[授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。 |
| ③ | [テーマ] 教育実践自己評価シートの作成<br>[内容] 教育実習の振り返り。教育実践自己評価シートを作成し、訪問校における観察の観点や留意事項を作成する。<br>[授業外学修]自分、班員の教育実習で気づいたことをまとめておく。 | ⑪ | [テーマ] 学校参観の振り返り。<br>[内容] 学校参観の振り返りをし、レポートを作成する。<br>[授業外学修]各学校での観察をまとめる。 |
| ④ | [テーマ] 訪問校の概要と留意点の説明。<br>[内容] 訪問校の概要の説明並びに各校毎の留意事項の確認をする。<br>[授業外学修]訪問する学校の概要を事前に調査しておく。 | ⑫ | [テーマ] グループ討議<br>[内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。<br>[授業外学修]発表レポートの作成。 |
| ⑤ | [テーマ] 各学校での実践を観察する。<br>[内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。<br>[授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。 | ⑬ | [テーマ] グループ討議<br>[内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。<br>[授業外学修]発表レポートの作成。 |
| ⑥ | [テーマ] 各学校での実践を観察する。<br>[内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。<br>[授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。 | ⑭ | [テーマ] グループ討議<br>[内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。<br>[授業外学修]発表レポートの作成。 |
| ⑦ | [テーマ] 各学校での実践を観察する。<br>[内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。<br>[授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。 | ⑮ | [テーマ] 良き教師になるための課題の再確認<br>[内容] 本授業の目標をテーマにしたグループ討議。良い教師になるための今後の課題等を再確認する。<br>[授業外学修]発表レポートをまとめる。 |
| ⑧ | [テーマ] 各学校での実践を観察する。<br>[内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。<br>[授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。 | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。欠席は原則として認めない。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 実施しない |
| 授業内レポート | ◎ | | ◎ | 30% |
| 授業外レポート | | ○ | | 10% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 30% |
| 授業態度 | ○ | ◎ | ○ | 30% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

本演習は、教員を目指す学生が中心となるはずなので、各講義とも真剣に受講すること。特に各高等学校での公開授業の参観をするので、「教師になる」という高い意識を持ち行動すること。レポートはその都度評価し、次の授業に於いて内容を検討する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教育実習Ⅲ、Ⅳ | 関連資格 | 教員免許状 |
| 教科書 | 使用しない | 参考書 | 授業時に紹介する |
| オフィスアワー | 火曜日 11:50～12:40 | その他 | 問い合わせ先 A303 大内研究室 |

| 授業科目名 | 教職キャリア演習Ⅰ<br>Special Seminar for Teacher Ⅰ | | | | 担当教員 | 山谷幸司・荒井龍弥・金井里弥・末永精悦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 小・中学校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 本演習では、授業について多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある学校を訪問し、先生方の授業実践を参観するとともに、学生自身が授業実践を体験する。この体験をとおして授業、あるいは学校や教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。 | ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

学校教師の職務や授業実践に必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、授業実践に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学校教師の職務や授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識・技能を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 学校教師としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。 |

**授業計画(全体)**

学校での6～9日間の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに学校訪問時に体験する「生徒への指導実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておくこと。 | ⑨ | [テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目)<br>[内容] 学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ② | [テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう①<br>[内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。<br>[授業外学修]時間内に完了しなかったデータ整理 | ⑩ | [テーマ] 学校訪問オリエンテーション②<br>[内容] 第二回学校訪問におけるスケジュール、留意事項等を理解する。<br>[授業外学修]校訪問のスケジュール、留意事項等を確認する。 |
| ③ | [テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう②<br>[内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。<br>[授業外学修]時間内に完了しなかったデータ整理 | ⑪ | [テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの1時間目)<br>[内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践①<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ④ | [テーマ] 学習指導要領・指導法の理解①<br>[内容] 学習指導要領における連携授業単元の規定内容を理解する。<br>[授業外学修]学習指導要領の該当部分を熟読する。 | ⑫ | [テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの2時間目)<br>[内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践②<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ⑤ | [テーマ] 学習指導要領・指導法の理解②<br>[内容] 参考資料にもとづき連携授業単元の指導内容や指導方法を調べる。<br>[授業外学修]学習内容のふりかえり | ⑬ | [テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの3時間目)<br>[内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践③<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ⑥ | [テーマ] 学校訪問オリエンテーション①<br>[内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。<br>[授業外学修]連携プログラムの内容・スケジュールを確認する。 | ⑭ | [テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの4時間目)<br>[内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践④<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ⑦ | [テーマ] 授業の見方<br>[内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する。<br>[授業外学修]学習内容のふりかえり | ⑮ | [テーマ] 学校訪問体験のふりかえり<br>[内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。<br>[授業外学修]体験レポートの作成 |
| ⑧ | [テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目)<br>[内容] 連携先の中学校・小学校を訪問し、授業を参観するとともに、学校の現状や課題を理解する。<br>[授業外学修]体験のふりかえり | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。提出されたレポートは必要に応じて、コメントを付して返却する。また、成績は各担当者の研究室において随時、理由を含めて開示する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除きみとめない。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 実施せず |
| 授業内レポート | | | | 実施せず |
| 授業外レポート | △ | △ | △ | 15% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | △ | | 15% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度 | 関連資格 | 教員免許状(中高／保健体育・小学校) |
| 教科書 | 小学校・中学校学習指導要領 | 参考書 | 中学校体育実技(学研) |
| オフィスアワー | 山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | 教職キャリア演習Ⅱ<br>Special Seminar for Teacher Ⅱ | | | | 担当教員 | 渡邊康男・江口千恵 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 演習 | 実務経験の有無 | 学校教員として勤務経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

**授業の概要**

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何か。本演習では、養護教諭・栄養教諭の職務について多角的に考えることができる力とその基礎的な実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある小学校を訪問し、先生方の実践を参観するとともに、学生自身が実践を体験する。この体験をとおして教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。養護教諭・栄養教諭免許希望者限定。

**DPとの関連性（表紙裏参照）**

ⅰ、ⅲ

**授業の一般目標**

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、養護教諭・栄養教諭として必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 養護教諭・栄養教諭に必要な力について理解する。また、養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な基礎的な知識を理解する。 |
| ■ | 情意的領域 | 養護教諭・栄養教諭としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、養護教諭・栄養教諭になるための各自の課題を主体的に考えることができる。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。 |

**授業計画（全体）**

小学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「職務実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

**授業計画（各回のテーマ等）**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。<br>[授業外学修]シラバスを熟読しておくこと。 | ⑨ | [テーマ] 第一回学校訪問（2時間扱いの2時間目）<br>[内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ② | [テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう①<br>[内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。<br>[授業外学修]時間内に完了しなかったデータ整理 | ⑩ | [テーマ] 年間保健室経営計画・年間給食指導計画等の理解<br>[内容] 保健室経営計画、給食指導計画等を通して、連携先の小学校における養護教諭・栄養教諭の職務に係わる学校経営計画を理解する。<br>[授業外学修]学習内容のふりかえり |
| ③ | [テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう②<br>[内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。<br>[授業外学修]時間内に完了しなかったデータ整理 | ⑪ | [テーマ] 学校訪問オリエンテーション②<br>[内容] 第二回学校訪問のスケジュール、留意事項等を理解する。<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解①<br>[内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。<br>[授業外学修]学習内容のふりかえり | ⑫ | [テーマ] 第二回学校訪問（3時間扱いの1時間目）<br>[内容] 連携先の小学校における指導実践①<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ⑤ | [テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解②<br>[内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。<br>[授業外学修]学習内容のふりかえり | ⑬ | [テーマ] 第二回学校訪問（3時間扱いの2時間目）<br>[内容] 連携先の小学校における指導実践②<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ⑥ | [テーマ] 学校訪問オリエンテーション①<br>[内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。<br>[授業外学修] | ⑭ | [テーマ] 第二回学校訪問（3時間扱いの3時間目）<br>[内容] 連携先の小学校における指導実践③<br>[授業外学修]体験のふりかえり |
| ⑦ | [テーマ] 授業の見方<br>[内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する（担当：学外講師）。<br>[授業外学修]学習内容のふりかえり | ⑮ | [テーマ] 学校訪問体験のふりかえり<br>[内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。<br>[授業外学修]体験レポートの作成 |
| ⑧ | [テーマ] 第一回学校訪問（2時間扱いの1時間目）<br>[内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。<br>[授業外学修]体験のふりかえり | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法（方針）**

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。

**成績評価方法（詳細）**

| 成績評価方法＼到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 実施せず |
| 授業内レポート | | | | 実施せず |
| 授業外レポート | ○ | | | 25% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 50% |
| 授業態度 | | ○ | | 25% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意（受講学生に望むこと）**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度 | 関連資格 | |
| 教科書 | 使用しない | 参考書 | 授業時に紹介する |
| オフィスアワー | 木 10:20-11:50 | その他 | A315 渡邊研究室 |

| 授業科目名 | 保健体育科授業研究Ⅰ<br>Health and Physical Education Research Ⅰ | | | | 担当教員 | 小浜　明・入澤裕樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 中学・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 担当教員の中学・高校での実務経験を活かし、保健体育科の教員として必要な知識や授業方法を身に付けるために、保健及び体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる。 | ⅰ、ⅲ、ⅴ |

**授業の一般目標**

保健と体育の学習指導を、「みる」、「考える」を通して、実際に「行ってみる」といった実習形式のプレゼンティションから、実践的指導力を養う。プレゼンティ―ション後には授業の省察として、デスカッションをおこなう。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる |
| ■ | 情意的領域 | 保健・体育の学習指導について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる |
| ■ | 技能表現的領域 | 保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる |

**授業計画(全体)**

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとしながら、アクティブラーニングの観点による協同作業としてのグループワークでの指導案の作成を行い、保健体育の学習指導のポイント、課題等について議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意<br>[授業外学修]シラバスの内容を事前に把握すること | ⑨ | [テーマ] 保健授業を分析する－心身の機能の発達と心の健康<br>[内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の授業を分析する<br>[授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく |
| ② | [テーマ] 体育授業を分析する－球技(ネット型)<br>[内容] 球技領域の授業を分析する<br>[授業外学修]球技領域で取り扱われる領域について調べておく | ⑩ | [テーマ] 保健授業を分析する－健康と環境<br>[内容] 健康と環境領域の授業を分析する<br>[授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく |
| ③ | [テーマ] 体育授業を分析する－球技(ゴール型)<br>[内容] 球技領域の授業を分析する<br>[授業外学修]球技領域で取り扱われる種目について調べておく | ⑪ | [テーマ] 保健授業を分析する－傷害の防止<br>[内容] 傷害の防止領域の授業を分析する<br>[授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく |
| ④ | [テーマ] 体育授業を分析する－陸上競技<br>[内容] 陸上競技領域の授業を分析する<br>[授業外学修]陸上競技で取り扱われる内容について調べておく | ⑫ | [テーマ] 保健授業を分析する－健康な生活と疾病の予防<br>[内容] 健康な生活と疾病の予防領域の授業を分析する<br>[授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく |
| ⑤ | [テーマ] 体育授業を分析する－器械運動<br>[内容] 器械運動領域の授業を分析する<br>[授業外学修]器械運動で取り扱われる内容を調べておく | ⑬ | [テーマ] 保健授業を分析する－現代社会と健康<br>[内容] 現代社会と健康領域の授業を分析する<br>[授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく |
| ⑥ | [テーマ] 体育授業を分析する－体操(体つくり運動)<br>[内容] 体操(体つくり運動)領域の授業を分析する<br>[授業外学修]体つくり運動で取り扱われる内容について調べておく | ⑭ | [テーマ] 保健授業を分析する－生涯を通じる健康<br>[内容]生涯を通じる健康領域の授業を分析する<br>[授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく |
| ⑦ | [テーマ] 体育授業を分析する－球技(ベースボール型)<br>[内容] 球技領域の授業を分析する<br>[授業外学修]球技領域で取り扱われる領域について調べておく | ⑮ | [テーマ] グループワークでの指導案作成②<br>[内容] 前時までの分析を基に保健の指導案作成を行う<br>[授業外学修]教育実習や研究授業等の指導案を事前に読んでおく |
| ⑧ | [テーマ] グループワークでの指導案作成①<br>[内容] 前時までの分析を基に体育の指導案作成を行う<br>[授業外学修]教育実習や研究授業等の指導案を事前に読んでおく | ⑯ | [テーマ] まとめ<br>[内容]前時までの内容を振り返り、レポートを作成する。<br>[授業外学修]前回までの資料をすべて整理しておくこと |

**成績評価方法(方針)**

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する。自身の模擬授業の振り返り等に関するレポートを作成する。提出されたレポートは講評を付して返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | ○ | | |
| 出席 | | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・教師になることを強く希望する学生のみを受講対象者とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義)<br>保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅱ(選択履修) | 関連資格 | 教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養) |
| 教科書 | | 参考書 | 中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編 |
| オフィスアワー | 木曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 保健体育科授業研究Ⅱ<br>Health and Physical Education Research Ⅱ | | | | 担当教員 | 小浜　明・入澤裕樹 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3・半期 | 授業方法 | 講義(L) | 実務経験の有無 | 中学・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 中学・高校での実務経験を有する担当教員が、保健体育科の教員として必要な知識や授業方法を身につけるために、保健及び体育の学習指導の構成を考えさせ、模擬授業を実際に行わせる。 | ⅰ、ⅲ、ⅴ |

**授業の一般目標**

保健と体育の学習指導について考え、「授業書」等を参考に模擬授業を実際に行うことで実践的指導力を養う。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる |
| ■ | 情意的領域 | 保健体育の学習指導について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる |
| ■ | 技能表現的領域 | 保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる |

**授業計画(全体)**

保健体育科授業研究Ⅰで実施した内容をベースとしながら、保健体育の学習指導についての授業(模擬授業)をおこなう。授業者は指導案作成はもちろんのこと、授業掲示物等の教具等についても自作する。授業見学者は保健体育科授業研究Ⅰで実施した分析シートを基に、他者の授業評価を実施することで、自身の実践的指導力を養う。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション<br>[内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意<br>[授業外学修]シラバスの内容を事前に熟読すること | ⑨ | [テーマ] 体操(体つくり運動)の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]体操(体つくり運動)領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]体つくり運動に関する学習指導要領を熟読しておく |
| ② | [テーマ] 模擬授業の作成に関する指導①<br>[内容]保健体育各領域についての指導案の作成ポイントや模擬授業の設計について説明する<br>[授業外学修]過去の指導案等の資料について調べておく | ⑩ | [テーマ] 球技の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]球技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]球技に関する学習指導要領の範囲を熟読すること |
| ③ | [テーマ] 模擬授業の作成に関する指導②<br>[内容]保健体育各領域についての指導案を作成し、発表する<br>[授業外学修]過去の指導案等の資料について調べておく | ⑪ | [テーマ] 水泳の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]水泳領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]水泳に関する学習指導要領の範囲を熟読すること |
| ④ | [テーマ] 陸上競技の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]陸上競技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]陸上競技に関する学習指導要領の範囲を熟読すること | ⑫ | [テーマ] 健康な生活と疾病の予防の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]健康な生活と疾病の予防領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく |
| ⑤ | [テーマ] 器械運動領域の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]器械運動領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]器械運動に関する学習指導要領の範囲を熟読すること | ⑬ | [テーマ] 現代社会と健康の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]現代社会と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく |
| ⑥ | [テーマ] 心身の機能の発達と心の健康の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]心身の機能の発達と心の健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく | ⑭ | [テーマ] 生涯を通じる健康の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]生涯を通じる健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく |
| ⑦ | [テーマ] 健康と環境の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]健康と環境領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく | ⑮ | [テーマ] 社会生活と健康の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]社会生活と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく |
| ⑧ | [テーマ] 傷害の防止の授業をおこなう(模擬授業)<br>[内容]傷害の防止領域の模擬授業をおこない、授業を評価する<br>[授業外学修]「授業書」を読み、関連する内容について調べておく | ⑯ | [テーマ] 模擬授業の振り返り<br>[内容] 前時までの内容を振り返り、レポートを作成する<br>[授業外学修]前時までの内容についての資料等を整理しておく |

**成績評価方法(方針)**

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する。自身の模擬授業の振り返り等に関するレポートを作成する。提出されたレポートは講評を付して返却する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | ○ | | | 30% |
| 授業外レポート | | | | |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 70% |
| 授業態度 | | ○ | | |
| 出席 | | ○ | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・教師になることを強く希望する学生のみを受講対象者とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義)<br>保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ(選択履修) | 関連資格 | 教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養) |
| 教科書 | | 参考書 | 中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編 |
| オフィスアワー | 木曜日　14:20～15:50 | その他 | 研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp |

| 授業科目名 | 教育実習Ⅰ<br>Student－Teacher Training Ⅰ (F. E. ) | | | | 担当教員 | 山谷・大内・久能・郡山・末永・渡邊・入澤・金井 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 3-4・半期 | 授業方法 | 講義・演習 | 実務経験の有無 | 小・中・特別支援学校での教員経験を有する。 |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 1 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 4年次で実施される教育実習(Ⅲ・Ⅳ)の事前指導(実習現場の理解、授業設計の基礎、教育実習へのこころ構え等)及び事後指導を行う。教育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。 | ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

教育実習に参加する基礎的基本的な知識・技能を習得し、併せて教育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。また、教育実習を振り返り、学校教師になるための自己の課題を理解する。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に必要な基礎的基本的な知識を習得するとともに、学校教師になるための自己の課題が分かる。 |
| ■ | 情意的領域 | 教育実習に参加する意欲をもつ。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 教育実習の基礎的基本的技能を習得する。 |

**授業計画(全体)**

教育実習の意義、教育実習現場の理解(中学校・高校)、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成、教育実習事後報告書の作成等

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] オリエンテーション(3年)(山谷・渡邊・金井)<br>[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法<br>[授業外学修] シラバスを読んでおくこと。 | ⑨ | [テーマ] 教育実習の反省と総括(山谷・渡邊・金井)<br>[内容]教育実習の反省と総括を行い、必要書類を期日までに提出する。<br>[授業外学修]教育実習後の自己の課題を考える |
| ② | [テーマ]教育実習の意義と内容(大内)<br>[内容] 教育実習の意義と内容を理解する。<br>[授業外学修]授業に即して実習の意義等について振り返り | ⑩ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ③ | [テーマ]実習現場の理解(末永)<br>[内容] 中学校・高校の教育現場の現状を理解する。<br>[授業外学修]授業に即して教育現場の現状等について振り返り | ⑪ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ④ | [テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(保健)(入澤)<br>[内容] 保健指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。<br>[授業外学修]授業に即して保健指導のあり方について振り返り | ⑫ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ⑤ | [テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(体育)(郡山)<br>[内容] 体育指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。<br>[授業外学修]授業に即して体育指導のあり方について振り返り | ⑬ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ⑥ | [テーマ] オリエンテーション(4年)(山谷・渡邊・金井)<br>[内容] 必要書類・教育実習日誌等のの書き方、教育実習巡回指導などについて理解する。<br>[授業外学修] 指導された内容の確認 | ⑭ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ⑦ | [テーマ] 教育実習の心構え(1)(久能)<br>[内容] 教育実習の流れ・方法、教育実習をめぐる学校現場の「声」について理解する。<br>[授業外学修]授業に即して実習の心構え等について振り返り | ⑮ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |
| ⑧ | [テーマ] 教育実習の心構え(2)(山谷)<br>[内容] 教育実習に臨むにあたっての心構え、留意事項について理解する。<br>[授業外学修]授業に即して実習の心構え等について振り返り | ⑯ | [テーマ]<br>[内容]<br>[授業外学修] |

**成績評価方法(方針)**

授業態度及び実習報告書を中心に評価する。実習報告書はコメントを付して返却する。成績は担当者の研究室において随時、理由を含めて開示する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | 実施しない |
| 授業内レポート | | | | 実施しない |
| 授業外レポート | ○ | △ | ○ | 80% |
| 演習・実技 | | | | 実施しない |
| 授業態度 | △ | ○ | △ | 20% |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・3年次後期から4年次にわたって開講する(評価は4年次)
・開講は不定期であるため指示に従って受講すること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 3年次までに開講する教職関連科目すべて | 関連資格 | 教員免許状(中高保体・高福祉) |
| 教科書 | 仙台大学編『教育実習の手引き』、学習指導要領 | 参考書 | 授業時に紹介する。 |
| オフィスアワー | 山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | |

| 授業科目名 | 教育実習Ⅲ<br>Student－Teacher Training Ⅲ(F. E. ) | | | | 担当教員 | 山谷・大内・久能・末永・入澤・金井・郡山 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・集中 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 小学校・中学校・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 2 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・生徒の実態、学校の組織・運営体制を理解する。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学校教員として必要な資質や能力を確認し、学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な知識を身につける。 |
| ■ | 情意的領域 | 学校教員としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を見つける。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な技能を身につける。 |

**授業計画(全体)**

高校における保健体育科・福祉科の2週間以上の教育実習を実施する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 実習のスケジュールの確認、生徒及び授業の観察<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑨ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ② | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営・授業の観察<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑩ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ③ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営・授業の観察<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑪ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ④ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の副帰りと課題の確認・実施 | ⑫ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ⑤ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑬ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ⑥ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑭ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ⑦ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑮ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 教育実習全体の振り返りと学校教員になるための課題の確認<br>[授業外学修]実習の振り返り |
| ⑧ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑯ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 実習日誌の完成、実習日誌等に示されたレポートの作成<br>[授業外学修]実習の振り返り |

**成績評価方法(方針)**

実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。評価の結果は随時、担当者の研究室において開示し、内容を説明する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | △ | △ | △ | 5% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 95% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・高校の保健体育科・福祉科の免許取得希望者を対象とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教職関連科目すべて | 関連資格 | 教員免許状(高校) |
| 教科書 | 学習指導要領、高校の保健体育科の教科書 | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | 特になし |

| 授業科目名 | 教育実習Ⅳ<br>Student－Teacher Training Ⅳ (F. E. ) | | | | 担当教員 | 山谷・大内・久能・末永・入澤・金井・郡山 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開講内容 | 学年・学期 | 4・集中 | 授業方法 | 実習 | 実務経験の有無 | 小学校・中学校・高校での教員経験を有する |
| | 履修の方法 | 選択 | 単位数 | 4 | | |

| 授業の概要 | DPとの関連性(表紙裏参照) |
|---|---|
| 学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。 | ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ |

**授業の一般目標**

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・生徒の実態、学校の組織・運営体制を理解する。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

**授業の到達目標**

| | | |
|---|---|---|
| ■ | 認知的領域 | 学校教員として必要な資質や能力を確認し、学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な知識を身につける。 |
| ■ | 情意的領域 | 学校教員としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を見つける。 |
| ■ | 技能表現的領域 | 学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な技能を身につける。 |

**授業計画(全体)**

中学校・高校における保健体育科の3週間以上の教育実習を実施する。

**授業計画(各回のテーマ等)**

| 回 | 授業テーマとその内容 | 回 | 授業テーマとその内容 |
|---|---|---|---|
| ① | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 実習のスケジュールの確認、生徒及び授業の観察<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑨ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ② | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営・授業の観察<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑩ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ③ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営・授業の観察<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑪ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ④ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の副帰りと課題の確認・実施 | ⑫ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ⑤ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑬ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ⑥ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑭ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 |
| ⑦ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑮ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 教育実習全体の振り返りと学校教員になるための課題の確認<br>[授業外学修]実習の振り返り |
| ⑧ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施<br>[授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施 | ⑯ | [テーマ] 教育実習<br>[内容] 実習日誌の完成、実習日誌等に示されたレポートの作成<br>[授業外学修]実習の振り返り |

**成績評価方法(方針)**

実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。評価の結果は随時、担当者の研究室において開示し、内容を説明する。

**成績評価方法(詳細)**

| 成績評価方法 ＼ 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) |
|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | | | | |
| 授業内レポート | | | | |
| 授業外レポート | △ | △ | △ | 5% |
| 演習・実技 | ◎ | ◎ | ◎ | 95% |
| 授業態度 | | | | |
| 出席 | | | | 欠格条件 |

**履修上の注意(受講学生に望むこと)**

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・中学校、高校の保健体育免許取得希望者を対象とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連科目 | 教職関連科目すべて | 関連資格 | 教員免許状(中・高) |
| 教科書 | 学習指導要領、中高の保健体育科の教科書 | 参考書 | 特になし |
| オフィスアワー | 山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分 | その他 | 特になし |